

2024 SYLLABUS

情報メディア学部

北海道情報大学

【 目次 】

日本語表現 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅰ」になります。	11
日本語アカデミック・ライティング 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅱ」になります。	13
基礎数学	15
ReadingⅠ	17
ReadingⅠ	20
ReadingⅠ	23
ReadingⅠ	26
ReadingⅠ	29
ReadingⅠ	32
ReadingⅠ	35
基礎英語 A[再]	38
WritingⅠ	41
WritingⅠ	44
WritingⅠ	47
WritingⅠ	50
WritingⅠ	53
WritingⅠ	55
WritingⅠ	58
CommunicationⅠ	61
CommunicationⅠ	63
CommunicationⅠ	67
CommunicationⅠ	74
CommunicationⅠ（国際情報プログラム）	77
英語表現Ⅰ A[再]	83
SpeakingⅠ	89
SpeakingⅠ	92
SpeakingⅠ（国際情報プログラム）	95
ビギナーズセミナーⅠ（情報メディア学科）	98
ビギナーズセミナーⅡ（情報メディア学科）	100
実用英語 A 2024 年度入学生は、「ReadingⅡ」になります。	102
実用英語 A 2024 年度入学生は、「ReadingⅡ」になります。	105
実用英語 A 2024 年度入学生は、「ReadingⅡ」になります。	107
実用英語 B 2024 年度入学生は、「WritingⅡ」になります。	110
実用英語 B 2024 年度入学生は、「WritingⅡ」になります。	113
実用英語 B 2024 年度入学生は、「WritingⅡ」になります。	115
英語表現Ⅱ A 2024 年度入学生は、「CommunicationⅡ」になります。	117
英語表現Ⅱ A 2024 年度入学生は、「CommunicationⅡ」になります。	123
英語表現Ⅱ A 2024 年度入学生は、「CommunicationⅡ」になります。	126
英語表現Ⅱ B 2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。	130
英語表現Ⅱ B 2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。	137
英語表現Ⅱ B 2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。	140
職業英語 A 2024 年度入学生は、「Advanced EnglishⅠ」になります。	143

職業英語 B	2024 年度入学生は、「Advanced English II」になります。	146
職業英語 B	2024 年度入学生は、「Advanced English II」になります。	149
中国語基礎 I	2023 年度入学生までは、「中国語 I A」になります。	152
中国語基礎 II	2023 年度入学生までは、「中国語 I B」になります。	155
中国語 II A	2023 年度入学生までは、「中国語会話 I」になります。	158
中国語 II B	2024 年度入学生は、「中国語会話 II」になります。	161
ドイツ語 II A		164
ドイツ語 II B		166
情報倫理		168
情報の世界		170
心理学		173
文学		175
歴史学		177
哲学		180
経済学 I		182
経済学 II		184
法学		186
社会学		188
憲法		190
国際関係論		193
関数の基礎		196
身近な数学		198
線形代数 I (情報メディア学科は「線形代数」)		200
線形代数 II		203
微分積分 I (情報メディア学科は「微分積分」)		206
微分積分 II		208
確率・統計 I	2024 年度入学生は、「統計学」になります。	210
確率・統計 II	2024 年度入学生は、「確率論」になります。	213
物理学 (医療情報学科 臨床工学専攻以外)		216
生物学		219
化学		221
健康とスポーツ概論 I		223
健康とスポーツ概論 II		225
スポーツ実技 I		228
スポーツ実技 II		231
海外語学・文化研修 (中国大連編)		234
海外事情 (中国編)		236
海外事情 (米国編)		238
国際コラボレーション A		243
国際コラボレーション B		246
キャリアデザイン I (情報メディア学科)		249
キャリアデザイン II (情報メディア学科)		251
キャリアデザイン III (システム情報学科、情報メディア学科)		253
日本語 I		255

日本語Ⅰ（編入生）	257
日本語Ⅱ	259
日本語Ⅱ（編入生）	261
日本語Ⅲ	263
日本語Ⅳ	265
日本語Ⅳ（編入生）	267
日本事情	269
情報メディア入門Ⅰ	271
情報メディア入門Ⅱ	273
情報メディア入門Ⅲ	275
情報メディア入門Ⅳ	277
情報メディア学Ⅰ-2025年度開講-	279
情報メディア学Ⅰ	280
情報メディア学Ⅱ-2025年度開講-	282
情報メディア学Ⅱ	283
情報メディア学Ⅲ	285
情報メディア学Ⅳ	287
情報メディアの数学Ⅰ 2024年度入学生は、「メディアの行列」になります。	289
芸術論	291
芸術演習 2024年度入学生は、「オーディオビジュアルアート」になります。	293
芸術演習 2024年度入学生は、「オーディオビジュアルアート」になります。	296
メディアの確率と統計-2025年度開講-	299
暗号の数学-2025年度開講-	300
発想法演習	301
ICT入門	304
デザインプログラミング演習 2024年度入学生は、「ビジュアルプログラミング演習」になります。	307
情報メディア特別演習Ⅰ	309
経営系科目A<ベンチャービジネス論>（2024年度休講）	312
Webビジネス論（情報メディア学科は「経営系科目B<Webビジネス論>」）	315
経営系科目B<マーケティング論>	317
デジタルマーケティング（情報メディア学科は「経営系科目C<デジタルマーケティング>」）	320
ビジネスプラン（情報メディア学科は「経営系科目D<ビジネスプラン>」）	322
HTMLコーディング演習	325
メディア技術演習	328
コンピュータ	330
プログラミング演習Ⅰ	332
プログラミング演習Ⅱ	336
IoT時代のセキュリティ	340
情報メディアの数学Ⅱ	343
特別実習A	345
Webデザイン基礎演習	347
デッサン	350

メディアデザインの基礎演習	354
デザインエレメンツ演習	357
デジタルサウンド 2024 年度入学生は、「サウンドプログラミング演習」になります。	361
図形科学の基礎	363
デジタルサウンド演習-2025 年度開講-	366
特別実習 B	367
情報システム特別講義	369
メディアデザイン特別講義-2024 年度休講-	372
行動とデザイン	375
メディアプログラミング演習	378
Web プログラミング演習	382
インターンシップ	386
C G プログラミング	388
e ーラーニング	390
インフォグラフィックス演習-2026 年度開講-	393
インストラクショナルデザイン演習-2026 年度開講-	394
プロジェクト・マネージメント-2025 年度開講-	395
デザインシンキング	396
セキュリティマネージメント	399
情報メディア特別演習 II	402
情報メディア特別ゼミナール I	405
情報メディア特別ゼミナール II	408
卒業研究 I	411
卒業研究 II	413
卒業研究 III	415
卒業研究 IV	417
プログラミング入門（情報メディア学科は「システム情報系科目 A <プログラミング入門>」）	419
プログラミング基礎（情報メディア学科は「システム情報系科目 B <プログラミング基礎>」）	424
コンピュータゲーム開発論	429
S Q L 入門	431
インターネットの仕組み	434
Web フロントエンド演習-2025 年度開講-	437
フィジカルコンピューティング演習-2025 年度開講-	438
モバイルアプリ演習	439
ゲームプログラミング・演習	443
ゲームプログラミング演習-2025 年度開講-	446
ゲーム制作演習	447
ゲーム開発の最新動向	450
音声情報処理	453
画像情報処理（2024 年度休講）	456
サイバーセキュリティの技術-2026 年度開講-	458

ソフトウェアデザイン	459
Webアプリケーション開発演習Ⅰ	461
Webアプリケーション開発演習Ⅱ	464
インターネットセキュリティの技術	467
Linux演習	470
情報メディアのデータ処理-2026年度開講-	473
ビジュアル構成・演習 2024年度入学生は、「ビジュアル構成演習」になります。474	
色彩・デザイン演習	478
イラスト制作演習-2025年度開講-	482
Web制作演習	483
3DCG演習	487
3DCG演習	491
ゲームCG演習	494
映画基礎演習	496
映画制作演習-2025年度開講-	500
アニメーション基礎演習	501
アニメーション演習-2025年度開講-	505
ビジュアルエフェクト演習	506
ビジュアルエフェクト演習-2025年度開講-	508
デジタルサウンド・演習	509
デジタルサウンド・演習	513
PA技術演習 -2025年度開講-	516
DTP	517
DTP演習-2026年度開講-	520
映像制作プロジェクト	521
グラフィック制作プロジェクト	524
Web制作プロジェクト	528
メディアアート制作プロジェクト	532
ゲーム制作プロジェクト	536
アプリ制作プロジェクト	540
ネットワーク演習	544
プロジェクトトライアルⅠ	548
プロジェクトトライアルⅡ	551
地域貢献プロジェクト	554
プロジェクトⅠ-2026年度開講-	556
プロジェクトⅡ-2026年度開講-	557
ステップアッププロジェクトⅡ	558
ステップアッププロジェクトⅢ 2024年度入学生は、「プロジェクトⅢ」になります。	560
ステップアッププロジェクトⅠ	562
プロジェクトトライアル-2026年度開講-	565
BIとビッグデータⅠ	566
BIとビッグデータⅡ	569
クリエイティブ・マネジメント	572

ゼミナールⅠ	575
ゼミナールⅡ	578
ゼミナールⅢ	581
ゼミナールⅣ	584
ゼミナールⅠ	587
ゼミナールⅡ	590
ゼミナールⅢ	593
ゼミナールⅣ	595
ゼミナールⅠ	597
ゼミナールⅡ	599
ゼミナールⅢ	601
ゼミナールⅣ	603
ゼミナールⅠ	605
ゼミナールⅡ	607
ゼミナールⅢ	609
ゼミナールⅣ	611
ゼミナールⅠ	613
ゼミナールⅡ	616
ゼミナールⅢ	619
ゼミナールⅣ	622
ゼミナールⅠ	625
ゼミナールⅡ	628
ゼミナールⅠ	631
ゼミナールⅡ	633
ゼミナールⅢ	635
ゼミナールⅣ	637
ゼミナールⅠ	639
ゼミナールⅡ	642
ゼミナールⅢ	645
ゼミナールⅣ	648
ゼミナールⅠ	651
ゼミナールⅡ	654
ゼミナールⅢ	657
ゼミナールⅣ	659
ゼミナールⅠ	661
ゼミナールⅡ	664
ゼミナールⅢ	667
ゼミナールⅣ	670
ゼミナールⅠ	673
ゼミナールⅡ	675
ゼミナールⅢ	677
ゼミナールⅣ	680
ゼミナールⅠ	683
ゼミナールⅡ	685

ゼミナールⅢ	687
ゼミナールⅣ	689
ゼミナールⅠ	691
ゼミナールⅡ	693
ゼミナールⅢ	695
ゼミナールⅣ	697
ゼミナールⅠ	699
ゼミナールⅡ	701
ゼミナールⅢ	703
ゼミナールⅣ	706
ゼミナールⅠ	709
ゼミナールⅡ	711
ゼミナールⅢ	713
ゼミナールⅣ	715
ゼミナールⅠ	717
ゼミナールⅡ	719
ゼミナールⅢ	721
ゼミナールⅣ	723
ゼミナールⅠ	725
ゼミナールⅡ	727
ゼミナールⅢ	729
ゼミナールⅣ	731
ゼミナールⅠ	733
ゼミナールⅡ	736
ゼミナールⅢ	739
ゼミナールⅣ	742
ゼミナールⅠ	745
ゼミナールⅡ	747
ゼミナールⅢ	749
ゼミナールⅣ	751
ゼミナールⅠ	753
ゼミナールⅡ	756
ゼミナールⅢ	759
ゼミナールⅣ	761
ゼミナールⅠ	764
ゼミナールⅡ	766
ゼミナールⅢ	768
ゼミナールⅣ	770
ゼミナールⅠ	772
ゼミナールⅡ	774
ゼミナールⅢ	776
ゼミナールⅣ	778
ゼミナールⅠ	780
ゼミナールⅡ	782

ゼミナールⅢ	784
ゼミナールⅣ	786
ゼミナールⅠ	788
ゼミナールⅡ	790
ゼミナールⅢ	793
ゼミナールⅣ	796
ゼミナールⅠ	799
ゼミナールⅡ	802
ゼミナールⅢ	805
ゼミナールⅣ	808
ゼミナールⅠ	811
ゼミナールⅡ	813
ゼミナールⅢ	815
ゼミナールⅣ	817
ゼミナールⅠ	819
ゼミナールⅡ	821
ゼミナールⅢ	823
ゼミナールⅣ	825
ゼミナールⅠ	827
ゼミナールⅡ	830
ゼミナールⅢ	833
ゼミナールⅣ	836
ゼミナールⅠ	839
ゼミナールⅡ	841
ゼミナールⅢ	843
ゼミナールⅣ	845
ゼミナールⅠ	847
ゼミナールⅡ	849
ゼミナールⅢ	851
ゼミナールⅣ	853
ゼミナールⅠ	855
ゼミナールⅡ	857
ゼミナールⅢ	859
ゼミナールⅣ	861
ゼミナールⅠ	863
ゼミナールⅡ	865
ゼミナールⅢ	867
ゼミナールⅣ	869
ゼミナールⅠ	871
ゼミナールⅡ	874
ゼミナールⅢ	877
ゼミナールⅣ	880
ゼミナールⅠ	883
ゼミナールⅡ	885

ゼミナールⅢ	887
ゼミナールⅣ	889
マレーシア短期留学	891
海外語学・文化研修（フィンランド編）-2025 年度開講-	895
海外事情（オーストラリア編）	896
課題解決型国際 WS-2026 年度開講-	900
I C T入門（国際情報プログラム）	901
Introduction to Global Information（国際情報入門）	904
国際情報概論-2025 年度開講-	907
国際情報演習-2025 年度開講-	908
グローバルヘルスリテラシー-2026 年度開講-	909
グローバルインターンシップ-2026 年度開講-	910

日本語表現 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅰ」になります。

Japanese Expression 1

担当教員	田中 里実 (339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBA101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期・後期
授業概要					
テーマ：日本語表現の基礎的な知識やスキルについて学ぶ					
日本の大学生にとって学問の基礎となるのは母国語である日本語力です。書かれたものを的確に読み、自分の考えたことを適切に表現すること、それはすべての学びの基礎といえます。しかし、その日本の大学生の日本語能力が近年著しく低下してきているといわれます。この講義では、そうした傾向に歯止めを掛け、一人一人がより適切な日本語表現ができるようにするために、日本語そのものの基礎力を身につけることを目指します。 ドリルや演習課題に取り組む方法で学習しますので、しっかりトレーニングを行い一步一步ステップアップを図って下さい。計画的に学習を進めるためには、課題の提出期限をしっかりと守って下さい。					
授業における学修の到達目標					
日本語表現の基礎力を身につけることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス（授業の進め方について）			
	事後学修	「公的な文章の基本」「常体と敬体」「話し言葉と書き言葉の違い」についてまとめる			2.0
2	事前学修	トレーニングシート第 1 章の問題を解く			2.0
	授業	アカデミックワードと日常語			
	事後学修	「アカデミックワードと日常語の違い」についてまとめる			2.0
3	事前学修	トレーニングシート第 2 章の問題を解く			2.0
	授業	仮名遣い・送り仮名			
	事後学修	現代仮名遣いと送り仮名について復習する			2.0
4	事前学修	トレーニングシート第 3 章、第 6 章の問題を解く			2.0
	授業	句読点／見やすい表記			
	事後学修	・適切な句読点の打ち方について復習する ・切れ続きを見やすくするための方法についてまとめる			2.0
5	事前学修	トレーニングシート第 4 章の問題を解く			2.0
	授業	四字熟語・ことわざ・慣用句			
	事後学修	四字熟語・ことわざ・慣用句について復習する			2.0
6	事前学修	トレーニングシート第 5 章の問題を解く			2.0
	授業	漢字の使い分け			
	事後学修	同訓異字や同音異義語についてまとめる			2.0
7	事前学修	トレーニングシート第 7 章の問題を解く			2.0
	授業	敬語			
	事後学修	基本的な敬語の使い方について復習する			2.0
8	事前学修	トレーニングシート第 8 章の問題を解く			2.0

	授業	手紙	
	事後学修	お世話になった目上の人に手紙を書く	2.0
9	事前学修	トレーニングシート第9章の問題を解く	2.0
	授業	Eメール	
	事後学修	メールの文章を書く	2.0
10	事前学修	トレーニングシート第10章の問題を解く	2.0
	授業	あいまいな文	
	事後学修	あいまいな文を書かないためのポイントをまとめる	2.0
11	事前学修	トレーニングシート第11章の問題を解く	2.0
	授業	分かりやすい語順	
	事後学修	基本的な語順についてまとめる	2.0
12	事前学修	トレーニングシート第12章の問題を解く	2.0
	授業	長い文を分ける	
	事後学修	授業内容をまとめる	2.0
13	事前学修	トレーニングシート第13章の問題を解く	2.0
	授業	文のねじれ	
	事後学修	適切ななかりうけについて復習する	2.0
14	事前学修	トレーニングシート第14章の問題を解く	2.0
	授業	接続表現の使い方	
	事後学修	接続表現の基本的な使い分けや、不適切な接続表現の修正の仕方について復習する	2.0
15	事前学修	トレーニングシート15章の問題を解く	2.0
	授業	結論を先に述べる	
	事後学修	授業内容をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト：70% ■演習課題：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題は採点または添削後返却する。

教科書	書名：大学生のための日本語表現トレーニング（ドリル編），著者名：安部朋世・福嶋健伸・橋本修，出版社：三省堂，備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	本講義では必要に応じてペアワーク、グループワークを行う。
担当教員の実務経験	実務経験なし

日本語アカデミック・ライティング 2023 年度入学生までは「日本語表現Ⅱ」になります。 Japanese Expression 2

担当教員	金 銀珠 (319 研究室), 田中 里実 (339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBA102
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期・後期
授業概要					
テーマ：レポート・論文作成に役立つ文章力を身につける					
大学生には、学習や研究の成果をレポートや論文としてまとめ提出（発表）することが日常的に求められます。また情報化社会の今日、単に与えられた課題に取り組むばかりでなく、自ら問題を発見し、関連する資料や情報を集め、的確に分析・判断する能力が求められてもいます。そうした思考プロセスと成果を言葉でまとめ記述する「文章表現能力」こそが大学生の基礎学力と言っても過言ではないのです。このような認識に立って、この授業では、レポートや論文に対する基礎知識を習得し、文章作成の基本的な技能を身につけるための練習をします。					
授業における学修の到達目標					
レポートや論文に対する基礎知識を習得し、文章作成の基本的な技能を身につけることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する ・ 教科書（第 1 回）を読んでおく			2.0
	授業	・ ガイダンス ・ 論文・レポートの骨格を知る			
	事後学修	講義内容の整理			2.0
2	事前学修	・ 教科書（第 2 回）を読んでおく ・ 第 2 回のスタートテストの問題を解く			2.0
	授業	学術的な文章にふさわしい表現			
	事後学修	講義内容の整理			2.0
3	事前学修	・ 教科書（第 3 回）を読んでおく ・ 第 3 回のスタートテストの問題を解く			2.0
	授業	読みやすい文章の書き方、読点・記号の使い方			
	事後学修	講義内容の整理			2.0
4	事前学修	・ 教科書（第 4 回）を読んでおく ・ 第 4 回のスタートテストの問題を解く			2.0
	授業	接続表現の使い方			
	事後学修	講義内容の整理			2.0
5	事前学修	教科書（第 5 回）を読んでおく			2.0
	授業	文献の引用の仕方、事実と意見の区別			
	事後学修	講義内容の整理			2.0
6	事前学修	・ 教科書（第 6 回）を読んでおく ・ 提示された資料をあらかじめ読んでおく			2.0
	授業	レポート課題の把握			
	事後学修	講義内容の整理			2.0
7	事前学修	教科書（第 7 回）を読んでおく			2.0

	授業	レポートの作成①「序論（背景）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
8	事前学修	教科書（第 8 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成②「序論（研究目的）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
9	事前学修	教科書（第 9 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成③「本論（文献の引用）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
10	事前学修	教科書（第 10 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成④「本論（解釈）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
11	事前学修	教科書（第 11 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑤「本論（考察）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
12	事前学修	教科書（第 12 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑥「結論（まとめ・今後の課題）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
13	事前学修	教科書（第 13 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑦「参考文献リスト」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
14	事前学修	教科書（第 14 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑧「提出前の原稿チェック（体裁）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0
15	事前学修	教科書（第 15 回）を読んでおく	2.0
	授業	レポートの作成⑨「提出前の原稿チェック（推敲）」	
	事後学修	講義内容の整理	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：60% ■演習課題：40%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート、演習課題は採点または添削後返却する。

教科書	書名：大学生のための日本語アカデミック・ライティング基礎講座ーレポート・論文のアウトラインから執筆まで一、著者名：金銀珠・田中里実、出版社：学術図書出版社、備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	日本語表現
備考	本講義では必要に応じてペアワーク、グループワークを行う。
担当教員の実務経験	実務経験なし

基礎数学 Basic Mathematics

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CBA109	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
1) 数学および数学関連の講義を受講する上で、基礎的な計算を思い直すのは重要な事です。普段何気なく行っている計算が、どのような計算であるかを考え直し、形式的な計算ではなく納得した計算をして頂きたいのです。						
2) 学籍番号が「24」で始まる情報メディア学科の学生は、インターネットの講義を受講します。通信教育で開講されている e ラーニング講義です。それ以外の学生は、笹山先生が対面で講義を行いますので、そちらを受講してください。						
3) 松井の講義。笹山先生の講義に関しての詳細は 1 回目の講義で述べます。必ず受講してください。						
4) インターネットで行う講義の受講は、場所は原則講義室ですが、それぞれの都合に合わせて、自宅などで受講しても構いません。出席の代わりに受講の記録を見ます。なおノートパソコン、大学の Gmail アカウントとパスワードが必要です。講義は 30 分程度の講義と演習問題からなります。演習問題を正解すると平常点が付きます。講義室での受講には「イヤフォン」等を用意して来て下さい。						
5) 質問は講義中でも研究室（松井 224, 笹山 306）でも答えます。						
授業における学修の到達目標						
一つ一つの計算を、その意味を考えながら計算することを、この講義のねらいとします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	今まで行った数学を思い出して下さい。				2
	授業	オリエンテーションです。なお 1 年生は e ラーニング教材「基礎数学」のアカウントの確認等があります。				
	事後学修	講義の振り返りをして下さい。				2
2	事前学修	前回の講義の振り返りをして下さい。				2
	授業	分数（1）基礎				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
3	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	分数（2）演習				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
4	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
5	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	式の展開（1）基礎計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
6	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	講義で行った計算を今一度行って下さい。				
	事後学修	式の展開（2）演習				2
7	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。				2
	授業	因数分解（1）基礎計算				
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。				2

8	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	因数分解 (2) 演習	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
9	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	今までの演習	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
10	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	ルートの意味	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
11	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	ルートの計算	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
12	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	1 次方程式と 2 次方程式	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
13	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	分数式の計算	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
14	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	連立 1 次方程式	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
15	事前学修	前回の講義で行った計算を今一度行って下さい。	2
	授業	全体の演習	
	事後学修	講義で行った計算を今一度行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

松井と笹山先生では評価方法が異なります。最初の講義、POLITE で詳細をお知らせします。

☐ ■試験： % ☐ ■小テスト： % ☐ ■レポート： % ☐ ■演習課題： % ☐ ■その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義時間中に対応します。

教科書	
参考書・Web サイト	ありません。
単位修得が望ましい科目	ありません。
備考	ありません。
担当教員の実務経験	ありません。

Reading I Reading1

担当教員	吉村 裕彦 (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IBC107
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
テーマ：読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。					
1 グローバル化する社会において国際語として必要とされる英語の活用能力を向上させる。そのために、本科目では英文の読解力を高める。具体的には、テキストの内容に応じて音読と筆写を重視しながら語彙力増強、基礎的文法の復習、4 技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の取組を行い、総合的な英語力の向上を図る。					
2 個人の取組と共に適宜ペアワークを取り入れる。					
3 テキストの構成上、将来受験が推奨される TOEIC L&R テスト対策を取り入れる。					
4 情報大学生として IT 用語についても教材とする。					
5 ポートフォリオを用いて毎時の取組状況の記録と提出を求める。					
授業における学修の到達目標					
1 自分の持つ知識や辞書を活用し、間違ふことを恐れず英語を理解しようとすることができる（積極的態度）。					
2 音声を聞いて正しく内容を理解することができる（リスニング力）。					
3 文構造を理解し英文を正しく解釈できる（リーディング力）。					
4 音読練習を元に、英語で正しく表現できる（スピーキング力）。					
5 筆写練習を元に、英語を正しく表現できる（ライティング力）。					
6 扱うエッセイや教材をとおり、異文化理解と教養を深める（異文化理解）。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する。			2
	授業	オリエンテーション 分の要素・文型と品詞について（巻末資料） 英文理解のための文構造を学ぶ。			
	事後学修	文法の復習をする。			2
2	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。			2
	授業	Unit 1 What's your major? 1 be 動詞・疑問詞と「話しかける」「自己紹介する」表現の理解			
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。			2
3	事前学修	be 動詞について確認する。語句確認テストの準備をする。			2
	授業	Unit 1 What's your major? 2 大学セレモニーに関する英文教材の理解と「話しかける」「自己紹介する」表現の定着			
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。			2
4	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。			2
	授業	Unit 2 How do you like your new school? 1 一般動詞現在形と「人を誘う」「別れ際の挨拶」表現の理解			
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。			2
5	事前学修	一般動詞現在形について確認する。語句確認テストの準備をする。			2
	授業	Unit 2 How do you like your new school? 2 クラブ活動に関する英文教材の理解と「人を誘う」「別れ際の挨拶」表現の定着			
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。			2
6	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。			2

	授業	Unit 3 Let me introduce a new member to you 1 一般動詞過去形と「人を紹介する」「驚きを示す」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
7	事前学修	一般動詞過去形について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 3 Let me introduce a new member to you 2 外国の大学に関する英文教材の理解と「人を紹介する」「驚きを示す」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
8	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する	2
	授業	Unit 4 How was your Golden Week? 1 未来形と「予定を述べる」「説明する」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
9	事前学修	未来時制について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 4 How was your Golden Week? 2 外国の祝日に関する英文教材の理解と「予定を述べる」「説明する」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
10	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 5 I'm looking for a part-time job 1 進行形と「詳細を尋ねる」「理由を述べる」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
11	事前学修	進行形表現について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 5 I'm looking for a part-time job 2 SAT テストに関する英文教材の理解と「詳細を尋ねる」「理由を述べる」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
12	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 6 What do you call this in Japanese? 1 受動態と「相手の意向を尋ねる」「好みを述べる」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
13	事前学修	受動態について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 6 What do you call this in Japanese? 2 Gap Year に関する英文教材の理解と「相手の意向を尋ねる」「好みを述べる」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
14	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 7 Have you been there? 1 現在完了形と「経験を尋ねる」「提案する」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
15	事前学修	現在完了形の表す意味について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 7 Have you been there? 2 アルコール解禁年齢に関する英文教材の理解と「経験を尋ねる」「提案する」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。期末試験の準備をする。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 試験 60% ■ 語句確認小テスト 10% ■ ポートフォリオ・シート提出とその内容 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
試験、小テストの解説、およびポートフォリオ・シートへのコメントによりフィードバックを行う。	
教科書	書名：Let's Read Aloud & Learn English, 著者名：角山照彦・Simon Capper, 出版社：成美堂, 備考：音声ファイルのダウンロード、ストリーミング視聴が可能
参考書・Web サイト	(テキストの音声ファイル) http://www.seibido.co.jp/
単位修得が望ましい科目	同じテキストを用い、内容的に関連性が高いため Writing I を履修することが望ましい。
備考	・ひとつの Unit を 2 回の講義で学習します。 ・最終試験は第 16 回目に行います。 ・基礎知識定着のため、各 Unit の後半授業にて前時学習の語句確認テストを実施します。 ・ポートフォリオ・シートには毎時のタスク内容と取組状況の自己評価と今後の課題を記入してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。
担当教員の実務経験	高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験の対策や基礎英語に関する授業を担当している。こうした経験を、学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。 2001 年～2002 年 実用英語技能検定面接員。

Reading I Reading1

担当教員	松永 務(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC107	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。						
授業における学修の到達目標						
実用英語技能検定（英検）３級に挑戦できる学力向上を念頭に、英語の言語形式及び統語構造を理解するとともに、小テスト等を通し IT 用語の定着を図り、会話表現やまとまった文章を理解する能力を高める。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書等の必要物品を揃える				2.0
	授業	オリエンテーション ○事前・事後学習のしかた及び授業における注意事項について ○通信機器を利用した学習の進め方について ○評価方法について ○英語の基本的仕組みについて				
	事後学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、登録を確認する				2.0
2	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 1-前半 “Welcome to Vancouver”－自分の氏名と滞在の目的を伝える表現を学習する				
	事後学修	学習した語句や表現を確認するとともに、氏名と滞在の目的を伝える表現を覚える（課題）				2.0
3	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、be 動詞の形と意味及び用法等を考える				2.0
	授業	Unit 1-後半 be 動詞の形と意味及び用法を学習し、まとまった文章の概要を理解できるようにする				
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）				2.0
4	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 2-前半 “Ryo Loves San Francisco”－自分がしたいことや現在の物事に関する表現を学習する				
	事後学修	学習した語句や表現を確認するとともに、自分の希望や交通に関する表現を覚える（課題）				2.0
5	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、一般動詞の形や用法考える				2.0
	授業	Unit 2-後半 一般動詞の現在形及び用法を学習し、まとまった文章の概要を理解できるようにする				
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）				2.0
6	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 3-前半 “A British City in Canada?”－お礼の言い方や代名詞の形と用法を学習する				
	事後学修	学習した語句を確認するとともに、代名詞を使った表現を覚える（課題）				2.0
7	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、代名詞の形や用法を考える				2.0
	授業	Unit 3-後半 代名詞、特に人称代名詞について学習し、まとまった文章の概要を理解できるようにする				
	事後学修	学習した語句を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）				2.0

8	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 4-前半 “L.A. Style”－探し物を伝えること及び進行中の行為の表現方法を学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに、進行形を使った表現を覚える（課題）	2.0
9	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、進行形のしくみと用法を考える	2.0
	授業	Unit 4-後半 進行形の統語構造を理解し、それが含まれるまとまった文章の概要を理解できるようにする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
10	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 5-前半 “The Canadian Rockies”－依頼の表現と前置詞に関して学習し、自己表現をする	
	事後学修	学習した語句を理解するとともに、乗馬に関する会話の概要を把握する	2.0
11	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、前置詞の意味と用法について考える	2.0
	授業	Unit 5-後半 前置詞の意味と用法について学習し、まとまった文章の概要を理解できるようにする	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
12	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 6-前半 “The Grand Canyon”－距離、時間などに関する表現と名詞の属性について学習する	
	事後学修	学習した語句を理解するとともに、トレッキング前の準備に関する会話の概要を把握する	2.0
13	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、可算名詞と不可算名詞について考える	2.0
	授業	Unit 6-後半 可算名詞と不可算名詞について学習し、まとまった文章の概要を理解できるようにする	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）	2.0
14	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や都市に関する会話の概要を把握する	2.0
	授業	Unit 7-前半 “T.O. – Toronto, Ontario”－感想を述べる表現と一般動詞の過去形について学習する	
	事後学修	学習した語句を確認するとともに、感想を述べる表現及び一般動詞の過去形を覚える（課題）	2.0
15	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、一般動詞の過去形の用法を考える	2.0
	授業	Unit 7-後半 一般動詞の過去形に関する用法を学習し、まとまった文章の概要を理解できるようにする	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、短い文書を書写し精読する（課題）	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 期末試験（40％） ■ 事前学修の取組状況（20％） ■ 小テスト及び課題（事後学修）の提出状況（40％）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

◎課題に関しては授業の中で解説を行います。

◎小テストや試験及び一部課題に関しては POLITE 上に模範解答を掲載します。

教科書	書名：English Missions! Starter, 著者名：Robert Hickling 白倉美里, 出版社：金星堂, 備考：
参考書・Web サイト	教科書出版元のサイト： http://www.kinsei-do.co.jp/ 教科書内容紹介： https://www.kinsei-do.co.jp/books/4070/

単位修得が望ましい科目	特になし
備考	B5 版（教科書と同じ大きさ）のレポート用紙，又はルーズリーフを購入しておくこと（課題等の提出用）。提出物は返却しません。
担当教員の実務経験	なし

Reading I Reading1

担当教員	井上 千恵子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IBC107
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
テーマ：読解力向上を中心にして総合的な英語力向上に努める。					
高校までの英語学習をおえたけれど、英語の基礎力が十分身に付いていないと思いませんか。この授業ではもう一度英語を基礎から復習します。特に、基本的な文法や構文を復習とともに読解に力を入れ学習します。同時に、IT 用語の習得や、日常のコミュニケーションに役立つような発信力も身につけましょう。					
授業における学修の到達目標					
1. 基本的な文法を復習し定着させる。					
2. 簡単なパッセージの読解が容易にできる。					
3. 英語で IT 用語が理解できる。					
4. 学習した表現やルールを応用し発信でき,人前でスピーチができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する 自己紹介を英語でできるように考える			2
	授業	オリエンテーション：授業の説明をするガイダンス Get to know each other：グループワーク(グループで紹介)			
	事後学修	オリエンテーションの内容を確認し情報を整理する			2
2	事前学修	Unit 1: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の練習問題もしておく			2
	授業	Unit 1: Profile: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題			
	事後学修	Unit 1 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する			2
3	事前学修	Unit 1: Reading 語彙と意味を調べ Reading の本文を 10 回音読する			2
	授業	Unit 1: Profile: Reading 内容確認と練習問題 Unit 1: Writing 内容確認と作文			
	事後学修	Unit 1 学習した箇所の意味を復習しノートに整理する Writing：自分の情報を使い書く			2
4	事前学修	Unit 2: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の問題をといておく			2
	授業	Unit 2: Sports: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題			
	事後学修	Unit 2 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する 自己紹介を英語でできるように練習する			2
5	事前学修	英語で自己紹介をする練習を何度もする			2
	授業	Speech Performance (スピーチ): クラスメートの前で英語で自己紹介をする			
	事後学修	Unit 1, Unit 2 の文型を復習し口頭練習する			2
6	事前学修	Unit 2: Sports: Reading 語彙と意味を調べ Reading の本文を 10 回音読する			2
	授業	Unit 2: Sports: Reading 内容確認と練習問題 Unit 2: Writing: Additional Reading として内容確認			
	事後学修	Unit 2 学習した箇所の意味を復習しノートに整理する Writing を自分の情報を使い書く			2
7	事前学修	Unit 3: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べて文法の問題を解いておく			2

	授業	Unit 3: Special Occasions: Vocabulary, Warm-up, Grammar	
	事後学修	Unit 3 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
8	事前学修	Units 1, 2, 3 の内容をもう一度まとめて復習しプリントの練習問題をする	2
	授業	Units 1, 2, 3 の練習, まとめ Review Quiz 1 (理解度確認テスト)	
	事後学修	Review Quiz 1 (理解度確認テスト)で解けなかった問題を調べておく	2
9	事前学修	Unit 3: Reading 語彙と意味を調べ 本文 を 10 回音読する。 Unit 4: Vocabulary 語彙を調べておく	2
	授業	理解度確認テストのフィードバックと 解説 Unit 3: Reading 内容確認と練習 Unit 3: Writing: Additional Reading として内容確認 Unit 4: Families: Vocabulary, Warm-up 語彙の意味と確認	
	事後学修	Unit 3 & Unit 4: 学習した箇所の意味を復習しノートに整理 し音読を 10 回する	2
10	事前学修	Unit 4: Grammar 語彙と意味を調べ文法の問題を解いておく Unit 4: Reading: 語彙と意味を調べ本文を 10 回音読する	2
	授業	Unit 4: Families: Grammar 練習問題を確認, プリントの問題をする Unit 4: Reading 内容確認と練習問題 Unit 4: Writing: Additional Reading として 内容確認	
	事後学修	Unit 4 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。プリントの練習問題を解いておく Unit 4: Writing 復習	2
11	事前学修	Unit 4: Reading と Writing を 10 回音読する Unit 5: Vocabulary, Grammar 語彙と意味を調べる	2
	授業	Unit 5: Japan Quiz: Vocabulary 内容確認 Unit 5: Grammar 練習問題を確認, クラスメートとの質疑応答練習	
	事後学修	Unit 5 の学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。プリントの練習問題をする	2
12	事前学修	Unit 5: Reading 語彙と意味を調べ本文を 10 回音読する	2
	授業	Unit 5: Grammar 復習 Unit 5: Reading 内容確認と練習問題 Unit 5: Writing: Additional Reading として 内容確認	
	事後学修	Unit 5 の学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。	2
13	事前学修	Unit 6: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ, 動詞の過去形を復習しておく	2
	授業	Unit 6: Love and Marriage: Vocabulary, Warm-up 確認 Unit 6: Grammar 練習問題を確認	
	事後学修	高校時代のことを過去形を使い書いて言ってみる	2
14	事前学修	Units 3, 4, 5, 6 の学習内容をもう一度まとめて復習しプリントの練習問題を復習する	2
	授業	Units 3, 4, 5, 6 の練習, まとめ Review Quiz 2 (理解度確認テスト) スピーチの準備	
	事後学修	理解度確認テストで解けなかった問題を調べる スピーチ (短いプレゼンテーション)を作成する	2
15	事前学修	スピーチ (短いプレゼンテーション)の情報を整理し原稿を書き 20 回練習する	2
	授業	Units 1-5 で書いた Writing を参考にしてスピーチをする	

		Speech Performance (短いプレゼンテーション) 自己評価 アンケート	
	事後学修	スピーチの内容を復習し反省点を書き留める クラスメートの評価と自己評価	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 Review Quiz (理解度確認テスト 2 回) : 50%, スピーチ(短いプレゼンテーション 2 回) 20%, IT 用語やその他の授業内クイズなど 20%, 平常点 (授業への参加度など) 10%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
理解度確認テストは次回に解説を行います。 提出された課題は採点しコメントをつけ返却します。			
教科書	書名 : Living Grammar (New Edition) 「コミュニケーションのためのベーシックグラマー 最新版」, 著者名 : 山本厚子 他, 出版社 : 成美堂, 備考 :		
参考書・Web サイト	高校時代に使用した参考書あるいは文法書		
単位修得が望ましい科目	特になし		
備考	学生の理解度や進度により多少変更の可能性がある。授業への参加が重要。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。正当な理由がある場合は手続きをとり書類を提出すること。事前事後学習は必ずして授業には自分の辞書あるいは大学から支給されたコンピュータを持参すること。またユニットの Writing は Additional Reading の教材とする。IT 用語のプリントを配布し小テストなどの形で確認する。 学習環境に変更があり遠隔授業になった場合, シラバスや評価方法に修正がある。		
担当教員の実務経験	実務経験なし		

Reading I Reading1

担当教員	外川 藤博(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC107	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
テーマ：読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める						
英語学習に不安を感じる学生を対象とし、基礎から学ぶことができるように工夫されている						
また、日常の会話力の向上や IT 用語を教材に取り入れるなどの工夫がある						
授業における学修の到達目標						
1 基礎となる考え方「4つの大事」を理解し、実行できる						
2 基本動詞を用いて、日常生活を英語で表現できる						
3 簡単な英語でコミュニケーションをとることができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体を把握				2.0
	授業	Orientaiton:授業の進め方、評価について プリント「4つの大事」説明 Pair-Work(自己紹介)				
	事後学修	オリエンテーションの内容を確認 プリント「4つの大事」を復習				2.0
2	事前学修	プリント「4つの大事」の復習 質問事項メモ（授業で解決）				2.0
	授業	Introduction: Verb 編「Word Order(1)」説明・演習				
	事後学修	例文の発音・意味を確認 10 回音読				2.0
3	事前学修	プリント「4つの大事」の復習 質問事項メモ				2.0
	授業	Verb 編「Word Order(2)」説明・演習				
	事後学修	例文の意味と発音を確認 10 回音読				2.0
4	事前学修	Verb 編「Word Order」例文 10 回音読				2.0
	授業	Verb 編「Word Order(3)」説明・演習 Pair-Work(1)				
	事後学修	「Pair-Work」英文の意味と発音確認 10 回音読				2.0
5	事前学修	Unit 1: Verb(be)編「Conversation」意味と発音 10 回音読				2.0
	授業	Unit 1: Verb(be)編「Conversation」を用いて説明・演習				
	事後学修	Unit 1: Verb(be)編「Conversation」語彙の発音・意味確認 10 回音読				2.0
6	事前学修	Unit 1: Verb(general)編「Reading」意味・発音確認 10 回音読 質問事項メモ				2.0
	授業	Unit 1: Verb(general)編「Reading」を用いて説明・演習 Pair-Work(2) 10 Basic Verbs(1)演習				
	事後学修	Unit 1: Verb(general)編「Reading」語彙の発音・意味確認 10 回音読				2.0
7	事前学修	Unit 2: Pronoun 編「Conversation」の予習 10 回音読				2.0
	授業	Unit 2: Pronoun 編「Conversation」を用いて説明・演習				

		10 Basic Verbs (2)演習	
	事後学修	Unit 2: Pronoun 編「Conversation」語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	Unit 2: Pronoun 編「Reading」の予習 10 回音読 質問事項メモ	2.0
8	授業	Unit 2: Pronoun 編「Reading」を用いて説明・演習 Pair-Work(3) 10 Basic Verbs (3)演習	
	事後学修	Unit 2:Pronoun 編「Reading」語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	Unit 3:Preposition 編「Conversation / Reading」の予習 10 回音読 質問事項メモ	2.0
9	授業	Unit 3: Preposition 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習 10 Basic Verbs(4)演習	
	事後学修	Unit 3: Preposition 編「Conversation / Reading」の語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	Unit 4: Past Tense 編「Conversation / Reading」の予習 10 回音読 質問事項メモ	2.0
10	授業	Unit 4: Past tense 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習 Pair-Work(4) 10 Basic Verbs (5)演習	
	事後学修	Unit 4:Past Tense 編「Conversation / Reading」の語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	Unit 5:Noun 編「Conversation / Reading」の予習 10 回音読	2.0
11	授業	Unit 5: Noun 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習 10 Basic Verbs(6)演習	
	事後学修	Unit 5:Noun 編「Conversation / Reading」語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	Unit 6: Interrogative 編「Conversation / Reading」の予習 10 回音読	2.0
12	授業	Unit 6: Interrogative 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習 Pair-Work(5)	
	事後学修	Unit 6:Interrogative 編「Conversation / Reading」の語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	Unit 7:Progress 編「Conversation / Reading」の予習 10 回音読	2.0
13	授業	Unit 7: Progress 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習	
	事後学修	Unit 7:Progress 編「Conversation / Reading」の語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
	事前学修	「Verb 編(be / general)」の講義内容を整理	2.0
14	授業	まとめ：「Verb 編(be / general)」の概略を復習 スピーチ原稿作成	
	事後学修	スピーチ原稿作成	2.0
	事前学修	「Verb 編(be / general)」講義内容を整理、演習問題で確認 スピーチ練習	2.0
15	授業	まとめ：スピーチ発表	
	事後学修	スピーチの自己評価	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：80% ■小テスト：10% ■演習課題：10% ■その他

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

確認テスト、小テスト、定期試験後には、解説を行います。	
教科書	書名：English Booster!, 著者名：Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa, 出版社：金星堂, 備考：
参考書・Web サイト	https://www.kinsei-do.co.jp
単位修得が望ましい科目	なし
備考	出席が授業回数の 3 分の 2 以上のとき、受験資格が与えられる。
担当教員の実務経験	なし

Reading I Reading1

担当教員	谷 さつき (非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC107
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
テーマ：読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。					
平易な英語で書かれた短編ミステリーを丁寧に読みます。内容理解に必要な、中学・高校で学んだ英語の基礎を復習します。物語中で使用されている文法・語法・語彙を理解し、運用力を身につけます。					
また、教科書に加えて、IT 用語についても触れます。					
授業における学修の到達目標					
まとまった量の英文を読むことに苦痛を覚えないようになる。長文の大意を把握できる。精読（細部まで理解するために丁寧に読むこと）を通して、確かな文法力が身に付く。中学・高校で学んだ英語の基礎（文法・語法・語彙）が定着し、運用できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読む。大学から貸与された PC での POLITE へのアクセス、キーボードでの文字入力（特に符号、大文字・小文字の入力切替、日本語・英語の入力切替、全角・半角の使い分け）に慣れておく（なんでもいいので、日本語と英語が入った文を真似して入力してみるといいでしょう）。			2
	授業	ガイダンス（POLITE コース登録、学習の進め方、評価方法、辞書・電子辞書の活用方法、辞書サイトの活用法など）。			
	事後学修	課題に取り組む。			2
2	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	Death in the Freezer 前半を読むための準備			
	事後学修	課題に取り組む。			2
3	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	Story introduction, contents, pp.1-2			
	事後学修	課題に取り組む。			2
4	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	pp.3-6			
	事後学修	課題に取り組む。			2
5	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	pp.7-10			
	事後学修	課題に取り組む。			2
6	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	pp.11-14			
	事後学修	課題に取り組む。			2
7	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	pp.15-18			
	事後学修	課題に取り組む。			2
8	事前学修	課題に取り組む。			2

	授業	pp.19-24	
	事後学修	課題に取り組む。	2
9	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Chapters 1-5(pp.1-24) 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
10	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Death in the Freezer 後半を読むための準備	
	事後学修	課題に取り組む。	2
11	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.25-28	
	事後学修	課題に取り組む。	2
12	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.29-32	
	事後学修	課題に取り組む。	2
13	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.33-36	
	事後学修	課題に取り組む。	2
14	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	pp.37-40	
	事後学修	課題に取り組む。	2
15	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Chapters 6 and 7(pp.25-40) および全体振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■提出課題、授業内試験、小テスト、振り返りテスト（100 %） □ レポート（ %） □ 演習課題（ %） □ その他 [%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出課題にはコメントをつけます。小テスト受験前の理解度確認クイズに適宜解説が示されます。

教科書	書名：Oxford Bookworms Library Stage 2 Death in the Freezer（3RD）, 著者名：Tim Vicary, 出版社：Oxford University Press, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	ページ番号は目安です。大学から貸与される Windows PC を持参してください。100 均で売っているものでいいので、マイク付きのイヤホンがあると便利です。 【お願い】授業の進度よりも早く自分で読み進んで構いません。ただし、結末を知っても、他に人には話さないでください。結末がわかったあとで最初から読み返すと、主人公の言動の意味が1回目とは違ったものに思えてきて、おもしろいですよ。
担当教員の実務経験	中学・高校での教員経験に加え、小学2年生から大人まで様々な年齢層の方々に英語を指導してきた。フリーランスで翻訳業（主に日→英）と通訳業にも従事している。これらの経験を生かし、英語の知識を取り込むだけでなく、取り込んだものを用いて伝えたいことを英語で外に出すまでの力を身に付けるための基礎訓練を行う。また、継続的に学習する習慣を学

	生自身が確立するように導く。

Reading I Reading1

担当教員	竹内 典彦 (309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC107	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
テーマ「読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める」						
自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や CNN 10 のニュース教材、VoiceTube 等の動画を利用して、1 年次に獲得した英語力にさらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて、どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上を目指す。						
News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで、より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い、授業においても積極的に関わることを望む。また英語の読み物教材も使用する。						
授業の指針を下に示す。						
1 1 回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること						
2 未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと						
3 ポライトで、その日の課題を示す。講義に出席して課題を提出することが重要						
授業における学修の到達目標						
1. 平易な英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる						
2. 平易な英文を読んで内容を理解することができる						
3. 自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	ガイダンス。上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。				2
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。				2
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。				2
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。				2

		2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	

		習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
14	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
15	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
成績評価の方法およびその基準			
■小テスト： 50% ■演習課題： 50%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。			
教科書			
参考書・Web サイト		News in Levels のサイト、CNN 10、VoiceTube 他	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		なし	

Reading I Reading1

担当教員	目黒 芳秀(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IBC107	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
1. 読解力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。						
2. 授業進度は1 Lesson を2 時間配当で実施ことを基本とする。「学習テーマをしっかりと理解し、学んだ内容を着実に身につけること」を目指す。						
3 教材は教科書を中心とするが、進度状況によって英字新聞等の時事英語も取り込む。						
4. 学習活動には音読練習、音読筆写、またロールプレイ（対話練習）、小グループによるブレインストーミングを取り入れる。						
5. IT 用語についても教材とする。						
6. 毎回小テストを実施する。						
7. テキストとリンクするオンライン学習システム「リングポルタ」を学習内容の定着に活用する。						
授業における学修の到達目標						
1. 基本的な文法をしっかりと復習し、英文の読解や表現に活用することができる。						
2. 音読を学習の中心におき、継続して学習する習慣を身につけることができる。						
3. 身の回りのできごとについて、平易な英語を使って他者とコミュニケーションすることができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する。音声ファイルをダウンロードする。 LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと				2
	授業	基礎力テスト／Unit 1: What's your major? ―話しかける・自己紹介する／be 動詞				
	事後学修	リングポルタを使用し Unit1 を復習				2
2	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと				2
	授業	Unit 1: What's your major? ―話しかける・自己紹介する／be 動詞				
	事後学修	リングポルタを使用し Unit1 を復習。				2
3	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと				2
	授業	Unit 2:How do you like your new school? ―人を誘う・別れ際の挨拶／一般動詞（現在形）				
	事後学修	リングポルタを使用し Unit 2 を復習				2
4	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと				2
	授業	Unit 2:How do you like your new school? ―人を誘う・別れ際の挨拶／一般動詞（現在形）				
	事後学修	リングポルタを使用し Unit 2 を復習				2
5	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと				2
	授業	Unit 3: Let me introduce a new member to you. ―人を紹介する・驚きを示す／一般動詞				
	事後学修	リングポルタを使用し Unit 3 を復習				2
6	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと				2
	授業	Unit 3: Let me introduce a new member to you.				

		一人を紹介する・驚きを示す／一般動詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 3 を復習	2
7	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 4: How was your Golden Week? —予定を述べる・説明する／未来形	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 4 を復習	2
8	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 4: How was your Golden Week? —予定を述べる・説明する／未来形	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 4 を復習	2
9	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 5: I'm looking for a part-time job. —詳細を尋ねる・理由を述べる／進行形	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 5 を復習	2
10	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 5: I'm looking for a part-time job. —詳細を尋ねる・理由を述べる／進行形	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 5 を復習	2
11	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 6: What do you call this in Japanese? —意向を尋ねる・好みを述べる／受動態	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 6 を復習	2
12	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 6: What do you call this in Japanese? —意向を尋ねる・好みを述べる／受動態	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 6 を復習	2
13	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 7: Have you been there? —経験を尋ねる・提案する／現在完了	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 7 を復習	2
14	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 8: What would you like to order? —道順を尋ねる・感謝する／助動詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 8 を復習	2
15	事前学修	これまで実施した小テストの復習をする。各 Unit の「LET'S READ」を復習する。	2
	授業	期末試験	
	事後学修	Unit 1～Unit 8 の音声を聴き返す。	2

成績評価の方法およびその基準

■試験：60％ ■小テスト：20％ ■演習課題：20％

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書

書名：Let's Read Aloud & Learn English: On Campus 「音読で学ぶ基礎英語<<キャンパス

	編」, 著者名: 角山 照彦 / Simon Capper 著, 出版社: 成美堂, 備考: 教科書の音声ダウンロードページ https://www.seibido.co.jp/np/audiodownload.html?goods_id=551
参考書・Web サイト	教科書の音声ダウンロードページ https://www.seibido.co.jp/np/audiodownload.html?goods_id=551
単位修得が望ましい科目	なし
備考	期末試験については、授業出席が授業実施回数の 3 分の 2 以上のとき、受験資格が与えられる。
担当教員の実務経験	なし

基礎英語 A [再] Basic English A

担当教員	竹内 典彦 他(309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL107
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	冬期集中
授業概要					
テーマ「教科書を中心に多様な活動を行い、総合的な英語力向上に努める」					
リーディング、ライティング、文法、単語熟語、音読・暗唱練習を通じて総合的な英語力の定着に努める。					
授業における学修の到達目標					
・ 英文読解力の向上一英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握することができる					
・ 英単語熟語の知識の向上一ニュース記事や練習問題を通して、単熟語の知識を習得できる					
・ 英語発表力の向上一自身が作成した英文を音読練習して、発表力を改善できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握しなさい。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。			
	事後学修	上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表しなさい。			2.0

成績評価の方法およびその基準

☐ 試験： % ☒ 小テスト：50% ☐ レポート： % ☒ 演習課題：50% ☐ その他[]

POLITE で返却する。

39

担当教員の実務経験	なし

Writing I Writing1

担当教員	井上 千恵子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。					
前期に引き続き、この授業ではもう一度英語を基礎から復習します。既習の基本的な文法や構文の復習とともに、後期は作文力の向上に努めます。同時に、作文を応用し日常のコミュニケーションに役立つような発信力も身につけましょう。					
授業における学修の到達目標					
1. 基本的な文法や構文を定着させる。					
2. 英語で短いパッセージが書ける。					
3. 自分で書いたパッセージを応用し人前でスピーチができる。					
4. 英語で IT 用語が発信できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する 夏休みのことが過去形を使い英語で書いて言えるように練習する			2
	授業	後期オリエンテーション：後期授業の説明 Unit 6: Love and Marriage: 過去形の復習 Let's talk about your summer holiday: グループワーク パラグラフを作成			
	事後学修	オリエンテーションの内容を確認する 過去形に気をつけ夏休みのことを英語で書いてみる			2
2	事前学修	過去形の復習をしておく スピーチ: 夏休みについて話す練習をする			2
	授業	Speech Performance: スピーチ: 夏休みについて Unit 6: 動詞の過去形 復習 Unit 7: Life History: Vocabulary			
	事後学修	Unit 6 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する			2
3	事前学修	Unit 7: Warm-up 語彙と文の意味を調べておく 動詞の過去分詞を復習			2
	授業	Unit 7: Life History: Warm-up, Grammar 内容確認と練習 動詞の過去分詞と現在完了形			
	事後学修	現在完了形の文（継続の意味）を 5 つ書いて言ってみる 動詞の過去形との違いを確認する			2
4	事前学修	Unit 7: Life History: Reading 語彙の意味と内容を調べておく			2
	授業	Unit 7: Life History: Grammar 練習問題 Unit 7: Life History: Reading 内容確認と練習問題 Unit 7: Writing			
	事後学修	Unit 7 学習した箇所の意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する			2
5	事前学修	Unit 7 の既習箇所を 10 回音読する Unit 7: Writing Unit 8: Leisure: Vocabulary, Warm-up 語彙と文の意味を調べておく			2

	授業	Unit 7: Writing 内容確認と作文 Unit 8: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 7, Unit 8: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
6	事前学修	Unit 8: Reading, Writing 語彙と文の意味を調べ内容を把握しておく	2
	授業	Unit 8: Grammar 復習 Unit 8: Reading の内容確認と練習問題 Unit 8: Writing 自分の情報を使い作文	
	事後学修	Unit 8: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し 10 回音読する。Writing の作文を完成する	2
7	事前学修	Unit 9: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と文の意味を調べ 音読 10 回する	2
	授業	Unit 9: College Life: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習	
	事後学修	Unit 9: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する Units 7, 8, 9 Review Quiz のための復習する	2
8	事前学修	Units 7, 8, 9 の学習内容をもう一度まとめて復習する	2
	授業	Units 7, 8, 9 の練習, まとめ Review Quiz 1 (理解度確認テスト 1)	
	事後学修	Review Quiz (理解度確認テスト)で解けなかった問題を調べておく	2
9	事前学修	Unit 10: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ文法の問題を解いておく	2
	授業	フィードバック：理解度確認テストの解説 Unit 10: On Vacation: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 10: On Vacation: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
10	事前学修	Unit 10: Reading, Writing 語彙と文の意味を調べ内容を把握し Reading の問題を解いておく。音読 10 回する	2
	授業	Unit 10: On Vacation: Reading 内容確認と練習問題 Unit 10: Writing 内容確認	
	事後学修	Unit 10: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し 10 回音読する	2
11	事前学修	Unit 11: Out and About: Vocabulary, Warm-up, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の問題を解いておく	2
	授業	Unit 11: Out and About: Vocabulary, Warm-up, Grammar 内容確認と練習問題	
	事後学修	Unit 11: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する。	2
12	事前学修	Unit 11: Reading, Writing 語彙と文の意味を調べ内容を把握し問題を解いておく。音読 10 回する Unit 12: Grammar 問題を解いておく	2
	授業	Unit 11: Out and About: Reading 内容確認と練習問題 Unit 11: Writing 練習問題 Unit 12: Grammar 助動詞 2	
	事後学修	Unit 11: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し 10 回音読する	2
13	事前学修	Unit 12: Vocabulary, Grammar 語彙と意味を調べ Grammar の問題を解いておく Unit 13: Grammar 接続詞の問題を解いておく	2
	授業	Unit 12: Rules: Vocabulary, Grammar 内容確認と練習問題 Unit 13 & Unit 19: Grammar 接続詞の練習問題	
	事後学修	Units 12, 13, 19: 学習した箇所の語彙と意味を復習しノートに整理し音読を 10 回する	2
14	事前学修	Units 10, 11, 12, 13, 19 の学習内容をもう一度まとめて練習問題などを復習する	2
	授業	Units 10, 11, 12, 13, 19 の練習, まとめ	

		Review Quiz 2 (理解度確認テスト 2) スピーチの準備	
	事後学修	理解度確認テストで解けなかった問題を調べておく スピーチ(短いプレゼンテーション)の原稿を書く	2
15	事前学修	今まで学習したことを参考にしてスピーチの原稿を考え提出し発表の準備をする。20 回練習	3
	授業	理解度確認テストのフィードバック Speech Performance: スピーチ(短いプレゼンテーション) Evaluation アンケート	
	事後学修	スピーチの内容を復習し反省点を書き留める 自己評価	1

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

Review Quiz (理解度確認テスト 2 回) : 50%, 作文とスピーチ (2 回) 20%, 小テスト・課題提出 20%, 平常点 (授業参加度など) 10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは翌週解説を行います。

提出された課題は採点しコメントをつけ返却します。

教科書	書名 : Living Grammar (New Edition) 「コミュニケーションのためのベーシックグラマー 最新版」, 著者名 : 山本厚子 他, 出版社 : 成美堂, 備考 :
参考書・Web サイト	高校時代に使用した文法書
単位修得が望ましい科目	基礎英語 A
備考	学生の理解度や進度により変更の可能性がある。また, 遠隔授業への変更があった場合はシラバスや総合評価に修正がある。授業への参加が大事。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。正当な理由がある場合は手続きをとり書類を提出すること。事前事後学習は必ず行う。授業には自分の辞書あるいはパソコンなどを持参すること。
担当教員の実務経験	実務経験なし

Writing I Writing1

担当教員	外川 藤博(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ILC101	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
授業概要						
テーマ：作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める						
講義(Reading)内容を継続することで、基礎から学ぶことができるように工夫されている						
英語で日常生活を表現する教材を取り入れるなどの工夫がある						
授業における学修の到達目標						
1 基礎となる考え方「4つの大事」を理解し、実行できる						
2 基本動詞を使って、日常生活を英語で表現できる						
3 平易な英語表現でコミュニケーションがとれる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体を把握				2.0
	授業	オリエンテーション（授業の進め方・評価等） Pair-Work(自己紹介)				
	事後学修	オリエンテーション内容確認 自己紹介(英文)練習				2.0
2	事前学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編「Conversation」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ				2.0
	授業	Unit 8: Auxiliary Verb 編「Conversation」を用いて説明・演習 Pair-Work(1) 10 Basic Verbs(1)演習				
	事後学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編「Conversation」 語彙の発音・意味確認 10 回音読				2.0
3	事前学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編「Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ				2.0
	授業	Unit 8: Auxiliary Verb 編「Reading」を用いて説明・演習 10 Basic Verbs(2)演習				
	事後学修	Unit 8: Auxiliary Verb 編「Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読				2.0
4	事前学修	Unit 9: will & be going to 編「Conversation / Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ				2.0
	授業	Unit 9: will & be going to 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習 Pair-Work(2) 10 Basic Verbs(3)演習				
	事後学修	Unit 9: will & be going to 編「Conversation / Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読				2.0
5	事前学修	Unit 10: Comparative & Superlative 編「Conversation / Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ				2.0
	授業	Unit 10: Comparative & Superlative 編「Conversation / Reading」を用いて説明・演習 10 Basic Verbs(4)演習				
	事後学修	Unit 10: Comparative & Superlative 編「Conversation / Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読				2.0
6	事前学修	Unit 11: Perfect Tense 編「Conversation」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ				2.0
	授業	Unit 11: Perfect Tense 編「Conversation」を用いて説明・演習 Pair-Work(3) 10 Basic Verbs(4)演習				

	事後学修	Unit 11: Perfect Tense 編「Conversation」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
7	事前学修	Unit 11: Perfect Tense 編「Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 11: Perfect Tense 編「Reading」 を用いて説明・演習 10 Basic Verbs(5)演習	
	事後学修	Unit 11: Perfect Tense 編「Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
8	事前学修	Unit 12: Conjunction 編「Conversation / Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 12: Conjunction 編「Conversation / Reading」 を用いて説明・演習 Pair-Work(4) 10 Basic Verbs(6)演習	
	事後学修	Unit 12: Conjunction 編「Conversation / Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
9	事前学修	Unit 13: Semi-Verb 編「Conversation」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 13: Semi-Verb 編「Conversation」 を用いて説明・演習 The Verb is First(1)演習	
	事後学修	Unit 13: Semi-Verb 編「Conversation」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
10	事前学修	Unit 13: Semi-Verb 編「Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 13: Semi-Verb 編「Reading」 を用いて説明・演習 Pair-Work(5) The Verb is First(2)演習	
	事後学修	Unit 13: Semi-Verb 編「Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
11	事前学修	Unit 14: Passive 編「Conversation」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 14: Passive 編「Conversation」 を用いて説明・演習 The Verb is First(3)演習	
	事後学修	Unit 14: Passive 編「Conversation」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
12	事前学修	Unit 14: Passive 編「Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 14: Passive 編「Reading」 を用いて説明・演習 Pair-Work(6) The Verb is First(3)演習	
	事後学修	Unit 14: Passive 編「Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
13	事前学修	Unit 15: Relative 編「Conversation / Reading」 内容理解 10 回音読 質問事項メモ	2.0
	授業	Unit 15: Relative 編「Conversation / Reading」 を用いて説明・演習 The Verb is First(4)演習	
	事後学修	Unit 15: Relative 編「Conversation / Reading」 語彙の発音・意味確認 10 回音読	2.0
14	事前学修	講義内容（助動詞・準動詞等）の整理 質問事項メモ	2.0
	授業	The Verb is First(5)演習 まとめ：「助動詞・準動詞等」総復習 英作文原稿作成	
	事後学修	英作文（150字）原稿作成	2.0
15	事前学修	英作文音読練習	2.0

	授業	英作文発表・評価	
	事後学修	英作文発表の自己評価	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■試験：80% ■小テスト：10% ■演習課題：10% ■その他			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
確認テスト後には、解説を行う。			
教科書	書名：English Booster!, 著者名：Robert Hickling, Yasuhiro Ichikawa, 出版社：金星堂, 備考：		
参考書・Web サイト	https://www.kinsei-do.co.jp		
単位修得が望ましい科目	なし		
備考	出席が授業回数の3分の2以上のとき、受験資格が与えられる。		
担当教員の実務経験	なし		

Writing I Writing1

担当教員	松永 務(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ILC101	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
授業概要						
作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。						
授業における学修の到達目標						
実用英語技能検定（英検）３級に挑戦できる学力向上を念頭に、英語の言語形式及び統語構造を理解するとともに、小テスト等を通し IT 用語の定着を図り、身近な事柄を書いて表現する能力を高める。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 8-前半 “Big Texas”－疑問詞を使った疑問文について学習し、ダイアログを参考に疑問文を新しく作る				
	事後学修	ダイアログを書写し、学習した内容を確認するとともに、さまざまな疑問の表し方を覚える（課題）				2.0
2	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、さまざまな疑問詞について考える				2.0
	授業	Unit 8-後半 さまざまな疑問文と疑問詞に関して学習し、短い文章の概要を英語で書く				
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）				2.0
3	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 9（教科書前半と後半を１回の授業で） “Ottawa－The Capital”－食べ物について質問したり注文したりする表現を学習し、ダイアログの概要を英文で書く				
	事後学修	ダイアログを書写し、接続詞の用法を確認するとともに、有用な表現を覚える（課題）				2.0
4	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 10-前半 “Funky New Orleans”－自分の好みや希望を伝える表現を学習し、ダイアログの概要を英文で書く				
	事後学修	ダイアログを書写し、学習した内容を確認するとともに、好みや希望を伝える表現を覚える（課題）				2.0
5	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、不定詞と動名詞の形及び意味等を考える				2.0
	授業	Unit 10-後半 不定詞と動名詞の形と意味及び用法について理解し、ニューオリンズに関する短い文章の概要を英語で書く				
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）				2.0
6	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える				2.0
	授業	Unit 11-前半 “Charming Quebec City”－未来の意志や予定を述べる表現を学習し、登場人物に関する英文を作る				
	事後学修	ダイアログを書写し、学習した内容を確認するとともに、未来の意志や予定を述べる表現を覚える（課題）				2.0
7	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、未来表現の意味や表現方法等について考える				2.0

	授業	Unit 11-後半 単純未来、意志未来、近接未来の表現形式及び意味について学習し、ケベックに関する短い文章の概要を英語で書く	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）	2.0
8	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 12-前半 “Florida Sunshine”－過去から現在にわたる事柄に関する表現方法を学習し、ダイアログの概要を英文で書く	
	事後学修	ダイアログを書き、学習した内容を確認するとともに、完了、継続、経験に関する表現を覚える（課題）	2.0
9	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、現在完了形の意味や用法等について考える	2.0
	授業	Unit12-後半 現在完了形の意味や用法について学習し、マイアミに関する短い文章の概要を英語で書く	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）	2.0
10	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 13-前半 “A Taste of P.E.I.”－物事を比較して述べる表現を学習し、ダイアログを参考に英文を作る	
	事後学修	ダイアログを書き学習した内容を確認するとともに、食べ物に関する比較表現を含む会話表現を覚える（課題）	2.0
11	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、比較表現の形式や意味等について考える	2.0
	授業	Unit 13-後半 比較表現の形式や意味について学習し、P.E.I. に関する短い文章の概要を英語で書く	
	事後学修	学習した内容を確認するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）	2.0
12	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 14-前半 “N.Y.C. – The Big Apple”－助動詞を使ったさまざまな表現を学習し、ダイアログの概要を英文で書く	
	事後学修	ダイアログを書き、学習した内容を確認するとともに、ミュージカル女優に関する会話表現を覚える（課題）	2.0
13	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、助動詞の機能と意味及び形について考える	2.0
	授業	Unit 14-後半 助動詞の機能と意味及び形について学習し、ニューヨークに関する短い文章の概要を英語で書く	
	事後学修	学習した内容を理解するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）	2.0
14	事前学修	教科書に関する Web サイトにアクセスし、語句や場面に関する内容を考える	2.0
	授業	Unit 15-前半 “Niagara Falls”－ダイアログの内容を把握するとともに、される側に焦点を当てた表現に関して学習する	
	事後学修	ダイアログを書き、学習した内容を確認するとともに、される側に焦点を当てた表現を覚える（課題）	2.0
15	事前学修	教科書に関連する web サイトにアクセスし、受動態の形式と意味について考える	2.0
	授業	Unit 15-後半 受動態の形式や意味及び用法について学習し、旅行記の概要に関する英文を書く	
	事後学修	学習した内容を理解するとともに、ひな形を基に自分の情報を入れた英文を書く（課題）	2.0

成績評価の方法およびその基準	
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 期末試験（40％） ■ 事前学修の取組状況（20％） ■ 小テスト及び課題（事後学修）の提出状況（40％）	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
◎課題に関しては授業の中で解説を行います。 ◎小テストや試験及び一部課題に関しては POLITE 上に模範解答を掲載します。	
教科書	書名：前期「基礎英語 A」と同じ (English Missions! Starter), 著者名：前期「基礎英語 A」と同じ (Robert Hickling 臼倉美里), 出版社：前期「基礎英語 A」と同じ (金星堂), 備考：
参考書・Web サイト	教科書出版元のサイト： http://www.kinsei-do.co.jp/ 教科書内容紹介： https://www.kinsei-do.co.jp/books/4070/
単位修得が望ましい科目	基礎英語 A
備考	基礎英語 A と同じ： B5 版（教科書と同じ大きさ）のレポート用紙，又はルーズリーフを購入しておくこと（課題等の提出用）。提出物は返却しません。 前期の「基礎英語 A」で使用した教科書を引き続き使用します）
担当教員の実務経験	なし

Writing I Writing1

担当教員	吉村 裕彦 (338 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。					
○授業概要					
1 グローバル化する社会において国際語として必要とされる英語の活用能力を向上させる。そのために、本科目では英語の表現力を高める。具体的には、テキストの内容に応じて音読と筆写を重視しながら語彙力増強、基礎的文法の復習、4 技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の取組を行い、表現力の定着を含む総合的な英語力の向上を図る。					
2 個人の取組と共に適宜ペアワークを取り入れる。					
3 テキストの構成上、将来受験が推奨される TOEIC L&R テスト対策を取り入れる。					
4 情報大学生として IT 用語についても教材とする。					
5 ポートフォリオを用いて毎時の取組状況の記録と提出を求める。					
授業における学修の到達目標					
1 自分の持つ知識や辞書を活用し、間違ふことを恐れず英語を理解しようとすることができる（積極的態度）。					
2 音声を聞いて正しく内容を理解することができる（リスニング力）。					
3 文構造を理解し英文を正しく解釈できる（リーディング力）					
4 音読練習を元に、英語で正しく表現できる（スピーキング力）。					
5 筆写練習を元に、英語を正しく表現できる（ライティング力）					
6 扱うエッセイや教材をとおり、異文化理解と教養を深める（異文化理解）。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。			2
	授業	オリエンテーション Unit 8 Could you tell me how to get there? 1 助動詞と「道順を尋ねる」「感謝する」表現の理解			
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。			2
2	事前学修	助動詞について確認する。語句確認テストの準備をする。			2
	授業	Unit 8 Could you tell me how to get there? 2 寮生活に関する英文教材の理解と「道順を尋ねる」「感謝する」表現の定着で表現する。			
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。			2
3	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。			2
	授業	Unit 9 What do you want me to do? 1 不定詞と「問題点を述べる」「依頼する」表現の理解			
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。			2
4	事前学修	不定詞について確認する。語句確認テストの準備をする。			2
	授業	Unit 9 What do you want me to do? 2 学生団体に関する英文教材の理解と「問題点を述べる」「依頼する」表現の定着			
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。			2
5	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。			2

	授業	Unit 10 I'm on a tight budget. 1 関係詞と「理由を述べる」「理解を示す」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
6	事前学修	関係詞について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 10 I'm on a tight budget. 2 アメリカの大学入試に関する英文教材の理解と「理由を述べる」「理解を示す」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
7	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 11 What do you think of this program? 1 形容詞・副詞と「意見を尋ねる」「励ます」表現の理解と活用	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
8	事前学修	形容詞・副詞について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 11 What do you think of this program? 2 イギリスの大学入試に関する英文教材の理解と「意見を尋ねる」「励ます」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
9	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 12 I'm reviewing what I studied. 1 接続詞・前置詞と「近況を尋ねる」「確信を示す」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
10	事前学修	進行形表現について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 12 I'm reviewing what I studied. 2 徹夜に関する英文教材の理解と「近況を尋ねる」「確信を示す」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
11	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 13 Final exam week is so stressful! 1 動名詞と「賛同する」「不安を示す」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
12	事前学修	受動態について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 13 Final exam week is so stressful! 2 アイヴィーリーグに関する英文教材の理解と「賛同する」「不安を示す」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。	2
13	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 14 Is this your first trip abroad? 1 分詞と「相づちを打つ」「予定を尋ねる」表現の理解	
	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
14	事前学修	現在完了形の表す意味について確認する。語句確認テストの準備をする。	2
	授業	Unit 14 Is this your first trip abroad? 2 外国の過年度卒業生に関する英文教材の理解と相づちを打つ」「予定を尋ねる」表現の定着	
	事後学修	Web リンガポルタを利用し復習をする。期末試験の準備をする。	2
15	事前学修	テキストを予習し扱う語句について把握する。	2
	授業	Unit 15 What would you like to order? 比較表現について理解する。最終テストの実施	

	事後学修	ダイアログの音読を繰り返し行う。文法の復習をする。	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
■ 試験 60% ■ 語句確認小テスト 10% ■ ポートフォリオ・シート提出とその内容 30%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
試験、小テストの解説、およびポートフォリオ・シートへのコメントによりフィードバックを行う。			
教科書		書名：Let's Read Aloud & Learn English, 著者名：角山照彦・Simon Capper, 出版社：成美堂, 備考：前期 Reading I と同じテキストなので、前期履修者は購入不要です。	
参考書・Web サイト		(テキストの音声ファイル) http://www.seibido.co.jp/	
単位修得が望ましい科目		Reading I	
備考		・ひとつの Unit を 2 回の講義で学習します。(最終 Unit のみ 1 回。) ・期末試験は第 15 回目に授業の中で行います。 ・基礎知識定着のため、各 Unit の後半授業にて前時学習の語句確認テストを実施します。 ・ポートフォリオ・シートには毎時のタスク内容と取組状況の自己評価と今後の課題を記入してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。	
担当教員の実務経験		高校の英語教員として 2018 年までの 37 年間英語教育指導にあたった。その後、本学及び専門学校で TOEIC 受験の対策や基礎英語に関する授業を担当している。こうした経験を、学生の英語コミュニケーション能力向上を図る授業づくりに活かしている。 2001 年～2002 年 実用英語技能検定面接員。	

Writing I Writing1

担当教員	谷 さつき(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。					
平易な英語で書かれた短編ミステリーを丁寧に読みます。内容理解とアウトプットのために、中学・高校で学んだ英語の基礎を復習します。物語中で使用されている文法・語法・語彙を理解し、運用力を身につけます。					
授業における学修の到達目標					
まとまった量の英文を読むことに苦痛を覚えないようになる。長文の大意を把握できる。精読（細部まで理解するために丁寧に読むこと）を通して、確かな文法力が身に付く。中学・高校で学んだ英語の基礎（文法・語法・語彙）が定着し、アウトプットを含めた運用ができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読む。			2
	授業	ガイダンス（POLITE コース登録、学習の進め方、評価方法、辞書・電子辞書の活用方法、辞書サイトの活用法など）。			
	事後学修	課題に取り組む。			2
2	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing を読む準備			
	事後学修	課題に取り組む。			2
3	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing 1 (21 ページ冒頭から 22 ページ 24 行目)			
	事後学修	課題に取り組む。			2
4	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing 2 (22 ページ 25 行目から 25 ページ 21 行目)			
	事後学修	課題に取り組む。			2
5	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing 3 (25 ページ 22 行目から 28 ページ 22 行目)			
	事後学修	課題に取り組む。			2
6	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing 4 (28 ページ 23 行目から 30 ページ 19 行目)			
	事後学修	課題に取り組む。			2
7	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing 5 (30 ページ 20 行目から 33 ページ最後まで)			
	事後学修	課題に取り組む。			2
8	事前学修	課題に取り組む。			2
	授業	The Railway Crossing 振り返り			
	事後学修	課題に取り組む。			2
9	事前学修	課題に取り組む。			2

	授業	As the Inspector Said . . . と Cash on Delivery を読む準備	
	事後学修	課題に取り組む。	2
10	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	As the Inspector Said . . . 1 (1 ページ冒頭から 2 ページ 24 行目)	
	事後学修	課題に取り組む。	2
11	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	As the Inspector Said . . . 2 (2 ページ 25 行目から 5 ページ 9 行目)	
	事後学修	課題に取り組む。	2
12	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	As the Inspector Said . . . 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2
13	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Cash on Delivery 1 (49 ページ冒頭から 52 ページ 3 行目)	
	事後学修	課題に取り組む。	2
14	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Cash on Delivery 2 (52 ページ 4 行目から 54 ページ最後)	
	事後学修	課題に取り組む。	2
15	事前学修	課題に取り組む。	2
	授業	Cash on Delivery 振り返り	
	事後学修	課題に取り組む。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 提出課題、授業内試験、小テスト、振り返りテスト (100 %) □ レポート (%) □ 演習課題 (%) □ その他 [%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出課題にはコメントをつけます。小テスト受験前の理解度確認クイズに適宜解説が示されます。

教科書	書名：Oxford Bookworms Library Stage 3 As the Inspector Said and Other Stories, 著者名：Retold by John Escot, 出版社：Oxford University Press, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	大学から貸与される Windows PC を持参してください。100 均で売っているものでいいので、マイク付きのイヤホンがあると便利です。 【お願い】授業の進度よりも早く自分で読み進んで構いません。ただし、結末を知っても、他に人には話さないでください。結末がわかったあとで最初から読み返すと、主人公の言動の意味が 1 回目とは違ったものに思えてきて、おもしろいですよ。
担当教員の実務経験	中学・高校での教員経験に加え、小学 2 年生から大人まで様々な年齢層の方々に英語を指導してきた。フリーランスで翻訳業（主に日→英）と通訳業にも従事している。これらの経験を生かし、英語の知識を取り込むだけでなく、取り込んだものを用いて伝えたいことを英語で外に出すまでの力を身に付けるための基礎訓練を行う。また、継続的に学習する習慣を学生自身が確立するように導く。

Writing I Writing1

担当教員	竹内 典彦 (309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ILC101	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
授業概要						
テーマ「作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める」						
自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や CNN 10 のニュース教材、VoiceTube 等の動画を利用して、1 年次に獲得した英語力にさらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて、どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上を目指す。						
News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで、より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い、授業においても積極的に関わることを望む。また英語の読み物教材も使用する。						
授業の指針を下に示す。						
1 1 回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること						
2 未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと						
3 ポライトで、その日の課題を示す。講義に出席して課題を提出することが重要						
授業における学修の到達目標						
1. 自分のレベルにあった英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる						
2. 自分のレベルにあった英文を読んで内容を理解することができる						
3. 自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	ガイダンス。上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。				2
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。				2
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。				2
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。				2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。				
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。				2

		2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	

		習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
14	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2
15	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2
成績評価の方法およびその基準			
■小テスト： 50% ■演習課題： 50%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。			
教科書			
参考書・Web サイト		News in Levels のサイト、CNN 10、VoiceTube 他	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		なし	

Writing I Writing1

担当教員	目黒 芳秀(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
1. 作文力向上を中心にして、総合的な英語力向上に努める。					
2. 授業進度は1 Lesson を2 時間配当で実施することを基本とする。学習テーマをしっかりと理解し、学んだ内容を着実に身につけること」を目指す。					
3. 教材は教科書を中心とするが、自主作成教材（作文演習）も取り入れる。					
4. 学習活動には音読練習、音読筆写、またロールプレイ（対話練習）、小グループによるブレインストーミングを取り入れる。					
5. IT 用語も教材とする。					
6. 毎回小テストを実施する。					
7. テキストとリンクするオンライン学習システム「リンガポルタ」を学習内容の定着に活用する。					
授業における学修の到達目標					
1. 基本的な文法をしっかりと復習し、英文の読解や文章表現に活用することができる。					
2. 音読を学習の中心におき、継続して学習する習慣を身につけることができる。					
3. 身の回りのできごとについて、平易な英語を使って文章表現したり、他者とコミュニケーションすることができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する。音声ファイルをダウンロードする。 LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと			2
	授業	基礎力テスト／Unit 9: What do you want me to do? ―問題点を述べる・依頼する／不定詞			
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 9 を復習			2
2	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと			2
	授業	Unit 9: What do you want me to do? ―問題点を述べる・依頼する／不定詞			
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 9 を復習			2
3	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと			2
	授業	Unit 10: I'm on a tight budget. ―理由を述べる・理解を示す／関係詞			
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 10 を復習			2
4	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと			2
	授業	Unit 10: I'm on a tight budget. ―理由を述べる・理解を示す／関係詞			
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 10 を復習			2
5	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと			2
	授業	Unit 11: What do you think of this program? ―意見を尋ねる・励ます／形容詞・副詞			
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 11 を復習			2
6	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと			2
	授業	Unit 11: What do you think of this program?			

		—意見を尋ねる・励ます／形容詞・副詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 11 を復習	2
7	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 12: I'm reviewing what I studied. —近況を尋ねる・確信を示す／接続詞・前置詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 12 を復習	2
8	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 12: I'm reviewing what I studied. —近況を尋ねる・確信を示す／接続詞・前置詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 12 を復習	2
9	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 13: Final exam week is stressful. —賛同する・不安を示す／動名詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 13 を復習	2
10	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 13: Final exam week is stressful. —賛同する・不安を示す／動名詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 13 を復習	2
11	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 14: Is this your first trip abroad ? —相槌を打つ。予定を尋ねる／分詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 14 を復習	2
12	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 14: Is this your first trip abroad ? —相槌を打つ。予定を尋ねる／分詞	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 14 を復習	2
13	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 15: What would you like to order ? —希望を尋ねる・注文する／比較	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 15 を復習	2
14	事前学修	LET'S CHECK & READ ALOUD!の音声を聴き、事前に学習しておくこと	2
	授業	Unit 15: What would you like to order ? —希望を尋ねる・注文する／比較	
	事後学修	リンガポルタを使用し Unit 15 を復習	2
15	事前学修	これまで実施した小テストの復習をする。各 Unit の「LET'S READ」を復習する。	2
	授業	期末試験	
	事後学修	Unit 9 ～Unit 15 の音声を聴き返す。	2

成績評価の方法およびその基準

■試験：60％ ■小テスト：20％ ■演習課題：20％

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書

書名：Let's Read Aloud & Learn English: On Campus 「音読で学ぶ基礎英語<<キャンパス

	編」, 著者名: 角山 照彦 / Simon Capper 著, 出版社: 成美堂, 備考:
参考書・Web サイト	教科書の音声ダウンロードページ https://www.seibido.co.jp/np/audiodownload.html?goods_id=551
単位修得が望ましい科目	なし
備考	期末試験については、授業出席が授業実施回数の 3 分の 2 以上のとき、受験資格が与えられる。
担当教員の実務経験	なし

Communication I Communication1

担当教員	CHARLES McLARTY (312 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC102
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
The focus of the class will be oral communication. Students will develop confidence in their English by participating in a variety of class activities such as listening to popular songs, playing language games, doing crossword puzzles or vocabulary quizzes with a partner.					
授業における学修の到達目標					
The purpose of our class is to help students learn to use the English words they already know for communication. Also, students will broaden their communication skills by learning many new and useful English vocabulary words.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Text, Chapter 1			2
	授業	Orientation Guessing Game			
	事後学修	Printed hand-outs			2
2	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Further Orientation Vocabulary Game			
	事後学修	Printed hand-outs			2
3	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Student-Teacher Question Time			
	事後学修	Printed hand-outs			2
4	事前学修	Text, Ch. 2			2
	授業	News Talk and Pair Practice			
	事後学修	Printed hand-outs			2
5	事前学修	Text, Ch. 3			2
	授業	English Video/DVD or Music Listening			
	事後学修	Printed hand-outs			2
6	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Listening Drills and Group Work			
	事後学修	Printed hand-outs			2
7	事前学修	Text, Ch. 4			2
	授業	Text-based Grammar Drills			
	事後学修	Printed hand-outs			2
8	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Communication Practice in Pairs			
	事後学修	Printed hand-outs			2
9	事前学修	Printed hand-outs			2

	授業	English Short Story with Listening Practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
10	事前学修	Text, Ch. 6	2
	授業	Vocabulary Check Quick Response Game	
	事後学修	Printed hand-outs	2
11	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Functional Conversation Pair Practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
12	事前学修	Text, Ch. 7	2
	授業	Listening Practice Find The Answer	
	事後学修	Printed hand-outs	2
13	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Vocabulary Review Further grammar practice	
	事後学修	Printed hand-outs	2
14	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Music Listening or English Video/DVD	
	事後学修	Printed hand-outs	2
15	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Semester Test or Homework	
	事後学修	Vocabulary homework	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 33% ■レポート： 33%

■その他、授業の参加 34%とする

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

宿題に comment を書いて返却する。

教科書	書名：J-Talk, 著者名：Linda Lee, Kensaku Yoshida, Steve Ziolkowski, 出版社：Oxford University Press, 備考：
参考書・Web サイト	Learning Interesting Vocabulary in English (L.I.V.E.) by Charles McLarty and Osamu Nakano
単位修得が望ましい科目	基礎英語
備考	Good luck with English
担当教員の実務経験	The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S., will provide students with sufficient opportunities to improve their listening, speaking, reading and writing skills in the language.

Communication I Communication1

担当教員	JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC102	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
授業概要						
Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.						
この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。						
授業における学修の到達目標						
This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.						
この講座は、コミュニケーション・ストラテジー（伝達方略）を通じて英語でコミュニケーション力が上達することを目指します。日常英会話に使える語句や表現を学びながら、自分なりの英語を実践的な会話に使うことを目標とします。講座の最終目標：英語のみで、10分以上会話を続けること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	Read syllabus. PAY CLOSE ATTENTION TO 備考欄："出席"				2.0
	授業	Introduction to communication-strategy-focused, group-discussion based communicative English class. Survey: How was your JHS/HS experience? In-class free speaking activity x2.				
	事後学修	Review syllabus handout. CONFIRM MIDTERM & FINAL TEST DAYS. Write on calendar, do not forget.				2.0
2	事前学修	Optional: What are three rules for real-life English conversation? Write on paper & bring to next class.				2.0
	授業	Introduction to communication strategies. Intro Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Three rules for real-life English conversation.				
	事後学修	Review three rules of real-life conversation. Also review "Ask for Help" phrases (on back of stop-sign).				2.0
3	事前学修	Review "Ask for Help" strategy phrases (stop sign). Think of and write down 10 questions to ask classmates in next class (use best English).				2.0
	授業	Continue Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Pairwork: Q & A. Intro phrases "Me too, me neither, oh really?"				
	事後学修	Re-write questions (Jns-->Eng) from handout.				2.0
4	事前学修	Review romaji rules (へボン式 vs 訓令式). Guess difference, write on paper & bring to class. Try				2.0

		writing name in 筆記体 (cursive).	
	授業	Intro Strategy #2: "Make Sure". Practice activity (pairwork). Romaji: 訓令式 vs ヘボン式. "How to cursive" (signature practice)	
	事後学修	Practice writing signature in cursive (follow handout).	2.0
5	事前学修	Theme: "fast food". Think of 5 good things and 5 bad things. Write on paper. Bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #3: "Non-Verbal". Practice activity (pairwork). Intro topic: "fast food". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic). PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	2.0
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #4: "Approximate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん) .	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout). Optional: write practice test; ask Rian before next class if any questions.	2.0
7	事前学修	Review notes for topic ("fast food").	2.0
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "part-time job". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2.0
8	事前学修	Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2.0
	授業	Return PERFORMANCE #1 tests (marked). Feedback. Intro Strategy #5: "Invent". Practice activity (pairwork). Intro topic: "part-time job". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2.0
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #6: "Restate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2.0
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #7: "Elicit".	

		Practice activity (pairwork). Intro topic: "video games". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2.0
11	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Intro Strategy #8: "Catch Copy". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2.0
12	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2.0
	授業	Intro topic: "mandatory English classes". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2.0
13	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2.0
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん). PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2.0
14	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (part-time job, video games, mandatory English)	2.0
	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2.0
15	事前学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2.0
	授業	ミニ面談: return tests, discuss participation (attendance) issues if any. Rian will bring printout of attendance for 前期 for all classes.	
	事後学修	Complete 前期 survey, if any. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2.0
成績評価の方法およびその基準			
[筆記テスト、会話テスト] x 2 (中間、期末) (50% x 2 = 100%)			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
15回の日、テストを返し、成績や授業中のパフォーマンスについての説明を含むプチ面談を行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/	
単位修得が望ましい科目		なし。Bring an open mind.	

備考	メール： rianjp48@do-johodai.ac.jp 遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でもOKです。
担当教員の実務経験	なし

Communication I Communication1

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC102
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	前期	
授業概要					
このコースは基本の会話を習得させるコースです。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われるので、文法よりも会話に重点をおいています。このコースは会話が基本ですので、学生は全員参加しなければなりません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。 →→→詳しくは、POLITE サイトをご覧ください。 (前期) https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/course/view.php?id=952 (後期) https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/course/view.php?id=1070					
注意事項：					
(1) 3 回以上の無断欠席は落第とします。 (2) 話すことは重要ですから、英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。 (3) 2 回の遅刻はイコール 1 回の欠席です。気をつけて下さい。 (4) テキストを使いません。 (5) 英語での口頭試験と発表があります。 (6) ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションが多いです。 (7) 毎週、日記（ノート）に英語で週のメインイベントを書かなければなりません。					
授業における学修の到達目標					
この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak!!					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1・ Read Syllabus 2・ Investigate learning outcomes 3・ Write own self-introduction			2
	授業	・ Student profile ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・ How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes)			
	事後学修	1・ Write self introduction 2・ Make 3 questions for start of next class 3・ Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)			2
2	事前学修	1・ Revise self introduction 2・ Revise 3 oral questions			2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Introduction exercise (how to self introduction) ・ Ice breaker name ・ Ask prepared oral questions			
	事後学修	1・ Write 2nd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Write keywords (from ice-break exercise) in journal notebook (back half)			2
3	事前学修	1・ Review keywords (from ice-break exercise)			2

		2 • Check & review 3 oral questions 3 • Read and edit own journal entries	
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Classroom English • Group work to generate and practice understanding of classroom English • Put students in groups of 3-4. • Present their own classroom English to other groups • Teacher writes on board • Set homework ... (from prepared print) - English/Japanese matching of classroom English	
	事後学修	1 • Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set	2
4	事前学修	1 • Review homework key sentences (classroom English) 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • List of greetings - when and how to use • Group work - drama presentation - Hello, How you doing? Where you going? Goodbye. • If time, rotate students for practice.	
	事後学修	1 • Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new "greetings" words in journal notebook (back half) (e.g. diagonal etc) 4 • Read and edit journal.	2
5	事前学修	1 • Review "greetings" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Self Introductions - • Generate self intro from class members • Write on board. • Each to perform in front of class (reading OK) • Homework write and learn self intro - no reading. • ALSO - if time, introducing A to B. • Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) • Rotate groups so that always new introductions.	
	事後学修	1 • Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write self-introduction keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework (self introduction)	2
6	事前学修	1 • Review self introduction 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2

	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Perform graded self introduction • Like/Dislike - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on • Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks • Class exercise - Find someone who... (from prepared print) • Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1 • Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words "like/dislike" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
7	事前学修	1 • Review new "like/dislike" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Listening Practice - Students listen to a popular song or short movie. Lyrics are provide in some places. Blanks are completed by students - e.g. • Focus on listening skill rather than precise spelling • Also show students how rhyme patterns are beneficial, - e.g. - Yesterday, All my trouble seemed so far away, ...to stay...	
	事後学修	1 • Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
8	事前学修	1 • Review new words expressions from last listening game lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I am - How to use the "be" verb. places. - e.g. • Focus on 1st, 2nd, 3rd person. • Focus on adjectives & nouns - e.g. • I am a student. My father is a teacher. I am happy. He is busy. • Class exercise - Find someone who is ... (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
9	事前学修	1 • Review words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 4 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Conversation Time - Dictation Game • Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others	

		spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... • Focus on talking rather than precise spelling • Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board).	
	事後学修	1 • Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
10	事前学修	1 • Review new "Dictation Game" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I want to go (助動詞 1) • Students focus on how to express; • " want to..." / "He wants to..." • "I don't want to ..." / "He doesn't want to" • Class exercise - Find someone who wants to ... (from prepared print) • Also show students how to follow pattern • Students to pick random partner, ask question, & answer return question • "What do you want to do tonight?" • Set Homework - Tell me what you want to do in summer vacation.	
	事後学修	1 • Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "I want to" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal 5 • Complete homework concerning what you want to do in the summer vacation.	2
11	事前学修	1 • Review "I want to" usage from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read and review what you want to do in the summer vacation homework.	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I want to go (助動詞 2) • Continue from previous lesson with focus on conversational/slang style: • e.g. What do you wanna do tonight. I wanna/I don't wanna. • Also - "he wants ta"/"She wants ta"/"He dozen wanna" etc... • Set homework (same as previous using slang style).	
	事後学修	1 • Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "I wanna" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal 5 • Complete homework concerning what you "wanna" do in the summer vacation.	2
12	事前学修	1 • Review "I wanna" usage from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read and review what you wanna do in the summer vacation homework. (Vers2)	2

	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • "I hafta" - Continued abbreviations. • Continue from previous lesson with focus on conversational/slang style: • e.g. What do you hafta do tonight. I hafta ... I don't hafta.... • Also - "he doesn't hafta..." etc • Set homework - What do you hafta do this weekend - list 10.	
	事後学修	1 • Write 12th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "hafta" lesson in journal notebook (back half) 4 • Complete homework concerning what you "hafta" do this weekend. 5 • Read and edit journal	2
13	事前学修	1 • Review "I hafta" usage from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read and review what you hafta do in the weekend homework. (Vers2)	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Commands - • Introduction of: Go! Don't go! • Please go! Please don't go! • Play Simon Says - command game (e.g. Simon says Stand up!) • Also hand out homework - write 10 positive and negative commands.	
	事後学修	1 • Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords (commands) in journal notebook (back half) 4 • Complete homework.	2
14	事前学修	1 • Review commands. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Part 1 (commands review) • Instruction Game - Simple game where students told to do, or not do, something. • Part 2 (1 minute speech) • Introduce idea of 1 minute speech (to be carried out next lesson)	
	事後学修	1 • Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Prepare for 1 minute speech (next lesson) 4 • Read and edit journal	2
15	事前学修	1 • Check & review 3 new oral questions for next class 2 • Practice and learn oral presentation questions 3 • Read and edit own journal entries 4 • Practice and review 1 minute speech	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Explanation of speech judging criteria (pronunciation, content, attitude, impact etc) • Students also evaluate each other AND must ask 1 question each to any other student. • Explain how notebooks to be submitted after next class (oral examination) • explanation of content for oral examination.	
	事後学修	1 • Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words)	2

		2・Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 3・Read and edit journal for submission 4・Practice oral examination	
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 ■宿題／プリント：20% ■口答試験：20% ■平常点：20% ■ジャーナル：20% ■その他[参加／発言／小テスト等]：20%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。(授業中採点する時もあり) ・授業中の参加(質問や発言)の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。 ・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。 ・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。			
教科書	書名：ノート B 6mm 35行 セミB5 30枚 明るい色の表紙 **～>B5のみ, 著者名：, 出版社：PLUS等, 備考：		
参考書・Web サイト	未定		
単位修得が望ましい科目	出席と参加は大切です。下記の備考を読んで下さい。		
備考	LUCKY!! ↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will teach you HOW TO COMMUNICATE. このコースは英語のコミュニケーション方法を教えます。 4 You don't need a TEXT BOOK. 教科書が要りません。 UNLUCKY!! ↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first quarter. 同じ学期の間同じ席にすわらなければいけません。 3 There will be an oral EXAM . 口答試験があります。 4		

	You must TALK. 喋らない学生は絶対に合格しません。 5 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

Communication I Communication1

担当教員	井上 千恵子(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC102
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	前期	
授業概要					
Let's Listen and speak in English.					
The major goal of this course is to build foundational English communication skills useful in the real world. The main focus is placed on oral communication. Importance is also placed on vocabulary building and grammar review.					
聴く力と話す力を向上させましょう。このコースは実社会での英語を使ったコミュニケーションに重点を当て、基礎となる語彙や既習済みの文法を使い英語による実践的な発信スキルを向上させることを目指します。学生はロールプレイ、ペアまたはグループで様々な場面での会話を英語で行いコミュニケーションの力をつけていきます。					
授業における学修の到達目標					
1. Understand simple conversations. 簡単な英語の会話を聞き取ることができる。					
2. Develop oral communication skills. 学んだ英語表現を用いて英語で話すことができる。					
3. Give a presentation in English. 人前で簡単な英語のプレゼンテーションができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Read syllabus and understand the purpose of the course Write own self-introduction			2
	授業	Course Orientation Get to know each other : Student profile			
	事後学修	Review syllabus handout Revise self-introduction			2
2	事前学修	Study handout 1, "What's your major?"			2
	授業	"What's your major?" Question words & be-verbs Group work: Role play Self-introduction. Ask 3 questions to your classmates			
	事後学修	Review handout 1 Worksheet Revise self-introduction			2
3	事前学修	Study handout 2, "How do you like your new school?"			2
	授業	Set groups "How do you like your new school?" General verbs Group work: Role play Ask 3 questions to your classmates			
	事後学修	Review handout 2 Worksheet			2
4	事前学修	Study handout 3, "Let me introduce a new member to you."			2
	授業	"Let me introduce a new member to you." Verbs: past Group work: Role play Ask 3 questions to your classmates			

	事後学修	Review handout 3 Worksheet	2
5	事前学修	Study handout 4, "How was your Golden Week?"	2
	授業	"How was your Golden Week?" Group work: Role play Ask 3 questions to your classmates.	
	事後学修	Review handout 4 Worksheet Prepare for performance (Role play)	2
6	事前学修	Practice role-play performance	2
	授業	Performance: Role play Group evaluation Write about your Golden Week Holiday	
	事後学修	Finish writing about your Golden Week Holiday, and practice talking about it.	2
7	事前学修	Practice talking about your Golden Week Holiday Study handout 5, "I'm looking for a part-time job."	2
	授業	Group work: Talk about your Golden Week Holiday "I'm Looking for a part-time job." Group work: Role play Ask 3 questions to your classmates	
	事後学修	Review handout 5 Worksheet	2
8	事前学修	Study handout 6, "What do you call this in Japanese?" ²	2
	授業	"What do you call this in Japanese?" Group work: Role play Ask 3 questions to your classmates	
	事後学修	Review handout 6 Worksheet	2
9	事前学修	Study handout 7, "Have you been there?"	2
	授業	"Have you been there?" Group work: Role play Ask 3 questions to your classmates	
	事後学修	Review handout 7 Worksheet	2
10	事前学修	Study handout 8, "Could you tell me how to get there?"	2
	授業	"Could you tell me how to get there?" Group work: Role play Ask directions and tell how to get there	
	事後学修	Review handout 8 Worksheet	2
11	事前学修	Practice role-play performance	2
	授業	Performance: Role play Group evaluation Presentation topic	

	事後学修	Work on your presentation topic and start research	2
12	事前学修	Presentation research	2
	授業	Group work: prepare for presentation	
	事後学修	Presentation research and preparation	2
13	事前学修	Practice giving a presentation	2
	授業	Performance: Group or individual Presentation Student evaluation Preparation for an interview test	
	事後学修	Review your presentation	2
14	事前学修	Prepare for an interview test Prepare 3 questions to ask	2
	授業	Interview Test (Individual)	
	事後学修	Evaluate your own interview test	2
15	事前学修	Wrapping up your work	2
	授業	Feedback Group work: Talk about your summer plan Make 3 questions	
	事後学修	Self-evaluation	2

成績評価の方法およびその基準

■ Quizzes (小テスト) 20% ■ Worksheets 20% ■ Role play 20% ■ Interview test 20%

■ Presentation 10% ■ Participation 10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Return quizzes and worksheets after checking them.

小テストやワークシートの練習問題は採点後に返却する。

ロールプレイやインタビューテストは採点を知らせる。

教科書	書名：特になし Printed handouts, 著者名：, 出版社：, 備考：
参考書・Web サイト	今まで使っていた参考書など
単位修得が望ましい科目	基礎英語 A
備考	教材はプリントして配布するので、ノートまたはクリアファイルを用意し教材を保管すること。 授業へ参加することが大切です。グループワークが多くなるので、パートナーに迷惑をかけないように。欠席 4 回で平常点はない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。
担当教員の実務経験	none 教職以外はなし

Communication I (国際情報プログラム) Communication1

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC102
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
このコースは基本の会話を習得させるコースです。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われるので、文法よりも会話に重点をおいています。このコースは会話が基本ですので、学生は全員参加しなければなりません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。 →→→詳しくは、POLITE サイトをご覧ください。 (前期) https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/course/view.php?id=952					
授業における学修の到達目標					
この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。 This class is also specially for students who have entered the International Information Program. Much of the instruction will be in English.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1・ Read Syllabus 2・ Investigate learning outcomes 3・ Write own self-introduction			2
	授業	・ Student profile ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・ How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes)			
	事後学修	1・ Write self introduction 2・ Make 3 questions for start of next class 3・ Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)			2
2	事前学修	1・ Revise self introduction 2・ Revise 3 oral questions			2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Introduction exercise (how to self introduction) ・ Ice breaker name ・ Ask prepared oral questions			
	事後学修	1・ Write 2nd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Write keywords (from ice-break exercise) in journal notebook (back half)			2
3	事前学修	1・ Review keywords (from ice-break exercise) 2・ Check & review 3 oral questions 3・ Read and edit own journal entries			2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Classroom English ・ Group work to generate and practice understanding of classroom English ・ Put students in groups of 3-4. ・ Present their own classroom English to other groups ・ Teacher writes on board			

		Set homework ... (from prepared print) - English/Japanese matching of classroom English	
	事後学修	1・Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set	2
4	事前学修	1・Review homework key sentences (classroom English) 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	- Oral questions between students - different student each time (max 3) - List of greetings - when and how to use - Group work - drama presentation - Hello, How you doing? Where you going? Goodbye. - If time, rotate students for practice.	
	事後学修	1・Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new "greetings" words in journal notebook (back half) (e.g. diagonal etc) 4・Read and edit journal.	2
5	事前学修	1・Review "greetings" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	- Oral questions between students - different student each time (max 3) - Self Introductions - - Generate self intro from class members - Write on board. - Each to perform in front of class (reading OK) - Homework write and learn self intro - no reading. - ALSO - if time, introducing A to B. - Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) - Rotate groups so that always new introductions.	
	事後学修	1・Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write self-introduction keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework (self introduction)	2
6	事前学修	1・Review self introduction 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	- Oral questions between students - different student each time (max 3) - Perform graded self introduction - Like/Dislike - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on - Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks - Class exercise - Find someone who... (from prepared print) - Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1・Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class)	2

		3 • Write new words "like/dislike" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	
7	事前学修	1 • Review new "like/dislike" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Listening Practice - Students listen to a popular song or short movie. Lyrics are provide in some places. Blanks are completed by students e.g. • Focus on listening skill rather than precise spelling • Also show students how rhyme patterns are beneficial, e.g. Yesterday, All my trouble seemed so far away, ...to stay...	
	事後学修	1 • Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
8	事前学修	1 • Review new words expressions from last listening game lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I am - How to use the "be" verb. places. e.g. • Focus on 1st, 2nd, 3rd person. • Focus on adjectives & nouns e.g. • I am a student. My father is a teacher. I am happy. He is busy. • Class exercise - Find someone who is ... (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
9	事前学修	1 • Review words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 4 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Conversation Time - Dictation Game • Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... • Focus on talking rather than precise spelling • Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board).	
	事後学修	1 • Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words)	2

		2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	
10	事前学修	1 • Review new "Dictation Game" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I want to go (助動詞 1) • Students focus on how to express; • " want to..."/"He wants to..." • "I don't want to ..."/"He doesn't want to" • Class exercise - Find someone who wants to ... (from prepared print) • Also show students how to follow pattern • Students to pick random partner, ask question, & answer return question • "What do you want to do tonight?" • Set Homework - Tell me what you want to do in summer vacation.	
	事後学修	1 • Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "I want to" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal 5 • Complete homework concerning what you want to do in the summer vacation.	2
11	事前学修	1 • Review "I want to" usage from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read and review what you want to do in the summer vacation homework.	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I want to go (助動詞 2) • Continue from previous lesson with focus on conversational/slang style: • e.g. What do you wanna do tonight. I wanna/I don't wanna. • Also - "he wants ta"/"She wants ta"/"He dozen wanna" etc... • Set homework (same as previous using slang style).	
	事後学修	1 • Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "I wanna" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal 5 • Complete homework concerning what you "wanna" do in the summer vacation.	2
12	事前学修	1 • Review "I wanna" usage from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read and review what you wanna do in the summer vacation homework. (Vers2)	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • I hafta" - Continued abbreviations. • Continue from previous lesson with focus on conversational/slang style: • e.g. What do you hafta do tonight. I hafta ... I don't hafta.... • Also - "he doesn't hafta..." etc • Set homework - What do you hafta do this weekend - list 10.	
	事後学修	1 • Write 12th journal entry (front half) (minimum 50 words)	2

		2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Write new words from "hafta" lesson in journal notebook (back half) 4・ Complete homework concerning what you "hafta" do this weekend. 5・ Read and edit journal	
13	事前学修	1・ Review "I hafta" usage from previous lesson. 2・ Check & review 3 new oral questions for next class 3・ Read and edit own journal entries 4・ Read and review what you hafta do in the weekend homework. (Vers2)	2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Commands - ・ Introduction of: Go! Don't go! ・ Please go! Please don't go! ・ Play Simon Says - command game (e.g. Simon says Stand up!) ・ Also hand out homework - write 10 positive and negative commands.	
	事後学修	1・ Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Write today's keywords (commands) in journal notebook (back half) 4・ Complete homework.	2
14	事前学修	1・ Review commands. 2・ Check & review 3 new oral questions for next class 3・ Read and edit own journal entries	2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Part 1 (commands review) ・ Instruction Game - Simple game where students told to do, or not do, something. ・ Part 2 (1 minute speech) ・ Introduce idea of 1 minute speech (to be carried out next lesson)	
	事後学修	1・ Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Prepare for 1 minute speech (next lesson) 4・ Read and edit journal	2
15	事前学修	1・ Check & review 3 new oral questions for next class 2・ Practice and learn oral presentation questions 3・ Read and edit own journal entries 4・ Practice and review 1 minute speech	2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Explanation of speech judging criteria (pronunciation, content, attitude, impact etc) ・ Students also evaluate each other AND must ask 1 question each to any other student. ・ Explain how notebooks to be submitted after next class (oral examination) ・ explanation of content for oral examination.	
	事後学修	1・ Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 3・ Read and edit journal for submission 4・ Practice oral examination	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■宿題／プリント：20% ■口答試験：20% ■平常点：20% ■ジャーナル：20% ■その他[参加／発言／小テスト等]：20%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。(授業中採点する時もあり) ・授業中の参加(質問や発言)の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。 ・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。 ・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。	
教科書	書名：ノート B 6mm 35行 セミB5 30枚 明るい色の表紙 **～>B5のみ, 著者名：, 出版社：PLUS等, 備考：
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	出席と参加は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	LUCKY!! ↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will teach you HOW TO COMMUNICATE. このコースは英語のコミュニケーション方法を教えます。 4 You don't need a TEXT BOOK. 教科書が要りません。 UNLUCKY!! ↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first quarter. 同じ学期の間同じ席にすわらなければいけません。 3 There will be an oral EXAM . 口答試験があります。 4 You must TALK. 喋らない学生は絶対に合格しません。 5 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現 I A [再] English Expression 1A

担当教員	SIMON THOLLAR 他(317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL109
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	冬期集中
授業概要					
再履修専用					
このコースは基本の会話を習得させるコースです。講義はオムニバス形式です。教員はチャーリー先生、ライアン先生、サイモン先生です。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われますので、文法よりも会話に重点をおいています。このコースは会話が基本ですので、学生は全員参加しなければなりません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。 ===== POLITE のリンクは下記です。 https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/course/view.php?id=814 ===== *** 教員の順番・テーマは変わることがある。					
注意事項：					
(1) 3日間集中講義ですので、1日以上サボる人は合格不可能です。 (2) 話すことは重要ですから、英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。 (3) テキストをしません。 (4) ディスカッション、グループワーク等が多いです。					
授業における学修の到達目標					
この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。 Let's speak!!					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1・ Revise greetings and self introduction 2・ Practice speaking in a big voice			2
	授業	Charlie Sensei ・ Greetings ・ Self introductions			
	事後学修	1・ Review greetings and self introduction 2・ Write lesson's points in notebook			2
2	事前学修	1・ Revise greetings and self introduction from last lesson 2・ Practice speaking in a big voice			2
	授業	Charlie Sensei ・ Word game ・ (Students learn words through fun game)			
	事後学修	1・ Review new words and expressions 2・ Write lesson's points in notebook			2
3	事前学修	1・ Revise new words and expressions from last lesson 2・ Practice speaking in a big voice			2
	授業	Charlie Sensei			

		• Fun idioms • Students learn new, fun idioms • Practice in class and complete practice sheet	
	事後学修	1 • Review new idioms and write examples 2 • Write lesson's points in notebook	2
4	事前学修	1 • Revise new idioms and expressions from last lesson 2 • Practice speaking in a big voice	2
	授業	Charlie Sensei • Conversation techniques • Basic conversation techniques (interact, be POLITE, use gesture, eye contact, show understanding) • Students practice conversation from provided material using above techniques. • Students practice conversation using above techniques by making own original conversation	
	事後学修	1 • Review new conversation techniques and write examples where appropriate 2 • Write lesson's points in notebook	2
5	事前学修	1 • Revise conversation techniques from last lesson 2 • Practice speaking in a big voice	2
	授業	Charlie Sensei • Short written test of content learned so far • Oral test to check application and understanding of content covered • Advise students of current progress and likely score	
	事後学修	1 • Review all material covered over this first day 2 • Write lesson's points in notebook 3 • Write mail to teacher listing points you learned	2
6	事前学修	1 • Revise material covered on previous day 2 • Practice speaking in a big voice	2
	授業	Rian Sensei • Lesson theme: • Is gaming good? • Discussion	
	事後学修	1 • Review for and against reasons 2 • Decide which view you like 3 • Write reasons on notebook	2
7	事前学修	1 • Review discussion from last lesson (good & bad points) 2 • Consolidate own opinion on question (Is gaming good?)	2
	授業	Rian Sensei • Lesson theme: • What do you like about school? • Discussion	
	事後学修	1 • Review for and against reasons 2 • Decide which view you like 3 • Write reasons on notebook	2
8	事前学修	1 • Review discussion from last lesson (good & bad points) 2 • Consolidate own opinion on question (What do you like about school?)	2
	授業	Rian Sensei • Lesson theme:	

		• Students should be free to choose any subject they want • Discussion	
	事後学修	1 • Review for and against reasons 2 • Decide which view you like 3 • Write reasons on notebook	2
9	事前学修	1 • Review discussion from last lesson (good & bad points) 2 • Consolidate own opinion on question (Students should be free to choose any subject they want)	2
	授業	Rian Sensei • Lesson theme: • English is useless! • Discussion	
	事後学修	1 • Review for and against reasons 2 • Decide which view you like 3 • Write reasons on notebook	2
10	事前学修	1 • Review discussion from last lesson (good & bad points) 2 • Consolidate own opinion on question (English is useless!)	2
	授業	Rian Sensei • Lesson theme: • Test: Debate topic to be chosen • Students must argue for or against a topic • Advise students of current progress and likely score	
	事後学修	1 • Review all discussion topics 2 • Write mail to teacher explaining why you should pass	2
11	事前学修	1 • Revise self introduction learned in Class 1 2 • Make 3 oral questions to be asked in class	2
	授業	Simon • Oral questions between students - each student to ask a question to any other student • Introduction exercise (how to self introduction) • Ice breaker game • Main part of lesson on why questions are important and how to construct questions	
	事後学修	1 • Review notes taken during lesson/self introduction 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
12	事前学修	1 • Review keywords (from ice-break exercise) 2 • Check & review 3 oral questions 3 • Re-read notes (re; self intro) taken in last class	2
	授業	Simon • Oral questions between students - different student each time (max 3) • Self Introductions - (free format) • Generate self intro from class members • Write on board. • Each to perform in front of class (reading OK) • Homework write and learn self intro - no reading. • ALSO - progress to introducing A to B. • Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) • Rotate groups so that always new introductions.	

	事後学修	1 • Review notes taken during lesson/self introduction 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write self-introduction keywords in journal notebook 4 • Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
13	事前学修	1 • Review free-form self introduction 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Re-read notes (re; self intro) taken in last class	2
	授業	Simon • Oral questions between students - different student each time (max 3) • Perform graded self introduction • Like/Dislike - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks • Class exercise - Find someone who... (from prepared print) • Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1 • Review notes taken during lesson/likes & dislikes 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words "like/dislike" lesson in journal notebook 4 • Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
14	事前学修	1 • Review words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Re-read and edit notes taken in class	2
	授業	Simon • Oral questions between students - different student each time (max 3) • Conversation Time - Dictation Game • Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... • Focus on talking rather than precise spelling • Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board). • Begin preparing 1 minute speech for final lesson. • Explain grading criteria.	
	事後学修	1 • Review notes taken during lesson/self introduction 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from dictation game in journal notebook 4 • Prepare for 1 minute speech (next lesson) 5 • Students must also prepare question to ask concerning each student's presentation 6 • Send mail to Simon explaining what was learned in class	2
15	事前学修	1 • Check & review 3 new oral questions for next class 2 • Practice and learn own oral presentation and question 3 • Review notes taken in class 4 • Practice and review 1 minute speech	2
	授業	Simon • Oral questions between students - different student each time (max 3) • Explanation of speech judging criteria (pronunciation, content, attitude, impact etc) • Students also evaluate each other AND must ask 1 question each to any other student. • address any questions students may have & advise of current progress score.	

	事後学修	1・Review notes taken during lesson/self introduction 2・Send mail to Simon explaining what was learned over the full three day intensive course	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 全体的な評価 = (Day1+Day2+Day3)/3 Day 1 ■試験：50% ■演習課題：30% ■小テスト：20% Day 2 ■口頭試験：20% ■演習課題：50% ■参加／プリント／小テスト：20% ■その他[発言等]：10% Day 3 ■参加／宿題／プリント：50% ■平常点：10% ■1分スピーチ：30% ■その他[発言／小テスト等]：10%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。(授業中採点する時もあり) ・授業中の参加(質問や発言)の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。 ・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。			
教科書			
参考書・Web サイト		未定	
単位修得が望ましい科目		出席と参加は大切です。下記の備考を読んで下さい。	
備考		LUCKY!! 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5 You don't need a TEXT BOOK. 教科書が要りません。 UNLUCKY!! 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate.	

	このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first day. 1 日目の間 同じ席にすわらなければ いけません。 3 You must TALK. 喋らない学生は絶対に合格しません。
担当教員の実務経験	なし

Speaking I Speaking1

担当教員	ブレンドン ミュア (非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC103
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
This course will provide students with the tools to use their existing knowledge of English and further their oral communication skills, focusing on functional language and English expressions in an international context. Students will practice speaking English in conversation and presentation formats in pairs and groups.					
授業における学修の到達目標					
This class aims to develop oral communication skills through oral activities, presentations and group projects. With a focus on foreign culture and international relations, students will discuss, compare and contrast various countries' similarities and differences. There is a theme of using English to communicate as global citizens. While exploring the focus topics, vocabulary development is integral to this course.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Create a list of vocabulary, phrases and sentence patterns for introductions.			2.0
	授業	Introductions and personal information. Introduce yourself. Understand conversations about interests and hobbies.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
2	事前学修	Choose the country you want to research.			2.0
	授業	Planning an overseas trip and brainstorming topics of interest.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
3	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 1.			2.0
	授業	Topic 1: The environment. Climate, seasons and natural features.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
4	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 2.			2.0
	授業	Topic 2: Lifestyle. What does daily life look like?			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
5	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 3.			2.0
	授業	Topic 3: Facts and figures. With a focus on using large numbers - discover the data.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
6	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 4.			2.0
	授業	Topic 4: Sports. A focus on recreation.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
7	事前学修	Mid-term assignment preparation and practice.			2.0
	授業	Mid-term assignment. Consolidation of topics 1~4.			

	事後学修	Reflect on strong and weak areas in the assignment and write a plan to approach the next assignment with improved meta-skills.	2.0
8	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 5.	2.0
	授業	Topic 5: Entertainment. Discuss how citizens enjoy themselves.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
9	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 6.	2.0
	授業	Topic 6: Traditions. What practices have continued over multiple generations.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 7.	2.0
	授業	Topic 7: Sightseeing. What attractions receive the most visitors?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Preview. Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 8.	2.0
	授業	Topic 8: Current affairs. What are the important areas of focus at the national level?	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Review lessons 1 ~ 11 and prepare to use powerpoint software.	2.0
	授業	Preparation. Create visual aids to support your country's information in topics 1~8.	
	事後学修	Complete the powerpoint file and rehearse your presentation.	2.0
13	事前学修	Memorize your script for noteless presentations.	2.0
	授業	Pair presentations. Present your country to a single partner. Discuss the content and ask for details and clarification.	
	事後学修	Review content and make improvements based on feedback received.	2.0
14	事前学修	Do mirror practice of presentation and memorize content.	2.0
	授業	Group presentations. Present your country to an audience.	
	事後学修	Review notes from presentations and prepare a report.	2.0
15	事前学修	Prepare questions and feedback.	2.0
	授業	Presentation feedback and review of course content.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas in the presentation and write a review of how your conversation meta-skills improved during the course.	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ Mid-term and final assignments : 100%.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Students will be given one on one verbal feedback on their performance in all oral communication assessments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.

教科書

参考書・Web サイト

There is no assigned textbook for this course. Materials will be provided by the teacher.

単位修得が望ましい科目

なし

備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation are this course's most important requirements. 2. Please note that ENGLISH will be spoken in class. You should be motivated to improve if you are not a confident speaker yet. 3. Students must be prepared to take notes and develop their vocabulary as a self-learning exercise. 4. Students must bring their iPads or notebook computers to class. Internet research will be used to learn about foreign countries. 5. The final assessment will include a presentation to the class in English.
担当教員の実務経験	なし

Speaking I Speaking1

担当教員	Benjamin Cheng(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC103
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
This course is designed to provide students with the tools to use their knowledge of English and further their oral communication skills, focusing on functional language and English expressions. Students will be given the chance to practice in pairs and in groups.					
授業における学修の到達目標					
The purpose of this class is to develop oral communication skills through role-play situations, oral activities and group projects. Vocabulary development is an important component of this course.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Preview the vocabulary in Unit 5.			2.0
	授業	Orientation.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
2	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.			2.0
	授業	Unit 5: Part 1. Weather. Regular and irregular plurals.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
3	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.			2.0
	授業	Unit 5: Part 2. Ask about prices. Plural nouns.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
4	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.			2.0
	授業	Unit 6: Part 1. Types of music. Interests. Simple present.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
5	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.			2.0
	授業	Unit 6: Part 2. Talk about free-time activities. Yes/no questions. Wh-questions.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
6	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.			2.0
	授業	Unit 7: Part 1. Food groups. Restaurant items. Count, non-count nouns.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0

7	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 7: Part 2. Order in a restaurant. Restaurant reviews. Some and any.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
8	事前学修	Preview the vocabulary, phrases and sentence patterns in units 5-7	2.0
	授業	Units 5-7 Review.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
9	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 8: Part 1. Places in a hotel. Places in a city. Like, want, need.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 8: Part 2. Give directions in a building. Talk about location. Prepositions.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 9: Part 1. Technology. Describing things. Possessive nouns.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Topic 9: Part 2. Daily activities. Describe things people own. Present continuous.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
13	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 10: Part 1. How was your weekend? Describing activities. Simple past.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
14	事前学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
	授業	Unit 10: Part 2. Vacation activities. Wh-questions and irregular verbs.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
15	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 8-10.	2.0
	授業	Units 8-10 Review.	
	事後学修	Reflect on strong and weak areas from the semester.	2.0
成績評価の方法およびその基準			

Classroom Activities : 30%	
Unit Reviews: 70%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
Students will be given one on one verbal feedback of their performance in all oral communication assessments. Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.	
教科書	書名 : StartUp 1. - Student Book., 著者名 : Jenni Currie Santamaria, Kathleen Thompson, 出版社 : Pearson Education, 備考 :
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation in class is the most important requirement of this course. 2. Please note, ENGLISH will be spoken in class. Dictionaries, electronic or traditional, are required in class. Students must be prepared to take notes and develop their personal vocabulary as a self-learning exercise.
担当教員の実務経験	なし

Speaking I (国際情報プログラム) Speaking1

担当教員	JOEL RIAN (308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC103
開 講 学 科		種 別	配 当 年 次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	後期	
授業概要					
Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.					
Unlike standard "communication" courses, this special class will be conducted in mostly English.					
NOTE: Because this is a new course, the syllabus below may change according to students' needs and interests. All changes will be announced in advance.					
授業における学修の到達目標					
This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Read syllabus. PAY CLOSE ATTENTION TO 備考欄: "出席"			2
	授業	Introduction to communication-strategy-focused, group-discussion based communicative English class. Survey: How was your JHS/HS experience? In-class free speaking activity x2.			
	事後学修	Review syllabus handout. CONFIRM MIDTERM & FINAL TEST DAYS. Write on calendar, do not forget.			2
2	事前学修	Optional: What are three rules for real-life English conversation? Write on paper & bring to next class.			2
	授業	Introduction to communication strategies. Intro Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Three rules for real-life English conversation.			
	事後学修	Review three rules of real-life conversation. Also review "Ask for Help" phrases (on back of stop-sign).			2
3	事前学修	Review "Ask for Help" strategy phrases (stop sign). Think of and write down 10 questions to ask classmates in next class (use best English).			2
	授業	Continue Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Pairwork: Q & A. Intro phrases "Me too, me neither, oh really?"			
	事後学修	Re-write questions (Jns-->Eng) from handout.			2
4	事前学修	Review romaji rules (へボン式 vs 訓令式). Guess difference, write on paper & bring to class. Try writing name in 筆記体 (cursive).			2
	授業	Intro Strategy #2: "Make Sure". Practice activity (pairwork).			

		Romaji: 訓令式 vs ヘボン式. "How to cursive" (signature practice)	
	事後学修	Practice writing signature in cursive (follow handout).	2
5	事前学修	Theme: "fast food". Think of 5 good things and 5 bad things. Write on paper. Bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #3: "Non-Verbal". Practice activity (pairwork). Intro topic: "fast food". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic). PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	2
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #4: "Approximate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん).	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout). Optional: write practice test; ask Rian before next class if any questions.	2
7	事前学修	Review notes for topic ("fast food").	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "part-time job". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2
8	事前学修	Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Return PERFORMANCE #1 tests (marked). Feedback. Intro Strategy #5: "Invent". Practice activity (pairwork). Intro topic: "part-time job". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #6: "Restate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #7: "Elicit". Practice activity (pairwork). Intro topic: "video games". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2.	

		End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
11	授業	Intro Strategy #8: "Catch Copy". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
12	授業	Intro topic: "mandatory English classes". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
13	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん) . PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2
	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (part-time job, video games, mandatory English)	2
14	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
	事前学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
15	授業	mini-interview : return tests, discuss participation (attendance) issues if any.	
	事後学修	Complete semester-end surveys. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2

成績評価の方法およびその基準

written test + group conversation performance] x 2 (week 7, week 14)
(50% x 2 = 100%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

In-class writing will be passed back every week. Grades will be finalized in week 15.

教科書

参考書・Web サイト

<https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/>

単位修得が望ましい科目

None. Bring an open mind, and maybe a pen.

備考

メール : rianjp48@do-johodai.ac.jp

担当教員の実務経験

I was a proofreader (校正) before I came to Japan. ;-)

ビギナーズセミナーⅠ（情報メディア学科） Beginners' Seminar 1

担当教員	情報メディア学科教員 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IBC108
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
ビギナーズセミナーⅠ・Ⅱでは、新入学生が大学での生活や学習にスムーズに移行できるように「大学生としての学びの技法」を習得します。					
特に、ビギナーズセミナーⅠでは、情報大学の施設の利用方法や大学生活の習慣やルールについての理解を深めるとともに、コミュニケーションスキルをはじめとする学びの技法を実践的な演習を通して学びます。					
なお、授業計画の実施回はクラスの状況によって変更になる場合があります。					
授業における学修の到達目標					
・大学生活のルールを理解する ・コミュニケーション能力を高める					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	なし			0.0
	授業	ガイダンス、履修指導、時間割確認			
	事後学修	授業内容を復習			4
2	事前学修	自己紹介準備			4
	授業	自己紹介			
	事後学修	友人とのコミュニケーション			6
3	事前学修	POLITE の使い方を確認			2
	授業	POLITE の使い方			
	事後学修	POLITE の使い方を復習			2
4	事前学修	メールの書き方を確認			2
	授業	メールの書き方（Gmail）			
	事後学修	メールの書き方を復習			2
5	事前学修	なし			0.0
	授業	ディスカッション 1（社会）・個人面談			
	事後学修	議論した内容をインターネット等で確認・検討する			4
6	事前学修	なし			0.0
	授業	ディスカッション 2（科学）・個人面談			
	事後学修	議論した内容をインターネット等で確認・検討する			4
7	事前学修	なし			0.0
	授業	ディスカッション 3（情報メディア）・個人面談			
	事後学修	議論した内容をインターネット等で確認・検討する			4
8	事前学修	なし			0.0
	授業	プロジェクトトライアルⅡ発表会見学			
	事後学修	見学した内容をまとめる			4
9	事前学修	なし			0.0

	授業	タイピング練習	
	事後学修	タイピングの練習をする	6
10	事前学修	資格取得ガイドブックを確認する	2
	授業	資格取得ガイドブック、コミュニケーション（観察・発信のトレーニング）	
	事後学修	興味のある資格についてまとめる	2
11	事前学修	なし	0.0
	授業	クラスの自由課題1（調査）	
	事後学修	取り組んだ内容についてまとめる	2
12	事前学修	なし	0.0
	授業	クラスの自由課題2（実施）	
	事後学修	取り組んだ内容についてまとめる	2
13	事前学修	なし	0.0
	授業	クラスの自由課題3（振り返り）	
	事後学修	取り組んだ内容についてまとめる	2
14	事前学修	自己カリキュラム計画について確認する	2
	授業	自己カリキュラム計画（作成）	
	事後学修	自己カリキュラム計画を提出する	2
15	事前学修	なし	0.0
	授業	図書館ガイダンス	
	事後学修	図書館の利用について考える	2（

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30 % ■その他[総合的判断 70%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

ビギナーズセミナーⅡ（情報メディア学科） Beginners' Seminar 2

担当教員	情報メディア学科教員 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IBC109	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	後期	
授業概要						
テーマ： 大学生としての「学びの技法」の習得（応用編）						
ビギナーズセミナーⅡでは、ビギナーズセミナーⅠで習得した基本的な技能を踏まえ、それらを発展させていくことによって大学生としての学びの技法と習慣を身につけます。						
授業における学修の到達目標						
・ 大学生活での目標を設定する ・ コミュニケーション能力を高める						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	なし				
	授業	ガイダンス				
	事後学修	後期に向けた確認をする				6
2	事前学修	なし				
	授業	クラス応用課題・個人面談				
	事後学修	応用課題のレポート作成				4
3	事前学修	なし				
	授業	図書館ガイダンス（文献検索講習）				
	事後学修	図書館システムを用いて文献検索をおこなう				2
4	事前学修	取り組むテーマについて考える				2
	授業	個人テーマ選定・個人面談				
	事後学修	選定したテーマについて調べる				2
5	事前学修	テーマについて必要な文献を検討する				2
	授業	文献収集・個人面談				
	事後学修	収集した文献を確認する				2
6	事前学修	なし				
	授業	キャリアガイダンス講座				
	事後学修	講演内容のレポートを作成する				2
7	事前学修	通読する文献を確認する				2
	授業	文献通読				
	事後学修	文献の内容を整理する				2
8	事前学修	文献の内容を確認する				2
	授業	調査課題資料作成 1				
	事後学修	作成した資料を整理する				2
9	事前学修	作成した資料を確認する				2
	授業	調査課題資料作成 2				

	事後学修	作成した資料を整理する	2
10	事前学修	作成した資料を確認する	2
	授業	調査課題のグループ発表	
	事後学修	発表内容を整理する	2
11	事前学修	なし	
	授業	マインドマップ	
	事後学修	マインドマップについて復習する	2
12	事前学修	ポートフォリオについて調べる	2
	授業	ポートフォリオ制作（解説・成果物確認）	
	事後学修	これまでの学修の成果物をまとめる	2
13	事前学修	ポートフォリオ制作について確認する	2
	授業	ポートフォリオ制作（作成）	
	事後学修	ポートフォリオを完成する	4
14	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	ポートフォリオ制作（発表）	
	事後学修	発表内容についてレポートを作成する	2
15	事前学修	自己カリキュラム計画を確認する	2
	授業	自己カリキュラム制作（更新）	
	事後学修	自己カリキュラム計画を提出する	4

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[総合的判断 70%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	担当教員の研究，実務経験を活かした指導を行う。

実用英語 A 2024 年度入学生は、「Reading II」になります。

Practical English A

担当教員	竹内 典彦 (309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL211
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
テーマ「英語の基礎力をさらに高め、実践的な英語力を養う」 多様な英語習熟度を持つ学生に対応した、自律的学習を中心とした講義である。PC を使って News in Levels のニュース記事や CNN 10 のニュース教材、VoiceTube 等の動画を利用して、1 年次に獲得した英語力にさらに上積みすることをねらいとする。半期を通じて、どこまで英語力が伸長するかを追求する。具体的には、上位者は英検 2 級相当以上、中位者は準 2 級相当以上、下位者は 3 級相当以上を目指す。 News in Levels の英文ニュース記事では、読解力や単熟語力を身につける。リスニング力向上も目指す。予習して授業に臨むことで、より確実な英語力が身につく。積極的に自学自習を行い、授業においても積極的に関わることを望む。また英語の読み物教材も使用する。 授業の指針を下に示す。 1 1 回目の授業にて重要な授業の方針を伝えるので必ず出席すること 2 未知の単語をその場で引く。予習・復習を怠らないこと 3 ポライトで、その日の課題を示す。講義に出席して課題を提出することが重要					
授業における学修の到達目標					
1. 平易な英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる 2. 平易な英文を読んで内容を理解することができる 3. 自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。			2.0
	授業	ガイダンス。上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。			
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。			2.0
2	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。			
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。			2.0
3	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。			
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。			2.0
4	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。			2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。			

		習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
5	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
6	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
7	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
8	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
9	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
10	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
11	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
12	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しない。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしない。他に、CNN10等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0

13	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
14	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0
15	事前学修	News in Levels の英語のニュース記事を読み、本文の大意を把握する。	2.0
	授業	上の英文記事の単語、熟語、文法を学習しなさい。さらに、その要点と感想を英語で書き、音読練習をしなさい。他に、CNN10 等の動画視聴。	
	事後学修	1. 上で作成した英文を暗記して、次の時間に発表する。 2. VoiceTube または CNN 10 の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト： 50% ■演習課題： 50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	News in Levels のサイト、CNN 10、VoiceTube 他
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

実用英語 A 2024 年度入学生は、「Reading II」になります。

Practical English A

担当教員	加澤 雅裕(302 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL211
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
テーマ：「英語の基礎力をさらに高め、実践的な英語力を養う」					
英語に関してこれまで学んできたことがらを再確認しながら、大学生としての英語力の基礎をしっかりと固めることを目標とします。					
リスニングとリーディングの技能を高めることに主眼を置きますが、授業はライティングやスピーキングの活動も取り入れた 4 技能統合型の授業を行います。					
授業における学修の到達目標					
・ 英語母語話者の発話を聞いて、現実の音声に慣れ親しむ。					
・ 語彙力を増やすとともに、文構造などを理解して、基礎的な英文読解力を磨く。					
・ 学習をとおして理解した内容をもとに、自分の意見を言ったり、書いたりして伝える力を磨く。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Unit 1 "7-ELEVEN"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 1 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
2	事前学修	Unit 2 "LINE"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 2 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
3	事前学修	Unit 3 "NISSIN FOODS"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 3 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
4	事前学修	Unit 4 "McDonald's"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 4 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
5	事前学修	Unit 5 "TOYOTA"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 5 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
6	事前学修	Unit 6 "STARBUCKS"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 6 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
7	事前学修	Unit 7 "AEON"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 7 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
8	事前学修	Unit 8 "NIKE"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 8 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0

9	事前学修	Unit 9 "MUJI"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 9 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
10	事前学修	Unit 10 "Apple"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 10 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
11	事前学修	Unit 11 "Rakuten Group"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 11 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
12	事前学修	Unit 12 "Amazon"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 12 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
13	事前学修	Unit 13 "IKEA"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 13 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
14	事前学修	Unit 14 "Dyson"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 14 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
15	事前学修	補助教材に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	教材の内容に関するディスカッション等の演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：50 % ■小テスト：20 % □レポート：0 % ■演習課題：30% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出物や課題にはコメント等を記載して返却する。

教科書	書名：Purpose Companies for Social Good, 著者名：原田寛子、土屋麻衣子, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	音声ファイル： https://www.kinseid-do.co.jp/download/4199
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	高校の英語科教諭として 2016 年まで 17 年間英語教育にあたった。その後、北海道教育委員会で外国語担当指導主事として 8 年間、また、管理職として 11 年間英語教育に携わっている。1997 年～2000 年実用英語技能検定面接員、2001 年～2003 年、2020 年～2021 年実用英語技能検定実施委員。

実用英語 A 2024 年度入学生は、「Reading II」になります。

Practical English A

担当教員	Benjamin Cheng(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL211
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
This course aims to improve English speaking confidence, ability, and fluency. Students will further develop conversation and discussion skills using exciting and timely topics and activities to help express their opinions and make short presentations. Exercises in language comprehension, critical thinking, and self-expression are key components of this course. Students will be given the chance to read and listen to varying ideas and topics, have a discussion, and make presentations in groups and individually.					
授業における学修の到達目標					
The purpose of this class is to develop English ability beyond functional communication. In particular, using both listening and speaking to create a connection with others, discussing personal opinions or experiences, explaining personal ideas and responding to the ideas of others in appropriate ways. Vocabulary development is an important component of this course.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Preview the units in the textbook and look up new vocabulary and phrases.			2.0
	授業	Orientation.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
2	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 1A.			2.0
	授業	Unit 1A: People I know. The simple present vs the present continuous.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
3	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 1B.			2.0
	授業	Unit 1B: Classes and lessons. Review of the simple past.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
4	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 2A.			2.0
	授業	Unit 2A: Describing food. The comparative form of adjectives.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
5	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 2B.			2.0
	授業	Unit 2B: Healthy habits. The superlative form of adjectives.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
6	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 3A.			2.0
	授業	Unit 3A: Lucky or unlucky? Stative verbs.			

	事後学修	Consolidate understanding of feedback received during practice and do final preparation.	2.0
7	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 3B.	2.0
	授業	Unit 3B: Solving mysteries. Modals of present possibility.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
8	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 1-3	2.0
	授業	Units 1-3 Review	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
9	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 4A	2.0
	授業	Unit 4A: Describing trends. Quantity expressions.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 4B.	2.0
	授業	Unit 4B: Fashion. Giving advice.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 5A.	2.0
	授業	Unit 5A: Chores and errands. Requests with modal verbs.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 5B.	2.0
	授業	Unit 5B: Getting around. Relative clauses.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
13	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 6A.	2.0
	授業	Unit 6A: Applying to college. Plans and decisions.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
14	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 6B.	2.0
	授業	Unit 6B: After Graduation. Predictions.	
	事後学修	Review vocabulary and expressions from units 4-6.	2.0
15	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 4-6.	2.0
	授業	Units 4-6 review.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0

成績評価の方法およびその基準

Homework: 30%.

Review Tests: 70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Students will be given one on one verbal feedback of their performance in all oral communication assessments.

Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong

independent learners of language.	
教科書	書名：World Link 2. Fourth Edition. Combo Split A, 著者名：Authors: John Hughes, Nancy Douglas, James R. Morgan, 出版社：National Geographic Learning., 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation in class is the most important requirement of this course. 2. Please note, ENGLISH will be spoken in class. Dictionaries, electronic or traditional, are required in class. Students must be prepared to take notes and develop their personal vocabulary as a self-learning exercise.
担当教員の実務経験	なし

実用英語B 2024 年度入学生は、「Writing II」になります。

Practical English B

担当教員	Benjamin Cheng(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL212
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
This course aims to improve English speaking confidence, ability, and fluency. Students will further develop conversation and discussion skills using exciting and timely topics and activities to help express their opinions and make short presentations. Exercises in language comprehension, critical thinking, and self-expression are key components of this course. Students will be given the chance to read and listen to varying ideas and topics, have a discussion, and make presentations in groups and individually.					
授業における学修の到達目標					
The purpose of this class is to develop English ability beyond functional communication. In particular, using both listening and speaking to create a connection with others, discussing personal opinions or experiences, explaining personal ideas and responding to the ideas of others in appropriate ways. Vocabulary development is an important component of this course.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Preview the units in the textbook and look up new vocabulary and phrases.			2.0
	授業	Orientation.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
2	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 7A.			2.0
	授業	Unit 7A: Hosting a party. Agreeing with other people.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
3	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 7B.			2.0
	授業	Unit 7B: Festivals and events. Time clauses.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
4	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 8A.			2.0
	授業	Unit 8A: Discussing stories. The past continuous.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
5	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 8B.			2.0
	授業	Unit 8B: Modern fairy tales. Adverbs of manner.			
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.			2.0
6	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 9A.			2.0
	授業	Unit 9A: Talk about different jobs. The present perfect.			

	事後学修	Consolidate understanding of feedback received during practice and do final preparation.	2.0
7	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in topic 9B.	2.0
	授業	Unit 9B: Dream jobs. The simple past and the present perfect.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0
8	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 7-9	2.0
	授業	Units 7-9 Review	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
9	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 10A.	2.0
	授業	Unit 10A: Phone call conversations. Asking for permission.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
10	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 10B.	2.0
	授業	Unit 10B: Phone etiquette. Infinitives and gerunds.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
11	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 11A.	2.0
	授業	Unit 11A: Technology and devices. Used to.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
12	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 11B.	2.0
	授業	Unit 11B: Using appliances and devices. Comparisons.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
13	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in unit 12A.	2.0
	授業	Unit 12A: Preparing for travel. Modal verbs of necessity.	
	事後学修	Consolidate understanding of new vocabulary, phrases, and sentence patterns by creating original example sentences.	2.0
14	事前学修	Create a list of personally new vocabulary, phrases and sentence patterns in Unit 12B.	2.0
	授業	Unit 12B: Travel plans. Question form review.	
	事後学修	Consolidate understanding of feedback received during practice and do final preparation. Review vocabulary and expressions from units 16-20.	2.0
15	事前学修	Review vocabulary and expressions from units 10-12.	2.0
	授業	Units 10-12 review.	
	事後学修	Review new vocabulary, phrases and sentence patterns collected to date and shortlist the most useful English for further practice.	2.0

成績評価の方法およびその基準

Homework: 30%.

Review Tests: 70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Students will be given one on one verbal feedback of their performance in all oral communication assessments.

Through positive reflection on personal strengths and weaknesses, it is expected that students will become lifelong independent learners of language.	
教科書	書名：World Link 2. Fourth Edition. Combo Split B, 著者名：John Hughes, Nancy Douglas, James R. Morgan, 出版社：National Geographic Learning., 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Course requirements: 1. Attendance and active participation in class is the most important requirement of this course. 2. Please note, ENGLISH will be spoken in class. Dictionaries, electronic or traditional, are required in class. Students must be prepared to take notes and develop their personal vocabulary as a self-learning exercise.
担当教員の実務経験	なし

実用英語B 2024 年度入学生は、「Writing II」になります。

Practical English B

担当教員	竹内 典彦 (309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL212
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ「実用英語 A で身につけた英語力をさらに高める」 このコースでは英語プレゼンテーション制作の演習を行う。最終的には、学内英語プレゼンテーションコンテストに出品することが課題となる。グループに分かれて、自律的に作品を制作していく。特定の個人に作業が集中しないように、それぞれの個性を生かして、分担作業を行う。 すぐにグループ分けは行わない。最初に前年度の入賞作品を鑑賞して、質の高い作品とはどういうものかを考察し、理解を深める。さらにどのように制作すれば、質の高い作品を制作できるかを考える。グループによる話し合いも行う。効果的スライドやコンテンツ作成のためのスキルや、英語による表現力や発音のスキルを養成する。					
授業における学修の到達目標					
1. 平易な英語を聞き取って自分の考えを伝えることができる 2. 平易な英文を読んで内容を理解することができる 3. 自分の考えを伝えるのに必要な語彙を獲得し、使うことができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	個人作品の構想を練る			2.0
	授業	ガイダンス、入賞作品鑑賞、レポート、英文音読練習			
	事後学修	過去の作品についてフィードバックをする			2.0
2	事前学修	個人作品の構想を練る			2.0
	授業	前年度入賞作品鑑賞、レポート、英文音読練習			
	事後学修	過去の作品についてフィードバックをする			2.0
3	事前学修	個人作品制作のための準備			2.0
	授業	TED トーク鑑賞、個人作品制作、翻訳サイトの利用について、英文音読練習			
	事後学修	個人作品制作の進捗状況についてレポートをする。翻訳サイトについてフィードバックする			2.0
4	事前学修	個人作品制作のための準備			2.0
	授業	個人作品制作、レポート、英文音読練習			
	事後学修	個人作品制作の進捗状況についてレポートをする。			2.0
5	事前学修	個人作品制作のための準備			2.0
	授業	個人作品制作、レポート、英文音読練習			
	事後学修	個人作品制作の進捗状況についてレポートをする。			2.0
6	事前学修	個人作品制作のための準備			2.0
	授業	個人作品鑑賞、ディスカッション、英文音読練習			
	事後学修	個人作品を鑑賞してレポートをする。			2.0
7	事前学修	チーム作品のための構想を練る			2.0
	授業	チーム分け、チーム作品のためのプレスト、英文音読練習			
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。			2.0
8	事前学修	チーム作品のための構想を練る			2.0

	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
9	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
10	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
11	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
12	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
13	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品制作、英文音読練習	
	事後学修	チーム作品制作の進捗状況についてレポートをする。	2.0
14	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品鑑賞、ディスカッション、英文音読練習	
	事後学修	ディスカッションのまとめ、コンテスト出品作業	2.0
15	事前学修	チーム作品制作準備	2.0
	授業	チーム作品鑑賞、ディスカッション、英文音読練習	
	事後学修	ディスカッションのまとめ、コンテスト出品作業	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■演習課題（作品制作）： 60% ■レポート： 20%

■その他[プレゼンテーション] 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE の課題については POLITE 上でフィードバックする。プレゼンテーション作品の講評をする。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE、TED トーク、ウェブ全般
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

実用英語B 2024 年度入学生は、「Writing II」になります。

Practical English B

担当教員	加澤 雅裕(302 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL212
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ：「実用英語 A で身に付けた英語力をさらに高める」					
英語に関してこれまで学んできたことがらを再確認しながら、大学生としての英語力の基礎をしっかりと固めることを目標とします。					
リーディングとライティングの技能を高めることに主眼を置きますが、授業はリスニングやスピーキングの活動も取り入れた 4 技能統合型の授業を行います。					
授業における学修の到達目標					
・ 英語母語話者の発話を聞いて、現実の音声に慣れ親しむ。					
・ 語彙力を増やすとともに、文構造などを理解して、基礎的な英語のライティング能力を磨く。					
・ 学習をとおして理解した内容をもとに、自分の意見を書いたり、話したりして伝える力を磨く。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Unit 1 "Uniquely Japanese Hospitality"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 1 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
2	事前学修	Unit 2 "Time Machine With a Flag on Top"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 2 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
3	事前学修	Unit 3 "Start and Finish Work Earlier"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 3 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
4	事前学修	Unit 4 "Humanoids in the Aging Society"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 4 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
5	事前学修	Unit 5 "No longer a Man's World"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 5 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
6	事前学修	Unit 6 "What Will the 2020 Games Give Us?"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 6 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
7	事前学修	Unit 7 "Your Name Is Not in the List"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 7 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
8	事前学修	Unit 8 "When Quakes Hit, Eruptions May Follow"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 8 の内容理解及び演習			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0

9	事前学修	Unit 9 "As Young as 70 Years Old"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 9 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
10	事前学修	Unit 10 "The Music Industry Needs to Change"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 10 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
11	事前学修	Unit 11 "Don't Kill Lions to Prove Manhood"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 11 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
12	事前学修	Unit 12 "How About a Nose Job in Malaysia?"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 12 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
13	事前学修	Unit 13 "Bats Carry Ebola but Don't Get It"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 13 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
14	事前学修	Unit 14 "Animals Human Rights!?"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 14 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
15	事前学修	Unit 15 "Dilemma of Hippocratic Oath"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 15 の内容理解及び演習	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：50 % ■小テスト：20 % □レポート：0 % ■演習課題：30% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出物や課題にはコメント等を記載して返却する。

教科書	書名：Reading in Action, 著者名：静 哲人, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	音声ファイル： http://www.kinsei-do.co.jp/download/4023
単位修得が望ましい科目	実用英語 A
備考	なし
担当教員の実務経験	高校の英語科教諭として 2016 年まで 17 年間英語教育にあたった。その後、北海道教育委員会で外国語担当指導主事として 8 年間、また、管理職として 11 年間英語教育に携わっている。1997 年～2000 年実用英語技能検定面接員、2001 年～2003 年、2020 年～2021 年実用英語技能検定実施委員。

英語表現Ⅱ A 2024 年度入学生は、「CommunicationⅡ」になります。

English Expression 2 A

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL213
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
このコースは会話力をさらに向上させるコースです。すでに習得している会話力や聞き取りなどをもっと開発することを重点としています。テキストの他にビデオや歌などのメディアを使います。このコースは会話を基本としていますので学生は全員参加しなければいけません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。受講する学生は必ず最初の講義を受けなければなりません。最初の講義を受けなければ、そのあとの講義は受けられません。**(2024 年度入学生は、「Communication II」になります。)					
→→→詳しくは、POLITE サイトをご覧ください。 https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/course/view.php?id=550					
注意事項：					
(1) 最初の講義を受けなければ、そのあとの講義は受けられません。 (2) 話すことが重要ですから、英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。 (3) 3 日を超える無断欠席はできません。 (4) 2 回の遅刻はイコール 1 回の欠席です。Be careful! (5) 英語での口頭試験（面接）と口頭発表があります。 (6) ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションが多いです。 (7) 毎週、日記（ノート）に英語で週のメインイベントを書かなければなりません。					
授業における学修の到達目標					
この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak English!! OK!?					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1・ Read Syllabus 2・ Investigate learning outcomes 3・ Understand purpose of course 4・ Write name in textbook and notebook			2
	授業	・ Student profile ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・ How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes)			
	事後学修	1・ Write self introduction 2・ Read Ch1 of text 3・ Make 3 questions for start of next class 4・ Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)			2
2	事前学修	1・ Revise self introduction 2・ Review Chapter 1 key sentences 3・ Revise 3 oral questions			2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Introduction exercise (how to self introduction) ・ Ice breaker name ・ Ask prepared oral questions			

	事後学修	1・Write 2nd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half)	2
3	事前学修	1・Review Chapter 1 key sentences 2・Check & review 3 oral questions 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 1 - Greetings (H/W p. 6) ・Group work to practice introductions/names/hometown etc ・Class exercise - Find someone who... (from prepared print)	
	事後学修	1・Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 6)	2
4	事前学修	1・Review Chapter 1 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Group work to compare who drew correctly, and why. ・If time, complete twice - compare first and second	
	事後学修	1・Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write new "Draw what I say" words in journal notebook (back half) (e.g. diagonal etc) 4・Read and edit journal.	2
5	事前学修	1・Review Chapter 1 key sentences & new "Draw what I say" words from previous lesson. 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries 4・Read & learn Chapter 2 key sentences	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Chapter 2 - Meeting people (H/W p.15) ・Group work to practice introducing two people (e.g. Tom this is Taro, Taro this is Tom) ・Rotate groups so that always new introductions	
	事後学修	1・Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・Write keywords in journal notebook (back half) 4・Complete homework set from textbook (page 16)	2
6	事前学修	1・Review Chapter 2 key sentences 2・Check & review 3 new oral questions for next class 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・Dictation Game - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My family, School. Music, My hobby etc... ・Focus on talking rather than precise spelling	
	事後学修	1・Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Prepare 3 questions for oral time (start of class)	2

		3 • Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	
7	事前学修	1 • Review Chapter 2 key sentences & new "Dictation Game" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 3 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 3 - Talking about your plans (H/W p 22) • Show 3 basic future tense styles + slang forms • Group work to practice "What are you doing tonight?" • Class exercise - Find someone who is watching TV etc... (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 22)	2
8	事前学修	1 • Review Chapter 3 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Listening Practice - Students listen to a popular song or short movie. Lyrics are provide in some places. Blanks are completed by students e.g. • Focus on listening skill rather than precise spelling • Also show students how rhyme patterns are beneficial, e.g. Yesterday, All my trouble seemed so far away, ...to stay...	
	事後学修	1 • Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from listening practice in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
9	事前学修	1 • Review Chapter 3 key sentences & new "Listening Practice" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 4 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 4 - Invitations (H/W page 31-32) • Group work to practice how to invite people • Rotate groups so that always inviting new partner. • Focus on 3 • 3 • 3 (3 invitation, 3 acceptance, 3 declination patterns)	
	事後学修	1 • Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 31-2)	2
10	事前学修	1 • Review Chapter 4 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3)	

		• Making questions - Students focus on how to make questions. • No question, no communication e.g. • W/H questions plus correct word order (W/H + aux + sub + verb + obj) • Also show students how to follow pattern • Students to pick random partner, ask question, & answer return question	
	事後学修	1 • Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "making questions" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
11	事前学修	1 • Review Chapter 4 key sentences & new "Making questions" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 5 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 5 - Ordering a meal (H/W page 41) • Group work to practice how to order food in a restaurant • Form teams of 3 or 4. Do a simulation	
	事後学修	1 • Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords (ordering a meal) in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 41)	2
12	事前学修	1 • Review Chapter 5 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Mini debate - Students practice agreeing and disagreeing. e.g. • Teams of three • Rotate after 3 or minutes • Students continually switch from affirmative to negative. • Topics from students if possible	
	事後学修	1 • Write 12th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "mini debate" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
13	事前学修	1 • Review Chapter 5 key sentences & new "Mini debate" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 6 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 6 - I've got some free tickets (H/W p.47) • Compare have/ have got. • Focus on colloquial formats - pair work e.g. You got a pen? How 'bout you? etc • Group work to practice "How many members cards have you got?" etc • Class exercise - Find someone who has got.. (from prepared print) • Brief demonstration of questions and format of oral examinations	

		・ Also hand out practice sheet for homework in addition to text homework	
	事後学修	1・ Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Write today's keywords (Ch6 - I've got ...) in journal notebook (back half) 4・ Complete homework set from textbook (page 47) 5・ Answer questions in oral presentation practice sheet	2
14	事前学修	1・ Review Chapter 6 key sentences 2・ Check & review 3 new oral questions for next class 3・ Read and edit own journal entries 4・ Read and practice oral presentation material	2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Oral Presentation Practice - Students practice by interviewing each other with questions from the oral practice sheet (distributed previous lesson as homework). ・ Practice in pairs and rotate to new partner after 5 minutes ・ Students take turns in asking and answering questions. ・ Topics from students if possible	
	事後学修	1・ Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3・ Write new words from "oral presentation practice" lesson in journal notebook (back half) 4・ Read and edit journal	2
15	事前学修	1・ Check & review 3 new oral questions for next class 2・ Practice and learn oral presentation questions 3・ Read and edit own journal entries	2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Oral presentation skills check ・ All students to complete basic conversation skills check (questions on sheet handed out previously)	
	事後学修	1・ Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・ Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 4・ Read and edit journal for submission	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■宿題／プリント：20%

■平常点：20%

■ジャーナル：20%

■発表（プレゼンテーション・スピーチ・口答試験）：20%

■その他[参加／発言／小テスト等]：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。（授業中採点する時もあり）
- ・授業中の参加（質問や発言）の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。
- ・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。
- ・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。

教科書

書名：Simon Says - Basic English conversation for young adults, 著者名：Simon Thollar, 出版社：丸善プラネット, 備考：英語表現2Bは同じテキストです

書名：ノート B 6mm 35行 セミB5 30枚 明るい色の表紙 **～>B5の

	み, 著者名:, 出版社: P L U S, 備考:
参考書・Web サイト	大学内の POLITE
単位修得が望ましい科目	参加の為、出席は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	GOOD NEWS!! ↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5 There are few reports and NO FINAL EXAMINATION. レポートはあまりありません。筆記試験（定期試験）がありません。 6 Still don't understand? Come and see me in 317. まだわからないことがあれば 3 1 7 号室の私に会いに来て下さい。 BAD NEWS!! ↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 Only 2 ABSENCES are allowed in each quarter. 前期後期前半後半ともに各 2 日間を超える無断欠席はできません。（quarter ごと 2 回） 3 2 LATE ARRIVALS (more than 15 minutes) equals 1 absence. 2 回の遅刻はイコール 1 回 の欠席です。 4 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first semester. 同じ学期の間 同じ席にすわ らなければ いけません。 5 There will be an oral presentation. 口答プレゼンテーション・試験があります 6 You need a TEXT book & you must TALK. 教科書は必要で喋らない学生は絶対に合格しません。 7 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現Ⅱ A 2024 年度入学生は、「CommunicationⅡ」になります。

English Expression 2 A

担当教員	CHARLES McLARTY(312 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL213
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
The focus of the class will be oral communication, especially using English idioms (英語の熟語)					
Students will develop confidence in their English by participating in a variety of class activities using idioms. Activities will include listening exercises, word/language games, vocabulary quizzes and pair or small group practices.					
授業における学修の到達目標					
The first purpose of this class is to help students learn to use the English words they already know for communication. The second purpose is to help students communicate with more natural-sounding English by using common idioms in American English.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Text-Introduction and Chapter 1			2
	授業	Orientation and Idioms Guessing Game			
	事後学修	Text and Printed hand-outs			2
2	事前学修	Text and Printed hand-outs			2
	授業	Miyu's Story and Textbook Characters			
	事後学修	Text and Printed hand-outs			2
3	事前学修	Text Exercises			2
	授業	Listening and Pair practice			
	事後学修	Text and Printed hand-outs			2
4	事前学修	Text			2
	授業	Dinner with Miyu's Host Family new American Idioms			
	事後学修	Text and Printed hand-outs			2
5	事前学修	Text Exercises			2
	授業	Listening Practice Vocabulary Drills			
	事後学修	Text, Printed hand-outs			2
6	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Idioms for Daily Schedule Use			
	事後学修	Text, Printed hand-outs			2
7	事前学修	printed hand-outs			2
	授業	Pair Practice Vocabulary Drills			
	事後学修	Text, Printed hand-outs			2
8	事前学修	Text Exercises			2

	授業	The Supermarket Idioms for Shopping	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
9	事前学修	Text	2
	授業	Listening Comprehension Pair practice	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
10	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Idioms for Drinking, Dining Purposes	
	事後学修	Text and Printed hand-outs	2
11	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Grammar Drills Vocabulary Check	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
12	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Miyu's Part-time Job Idioms for Working/Jobs	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
13	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Listening Practice Pair/Group Practice	
	事後学修	Text	2
14	事前学修	printed hand-outs	2
	授業	At The Blazer Game Idioms for Sports/Games	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2
15	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Idioms Review and Listening practice	
	事後学修	Text, Printed hand-outs	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 33% ■レポート： 33%

■その他、授業の参加 34%とする

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

宿題に comment を書いて返却する。

教科書	書名：Hang In There! Elementary Conversation in English, 著者名：Charles McLarty, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	日常会話なのに辞書にのっていない英語の本 J. ユンカーマン、松本薫
単位修得が望ましい科目	英語表現 1A, 1B
備考	Good luck with English

担当教員の実務経験

The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S. and Japan, will provide students with sufficient opportunities to improve their listening, speaking, reading and writing capabilities.

英語表現Ⅱ A 2024 年度入学生は、「CommunicationⅡ」になります。

English Expression 2 A

担当教員	JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CBL213	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.						
この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。						
授業における学修の到達目標						
This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.						
この講座は、コミュニケーション・ストラテジー（伝達方略）を通じて英語でコミュニケーション力が上達することを目指します。日常英会話に使える語句や表現を学びながら、自分なりの英語を実践的な会話に使うことを目標とします。講座の最終目標：英語のみで、１０分以上会話を続けること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	Read syllabus. PAY CLOSE ATTENTION TO 備考欄："出席"				2.0
	授業	Introduction to communication-strategy-focused, group-discussion based communicative English class. Survey: How was your JHS/HS experience? In-class free speaking activity x 2.				
	事後学修	Review syllabus handout. CONFIRM MIDTERM & FINAL TEST DAYS. Write on calendar, do not forget.				2.0
2	事前学修	Optional: What are three rules for real-life English conversation? Write on paper & bring to next class.				2.0
	授業	Introduction to communication strategies. Intro Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Three rules for real-life English conversation.				
	事後学修	Review three rules of real-life conversation. Also review "Ask for Help" phrases (on back of stop-sign).				2
3	事前学修	Review "Ask for Help" strategy phrases (stop sign). Think of and write down 10 questions to ask classmates in next class (use best English).				2
	授業	Continue Strategy #1: "Ask for Help". Practice activity (teacher-student). Pairwork: Q & A. Intro phrases "Me too, me neither, oh really?"				
	事後学修	Re-write questions (Jns-->Eng) from handout.				2

4	事前学修	Review romaji rules (へボン式 vs 訓令式). Guess difference, write on paper & bring to class. Try writing name in 筆記体 (cursive).	2
	授業	Intro Strategy #2: "Make Sure". Practice activity (pairwork). Romaji: 訓令式 vs へボン式. "How to cursive" (signature practice)	
	事後学修	Practice writing signature in cursive (follow handout).	2
5	事前学修	Theme: "fast food". Think of 5 good things and 5 bad things. Write on paper. Bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #3: "Non-Verbal". Practice activity (pairwork). Intro topic: "fast food". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic). PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout)	2
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #4: "Approximate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん) .	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE (handout). Optional: write practice test; ask Rian before next class if any questions.	2
7	事前学修	Review notes for topic ("fast food").	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "part-time job". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2
8	事前学修	Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Return PERFORMANCE #1 tests (marked). Feedback. Intro Strategy #5: "Invent". Practice activity (pairwork). Intro topic: "part-time job". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x 1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #6: "Restate". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2

	授業	Intro Strategy #7: "Elicit". Practice activity (pairwork). Intro topic: "video games". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
11	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Intro Strategy #8: "Catch Copy". Practice activity (pairwork). Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
12	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "mandatory English classes". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
13	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん) . PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2
14	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (part-time job, video games, mandatory English)	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
15	事前学修	Self-assess performance for 前期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
	授業	ミニ面談: return tests, discuss participation (attendance) issues if any. Rian will bring printout of attendance for 前期 for all classes.	
	事後学修	Complete 前期 survey, if any. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2

成績評価の方法およびその基準

[筆記テスト、会話テスト] x 2 (中間、期末)
(50% x 2 = 100%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

15回の日、テストを返し、成績や授業中のパフォーマンスについての説明を含むプチ面談を行います。

教科書

参考書・Web サイト

<https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/>

単位修得が望ましい科目	なし。Bring an open mind, and maybe a pen.
備考	メール： rianjp48@do-johodai.ac.jp 遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でもOKです。
担当教員の実務経験	なし

英語表現ⅡB 2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。

English Expression 2 B

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL214
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
このコースは会話力をさらに向上させるコースです。ベースは英語表現ⅡA です。すでに習得している会話力や聞き取りなどをもっと開発することを重点としています。テキストの他にビデオや歌などのメディアを使います。このコースは会話を基本としていますので学生は全員参加しなければいけません。また参加意欲がなかったり出席が足りない場合は落第します。受講する学生は必ず最初の講義を受けなければなりません。最初の講義を受けなければ、そのあとの講義は受けられません。**(2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。) →→→詳しくは、POLITE サイトをご覧ください。 https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/course/view.php?id=991					
注意事項：					
(1) 最初の講義を受けなければ、そのあとの講義は受けられません。 (2) 話すことが重要ですから、英語で話す気がない学生には単位が非常にとりにくい。 (3) 3 日を超える無断欠席はできません。 (4) 2 回の遅刻はイコール 1 回の欠席です。Be careful! (5) 英語での口頭発表（グループ・プレゼンテーション）があります。 (6) ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションが多いです。 (7) 毎週、日記（ノート）に英語で週のメインイベントを書かなければなりません。					
授業における学修の到達目標					
この講義では英語を理解することと英会話ができるようになることが目標です。Let's speak English!! OK!?					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1・ Read Syllabus 2・ Investigate learning outcomes 3・ Understand purpose of course			2
	授業	・ About the summer vacation ・ Course outline ・ Introduction of course objective ・ How to use notebooks (front half journal/back half grammar& keyword notes) ・ Talk about summer vacation in pairs. ・ Class exercise - find someone who ... (from prepared print)			
	事後学修	1・ Read Ch7 of text 2・ Make 3 questions for start of next class 3・ Begin weekly journal (in notebook) (minimum 50 words)			2
2	事前学修	1・ Review Chapter 7 key sentences 2・ Check & review 3 oral questions 3・ Read and edit own journal entries			2
	授業	・ Oral questions between students - different student each time (max 3) ・ Chapter 7 - Asking Directions (H/W p. 56) - video & read text ・ Group work to practice "Where is the baker?" etc Do in pairs and rotate ・ Class exercise - All stand - One student asks "Where is the ...?" Random student to answer.			

	事後学修	1 • Write 2rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write keywords (asking directions) in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 56)	2
3	事前学修	1 • Review Chapter 7 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Draw what I say - Introduce how to ask question when told to draw something • FOCUS - How to ask questions e.g. Draw a circle. What size? What color? How many? (Follow up from Semester 1)etc • Group work to compare who drew correctly, and why. • If time, complete twice - compare first and second - • Focus on how to make questions to obtain information.	
	事後学修	1 • Write 3rd journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write "Draw what I say" words in journal notebook (back half) (e.g. diagonal etc) 4 • Read and edit journal.	2
4	事前学修	1 • Review Chapter 7 key sentences & new "Draw what I say" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 8 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 8 - What sort of movie was it? (H/W p.15) - video and read text • Group work to practice using like/dislike/, crazy about/can't stand, sucks/rocks • Class exercise - Find someone who... (from prepared print) • Rotate groups - End with students doing - I'M crazy about ... but I can't stand ...	
	事後学修	1 • Write 4th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 16)	2
5	事前学修	1 • Review Chapter 8 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Part 1 - Video comprehension exercise (Listen and answer) • Part 2 - Speaking 6 recording • Dictation Game (Version 2) - Students form pairs, exchange papers and write each others spoken on words on their own papers (swapped). Topic is chosen by student. Three minutes per session. Students rotate three times among new partners. e.g. Topics include - My dream, Summer Vacation, Money, My future job etc... • Focus on talking rather than precise spelling	

		Also show students how to vary sentence patterns. (Examples orally & on board).	
	事後学修	1 • Write 5th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from dictation game in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
6	事前学修	1 • Review Chapter 8 key sentences & new "Dictation Game" words from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 9 key sentences	2
	授業	- Oral questions between students - different student each time (max 3) - Chapter 9 - Phone talk (H/W p 73) - Discuss; May I speak to ... x 6 variations, He's stepped out etc... - Group work to practice a sample phone conversation. - Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 6th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 73)	2
7	事前学修	1 • Review Chapter 9 key sentences & Chapter 9 homework. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 10 key sentences	2
	授業	- Oral questions between students - different student each time (max 3) - Chapter 10 - Going to the Doctor (H/W p 83) - Discuss; What seems to be the trouble? I've got a cold/the flu/a headache etc... - Group work to sick talk. - Class exercise - Perform mini dram in front of class (prep time 10 minutes) - At least 2 parts - a patient/1 doctor - Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 7th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 83)	2
8	事前学修	1 • Review Chapter 10 key sentences. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 10 key sentences	2
	授業	- Oral questions between students - different student each time (max 3) - Chapter 11 - Discussing Experiences (H/W page 96) - Group work to practice 1 past participle of verbs, 2 Have you ever construction 3 Abbreviation forms - it.there/one/him/her etc - e.g. Have you ever seen a UFO? Yes, I've seen one. - Rotate groups so that always inviting new partner. - Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	

	事後学修	1 • Write 8th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 96)	2
9	事前学修	1 • Review Chapter 11 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Review and check completed homework from Chapter 11 (last lesson).	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Making questions - Students focus on how to make questions. • No question, no communication - e.g. • W/H questions plus correct word order (W/H + aux + sub + verb + obj) • Also show students how to follow pattern • Students to pick random partner, ask question, & answer return question • Class exercise - Make 10 question to ask people ... (from prepared print) • Class exercise - Make 10 question to ask people - Homework version	
	事後学修	1 • Write 9th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "making questions" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal 5 • Complete "Make 10 questions" homework.	2
10	事前学修	1 • Review "Making 10 questions" homework from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 12 - Time words (H/W page 106) • Group work to practice how to use ago/in - e.g. I went 3 days ago/I'm going in three days. • Class exercise - Fill in the blanks ... (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 10th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords (time words) in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 106)	2
11	事前学修	1 • Review Chapter 12 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Using adjectives - Students practice • Start with simple sentence and expand using adjectives. • Teams of three • Do round the class game - continually adding adjectives to sentence. - e.g. - I bough a car. - I bought a big car. - I bought a big expensive car . etc • Practice describing in pairs	

	事後学修	1 • Write 11th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new adjectives from lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
12	事前学修	1 • Review Chapter 12 key sentences & new adjectives from previous lesson. 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read & learn Chapter 13 key sentences	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Chapter 13 - How long have you been ... ing (H/W p.114) • Focus on how to make present perfect continuous. I have been ...ing for/since... • Focus on colloquial formats - pair work e.g. You got a pen? How 'bout you? etc • Compare for and since • Rotational air work to practice "How long have you been ...ing " etc • Class exercise - Find someone who has got.. (from prepared print)	
	事後学修	1 • Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write today's keywords (Ch6 - I've got ...) in journal notebook (back half) 4 • Complete homework set from textbook (page 47) 5 • Answer questions in oral presentation practice sheet	2
13	事前学修	1 • Review Chapter 13 key sentences 2 • Check & review 3 new oral questions for next class 3 • Read and edit own journal entries 4 • Read and practice Ch 13 homework	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Explain Oral Presentation Practice (length/purpose/evaluation system) • Students form groups and choose theme. • Show class examples from previous years. • Topics from students if possible. • Any theme acceptable - including fairy tales etc.	
	事後学修	1 • Write 13th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Prepare 3 questions for oral time (start of class) 3 • Write new words from "oral presentation practice" lesson in journal notebook (back half) 4 • Read and edit journal	2
14	事前学修	1 • Check & review 3 new oral questions for next class 2 • Practice and learn oral presentation questions 3 • Read and edit own journal entries	2
	授業	• Oral questions between students - different student each time (max 3) • Students to meet with group members • Continue preparation • Teacher to check progress • Show students how to present; Dummy • Our presentation is .../ There are 3 members./Taro is....., Saburo is, Jiro is ...	
	事後学修	1 • Write 14th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2 • Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 3 • Read and edit journal for submission 4 • Review and practice for presentation	2

15	事前学修	1・Check & review 3 new oral questions for next class 2・Check & review oral presentation 3・Read and edit own journal entries	2
	授業	・Oral questions between students - different student each time (max 3) ・15-20 minutes practice and review ・Make presentation in front of class ・(All presentations filmed for later evaluation) ・Advise of notebook collection next week (journal & grammar notes) for evaluation	
	事後学修	1・Write 15th journal entry (front half) (minimum 50 words) 2・Revise and rewrite grammar notes (notebook back half) where necessary 4・Read and edit journal for submission	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■宿題／プリント：20%

■平常点：20%

■ジャーナル：20%

■発表（プレゼンテーション・スピーチ・口答試験）：20%

■その他[参加／発言／小テスト等]：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・宿題はすぐに採点し授業中に点数を教えます。（授業中採点する時もあり）
- ・授業中の参加（質問や発言）の回数を記録しておき、それを授業中に知らせます。
- ・面接・小テストは、次回に点数を授業中に教えます。
- ・発表ある場合は、次回に点数を授業中に教えます。

教科書	書名：Simon Says - Basic English conversation for young adults, 著者名：Simon Thollar, 出版社：丸善プラネット, 備考：英語表現 2 A と同じテキストです。
	書名：ノート B 6mm 35 行 セミ B 5 30 枚 明るい色の表紙 **B5 のみ, 著者名：, 出版社：P L U S, 備考：
参考書・Web サイト	大学内の POLITE
単位修得が望ましい科目	参加のため、出席は大事です。下記の備考を読んで下さい。
備考	GOOD NEWS!! ↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course will help you SPEAK and UNDERSTAND ENGLISH. このコースは英語を話すことと理解することを助けるものです。 2 This course is EASY TO PASS IF you regularly come to class and participate. このコースはきちんと出席し参加することによって簡単に単位をとることができます。 3 This course will sometimes use VIDEOS and MUSIC. このコースは時々ビデオや音楽を使います。 4 This course will teach you REAL, UP-TO-DATE ENGLISH. このコースは現代的な本当の英語を教えます。 5 There are few reports and NO FINAL EXAMINATION.

	レポートはあまりありません。筆記試験（定期試験）がありません。 6 Still don't understand? Come and see me in 317. まだわからないことがあれば317号室の私に会いに来て下さい。 BAD NEWS! ↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓ 1 This course is EASY TO FAIL IF you don't regularly come to class or participate. このコースはきちんと出席しなかったり参加しなかったりすれば簡単に落第します。 2 Only 2 ABSENCES are allowed in each quarter. 前期後期前半後半ともに各2日間を超える無断欠席はできません。（quarterごと2回） 3 2 LATE ARRIVALS (more than 15 minutes) equals 1 absence. 2回の遅刻はイコール1回の欠席です。 4 You have to sit in the SAME SEAT for at least the first semester. 同じ学期の間 同じ席にすわらなければ いけません。 5 There will be an oral presentation. 口答プレゼンテーション・試験があります 6 You need a TEXT book & you must TALK. 教科書は必要で喋らない学生は絶対に合格しません。 7 You MUST write in your journal every week. 毎週ジャーナルに記入しなければなりません。
担当教員の実務経験	なし

英語表現ⅡB 2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。

English Expression 2 B

担当教員	CHARLES McLARTY (312 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL214
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
The focus of the class will be oral communication, especially using English idioms (英語の熟語)					
Students will develop confidence in their English by participating in a variety of class activities using idioms. Activities will include listening exercises, word/language games, vocabulary quizzes and pair or small group practices.					
授業における学修の到達目標					
The first purpose go this class is to help students learn to use the English words they already know for communication. The second purpose is to help students communicate with more natural-sounding English by using common idioms in American English.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Text and Printed hand-outs			2
	授業	Idioms Game Vocabulary Review			
	事後学修	printed hand-outs			2
2	事前学修	Text			2
	授業	Poking Around at Saturday Market			
	事後学修	Text, Printed hand-outs			2
3	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Listening Practice grammar Drills			
	事後学修	Text, Printed hand-outs			2
4	事前学修	Text Exercises			2
	授業	Idioms for Leisure Time			
	事後学修	Text			2
5	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Vocabulary Check Pair Practice			
	事後学修	Text and printed hand-outs			2
6	事前学修	Hand-outs			2
	授業	Idioms in English Speeches			
	事後学修	Text, hand-outs			2
7	事前学修	Printed hand-outs			2
	授業	Reading Comprehension pair practice			
	事後学修	Text Exercises			2

8	事前学修	Hand-outs	2
	授業	The Final Examination Idioms for Tests	
	事後学修	Text and hand-outs	2
9	事前学修	Printed hand-outs	2
	授業	Listening Practice Vocabulary Quiz	
	事後学修	Text, hand-outs	2
10	事前学修	Text Exercises	2
	授業	Communication-Idioms in General Use	
	事後学修	hand-outs	2
11	事前学修	Hand-outs and Text	2
	授業	Grammar Drills Small Group Practice	
	事後学修	hand-outs	2
12	事前学修	Text and hand-outs	2
	授業	Miyu's Farewell Idioms to show Sadness	
	事後学修	hand-outs	2
13	事前学修	Text	2
	授業	Vocabulary Check Listening Practice	
	事後学修	Text, hand-outs	2
14	事前学修	Hand-outs	2
	授業	Review Chapter B Text Chs 8-13	
	事後学修	Text, hand-outs	2
15	事前学修	Hand-outs, Text	2
	授業	Semester Test or Homework	
	事後学修	Text and hand-outs	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する ■試験： 33% ■レポート： 33%

■その他、授業の参加 34%とする

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

宿題に comment を書いて返却する。

教科書	書名：Hang In There! Elementary Conversation in English, 著者名：Charles McLarty, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	日常会話なのに辞書にのっていない英語の本 J. ユンカーマン、松本薫
単位修得が望ましい科目	英語表現 1
備考	Good luck with English
担当教員の実務経験	The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S.

	and Japan, will provide students with ample opportunities to improve their use of idiomatic English communication.

英語表現ⅡB 2024 年度入学生は、「SpeakingⅡ」になります。

English Expression 2 B

担当教員	JOEL RIAN(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CBL214	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
授業概要						
Communication (particularly speaking in English) is the focus of this course. We will do many speaking activities in pairs and groups. As necessary we will address vocabulary and language structure, but the main goal is developing a willingness and confidence to communicate in English.						
この講座は「コミュニケーション」（特に英語で話すこと）が中心です。ペア又はグループでいろいろな英会話練習を行います。必要に応じて語彙や文型を学習しますが、コミュニケーションができる自信を養い、自分なりの英語を活用することがメインです。						
授業における学修の到達目標						
This course aims to boost English communication ability and confidence through communication strategies. We will practice basic conversation skills and many useful phrases and expressions. The end goal of this course is to be able to hold a conversation, using only English, for 10 minutes or more.						
この講座は、コミュニケーション・ストラテジー（伝達方略）を通じて英語でコミュニケーション力が上達することを目指します。日常英会話に使える語句や表現を学びながら、自分なりの英語を実践的な会話に使うことを目標とします。講座の最終目標：英語のみで、１０分以上会話を続けること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	Review notes/handouts from 前期.				2.0
	授業	Intro topic: "living with family". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)				
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.				2
2	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.				2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic (A さん & B さん)				
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.				2
3	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.				2
	授業	Intro topic: "internationalization". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)				
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.				2
4	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.				2
	授業	Group discussions practice x 3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic (A さん & B さん)				
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.				2

5	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "tech in classroom". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
6	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes for all three 後期前半 topics: living with family, internationalization, tech in classroom. Ask Rian any questions before class. REVIEW PERFORMANCE #1 ADVICE handout.	2
7	事前学修	Review notes for all three 後期前半 topics: living with family, internationalization, tech in classroom.	2
	授業	PERFORMANCE (TEST) #1 (midterm)	
	事後学修	Review notes. Next topic: "singleness". Think of 5good/5bad points. Write & bring to class.	2
8	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "singleness". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
9	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
10	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "tech in classroom". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2. End-of-class writing practice (~5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
11	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (Aさん & Bさん) on slip of paper, bring to class.	2
	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (~10min): write mini-conversation on topic (Aさん & Bさん)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test.	2
12	事前学修	Review notes/handout from previous class. Write down 5 good points & 5 bad points on topic, bring to class.	2
	授業	Intro topic: "university education". FSW activity (all-class or in groups). Group discussions practice x1-2.	

		End-of-class writing practice (～5min): write 5good/5bad points (on topic)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Summarize 5 good points & 5 bad points, record in notes for reference on test.	2
	事前学修	Review notes/handout from previous class. Practice writing mini-conversation (A さん & B さん) on slip of paper, bring to class.	2
13	授業	Group discussions practice x3-5. End-of-class writing practice (～10min): write mini-conversation on topic (A さん & B さん) . PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	
	事後学修	Review notes/handout from previous class. Organize notes for topic, for reference on test. REVIEW PERFORMANCE #2 ADVICE (handout)	2
	事前学修	Review notes from previous classes, all three topics (singleness, tech in classroom, university education)	2
14	授業	PERFORMANCE (TEST) #2 (final)	
	事後学修	Self-assess performance for 後期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
	事前学修	Self-assess performance for 後期. Write down questions, bring to Rian next class.	2
15	授業	ミニ面談: return tests, discuss participation (attendance) issues if any. Rian will bring printout of attendance for 後期 for all classes.	
	事後学修	Complete 後期 survey, if any. Organize notes for next semester (these notes & handouts will be useful).	2

成績評価の方法およびその基準

[筆記テスト、会話テスト] x 2 (中間、期末)
(50% x 2 = 100%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1 5 回の日に、テストを返し、成績や授業中のパフォーマンスについての説明を含むプチ面談を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	https://polite3.do-johodai.ac.jp/~hiulms/moodle/
単位修得が望ましい科目	なし。Bring an open mind and maybe a pen.
備考	メール: rianjp48@do-johodai.ac.jp 遠慮なく、いつでも連絡ください。日本語でも OK です。
担当教員の実務経験	なし

職業英語 A 2024 年度入学生は、「Advanced English I」になります。 Professional English A

担当教員	加澤 雅裕(302 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL315
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期
授業概要					
テーマ：リスニング力や語彙力を高めることで、TOEIC 得点の向上に努める					
1 本講義は TOEIC 受験に特化した演習授業である。TOEIC は企業で要求される英語力の指標として重要視されている。高得点を取ることは社会人として国際社会を生きるための条件であることはもちろん、企業によっては昇進・昇級の必要条件となっている場合もある。また、入社に向けたエントリーシートでのスコア記入を必須要件としている企業も多く、学生としても受験することが求められる。本講義ではトピック別に TOEIC 受験に必要な基礎文法力、リスニング力とリーディング力の向上を図る。					
2 テキスト（必ず購入のこと）の演習を中心に進めることになるが、必要に応じて理解を深めるための補助教材を使用する。					
3 各 Unit を 2 回の講義で実施する。テキストの前半までとし、後半は職業英語 B で扱う。					
4 Unit ごとに小テストを実施し、単語力や基礎英語力の向上を図る。					
5 関連性が高いので、職業英語 A を履修する者は職業英語 B も履修することが望ましい。					
授業における学修の到達目標					
1 TOEIC に必要な単語を理解することができる。					
2 TOEIC 受験に必要な基礎文法を理解することができる。					
3 音声を聞いて正しく内容を理解することができる。					
4 英文の概要をつかみ、適切に理解することができる。					
5 TOEIC の問題形式を理解し、積極的に受験する態度を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の目的や全体の内容を把握する			2.0
	授業	プレテスト受験（問題受験 50 分、解答解説 40 分）			
	事後学修	解答解説を復習し、自分の苦手分野を確認する			2.0
2	事前学修	Unit 1 "Daily Life"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 1 の内容に関する Listening, Reading			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
3	事前学修	Unit 1 に関する新出単語等の小テスト準備			2.0
	授業	Unit 1 の内容に関する問題演習等			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
4	事前学修	Unit 2 "Eating Out & Shopping"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 2 の内容に関する Listening, Reading			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
5	事前学修	Unit 2 に関する新出単語等の小テスト準備			2.0
	授業	Unit 2 の内容に関する問題演習等			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
6	事前学修	Unit 3 "Classes & Lessons"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 3 の内容に関する Listening, Reading			

	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
7	事前学修	Unit 3 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 3 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
8	事前学修	Unit 4 "Events"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 4 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
9	事前学修	Unit 4 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 4 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
10	事前学修	Unit 5 "Traffic & Travel"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	UNIT 5 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
11	事前学修	Unit 5 に関する新出単語等の小テスト準	2.0
	授業	Unit 5 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
12	事前学修	Unit 6 "News"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 6 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
13	事前学修	Unit 6 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 6 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
14	事前学修	Unit 7 "Job Offers & Employment"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 7 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
15	事前学修	Unit 7 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 7 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：70% ■小テスト：20% □レポート： % □演習課題： % ■その他[アンサー・シートによる自己評価・分析の提出とその内容 10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説及びアンサー・シートへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：CLIMB HIGH TO THE TOEIC L&R TEST, 著者名：安丸雅子 他, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	http://www.kinsei-do.co.jp/download/4207 (テキストの音声ファイル)
単位修得が望ましい科目	職業英語 B
備考	1 第1回目の講義において TOEIC 形式の体験プレテストを実施します。必ず出席のこと。 2 アンサー・シートには模擬問題解答と取組状況の自己評価と自己分析(学んだこと・今後

	の課題)を記してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。 3 試験は第 16 回目に TOEIC 形式で行います。
担当教員の実務経験	高校の英語科教諭として 2016 年まで 17 年間英語教育にあたった。その後、北海道教育委員会で外国語担当指導主事として 8 年間、また、管理職として 11 年間英語教育に携わっている。1997 年～2000 年実用英語技能検定面接員、2001 年～2003 年、2020 年～2021 年実用英語技能検定実施委員。

職業英語 B 2024 年度入学生は、「Advanced English II」になります。 Professional English B

担当教員	加澤 雅裕(302 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL316
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3・4 年	後期
授業概要					
テーマ：職業英語 A をうけて、さらなる TOEIC 得点の向上に努める					
1 本講義は TOEIC 受験に特化した演習授業である。TOEIC は企業で要求される英語力の指標として重要視されている。高得点を取ることは社会人として国際社会を生きるための条件であることはもちろん、企業によっては昇進・昇級の必要条件となっている場合もある。また、入社に向けたエントリーシートでのスコア記入を必須要件としている企業も多く、学生としても受験することが求められる。本講義では前期に引き続き、トピック別に TOEIC 受験に必要な基礎文法力、リスニング力とリーディング力の向上を図る。					
2 テキスト（必ず購入のこと）の演習を中心に進めることになるが、必要に応じて理解を深めるための補助教材を使用する。					
3 各 Unit を 2 回の講義で終了する。本講義ではテキストの後半を扱う。					
4 Unit ごとに小テストを実施し、単語力や基礎英語力の向上を図る。					
5 関連性が高いので、職業英語 A を履修した者が職業英語 B を履修することが望ましい。					
授業における学修の到達目標					
1 TOEIC に必要な単語を理解することができる。					
2 TOEIC 受験に必要な基礎文法を理解することができる。					
3 音声を聞いて正しく内容を理解することができる。					
4 英文の概要をつかみ、適切に理解することができる。					
5 TOEIC の問題形式を理解し、積極的に受験する態度を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Unit 8 "Office Work & Meeting"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 8 の内容に関する Listening, Reading			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
2	事前学修	Unit 8 に関する新出単語等の小テスト準備			2.0
	授業	Unit 8 の内容に関する問題演習等			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
3	事前学修	Unit 9 "Business"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 9 の内容に関する Listening, Reading			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
4	事前学修	Unit 9 に関する新出単語等の小テスト準備			2.0
	授業	Unit 9 の内容に関する問題演習等			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
5	事前学修	Unit 10 "Announcements & Advertisements"に関する新出単語等の確認			2.0
	授業	Unit 10 の内容に関する Listening, Reading			
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習			2.0
6	事前学修	Unit 10 に関する新出単語等の小テスト準備			2.0
	授業	Unit 10 の内容に関する問題演習等			

	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
7	事前学修	Unit 11 "Personnel"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 11 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
8	事前学修	Unit 11 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 11 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
9	事前学修	Unit 12 "Health & Environment"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 12 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
10	事前学修	Unit 12 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 12 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
11	事前学修	Unit 13 "Finance & Banking"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 13 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
12	事前学修	Unit 13 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 13 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
13	事前学修	Unit 14 "Production & Logistics"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 14 の内容に関する Listening, Reading	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
14	事前学修	Unit 14 に関する新出単語等の小テスト準備	2.0
	授業	Unit 14 の内容に関する問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0
15	事前学修	Unit 15 "Research and Development & ICT"に関する新出単語等の確認	2.0
	授業	Unit 15 の内容に関する Listening, Reading, 問題演習等	
	事後学修	ダウンロード教材を用いた学習内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：70% ■小テスト：20% □レポート： % □演習課題： % ■その他[アンサー・シートによる自己評価・分析の提出とその内容 10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説及びアンサー・シートへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：CLIMB HIGH TO THE TOEIC L&R TEST, 著者名：安丸雅子 他, 出版社：金星堂, 備考：音声ファイルのダウンロード可能
参考書・Web サイト	http://www.kinsei-do.co.jp/download/4207 (教科書の音声ファイル)
単位修得が望ましい科目	職業英語 A
備考	1 アンサー・シートには模擬問題解答と取組状況の自己評価と自己分析(学んだこと・今後の課題)を記してもらいます。また、質問があれば記載してもらい、教員側から回答やコメントを記し返却することで理解を深めてもらいます。

	2 試験は第 16 回目に TOEIC 形式で行います。
担当教員の実務経験	高校の英語科教諭として 2016 年まで 17 年間英語教育にあたった。その後、北海道教育委員会で外国語担当指導主事として 8 年間、また、管理職として 11 年間英語教育に携わっている。1997 年～2000 年実用英語技能検定面接員、2001 年～2003 年、2020 年～2021 年実用英語技能検定実施委員。

職業英語B 2024 年度入学生は、「Advanced English II」になります。 Professional English B

担当教員	竹内 典彦 (309 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL316
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3・4 年	後期
授業概要					
テーマ「職業英語 A をうけて、さらなる TOEIC 得点の向上に努める」 現在、特に経済界で必要とされる英語実務能力を測定するテストとして、TOEIC(Test of English for International Communication)の存在が注目されている。このテストは、約 120 カ国で約 600 万人が毎年受験していて、日本でも約 230 万人が受験している。 この講義では、TOEIC 得点のアップとともに、総合的な英語運用能力の向上を目的としている。語彙や発音のポイントとともに、基礎文法にもふれ、確実な英語力を身につけることが期待されている。 個人学習と授業活動を通じた協調学習のシステムとし、テキストと e ラーニングに取り組むこととする。半期を通じて、毎回の授業で小テストを実施して知識の定着に取り組む。 職業英語 A と同じテキストを使用するが、職業英語 A の履修者にとっては、2 ラウンド目となり、さらに知識を定着させる内容となる。そのため職業英語 A では 600 点が目標であったが、テキストが本来目標にしている TOEIC730 点レベルがターゲットになる。一方で、職業英語 B から初めて履修する人の中で、英語力が TOEIC200~300 点レベルの人には 600 点がターゲットになる。					
授業における学修の到達目標					
1 リスニングを含む総合的な英語運用能力をさらに高めることができる 2 英語語彙力をさらに高めることができる 3 上の 1 と 2 により TOEIC の点数をさらに向上できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 2. テキストの「本書の使い方」や「DAY 0」を通読しなさい。			2.0
	授業	TOEIC について、テキストの「DAY 0」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞			
	事後学修	1. VoiceTube の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。			2.0
2	事前学修	1. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 2. テキストの「DAY 1」を通読しなさい。			2.0
	授業	テキストの「DAY 1」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞			
	事後学修	1. VoiceTube の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。			2.0
3	事前学修	1. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 2. テキストの「DAY 2」を通読しなさい。			2.0
	授業	テキストの「DAY 2」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞			
	事後学修	1. VoiceTube の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 1. VoiceTube の動画を 1 本見て、それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。			2.0
4	事前学修	1. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 2. テキストの「DAY 3」を通読しなさい。			2.0
	授業	テキストの「DAY 3」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞			

		2. テキストの「DAY 12」を通読しなさい。	
	授業	テキストの「DAY 12」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞	
	事後学修	1. VoiceTube の動画を 1 本見て, それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。	2.0
14	事前学修	1. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 2. テキストの「DAY 13」を通読しなさい。	2.0
	授業	テキストの「DAY 13」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞	
	事後学修	1. VoiceTube の動画を 1 本見て, それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。	2.0
15	事前学修	1. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。 2. テキストの「DAY 14」と「DAY 15」を通読しなさい。	2.0
	授業	テキストの「DAY 14」と「DAY 15」, News in Levels のテキストリーディング, VoiceTube の動画鑑賞	
	事後学修	1. VoiceTube の動画を 1 本見て, それについて要点を英語で 50 語程度で書く 2. 「最重要英単語 for the TOEIC」等の英単語学習アプリを利用して英単語を覚えなさい。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

使用テキストには, 問題の解答と詳しい解説がついているので, しっかり復習すること。小テストの解説は授業中に行う。

教科書	書名：3 週間で攻略 TOEIC L&R テスト 730 点!, 著者名：小山克明他, 出版社：アルク, 備考：
参考書・Web サイト	News in Levels, VoiceTube, TOEIC に関連するサイト
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語基礎Ⅰ 2023 年度入学生までは、「中国語ⅠA」になります。

Chinese 1A

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 山田 千尋(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL123
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
テーマ：基礎から初級程度の中国語の習得 この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に発音と文法の基礎を習得することを目指して,初級中国語の発音・文法・読解能力の養成を図りたいです。 一、初級中国語の発音編 初級中国語のピンイン（ローマ字表記）には 3 6 個の母音と 2 1 個の子音があります。母音だけの音節,「子音＋母音」で構成される音節を加えると中国語の音節は全部で 4 0 0 余りにもなります。 指定教科書『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』発音編の内容を学習します。 1. 初級中国語の基礎を学習します。 （1）汉语（hànyǔ）とは？ （2）普通话（pǔtōnghuà）とは？ （3）简体字（jiǎntǐzì）とは？ （4）汉语拼音（hànyǔpīnyīn）と音节（yīnjié）とは？ （5）声调（shēngdiào）とは？ 2. 初級中国語の母音を学習します。 初級中国語の母音は 3 6 個ですが,次の 3 種類があります。 （1）単母音(7 個)とは？ （2）複母音(1 3 個)とは？ （3）n と ng を伴う母音(1 6 個)とは？ （4）母音からなる音節の綴りの規則とは？ 3. 初級中国語の子音を学習します。 初級中国語の子音は 2 1 個ですが、次の内容を中心に学習します。 （1）6 つのグループに分かれる子音とは？ （2）有気音と無気音の子音とは？ （3）子音と母音の構成からなる音節の綴りの規則とは？ 4. 初級中国語「音節の綴りの規則」を復習します。 本教科書発音編では,初級中国語の音節の仕組みを体系的にまとめ,簡潔に解説したことが最大の特徴ですが,次のような内容を中心に復習を行います。 （1）母音からなる音節（基本と例外） （2）子音＋母音からなる音節（基本と例外） 二、初級中国語の文法・読解編 文法・読解編では,指定教科書[新版]『会話で学ぶ初級中国語』会話編第 1 課と第 2 課の内容を学習します。 1. 第 1 課の本文・単語・文法 2. 第 2 課の本文・単語・文法 第 1 課と第 2 課「復習とまとめ」の二者択一クイズ課題 三、映像で知る中国文明の謎（その 1） 「映像で知る中国文明の謎」を通して,中国文明史に対する知識と関心を高めてゆきたい。					
授業における学修の到達目標					
1. 初級中国語のピンインと声調を正しく習得します。 2. 初級中国語の簡体字や基礎文法を習得します。 3. 初級中国語の読解力を養成します。					
授業計画					

回数	授業、事前・事後学修		時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し、授業全体の内容を把握します。	2.0
	授業	第1回のガイダンスでは、この科目で学習する中国と初級中国語の基礎知識を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、中国と初級中国語の基礎知識力を高めます。	2.0
2	事前学修	教科書発音編の内容を確認し、初級中国語の基礎（その1）を把握します。	2.0
	授業	第2回では、 汉语 、 普通话 、 简体字 などを詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、 汉语 、 普通话 、 简体字 などをマスターします。	2.0
3	事前学修	教科書発音編の内容を確認し、初級中国語の基礎（その2）を把握します。	2.0
	授業	第3回では、 汉语拼音 、 音节 、 声调 などを詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、 汉语拼音 、 音节 、 声调 などをマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し、単母音を把握します。	2.0
	授業	第4回では、単母音を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、単母音をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し、複母音を把握します。	2.0
	授業	第5回の授業では、複母音を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、複母音をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書発音編の母音内容を確認し、n と ng を伴う母音を把握します。	2.0
	授業	第6回の授業では、n と ng を伴う母音を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、n と ng を伴う母音をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書発音編の子音内容を確認し、子音（その1）を把握します。	2.0
	授業	第7回の授業では、子音（その1）を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、子音（その1）をマスターします。	2.0
8	事前学修	教科書発音編の子音内容を確認し、子音（その2）を把握します。	2.0
	授業	第8回の授業では、子音（その2）を説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、子音（その2）をマスターします。	2.0
9	事前学修	教科書発音編の音节内容を確認し、母音からなる音節の綴りの規則を把握します。	2.0
	授業	第9回の授業では、母音からなる音節の綴りの規則を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、母音からなる音節の綴りの規則をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書発音編の音节内容を確認し、子音+母音からなる音節の綴りの規則を把握します。	2.0
	授業	第10回の授業では、子音+母音からなる音節の綴りの規則を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、発音編「復習とまとめ」の二者択一式課題（その1とその2）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、音節の綴りの規則をマスターします。	2.0
11	事前学修	配布資料の内容を確認し、中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	「中国文明の謎（その1）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、中国文明の謎（その1）を理解します。	2.0
12	事前学修	指定教科書会話編第1課の内容を確認し、本文・単語・文法を把握します。	2.0
	授業	第12回の授業では、会話編第1課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、第1課の本文と文法をマスターします。	2.0

13	事前学修	指定教科書会話編第2課の内容を確認し,本文・単語・文法を把握します。	2.0
	授業	第13回の授業では,会話編第2課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,会話編第1課と第2課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,第2課の本文と文法をマスターします。	2.0
14	事前学修	前期(「1期・2期」)の授業内容(講義と映像)を確認します。	2.0
	授業	前期(「1期・2期」)の課題を確認します。	
	事後学修	前期(「1期・2期」)の授業内容(講義授業と映像授業)をまとめます。	2.0
15	事前学修	前期(「1期・2期」)の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	前期(「1期・2期」)の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体(講義授業と映像授業)をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

グループワークについては,グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い,その結果を考慮して担当教員が採点を行います。

■発音編の課題：60% ■会話編第1課と第2課の課題：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

初級中国語発音編課題(その1とその2)と会話編課題(第1課と第2課)の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』(音声再生アプリ付),著者名：田中英夫,出版社：朝日出版社,備考：
	書名：『改訂版 会話で学ぶ初級中国語 CD付』,著者名：田中英夫,出版社：丸善プラネット,備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修(中国大連編)」 「海外事情(中国編)」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語基礎Ⅱ 2023 年度入学生までは、「中国語ⅠB」になります。

Chinese 1B

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 山田 千尋(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CBL124	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
授業概要						
テーマ：初級中国語文法と読解の基礎知識の習得						
一、初級中国語の文法・読解編						
この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,基礎文法の習得を目指して,初級中国語の基礎文法と読解能力の養成を図りたいです。						
文法・読解編では,指定教科書[新版]『会話で学ぶ初級中国語』会話編第3課～第10課の内容を学習します。「中国語ⅠB」で実施する授業の具体的な内容は以下の通りです。						
1. 講義授業を実施し,発音編（その1）を復習します。						
2. 講義授業を実施し,発音編（その2）を復習します。						
発音編「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。						
3. 講義授業を実施し,会話編第1課と第2課を復習します。						
第1課と第2課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。						
4. 講義授業を実施し,第3課の本文・単語・文法を学習します。						
5. 講義授業を実施し,第4課の本文・単語・文法を学習します。						
第3課と第4課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。						
6. 映像授業「中国文明の謎（その2）」を放映します。						
7. 講義授業を実施し,第5課の本文・単語・文法を学習します。						
8. 講義授業を実施し,第6課の本文・単語・文法を学習します。						
第5課と第6課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。						
9. 講義授業を実施し,第7課の本文・単語・文法を学習します。						
10. 講義授業を実施し,第8課の本文・単語・文法を学習します。						
第7課と第8課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。						
11. 講義授業を実施し,第9課の本文・単語・文法を学習します。						
12. 講義授業を実施し,第10課の本文・単語・文法を学習します。						
第9課と第10課「復習とまとめ」の二者択一クイズ式課題を解答します。						
13. 映像授業「中国文明の謎（その3）」を放映します。						
14. 後期（3期・4期）学習内容を復習します。						
15. 後期（3期・4期）学習内容をまとめます。						
二、映像で知る中国文明の謎（その2とその3）						
「映像で知る中国文明の謎（その2とその3）」を通して,中国文明史に対する知識と関心を高めてゆきたい。						
授業における学修の到達目標						
1. 初級中国語の基礎文法を身に付けます。						
2. 初級中国語の読解力を高めます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音と子音などを把握します。				2.0
	授業	第1回では,前期で学習した発音編の内容（母音と子音）を復習します。				
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音と子音）をマスターします。				2.0
2	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,音節の綴りの規則などを把握します。				2.0
	授業	第2回では,前期で学習した発音編の内容（音節の綴りの規則）を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,発音編「復習と				

		まとめ」の二者択一式課題（その１とその２）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、発音編の内容（母音・子音・音節の綴りの規則など）をマスターします。	2.0
3	事前学修	教科書の会話編を確認し、第１課と第２課の内容を把握します。	2.0
	授業	第３回では、会話編第１課と第２課を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第１課と第２課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第１課と第２課の内容をマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書の会話編を確認し、第３課の内容を把握します。	2.0
	授業	第４回では、第３課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第３課の内容をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書の会話編を確認し、第４課の内容を把握します。	2.0
	授業	第５回では、第４課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第３課と第４課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第４課の内容をマスターします。	2.0
6	事前学修	配布資料の内容を確認し、中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第６回では、「中国文明の謎（その２）」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、中国文明の謎（その２）を理解します。	2.0
7	事前学修	教科書の会話編を確認し、第５課の内容を把握します。	2.0
	授業	第７回では、第５課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第５課の内容をマスターします。	2.0
8	事前学修	教科書の会話編を確認し、第６課の内容を把握します。	2.0
	授業	第８回では、第６課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第５課と第６課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第６課の内容をマスターします。	2.0
9	事前学修	教科書の会話編を確認し、第７課の内容を把握します。	2.0
	授業	第９回では、第７課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第７課の内容をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書の会話編を確認し、第８課の内容を把握します。	2.0
	授業	第１０回では、第８課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第７課と第８課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第８課の内容をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書の会話編を確認し、第９課の内容を把握します。	2.0
	授業	第１１回では、第９課の本文と文法を詳細に説明します。	
	事後学修	授業内容を復習し、会話編第９課の内容をマスターします。	2.0
12	事前学修	教科書の会話編を確認し、第１０課の内容を把握します。	2.0
	授業	第１２回では、第１０課の本文と文法を詳細に説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第９課と第１０	

		課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し,会話編第 10 課の内容をマスターします。	2.0
13	事前学修	配布資料の内容を確認し,中国文明史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第 13 回では,「中国文明の謎(その 3)」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し,中国文明の謎(その 3)を理解します。	2.0
14	事前学修	後期(「3 期・4 期」)の授業内容(講義と映像)を確認します。	2.0
	授業	後期(「3 期・4 期」)の課題を確認します。	
	事後学修	後期(「3 期・4 期」)の授業内容(講義授業と映像授業)をまとめます。	2.0
15	事前学修	後期(「3 期・4 期」)の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	後期(「3 期・4 期」)の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体(講義授業と映像授業)をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

グループワークについては,グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い,その結果を考慮して担当教員が採点を行います。

■発音編復習の課題：15% ■会話編第 1 課と第 2 課の課題：15% ■会話編第 3 課～第 10 課の課題：70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発音編課題(復習)、会話編第 1 課と第 2 課課題(復習)、会話編第 3 課～第 10 課課題の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付），著者名：田中英夫，出版社：朝日出版社，備考：
	書名：『改訂版 会話で学ぶ初級中国語 CD 付』，著者名：田中英夫，出版社：丸善プラネット，備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」 「海外事情（中国編）」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語Ⅱ A 2023 年度入学生までは、「中国語会話Ⅰ」になります。

Chinese 2A

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 趙 海涵(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL225
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	2 年	前期	
授業概要					
テーマ：初級から中級の「誰でも簡単に話せる中国語日常会話」の習得 この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に中級レベルの中国語日常会話の習得を目指して,中国人と日常会話を簡単に話せる実践的な会話能力の養成を図りたいです。 一、初級中国語発音編内容の復習 本教科書発音編では,初級中国語の音節の仕組みを体系的にまとめ,簡潔に解説したことが最大の特徴です。 この講義では,「中国語ⅠA」で学習した発音編を復習します。 初級中国語の日常会話に必要な文法はそれほど難しくありませんが,発音はわりと難しいとよく言われています。中国語のピンイン（ローマ字表記）には36個の母音と21個の子音があります。母音だけの音節,「子音+母音」で構成される音節を加えると中国語の音節は全部で400余りにもなります。初級中国語の学習では音節の仕組みを知ることが最も重要です。 二、コラボ型日常会話フレーズ（前半）の学習 日常の会話で大事なものは,「相手に聞きたい」と「相手に伝えたい」ことです。 本教科書会話編では,ネイティブ・スピーカーの発想でまとめた主要動詞と主要助詞・副詞・介詞・助動詞とのコラボで「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学習します。 1. 「会話編」学習のねらい 初級中国語を学習した学習者を対象に,「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学び、誰でも簡単に話せる中国語日常会話のコツを身に付けます。 2. 「会話編」学習のながれ （1）会話編第一課と第二課は動詞「是 shì」と「有 yǒu」を学習し,「自己紹介型と家族紹介型日常会話のフレーズ」を学習します。 （2）会話編第三課～第八課は主要動詞「听 tīng（聴く）、说 shuō（話す）、读 dú（読む）、写 xiě（書く）、看 kàn（見る）、坐 zuò（乗る）、を学びます。同時に、最も使える3個の主要助詞（吗 ma、了 le、过 guo）、4個の主要副詞（没 méi、不 bù、在 zài、也 yě）、1個の主要介詞（在 zài）、1個の主要助動詞（想 xiǎng）を学びます。 三、映像で知る日中交流史（前半）の学習 「映像で知る日中交流史」を通して,日中交流史の知識と関心を高めてゆきたい。					
授業における学修の到達目標					
1. 中国語の主要動詞・助詞・副詞・介詞・助動詞の使い方を身に付けます。 2. コラボ型中国語の日常会話力を高めます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音と子音などを把握します。			2.0
	授業	第1回では,「中国語ⅠA」で学習した発音編の内容（母音と子音）を復習します。			
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（母音と子音）をマスターします。			2.0
2	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,音節の綴りの規則などを把握します。			2.0
	授業	第2回では,「中国語ⅠA」で学習した発音編の内容（音節の綴りの規則など）を復習します。			
	事後学修	授業内容を復習し,発音編の内容（音節の綴りの規則など）をマスターします。			2.0
3	事前学修	指定教科書の発音編とシラバスを確認し,母音・子音・音節の綴りの規則などを把握します。			2.0
	授業	第3回では,「中国語ⅠA」で学習した母音・子音・音節の綴りの規則を復習します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,発音編「復習と			

		まとめ」の二者択一式課題（その1とその2）を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、発音編の内容（母音・子音・音節の綴りの規則など）をマスターします。	2.0
4	事前学修	教科書会話編第一課の内容を確認し、「自己紹介型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第4回では、「自己紹介型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第一課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、第一課「自己紹介型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書会話編第二課の内容を確認し、「家族紹介型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第5回では、「家族紹介型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第二課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、第二課「家族紹介型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書会話編第三課の内容を確認し、動詞「 听 」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第6回では、動詞「 听 」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第三課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「 听 」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書会話編第四課の内容を確認し、動詞「 说 」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第7回では、動詞「 说 」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第四課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解きます。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「 说 」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
8	事前学修	配布資料の内容を確認し、日中交流史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	第8回では、「鑑真と弟子たちの物語」映像を放映をします。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、「鑑真と日本」について理解します。	2.0
9	事前学修	教科書会話編第五課の内容を確認し、動詞「 读 」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第9回では、動詞「 读 」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第五課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解きます。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「 读 」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書会話編第六課の内容を確認し、動詞「 写 」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第10回では、動詞「 写 」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第六課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「 写 」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書会話編第七課の内容を確認し、動詞「 看 」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第11回では、動詞「 看 」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第七課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「 看 」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
12	事前学修	教科書会話編第八課の内容を確認し、動詞「 坐 」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0

	授業	第12回では、動詞「坐」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第八課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「坐」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
13	事前学修	配布資料の内容を確認し、日中交流史への理解を深める映像授業の概要を把握します。	2.0
	授業	「日本・中国明王朝）外交」映像を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、「金閣寺と中国」について理解します。	2.0
14	事前学修	前期（「1期・2期」）の授業内容（講義と映像）を確認します。	2.0
	授業	前期（「1期・2期」）の課題を確認します。	
	事後学修	前期（「1期・2期」）の授業内容（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
15	事前学修	前期（「1期・2期」）の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	前期（「1期・2期」）の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行います。

■発音編復習の課題：30% ■会話編第一課～第八課の課題：70%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

発音編課題（復習）、会話編第一課～第八課課題の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）、著者名：田中英夫、出版社：朝日出版社、備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」 「海外事情（中国編）」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

中国語ⅡB 2024 年度入学生は、「中国語会話Ⅱ」になります。

Chinese 2B

担当教員	田中 英夫(337 研究室), 趙 海涵(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CBL226
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ：初級から中級の「誰でも簡単に話せる中国語日常会話」の習得					
この講義では,授業担当者自身が書いた教科書を使い,主に中級レベルの中国語日常会話の習得を目指して,中国人と日常会話を話せる実践的な会話能力の養成を図りたいです。					
一、コラボ型日常会話（後半）の学習					
日常の会話で大事なものは,「相手に聞きたい」と「相手に伝えたい」ことです。					
本教科書会話編では,ネイティブ・スピーカーの発想でまとめた主要動詞と主要助詞・副詞・介詞・助動詞とのコラボで「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学習します。					
1. 「会話編」学習のねらい					
初級中国語を学習した学習者を対象に,「使えるコラボ型日常会話のフレーズ」を学び、誰でも簡単に話せる中国語日常会話のコツを身に付けます。					
2. 「会話編」学習のながれ					
会話編第九課～第十八課は主要動詞「吃 chī (食べる)、喝 hē (飲む)、买 mǎi (買う)、卖 mài (売る)、借 jiè (借りる)、还 huán (返す)、来 lái (来る)、去 qù (行く)、穿 chuān (着る)、脱 tuō (脱ぐ)」を学びます。同時に、最も使える 3 個の主要助詞 (吗 ma、了 le、过 guo)、4 個の主要副詞 (没 méi、不 bù、在 zài、也 yě)、1 個の主要介詞 (在 zài)、1 個の主要助動詞 (想 xiǎng) を学びます。					
三、映像で知る日中交流史（後半）の学習					
「映像で知る日中交流史」を通して,日中交流史の知識と関心を高めてゆきたい。					
授業における学修の到達目標					
1. 中国語の主要動詞・助詞・副詞・介詞・助動詞の使い方を身に付けます。					
2. コラボ型中国語の日常会話力を高めます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書会話編前半を確認し,第一課～第八課の内容を把握します。			2.0
	授業	第 1 回では,教科書会話編前半（第一課～第八課）を復習します。			
	事後学修	授業内容を復習し,教科書会話編前半（第一課～第八課）をマスターします。			2.0
2	事前学修	教科書会話編第九課の内容を確認し,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。			2.0
	授業	第 2 回では,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第九課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。			
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「吃」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。			2.0
3	事前学修	教科書会話編第十課の内容を確認し,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。			2.0
	授業	第 3 回では,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。			
	事後学修	授業内容を復習し,動詞「喝」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。			2.0
4	事前学修	教科書会話編第十一課の内容を確認し,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。			2.0
	授業	第 4 回では,動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて,学生同士で話し合い,考えを集め,第十一課「復習			

		とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「买」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
5	事前学修	教科書会話編第十二課の内容を確認し、動詞「卖」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第5回では、動詞「卖」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十二課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「卖」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
6	事前学修	教科書会話編第十三課の内容を確認し、動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第6回では、動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十三課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「借」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
7	事前学修	教科書会話編第十四課の内容を確認し、動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第7回では、動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十三課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「还」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
8	事前学修	配布資料の内容を確認し、日中交流史（後半その1）の映像授業概要を把握します。	2.0
	授業	第8回では、「ラストエンペラー溥儀と日本」を放映します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、日中交流史（後半その1）を理解します。	2.0
9	事前学修	教科書会話編第十五課の内容を確認し、動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第9回では、動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十五課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「来」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
10	事前学修	教科書会話編第十六課の内容を確認し、動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第10回では、動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十六課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「去」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
11	事前学修	教科書会話編第十七課の内容を確認し、動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第11回では、動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十七課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「穿」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
12	事前学修	教科書会話編第十八課の内容を確認し、動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」を把握します。	2.0
	授業	第12回では、動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」を説明します。 グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、第十八課「復習とまとめ」の二者択一式課題を解答します。	
	事後学修	授業内容を復習し、動詞「脱」の「コラボ型会話のフレーズ」をマスターします。	2.0
13	事前学修	配布資料の内容を確認し、日中交流史（後半その2）の映像授業概要を把握します。	2.0

	授業	第13回では、「溥傑と日本侯爵家令嬢の国際結婚秘話」を放映します。今回の映像授業で印象に残った感想を記入します。	
	事後学修	映像授業の内容を復習し、日中交流史（後半その2）を理解します。	2.0
14	事前学修	後期（「3期・4期」）の授業内容（講義と映像）を確認します。	2.0
	授業	後期（「3期・4期」）の課題を確認します。	
	事後学修	後期（「3期・4期」）の授業内容（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0
15	事前学修	後期（「3期・4期」）の課題で解けなかった問題を調べておきます。	2.0
	授業	後期（「3期・4期」）の課題で解けなかった問題を解説します。	
	事後学修	授業内容全体（講義授業と映像授業）をまとめます。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行います。

■会話編第一課～第八課の課題（復習）：30% ■会話編第九課～第十八課の課題：70%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

会話編第一課～第八課課題（復習）、会話編第九課～第十八課課題の解答解説は講義後半に行います。

教科書	書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）、著者名：田中英夫、出版社：朝日出版社、備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「海外語学・文化研修（中国大連編）」 「海外事情（中国編）」
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ドイツ語Ⅱ A German 2A

担当教員	岩田 聡(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CBL229	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
テーマ：ドイツ語の基礎を学ぶと同時に,ドイツの歴史や文化に対する理解を深める。 一年次で学んだドイツ語は, 初級ドイツ語のいわば前半です。ドイツ語の基礎を固めるためには, さらに残りの半分も勉強して初級レベルのゴールを目指す必要があります。一年次で学んだことを復習しながら, さまざまな場面で使われる語彙を身につけ,ドイツ語表現の理解力・運用能力を高めていきます。また視聴覚教材を活用して,ドイツ語を話す国々の歴史や文化を学びます。						
授業における学修の到達目標						
一年次で学んだドイツ語の語彙や基本的文法を復習しながら, さらに応用練習を重ねてドイツ語の理解力や運用能力を高めましょう。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書 第1 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第1 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	人称代名詞と動詞の人称変化を練習する				2
2	事前学修	教科書 第2 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第2 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	不規則変化動詞と名詞の性を覚える				2
3	事前学修	第3 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第3 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	名詞・代名詞の格変化を練習する				2
4	事前学修	第4 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第4 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	冠詞類の意味と格変化を覚える。否定文や命令文の練習				2
5	事前学修	第5 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第5 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	前置詞と前置詞の格支配を覚える。接続詞の使い方を練習する				2
6	事前学修	第6 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第6 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	話法の助動詞・分離動詞を使った表現を練習する				2
7	事前学修	第7 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	第7 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする				
	事後学修	動詞の3 基本形・過去の表わし方を練習する				2
8	事前学修	第1 課から第7 課までの復習：音声や映像教材「スキット動画」を視聴する				2
	授業	中間のまとめと第1 回テスト				
	事後学修	試験問題の解答を教科書で確認する				2
9	事前学修	第8 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する				2

	授業	第 8 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする	
	事後学修	形容詞の格変化と比較変化を練習する	2
10	事前学修	第 9 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する	2
	授業	第 9 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする	
	事後学修	zu 不定詞と分詞の練習をする	2
11	事前学修	第 10 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する	2
	授業	第 10 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする	
	事後学修	再帰表現・関係代名詞を使った表現を練習する	2
12	事前学修	第 11 課の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する	2
	授業	第 11 課の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする	
	事後学修	受動態を使った表現を練習する	2
13	事前学修	第 12 課前半の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する	2
	授業	第 12 課前半の Dialog, Übung の会話練習・文法解説をする	
	事後学修	接続法第 I 式（間接話法・要求話法）の表現練習	2
14	事前学修	第 12 課後半の予習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する	2
	授業	接続法第 II 式を使った表現の解説・練習をする	
	事後学修	接続法第 II 式（非現実話法・婉曲話法）の表現練習	2
15	事前学修	第 8 課から第 12 課の復習：音声教材や映像教材「スキット動画」を視聴する	2
	授業	後半のまとめと第 2 回テスト	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2

成績評価の方法およびその基準

次の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験：100% □ 小テスト：0% □ その他 [授業中の練習実績]：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験の翌週には、採点した答案を返却し問題と解答の解説をします。
また、POLITE の小テスト等を利用してフィードバックします。

教科書	書名：新・アプライゼ 伝え合うドイツ語, 著者名：高橋亮介・川名真矢 著, 出版社：朝日出版社, 備考：
参考書・Web サイト	https://text.asahipress.com/text-web/deutsche/abreiseneu/
単位修得が望ましい科目	ドイツ語 I A, I B および ドイツ語 II B
備考	教科書会社が配信するストリーミングサービスを活用して、発音や聞き取りの練習をしてください
担当教員の実務経験	なし

ドイツ語ⅡB German 2B

担当教員	岩田 聡(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CBL230
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	2 年	後期	
授業概要					
テーマ：ドイツ語の基礎を学ぶと同時に、ドイツの歴史や文化に対する理解を深める。					
一年次で学んだドイツ語は、初級ドイツ語のいわば前半です。ドイツ語の基礎を固めるためには、さらに残りの半分も勉強して初級レベルのゴールを目指す必要があります。一年次で学んだことを復習しながら、さまざまな場面で使われる語彙を身につけ、ドイツ語表現の理解力・運用能力を高めていきます。また視聴覚教材を活用して、ドイツ語を話す国々の歴史や文化を学びます。					
授業における学修の到達目標					
一年次で学んだドイツ語の語彙や基本的文法を復習しながら、さらに応用練習を重ねてドイツ語の理解力や運用能力を高めましょう。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	『身近なドイツ語』第1課 "Gesundheit" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第1課テキスト "Gesundheit" の読解			
	事後学修	動詞の人称変化・語順の練習			2
2	事前学修	第2課 "Nestlé" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第2課テキスト "Nestlé" の読解			
	事後学修	重要な動詞の人称変化・否定文の練習			2
3	事前学修	第3課 "Pflegeroboter" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第3課テキスト "Pflegeroboter" の読解			
	事後学修	名詞の複数形・不規則動詞の練習			2
4	事前学修	第4課 "Kartoffeln" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第4課テキスト "Kartoffeln" の読解			
	事後学修	定冠詞類・不定冠詞類の練習			2
5	事前学修	第5課 "Zahnpasta" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第5課テキスト "Zahnpasta" の読解			
	事後学修	再帰代名詞・再帰動詞の練習			2
6	事前学修	第6課 "PEZ" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第6課テキスト "PEZ" の読解			
	事後学修	前置詞の練習			2
7	事前学修	第7課 "Zeiss" の予習：音声教材を聞く			2
	授業	第7課テキスト "PEZ" の読解			
	事後学修	複合動詞・従属接続詞の練習			2
8	事前学修	第1課から第7課までの復習			2
	授業	中間のまとめと第1回テスト			
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する			2
9	事前学修	第8課 "Babyklappe" の予習：音声教材を聞く			2

	授業	第 8 課テキスト "Babyklappe" の読解	
	事後学修	話法の助動詞・未来形・非人称の es の練習	2
10	事前学修	第 9 課 "Bier" の予習：音声教材を聞く	2.0
	授業	第 9 課テキスト "Bier" の読解	
	事後学修	動詞の過去分詞・受動文の練習	2
11	事前学修	第 10 課 "Enigma" の予習：音声教材を聞く	2
	授業	第 10 課テキスト "Enigma" の読解	
	事後学修	過去形・zu 不定詞の練習	2
12	事前学修	テキスト『新・アプライゼ』読解演習 1（50 頁）の予習	2
	授業	読解演習 1 のテキストを読む	
	事後学修	複合文と語順の練習	2
13	事前学修	テキスト『新・アプライゼ』読解演習 2（51 頁）の予習	2
	授業	読解演習 2 のテキストを読む	
	事後学修	複合文と指示代名詞の練習	2
14	事前学修	教科書『身近なドイツ語』第 8 課から第 10 課までの復習：音声教材を聞く	2
	授業	『身近なドイツ語』第 8 課から第 10 課までの復習	
	事後学修	話法の助動詞・過去形・受動態の練習	2
15	事前学修	テキスト『新・アプライゼ』読解演習 1, 2 の復習	2
	授業	後半のまとめと第 2 回テスト	
	事後学修	試験問題の正解を教科書で確認する	2

成績評価の方法およびその基準

次の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 試験：100% □ 小テスト：0% □ その他〔授業中の練習実績：0%〕

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験の翌週には、採点した答案を返却し問題と解答の解説をします。
また、POLITE の小テスト等を利用してフィードバックします。

教科書	書名：『新・アプライゼ 伝え合うドイツ語』, 著者名：高橋亮介・川名真矢 著, 出版社：朝日出版社, 備考：前期ドイツ語 II A と同じ教科書です
	書名：『身近なドイツ語』, 著者名：城戸沙織, 出版社：朝日出版社, 備考：
参考書・Web サイト	https://text.asahipress.com/free/german/gesundheit/ https://text.asahipress.com/text-web/deutsche/abreiseneu/
単位修得が望ましい科目	ドイツ語 I A, I B および ドイツ語 II A
備考	教科書会社が配信するストリーミングサービスを活用して、発音や聞き取りの練習をしてください
担当教員の実務経験	なし

情報倫理 Information Ethics

担当教員	三浦 洋 (221 研究室), 守啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLI124
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		2 年	前期・後期
授業概要					
テーマ：情報社会を生きるのに必要な倫理を身につける					
IT 技術の発達に伴って急速に進んだ情報化と社会の中で、かつての伝統的社会では見られなかった新たな問題が様々な分野で起こっています。そのため、旧来一般的だった「伝統倫理」とはやや違った視点や考え方をまじえた「情報倫理」という思想・規範の分野が成立してきました。					
この授業では、情報社会の歴史と特質を様々な角度から学び、情報モラルの尊重など現代社会を人間らしく健全に生きてゆくための情報倫理について考えます。併せて、人類の福祉増進という観点から情報社会の課題を考え、著作権等の知的所有権利活用など IT の分野で現代人のニーズに応じてゆくにはどうすればよいかについても検討します。					
授業における学修の到達目標					
1. 社会の成員として健全に生きてゆくための基本的倫理を、情報社会の特性に即して理解する。					
2. 情報に関する規範や規律を身につける。					
3. 著作権をはじめとする知的所有権を正しく理解し、適切に利活用できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	情報倫理とは何か			
	事後学修	一般的な規範倫理と情報倫理の違いをノートにまとめる			2.0
2	事前学修	教科書のうち情報と情報社会の特徴について予習する			2.0
	授業	情報と情報社会の特徴			
	事後学修	情報と情報社会の特徴についてノートにまとめる			2.0
3	事前学修	教科書のうち携帯電話・スマートフォンのマナーについて予習する			2.0
	授業	携帯電話・スマートフォンのマナー			
	事後学修	携帯電話・スマートフォンのマナーについてノートにまとめる			2.0
4	事前学修	教科書のうちネット上のコミュニケーションについて予習する			2.0
	授業	ネット上のコミュニケーション			
	事後学修	ネット上のコミュニケーションについてノートにまとめる			2.0
5	事前学修	教科書のうち情報発信者の責任について予習する			2.0
	授業	情報発信者の責任			
	事後学修	情報発信者の責任についてノートにまとめる			2.0
6	事前学修	教科書のうち身近な生活における情報について予習する			2.0
	授業	身近な生活における情報			
	事後学修	身近な生活における情報についてノートにまとめる			2.0
7	事前学修	教科書のうちネット社会におけるトラブルと犯罪について予習する			2.0
	授業	ネット社会におけるトラブルと犯罪			
	事後学修	ネット社会におけるトラブルと犯罪についてノートにまとめる			2.0
8	事前学修	教科書のうち個人情報の流出について予習する			2.0

	授業	個人情報の流出	
	事後学修	個人情報の流出についてノートにまとめる	2.0
9	事前学修	教科書のうち個人情報の保護について予習する	2.0
	授業	個人情報の保護	
	事後学修	個人情報の保護についてノートにまとめる	2.0
10	事前学修	教科書のうち知的財産権について予習する	2.0
	授業	知的財産権	
	事後学修	知的財産権についてノートにまとめる	2.0
11	事前学修	教科書のうち著作権について予習する	2.0
	授業	著作権	
	事後学修	著作権についてノートにまとめる	2.0
12	事前学修	教科書のうち情報セキュリティについて予習する	2.0
	授業	情報セキュリティ	
	事後学修	情報セキュリティについてノートにまとめる	2.0
13	事前学修	教科書のうちコンピュータへの被害について予習する	2.0
	授業	コンピュータへの被害	
	事後学修	コンピュータへの被害についてノートにまとめる	2.0
14	事前学修	教科書のうちネット社会のセキュリティ技術について予習する	2.0
	授業	ネット社会のセキュリティ技術	
	事後学修	ネット社会のセキュリティ技術についてノートにまとめる	2.0
15	事前学修	教科書のうち情報社会の現在について予習する	2.0
	授業	情報社会の現在	
	事後学修	情報社会の現在についてノートにまとめる	2.0

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教科書	書名：2024 事例でわかる情報モラル&セキュリティ, 著者名：, 出版社：実教出版, 備考：

単位修得が望ましい科目	なし

情報の世界 Introduction to Information Society

担当教員	内山 俊郎(117 研究室), 上杉 正人(132 研究室), 越野 一博(303 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IBC112	
開 講 学 科		種 別		配 当 年 次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
授業概要						
本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基本的素養を身に付けること、および数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能を扱う際に、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思で AI の恩恵を享受し、これを説明・活用できることを目指します。 講義においては、知識やスキルを理解するための実習などを用意し、学生が主体的に学べるようにします。						
授業における学修の到達目標						
・社会におけるデータ・AI の利活用に関連し、社会の動向、実際のデータ、活用領域、技術、を知る。 ・データ・AI 利活用における留意事項（情報倫理など）について知る。 ・データを読み、扱い、説明するというデータリテラシーを身に付ける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	データ駆動型社会や Society5.0 について、指定した参考資料を読み、内容を把握しておいてください。				2.0
	授業	社会で起きている変化、特に AI の進化による変化について事例と共に学びましょう。AI の歴史（推論・探索の時代、エキスパートシステムが登場する知識の時代、・・・）や「強い AI と弱い AI」、更に生成 AI などの意味について理解しましょう。				
	事後学修	社会で起きている変化の事例、それを説明するための用語について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
2	事前学修	社会で活用されているデータについて講義資料を読み、内容を把握しておきましょう。				2.0
	授業	社会で活用されているデータの事例を、紹介します。データの分類について学んだ後、文書データなどの例を示します。				
	事後学修	データの事例について、いくつかの分類がありました。その違いについて復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
3	事前学修	データ・AI 利活用のための技術について講義資料を読み、内容を把握しておきましょう。				2.0
	授業	データ・AI 利活用のための技術として、どのようなものがあるか紹介した後、教師無し学習であるクラスタリング技術などを使ったデータサイエンス活用事例（特に文書データの解析）について示します。				
	事後学修	講義で出てきた用語、技術について復習し、小テストの 2 回目を受け、満点が取れるようにしましょう。				2.0
4	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。社会の問題や日常生活で感じる不便さをノートに書き出し、問題意識を持って授業に臨んでください。				2.0
	授業	AI を活用した新しいビジネスモデルや AI 最新技術の活用例について講義を行います。				
	事後学修	社会の問題や日常生活の不便さを、紹介した AI 最新技術を使って解決できるか考えてみましょう。				2.0
5	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。自分のパソコンやスマホにあるデータの種類、利用目的や利用方法について調べてみましょう。				2.0
	授業	コンピュータで扱うデータ（数値、文章、画像、音声、動画）の種類や使用目的を学びます。デー				

		タに対する並び替え（ソート）や探索（サーチ）のアルゴリズム表現をフローチャートによって学びます。	
	事後学修	画像、動画、音声・音楽データを提供しているサービスを調べてみましょう。	2.0
6	事前学修	講義資料を読み、内容を把握してください。人間にしかできないと自分が思う作業をノートに書き出してください。	2.0
	授業	マーケティング、製造や物流において、仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援のために活用される AI や、これまで人間しかできなかった分野において、活動代替に利用される AI について学びます。	
	事後学修	AI が使われているサービスや家電製品を調べてみましょう。	2.0
7	事前学修	授業でコンピュータを使いますので、十分に充電をしておいてください。また、Gmail でプログラムを配布しますので Gmail に慣れておいてください。	2.0
	授業	新型コロナ感染拡大の予測をコンピュータシミュレーション（Python によるデモ）により示し、直観的に数理モデルの理解と計算機としてのコンピュータの可能性を講義します。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	配布したプログラムの条件（パラメータ）を変更して各自実験してみましょう。	2.0
8	事前学修	CT 検査、MR 検査などインターネットで検索し、どういう検査か知識を得ておいてください。	2.0
	授業	医療の世界で AI などがどのように普及・利用されているのかを講義を行います。医用画像（MRI や CT から）から臓器を抽出する AI、さらに病変を同定する AI について講義します。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	講義をもとに医療と AI についてインターネットで調べてみましょう。	2.0
9	事前学修	CT の三次元画像についてインターネットで調べてみましょう。三次元画像についての知識を得ておいてください。	2.0
	授業	医療の世界では診断装置の性能が向上し、小さな病気が早期に見つかりようになりました。一方、医療データを扱う上で倫理上の問題も発生しています。機微な医療情報について情報の取り扱いについて講義をします。[上杉正人@医療情報学部]	
	事後学修	医療情報と倫理についてインターネットで調べてみましょう	2.0
10	事前学修	センサの活用例についてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	データとセンシングの概要について、スポーツやゲームなどの身近に活用されている事例を交えて講義を行います。オープンデータ、シビックテック、AI 倫理、AI の社会的受容性についても講義内で扱います。（湯村）	
	事後学修	センサの活用方法について考えてみましょう	2.0
11	事前学修	都市のオープンデータについてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	都市で利用されるセンサやデータの種類や活用方法について、スマートシティや自動運転車などの事例を交えて講義を行います。都市のオープンデータのプラットフォーム PLATEAU に触れる簡易な演習も行います。（湯村）	
	事後学修	都市のオープンデータの活用方法について考えてみましょう	2.0
12	事前学修	パーソナルデータの取り扱いにおける課題についてインターネットで調べてみましょう	2.0
	授業	個人で利用されるセンサやデータの種類や活用方法について、IoT、ウェアラブルデバイス、家庭内センサなどの事例を交えて講義を行います。プライバシー保護、個人情報の取り扱い、パーソナルデータに関わるセンサデータ(行動データ、生体データなど)の取り扱いにおける要点や課題について、実際に起こった事例を交えながら講義を行います。（湯村）	
	事後学修	パーソナルデータの取り扱いにおける課題の解決策について考えてみましょう	2.0
13	事前学修	資料に目を通し、学習内容のアウトラインを把握しておいてください。	2.0
	授業	分布の状況、変化、構成、比率などを評価する上で効果のあるデータ可視化の手法のいくつかにつ	

		いて、実習を通して学びます。	
	事後学修	実習を通して、データより現象の状況を客観的に説明することを意識するようになります。	2.0
14	事前学修	資料に目を通し、学習内容のアウトラインを把握しておいてください。	2.0
	授業	データより観測変量間の関係性を評価する際に有効となる可視化の技術と見方について、実習を通して体験します。	
	事後学修	実習を通して、2つの現象間の関係性を可視化し、その特徴を説明できるようになります。	2.0
15	事前学修	資料に目を通し、学習内容のアウトラインを把握しておいてください。	2.0
	授業	実際の現象を分析する際にデータ分析の進め方をどのように考えていくとよいかという点について、1つの例を紹介します。	
	事後学修	実習を通して、2つの現象間の関係性をモデル化して、その状況を客観的に説明できるようになります。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□レポート：0 % □演習課題：0 % ■小テスト：100 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストに対して、達成度を伝えて正解例を示すことで、フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	なし。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	・
担当教員の実務経験	内山俊郎 2006 年から 2012 年度まで企業の研究所に所属し、文書データ解析、レコメンドの研究を行うとともに、これら研究の成果を関連事業会社において利用可能なものとする実用化（プロダクト化）を行い、事業会社への技術支援を行った。これら実務において、実用化プロジェクトに関わり、これらの技術を現場において適用する過程を見てきた。これら実務経験を生かす形で、講義の中で示す技術の実応用例などを学生に伝え、技術の先にある現場の様子が想像できるような教育を実施する。 越野一博 2003 年度から 2018 年度まで国立の研究所に所属し、医用画像の処理・解析研究を遂行した。その間、医師との共同研究として、機械学習・深層学習手法にもとづく人工知能を利用して、医用画像からの病変領域検出やノイズ除去などを行ってきた。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。 甫喜本司 企業の研究所に所属し、データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきた。本講義では、データ科学の基本的な枠組みについて紹介する。統計学や確率論を基礎として、現象をデータを手がかりとして理解していくための科学的な方法を紹介することとあわせて、企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介する。

心理学 Psychology

担当教員	木下 弘基 (857 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC104
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：人の心のありようを学ぶ。 この授業では心理学の諸領域について幅広く学びます。心理学的な理論や現象を実体験や実際の事例を通して学ぶことで、体験的に「心理学」や「心」への理解を深めます。また、心理学を単に知識として学ぶのではなく、様々な心理学の理論をとおして、自分自身や社会で起きる出来事について、新たな見方を学びます。					
授業における学修の到達目標					
1.様々な領域の心理学に関する基礎知識を身につける。 2.身近な現象や対象を心理学的な視点から考えることができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	1.講義のガイダンスと心理学概説			
	事後学修	POLITE の第 1 回講義資料「1.心理学概説」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0
2	事前学修	POLITE の第 2 回講義資料「2.行動、学習の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	2.行動、学習の心理学			
	事後学修	POLITE の第 2 回講義資料「2.行動、学習の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0
3	事前学修	POLITE の第 3 回講義資料「3.パーソナリティ、性格の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	3.パーソナリティ、性格の心理学			
	事後学修	POLITE の第 3 回講義資料「3.パーソナリティ、性格の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0
4	事前学修	POLITE の第 4 回講義資料「4.知覚、認知、記憶の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	4.知覚、認知、記憶の心理学			
	事後学修	POLITE の第 4 回講義資料「4.知覚、認知、記憶の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0
5	事前学修	POLITE の第 5 回講義資料「5.社会心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	5.社会心理学			
	事後学修	POLITE の第 5 回講義資料「5.社会心理学」等を利用し、事前に学習内容を整理する。			2.0
6	事前学修	POLITE の第 6 回講義資料「6.発達心理学史」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	6.発達心理学			
	事後学修	POLITE の第 6 回講義資料「6.発達心理学」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0
7	事前学修	POLITE の第 7 回講義資料「7.心理学の研究法」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	7.心理学の研究法			
	事後学修	POLITE の第 7 回講義資料「7.心理学の研究法」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0
8	事前学修	POLITE の第 8 回講義資料「8.臨床心理学（1）」等により、事前に学習範囲を把握する。			2.0
	授業	8.臨床心理学（1）			
	事後学修	POLITE の第 8 回講義資料「8.臨床心理学（1）」等を利用し、学習内容を整理する。			2.0

9	事前学修	POLITE の第 9 回講義資料「9.臨床心理学（2）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	9.臨床心理学（2）	
	事後学修	POLITE の第 9 回講義資料「9.臨床心理学（2）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
10	事前学修	POLITE の第 10 回講義資料「10.心理学的アセスメント（1）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	10.心理学的アセスメント（1）	
	事後学修	POLITE の第 10 回講義資料「10.心理学的アセスメント（1）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
11	事前学修	POLITE の第 11 回講義資料「11.心理学的アセスメント（2）」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	11.心理学的アセスメント（2）	
	事後学修	POLITE の第 11 回講義資料「11.心理学的アセスメント（2）」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
12	事前学修	POLITE の第 12 回講義資料「12.心理学の歴史」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	12.心理学の歴史	
	事後学修	POLITE の第 12 回講義資料「12.心理学の歴史」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
13	事前学修	POLITE の第 13 回講義資料「13.健康と心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	13.健康と心理学	
	事後学修	POLITE の第 13 回講義資料「13.健康と心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
14	事前学修	POLITE の第 14 回講義資料「14.情報と心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	14.情報と心理学	
	事後学修	POLITE の第 14 回講義資料「14.情報と心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
15	事前学修	POLITE の第 15 回講義資料「15.思春期、青年期の心理学」等により、事前に学習範囲を把握する。	2.0
	授業	15.思春期、青年期の心理学	
	事後学修	POLITE の第 15 回講義資料「15.思春期、青年期の心理学」等を利用し、学習内容を整理する。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
■試験：50% ■演習課題：45% ■学習態度：5%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の回答、質問については講義内で解説する。 試験結果、課題の回答について質問、照会に応じる。			
教科書			
参考書・Web サイト		「心理学概論 歴史・基礎・応用」 川畑直人・大島剛・郷式徹（監修）加藤弘通 川田学（編） ミネルヴァ書房 （2020） 「心理学・入門：心理学はこんなに面白い（改訂版）」 サトウタツヤ・渡邊芳之 有斐閣（2019）	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		なし	
担当教員の実務経験		札幌市病院局市立札幌病院静療院（2005 年～2012 年）、札幌市保健福祉局児童心療センター（2012 年～2015 年）、札幌市保健福祉局子ども発達支援総合センター（2015 年～2021 年）における臨床心理士としての実務経験を活かし、心理学の体系的な知識の習得と実践的な理解を促していく。	

文学 Japanese Literature

担当教員	韓 然善(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC105
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：日本近現代文学と異文化体験					
本講義では日本近現代文学と異文化体験との関係に注目し、その体験が生み出す様々な矛盾や問題について把握します。講義では具体的な作品を取り上げ、同時代の様々な状況を理解し、ひいては現在の私たちを取り巻く環境について理解することを学びます。					
授業における学修の到達目標					
1. 比較文化・比較文学的な視点から日本文学を理解することができる。					
2. 文学作品の多様な解釈や読み方を身に付けることができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。			2.0
	授業	ガイダンス			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
2	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。			2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験 (1)：夏目漱石の文学におけるロンドン			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
3	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。			2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験 (2)：与謝野晶子の文学におけるパリ			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
4	事前学修	事前に予告した内容について自分で調べる。			2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験 (3)：紀行文学について			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
5	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。			2.0
	授業	日本近代文学のヨーロッパ体験 (4)：横光利一「罌粟の中」を読む			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
6	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。			2.0
	授業	日本近代文学の上海体験 (1)：国際都市上海とモダン・ガール			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
7	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。			2.0
	授業	日本近代文学の上海体験 (2)：横光利一「上海」を読む			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
8	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。			2.0
	授業	日本近代文学の台湾体験 (1)：帝国日本と植民地台湾			
	事後学修	講義資料やノートを再読し、感想や疑問点を書く。			2.0
9	事前学修	次回の授業で扱う資料を読む。			2.0

	授業	日本近代文学の台湾体験 (2)：佐藤春夫「魔鳥」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを読み、感想や疑問点を書く。	2.0
10	事前学修	今回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	日本近代文学の朝鮮体験 (1)：帝国日本と植民地朝鮮	
	事後学修	講義資料やノートを読み、感想や疑問点を書く。	2.0
11	事前学修	今回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	日本近代文学の朝鮮体験 (2)：中島敦「巡査のいる風景」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを読み、感想や疑問点を書く。	2.0
12	事前学修	今回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	戦後の日本文学 (1)：戦争の記憶について	
	事後学修	講義資料やノートを読み、感想や疑問点を書く。	2.0
13	事前学修	今回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	戦後の日本文学 (2)：後藤明生「夢かたり」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを読み、感想や疑問点を書く。	2.0
14	事前学修	今回の授業で扱う資料を読む。	2.0
	授業	戦後の日本文学 (3)：目取真俊「水滴」を読む	
	事後学修	講義資料やノートを読み、感想や疑問点を書く。	2.0
15	事前学修	これまでの講義内容を復習・整理しておく。	2.0
	授業	全体のまとめ	
	事後学修	講義内容をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% □小テスト： % ■レポート：40% □演習課題： % ■その他[授業への参加意欲：10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートや課題に対するフィードバックは授業中に行う。また授業感想や質問に対するコメントは次回以降に取り上げる。

教科書	書名：なし（講義資料を毎回配付する）、著者名：., 出版社：., 備考：.
参考書・Web サイト	講義中に随時紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

歴史学 History

担当教員	小田島 数幸(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLH228
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期
授業概要					
テーマ： わが国の歴史をダイナミックに考察しよう					
○ 皆さんが過ごした高校時代は、学習指導要領上、日本史と地理を選択で履修するため、日本の歴史は中学校以来という方もいるでしょう。そこで、高校での日本史の修得状況に関わらず、原始古代から太平洋戦争までを通史で扱うのが本講義になります。					
○ 日本史に対する基礎知識が備わっている皆さんも、または少々心細い皆さんも、わが国の歴史を探索の面白さを一緒に感じ合える授業を目指します。歴史上の人物の魅力を発見し、出来事の歴史的意義を深めていく展開になります。事前学習では、各回で紹介する書籍に目を通し、事後学習では、後段の参考書一覧から興味・関心に応じて活用し、教養を深めていきましょう。					
○ 授業は、本学が開発した「学習適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して、反転学習を取り入れます。					
授業における学修の到達目標					
1 歴史的出来事を、科学的見地から読み取り、現在の価値観にとらわれることなく考察することができる。					
2 歴史上の人物の功績・魅力を説明するための知識・教養と、それを表現する力を身に付けることができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	『三国志』または、テキスト（2～7 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	考古学上の発見、わが国最古の史料解説、卑弥呼と邪馬台国の謎			
	事後学修	興味を持つ歴史上の人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0
2	事前学修	『日出処の天子』または、テキスト（7～13 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	古墳時代、大陸文化の伝来、聖徳太子の政治・外交と飛鳥文化			
	事後学修	生没年が57～644年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0
3	事前学修	『恋ふるむ鳥は』または、テキスト（13～20 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	大化改新、白村江の戦、壬申の乱、天武朝と白鳳文化			
	事後学修	生没年が645～709年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0
4	事前学修	『空海の風景』または、テキスト（20～23、90～95 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	平城京遷都、奈良時代の政変、遣唐使と天平文化			
	事後学修	生没年が710～793年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0
5	事前学修	『源氏物語（光る君へ）』『枕草子』または、テキスト（23～41 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	平安京遷都、藤原氏の他氏排斥、弘仁・貞観文化、摂関政治の全盛と国風文化			
	事後学修	生没年が794～1018年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0
6	事前学修	『炎立つ』または、テキスト（42～55 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	承平・天慶の乱、奥州藤原氏、院政と保元・平治の乱			
	事後学修	生没年が1019～1179年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0
7	事前学修	『鎌倉殿の13人』または、テキスト（55～66 ページ）に関連する史料の検索と読込			2.0
	授業	源平の争乱と鎌倉幕府成立、将軍暗殺と承久の乱、蒙古襲来と幕府の衰退			
	事後学修	生没年が1180～1296年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する			2.0

		る	
8	事前学修	『太平記』または、テキスト（66～81、95～101ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	鎌倉新仏教と鎌倉文化、南北朝の内乱、建武新政と室町幕府成立	
	事後学修	生没年が1297～1441年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
9	事前学修	『国盗り物語』または、テキスト（81～89、101～117ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	応仁の乱、室町文化、戦国大名の領国支配、織田信長の統一事業	
	事後学修	生没年が1442～1582年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
10	事前学修	『真田太平記』または、テキスト（117～134、162～168ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	秀吉の全国統一、関ヶ原の戦い、大坂冬の陣・夏の陣、安土・桃山文化、江戸初期の外交	
	事後学修	生没年が57～1632年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
11	事前学修	『赤穂浪士』または、テキスト（134～185ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	幕藩体制、鎖国の成立、元禄文化、江戸幕府三大改革と幕政衰退	
	事後学修	生没年が1633～1709年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
12	事前学修	『竜馬がゆく』『新選組』または、テキスト（187～198ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	黒船来航、尊王攘夷と薩長連合・江戸幕府の滅亡、戊辰戦争と明治維新	
	事後学修	生没年が1710～1876年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
13	事前学修	『翔ぶが如く』または、テキスト（198～211ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	征韓論と西南戦争、大日本帝国憲法、条約改正交渉	
	事後学修	生没年が1877～1894年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
14	事前学修	『坂の上の雲』または、テキスト（211～236ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	日清戦争、日英同盟、日露戦争、韓国併合	
	事後学修	生没年が1895～1910年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0
15	事前学修	「知覧特攻平和会館の書籍」、テキスト（237～260ページ）に関連する史料の検索と読込	2.0
	授業	五・一五事件、国際連盟脱退、真珠湾攻撃、東京大空襲、沖縄戦、原爆投下、東京裁判	
	事後学修	生没年が1911～1948年の期間に該当する人物を2名抽出し、各200字の説明文を作成する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。」

■試験：70% □小テスト： % ■レポート： 30% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートについて講評する

教科書 書名：概論日本歴史, 著者名：佐々木潤之介他編, 出版社：吉川弘文館, 備考：

参考書・Web サイト 小和田哲男著 『人物比較でわかる日本史』

	(KADOKAWA、2017年) ISBN 978-4-04-400216-9 松本一夫著 『史料で解き明かす日本史－歴史学者の謎解きを体験する』 (ベレ出版、2021年) ISBN 978-4-86064-654-7
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	1984年から2022年までの38年間、道立高等学校で地歴・公民科教員（2015年からは教頭・校長）の経験を持つ。主に日本史A・Bを担当し、物語のように演じる劇場型の授業で生徒を魅了し、暗記型教科からの脱却を図る。本学においても学生による評価は満足度が高い傾向にある。 歴史上の人物を、自分の言葉で説明する手法を反復し、社会に出てから応用可能な教養として身に付く授業を実践する。

哲学 Philosophy

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLH129
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期
授業概要					
テーマ：西洋哲学史を学び、哲学的思考を身につける					
哲学は元来、すべての学問を包摂する知的探究の営みです。情報サイエンスを含め、理科系・文科系あらゆる学問の祖が哲学なのです。この講義では、哲学が始まった最も古い時代にあたる西洋古代哲学の歴史を概観しながら、現代哲学まで受け継がれてきた問題群と、哲学独特の探究方法を学びます。 哲学には人間の思考の原型が秘められていますので、哲学を学ぶことは他の様々な学習にも役立ちます。というのも、自分の力で物事を粘り強く考え、考えたことを論理的に整理する姿勢・能力を養うことができます。講義の中でときどき難しい言葉に出会っても敬遠せず、哲学者がその言葉をあえて使った意味を根気よく考えてみてください。					
授業における学修の到達目標					
1 哲学という学問の基本的なあり方を理解するとともに、文化・思想の歴史的多様性を理解する。					
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表すことの重要性を理解する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	学問としての「哲学」			
	事後学修	学問としての「哲学」の特徴について復習する			2.0
2	事前学修	教科書のうちイオニア学派について説明した部分を読む			2.0
	授業	ミレトスの自然哲学			
	事後学修	ミレトスの自然哲学の特徴について復習する			2.0
3	事前学修	教科書のうちヘラクレイトスの思想について説明した部分を読む			2.0
	授業	ヘラクレイトスの思索			
	事後学修	ヘラクレイトスの思索の特徴について復習する			2.0
4	事前学修	教科書のうちピタゴラス派について説明した部分を読む			2.0
	授業	ピタゴラス派の問題			
	事後学修	ピタゴラス派の問題について復習する			2.0
5	事前学修	教科書のうちエレア学派について説明した部分を読む			2.0
	授業	エレア派のパラドックス			
	事後学修	エレア派のパラドックスの特徴について復習する			2.0
6	事前学修	教科書のうちエンペドクレスとアナクサゴラスについて説明した部分を読む			2.0
	授業	機械論と目的論の対立			
	事後学修	機械論と目的論の対立について復習する			2.0
7	事前学修	教科書のうちソフィストについて説明した部分を読む			2.0
	授業	ソフィストの登場			
	事後学修	ソフィストの思想の特徴について復習する			2.0
8	事前学修	教科書のうち紀元前 5 世紀の思想状況について説明した部分を読む			2.0
	授業	ソクラテス以前の哲学のまとめ			

	事後学修	ソクラテス以前の哲学の特徴について復習する	2.0
9	事前学修	教科書のうちソクラテスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	ソクラテスの転換	
	事後学修	ソクラテスの思想の特徴について復習する	2.0
10	事前学修	教科書のうちプラトンの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	プラトンとイデア論	
	事後学修	プラトンのイデア論について復習する	2.0
11	事前学修	教科書のうちアリストテレスの思想について説明した部分を読む	2.0
	授業	アリストテレスの思想	
	事後学修	アリストテレスの思想の特徴について復習する	2.0
12	事前学修	教科書のうち中世哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	中世哲学の課題	
	事後学修	中世哲学の課題について復習する	2.0
13	事前学修	教科書のうち近世哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	近世哲学の展開	
	事後学修	近世哲学の展開について復習する	2.0
14	事前学修	教科書のうち近代哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	近代哲学の問題	
	事後学修	近代哲学の問題について復習する	2.0
15	事前学修	教科書のうち現代哲学について説明した部分を読む	2.0
	授業	現代哲学の発展	
	事後学修	現代哲学の発展について復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■小テスト：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストの採点后、設問に関する質問に対応するとともに、正解率の低かった設問の正解について解説する。

教科書	書名：西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相, 著者名：岩田靖夫ら, 出版社：有斐閣, 備考：紙媒体に限る。電子書籍は不可。
参考書・Web サイト	とくに指定しないが、授業内容に関連する書籍については適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

経済学 I Economics 1

担当教員	伊藤 好一()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC106
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中
授業概要					
コロナ禍を経て、わが国でも経済的な諸問題が発生し、社会経済は変化や対応が求められました。今後も様々な経済問題が発生するでしょう。先の見えないこれからの時代に活躍するためには経済問題の本質を正確に捉える“知識”が必要です。経済学は家計や企業の経済行動に対して「市場」を通じて分析するミクロ経済学と、一国または複数の国に生じる経済現象を分析するマクロ経済学の2つに大別できます。本講義では前者のミクロ経済学を学習し、経済問題が発生するメカニズムおよびその影響を理解し説明できるようになることを目指します。 本講義ではスライドを用いた講義形式を主としつつ、適宜、ディスカッションやQ&Aなどのアクティブ・ラーニング形式も取り入れて授業を行います。区切りごとに小テストやレポート提出を行います。					
授業における学修の到達目標					
① 経済学の考え方を身につけ、分析手法を理解する					
② ニュース等で報じられている現実の経済現象を経済学の視点から分析し、説明できるようになる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読む			2.0
	授業	ガイダンス：ミクロ経済学とは？			
	事後学修	本講義の内容を把握する			2.0
2	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	経済学の系譜			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
3	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	需要と供給			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
4	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	需要曲線			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
5	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	消費者行動			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
6	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	供給曲線			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
7	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	費用の構造			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
8	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	供給行動			
	事後学修	講義内容の復習			2.0

9	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	余剰分析	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
10	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	資源配分のゆがみ	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
11	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	独占と競争の理論	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
12	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	市場の失敗	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
13	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	不確実性と不完全情報	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
14	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	ゲーム理論	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
15	事前学修	前回の復習・講義範囲の復習	2.0
	授業	まとめ：これからの市場経済のあり方について考える	
	事後学修	講義内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % ■小テスト：60% ■レポート：40% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テストの解説、レポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：入門 経済学〈第4版〉，著者名：伊藤元重，出版社：日本評論社，備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	経済学Ⅱ（経済学Ⅰを履修し、次に経済学Ⅱを履修することが望ましい）
備考	特に無し
担当教員の実務経験	実務経験なし

経済学Ⅱ Economics 2

担当教員	伊藤 好一()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLS131
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中
授業概要					
現在の日本は物価高，急激な円安，増え続ける財政赤字など経済問題が山積しています。これらの解決策を考えるためには，まずこれらの問題のメカニズムを理解する必要があります。経済学は家計や企業の経済行動に対して「市場」を通じて分析するミクロ経済学と，一国または複数の国に生じる経済現象を分析するマクロ経済学の2つに大別できます。本講義では後者のマクロ経済学を学習します。ニュース等で見聞きする国レベルの経済現象がどのようなメカニズムで生じるのかを理解し，説明できるようになることを目指します。 本講義ではスライドを用いた講義形式を主としつつ，適宜，ディスカッションやQ&Aなどのアクティブ・ラーニング形式も取り入れて授業を行います。区切りごとに小テストやレポート提出を行います。					
授業における学修の到達目標					
① 経済学の考え方を身につけ，分析手法を理解する					
② ニュース等で報じられている現実の経済現象を経済学の視点から分析し，説明できるようになる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読む			2.0
	授業	ガイダンス：マクロ経済学とは？			
	事後学修	本講義の内容を把握する			2.0
2	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	世界経済・経済危機の歴史①：大恐慌まで			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
3	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	世界経済・経済危機の歴史②：アジア通貨危機まで			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
4	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	世界経済・経済危機の歴史③：リーマンショックまで			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
5	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	日本経済の歴史			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
6	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	マクロ経済学のキーワード：GDP			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
7	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	有効需要			
	事後学修	講義内容の復習			2.0
8	事前学修	前回の復習・教科書による予習			2.0
	授業	乗数メカニズム			
	事後学修	講義内容の復習			2.0

9	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	貨幣の機能	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
10	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	マクロ経済政策：財政政策	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
11	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	マクロ経済政策：金融政策	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
12	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	インフレ・デフレ	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
13	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	失業	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
14	事前学修	前回の復習・教科書による予習	2.0
	授業	国際経済学	
	事後学修	講義内容の復習	2.0
15	事前学修	前回の復習・講義範囲の復習	2.0
	授業	まとめ：これからのマクロ経済のあり方について考える	
	事後学修	講義内容の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % ■小テスト：60% ■レポート：40% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テストの解説、レポートに対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：入門 経済学〈第4版〉，著者名：伊藤元重，出版社：日本評論社，備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	経済学Ⅰ（経済学Ⅰを履修し、次に経済学Ⅱを履修することが望ましい）
備考	特に無し
担当教員の実務経験	実務経験なし

法学 Law

担当教員	関根 洋 (229 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC107
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
テーマ：法律学に関する基礎的な知識の習得					
六法の使い方、条文の構造と読み方から始めて、法律学を専攻しない皆さんが、法律学に関する概括的知識を習得することを目的とします。					
民法・商法の履修を考えている皆さんは、この科目を履修することを強く希望します。					
授業における学修の到達目標					
民法・商法の履修に際して前提となる、法律学に関する基礎的な知識を習得すること。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読んできて下さい			2
	授業	開講に際して(履修上の諸注意)			
	事後学修	ノートを読み直してください 手許の六法が「条件に適ったもの」であるかどうか確認してください			2
2	事前学修	前回の授業時に配布されたプリントを通読			2
	授業	六法の使い方・条文の構造と読み方(プリント配布)			
	事後学修	配布されたプリントを参照しながら(実際に条文の検索を練習して)六法の使用方法に慣熟			2
3	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2
	授業	紛争と法(教科書第 6 章 1)			
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読			2
4	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2
	授業	裁判のしくみ(教科書第 6 章 2)			
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読			2
5	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2
	授業	紛争解決方法のいろいろ(教科書第 6 章 3)			
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読			2
6	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2
	授業	一般法と特別法(教科書第 7 章 1)			
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読			2
7	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2
	授業	判例法(教科書第 7 章 2)			
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読			2
8	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2
	授業	法の解釈(教科書第 7 章 3)			
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読			2
9	事前学修	教科書の指定箇所を通読			2

	授業	公法と私法(教科書第7章4)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
10	事前学修	教科書の指定箇所を熟読 前回の授業時に提示された課題について自分の考えをまとめる	2
	授業	民事責任と刑事責任(1) 「民法・刑法」の条文にはどのようなことが書かれているか (教科書第7章5・以下第14回授業まで同じ)	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
11	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(2) 民事法および刑事法の趣旨・目的	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
12	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(3) 責任の顕れ方	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
13	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(4) 未遂犯	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
14	事前学修	教科書の指定箇所を通読	2
	授業	民事責任と刑事責任(5) 過失の取扱	
	事後学修	授業ノートと対照しながら教科書の該当箇所を熟読	2
15	事前学修	前回の授業時に提示された「応用問題」「時事問題」について自分の考え方をまとめる	2
	授業	応用問題又は時事問題	
	事後学修	授業ノートと対照しながら、事前学習でまとめた「自分の考え」についてもう一度考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：100 % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験問題・成績について質問・照会に応じます(成績に関する陳情は勿論不可です)。

教科書	書名：ポケット六法 令和6年版, 著者名：, 出版社：有斐閣, 備考：
	書名：法の世界へ 第9版, 著者名：池田真朗ほか, 出版社：有斐閣, 備考：
参考書・Web サイト	特にありません。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	初回の授業で、履修に関する重要な諸注意を与えます。知らずに不利益を被るおそれがあるので、履修予定者は、初回の授業には必ず出席してください。
担当教員の実務経験	実務経験なし

社会学 Sociology

担当教員	呉 亦悦(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC108
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：社会と個人の関係について考えてみよう					
社会学は、これまで社会と個人との関係がどのようなものであるのかを問題にしてきた。この講義では、社会学という学問領域で蓄積されてきた基本的な知識を紹介・解説していくことを通じて、「社会学とは何か」「社会学ではどのようなことが問題とされているのか」「社会学ではどのような方法で社会現象を分析するのか」「その結果、どのような発見ができるのか」といったことについての理解を深めてもらうことを目的とする。					
受講生には、社会学の諸概念を知識として理解するだけでなく、社会システムの変化や新しい社会現象に目を向け、それらの現実の問題を考察する手がかりとすることを学んでほしい。そのための材料として、本講では少子高齢化、格差と貧困、ジェンダー、社会福祉など、近年の問題として取り上げられている様々な現象を話題・教材として取り上げる。					
授業における学修の到達目標					
(1) 社会に対する関心を深め、社会の一員としての自覚をもつ。					
(2) 社会学的センスを磨き、現状分析や問題解決の力とする。					
(3) 社会学的方法を駆使してレポートを書く力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握すること			2.0
	授業	「社会学」の概観と社会調査			
	事後学修	社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること			2.0
2	事前学修	第 2 回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと			2.0
	授業	人間の行為と相互行為を理解する			
	事後学修	人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること			2.0
3	事前学修	第 3 回講義資料「家族：家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと			2.0
	授業	家族：家族関係の変容			
	事後学修	家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること			2.0
4	事前学修	第 4 回講義資料「教育：学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと			2.0
	授業	教育：学歴社会と文化的再生産			
	事後学修	社会学の視点から教育を説明してみること			2.0
5	事前学修	第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと			2.0
	授業	労働：非正規雇用と若者の就職問題			
	事後学修	労働に関わる問題の例を考え、まとめること			2.0
6	事前学修	第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと			2.0
	授業	階層と階級：格差と社会的排除			
	事後学修	階層と階級の相違点を説明してみること			2.0
7	事前学修	第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握しておくこと			2.0
	授業	ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT			
	事後学修	セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること			2.0

8	事前学修	第8回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ	
	事後学修	政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみる	2.0
9	事前学修	第9回講義資料「グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ	
	事後学修	グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめる	2.0
10	事前学修	第10回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影	
	事後学修	メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめる	2.0
11	事前学修	第11回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	宗教：宗教の社会貢献	
	事後学修	宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめる	2.0
12	事前学修	第12回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護	
	事後学修	少子高齢社会の問題点を、考えてまとめる	2.0
13	事前学修	第13回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	社会福祉：医療と社会保障	
	事後学修	日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめる	2.0
14	事前学修	第14回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと	2.0
	授業	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型	
	事後学修	地域社会づくりの設計について、考えてみる	2.0
15	事前学修	第15回講義資料「社会学的なデータの読み解き」第15回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること	2.0
	授業	全体のまとめ	
	事後学修	15回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考える	2.0

成績評価の方法およびその基準

■ 期末レポート：60%

■ 演習課題(グループワークやディスカッションを含む)：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回講義末尾に質疑応答の時間を設けます。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求めます。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭(あるいは末尾)で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとします。

教科書	書名：ウェルビーイングの社会学, 著者名：櫻井義秀編, 出版社：北海道大学出版会, 備考：
参考書・Web サイト	① 櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編『アンビシャス社会学』北海道大学出版会, 2014 年
単位修得が望ましい科目	日本語表現Ⅱ (レポートの書き方), 情報の世界 (情報収集と分析方法)
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

憲法 Constitution

担当教員	森山 弘二(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC109
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
<科目のテーマ> 憲法を通して政府の仕組みや政府がやっていることを理解する。 <授業の概要> 憲法は国の基本法とか根本法とかいわれます。つまり、 憲法とは、 国家の基本的な仕組みやあり方を定めた法のことです。 現にある国家の仕組みや政治権力の実態そのものが憲法なのではありません。 憲法は法規範の一つですから、 国家政治のあるべき姿を定めた基本的ルールが憲法にほかなりません。 憲法は、 また、 国の最高法ともいわれます。 あらゆる政治権力は憲法に従って行使されなければならないわけですから、 国会や内閣などが作った法よりも憲法は強い力をもっていなければならないことはいわば当然のことです。 それでは、 なぜ、 われわれはこうした憲法を必要としたのでしょうか。 なぜ、 われわれの祖先は、 民主的に成立した国会や内閣の権力さえ拘束する憲法を作り出したのでしょうか。 いくつかの回答が可能だと思いますが、 その答えは講義を楽しみにしててください。					
授業における学修の到達目標					
近代憲法の歴史と原理、および日本国憲法の概要を理解することです。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の該当箇所(教科書の目次と索引をともに参照して下さい)の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)			2
	授業	オリエンテーション・憲法の意義と概念			
	事後学修	授業の復習を事項／専門用語を中心にノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)			2
2	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)			2
	授業	立憲主義			
	事後学修	授業の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)			2
3	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)			2
	授業	近代国家と主権			
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)			2
4	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)			2
	授業	国民主権			
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)			2
5	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)			2
	授業	人権尊重主義			
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)			2
6	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)			2
	授業	平和主義			
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)			2

		こと(2 時間程度)	
7	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	権力分立	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
8	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	法の支配	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
9	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	明治憲法と日本国憲法の成立	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
10	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権と個人の尊厳	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
11	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権の主体と客体	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
12	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	人権各論	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
13	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	国会と議院内閣制	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
14	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	裁判所と違憲審査制	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2
15	事前学修	教科書の該当箇所の通読と用語の確認をノートに整理しておくこと(2 時間程度)	2
	授業	地方自治と憲法保障	
	事後学修	教科書の復習とノートの整理をしておくこと、また適宜指示する関連事項の発展的学習を心がけること(2 時間程度)	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト % ■レポート：100 % □演習課題： %

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート回収後講評を配信する予定です。	
教科書	書名：憲法・法学講義, 著者名：柏崎敏義, 出版社：敬文堂, 備考：
参考書・Web サイト	新旧両憲法の条文は最低限必要です。
単位修得が望ましい科目	法学
備考	
担当教員の実務経験	特になし

国際関係論 International Relations

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CLS135	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3・4 年	前期	
授業概要						
テーマ：日本の国連と近隣諸国外交及び日米同盟について学ぶ						
冷戦終結から 30 年以上が過ぎた。						
米国の一極支配は揺らぎ,中国の台頭などによる多極化時代を迎えている。						
この変動する世界で,平和と繁栄へつながらず確かな戦略をどう描き出していくのか。それは国際社会が直面する重要な課題である。						
日本が国連加盟した翌年の 1957 年に発行された「外交青書」には,「国連中心」を日本外交の三つの柱の第一として掲げている。二番目が「日米同盟」,三番目が「アジア重視」である。これは日本の外交活動の基調をなすものとして定めた日本外交の三原則である。						
本講義では,「国際関係論」の基本的な知識を整理し,用語と映像で「首相談話と戦前日本外交の総括」,「日本の国連外交」,「日本の近隣諸国外交」,「日米同盟の強化」を中心に講義を進めていきたい。						
授業における学修の到達目標						
「国際関係論」では,首相談話と戦前日本外交の総括,日本の国連外交,近隣諸国外交,日米同盟強化の基礎知識習得を目標としている。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	教科書とシラバスを確認し,授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	ガイダンス,この科目で学習する「国際関係論」関連用語と映像について説明する。 「戦後 70 年首相談話」などの映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「戦後の首相談話」についてまとめる。				2.0
2	事前学修	教材内容を確認し,「満州事変」の関連用語を把握する。				2.0
	授業	「満州事変」の映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「満州事変と戦前の日本外交」についてまとめる。				2.0
3	事前学修	教材内容を確認し,「戦後の日本外交」関連用語を把握する。				2.0
	授業	「戦後の日本外交」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「戦後の日本外交」についてまとめる。				2.0
4	事前学修	教材内容を確認し,「冷戦下の日本外交」関連用語を把握する。				2.0
	授業	「冷戦下の日本外交」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「冷戦下の日本外交」についてまとめる。				2.0
5	事前学修	教材内容を確認し,「冷戦終結」関連用語を把握する。				2.0
	授業	「冷戦終結への道」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。				
	事後学修	授業内容を復習し,「冷戦終結」についてまとめる。				2.0
6	事前学修	教材内容を確認し,「日本の国連外交」関連用語を把握する。				2.0
	授業	「国連の挑戦」映像を放映する。				

		今回の映像授業で印象に残った感想を記入すると同時に、グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、「日本の国連外交」についてのクイズ式課題の解答を求める。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日本の国連外交」についてまとめる。	2.0
7	事前学修	教材内容を確認し、「日中関係の現状と課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「日中国交正常化への道」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日中関係」についてまとめる。	2.0
8	事前学修	教材内容を確認し、「日韓関係の現状と課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「日韓条約交渉の内幕」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日韓関係」についてまとめる。	2.0
9	事前学修	「1期」で実施した内容を確認し、中間筆記試験の範囲（関連用語）を把握する。	2.0
	授業	中間筆記試験（関連用語）を実施する。	
	事後学修	中間筆記試験で理解できなかった用語を調べておく。	2.0
10	事前学修	教材内容を確認し、「日ロ関係の現状」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「北方領土交渉」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日ロ関係の現状」についてまとめる。	2.0
11	事前学修	教材内容を確認し、「日ロ関係の課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「北方領土解決の道は？」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入すると同時に、グループワークによるディスカッションを通じて、学生同士で話し合い、考えを集め、「日ロ関係」についてのクイズ式課題の解答を求める。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日ロ関係の課題」についてまとめる。	2.0
12	事前学修	教材内容を確認し、「日米関係の現状」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「沖縄返還の全貌」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「沖縄と米軍基地」についてまとめる。	2.0
13	事前学修	教材内容を確認し、「日米関係の課題」関連用語を把握する。	2.0
	授業	「日米同盟と日本の国際貢献」映像を放映する。 今回の映像授業で印象に残った感想を記入する。	
	事後学修	授業内容を復習し、「日米同盟と日本の国際貢献」についてまとめる。	2.0
14	事前学修	「日本の国連と近隣諸国外交及び日米同盟強化」関連用語を確認する。	2.0
	授業	「1期・2期」関連用語課題の範囲を確認する。	
	事後学修	「1期・2期」関連用語と映像授業内容をまとめる。	2.0
15	事前学修	「1期・2期」の課題で理解できなかった関連用語を調べておく。	2.0
	授業	「1期・2期」関連用語の課題を解説する。	
	事後学修	「国際関係論」関連用語と映像授業内容をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■中間筆記試験：30% ■映像授業感想文：30% ■関連用語に関する期末の課題：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「クイズ式課題」実施後の回答解説は講義後半に行う。	
教科書	書名：『用語でわかる国際経済と国際関係』，著者名：田中英夫, 出版社：丸善プラネット, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

関数の基礎 Fundamentals of Functions

担当教員	森山 洋一 (853 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN138
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：基本的な 1 変数関数とそのグラフについての学習					
ある現象を解析するとき、その現象を記述する関数を考え、その関数を数学的に解析することが最も有効な方法の一つです。つまり、数学的な解析によって現象を解明することが出来るようになります。したがって、関数は数学では必要不可欠の概念です。 この科目では、この関数についての基本的な事項を学習します。特に基本的な、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数を重点的に学習します。なお、用語の概念や計算力を定着させるために、POLITE にある Web 演習も併用します。これは授業時間以外にも、放課後や自宅でも取り組んでもらいます。 なお、内容的には前期の履修科目、基礎数学の内容と重複します。上記の関数の学習が不十分であると感じている学生を対象としています。					
授業における学修の到達目標					
1. 関数の概念とグラフの概念を理解する。					
2. 基本的な関数の定義を覚え、その値を計算できるようにする。					
3. 関数がどのような場面で使用されているのかを理解する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	実数と集合について学習する。			
	事後学修	1 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。			2.0
2	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	写像と関数、グラフについて学習する。			
	事後学修	2 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。			2.0
3	事前学修	POLITE から第 3 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	1 次関数とグラフ（直線）の関係を学習する。			
	事後学修	3 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。			2.0
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	1 次関数の式の求め方を学習する。			
	事後学修	4 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。			2.0
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	2 次関数の標準形とそのグラフについて学習する。			
	事後学修	5 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。			2.0
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	2 次関数の一般形とそのグラフについて学習する。			
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。			2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	弧度法と度数法の関係について学習する。			

	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	POLITE から第 8 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	三角比の定義と値について学習する。	
	事後学修	8 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	一般角の三角比の定義と三角関数について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	三角関数の基本性質と値について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	指数の拡張と指数関数について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	指数法則と指数関数の値について学習する。	
	事後学修	12 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	対数の定義と値について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロードし又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	対数法則と対数関数について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題や Web 課題を解く。	2.0
15	事前学修	3 回目～14 回目までの講義内容をレジメやノートを参考にして見直しておく。	3.0
	授業	演習用プリントで、3 回目～14 回目までの内容の総復習を行う。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。また、宿題も行う。	1.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験 60% ■平常点 40%（小テスト、Web 課題、演習、宿題）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中に行った小テストや演習のプリントは、採点后返却します。間違った箇所を確認し、修正して再提出してもらいます。宿題も同様。

また、Web 課題の取り組み状況は、一覧表にして POLITE に載せます。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE の「関数の基礎」のページ
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	☆講義中の板書をメモし、復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：微分積分Ⅰ&Ⅱ、線形代数Ⅱ、確率・統計Ⅰ&Ⅱ
担当教員の実務経験	実務経験なし

身近な数学 Elementary Mathematics

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC110
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	冬期集中	
授業概要					
科目テーマ 数学の定義と記法の確認					
様々な分野において、数学を用いて表現・解析することは、コンピュータの発展により、一般的になっています。数学で用いられる記法を理解することは、そのままプログラミングを理解することにつながります。また、数の計算は定義に従って実行されますが、式や計算結果については、その立式の状況により大きく異なります。数学は定義を正しく理解することが肝要であり、正しい理解により、問題へと数学を応用できるのです。					
この科目では、算数・数学で学んできた内容だけでなく、知っておくと便利な記法や考え方について学びます。定義の再確認だけでなく、定義の解釈についても考えていきます。					
授業における学修の到達目標					
1. 各項目における定義とその解釈を身に付ける。					
2. 詳細な計算をすることなく、どのような結果になるかを判断する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	分数・小数			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2
2	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	比・割合			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2
3	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	単位			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2
4	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	拡大縮小			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2
5	事前学修	ここまでの内容を復習する。			2
	授業	演習 1			
	事後学修	演習の内容を再度確認する。			2
6	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	記数法			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2
7	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	添え字集合			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2
8	事前学修	教科書の内容を確認しておく。			2
	授業	漸化式			
	事後学修	講義内容を再度確認する。			2

9	事前学修	教科書の内容を確認しておく。	2
	授業	平均・分散	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
10	事前学修	ここまでの内容を復習する。	2
	授業	演習 2	
	事後学修	演習の内容を再度確認する。	2
11	事前学修	教科書の内容を確認しておく。	2
	授業	対数	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
12	事前学修	教科書の内容を確認しておく。	2
	授業	弧度	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
13	事前学修	教科書の内容を確認しておく。	2
	授業	円と三角関数	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
14	事前学修	教科書の内容を確認しておく。	2
	授業	組み合わせ	
	事後学修	講義内容を再度確認する。	2
15	事前学修	ここまでの内容を復習する。	2
	授業	演習 3	
	事後学修	演習の内容を再度確認する。	2

成績評価の方法およびその基準

■試験：20% ■小テスト：50% □レポート： % ■演習課題：30% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を用いて課題提出・フィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

線形代数Ⅰ（情報メディア学科は「線形代数」） Linear Algebra

担当教員	森山 洋一 (853 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ILC208	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
授業概要						
テーマ：線形代数学の基本的な道具である行列と行列式の概念とその応用						
線形代数学は、微分積分学と並び大学教養課程の数学では最も基本的な科目であり、将来の専門科目(コンピューター・グラフィックス、画像処理、オペレーションズ・リサーチ、etc)や自然科学の為の予備知識として必要不可欠の科目です。 線形代数Ⅰにおいては、連立1次方程式を一般的に解く事を応用として、線形代数学の基本的な概念である行列と行列式について学習します。行列は数を長方形の形に並べたものですが、この行列によって連立1次方程式を表現することができます。行列に対しては“階数”や“行列式”といった量が定義できますが、これらの量を調べる事によって連立1次方程式の解の形を知ることができます。このことを具体的な計算によって追求していきます。 なお、用語の概念や計算力を定着させるために、POLITEにあるWeb演習も併用します。これは授業時間外に、放課後や自宅で宿題として取り組んでももらいます。						
授業における学修の到達目標						
1. 行列の演算（特に、積）に慣れ、数の場合の演算と異なる点を理解する。						
2. 行列の簡約化の計算をミスなくできるようにし、連立1次方程式の解法や逆行列を求める方法である“掃き出し法”を修得する。さらに、行列の階数と連立1次方程式の解との関係を理解する。						
3. 2次、3次の行列式の計算法（サラスの方法）を完全に修得する。そして、クラメルの公式を利用して連立1次方程式を解いたり、余因子行列や逆行列を求められるようにする。						
4. 行列式を計算することによって何が分かるのか、それを理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第1回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	行列の定義と行列についてのいくつかの用語（成分、ベクトル、スカラーなど）をまず、学習する。後半は、行列の演算、行列の和とスカラー倍（ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍も含む）と行列の積について学習する。特に行列の積は、ベクトルの内積と関係していることを学ぶ。				
	事後学修	1回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。				2.0
2	事前学修	POLITE から第2回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	正方行列と行列の演算法則、数の演算との違いを学習する。				
	事後学修	2回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。				2.0
3	事前学修	POLITE から第3回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	連立1次方程式の解法である掃き出し法の概要をまず、学習する。後半は、掃き出し法で必要になる簡約な行列について学習する。				
	事後学修	3回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。				2.0
4	事前学修	POLITE から第4回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	掃き出し法の準備として、行列の簡約化と行列の階数について学習する。				
	事後学修	4回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を				2.0

		解く。	
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式を掃き出し法で解く方法を学習する。特に、解が存在する場合を重点的に学習する。	
	事後学修	5 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
6	事前学修	第 3 回目から第 5 回目までの内容を復習する。また、6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式を掃き出し法で解く方法の 2 回目。特に、解が存在しない場合を重点的に学習する。その後、連立 1 次方程式の解と行列の階数との関係を述べた定理を学習し、後半は演習を行う。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	逆行列と、逆行列を用いた連立 1 次方程式の解法を学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	第 1 回目から第 7 日目までの講義の復習を行う。さらに、Web 課題をもう一度解く。	3.0
	授業	第 7 回までの範囲の試験（中間試験）を行う。	
	事後学修	試験問題を思い出し、解法を確認する。	1.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	順列の符号についてまず、学習する。その後、行列式の定義を学習し、2 次、3 次の行列式の計算法（サラスの方法）も学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	行列式の基本的な性質について学習する。最後に、それを用いた 4 次の行列式の計算法を学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	行列の積の行列式について、まず学習する。さらに行列式の幾何学的な応用も学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
12	事前学修	9 回目から 11 回目までの講義を復習しておく。	2.0
	授業	行列式の計算や応用に関する演習を行う。	
	事後学修	もう一度、9 回目から 11 回目までの講義の内容を復習する。さらに、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	行列式の余因子展開について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	余因子行列と逆行列の関係について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0

15	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	連立 1 次方程式の解の公式である、クラメル公式を学習する。	
	事後学修	15 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■試験：60% ■平常点: 40%（小テスト、Web 課題、演習課題、宿題、レポート）			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業中に行った小テスト、中間試験や演習のプリントは、採点后返却します。間違った箇所を確認し、修正して再提出してもらいます。 Web 課題については、取り組み状況を POLITE に掲示します。			
教科書		書名：線形代数入門 [第 2 版]，著者名：森山洋一，出版社：ムイスリ出版，備考：	
参考書・Web サイト		POLITE 上の線形代数 I のページ	
単位修得が望ましい科目		基礎数学	
備考		☆講義中の板書をメモし、復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：線形代数 II，統計学・確率論（旧課程は「確率・統計 I，II」）	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

線形代数Ⅱ Linear Algebra 2

担当教員	森山 洋一 (853 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN237
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
テーマ：線形代数学の現代的な概念であるベクトル空間と線形写像の概念とその応用					
線形代数Ⅱにおいては、ベクトル空間と線形写像という現代的な概念を学習します。その応用例として、連立1次方程式、座標変換や図形の変形などの幾何学的変換を、ベクトル空間と線形写像の立場で表現し直して考えます。 学習を進めて行く上で線形代数Ⅰの知識が必要となりますので、線形代数Ⅰを必ず修得しておいて下さい。なお、用語の概念や計算力を定着させるために、POLITEにあるWeb演習も併用します。これは授業時間外に、放課後や自宅で宿題として取り組んでももらいます。 線形代数Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、線形現象を記述し解析するという行列や線形写像の役割を認識し、且つそれらを使いこなす事によって、専門分野への応用力が養われる事を期待します。					
授業における学修の到達目標					
1. 数ベクトル空間、部分空間及び基底の概念に慣れ、幾何学的イメージを掴む。					
2. ベクトルの内積や外積を図形の計量に応用できるようにする。					
3. 線形写像と行列の関係（表現行列と基底の変換との関連）を理解し、幾何学的な変換(対称移動や回転移動)に応用できるようにする。					
4. 固有値、固有ベクトル、行列の対角化の意味を理解し、それらを求めることができるようにする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第1回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	数ベクトル空間とその部分空間について学習する。			
	事後学修	1回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。			2.0
2	事前学修	POLITE から第2回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	数ベクトルと有向線分の関係、数ベクトル空間と幾何学との関係を学習する。			
	事後学修	2回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。			2.0
3	事前学修	POLITE から第3回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	数ベクトル空間において基本となる「基底」の概念を学習する。そのために1次独立の概念も学習する。			
	事後学修	3回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。			2.0
4	事前学修	POLITE から第4回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	基底の変換と変換行列、座標変換の関係について学習する。			
	事後学修	4回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。			2.0
5	事前学修	POLITE から第5回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	ベクトルの内積と図形の計量へ応用について学習する。			
	事後学修	5回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容のWeb課題を解く。			2.0
6	事前学修	POLITE から第6回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0

	授業	正規直交基底と直交行列の関係、それらと幾何学の関係について学習する。	
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	ベクトルの外積と図形の計量への応用を学習する。	
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
8	事前学修	3 回目から 7 回目までの講義の内容を復習する。	3.0
	授業	基底の変換行列、ベクトルの内積・外積に関する試験（中間試験をおこなう）。	
	事後学修	試験問題を思い出し、解法を確認する。	1.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	線形写像、特に線形変換とその表現行列について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	線形変換と表現行列と基底の変換との関係について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	直交変換（特に回転移動）とその幾何学への応用について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	合成変換と合成変換の表現行列、その表現行列の行列の積の関係について学習する。	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	行列の固有値と固有ベクトルとその意味について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	行列の対角化とその応用について学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0
15	事前学修	13 回目と 14 回目の講義の内容を復習する。	2.0
	授業	行列の対角化についての演習を行う。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。さらに、学習した内容の Web 課題を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60% ■平常点：40%（Web 課題、演習課題、宿題、レポート）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

中間試験は、採点后返却します。間違った箇所を確認し、修正して再提出してもらいます。

Web 課題については、取り組み状況を POLITE に掲示します。

教科書	書名：線形代数入門 [第 2 版]，著者名：森山洋一，出版社：ムイスリ出版，備考：
参考書・Web サイト	POLITE の線形代数 II のページ

単位修得が望ましい科目	基礎数学，線形代数Ⅰ
備考	☆講義中の板書をメモし，復習用のノートをきちんと作って下さい。 関連科目：確率・統計Ⅰ＆Ⅱ
担当教員の実務経験	実務経験なし

微分積分Ⅰ（情報メディア学科は「微分積分」） Calculus

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC111
開 講 学 科		種 別		配 当 年 次	開 講 時 期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
科目テーマ 解析学の初歩として 関数の変化と量					
17 世紀後半、ニュートンとライプニッツにより発見された微分積分学は、現在解析学の一領域であるが、数学史上最大の発見といわれ、微分積分学の影響をうけていない数学の分野は、ほとんどないとさえいわれています。また、数学の中にとどまらず、他の学問分野（自然科学、人文・社会科学、工学、医学 etc.）への貢献も計り知れないものがあります。					
この科目では、多項式関数・三角関数・指数関数・対数関数を含む初等関数を用いて、微分積分学の初歩、特に 1 変数関数の微分法、積分法について学習します。最初に、関数の極限を扱い、その極限を利用し、関数の傾きと微分の関係を考察します。次に、区分求積法により、積分と面積の関係を考察します。最後に、1 変数関数の性質を利用し、微分積分学の基本定理を証明します。					
授業における学修の到達目標					
1.微分係数の定義を理解する。					
2.定積分の定義を理解する。					
3.微分積分学の基本定理を理解する。					
4.多項式関数・三角関数・対数関数の導関数・定積分の計算を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	傾きについて学習する。			
	事後学修	1 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0
2	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	平均変化率について学習する。			
	事後学修	2 回の目講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0
3	事前学修	POLITE から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	関数の極限ついて学習する。			
	事後学修	3 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	微分係数の定義と導関数の定義、それらの意味について学習する。			
	事後学修	4 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0
5	事前学修	POLITE から第 5 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	導関数の基本公式について学習する。			
	事後学修	5 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	三角関数の導関数について学習する。			
	事後学修	6 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。			2.0
	授業	指数関数・対数関数の導関数について学習する。			
	事後学修	7 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。			2.0

8	事前学修	POLITE から第 8 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	図形の面積（縦線形の面積）について学習する。	
	事後学修	8 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	数列の和と級数について学習する。	
	事後学修	9 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
10	事前学修	第 4 回から第 9 回までの講義内容を、レジメやノートを参照し復習しておく。	2.0
	授業	区分求積法について学習する。	
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。 また、宿題を行う。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	定積分を定義し、図形の面積との関係について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	定積分を利用し、図形の面積を求める。	
	事後学修	12 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	連続関数の性質について学習する。	
	事後学修	13 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	微分積分学の基本定理を学習する。	
	事後学修	14 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0
15	事前学修	POLITE から第 15 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	三角関数・指数関数・対数関数の定積分の計算について学習する。	
	事後学修	15 回目の講義の復習をし、授業でやり残した問を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験 60% ■小テスト、演習、宿題・レポートによる平常点 40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

WEB アプリにて提出・フィードバックを行う。

教科書	書名：基礎からの微積分, 著者名：笹山 智司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE
単位修得が望ましい科目	基礎数学または基礎数学 I, II
備考	関連科目：微分積分 II、確率論、統計論または確率・統計 I, II
担当教員の実務経験	なし

微分積分Ⅱ Calculus 2

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		CLN240	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
科目テーマ 解析学の初歩 関数から作られる量						
微分積分Ⅰでは、1 変数関数の微分法について学習しましたが、微分積分Ⅱでは、解析学の一領域である 1 変数関数の積分法とその応用について学習します。						
まずは、定積分の定義をしっかりと覚え、それが、図形の面積の計算と深く結び付いていることを学習します。次に、微分法と積分法が逆の演算であるという微分積分学の根幹をなす定理（微分積分学の基本定理）を学習し、授業の後半は応用として、図形の面積、曲線の長さ、回転体の体積と表面積の計算を考えていきます。						
この講義では、微分法での計算の応用を考える事により、積分の計算が簡単にできることを学習しますが、逆に、積分法の計算を微分法の問題（微分方程式）に応用することも可能になります。それらのことを、微分積分Ⅰ・Ⅱの学習を通じて読み取って欲しい。						
授業における学修の到達目標						
1. 定積分の定義をきちんと覚え、図形の面積との関係を理解する。						
2. 微分積分学の基本定理の意味を理解し、定積分の計算に応用できる様にする。						
3. 応用として、曲線の長さや図形の面積、回転体の体積や表面積を求められる様にする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する。 POLITE から第 1 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	図形の面積（縦線形の面積）について学習する。				
	事後学修	1 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
2	事前学修	POLITE から第 2 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	図形の面積（縦線形の面積）について、計算法を学習する。				
	事後学修	2 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
3	事前学修	POLITE から第 3 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	数列の和と級数について学習する。				
	事後学修	3 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
4	事前学修	POLITE から第 4 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	定積分の定義について学習する。				
	事後学修	4 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
5	事前学修	2 回目～4 回目までの講義内容をレジメやノートを参考にして復習しておくこと。				2.0
	授業	定積分の性質について学習する。				
	事後学修	授業でやり残した演習問題を解く。また、宿題も行う。				2.0
6	事前学修	POLITE から第 6 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	連続関数の性質について学習する。				
	事後学修	6 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0
7	事前学修	POLITE から第 7 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。				2.0
	授業	微分の定義について学習する。				
	事後学修	7 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。				2.0

8	事前学修	POLITE から第 8 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	微分積分学の基本定理について学習する。I	
	事後学修	8 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
9	事前学修	POLITE から第 9 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	微分積分学の基本定理について学習する。II	
	事後学修	9 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
10	事前学修	POLITE から第 10 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	微分積分学の基本定理について学習する。III	
	事後学修	10 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
11	事前学修	POLITE から第 11 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	定積分と面積の関係について学習する。	
	事後学修	11 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
12	事前学修	POLITE から第 12 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	関数で表される図形の面積について、計算法を学習する。	
	事後学修	12 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
13	事前学修	POLITE から第 13 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	パラメータ表示の曲線で囲まれた図形の面積について、計算法を学習する。	
	事後学修	13 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
14	事前学修	POLITE から第 14 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	回転体の体積について定積分との関係と計算法を学習する。	
	事後学修	14 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0
15	事前学修	POLITE から第 15 回目の学習用資料をダウンロード又はプリントアウトし、内容を確認する。	2.0
	授業	曲線の長さについて定積分との関係と計算法を学習する。	
	事後学修	15 回目の講義を復習し、授業でやり残した演習問題を解く。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験 60% ■平常点 40%（小テスト、演習課題、宿題）

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

WEB アプリにて提出・フィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE
単位修得が望ましい科目	基礎数学、微分積分 I
備考	関連科目：確率・統計 I, II
担当教員の実務経験	なし

確率・統計Ⅰ 2024 年度入学生は、「統計学」になります。

Statistics

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC210
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
テーマ：データを分析するための統計学的なものの見方と方法					
「ビッグデータ」や「IoT」への関心と共に、複雑な現象をデータに基づいて分析するテクノロジーの基礎となる確率や統計の考え方への関心が高まりました。本講義では、計測や調査によって取得された観測データの情報を分析するための基本的な技術を習得すると共に、その背景となる統計学的、確率論的なものの見方について学びます。					
授業における学修の到達目標					
1. 統計的なものの見方や方法を理解し、説明できる。					
2. 統計的な思考を実践できる。					
3. データ分析を通して実際の現象を評価できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 1 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	データの集計法について学習する			
	事後学修	1 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する 2 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	平均の考え方について学習する			
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 2 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を教員へ提出する 3 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	分散と標準偏差の考え方について学習する			
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 3 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する 4 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	分布の代表値について学習する			
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 4 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する 5 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	偏差値の考え方について学習する			
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 5 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 6 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	散布図に基づく相関関係の見方について学習する			

	事後学修	5 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 6 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する 7 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	共分散の考え方と定義について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 7 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する 8 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関係数の考え方と定義について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 8 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する 9 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	偽相関と偏相関係数について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 9 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する 10 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関関係と因果関係の違いについて学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 10 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する 11 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	回帰直線を推定する方法について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 11 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する 12 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	回帰直線の推定方法について実習を行う	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 12 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する 13 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	R 言語システムを用いてデータを集計, 可視化する技術を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 13 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する 14 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	R 言語システムを用いた散布図の作成, および相関係数の計算方法について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 14 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する 15 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	R 言語システムを用いた回帰分析の方法について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 15 回目講義の宿題(問)を解き, POLITE で確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 試験 60% ■ 平常点(40%, レポート・小テスト等で評価)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
レポート課題は, 解決のヒントを POLITE にアップロードしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。	
教科書	書名: データサイエンス演習 (改訂版), 著者名: 甫喜本 司, 出版社: 学術図書出版社, 備考:
参考書・Web サイト	POLITE の「確率・統計Ⅰ」のページ
単位修得が望ましい科目	微分積分Ⅰ, 微分積分Ⅱ, 線形代数Ⅰ, 線形代数Ⅱ
備考	教職(教科: 数学)選択必修科目。電卓(平方根の計算機能をもつもの)を使用しますので, 用意して下さい。
担当教員の実務経験	企業の研究所において, データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は, データ科学の方法を学ぶための数学的な基礎となる。統計学そのものを学術的な観点から紹介することと併せて, 企業の技術開発の中で, 統計の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したい。

確率・統計Ⅱ 2024 年度入学生は、「確率論」になります。

Probability and Statistics 2

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CLN142
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ：確率論に基づくものの見方と現象分析への応用					
「確率・統計Ⅰ」で学んだ統計学的方法の背景について、確率論の観点から学びます。また、確率的な考え方を実際の現象のリスク評価へ応用するための考え方についても紹介します。具体的には、確率の基本概念、確率分布や期待値、分散をはじめとする確率論の諸概念について学ぶと共に、実現象の解析も体験しながらその理解を深めます。					
授業における学修の到達目標					
1. 確率に関する考え方を数学的に理解し、説明することができる。					
2. 様々な確率分布の特性を知り、実現象の評価に応用することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する			2.0
	授業	確率の定義について学習する			
	事後学修	1 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する 2 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	条件付き確率の考え方について学習する			
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、2 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
3	事前学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、2 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
	授業	ベイズの定理の考え方とその応用について学習する			
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、3 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する 4 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	独立性について学習する			
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、4 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する 5 回目で学習する内容を確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する			2.0
	授業	確率変数と 1 次元確率分布の考え方について学習する			
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、5 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する 6 回目で学習する内容を確認する			2.0
	授業	様々な離散的確率分布について学習する			
	事後学修	5 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、6 回目講義の宿題(問)を解く			2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する 7 回目で学習する内容を確認する			2.0

	授業	様々な連続的確率分布について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 7 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する 8 回目で学習する内容を確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	確率変数の期待値について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 8 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する 9 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	期待値に関する数学的諸性質について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 9 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する 10 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	確率変数の分散について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 10 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する 11 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	分散に関する数学的性質について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 11 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する 12 回目で学習する内容を確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 内容を確認する	2.0
	授業	2 次元確率分布に関する基本的な考え方について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 12 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する 13 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	和の確率分布に関する期待値と分散の計算方法を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 13 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する 14 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	共分散とその数学的性質について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 14 回目講義の宿題(問)を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する 15 回目で学習する内容を確認する	2.0
	授業	相関とその数学的性質について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 15 回目講義の宿題(問)を解き, POLITE で確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 試験 60% ■ 平常点(40%, 小テスト・レポート等で評価)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題は, 解決のヒントを学習ポータル (POLITE) にアップしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。

教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	POLITE の「確率・統計Ⅱ」のページ
単位修得が望ましい科目	確率・統計Ⅰ，微分積分Ⅰ，微分積分Ⅱ，線形代数Ⅰ，線形代数Ⅱ
備考	教職（教科：数学）選択必修科目。
担当教員の実務経験	企業の研究所に所属し，データ科学に基づく投資の技術開発に携わってきた。本講義で扱う内容は，データ科学の考え方を考える上での数学的な基礎となる。確率という考え方を学術的観点から紹介することと併せて，企業の技術開発の中で確率の考え方がどのように役立っているかという実際面についても紹介したい。

物理学（医療情報学科 臨床工学専攻以外） Physics

担当教員	露木 孝尚()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC112	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
授業概要						
テーマ：科学技術の基礎としての物理学						
本科目では科学技術の基礎としての物理学を幅広く学びます。物理学は自然界の最も基本的な法則を扱う学問であり、医療や宇宙開発等、様々な技術にも応用されています。この世界をより良く知り、正しい情報を見極め、論理的な思考をするためにも、教養として物理学を学ぶことは大切です。						
本科目は抽象論ではなく、写真や動画を積極的に用いることによって、視覚的かつ具体的に物理学を学びます。基本的な内容から扱うため、高校で物理学を履修していない方でも問題ありません。						
ICT を活用した双方向型授業を行います。POLITE をクリッカーとして使用します。また毎回授業中に POLITE を用いて小テストを行います。スマートフォンやノート PC 等のネット接続が可能な機器を持参してください。教科書には QR コードが載っており、それを読み取ると実験動画や自分の手で動かせるアニメーション等を見ることができます。						
授業における学修の到達目標						
授業における学修の到達目標						
1. 運動の法則を用いて、物体の運動を説明できる。						
2. 身近な自然現象や技術の原理を物理学の基本的な概念を用いて説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する 自分の興味のある分野と物理学に関わりがあるかを調べる POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する				2.0
	授業	物理学の全体像と単位系：物理学とは何を対象にするのか、また国際単位系の使い方を学ぶ				
	事後学修	授業で習った物理学の内容及び情報の調べ方を応用して、関心のある将来の仕事と物理学の関係を調べる				2.0
2	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく				2.0
	授業	速度と加速度、運動の法則：力、加速度、速度の関係を学ぶ				
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める				2.0
3	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく				2.0
	授業	様々な力：重力、ばねの力といった具体的な力を学ぶ				
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める				2.0
4	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく				2.0
	授業	万有引力と宇宙開発：円運動について学ぶ				
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める				2.0
5	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との				2.0

		関わりを考え、調べておく	
	授業	エネルギー：位置エネルギーや運動エネルギーを学び、それらの和の保存則を学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
6	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	熱と温度：絶対温度とは何か、熱と温度の関係について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
7	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	波動：波動は音、光、電磁波、交流回路、地震といった多様な現象とかわかること、また波の表し方を学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
8	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	電気：静電気や雷など身の回りの現象と電気の関わりや、電流の定義について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
9	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	電気回路：オームの法則、電力について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
10	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
11	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	原子と電子：原子の構造、量子力学の基本となる粒子性と波動性について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
12	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	原子核と放射線：原子核の崩壊や放射線について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
13	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0

	授業	素粒子：この世界を構成する最も基本的な要素について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
14	事前学修	POLITE から学習用資料をダウンロードし、内容を確認する 教科書冒頭の物理法則・原理図鑑の該当部分を参考に、下記授業内容と身の回りの現象や技術との関わりを考え、調べておく	2.0
	授業	相対性理論と宇宙：相対性理論と GPS の関わりや宇宙論、今も残る物理学の謎について学ぶ	
	事後学修	教科書付属の動画のうち、授業で取り上げなかった関連動画を視聴し理解を深める	2.0
15	事前学修	試験で解けなかった問題やこれまでの疑問点をまとめておく	2.0
	授業	試験の解説、これまでのまとめを行う	
	事後学修	解けなかった問題や、疑問が解決できていることを確認する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。			
■試験：60% ■小テスト：40% □レポート： % □演習課題： % □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
・試験については第 15 回で解説を行います。			
・小テストは実施直後に採点結果が表示され、授業内で解説を行います。			
教科書	書名：新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス 物理図録, , 著者名：数研出版編集部, 出版社：数研出版, 備考：..		
参考書・Web サイト	第 5 版基礎物理学 Web 動画付 学術図書出版社		
単位修得が望ましい科目	基礎数学		
備考	..		
担当教員の実務経験	2018 年から 2019 年にかけて、国家公務員として宇宙開発関係の仕事に携わりました。大学で学ぶ物理学が実際にどのように応用されているかを知ることができました。実務経験を活かし、本科目では抽象的でなく具体的に題材を取り上げることで、物理学を通して身の回りの現象や技術の基本原則を理解できるようになる教育を行います		

生物学 Biology

担当教員	本間 直幸 (119 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		ILC113	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
授業概要						
テーマ：生物の基本的な構造やはたらきを理解し、生物が社会に果たしてきた役割について考察する						
生物学は、我々人間をはじめ、地球上の多種多様な生物が織りなす生命活動を理解するうえでの基礎となります。また、「生命」に関わる多くの学問領域の基盤になります。						
現在、生物学で得られた知見は、さまざまな技術の進歩と融合し、医療や食糧、そして環境など、現代社会が抱えるさまざまな問題の解決に貢献しています。						
「生物学」の講義では、生物を構成する物質から生態系に至るまで、幅広い視野で生物学全体を俯瞰していきながら生物学の進歩による成果や生物機能をヒントに生まれた技術等についても学修していきます。						
授業における学修の到達目標						
・分子、細胞、組織・器官といった個体を構成する要素から、個体を取り巻く生態系まで、生物のもつ「階層性」を十分に理解したうえで、生物の基本的な性質を学修する						
・生命現象を理解するために必要な生物学の共通事項や基礎事項を理解する。						
・生物学が果たした社会への貢献について理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。				2.0
	授業	生物とは何か：生物の条件（定義）と構造を理解する。				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
2	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	生物を構成する物質：生物をつくっている物質にはどのような性質のものがあるか理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
3	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	炭酸同化と窒素同化：生物が生命活動のエネルギーをどのように得ているか理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
4	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	消化・異化：生物が取り入れたエネルギーをどのように使うのか理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
5	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	遺伝子の構造：遺伝情報を伝える物質について理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
6	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	遺伝子の発現：遺伝子情報を伝える仕組みについて理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0
7	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。				2.0
	授業	細胞分裂：細胞分裂のメカニズムについて理解する				
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。				2.0

8	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	遺伝：遺伝の基本的な法則について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
9	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	神経と恒常性の維持：神経の構造と生体内での情報伝達の仕組みについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
10	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	ホルモンと恒常性の維持：ホルモンのはたらき等、内分泌系について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
11	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	免疫：高等動物の身の守り方について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
12	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	免疫とアレルギー反応：アレルギー反応について仕組みを理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
13	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生態系：生物間の関係と生態系について理解する。	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
14	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物の多様性と環境問題：生物にとっての環境の大切さについて理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0
15	事前学修	教科書の当該授業の範囲を通読し不明な用語を調べておく。	2.0
	授業	生物機能の工学的応用：生物の形態や機能の工学的応用について理解する	
	事後学修	講義時の配布資料と教科書を見直し後、練習問題を解き知識を定着させる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 70% ■小テスト： 30% □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義中に実施した練習問題は、その都度解説を行います。

教科書	書名：大学生のための考えて学ぶ基礎生物学, 著者名：堂本 光子, 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	「ヒトを理解するための生物学」八杉 貞雄 著（裳華房） 「ワークブック ヒトの生物学」八杉 貞雄 著（裳華房） 「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」和田 勝 著（羊土社） 「大学で学ぶ 身近な生物学」吉村 成弘著（羊土社）
単位修得が望ましい科目	なし
備考	講義時には事後学習のための復習用資料を配布する。各回の小テストはオンラインで必ず実施すること。
担当教員の実務経験	担当教員は生命科学系研究開発企業の学術部門に所属し、生命科学研究を推進する試薬等の開発支援や技術サポート業務に従事した経験を有する。本授業においてはこうした実務経験を生かし、生物学の基礎から生物学の知見が現代社会にどのように貢献してきたのか等について学生が興味を持つように分かりやすく授業を展開していく。

担当教員	東野 史裕 (218 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ILC114
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：生活を支える化学について学ぶ。					
講義は、私達のからだを構成する原子の構造や原子の性質などの基礎化学を学ぶ。医療現場では、医薬品や臨床診断薬などは液体や粉末であることが多く、医療用ガスは気体である。医療従事者は種々の濃度の液体や気体を使用することから、原子量と分子量、モル、濃度、物質の三態、状態図などを学ぶ。これらの知識をもとに体を構成する血液やリンパ液、組織液、体腔液、細胞内液ではさまざまな物質が水に溶けた状態でその機能を担っていることを学ぶ。					
授業における学修の到達目標					
1) 基礎的な化学知識の理解とその習得を目標とする。					
2) 化学の基礎的知識を用いた応用レベルに興味を持ち理解につながることを目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、当科目の講義の内容を把握する。また、第 1 章のテキストをあらかじめ読み、原子構造について予習しておく。			2
	授業	第 1 章：ガイダンスの実施。原子構造の理解と、同位体、放射性同位体などについて学習し、放射能と放射線について理解を深める。			
	事後学修	POLITE の第 1 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために第 1 章末の演習問題を解答する。			2
2	事前学修	第 2 章のテキストをあらかじめ読み、原子の電子構造について予習しておく。			2
	授業	第 2 章：原子の電子構造、電子殻、電子配置、最外殻と価電子などについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 2 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために章末の演習問題を解答する。			2
3	事前学修	第 3 章のテキストをあらかじめ読み、周期表と元素について予習しておく。			2
	授業	第 3 章：電子配置と周期表、遷移元素、周期性などについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 3 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために章末の演習問題を復習する。			2
4	事前学修	第 4 章のテキストをあらかじめ読み、化学結合と分子について予習しておく。			2
	授業	第 4 章：イオン結合、共有結合などについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 4 回目の学習資料を復習する。			2
5	事前学修	第 4 章の続きのテキストをあらかじめ読み、化学結合と分子について予習しておく。			2
	授業	第 4 章：結合の極性、分子間力などについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 5 回目の学習資料を復習する。理解を深めるために章末の演習問題を復習する。			2
6	事前学修	第 5 章のテキストをあらかじめ読み、物質の量と状態について予習しておく。			2
	授業	第 5 章：原子量と分子量、モル、濃度、物質の三態などについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 6 回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。			2
7	事前学修	第 6 章のテキストをあらかじめ読み、溶液の化学について予習しておく。			2
	授業	第 6 章：溶解と溶媒和、溶解度、浸透圧、コロイドなどについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 7 回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。			2
8	事前学修	第 7 章のテキストをあらかじめ読み、酸・塩基と酸化・還元について予習しておく。			2
	授業	第 7 章：酸・塩基の定義、中和などについて学習する。			
	事後学修	POLITE の第 8 回目の学習資料を復習する。			2

9	事前学修	第7章のテキストをあらかじめ読み、酸・塩基と酸化・還元について予習しておく。	2
	授業	第7章：水溶液のpH、酸化・還元などについて学習する。	
	事後学修	POLITEの第9回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。	2
10	事前学修	基礎化学1章から7章の重要ポイントについて教科書とPOLITEの内容を確認し、覚える知識を確認しておく。	2
	授業	基礎化学の知識について確認のための講義を行う。	
	事後学修	POLITEの第10回目の学習資料を復習する。	2
11	事前学修	第8章「有機化合物の構造」のテキストをあらかじめ読み、共有結合、アルカンの命名法の基本を確認する。アルキル基と置換基の種類を読み、教科書に書かれた化合物の名称を予習しておく。	2
	授業	第8章：有機化合物の種類と名称、性質、有機化合物の構造の標記を学習する。	
	事後学修	POLITEの第11回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。	2
12	事前学修	第12章のテキストをあらかじめ読み、生体膜について予習しておく。	2
	授業	第12章：脂質、生体膜、細胞膜の機能などについて学習する。	
	事後学修	POLITEの第12回目の学習資料を復習する。理解を深めるための章末の演習問題を復習する。	2
13	事前学修	第13章のテキストをあらかじめ読み、アミノ酸の種類、構造、化学的性質、タンパク質の立体構造について予習しておく。	2
	授業	第13章：アミノ酸の種類と構造、化学的性質などについて学習する。	
	事後学修	POLITEの第13回目の学習資料を復習する。	2
14	事前学修	第13章のテキストをあらかじめ読み、タンパク質の種類と機能について予習しておく。	2
	授業	第13章：酵素をはじめとする種々のタンパク質の機能などについて学習する。	
	事後学修	POLITEの第14回目の学習資料を復習する。課題演習問題の復習をし、理解を深める。	2
15	事前学修	これまで授業で行った内容のまとめを確認する。	2
	授業	これまで学習した全体のないようについてまとめの講義を行い試験範囲を確認する。	
	事後学修	講義内容をまとめる。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 80% ■小テスト(出席)： 20% □レポート：0% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストを実施した後、試験問題について解答解説を行う。

教科書	書名：コ・メディカル化学 医療・看護系のための基礎化学, 著者名：齊藤勝裕ほか, 出版社：裳華房, 備考：
参考書・Web サイト	理工系学生のための基礎化学, 著者名：田島正弘・熊沢 隆・吉田康彦共著編, 出版社：培風館
単位修得が望ましい科目	生化学
備考	臨床工学技士国家試験受験には必須科目
担当教員の実務経験	担当教員はこれまで、各種化学機器分析による分子量決定や、画像解析などの実務に従事した。これらの経験を生かし、われわれの身近な医療技術・健康・食品に利用されている化学知識や技術についてわかりやすく講義する。

健康とスポーツ概論Ⅰ Introduction to Health and Sports 1

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義及び演習	○	ILC115
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
本講義は、健康とスポーツの基本概念から始まり、生涯を通じての健康維持とスポーツの実践、そしてスポーツデータサイエンスの応用に関して学習する。全 15 回にわたり、講義と実技の両方を通じて、学生に健康とスポーツの重要性を深く理解してもらう。 前半部分では、健康とスポーツの関連性、身体活動、生涯スポーツの実践、予防医学、高齢者とスポーツ、そして健康とスポーツの未来に焦点を当てる。 後半部分では、スポーツデータサイエンスの概論から始まり、心拍数と運動強度、身体活動量の計測、体力測定、スポーツパフォーマンスのデータ分析、データビジュアライゼーション、そしてスポーツデータサイエンスの応用と展望に至るまで、データを活用したスポーツ科学の最前線に触れる。					
授業における学修の到達目標					
・健康増進におけるスポーツの役割を理解する ・年齢やライフステージに応じた運動プログラムの重要性を認識し、自身の生活に適用する方法を理解する ・スポーツ科学におけるデータの収集、分析、解釈の基本技術を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	健康とは何か、スポーツの定義に関する基本文献の読解			2
	授業	生涯スポーツの重要性についての概論			
	事後学修	健康増進のためのスポーツの役割に関するレポート作成			2
2	事前学修	身体活動の基本ガイドラインを読む			2
	授業	身体活動が健康に及ぼす影響			
	事後学修	自身の身体活動量を記録する			2
3	事前学修	生涯を通じて運動習慣を形成し維持するための戦略に関する文献を読む			2
	授業	運動習慣の形成			
	事後学修	自身の運動習慣の形成と維持に関する計画の立案			2
4	事前学修	スポーツが個人の社会的結びつきに及ぼす影響に関する基本文献を読む			2
	授業	チームスポーツと社会性の向上			
	事後学修	運動がいかにして社会的結びつきを強化するかについての考察をまとめる			2
5	事前学修	生涯を通じたスポーツ参加の利点に関する記事を読む			2
	授業	年代別のスポーツ活動			
	事後学修	自身に適した生涯スポーツの選定と理由の説明			2
6	事前学修	予防医学の基本概念の理解に関する文献を読む			2
	授業	スポーツによる健康寿命の延伸			
	事後学修	疾病予防に役立つスポーツ活動に関するレポート作成			2
7	事前学修	高齢者の身体機能と運動能力に関する文献を読む			2
	授業	高齢者向けの運動プログラム			
	事後学修	高齢者を対象としたスポーツプログラムの提案			2

8	事前学修	テクノロジーが健康とスポーツに及ぼす影響に関する記事を読む	2
	授業	将来のスポーツ科学の動向	
	事後学修	スポーツとテクノロジーの融合に関するレポート作成	2
9	事前学修	データサイエンスの基礎知識に関する文献を読む	2
	授業	スポーツデータサイエンスの基本概念	
	事後学修	スポーツデータの収集方法に関するレポート作成	2
10	事前学修	運動強度の測定方法に関する予習	2
	授業	心拍計を使用した実測	
	事後学修	自身の運動中の心拍データを分析する	2
11	事前学修	身体活動量計の原理と活用法についての文献を読む	2
	授業	身体活動量計を用いたデータ収集	
	事後学修	自身の身体活動量の記録と分析を行う	2
12	事前学修	体力測定の方法と重要性に関する文献を読む	2
	授業	各種体力測定機器を使用したデータの収集と解析	
	事後学修	自身の体力測定データの解析と評価	2
13	事前学修	スポーツパフォーマンス分析に関する文献を読む	2
	授業	スポーツパフォーマンスデータの収集方法	
	事後学修	特定のスポーツのパフォーマンスデータ分析	2
14	事前学修	データの視覚化の手法に関する文献を読む	2
	授業	スポーツデータの視覚化	
	事後学修	自身のスポーツデータを視覚化する	2
15	事前学修	スポーツデータサイエンスの現状と将来性に関する論文の調査	2
	授業	スポーツデータサイエンスの未来	
	事後学修	自らのパフォーマンスデータをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

・定期試験，追試験，再試験は実施しない。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートに対しては，そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・本講義は第8回までを講義形式，第9回目以降は実技形式で行う。 ・公認欠席，特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと。 ・受講希望者が過多数の場合は人数の調整をおこなうこともある。 ・後半の実技セッションでは，履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること（ジーンズやチノパンなど，伸縮性の乏しいものはけが予防の観点から受講を許可しない）
担当教員の実務経験	実務経験なし

健康とスポーツ概論Ⅱ Introduction to Health and Sports 2

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義及び演習	○	ILC116
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
本講義は筋力、パワー、体力向上などに関連するトレーニング理論を深く理解させるとともに、バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボールといったスポーツ実技を通じてスポーツデータサイエンスの基本概念を学ばせることを目的とする講義である。この講義は全 15 回にわたり展開され、前半 8 回では主にトレーニング理論と体力向上に焦点を当て、筋力とパワーの基礎、トレーニングの原則、体力の要素とその評価、筋力トレーニング、パワートレーニング、持久力トレーニング、柔軟性の向上、そしてトレーニングプログラムの設計と調整について深掘りする。 後半 7 回は、具体的なスポーツ実技形式の講義に移行し、バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボールを取り上げる。これらのセッションでは、実際のスポーツのプレイを通じて、学生がスポーツデータサイエンスの概念を理解し、運動パフォーマンスの分析に必要なデータ収集と解析技術を学ぶ。各スポーツ実技では、技術の向上はもちろん、チームワーク、戦略立案、そしてデータを用いたパフォーマンスの評価と改善が重視される。					
授業における学修の到達目標					
・トレーニング理論に関する深い理解を獲得し、筋力、パワー、体力向上のための具体的な方法を計画し、実施できる能力を身につける ・バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボールなどのスポーツ実技において、スポーツデータサイエンスの基本概念を理解し、データ収集と分析を通じて運動パフォーマンスを評価し改善する技術を習得する ・スポーツ実践におけるチームワークとコミュニケーション能力を高め、効果的な戦略立案とパフォーマンス向上のための話し合いを実現できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	筋肉の構造と機能に関する文献を読む			2
	授業	筋力とパワー			
	事後学修	筋力トレーニングの基本原則に関するレポート作成			2
2	事前学修	運動生理学におけるトレーニングの原則に関する文献を読む			2
	授業	トレーニングの原則とその応用			
	事後学修	個人のトレーニング計画の例を作成、原則の適用を示す			2
3	事前学修	体力の各要素に関する文献を読む			2
	授業	各体力要素の重要性			
	事後学修	自己の体力レベルを評価し、強化が必要な領域を特定する課題			2
4	事前学修	筋力トレーニングの種類に関する文献を読む			2
	授業	各トレーニング方法の特徴			
	事後学修	自身に適した筋力トレーニングプログラムの計画			2
5	事前学修	パワーを向上させるトレーニング方法に関する文献を読む			2
	授業	具体的なトレーニング技術とプログラム			
	事後学修	パワー向上トレーニングの計画と実施			2
6	事前学修	持久力トレーニングに関する文献を読む			2
	授業	持久力の向上に有効なトレーニング方法			
	事後学修	個人の持久力トレーニング計画の作成			2

7	事前学修	柔軟性トレーニングに関する文献を読む	2
	授業	柔軟性を向上させるためのストレッチング	
	事後学修	柔軟性トレーニングの立案	2
8	事前学修	効果的なトレーニングプログラムに関する文献を読む	2
	授業	目標設定とプログラムの周期性	
	事後学修	個別のニーズに合わせたトレーニングプログラムの作成とその理由の説明	2
9	事前学修	バドミントンの基本ルールを予習する	2
	授業	ラリー、サーブ、フットワークの基礎練習およびゲーム	
	事後学修	自身のバドミントンプレイのビデオ分析	2
10	事前学修	バドミントンの基本ルールを予習する	2
	授業	試合中のポイント獲得パターンのデータ分析	
	事後学修	自身のバドミントンプレイのビデオ分析	2
11	事前学修	卓球の基本ルールを予習する	2
	授業	ドライブ、サービスの基礎練習およびゲーム	
	事後学修	試合の戦術分析レポート作成	2
12	事前学修	卓球の基本ルールを予習する	2
	授業	試合データを用いた戦術分析	
	事後学修	試合の戦術分析レポート作成	2
13	事前学修	スポンジテニスの基本ルールを予習する	2
	授業	ボレー、ストローク、ダブルス戦術、試合中のポイントパターンの分析	
	事後学修	パートナーとの連携向上のための作戦の立案	2
14	事前学修	バレーボールの基本ルールを予習する	2
	授業	サーブ、レシーブ、アタックの技術練習	
	事後学修	自チームの試合分析と強化策の提案	2
15	事前学修	バスケットボールの基本ルールを予習する	2
	授業	ドリブル、シュート、パスの基本練習およびゲーム	
	事後学修	個人及びチームのパフォーマンス改善のための分析レポートの作成	2

成績評価の方法およびその基準

・定期試験、追試験、再試験は実施しない。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された課題やレポートに対しては、そのつど個別、あるいは全体に対してコメント・解説を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・本講義は第8回までを講義形式、第9回目以降は実技形式で行う。 ・公認欠席、特別欠席等は必ず事前の届け出を行うこと。 ・受講希望者が過多の場合は人数の調整をおこなうこともある。 ・後半の実技セッションでは、履修者はトレーニングウェア、運動靴を用意すること（ジーンズやチノパンなど、伸縮性の乏しいものはけが予防の観点から受講を許可しない）

担当教員の実務経験	実務経験なし

スポーツ実技Ⅰ Sports Practical 1

担当教員	綿谷 貴志(227 研究室), 織田 哲(336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義及び演習	○	IPC101	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	
授業概要						
テーマ：スポーツ活動を通して仲間との連携をはかり，協力して技能の習得や課題の達成に向けた取り組みを行う。						
現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している。授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ。						
さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す。講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する。						
授業における学修の到達目標						
バドミントンと卓球は生涯スポーツを代表するスポーツ種目であるが，そのルールの詳細や練習方法等については周知されていないことが多い。そこで，受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる。加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	卓球のルール・マナーを理解しておく。				3.0
	授業	【卓球】 ガイダンス，ルールについての解説				
	事後学修	連続				0.0
2	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 用具の扱いについて，得点システムについて				
	事後学修	連続				0.0
3	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 基礎的な打球技術の練習				
	事後学修	連続				0.0
4	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 基礎的な技術（サーブ，フォアハンド，バックハンド）				
	事後学修	連続				0.0
5	事前学修	連続				0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（1）				
	事後学修	学習内容をまとめて自身の課題を抽出し，その解決方法を考察する。				2.0
6	事前学修	シングルス・ダブルスのルールと特性を理解しておく。				3.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（2）				

	事後学修	連続	0.0
7	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	連続	0.0
8	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (1)	
	事後学修	連続	0.0
9	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
10	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	シングルス・ダブルスゲームでのより効果的な戦術、自身のプレー動画を視聴してその技術的課題をまとめる	2.0
11	事前学修	バドミントンに関するルール・マナーを調べる、試合動画を視聴する。	3.0
	授業	【バドミントン】 基礎的な打球技術、審判の役割と得点システム	
	事後学修	連続	0.0
12	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
13	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (2)	
	事後学修	連続	0.0
14	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
15	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (2)	
	事後学修	授業全体を通して振り返り、気づいたことや学んだことをまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

- ・定期試験、追試験、再試験は実施しない。
- ・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % ■小テスト：10% ■レポート：10% □演習課題： %

■その他[ゲーム成績, スコア, および実習への取り組み]: 80%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
提出された課題やレポートに対しては, そのつど個別, あるいは全体に対してコメント・解説を行う.	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・集中講義として実施するため, 講義を遅刻・欠席しないこと. ・施設と用具の関係上, 定員を 20-24 名程度とする ・種目実施に十分な人数がいない場合には, 他の種目に振り替えて実施する場合がある. ・履修者はトレーニングウェア, 運動靴を用意すること
担当教員の実務経験	実務経験なし

スポーツ実技Ⅱ Sports Practical 2

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室), 織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義及び演習	○	IPC102
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中
授業概要					
テーマ：スポーツ活動を通して仲間との連携をはかり，協力して技能の習得や課題の達成に向けた取り組みを行う。					
現代社会においては日常での健康や体力の維持，増進のために多くの時間や費用，努力を要す。また，平均寿命の伸び，ストレス源の増加など，いっそう生涯スポーツの重要性が増大している。授業では，比較的身近な，かつ，中・高校の体育ではあまり深く触れることのなかった種目を通じて，これらについて若いこの時期に考える機会を持つ。					
さらに，スポーツ活動を通じて団体生活を送る上での基本的なルールやマナーの大切さを学び，この種目に主体的に関わっていくことができるようになる事を目指す。講義，および実習中に触れたルールや練習方法，プレイ等についてはノートあるいはレポートの提出を通じて各自の理解度を確認する。					
授業における学修の到達目標					
卓球とバドミントンは，なじみはあってもルールの詳細や練習方法等についてはあまり知られていないことが多い。そこで，受講者全員が相互にコミュニケーションをとり協力しながらルールの理解や技能の向上につとめる。加えて，審判やゲーム運営等にも積極的に携われるようになることを目指す。講義ノート，レポートを作成する過程では，この科目で学んだことを系統立てて理解し，説明できるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	卓球のルール・マナーを理解しておく			3.0
	授業	【卓球】 ガイダンス，ルールについての解説			
	事後学修	連続			0.0
2	事前学修	連続			0.0
	授業	【卓球】 用具の扱いについて，得点システムについて			
	事後学修	連続			0.0
3	事前学修	連続			0.0
	授業	【卓球】 基礎的な打球技術の練習（フォア，バック）			
	事後学修	連続			0.0
4	事前学修	連続			0.0
	授業	【卓球】 基礎的な技術（サーブ，レシーブ）			
	事後学修	連続			0.0
5	事前学修	連続			0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦（1）			
	事後学修	学習内容をまとめて自身の課題を抽出し，その解決方法を考察する			2.0
6	事前学修	シングルス・ダブルスのルールと特性を理解しておく			3.0
	授業	【卓球】			

		シングルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
7	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 シングルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	連続	0.0
8	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (1)	
	事後学修	連続	0.0
9	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (2)	
	事後学修	連続	0.0
10	事前学修	連続	0.0
	授業	【卓球】 ダブルス リーグ戦 (3)	
	事後学修	シングルス・ダブルスゲームでのより効果的な戦術、自身のプレー動画を視聴してその技術的課題をまとめる	2.0
11	事前学修	バドミントンに関するルール・マナーを調べる、試合動画を視聴する。	3.0
	授業	【バドミントン】 基礎的な打球技術、審判の役割と得点システム	
	事後学修	連続	0.0
12	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
13	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 シングルスゲーム (2)	
	事後学修	連続	0.0
14	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (1)	
	事後学修	連続	0.0
15	事前学修	連続	0.0
	授業	【バドミントン】 ダブルスゲーム (2)	
	事後学修	授業全体を通して振り返り、気づいたことや学んだことをまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
・ 定期試験、追試験、再試験は実施しない。 ・ 集中講義として実施するため、講義を遅刻・欠席しないこと。			

・次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 □試験： % ■小テスト：10% ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[ゲーム成績，スコア，および実習への取り組み]: 80%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
提出された課題やレポートに対しては、そのつど個別，あるいは全体に対してコメント・解説を行う。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて指示をする
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・集中講義として実施するため，講義を遅刻・欠席しないこと。 ・施設と用具の関係上，定員を 20-24 名程度とする ・種目実施に十分な人数がいけない場合には，他の種目に振り替えて実施する場合がある。 ・履修者はトレーニングウェア，運動靴を用意すること
担当教員の実務経験	実務経験なし

海外語学・文化研修（中国大連編） Overseas Language and Culture Course (Dalian China)

担当教員	田中 英夫(337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義		IPC103
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中
授業概要					
テーマ：現代中国の言語と文化及び習慣について学びます。 本学と学士課程学生教育に関する共同プロジェクト実施協定を結んでいる大連東軟信息学院で,夏期休暇期間に 2 週間程度開催される中国語・中国文化研修（「大連東軟信息学院短期留学プログラム」）に参加する授業です。 具体的な実施計画案及び参加資格については,5 月頃から案内します。 なお,当該科目の単位は,現地に行って研修した学生にしか認定しないので,履修届は年度始めではなく,研修が決定した後,指定された期間内に提出することになります。					
授業における学修の到達目標					
1. 大連での実践的な中国語の習得を通じて,日常生活における中国語を理解できる力を養います。 2. 大連での異文化体験や研修旅行を通じて,中国の地理や文化に関する基礎知識を習得します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（キャンパス見学と大連市内観光）に参加します。			
	事後学修	第 1 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容（大連市内観光）を復習します。			0.5
2	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と大連現代博物館見学）に参加します。			
	事後学修	第 2 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。			0.5
3	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と IT 企業見学）に参加します。			
	事後学修	第 3 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。			0.5
4	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（日露戦争遺跡・旅順見学）に参加します。			
	事後学修	第 4 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。			0.5
5	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国人社員との交流会）に参加します。			
	事後学修	第 5 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。			0.5
6	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国人学生との交流会）に参加します。			
	事後学修	第 6 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。			0.5
7	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国市場の発展現状勉強会）に参加します。			
	事後学修	第 7 回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。			0.5
8	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。			0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と太極拳：異文化体験）に参加します。			

	事後学修	第8回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
9	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と餃子作り：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第9回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
10	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国茶試飲会：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第10回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
11	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と京劇観賞：異文化体験）に参加します。	
	事後学修	第11回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
12	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（中国語学習と中国の若者文化勉強会）に参加します。	
	事後学修	第12回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
13	事前学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。	0.5
	授業	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（修了式など）に参加します。	
	事後学修	第13回「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の実施内容を復習します。	0.5
14	事前学修	これまでの「大連東軟信息学院短期留学プログラム」内容をまとめます。	0.5
	授業	短期留学報告書（短期留学日記）の整理と提出（帰国後も可）します。	
	事後学修	短期留学報告書提出後、短期留学の成果と課題をまとめます。	0.5
15	事前学修	短期留学中の課題を調べておきます。	0.5
	授業	短期留学報告書（短期留学日記）の評価を行います。	
	事後学修	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」をまとめます。	0.5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。

■現地の研修成績：70% ■レポート（研修日記）：20% ■現地の研修態度（積極性など）：10%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート（研修日記など）提出後、修正が必要な場合、メールで連絡します。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

海外事情（中国編） Overseas Language and Culture Course (China)

担当教員	田中 英夫 (337 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IPC105
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中
授業概要					
テーマ： 南京大学での中国語会話能力の養成と異文化理解の体得					
この科目は、実際に学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し、また二日間程度の研修旅行を通して、彼らが実践的な中国語を体得し、かつ現代中国事情と中国文化に対する理解も一層深めることを目的としている。また、学生各自が異文化を理解する能力を向上させると同時に、国際的視野と見識も確実に養成してゆくねらいもある。					
本年度も、本学と学術交流協定を結んでいる南京大学で、夏季休暇期間に3週間の中国語研修を実施する予定である。具体的な実施計画案及び参加資格については、4月上旬頃から、学内に掲示するので、参加希望者は、必ず担当教員の正式な承諾を得てから、各自の履修届けを提出すること。					
なお、研修の参加者には、人数制限が設けられているので、場合によっては、一部の学生には、当該科目の履修が許可されないこともある。また、中国語研修及び研修旅行の日程などは、様々な事情により、計画が変更される可能性もあるので、十分に注意して欲しい。					
授業における学修の到達目標					
現地における実践的な中国語の習得及び研修旅行などを通して、学生各自が現代中国事情や中国文化に対する理解を深めてゆくと同時に、彼らの異文化理解能力と国際的視野及び見識なども大いに養成させたい。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	中国語研修の日程や活動などを確認して、教科書を準備すること。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2
2	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2
3	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2
4	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2
5	事前学修	次回に習う教科書での発音と文法を予習しておくこと。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2
6	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2
7	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。			2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説			
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。			2

8	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
9	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
10	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
11	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
12	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
13	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
14	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2
15	事前学修	次回に習う教科書の発音と文法を予習しておくこと。	2
	授業	中国語初級会話の発音練習と文法の解説	
	事後学修	講義で習った会話や文法を理解し、復習すること。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：30％ ■レポート：30％ ■その他（現地での活動状況及び研修態度）：20％

■その他 [研修中における学生のすべての活動と態度]：20％ 引率教員が総合的に成績評価を決定する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生が提出したレポートは、担当教員が評価採点し、必ずコメントを入れて、参加学生に返却する予定である。

教科書	
参考書・Web サイト	辞書は、『プログレッシブ中国語辞典』（小学館）あるいは『クラウン中日辞典』（三省堂）を推薦するが、他の中国語辞典でも構わない。必ず、現地に一冊は持参すること。
単位修得が望ましい科目	中国語ⅠA、ⅠB
備考	研修で使用する教科書は、南京大学より配付される。
担当教員の実務経験	なし

海外事情（米国編） Overseas Language and Culture Course (America)

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IPC104
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	夏期集中	
授業概要					
・海外事情アメリカ編は、英語圏であるアメリカにおいて、習得した英語の基礎力をさらに実践の場で活用するための短期集中研修です。そのためには、英語力だけでなく、アメリカの地理や文化などの背景知識を確認する必要があります。また、アメリカの学生や市民と交流するためには、日本の地理や文化についての基礎知識も確認する必要があります。（そのため、2～4 回の事前授業が予定されている。） ・具体的な計画は 4 月か 5 月に掲示され、受講希望者は通常の登録期間とは別に、掲示されたスケジュールに従って講師の承認を得て受講登録手続きを行う必要がある。 ・現地授業（ショアライン・コミュニティ・カレッジ）では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを行いますので、頑張ってください！授業は通常午前中に行われ、午後は文化イベントやツアーがあります。 ・海外事情アメリカ編は、いくつかの IT スタディ／ワークショップを行います。大手 IT 企業（マイクロソフトなど）への訪問、プログラミング・ワークショップへの参加、IT メディア／音楽研究所への訪問などが含まれます。 ----- ----> 事前授業以外、本学での海外事情報告会(12 月)もあります。どちらも必須です。 ----> ホスト学校（留学先）の都合で、授業計画が変わる可能性があります。					
授業における学修の到達目標					
第一の目的は、英語だけの環境に身をおくことにより現時点での自己の英語力を認識し、今後の英語学習の方向性を見つけることです。また第二の目的は、ホームステイ（白人、黒人、ヒスパニック、アジアなど）を通じ英語でコミュニケーションする能力を身につけ、海外旅行に慣れてもらうことを目標としています。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1 Read text book 2 Practice self introduction			2
	授業	・ Self Introduction ・ Ice breaker ・ Conversation skills 1 ・ American Culture class/event ・ Pronunciation practice			
	事後学修	1 Read text book 2 Review self introduction			2
2	事前学修	1 Read text book 2 Practice self introduction			2
	授業	・ Talking about yourself ・ How to communicate ・ Conversation skills 2 ・ American Culture class/event ・ Pronunciation practice			
	事後学修	1 Read text book 2 Review talking about yourself questions			2
3	事前学修	1 Read text book 2 Practice talking about yourself with host family			2

	授業	• Talking about Japan • How to communicate non-verbally • Conversation skills 3 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new non-verbal communication skills	2
4	事前学修	1 Read text book 2 Practice non-verbal skills with host family	2
	授業	• Comparing Japan and America • How to communicate with gestures • Conversation skills 4 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new gesture communication skills	2
5	事前学修	1 Read text book 2 Practice gestural communication skills with host family	2
	授業	• Asking how • How to communicate with gestures • Conversation skills 5 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new asking how skills	2
6	事前学修	1 Read text book 2 Practice new asking communication skills with host family	2
	授業	• Ordering food and drinks • How to use verbal cues • Conversation skills 6 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new verbal cues and how to order skills	2
7	事前学修	1 Read text book 2 Practice new verbal cues and how to order skills with host family	2
	授業	• Start a conversation • How to use greetings correctly • Conversation skills 7 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new greetings and starting a conversation skills	2
8	事前学修	1 Read text book 2 Practice new greetings and starting a conversation skills with host family	2
	授業	• Discussing a problem or uncertainty	

		• How to use POLITE English • Conversation skills 8 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new discussing a problem and POLITE English skills	2
9	事前学修	1 Read text book 2 Practice new discussing a problem and POLITE English skills with host family	2
	授業	• Discussing health • How to disagree • Conversation skills 9 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new health discussion and how to disagree skills	2
10	事前学修	1 Read text book 2 Practice new health discussion and how to disagree skills with host family	2
	授業	• Discussing transport • How to write in cursive script • Conversation skills 10 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new transport words and cursive writing skills	2
11	事前学修	1 Read text book 2 Practice new transport words and expressions with host family	2
	授業	• Discussing family and friends • How to make a conversation interesting • Conversation skills 11 • American Culture class/event • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new family & friends words and making a conversation interesting skills	2
12	事前学修	1 Read text book 2 Practice new making a conversation interesting skills with host family	2
	授業	• Future dreams • How to express words you don't know • Conversation skills 12 • American Culture class/event • Pronunciation practice • Presentation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new future dreams expressions and how to express words you don't know skills	2
13	事前学修	1 Read text book 2 Practice new future dreams expressions and how to express words you don't know skills with host family	2

	授業	・ Lifestyle ・ How to improve your vocabulary ・ Conversation skills 13 ・ American Culture class/event ・ Pronunciation practice ・ Presentation practice	
	事後学修	1 Read text book 2 Review new lifestyle expressions and how to improve your vocabulary skills	2
14	事前学修	1 Read text book 2 Practice new lifestyle expressions and improved vocabulary skills with host family	2
	授業	・ What you have learnt ・ How to continue improving your English ・ Conversation skills 14 ・ American Culture class/event ・ Pronunciation practice ・ Presentation	
	事後学修	1 Read text book 2 Review what has been learnt and how to continue improving English skills	2
15	事前学修	1 Read text book 2 Practice ideas learnt in how to continue improving English skills with host family	2
	授業	・ Why English is important ・ Informal party with host families and teachers ・ Summarize conversation skills 15 ・ Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review what has been learnt (total course). 2 Practice thank you's and farewell greetings with host family	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■事前授業：20%

■レポート：30%（帰国後に提出となる）

■その他：30%（現地語学研修機関での成績）

■報告会でのプレゼンテーション：20%

----> レポートと報告会での発表は必須です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前授業が終わったら、資料（宿題等）、採点して、返します。

発表会(12月)でレポートの点数を教えます。

発表会でディブリーフィングセッションがあります。

教科書	
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	Communication I（英語表現 1 A） Speaking I（英語表現 1 B） Communication II（英語表現 II A） Speaking II（英語表現 II B）

備考	学生の条件 ・ 15 人がいないと停止（20 人まで） ・ 本学の学生、通信教育部正科生 B の学生のみ ・ 多人数であれば、上学年を優先 ・ ワクチン接種済ませた（二回以上）学生のみ（変わる可能性があります） ・ 参加費は授業代・渡航費・ホームステイ分・食事代・イベント代・現地交通費・SIM カードは含まれてる ・ ESTA・パスポート・お土産は別料金 ・ 学生の負担は45～60万円になります。 参加する方法 ・ ダウンロード受講申込書（POLITE） ・ 質問？メールして下さい。 期間とスケジュール ・ 8 月の第二週の日曜日 ～ 9 月の第 1 週の土曜日（案） ・ 宿泊は 2 人でホームステイ ・ 学校までに移動は公共交通 ・ 平日の午前は勉強、午後は研修、見学、イベント ・ 週末はホストファミリーと一緒に 事前授業 ・ 対面か ZOOM ・ 自己紹介、パスポートについて、ESTA について、ホームステイについて ・ 注意事項について 事後授業 ・ レポートを書いて、提出する ・ 発表する（対面か ZOOM） ・ 評価＝レポート＋シアトルの評価＋発表＋事前授業 ・ レポートと発表(PPT)は必須です
担当教員の実務経験	なし

国際コラボレーション A International Collaborative Studies (ICS) A

担当教員	隼田尚彦 他(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義	○	IPC106
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	夏期集中	
授業概要					
テーマ：タイの学生と ICT 作品を共同制作し、グローバル人材としての資質を身につける					
この科目は、タイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校（RMUTT）への短期海外留学を含む国際交流科目です。 履修者は、学内で行われる各種 ICT コンテスト（WEB デザイン、ショートフィルム、コンピュータプログラム）受賞作品の制作者およびビジネス分野などに適した学力・適性をもつ学生から選抜されます。学内コンテスト受賞作品は本学と RMUTT との国際コンテストへのエントリー作品とされ、優秀な作品は表彰されます。 国際コンテストとは別に、履修者は、学内で事前に行われる講義・演習を受講したのち、本学と RMUTT を会場として行われる一連のワークショップに参加します。ワークショップでは、RMUTT の学生とグループをつくり、共同で作品を作したり、調査・分析結果を纏めたりします。履修者選抜の条件などは、以下の備考を参照してください。 この授業は、学生がテーマを考え、グループで ICT 作品を完成させたり、調査・分析結果を纏めたりする PBL 形式で行われます。					
授業における学修の到達目標					
1.ICT 作品制作技術などの専門的スキルを向上させる。 2.グローバルコミュニケーション力を向上させる。 （グローバルコミュニケーション言語は英語とする。） 3.相互の文化を理解する。 4.国際的な人間関係を構築する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	POLITE の事前配布資料と、講義概要をよく読み、授業の内容を把握し、ノートにまとめておく。			2.0
	授業	科目の趣旨、タイ王国の地理、歴史、文化、言語。 タイ短期留学中の取材場所の調査計画。 チーム編成、チームト・トピック検討。			
	事後学修	タイ短期留学中の取材場所を調査する。 チーム・トピックを考え、ノートにまとめておく。			2.0
2	事前学修	チーム・トピックの説明を準備する。 英語でのバックグラウンド紹介を準備する。			2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 1 （バックグラウンド紹介、チームトピックのプレゼン）			
	事後学修	バックグラウンド紹介、チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する。 タイ短期留学中の取材場所を調査する。			2.0
3	事前学修	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成に着手する。			2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 1 （国際コンテスト用に学内コンテスト受賞作品を英語化する。）			
	事後学修	バックグラウンド紹介、チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成。 学内コンテスト受賞作品を英語化する。 タイ短期留学中の取材場所を調査する。			2.0
4	事前学修	タイ現地取材の調査結果報告を準備し、ノートにまとめておく。			2.0
	授業	海外渡航指導。			

		タイ現地取材の調査結果報告。	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する。 学内コンテスト受賞作品を英語化する。	2.0
	事前学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを準備する。	2.0
5	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 2 (英語化した国際コンテスト用作品の英語コンテンツの添削指導を受ける。)	
	事後学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを完成し，作品を提出する。 バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成。	2.0
	事前学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成する。	2.0
6	授業	英語プレゼンテーション演習 2 (バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン指導を受ける。)	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を完成させる。	2.0
	事前学修	バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼンを練習する。	2.0
7	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) アイスブレイク，英語コミュニケーション指導，バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼン，チーム編成。	
	事後学修	チームごとに，チーム内での意思疎通の確認を行う。	2.0
	事前学修	チームごとに作品制作の方法を検討しておく。	2.0
8	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) 講義 (グループワークの方法)，作品制作の方法検討 (チーム単位)。	
	事後学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
	事前学修	作品制作のための現地取材先を確認し，事前調査しておく。	2.0
9	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) 在タイ日本企業を訪問し，日本人の海外勤務の実際に触れる。 作品制作のために，現地取材を行う。(RMUTT キャンパス内外，バンコク，アユタヤ等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
10	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する。	2.0
	事前学修	ワークショップⅠで制作を進めてきた作品の仕上がりを確認し，ワークショップⅡでのスケジュールを確認する。	2.0
11	授業	ワークショップⅡ (日本・HIU) 作品制作のために，現地取材を行う。(HIU キャンパス内外，札幌市内等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
12	授業	ワークショップⅡ (日本・HIU) チーム単位で作品制作を進める。 iCPC は企業でのミニ・インターンシップを行う。 RMUTT 学生は，企業見学を行う。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する。	2.0
13	事前学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ (日本・HIU)	

		チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品報告会の PowerPoint 作成等を行う。	2.0
	事前学修	作品報告会での英語プレゼンの練習を行う。	2.0
14	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） ワークショップで制作した作品の報告会で、チーム単位で英語でのプレゼンを行う。 国際コンテストの表彰式に参加する。	
	事後学修	ワークショップⅠ・Ⅱ全体を振り返り、総括を行う。	2.0
	事前学修	学内報告会の準備を行う。	2.0
15	授業	ワークショップ作品の学内報告会	
	事後学修	学内報告会の振り返りを行う。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：15% ■演習課題・グループワーク：70%

■その他[プレゼンテーション] 15%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・コンテスト応募作品の受賞結果は、表彰式で公表される。
- ・英文コンテンツ作成、英語プレゼン資料作成などは、提出時に添削指導する。
- ・ワークショップで制作した作品については、ワークショップ最終日のプレゼンテーションで講評される。

教科書	
参考書・Web サイト	千貫 リコ『デザインの学校 これからはじめる HTML&CSS の本』技術評論社、2012 エビスコム『HTML5 & CSS3 ステップアップブック』ソシム、2012 大藤 幹『よくわかる HTML5+CSS3 の教科書』マイナビ、2012 その他の参考書については、事前授業やワークショップで必要に応じて紹介します。
単位修得が望ましい科目	Web 技術関係科目、映像制作関係科目、プログラミング関係科目、ビジネス関係科目、英語科目。
備考	履修者は、学内で行われる WEB デザインコンテスト、ショートフィルムコンテスト、コンピュータプログラミングコンテスト受賞作品制作者およびビジネス分野などに適した学力・適性をもつ学生の中から、成績を考慮して選抜します。ただし、1 年生については、高校までの成績を考慮して選抜します。なお、海外渡航の旅費等の一部は補助しますが、現地活動費を含めて費用の一部は自己負担してもらいます。
担当教員の実務経験	安田教授は、企業でデザイナーとして勤務した経験を生かして、ICT 作品制作の指導にあたります。 島田准教授は、企業でクリエイターとして勤務し映像制作を手がけてきた経験を生かして、映像作品制作指導にあたります。 隼田教授は、日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験を生かして、国際的なコミュニケーションの指導に当たります。

国際コラボレーション B International Collaborative Studies (ICS) B

担当教員	隼田尚彦 他(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	講義	○	IPC107	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	
授業概要						
テーマ：タイの学生と ICT 作品を共同制作し、グローバル人材としての資質を身につける						
この科目の履修は、前年度以前に、国際コラボレーション A を履修した学生を対象とします。ただし、国際コラボレーション A を履修した際の学内コンテスト部門と異なる部門から選抜されます。なお、2021 年度に国際コラボレーション A を履修した学生については、ワークショップがオンラインで行われたため、国際コラボレーション A を履修した際の学内コンテスト部門と同じ部門で選抜された場合でも、本科目を履修できるものとします。 授業は、国際コラボレーション A と合同で同様な内容で行われますが、国際コラボレーション A の経験を生かして、さらにグローバル人材としての素養を伸ばす発展的な学修を目指して行われます。また、作品制作の分野を広げることにより、ICT 活用の力量を伸ばすことを目指します。 国際コンテストおよびワークショップの作品制作分野は、この科目を履修するために参加した学内コンテストの分野に限られます。例えば、前年度以前に学内 WEB デザインコンテストで選抜されて国際コラボレーション A を履修した学生は、ショートフィルムまたはコンピュータプログラミングの学内コンテストで選抜され、この科目の国際コンテストおよびワークショップでは、今回の学内コンテストで選抜された分野の作品制作を行います。履修者選抜の条件などは、以下の備考を参照してください。 この授業は、学生がテーマを考え、グループで ICT 作品を完成させる PBL 形式で行われます。						
授業における学修の到達目標						
1.ICT 作品制作技術を向上させる。						
2.グローバルコミュニケーション力を向上させる。						
(グローバルコミュニケーション言語は英語とする。)						
3.相互の文化を理解する。						
4.国際的な人間関係を構築する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	POLITE の事前配布資料と、講義概要をよく読み、授業の内容を把握、ノートにまとめておく。				2.0
	授業	科目の趣旨、タイ王国の地理、歴史、文化、言語。 タイ短期留学中の取材場所の調査計画。 チーム編成、チームト・トピック検討。				
	事後学修	タイ短期留学中の取材場所を調査する。 チーム・トピックを考え、ノートにまとめておく。				2.0
2	事前学修	チーム・トピックの説明を準備する。 英語でのバックグラウンド紹介を準備する。				2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 1 (バックグラウンド紹介、チームトピックのプレゼン)				
	事後学修	バックグラウンド紹介、チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する。 タイ短期留学中の取材場所を調査し、ノートにまとめておく。				2.0
3	事前学修	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成に着手する。				2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 1 (国際コンテスト用に学内コンテスト受賞作品を英語化する。)				
	事後学修	バックグラウンド紹介、チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成。 学内コンテスト受賞作品を英語化する。タイ短期留学中の取材場所を調査し、ノートにまとめてお				2.0

		く。	
4	事前学修	タイ現地取材の調査結果報告を準備する。	2.0
	授業	海外渡航指導。 タイ現地取材の調査結果報告。	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を作成する。 学内コンテスト受賞作品を英語化する。	2.0
5	事前学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを準備する。	2.0
	授業	学内コンテスト受賞作品の英文コンテンツ作成演習 2 (英語化した国際コンテスト用作品の英語コンテンツの添削指導を受ける。)	
	事後学修	国際コンテスト用作品の英語コンテンツを完成し，作品を提出する。 バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成。	2.0
6	事前学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint 作成する。	2.0
	授業	英語プレゼンテーション演習 2 (バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン指導を受ける。)	
	事後学修	バックグラウンド紹介，チームトピックのプレゼン用 PowerPoint を完成させる。	2.0
7	事前学修	バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼンを練習する。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) アイスブレイク，英語コミュニケーション指導，バックグラウンド紹介，チーム・トピックのプレゼン，チーム編成。	
	事後学修	チームごとに，チーム内での意思疎通の確認を行う。	2.0
8	事前学修	チームごとに作品制作の方法を検討しておく。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) 講義 (グループワークの方法)，作品制作の方法検討 (チーム単位)。	
	事後学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
9	事前学修	作品制作のための現地取材先を確認し，事前調査しておく。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) 在タイ日本企業を訪問し，日本人の海外勤務の実際に触れる。 作品制作のために，現地取材を行う。(RMUTT キャンパス内外，バンコク，アユタヤ等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
10	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	授業	ワークショップⅠ (タイ・RMUTT) チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品制作の振り返りを行い，チーム間で共有する。	2.0
11	事前学修	ワークショップⅠで制作を進めてきた作品の仕上がりを確認し，ワークショップⅡでのスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ (日本・HIU) 作品制作のために，現地取材を行う。(HIU キャンパス内外，札幌市内等)	
	事後学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
12	事前学修	現地取材で収集した各種データを整理する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ (日本・HIU) チーム単位で作品制作を進める。 iCPC は企業でのミニ・インターンシップを行う。 RMUTT 学生は，企業見学を行う。	

	事後学修	作品制作の振り返りを行い、チーム間で共有する。	2.0
13	事前学修	作品制作のスケジュールを確認する。	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） チーム単位で作品制作を進める。	
	事後学修	作品報告会の PowerPoint 作成等を行う。	2.0
14	事前学修	作品報告会での英語プレゼンの練習を行う。	2.0
	授業	ワークショップⅡ（日本・HIU） ワークショップで制作した作品の報告会で、チーム単位で英語でのプレゼンを行う。 国際コンテストの表彰式に参加する。	
	事後学修	ワークショップⅠ・Ⅱ全体を振り返り、総括を行う。	2.0
15	事前学修	学内報告会の準備を行う。	2.0
	授業	ワークショップ作品の学内報告会	
	事後学修	学内報告会の振り返りを行う。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：15% ■演習課題・グループワーク：70%

■その他[プレゼンテーション] 15%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・コンテスト応募作品の評価は、web 上に表示される。

・英文コンテンツ作成、英語プレゼン資料作成などは、提出時に添削指導する。

教科書

参考書・Web サイト

千貫 りこ『デザインの学校 これからはじめる HTML&CSS の本』技術評論社、2012
エビスコム『HTML5 & CSS3 ステップアップブック』ソシム、2012
大藤 幹『よくわかる HTML5+CSS3 の教科書』マイナビ、2012
その他の参考書については、事前授業やワークショップで必要に応じて紹介します。

単位修得が望ましい科目

Web 技術関係科目、映像制作関係科目、プログラミング関係科目、英語科目。

備考

履修者は、学内で行われる WEB デザインコンテスト、ショートフィルムコンテストまたはコンピュータプログラミングコンテスト受賞作品制作者の中から、成績を考慮して選抜します。ただし、1 年生については、高校までの成績を考慮して選抜します。なお、海外渡航の旅費等の一部は補助しますが、現地活動費を含めて費用の一部は自己負担してもらいます。

担当教員の実務経験

安田教授は、企業でデザイナーとして勤務した経験を生かして、ICT 作品制作の指導にあたります。
島田准教授は、企業でクリエイターとして勤務し映像制作を手がけてきた経験を生かして、映像作品制作指導にあたります。
隼田教授は、日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験を生かして、国際的なコミュニケーションの指導に当たります。

キャリアデザイン I (情報メディア学科) Career Design 1

担当教員	向田 茂(125 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義		CLC154	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
授業概要						
「キャリアデザインⅠ」は、3 年生から始まる就職活動を円滑に進めるための知識を身につけるための講義です。就職活動を円滑に行うためには、まずは自分自身を知り、どのような適性があるのか、卒業後どのようなキャリアパスを歩んで行きたいのかを明確にしておく必要があります。このために、エゴグラム、自己分析、他己分析などを通して、自分自身、自身の適性について知ることから始めます。また、現在の業界はどのようなものになっているのか、更には、その業界の各企業の状況を知ることによって、将来のキャリアパスを考えます。更に、就職活動で利用することが必須となる就職四季報の使い方も学習することによって、将来、スムーズにインターンシップ企業の選定や企業訪問などを含めた就職活動ができるようになります。						
授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
・自分はどのような人間であり、どのような適正があるのかを明らかにする						
・将来のキャリアパスを明確にする						
・就職活動に必要な時事力，社会人マナー，社会人を身につける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自分とはどのような人間かを考える				1
	授業	講義ガイダンス，エゴグラム～自分を知る～				
	事後学修	エゴグラムの結果を見直し，自分自身について今一度考える				1
2	事前学修	自分とはどのような人間かを考える				1
	授業	自己分析 その 1				
	事後学修	自己分析によって明らかになった自分について今一度考える				1
3	事前学修	自分とはどのような人間かを考える				1
	授業	自己分析 その 2				
	事後学修	自己分析によって明らかになった自分について今一度考える				1
4	事前学修	自身の価値基準を考える				1
	授業	自身の価値基準を知る				
	事後学修	講義によって明らかになった価値基準について今一度考える				1
5	事前学修	他人から自分がどう見られているのか考える				1
	授業	他己分析				
	事後学修	他己分析により自分 g あどのような人間であるのかを今一度考える				1
6	事前学修	社会で求められる力とは何かを考える				1
	授業	社会で求められる力 ～社会人基礎力～				
	事後学修	社会人基礎力について今一度考える				1
7	事前学修	どのような業界や業種があるのか考える				1
	授業	業界とは・業種とは その 1				
	事後学修	自分が進みたい業界や業種について考える				1
8	事前学修	どのような業界や業種があるのか考える				1

	授業	業界とは、業種とは その2	
	事後学修	自分が進みたい業界や業種について考える	1
9	事前学修	どのような企業があるのか調べてみる	1
	授業	企業を知る その1	
	事後学修	興味を持った企業を詳しく調べる	1
10	事前学修	どのような企業があるのか調べてみる	1
	授業	企業を知る その2	
	事後学修	興味を持った企業を詳しく調べる	1
11	事前学修	各業界の関連性を考える	1
	授業	業界地図 その1	
	事後学修	興味を持った業界について詳しく調べる	1
12	事前学修	各業界の関連性を考える	1
	授業	業界地図 その2	
	事後学修	興味を持った業界について詳しく調べる	1
13	事前学修	就職四季報とは何か調べる	1
	授業	就職四季報の使い方	
	事後学修	就職四季報の使い方を講義資料に基づき復習する	1
14	事前学修	時事力や社会人マナーとは何か考える	1
	授業	時事力・GD トレーニング・社会人マナー	
	事後学修	講義資料に基づき時事力・GD トレーニング・社会人マナーを高める	1
15	事前学修	これからの大学生活と大学卒業後について考える	1
	授業	大学生活・大学卒業後をデザインする	
	事後学修	講義で設計したこれからの大学生活・大学卒業後のキャリアパスについて今一度考える	1

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE により演習のフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

キャリアデザインⅡ（情報メディア学科） Career Design 2

担当教員	向田 茂 (125 研究室), 近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義		CLC255	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		2 年	後期	
授業概要						
「キャリアデザインⅡ」は、「キャリアデザインⅠ」に引き続き3年生から始まる就職活動を円滑に行えるようにするための講義です。キャリアデザインⅡでは、具体的に、これからの就職活動で必要になる就活サイトや逆求人サイトの使い方、実際のインターンシップの内容や応募の仕方について学習します。更に、外部講師として北海道情報大学を卒業し、現在IT業界やITに関連する仕事をしている卒業生を招き、講話を聞くことで実際の仕事に対するイメージを掴む。また、ITベンチャーや大手IT企業の現役エンジニアの講演を聞くことで企業規模による仕事の違いなどをイメージできるようにする。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
・就職活動で必要になる就職サイトやインターンシップについて理解する ・卒業生はどのような仕事をしているのかを知る ・ITベンチャーやIT大手企業における仕事とはどのようなものかを理解する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	これからの就職活動について考える				1
	授業	講義ガイダンス、就職活動とは、3年生からの就職活動に向けた活動				
	事後学修	講義資料を使ってこれからの就職活動について復習する				1
2	事前学修	公務員と公務員試験について事前調査する				1
	授業	公務員と公務員試験				
	事後学修	講義内容を基に公務員への進路について考える				1
3	事前学修	就職サイト、逆求人サイトについて事前調査する				1
	授業	就職支援サイトの使い方、逆求人サイトの使い方				
	事後学修	講義内容に基づき実際に就職支援サイト、逆求人サイトを利用してみる				1
4	事前学修	インターンシップについて考える				1
	授業	インターンシップとは、その重要性				
	事後学修	インターンシップサイトからどのようなインターンシップがあるのかを調査する				1
5	事前学修	就職活動時の面接について事前調査する				1
	授業	面接対策 質問の意図				
	事後学修	就職活動における面接において答えるべき内容を今一度復習する				1
6	事前学修	システムエンジニアという仕事について事前調査する				1
	授業	システムエンジニアという仕事				
	事後学修	自身のシステムエンジニアとしての適性を考える				1
7	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する				1
	授業	卒業生談話 IT企業における仕事 その1				
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する				1
8	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する				1
	授業	卒業生談話 IT企業における仕事 その2				

	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する	1
9	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 IT 企業ではないが IT に関連する仕事 その 1	
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する	1
10	事前学修	談話を行う講師の仕事について事前調査する	1
	授業	卒業生談話 IT 企業ではないが IT に関連する仕事 その 2	
	事後学修	談話内容に基づきその企業や仕事について詳しく調査する	1
11	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その 1	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
12	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その 2	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
13	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その 3	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
14	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その 4	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1
15	事前学修	非常勤講師の会社について事前調査する	1
	授業	キャリアセミナー その 5	
	事後学修	講義内容に基づき、その会社や仕事について詳しく調べる	1

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE における演習によりフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	キャリアデザイン I
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

キャリアデザインⅢ（システム情報学科、情報メディア学科） Career Design 3

担当教員	向田 茂 (125 研究室), 栗原 純一 (307 研究室), 近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義		CLC356
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
この授業では、働くことの楽しさや意義、そしてインターンシップの必要性と方法について解説し、将来のキャリア形成に向けて高い意識を持つことを目指します。働くことが自己実現や社会貢献につながる重要性や、職場での成長や達成感の喜びを示します。					
授業では、具体的な事例や体験を通して、働くことの意義を理解し、積極的な職業観を育むとともに自信をもって就職活動へ臨む意識を醸成することを目指します。					
授業における学修の到達目標					
就職や進学への意識を高め、実際の行動へと移す準備をする					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	事前に資料を確認する			1
	授業	ガイダンスと SPI テストの練習			
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返る			1
2	事前学修	事前に資料を確認する			1
	授業	働くことの楽しさについて			
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む			1
3	事前学修	事前に資料を確認する			1
	授業	インターンシップについて			
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む			1
4	事前学修	事前に資料を確認する			1
	授業	自己分析とエントリーシート			
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む			1
5	事前学修	事前に資料を確認する			1
	授業	大学院について			
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む			1
6	事前学修	なし			0
	授業	外部講演（多様な働き方）			
	事後学修	資料を見直し、授業内容を振り返るとともに課題に取り組む			1
7	事前学修	テストに備え準備をする			2
	授業	SPI テスト（1 回目）			
	事後学修	テストの問題を振り返る			1
8	事前学修	事前に資料を確認する			1
	授業	SPI 対策講座（言語系）			

日本語 I Japanese 1

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	ILC117	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
テーマ：中級前半の日本語総合力の習得 中級前半レベルの日本語を、日本語能力試験 N3～N2 に対応した問題集を解いていくことによって総合的に身に付ける。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、クラスで話し合っ て解答を導き出していくことによって、自ら考える力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。 2 日本語能力試験 N3～N2 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説 教材第 1 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 2 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 3 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 4 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 5 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 6 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 7 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 8 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				

	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験直前対策 N 2 文字・語彙・文法, 著者名：日本語能力試験問題研究会【編】, 出版社：国書刊行会, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語 I (編入生) Japanese 1

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CBL160	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		1 年	前期	
授業概要						
テーマ：中級前半の日本語総合力の習得 中級前半レベルの日本語を、日本語能力試験 N3～N2 に対応した問題集を解いていくことによって総合的に身に付ける。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、クラスで話し合っ て解答を導き出していくことによって、自ら考える力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。 2 日本語能力試験 N3～N2 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 2 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 3 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 4 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 5 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 6 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 7 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、第 8 回文字・語彙、文法 問題解答・解説				
	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0

9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験直前対策 N 2 文字・語彙・文法, 著者名：日本語能力試験問題研究会【編】, 出版社：国書刊行会, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅱ Japanese 2

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC118
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
テーマ：中級前半の日本語総合力の習得					
中級前半の日本語の語彙を学習し、大学生活に必要な日本語の知識と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験 N2 の模擬試験も実施する。					
テキストの語彙を学ぶとともに、連想に基づいて各自の語彙も増やしていく。語彙の関連性についてグループに分かれてディスカッションを行い、それを通して口頭表現能力、説明能力も培う。					
POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。					
授業における学修の到達目標					
1 中級前半レベルの語彙を、意味、用法、コロケーション等、総合的に理解する。					
2 日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけて定着させる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	入学前の日本語学習状況について報告できるようにしておく。			2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、漢字テスト			
	事後学修	漢字テストの復習			2.0
2	事前学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ			2.0
	授業	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む			
	事後学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習			2.0
3	事前学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ			2.0
	授業	小テスト、テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む			
	事後学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習			2.0
4	事前学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ			2.0
	授業	小テスト、テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む			
	事後学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習			2.0
5	事前学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ			2.0
	授業	小テスト、テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む			
	事後学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習			2.0
6	事前学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ			2.0
	授業	小テスト、テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む			
	事後学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習			2.0
7	事前学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ			2.0
	授業	小テスト、テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む			
	事後学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習			2.0

8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題 N2 聴解 解答・解説	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
9	事前学修	前回配布された聴解問題のスキットの単語調べ	2.0
	授業	日本語能力試験模擬問題 N2 文字・語彙、文法、読解	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
10	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語の文字に関する DVD 視聴、グループに分かれて DVD 視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	DVD 視聴後の感想文作成	2.0
11	事前学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
12	事前学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 8 体の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
13	事前学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
14	事前学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
15	事前学修	復習試験範囲の語彙の読み書き、意味、用法の復習	2.0
	授業	復習試験	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

復習試験 40%、小テスト 40%、提出物・授業参加度 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：語彙マップで覚える 漢字と語彙 中級 1500, 著者名：徳弘康代監修・著, 出版社：J リサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語 I
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅱ（編入生） Japanese 2

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CBL161	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
授業概要						
テーマ：大学で必要な中級前半の日本語総合力の習得 中級前半の日本語の語彙を学習し、大学生活に必要な日本語の知識と運用能力の獲得を目指す。また、日本語能力試験 N2 の模擬試験も実施する。 テキストの語彙を学ぶとともに、連想に基づいて各自の語彙も増やしていく。語彙の関連性についてグループに分かれてディスカッションを行い、それを通して口頭表現能力、説明能力も培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 中級前半レベルの語彙を、意味、用法、コロケーション等、総合的に理解する。 2 日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	入学前の日本語の学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、入学前の日本語学習状況の発表、漢字テスト				
	事後学修	漢字テストの復習				2.0
2	事前学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 1 自然の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
3	事前学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 2 一日の生活の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
4	事前学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 3 食べ物の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
5	事前学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 4 服・家の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
6	事前学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 5 街・交通の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0
7	事前学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の予習、漢字の読み調べ				2.0
	授業	小テスト、テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込む				
	事後学修	テキスト 6 公共サービス・イベントの語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習				2.0

8	事前学修	テレビやラジオでなるべくたくさんの日本語を聞いておく。	2.0
	授業	小テスト、日本語能力試験模擬問題 N2 聴解 解答・解説	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
9	事前学修	前回配布された聴解問題のスキットの単語調べ	2.0
	授業	日本語能力試験模擬問題 N2 文字・語彙、文法、読解	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0
10	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語の文字に関する DVD 視聴、グループに分かれて DVD 視聴後の所感についてディスカッション	
	事後学修	DVD 視聴後の感想文作成	2.0
11	事前学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 7 趣味の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
12	事前学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 8 体の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 8 体の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
13	事前学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 9 病気・病院の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
14	事前学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
	授業	小テスト、テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の確認、自分で関連する語彙を考えマップに書き込みグループで発表・意見交換	
	事後学修	テキスト 10 学校・教育の語彙の意味、用法の復習、漢字の読み書きの練習	2.0
15	事前学修	復習試験範囲の語彙の読み書き、意味、用法の復習	2.0
	授業	復習試験	
	事後学修	問題の解答で自己が誤った点を中心に復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

復習試験 40%、小テスト 40%、提出物・授業参加度 20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：語彙マップで覚える 漢字と語彙 中級 1500, 著者名：徳弘康代監修・著, 出版社：J リサーチ出版, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅲ Japanese 3

担当教員	田中 里実 (339 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	ILC119
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
テーマ：上級前半の日本語総合力の習得 上級前半レベルの日本語を、日本語能力試験 N1 に対応した問題を解答していくことによって総合的に身に付ける。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、クラスで話し合っ解決を導き出していくことによって、自ら考える力を培う。					
授業における学修の到達目標					
1 日本語力を総合的に向上させ、大学の講義に積極的に参加できる力を養う。 2 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	夏休み中の日本語学習状況について報告できるようにしておく。			2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 1 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 2 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 3 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 4 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 5 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 6 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 7 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0
	授業	小テスト、第 8 回文字・語彙、文法 問題解答・解説			
	事後学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習			2.0
9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ			2.0

	授業	小テスト、第 9 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 10 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	日本語能力試験での解答状況と反省点をまとめる。	2.0
	授業	日本語能力試験受験状況の報告、日本語に関する DVD 視聴、クラスでディスカッション	
	事後学修	DVD の感想文作成	2.0
12	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 11 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 12 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 13 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 漢字の読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、第 14 回文字・語彙、文法 問題解答・解説	
	事後学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅳ Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CBL263	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
授業概要						
テーマ：中級後半～上級の聴解を中心とした日本語力の習得 日本語能力試験 N1 の文字語彙・文法の問題集と聴解問題を解いていくことによって、総合的な日本語力を向上させる。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、自ら調べ、クラスで話し合っ て解答を導き出していくことによって、思考力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語の文字語彙・文法及び聴解の能力を向上させ、大学の講義を聞き取って理解できる力を養う。 2 日本語能力試験 N2～N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説、聴解課題理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0

9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 9 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 10 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 11 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
12	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 12 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 13 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 14 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 15 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 15 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験直前対策 N 1 文字・語彙・文法, 著者名：日本語能力試験問題研究会【編】，出版社：国書刊行会, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。 本講座使用のテキストは実際の N2 よりはレベルが高いため、N1 を目指す学生にも対応している。
担当教員の実務経験	なし

日本語Ⅳ（編入生） Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	CBL263	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		2 年	前期	
授業概要						
テーマ：中級後半～上級の文字語彙・文法、聴解を中心とした日本語力の習得 日本語能力試験 N1 の文字語彙・文法の問題集と聴解問題を解いていくことによって、総合的な日本語力を向上させる。 多数の練習問題を解いていくが、教員からの一方的な解説ではなく、自ら調べ、クラスで話し合って解答を導き出していくことによって、思考力を培う。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。						
授業における学修の到達目標						
1 日本語の文字語彙・文法及び聴解の能力を向上させ、大学の講義を理解できる力を養う。 2 日本語能力試験 N2～N1 レベルの日本語力を身につけて定着させる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	これまでの日本語学習状況について報告できるようにしておく。				2.0
	授業	オリエンテーション、これまでの日本語学習状況についての発表、効果的な日本語の学習方法に関するディスカッション、教材第 1 回文字・語彙、文法 問題解答・解説、聴解課題理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
2	事前学修	教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 2 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
3	事前学修	教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 3 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
4	事前学修	教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 4 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
5	事前学修	教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 5 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
6	事前学修	教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 6 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
7	事前学修	教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 7 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(1)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0
8	事前学修	教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題の単語読みと意味調べ				2.0
	授業	小テスト、教材第 8 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(2)問題、意味調べ、音読				
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習				2.0

9	事前学修	教材第 9 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(1)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 9 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(1)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
10	事前学修	教材第 10 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(2)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 10 回文字・語彙、文法 問題及び聴解統合理解(2)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
11	事前学修	教材第 11 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 11 回文字・語彙、文法 問題及び聴解課題理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
12	事前学修	教材第 12 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 12 回文字・語彙、文法 問題及び聴解ポイント理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
13	事前学修	教材第 13 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 13 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
14	事前学修	教材第 14 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 14 回文字・語彙、文法 問題及び聴解即時応答(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0
15	事前学修	教材第 15 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題の単語読みと意味調べ	2.0
	授業	小テスト、教材第 15 回文字・語彙、文法 問題及び聴解概要理解(3)問題、意味調べ、音読	
	事後学修	問題の解答を自己が誤った点を中心に復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

小テスト 70%、提出物・授業参加度 30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	書名：日本語能力試験直前対策 N 1 文字・語彙・文法, 著者名：日本語能力試験問題研究会【編】，出版社：国書刊行会, 備考：
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ
備考	日本語能力試験 N2 に合格していない者は、日本語能力試験 N2 を必ず受験し合格を目指すこと。 本講座使用のテキストは実際の N2 よりはレベルが高いため、N1 を目指す学生にも対応している。
担当教員の実務経験	なし

日本事情 Japanese 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CLC364
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ：日本の風俗習慣について学ぶ					
日本の社会生活におけるマナーを中心とした風俗習慣に関し、毎回定められたテーマについて、資料や視聴覚教材を通して学ぶ。					
毎回講義を通して学んだことを書く課題を課す。					
POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。					
授業における学修の到達目標					
1 日本の風俗習慣を学ぶとともに、自国との相違を認識する。					
2 ディスカッションを通し、日本語の総合力を向上させる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	電話のマナーについて調べてくる。			2.0
	授業	オリエンテーション、電話のかけ方のマナー			
	事後学修	電話のかけ方をまとめたミニレポート作成			2.0
2	事前学修	友人、親戚、会社などを訪問する際の自国のマナーについて調べてくる。			2.0
	授業	訪問のマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	訪問のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
3	事前学修	自国で多い姓について調べてくる			2.0
	授業	日本人の姓名 1、日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	日本人の姓名 1 について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
4	事前学修	自国で多い名前について調べてくる			2.0
	授業	日本人の姓名 2、日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	日本人の姓名 2 について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
5	事前学修	食事に関する自国のマナーについて調べてくる。			2.0
	授業	食事（和食）のマナー、日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	食事のマナー（和食）について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
6	事前学修	食事に関する自国の各地域のマナーについて調べてくる。			2.0
	授業	食事のマナー（洋食）、日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	食事のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
7	事前学修	飲み会に関する自国のマナーについて調べてくる。			2.0
	授業	飲み会のマナー、日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	飲み会のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
8	事前学修	宴会、立食パーティーに関する自国のマナーについて調べてくる。			2.0
	授業	宴会、立食パーティーのマナー、日本と自国との相違についてディスカッション			
	事後学修	宴会、立食パーティーのマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成			2.0
9	事前学修	結婚式に関する自国のマナーについて調べてくる。			2.0

	授業	結婚式のマナー1、日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	結婚式のマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	結婚式の際の服装、贈り物、食事、スピーチ等の自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	結婚式のマナー2、日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	前回と今回の授業で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0
11	事前学修	葬式に関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	葬式のマナー1、日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	葬式について、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
12	事前学修	葬式での服装、遺族への対応等、自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	葬式のマナー2、日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	前回と今回の授業で学んだことについてのミニレポートの作成	2.0
13	事前学修	ビジネスに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	ビジネスマナー、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	ビジネスマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
14	事前学修	見舞いに関する自国のマナーについて調べてくる。	2.0
	授業	お見舞い、フォーラムで日本と自国との相違についてディスカッション	
	事後学修	お見舞いのマナーについて、自国と日本との相違に関するミニレポートの作成	2.0
15	事前学修	これまでのテーマに関する自国との比較について考えをまとめておく。	2.0
	授業	まとめのレポート作成	
	事後学修	レポートで不十分だったと考える点を復習しておく。	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■まとめのレポート：40% ■課題：30% ■授業参加度：30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

情報メディア入門Ⅰ Introduction to Information Media 1

担当教員	向田 茂(125 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
大学生活を円滑にするための情報環境の整備と、大学生活を豊かにするための意識や知識の修得を行います。 大学生活を有意義に過ごすかどうかは、みなさんの意識と行動しだいです。4 年間の大学生活を有意義なものにするために必要な知識、仕組み、そして意識の持ち方を解説しながら、より具体的な大学生活のイメージを構築していきます。また、情報メディア学科の学びや教員の専門分野について、学科の教員がオムニバス形式で講演します。					
授業における学修の到達目標					
4 年後の自分を想像し、充実した大学生活とするための計画を立てます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	配布された PC にてインターネットへの接続を確認する。			2
	授業	ガイダンス・授業支援ツール（Google）に関する演習			
	事後学修	授業支援ツール(Google)の動作を検証する。			2
2	事前学修	2024 履修のガイドの学生生活全般に関わる内容を調べる。			2
	授業	大学での学びについて			
	事後学修	卒業のために必要な要素について確認し、これからの学生生活についての目標を考える。			2
3	事前学修	情報メディア学科の専攻・領域について調べる。			2
	授業	情報メディア学科の専攻・領域について			
	事後学修	身につけたい知識や技術について考える。			2
4	事前学修	なし			0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 1			
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む			4
5	事前学修	なし			2
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 2			
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む			2
6	事前学修	なし			2
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 3			
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む			2
7	事前学修	なし			0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 4			
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む			4
8	事前学修	なし			0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 5			
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む			4
9	事前学修	なし			0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 6			

	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
10	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 7	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
11	事前学修	学内コンテストについて調べる	2
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 8	
	事後学修	参加したい学内コンテストについて確認する	2
12	事前学修	なし	0
	授業	自己カリキュラム計画	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
13	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 10	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
14	事前学修	なし	0
	授業	情報メディア学科の専門分野紹介 11	
	事後学修	専門分野に関する確認と理解および課題に取り組む	4
15	事前学修	前期の自己の学修への取り組みについて考える	2
	授業	まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の履修科目の計画を練る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：100% □演習課題：0% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE のフィードバック機能を用いて提出物の総評を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	2024 履修のガイド
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

情報メディア入門Ⅱ Introduction to Information Media 2

担当教員	伊藤 正彦(325 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 向 田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC102
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	後期
授業概要					
この講義では、今後大学で学びを深めるうえで必要となる基礎知識を身に付けてもらいます。特に、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容を学んでももらいます。これにより、今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。 開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し、この講義で学習する基礎知識が、後に選択するコースの内容や、学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより、卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。					
授業における学修の到達目標					
・ 今後履修する「専門科目」の内容を理解する上で不可欠な基礎知識を学習する。 ・ 卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス 情報メディア入門Ⅱの趣旨と流れ 専門分野の基礎教養の知識			
	事後学修	情報メディア入門Ⅱの趣旨と流れを理解する			2
2	事前学修	インターネットでメディアアートについて事前に調査する			2
	授業	メディアアートに関連する基礎教養の解説			
	事後学修	メディアアートの具体例などを見てみる。			2
3	事前学修	インターネットで3DCGについて事前に調査する			2
	授業	3DCGに関連する基礎教養の解説			
	事後学修	3DCGの具体例や応用例などを探してみる。			2
4	事前学修	インターネットでアプリ開発について事前に調査する			2
	授業	アプリ開発に関連する基礎教養の解説			
	事後学修	アプリ開発の具体例や応用例などを探してみる。			2
5	事前学修	インターネットでグラフィックデザインについて事前に調査する			2
	授業	グラフィックデザインに関連する基礎教養の解説			
	事後学修	グラフィックデザインの具体例や応用例などを探してみる。			2
6	事前学修	インターネットでゲーム開発について事前に調査する			2
	授業	ゲーム開発に関連する基礎教養の解説			
	事後学修	ゲーム開発の具体例や応用例などを探してみる。			2
7	事前学修	インターネットでアニメーション制作について事前に調査する			2
	授業	アニメーション制作に関連する基礎教養の解説			
	事後学修	アニメーション制作の具体例や応用例などを探してみる。			2
8	事前学修	映画製作事情について事前に調査する			2

	授業	映画製作事情	
	事後学修	映画製作の具体例を探してみる	2
9	事前学修	インターネットで Web 開発について事前に調査する	2
	授業	Web 開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web 開発の具体例や応用例などを探してみる。	2
10	事前学修	インターネットで Web アプリ開発について事前に調査する	2
	授業	Web アプリ開発に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web アプリ開発の具体例や応用例などを探してみる。	2
11	事前学修	インターネットで IoT について事前に調査する	2
	授業	IoT に関連する基礎教養の解説	
	事後学修	IoT の具体例や応用例などを探してみる。	2
12	事前学修	資格について事前に調査する	2
	授業	資格と大学生について	
	事後学修	自分にあう資格の種類などを調べてみる。	2
13	事前学修	IT パスポート・基本情報について事前に調査する	2
	授業	IT パスポート・基本情報の説明と対策の準備	
	事後学修	IT パスポート・基本情報の対策方法などを他に探してみる。	2
14	事前学修	インターネットで Web デザインについて事前に調査する	2
	授業	Web デザインに関連する基礎教養の解説	
	事後学修	Web デザインの具体例や応用例などを探してみる。	2
15	事前学修	今までの資料を振り返ってみる	2
	授業	情報メディア入門 II の復習・まとめ	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の履修科目の計画を練る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 100% □演習課題： %

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ドリル・アプリはその都度、採点され、点数が出る。

レポートで特にフィードバックが必要と思われる場合には、直接呼び出して助言を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要な場合は、開講時に都度案内する。
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	登壇する教員で実務の経験があるものは、解説する基礎教育の中で、自らの実務経験により得た経験や実例を提示し、より具体的な解説を行う。

情報メディア入門Ⅲ Introduction to Information Media 3

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC110
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中
授業概要					
情報メディア学科は、クリエイティブなデザイン力と先進的なテクノロジーを組み合わせ、時代が求める新しいコンテンツを創造し得る人材の育成を目指しています。この講義では、今後、専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容を学んでもらいます。これにより、今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し、この講義で学習する基礎知識が、後に選択するコースの内容や、学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより、卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。 今後専門分野を決める上での道標ともなる講義ですので、広い視野で、様々な基礎知識と情報を身につけて、自分のアンテナを広げて下さい。					
授業における学修の到達目標					
・ 今後履修する「専門科目」の内容を理解する上で不可欠な基礎知識を学習する。 ・ 卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	情報大学のホームページ等で情報メディア学科で専門的に学べる内容について調べる			2.0
	授業	本講義の趣旨や各回の課題の取り組み方、情報メディア学科の特色についてガイダンスする			
	事後学修	情報メディア入門Ⅲの趣旨と流れを理解する			2.0
2	事前学修	VR・AR に関して事前に調査する			2.0
	授業	VR・AR に関連する基礎教養の解説			
	事後学修	VR・AR の具体例や応用例などを探してみる			2.0
3	事前学修	UI・UX デザインに関して事前に調査する			2.0
	授業	UI・UX デザインに関連する基礎教養の解説			
	事後学修	UI・UX デザインの具体例や応用例などを探してみる			2.0
4	事前学修	大学における海外交流の仕組みについて事前に調査する			2.0
	授業	大学における海外交流の仕組みについて解説			
	事後学修	学んだことを振り返り海外交流について計画を練る			2.0
5	事前学修	インタラクティブシステムに関して事前に調査する			2.0
	授業	インタラクティブシステムに関連する基礎教養の解説			
	事後学修	インタラクティブシステムの具体例や応用例などを探してみる			2.0
6	事前学修	大学院とは何かについて事前に調査する			2.0
	授業	大学院とは何かについて解説			
	事後学修	学んだことを振り返る			2.0
7	事前学修	ウェブ制作について調べる			2.0
	授業	ウェブ制作についての解説			
	事後学修	ウェブ制作についてまとめる			2.0
8	事前学修	情報可視化について事前に調査する			2.0
	授業	情報可視化に関する基礎教養の解説			

情報メディア入門Ⅳ Introduction to Information Media 4

担当教員	大島 慶太郎 (320 研究室), 近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC111
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	1 年	冬期集中	
授業概要					
この講義では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養にまつわる内容を取りあげ、大学で学ぶことの目的・意義を考えます。具体的には、より高度で専門性の高い内容の講義を理解し、技能を獲得する上で不可欠な「英語」「数学」などの知識を学び、強化することにより、今後履修することとなる専門科目の内容の理解を支えることを目的にしています。 さらに、開講ごとに専門科目担当の教員が登壇し、この講義で学習する基礎知識が、後に選択するコースの内容や、学習する専門科目とどのようにリンクしているのかを解説することにより、卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進めるための手助けをします。					
授業における学修の到達目標					
・今後履修する「専門科目」をの内容を理解する上で不可欠な「英語」「数学」などの知識の必要性を理解する。 ・卒業に至るまでのヴィジョンを明確にし、今後の履修科目の学習をスムーズかつ計画的に進める。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	3D フラクタルについて調べる			2
	授業	専門科目担当教員による 3D フラクタルとそれを表現するために必要な数学についての講義			
	事後学修	3D フラクタルについて復習する			2
2	事前学修	外部講師の経歴を調べる			2
	授業	外部講師によるに学生時代に学ぶべきことの講義			
	事後学修	外部講師の事業内容について調べる			2
3	事前学修	音声について調べる			2
	授業	専門科目担当教員による音声処理と数学の講義			
	事後学修	音声処理について復習する			2
4	事前学修	外部講師の経歴を調べる			2
	授業	外部講師によるに学生時代に学ぶべきことの講義			
	事後学修	外部講師の事業内容について調べる			2
5	事前学修	3D CG について調べる			2
	授業	専門科目担当教員によるプロジェクトの進め方と 3D CG を作成するにあたり必要な知識の講義			
	事後学修	3D CG について復習する			2
6	事前学修	外部講師の経歴を調べる			2
	授業	外部講師による業界の動向についての講義			
	事後学修	業界の動向についてまとめる			2
7	事前学修	ゲームで使われる数学について調べる			2
	授業	専門科目担当教員によるゲームで使われている数学の講義			
	事後学修	ゲームで使われる数学について復習する			2
8	事前学修	就職活動について調べる			2
	授業	専門科目担当教員による就職活動の心構えの講義			

情報メディア学 I -2025 年度開講- Information Media 1

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC201
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		2 年	前期
授業概要					
本科目では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容について学習することを目的として取り組みます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーの習得を目指します。また、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説することで、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンの習得も目指します。					

情報メディア学Ⅰ Information Media 1

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		1 単位	講義		IMC220	
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期		
情報メディア学科		必修	2 年	前期		
授業概要						
本科目では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容について学習することを目的として取り組みます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーの習得を目指します。また、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説することで、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンの習得も目指します。						
授業における学修の到達目標						
・人工知能（AI）やビッグデータに関して、基礎知識，リテラシー，および応用技術に関する知識を学習する。 ・専門分野を学ぶための情報を調査し，卒業に至るまでのビジョンを明確にする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読み，講義の目標と全体スケジュールを把握する				4
	授業	ガイダンス、情報メディア学Ⅰの趣旨と流れ				
	事後学修	情報メディア学Ⅰの趣旨と流れを理解する				4
2	事前学修	インターネットで人工知能とビッグデータについて事前に調査する				4
	授業	人工知能とビッグデータに関する基礎知識の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				4
3	事前学修	インターネットで「3DCG・ゲーム」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				4
	授業	「3DCG・ゲーム」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				4
4	事前学修	インターネットで「映像技術」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				4
	授業	「映像技術」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				4
5	事前学修	インターネットで「サウンド技術」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				4
	授業	「サウンド技術」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				4
6	事前学修	インターネットで「宇宙観測」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				4
	授業	「宇宙観測」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				4
7	事前学修	インターネットで「情報可視化」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する				4
	授業	「情報可視化」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術の解説				
	事後学修	授業で学習した内容を元に，より詳細な情報をインターネットなどで調べる				4
8	事前学修	今までの資料をまとめる				4
	授業	情報メディア学Ⅰの復習・まとめ				
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り，今後の学習計画を練る				4
9	事前学修					
	授業					

	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% ■レポート：100% □演習課題：0% □その他[取り組み姿勢など]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、POLITE を通じてフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	オムニバス授業であり、担当教員の研究・実務経験を活かした指導を行う。

情報メディア学Ⅱ-2025 年度開講- Information Media 2

担当教員	平山 晴花(128 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC202
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		2 年	前期
授業概要					
本科目では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容について学習することを目的として取り組みます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーの習得を目指します。また、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説することで、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンの習得も目指します。 また、ゼミ選択のための準備として研究室調査などを始めるためのレクチャーを行います。					

情報メディア学Ⅱ Information Media 2

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義		IMC221
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	2 年	前期	
授業概要					
本科目では、今後専門科目を学ぶ上で関連性の高い基礎教養および応用技術にまつわる内容について学習することを目的として取り組みます。特に、ビッグデータや人工知能（AI）に関して、基礎知識およびリテラシーの習得を目指します。また、専門科目担当の教員から、様々な専門分野と結びついたビッグデータ・人工知能の応用技術や最新動向について解説することで、これからの時代を生き抜くための知識とビジョンの習得も目指します。 また、ゼミ選択のための準備として研究室調査などを始めるためのレクチャーを行います。					
授業における学修の到達目標					
・人工知能（AI）やビッグデータに関して、基礎知識、リテラシー、および応用技術に関する知識を学習する。 ・専門分野を学ぶための情報を調査し、卒業に至るまでのビジョンを明確にする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	インターネットで「デザイン」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する			4
	授業	「デザイン」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる			4
2	事前学修	インターネットで「IoT/インタフェース」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する			4
	授業	「IoT/インタフェース」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる			4
3	事前学修	インターネットで「画像処理」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する			4
	授業	「画像処理」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる			4
4	事前学修	インターネットで「データベース」に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する			4
	授業	「データベース」に関する人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる			4
5	事前学修	インターネットでこれまで紹介した以外に人工知能・ビッグデータを用いた事例を事前に調査する			4
	授業	その他のさまざまな分野で活用される人工知能・ビッグデータ応用技術や事例の解説			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、より詳細な情報をインターネットなどで調べる			4
6	事前学修	ゼミナールについてインターネットで調べる			4
	授業	ゼミナールの概略説明			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、身につけたい技術を考える			4
7	事前学修	就職や就職活動についてインターネットで調べる			4
	授業	就職活動についての説明			
	事後学修	授業で学習した内容を元に、将来の進路について考える			4
8	事前学修	今までの資料を振り返ってみる			4
	授業	情報メディア学Ⅱの復習・まとめ			
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の学修計画を練る			4

9	事前学修		
	授業		
	事後学修		
10	事前学修		
	授業		
	事後学修		
11	事前学修		
	授業		
	事後学修		
12	事前学修		
	授業		
	事後学修		
13	事前学修		
	授業		
	事後学修		
14	事前学修		
	授業		
	事後学修		
15	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

☐試験：0% ☐小テスト：0% ☒レポート：100% ☐演習課題：0% ☐その他[取り組み姿勢など]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、POLITE を通じてフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	オムニバス授業であり、担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

情報メディア学Ⅲ Information Media 3

担当教員	柿並 義宏(313 研究室), 大島 慶太郎(320 研究 室), 杉澤 愛美(133 研究 室), 向田 茂(125 研究 室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義	○	IMC222
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
情報メディア学Ⅱに続き、情報メディア学科で学ぶ意義と目標を明確にしつつ、意識を持続するためのさまざまな取り組みを実施します。ゼミナールやそれに関わる専門知識をはじめ、就職などの将来についても意識します。 また、ゼミ選択のために必要となる知識を獲得し、希望するゼミとその周辺分野に対する理解を深めることを目的とします。 その中で、実習として各自で学科内の教員に対する調査をします。					
授業における学修の到達目標					
進路となる専門分野を意識し、卒業までの具体的な学修イメージを醸成する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス、初修情報メディア学Ⅴの趣旨と流れ			
	事後学修	初修情報メディア学Ⅴの趣旨と流れを理解する			2
2	事前学修	テクノロジー系ゼミナールについて調べる			2
	授業	ゼミナール調査（テクノロジー系）			
	事後学修	テクノロジー系ゼミナールについてまとめる			2
3	事前学修	デザイン系ゼミナールについて調べる			2
	授業	ゼミナール調査（デザイン系）			
	事後学修	デザイン系ゼミナールについてまとめる			2
4	事前学修	テクノロジー系、デザイン系ゼミナールについて見直す			2
	授業	ゼミナール調査（テクノロジー・デザイン系比較）			
	事後学修	比較した内容をまとめる			2
5	事前学修	テクノロジー系ゼミナールについて確認する			2
	授業	配属希望ゼミナール検討（テクノロジー系ゼミナール）			
	事後学修	訪問した研究室についてまとめる			2
6	事前学修	デザイン系ゼミナールについて確認する			2
	授業	配属希望ゼミナール検討（デザイン系ゼミナール）			
	事後学修	訪問した研究室についてまとめる			2
7	事前学修	ゼミナールについて確認する			2
	授業	配属希望ゼミナール検討（希望ゼミナールの決定）			
	事後学修	訪問した研究室についてまとめる			2
8	事前学修	今までの資料を振り返る			2
	授業	初修情報メディア学Ⅴで調査した内容についてディスカッション			
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、今後の学習およびの計画を練る			2

情報メディア学Ⅳ Information Media 4

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義	○	IMC223
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
情報メディア学Ⅲに続き、情報メディア学科で学ぶ意義と目標を明確にしつつ、意識を持続するためのさまざまな取り組みを実施します。ゼミナールやそれに関わる専門知識をはじめ、就職などの将来についても意識します。 また、ゼミ選択のために必要となる知識を獲得し、希望するゼミとその周辺分野に対する理解を深めることを目的とします。 その中で、実習として各自で学科内の教員に対する調査をします。					
授業における学修の到達目標					
進路となる専門分野を意識し、卒業までの具体的な学修イメージを醸成する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読み、講義の目標と全体スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス、初修情報メディア学Ⅵの趣旨と流れ			
	事後学修	初修情報メディア学Ⅵの趣旨と流れを理解する			2
2	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する			2
	授業	配属希望ゼミナール検討（内定面談準備）			
	事後学修	面談の手配をする			2
3	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する			2
	授業	配属希望ゼミナール検討（第一希望内定面談準備）			
	事後学修	面談の手配をする			2
4	事前学修	配属希望ゼミナールについて検討する			2
	授業	配属希望ゼミナール検討（第二希望内定面談準備）			
	事後学修	面談の手配をする			2
5	事前学修	プロジェクト系科目について調べる			2
	授業	プロジェクト系科目について			
	事後学修	プロジェクト系科目についてまとめる			2
6	事前学修	卒業研究について調べる			2
	授業	卒業研究について			
	事後学修	卒業研究についてまとめる			2
7	事前学修	コース認定について調べる			2
	授業	コース認定について			
	事後学修	コース認定についてまとめる			2
8	事前学修	なりたい自分を考える			2
	授業	初修情報メディア学Ⅵで調査した内容確認と3年生に向けてのディスカッション			
	事後学修	なりたい自分についてまとめる			2

成績評価の方法およびその基準

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教科書

特になし

特になし

特になし

特になし

情報メディアの数学Ⅰ 2024 年度入学生は、「メディアの行列」になります。 Information Media Mathematics 1

担当教員	松井 伸也 (224 研究室), 笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC204
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
1 年時の「基礎数学」では，基本的な数学を学びます。本講義では三角関数を中心にその応用を学ぶことを目的とします。三角関数は情報技術を学んだり，ゲームなどのプログラムでも実際に使われる関数です。応用は平面上の点の移動を扱い，それに必要な行列とその演算も扱うこととします。					
授業における学修の到達目標					
三角関数，行列を学び，慣れることを目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	高校で学んだ数学を復習して下さい。			2
	授業	弧度法と一般角			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
2	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	三角比			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
3	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	三角比の計算			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
4	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	三角関数とは			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
5	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	三角関数の計算			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
6	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	加法定理とその応用計算			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
7	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	加法定理の証明			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
8	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	逆三角関数			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2
9	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。			2
	授業	直線と三角関数，逆三角関数の関係			
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。			2

10	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。	2
	授業	極座標と直交座標	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。	2
11	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。	2
	授業	平面上平衡移動，拡大縮小の表現	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。	2
12	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。	2
	授業	平面上の回転と加法定理	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。	2
13	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。	2
	授業	行列とその演算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。	2
14	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。	2
	授業	回転などの点の移動の行列による表現	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。	2
15	事前学修	前回の講義で行った計算をもう一度行って下さい。	2
	授業	回転などの点の移動の行列による表現と計算	
	事後学修	講義で行った計算，小テストもう一度行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■講義で提供される演習：60% ■小テスト：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行い，テスト後解答を行います。

教科書	
参考書・Web サイト	松井伸也「三角関数・指数関数・対数関数」ムイスリ出版 宮腰忠著「高校の数学+アルファ」共立出版
単位修得が望ましい科目	基礎数学
備考	2025 年度以降は「メディアの行列」となります。2024 年度が最期の開講となります。
担当教員の実務経験	ありません。

芸術論 Art Theory

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBC111	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	前期	
授業概要						
美術, 演劇, 音楽など広範囲のジャンルにわたる芸術について体系的に考察する方法は無数にありますが, この「芸術論」では西洋芸術の原型が誕生した古代ギリシャの芸術の特質を中心に検討します。そのため、古代ギリシャの哲学者アリストテレスが芸術創作について考察した『詩学』の内容に沿って授業を進めていきます。 とくに、古代ギリシャの芸術の中核となっていたギリシャ悲劇は, ストーリー創作法や視覚効果、音楽、合唱舞踊隊であるコロスの使い方などにおいて、後世の様々な芸術ジャンルに影響を与えました。中世のオペラ、近世のオラトリオ、近代の演劇、現代の映画に見られる古代芸術からの影響を知れば、現代のマルチメディア開発のヒントも得られます。それゆえ、現代の映画作品なども随時、参考資料として取り上げ、芸術表現の普遍性と進化の両面を考えます。						
授業における学修の到達目標						
1. 芸術表現の技法について, その歴史的多様性を理解する。						
2. 芸術表現が人間の感覚や思想に与える影響・効果を理解する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する				2.0
	授業	どのように芸術を定義するか				
	事後学修	芸術の定義についてノートにまとめる				2.0
2	事前学修	教科書のうち古代ギリシャ文化史の部分を読む				2.0
	授業	古代ギリシャにおける芸術の始まり				
	事後学修	古代ギリシャにおける芸術の始まりについてノートにまとめる				2.0
3	事前学修	教科書のうち古代ギリシャ悲劇の時代背景の部分を読む				2.0
	授業	古代ギリシャ悲劇の時代背景				
	事後学修	古代ギリシャ悲劇の時代背景についてノートにまとめる				2.0
4	事前学修	教科書のうち三大悲劇詩人の創作の部分を読む				2.0
	授業	三大悲劇詩人の創作				
	事後学修	三大悲劇詩人の創作についてノートにまとめる				2.0
5	事前学修	教科書のうちアイスキュロスの作品の部分を読む				2.0
	授業	アイスキュロスの作品の特徴				
	事後学修	アイスキュロスの作品についてノートにまとめる				2.0
6	事前学修	教科書のうちソフォクレスの作品の部分を読む				2.0
	授業	ソフォクレスの作品の特徴				
	事後学修	ソフォクレスの作品の特徴についてノートにまとめる				2.0
7	事前学修	教科書のうちエウリピデスの作品の部分を読む				2.0
	授業	エウリピデスの作品の特徴				
	事後学修	エウリピデスの作品の特徴についてノートにまとめる				2.0
8	事前学修	教科書のうち「逆転」の説明を読む				2.0
	授業	創作技法としての「逆転」				
	事後学修	創作技法としての「逆転」についてノートにまとめる				2.0

9	事前学修	教科書のうち「再認」の説明を読む	2.0
	授業	創作技法としての「再認」	
	事後学修	創作技法としての「再認」についてノートにまとめる	2.0
10	事前学修	教科書のうち「受難」の説明を読む	2.0
	授業	創作技法としての「受難」	
	事後学修	創作技法としての「受難」についてノートにまとめる	2.0
11	事前学修	教科書のうち「イリアス」の説明を読む	2.0
	授業	ホメロスの叙事詩「イリアス」	
	事後学修	「イリアス」の特徴についてノートにまとめる	2.0
12	事前学修	教科書のうち「オデュッセイア」の説明を読む	2.0
	授業	ホメロスの叙事詩「オデュッセイア」	
	事後学修	「オデュッセイア」の特徴についてノートにまとめる	2.0
13	事前学修	教科書のうちオペラの誕生についての説明を読む	2.0
	授業	オペラの誕生	
	事後学修	オペラの誕生についてノートにまとめる	2.0
14	事前学修	教科書のうちコロスについての説明を読む	2.0
	授業	オラトリオとシェイクスピア劇におけるコロス	
	事後学修	オラトリオとシェイクスピア劇におけるコロスの役割についてノートにまとめる	2.0
15	事前学修	教科書のうち『詩学』から影響を受けた映画についての説明を読む	2.0
	授業	映画に対する『詩学』の影響	
	事後学修	映画に対する『詩学』の影響についてノートにまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■小テスト（数回行う）：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストに関する質問に対応する。

教科書	書名：『詩学』, 著者名：アリストテレス著、三浦洋訳, 出版社：光文社, 備考：紙媒体に限る。電子書籍は不可。
参考書・Web サイト	とくに指定しないが、授業で紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

芸術演習 2024 年度入学生は、「オーディオビジュアルアート」になります。 Art Practical

担当教員	山本 真紀(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC213
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
本授業では様々な描画材から、鉛筆・アクリル絵の具を選び、その特性を理解することにより生まれる偶発的な画材の表情を引き出し構成することで、絵画の基礎となる考え方を学ぶ。 また、純粋絵画だけではなく、イラストなど現代における表現についても取り上げる。 作品を作るプロセス意義を考え、ディスカッションを交えながら制作を行う。					
授業における学修の到達目標					
基本的な画材の使い方を理解すると共に、各自の感性を広げることを目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			1.5
	授業	アートを考える 1 ワークシートを使つての作品制作			
	事後学修	レポート作成 日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			2.5
2	事前学修	・スケッチブック ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅰ 「モダンテクニック デカルコマニーを利用した構成」			
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			2.5
3	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			1.5
	授業	アートを考える 2 ワークシートを使つての作品制作応用			
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			2.5
4	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅰ 「人体、目を描く（基礎）」			
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			2.5
5	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅰ 「人体 目を描く（応用）」			
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			2.5
6	事前学修	・スケッチブック ・サインペン・紙パレット・絵筆・鉛筆 ・練り消し ・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。			1.5

	授業	アクリル絵の具による表現Ⅱ 「モダンテクニック ドリッピングを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
7	事前学修	・スケッチブック・サインペン・鉛筆・練り消し・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅱ 「人体 口を描く（基礎&応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
8	事前学修	・スケッチブック・サインペン・紙パレット・絵筆・鉛筆・練り消し・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅲ 「モダンテクニック 滲みを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
9	事前学修	・スケッチブック・サインペン・鉛筆・練り消し・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅲ 「人体 鼻を描く（基礎&応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
10	事前学修	・スケッチブック・サインペン・紙パレット・絵筆・鉛筆・練り消し・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅳ 「モダンテクニック バブリングを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
11	事前学修	・スケッチブック・サインペン・鉛筆・練り消し・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	鉛筆による表現Ⅳ 「人体 耳を描く（基礎&応用）」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
12	事前学修	・スケッチブック・紙パレット・絵筆・鉛筆・練り消し・筆記具 の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	アクリル絵の具による表現Ⅴ 「モダンテクニック フロッタージュを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	2.5
13	事前学修	・これまでの授業で制作した作品・スケッチブック・筆記具の用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	構成による表現Ⅰ 「コラージュを利用した構成」	
	事後学修	日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。 次回の作品制作に必要な素材の用意。	2.5
14	事前学修	・スケッチブック・紙パレット・絵筆・鉛筆・練り消し・筆記具・ハサミ・のりの用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
	授業	構成による表現Ⅱ 「コラージュを利用した構成」	

	事後学修	授業最終日の終了時に作品提出が出来るよう、事前に制作を進めておく必要があります。	2.5
	事前学修	・スケッチブック・紙パレット・絵筆・鉛筆・練り消し・筆記具・ハサミ・のりの用意。 ・日常の中で、制作の題材やモチーフを探し観察する。	1.5
15	授業	構成による表現Ⅲ 「コラージュを利用した構成」	
	事後学修	作品の提出	2.5
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：50% ■その他[作品 30% 意欲 20%]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業内で制作した作品ついて、授業内での講評する事によりフィードバックを行う。 作品は採点后に返却します。（返却場所は教務課前の作品返却棚）			
教科書	書名：ぺんてるネオセーブル丸筆セット（6号・14号），著者名：，出版社：，備考：		
	書名：ホルベイン 紙パレット ペーパーパレットSS，著者名：，出版社：，備考：		
	書名：鉛筆 ステッドラー ルモグラフ 3B・F・3H 3本セット，著者名：，出版社：，備考：デッサンの授業で使用する物と兼用できます		
	書名：練り消し パニー イージークリーナー，著者名：，出版社：，備考：デッサンの授業で使用する物と兼用できます		
	書名：サインペン uni PIN BLACK 水性 03，著者名：，出版社：三菱鉛筆，備考：PIN-103 .24 黒/BLACK		
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		デッサン	
備考		必要教材の詳細は掲示で案内します。掲示を確認し、購入の必要な教材は購入してください。 ・紙パレット ・絵筆 ・練り消し ・スケッチブック ・ハサミ ・のり 等	
担当教員の実務経験		実務経験無し	

芸術演習 2024 年度入学生は、「オーディオビジュアルアート」になります。 Art Practical

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC213
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
サウンドのもつ可能性を多角的に検討する。授業は主に以下 3 のテーマから成り立っている：					
1. 20 世紀以降の表現を支える思想や歴史、社会的背景					
2. サウンドデザイン					
3. サウンドアート、マルチメディア作品					
授業を通じて、サウンドを中心としたさまざまな芸術作品の美学に触れ、芸術や表現とは何かを思考していく。また、音によって情報をデザインすることにも触れ、その意義について理解する。					
授業は講義と関連するさまざまな課題、ディスカッションや発表から成る。					
授業における学修の到達目標					
芸術への理解を深め、鑑賞力を豊かにすること。特に、近代から現在につながる芸術分野について理解を深める。また、テクノロジーを使うことでどのような新しい表現が可能か、クリエイティブな発想力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	メインストリームと芸術音楽の違いについて調べる。			2.0
	授業	ガイダンス、芸術音楽と 20 世紀音楽の特徴。			
	事後学修	クラシックの各時代の音楽と特徴についてのレポート。			2.0
2	事前学修	モダニズムについて調べる。			2.0
	授業	モダニズムと表現について、ディスカッション。			
	事後学修	さまざまなアート分野のモダニズムの表現に関するスライド作成。			2.0
3	事前学修	身の回りの雑音について考える。			2.0
	授業	特殊奏法、ノイズの概念、ディスカッション。			
	事後学修	好きなノイズを録る。			2.0
4	事前学修	サウンドスケープについて調べる。			2.0
	授業	環境と音楽(社会学的考察)、スライド発表。			
	事後学修	サウンドスケープに関する課題。			2.0
5	事前学修	音階、旋法、ハーモニー（コード）とは何か調べる。			2.0
	授業	コントロールと偶然性(西洋と東洋の思想)。			
	事後学修	「偶然性」を取り入れた音楽の仕組みの考察。			2.0
6	事前学修	音が知らせてくれる情報とは何か？を調べる。			2.0
	授業	情報のサウンド化: サウンドによるコミュニケーション。			
	事後学修	サウンドの分析課題			2.0
7	事前学修	好きなサウンドロゴを探す			2.0
	授業	音のデザインと音響心理、ディスカッション			
	事後学修	サウンドロゴについて分析課題			2.0
8	事前学修	映画の音楽および効果音の聴取に関する課題			2.0
	授業	映像と音楽(音楽による演出効果)、ディスカッション			

	事後学修	映画の音楽および効果音に関するレポート課題	2.0
9	事前学修	空間とサウンドに関する分析課題。	2.0
	授業	空間のサウンドデザインについてとディスカッション	
	事後学修	空間と音響デザインに関する課題	2.0
10	事前学修	芸術分野における電子音楽について調べてくる	2.0
	授業	エレクトロアコースティック音楽	
	事後学修	エレクトロアコースティック音楽の聴取とレポート課題	2.0
11	事前学修	「オーディオビジュアル作品」にはどのようなものがあるか、作品を調べてくる。	2.0
	授業	オーディオビジュアル作品についてとディスカッション	
	事後学修	作品に関するレポート課題	2.0
12	事前学修	インタラクティブ音楽について調べてくる	2.0
	授業	コンピュータ音楽、インタラクティブ音楽について	
	事後学修	インタラクティブな技術を用いた「作品」の提案	2.0
13	事前学修	「パフォーマンス」と言われるものにはどのようなものがあるか調べてくる。	2.0
	授業	パフォーマンスとは。作品とディスカッション。	
	事後学修	パフォーマンスと作品に関するレポート課題	2.0
14	事前学修	音/音楽の記録や歴史について調べてくる。	2.0
	授業	楽譜とは何か: 楽譜と表現	
	事後学修	楽譜（システム）を定義/創作する。	2.0
15	事前学修	サウンドアート、サウンドインスタレーション作品について調べてくる	2.0
	授業	サウンドアート、サウンドインスタレーション	
	事後学修	サウンドインスタレーションに関するレポート課題	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：35% ■演習課題：35% □その他 30%：[ディスカッションや発表の参加度や成果]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Polite 上で個別に対応。

教科書

参考書・Web サイト	(1) 松平頼暁著 『現代音楽のパサージュー20.5 世紀の音楽』（青土社） (2) 片桐功著 ほか 『決定版 はじめての音楽史：古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』（音楽之友社） (3) 岩宮眞一郎著 『音と音楽の科学』（技術評論社） (4) 岩宮眞一郎著 『音楽と映像のマルチモーダル・コミュニケーション』（九州大学出版社） (5) ミテイラー千穂著 『サウンドパワー わたしたちは、いつのまにか「音」に誘導されている！？』（Discover 社） (6) 重野純著 『音の世界の心理学』第2版（ナカニシヤ出版） (7) Curtis Roads 著 『コンピュータ音楽: 歴史・テクノロジー・アート』（東京電機大学出版局） (8) Simon Emmerson 著 『The Language of electroacoustic music』（Macmillan） (9) Simon Emmerson 著 『Living electronic music』（Ashgate） その他、授業内で必要に応じて指示。
	単位修得が望ましい科目

備考	個人のコンピュータの持ち込み可能（Win/Mac）。
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

メディアの確率と統計-2025 年度開講- Mathematics for Statistics and Probability

担当教員	未定（）	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC203
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	未定
授業概要					
様々な大規模データの構造は、時代と共に多様化が進んでいる。データサイエンスに関する技術の発達と共に、様々な属性をもつデータの特徴を捉えながら、意味のある情報を得るための諸技術が考案されてきたが、その開発においては統計や確率の考え方が大きな貢献をしている。					
本講義では、データサイエンスの中で重要とされる統計的、確率的な方法論の中で、知っておくと有益なもののいくつかを取り上げ、利用の方法とその数学的な背景について紹介する。また、計算機環境を用いて実習を行いながら、実際に体験する。					

暗号の数学-2025 年度開講- Mathematics for Cryptography

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IBC204
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ: 現代暗号の数学的基礎を学びます。					
インターネットで安全な通信路を構築する方法の一つは「暗号」です。本講義では、「RSA 暗号」と「楕円曲線暗号」を題材に、暗号の数学的基礎を習得します。また、取得した知識に基づきプログラムを作成して暗号とその安全性を検証します。					

発想法演習 Idea Generation Practical

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 鶴 島 暁(非常勤), 安田 光 孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC224
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
商品や研究テーマなどの企画を行う際、与えられた前提条件の中で、1.どのようなコンセプトで、2.どのように実行するかが重要となる。 本演習では、クリティカルな思考法と脳の働きに基づいた発想法、発想を共有し昇華させるためのコミュニケーションの手法、成果をプレゼンテーションする方法をグループワークを通じて学ぶ。 繰り返し発想訓練とディスカッションの練習を行うことで、課題の整理能力・クリティカルな思考力・柔軟な発想力・コミュニケーション力を身につける。 選抜クラスと一般クラスにクラス分けして開講する。					
授業における学修の到達目標					
優れた発想をするには、様々な知識を基に日常生活などに潜むヒントを見つけ出すことが重要である。発想の質を上げるためのマインドマップや KJ 法などの発想手法を繰り返し練習することで、クリティカルな思考力と発想力を身につけ、今後の各演習科目の課題の質を向上させるとともに、社会に出てからの企画力の基礎を身につける事を目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	なし			0.0
	授業	発想の方法（1）新規発想型と改善発想型			
	事後学修	POLITE の教材も併用して、発想の種類とその概要について復習し、マインドマップにまとめる。			3.0
2	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、マインドマップで発想する。			2.0
	授業	発想の方法（2）マインドマップを使う			
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い、マインドマップ課題に取り組む			2.0
3	事前学修	POLITE の教材の使用して、クリティカル・シンキングの基礎について学ぶ。			2.0
	授業	発想の方法（3）発想の手順・クリティカルに考える			
	事後学修	POLITE の教材も併用して、発想の手順・クリティカルに考えるについて復習し、マインドマップにまとめる。			2.0
4	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、演習課題の情報について調べて、マインドマップにまとめる。			3.0
	授業	課題 1 についてグループで考える			
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い、演習課題のテーマについて、グループワークの結果を踏まえて振り返る。			1.0
5	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、演習課題の情報について調べて、マインドマップにまとめる。			3.0
	授業	課題 2 についてグループで考える			
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い、演習課題のテーマについて、グループワークの結果を踏まえて振り返る。			1.0
6	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、演習課題 3 の情報について調べる。			4.0
	授業	発想ゲーム			
	事後学修	なし			0.0
7	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、演習課題 3 の情報をまとめ、論点を明確にする。			4.0

	授業	商品開発の現場	
	事後学修	商品開発の現場の工夫について、マインドマップにまとめる。	2.0
8	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、KJ 法の方法を学ぶ。	2.0
	授業	KJ 法 (1) クリティカルシンキング	
	事後学修	POLITE の教材の指示に従い、クリティカルシンキングがなぜ必要かを考える。	1.0
9	事前学修	POLITE の教材の指示に従い、企画書とはどのようなものかを調べる	3.0
	授業	KJ 法 (2) 企画書の要件	
	事後学修	企画書の要件について復習する	1.0
10	事前学修	演習課題 4 に関するアイデアを練る	4.0
	授業	演習課題 4 についてプレストする	
	事後学修	プレストの結果を踏まえ、演習課題 4 についての企画案をまとめる。	4.0
11	事前学修	POLITE の教材を用いて、「企画書の書き方」について学ぶ。	1.0
	授業	演習課題 4 についての企画案の検討	
	事後学修	演習課題 4 についての企画案の詳細検討	3.0
12	事前学修	なし	0.0
	授業	プレゼン資料の作り方 演習課題 4 についての企画案の再考	
	事後学修	企画案に問題がないかクリティカルに考える	2.0
13	事前学修	企画案のプレゼン資料の要件を考える	2.0
	授業	演習課題 4 についての企画案の確定	
	事後学修	なし	0.0
14	事前学修	企画案のプレゼン資料案を作成する	3.0
	授業	マインドマップと KJ 法の違いと適性 プレゼンテーション資料の素案作成	
	事後学修	マインドマップと KJ 法の違いと適性について、マインドマップにまとめる。	1.0
15	事前学修	プレゼンテーション資料の素案をブラッシュアップする。	3.0
	授業	総合演習 (4) プレゼンテーション資料の作成と発表練習 【16 回目】総合演習 (5) プレゼンテーション (試験)	
	事後学修	発表練習する	1.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：30%（総合演習の課題を持って試験とする） □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：70%[演習課題には、宿題や小テスト、グループワーク、各回の振り返りの考察が含まれます]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習中および POLITE 等でフィードバックを行います。

教科書

参考書・Web サイト

・ペンとノートで発想を広げる“お絵描き”ノート術 マインドマップ(R)が本当に使いこなせる本 (アスキームック), 遠竹 智寿子 (著), 月刊アスキー編集部 (著), ブザン・ワールドワイド・ジャパン、ブザン教育協会 (監修)
・マインドマップ超入門, トニー・ブザン (著), 近田 美季子 (監修, 翻訳), ディスカヴァ

	ー・トゥエンティワン ・知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ (講談社+α 文庫), 荻谷 剛彦, 講談社 その他の参考書および Web サイトは演習中に提示します。また, POLITE でも適宜紹介します。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ (過年度生の場合は、情報メディア入門)
備考	演習は、授業中に行うことが前提 (完成しなければ宿題) のため、授業出席が大前提です。また、演習課題を授業中に適切にこなすために、予習にあたる宿題を課します。授業で完成しなかった課題のほかにも、宿題を課します。出席点はつきませんが、出欠チェックのための小テストや授業内課題が得点として積み上げられていくので、欠席すると合格が難しくなります。
担当教員の実務経験	担当者の一人は、1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事している。 担当者の一人は、コンサルタント業を営み、まちづくりイベントなどの企画立案を手がけている。 これらの様々な企画立案・開発等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ICT入門 Introduction to ICT

担当教員	辻 順平 (223 研究室), 佐々木 洋平 (222 研究 室), 湯村 翼 (315 研究 室), 未定 ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IBC103
開 講 学 科		種 別		配当年度	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
テーマ：ICT の基礎技術を習得する 現在の情報化社会においてコンピューターを自由自在に活用できる技術は必要不可欠なものになっています。コンピューターを自由自在に活用するとは、単にソフトウェアの使い方がわかるということだけではなく、自分に必要なコンピュータ環境を自ら構築し、その中で必要とされるソフトウェアを自由自在に操ることができるということを意味します。本講義では、自分に必要とされるコンピュータ環境の作成方法、及び、必須とされるソフトウェアの使い方を実習により学習します。また、授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を利用して行う。					
授業における学修の到達目標					
コンピューターとはどのようなものであるかを理解し、また、自分の目的に合ったコンピュータ環境の作成方法、更に、その環境、及び、ソフトウェアの利用技術を習得することを目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。本学 P C の利用方法を把握しておく。			2
	授業	ガイダンス、コンピューターとは、大学のコンピュータ環境			
	事後学修	POLITE の第 1 回目講義資料「コンピューターとは、大学のコンピュータ環境」を復習する			2
2	事前学修	テキストを利用し、Windows のウィンドウの操作、エクスプローラの操作を把握しておく。			2
	授業	Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作 実習			
	事後学修	POLITE の第 2 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作」を復習する			2
3	事前学修	テキストを利用し、Windows におけるファイルのコピー、移動、ファイルの圧縮などの基本操作について把握しておく。			2
	授業	Windows の操作基礎 -ファイルの操作 実習			
	事後学修	POLITE の第 3 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ファイルの操作」を復習する			2
4	事前学修	テキストを利用し、Windows の設定画面における環境設定方法やコントロールパネルによる環境設定方法を把握しておく。			2
	授業	Windows の環境設定 実習			
	事後学修	POLITE の第 4 回目講義資料「Windows の環境設定」を復習する			2
5	事前学修	Windows のコマンドプロンプトの基本的な使い方、基本的なコマンドについて把握しておく。			2
	授業	Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方 実習			
	事後学修	POLITE の第 5 回目講義資料「Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方」を復習する			2
6	事前学修	情報倫理とは何か、情報倫理に関する内容を事前調査しておく。			2
	授業	情報倫理ビデオ教材視聴			
	事後学修	テキスト「スライドで学ぶ ICT 入門」の情報倫理の章を読み復習する			2

7	事前学修	テキストを利用し、メーラの使い方、PCメールの基本的な書き方について把握しておく。	2
	授業	メールの正しい書き方 実習	
	事後学修	POLITEの第7回目講義資料「メールの正しい書き方」を復習する	2
8	事前学修	テキストを利用し、インターネットにはどのような情報が存在し、どのように利用することで学習や作業の効率化が図れるか事前調査しておく。	2
	授業	インターネットの使い方	
	事後学修	POLITEの第8回目講義資料「インターネットの使い方」を復習する	2
9	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Wordの基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -Word 基礎編-	
	事後学修	POLITEの第9回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -Word 基礎編-」を復習する	2
10	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Wordを利用した美しく整った文書の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -Word 応用編- 実習	
	事後学修	POLITEの第10回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -Word 応用編-」を復習する	2
11	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excelの基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -Excel 基礎編-	
	事後学修	POLITE3の第11回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -Excel 基礎編-」を復習する	2
12	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excelにおける関数を利用した計算方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -Excel 応用編- 実習	
	事後学修	POLITEの第12回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -Excel 応用編-」を復習する	2
13	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excelにおける条件付き書式やピボットテーブルについて把握しておく。また、プレゼンテーションとは何かを把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Officeの便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-	
	事後学修	POLITEの第13回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Officeの便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-」を復習する	2
14	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPointの基本的な利用方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -PowerPoint 応用編-	
	事後学修	POLITEの第14回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -PowerPoint 応用編-」を復習する	2
15	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPointを利用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Officeの便利な使い方 -PowerPoint 実践編- 実習	
	事後学修	POLITEの第15回目講義資料「Microsoft Officeの便利な使い方 -PowerPoint 実践編-」を復習する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：20% □レポート： % ■演習課題：80%

デザインプログラミング演習 2024 年度入学生は、「ビジュアルプログラミング演習」になります。 Design Programming Practical

担当教員	藤原 孝幸 (134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC216
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
インタラクティブな作品作りにおいて、より高度なインタラクションの実現にはメディア技術が重要な役割を担う。これらは、出力・表現としての造形デザインのみならず、入力として取り込む各種メディアから必要な情報を抽出するなど、関連するシステムの構築が不可欠である。このような状況をふまえ、本講義では画像・映像などのメディアを入力とし、コンピュータグラフィックスによる出力を実装するために必要となるプログラミング技術について解説する。利用する言語としては Processing を予定しているが、一部は Python でも講義をする。また、このようなシステムをデザインしプレゼンテーションする力を養うことを目的とする。					
授業における学修の到達目標					
通常のコンピュータに備わっているマウスやキーボードだけでなく、カメラ等の機器も入力情報とするようなメディア情報を用いた、人とコンピュータのインタラクションが実装できる力を養う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2
	授業	制作環境の解説			
	事後学修	講義資料を基に開発環境に関する復習をする			2
2	事前学修	POLITE で配布した描画関数に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	描画関数の利用			
	事後学修	描画関数に関してレポートにまとめる			2
3	事前学修	POLITE で配布した制御構造に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	制御構造を用いた描画の応用			
	事後学修	描画の応用に関してレポートにまとめる			2
4	事前学修	POLITE で配布したテーマを定めた描画例に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	テーマを定めた描画			
	事後学修	パターンを定めた描画応用に関してレポートにまとめる			2
5	事前学修	POLITE で配布した入力に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	キーボード・マウスによる双方向操作			
	事後学修	入力機器に関してレポートにまとめる			2
6	事前学修	POLITE で配布した画像ファイルの利用に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	画像の利用			
	事後学修	画像ファイルの読み込みに関してレポートにまとめる			2
7	事前学修	POLITE で配布した画像情報に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	画像情報を用いた応用事例			
	事後学修	画像情報の応用に関してレポートにまとめる			2
8	事前学修	POLITE で配布したカメラに関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	カメラの利用			

	事後学修	カメラの利用に関してレポートにまとめる	2
9	事前学修	POLITE で配布した動画情報に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	動画情報の利用	
	事後学修	動画像の処理に関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布した顔検出に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	顔検出の実装	
	事後学修	顔検出に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布した顔検出の応用事例に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	顔検出の応用	
	事後学修	顔検出を用いた応用事例に関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	配付資料で簡易モーションキャプチャに関する予習をする	2
	授業	外部デバイスの利用例	
	事後学修	簡易モーションキャプチャの利用例に関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	課題の企画について準備をする	2
	授業	最終課題の提案	
	事後学修	最終課題について企画を作成する	2
14	事前学修	課題の実装について不明な点をまとめる	2
	授業	最終課題の作成	
	事後学修	最終課題の実装を進める	2
15	事前学修	自主的なプレゼンテーションの練習をする	2
	授業	作品のプレゼンテーションと相互評価	
	事後学修	プレゼンテーションの内容と自己評価についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：60% ■演習課題：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にてレポートの解答例を示すとともに、誤った解答の傾向についても紹介する。

レポートの提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	優秀作品は本学メディアデザイン展の出展作品として選定されます。 これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999～2005 年頃まで顔画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっていた。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

情報メディア特別演習Ⅰ Information Media Applied Practical 1

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IMC319	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
高度に情報化された社会で、職業人として ICT を有効活用するために必要不可欠な基礎知識の定着を目的とした科目です。 コンピュータの基礎要素であるハードウェアとソフトウェアから始め、それらを意図した通りに動かすためのアルゴリズムとその実現手段であるプログラミングについて扱います。 その後、コンピュータを中心とした情報システムを支えるデータベース・ネットワーク・マルチメディア及び情報セキュリティについて取り扱います。 その後、情報システムの開発とそのマネジメントを学び、情報システム分野に関連する法規や標準について学びます。 講義は教科書に書いてある事をベースにプレゼンテーション資料など各種コンテンツで補いながら進めますので、必ずメモを取る様にしてください。 成績は随時課す小テストの成果と必要に応じ課されるレポートをもとに評価します。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（LMS）」を利用して行います。						
授業における学修の到達目標						
ICT に関する基本的な知識の再確認をして定着させる事						
IT パスポート試験の合格						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	教科書の準備、 タブレット端末への電子教科書および特典アプリケーションのインストール				2
	授業	初修ガイダンス・資料映像の鑑賞				
	事後学修	指定した教科書の範囲の予習				2
2	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ハードウェア				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
3	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ソフトウェア				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
4	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	コンピュータで扱うデータ データベース				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
5	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	ネットワーク				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
6	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	セキュリティ				
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習				2
7	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習				2
	授業	システムの導入				

	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
8	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	システム開発とプロジェクトマネジメント	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
9	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	企業活動と IT の活用	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
10	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	法務と財務	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
11	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う、IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	2 進数の計算／基数変換	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
12	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う、IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	システムの性能評価	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
13	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う、IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	アルゴリズムとデータ構造	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
14	事前学修	前回指定した教科書の範囲に伴う、IT パスポート試験の過去問題への取り組み	2
	授業	アローダイアグラム／順列と組合せ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
15	事前学修	期末試験の出題指定範囲の学習	2
	授業	試験前のまとめ・資料映像の鑑賞	
	事後学修	期末試験の出題指定範囲の学習	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■小テスト：50% □レポート： % □演習課題： %
□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

開講回ごとに課される小テストは、期限までに提出すること。期限内に提出があり、なおかつ合格点の達した場合のみ平常点に加算される。小テストは採点後の返却か、正解の提示（自己採点後の回収・返却）を必ず行い、復習と反復学習を常に促す。

教科書	書名：かんたん合格 IT パスポート教科書 令和 6 年度, 著者名：坂下 夕里 著/ラーニング編集部 著, 出版社：インプレスブックス, 備考：（学内販売を行わない場合があります。その場合は出版社の Web サイト https://book.impress.co.jp/books/1121101059 から「電子版」を優先して購入してください。）
参考書・Web サイト	講義中に適宜紹介
単位修得が望ましい科目	なし
備考	この科目は、情報処理の促進に関する法律第 7 条第 1 項に基づき経済産業大臣が行う国家試験である情報処理技術者試験の内「IT パスポート」を取得する上で必要な知識を扱っています。この科目で扱っていない内容を自主的に勉強する事によって、資格取得に役立ちます。

担当教員の実務経験	なし

経営系科目 A <ベンチャービジネス論> (2024 年度休講) Business Administration A

担当教員	坂本 英樹 (321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
ベンチャービジネスの主要なプロセスはイノベーションとマーケティングに基づいた新たな市場の開拓である。 Schumpeter の『景気循環論』によると、通常市場は均衡しており同じレベルで経済システムが循環している。そこになんらかの理由で外生的に生まれた科学の成果や発見が出現すると、そのもたらす新結合の可能性を見抜いた企業者が登場する。ベンチャーキャピタルやエンジェルによってかれらに信用創造が行われるとイノベーションが生まれ、経済の循環軌道が上方に離れて経済発展が生起する。 こんにち、デジタル化が社会に大きな変化をもたらしている。デジタルトランスフォーメーションによるビジネスモデルの変革は「民主化」と「中抜き現象」を生起させ、生産コストの低下と技術使用の簡易化によって広範な層の人びとがコンテンツ、情報、財やサービスにアクセスでき、それらの生成までできるようになり、製品やコンテンツは伝統的仲介を迂回して直接見込み顧客に到達可能になった。 小売業界におけるアマゾン、タクシー業界におけるウーバー・テクノロジーズ、ホテル業界におけるエアビーアンドビーをはじめとする企業は、まったく新しいビジネスモデルを生みだし既存企業にとってかわっている。生産者余剰はシェアリングエコノミーのプラットフォームが独占し、旧来型の生産者がかつて確保していた生産者余剰は押しつぶされている。 こうした環境を踏まえ、ベンチャービジネス論ではイノベーションとはいかなる概念なのか、ベンチャー企業創造の出発点となる新しい価値を生み出すアイデアと起業機会はいかにして発見されるのか、アイデアを具現化するイノベーションの概念、ビジネスモデルの構築、ベンチャービジネスの資金調達、ベンチャービジネスを成功に導いてくれる競争戦略の最新理論に関する理論を学習していく。					
授業における学修の到達目標					
- ベンチャービジネス論の理論の習得をととして、新しい価値を生み出すアイデアを創出し、アイデアを具現化するイノベーションの本質を理解することができるようになる。 - 競争優位をコンカレントに生みだし続ける組織能力、そのケイパビリティを有するビジネスモデルを理解することができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。			2.0
	授業	ガイダンス			
	事後学修	ガイダンスを踏まえて教科書を参照しながら、改めて授業全体の内容を把握する。			2.0
2	事前学修	教科書の「ベンチャービジネスとは何か」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。			2.0
	授業	ベンチャービジネスとは何か			
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ベンチャービジネスとは何かを整理する。			2.0
3	事前学修	教科書の「Schumpeter のイノベーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。			2.0
	授業	Schumpeter のイノベーション			
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、Schumpeter のイノベーションを整理する。			2.0
4	事前学修	教科書の「Schumpeter 以外のイノベーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。			2.0
	授業	Schumpeter 以外のイノベーション			

	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、Schumpeter 以外のイノベーションを整理する。確認テストの準備として 1-4 回の内容を復習する。	2.0
5	事前学修	教科書の「ドメインとコンセプトの概念」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ドメインとコンセプトの概念 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ドメインとコンセプトの概念を整理する。	2.0
6	事前学修	教科書の「マーケティングマイオピア」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	マーケティングマイオピア	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケティングマイオピアを整理する。	2.0
7	事前学修	教科書の「花王のコンセプト・富士フイルムグループのコンセプト」を読んで、ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	花王のコンセプト・富士フイルムグループのコンセプト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、花王のコンセプト・富士フイルムグループのコンセプトを整理する。	2.0
8	事前学修	教科書の「ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）」を読んで、ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ビジネスモデル（サウスウエスト航空・北海道国際航空）を整理する。	2.0
9	事前学修	教科書の「ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）」を読んで、ポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ビジネスモデル（アスクル・楽天・アマゾン）を整理する。確認テストの準備として 5-9 回の内容を復習する。	2.0
10	事前学修	教科書の「競争戦略」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	競争戦略 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、競争戦略を整理する。	2.0
11	事前学修	教科書の「会社設立・財務諸表」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	会社設立・財務諸表	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、会社設立・財務諸表を整理する。	2.0
12	事前学修	教科書の「ベンチャービジネスと資本市場」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	ベンチャービジネスと資本市場	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ベンチャービジネスと資本市場を整理する。	2.0
13	事前学修	教科書の「アントレプレナーシップ」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0
	授業	アントレプレナーシップ	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、アントレプレナーシップを整理する。	2.0
14	事前学修	教科書の「アイデアと起業機会」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。	2.0

	授業	アイデアと起業機会	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、アイデアと起業機会を整理する。	2.0
15	事前学修	確認テストの準備として 10-14 回の内容を復習する。	2.0
	授業	総括 確認テスト	
	事後学修	試験の準備としてこれまでの内容を復習する。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。 ■試験：90% ■平常点：10%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
採点答案の開示			
教科書		書名：経営学とベンチャービジネス, 著者名：坂本英樹, 出版社：白桃書房, 備考：	
参考書・Web サイト		適宜指示する。	
単位修得が望ましい科目		経営系科目 B	
備考		必要に応じて資料を配付する。	
担当教員の実務経験		該当なし	

Webビジネス論（情報メディア学科は「経営系科目B<Webビジネス論>」） Business Administration B

担当教員	福島 健太()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMC313	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
本講義では、Web の歴史や身近に存在する Web サービスのビジネスモデルについて Web1.0～Web3.0 の時代区分に沿って概観しつつ、各時代を支えてきた Web 関連技術について理解を深める。また、一部の Web サービスに関しては、実際に受講生が手を動かして試験的に運用する機会（実習）を設ける。						
授業における学修の到達目標						
Web およびその関連技術がどのように現実の経済活動や社会生活のビジネスに結びついているかを幅広い視点から学び、就職後に新しい技術を容易に業務に活用できる知識を習得します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、講義の全体の内容を把握する。				2.0
	授業	オリエンテーション：授業概要、評価方法等を説明する。				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
2	事前学修	POLITE に掲載するスライド 2 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web1.0（1）：Web サイトの登場/Web を支える技術				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
3	事前学修	POLITE に掲載するスライド 3 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web1.0（2）：インターネットの登場				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
4	事前学修	POLITE に掲載するスライド 4 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web1.0（3）：1990 年代半ば～2000 年代半ばに立ち上がった企業/サービス				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
5	事前学修	POLITE に掲載するスライド 5 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web2.0（1）：Web2.0 概論/Web2.0 を支える技術				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
6	事前学修	POLITE に掲載するスライド 6 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web2.0（2）：インターネット広告の登場				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
7	事前学修	POLITE に掲載するスライド 7 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web2.0（3）：掲示板からブログへ/映画『電車男』				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
8	事前学修	POLITE に掲載するスライド 8 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web2.0（4）：SNS の登場/映画『ソーシャル・ネットワーク』				
	事後学修	授業ノート、POLITE に掲載するスライドの見直しをする。				2.0
9	事前学修	POLITE に掲載するスライド 9 の内容を予習する。				2.0
	授業	Web2.0（5）：シリコンバレーの興隆				

	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0
10	事前学修	POLITE に掲載するスライド 10 の内容を予習する。	2.0
	授業	Web2.0 (6) : インフルエンサーの誕生	
	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載するスライド 11 の内容を予習する。	2.0
	授業	Web2.0 (7) : Web2.0 の負の側面/映画『ザ・サークル』	
	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0
12	事前学修	POLITE に掲載するスライド 12 の内容を予習する。	2.0
	授業	Web3.0 (1) : ビットコインの技術と経済	
	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0
13	事前学修	POLITE に掲載するスライド 13 の内容を予習する。	2.0
	授業	Web3.0 (2) : NFT の活用事例	
	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載するスライド 14 の内容を予習する。	2.0
	授業	Web3.0 (3) : DeFi (Decentralized Finance) と信用創造	
	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載するスライド 15 の内容を予習する。	2.0
	授業	総論：Web ビジネスの未来	
	事後学修	授業ノート，POLITE に掲載するスライドの見直しをする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト： 50% ■レポート： 50% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト，レポートは，POLITE 上でフィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適時指示します。
単位修得が望ましい科目	デジタルビジネス概論
備考	なし
担当教員の実務経験	都市銀行，システム開発会社，国立大学の特別研究員を経て，2018 年に暗号資産・ブロックチェーンに関するリサーチ会社を起業。同社を証券会社に売却後，2022 年に海事産業のデジタル領域に特化したスタートアップを再度起業。 授業では，実務経験を生かすかたちで，Web ビジネス移り変わりや過去に専門としていた Web3.0 領域の現状などについて解説を行う。

経営系科目B＜マーケティング論＞ Business Administration B

担当教員	坂本 英樹 (321 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC313
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	後期
授業概要					
マーケティングの究極の目的は販売を不要にすることである。 そしてここに、企業は人びとに自らのプロダクトを推奨してもらうために活動している。企業は消費者を知ることをおして自らにとっての顧客を選別し、効果的なビジネス展開をおこなうことができるようになる。20 世紀初頭に登場したマーケティングはマクロ環境の変化に対応して、製品中心の考え方「マーケティング 1.0」から消費者中心の考え方「マーケティング 2.0」、そして、消費者中心から人間中心の考え方「マーケティング 3.0」へと移行してきた。消費者は、物質的充足にくわえて精神的な豊かさを求めるようになってきている。こうした環境を背景としたマーケティング 3.0 の世界では、企業もまた自社の文化に価値を織り込まなければ参加の時代を構成するクリエイティブな人たちを納得させることは不可能となっている。 そして、社会がアナログの世界からデジタルの世界に移行するなかで、企業のマーケティング活動には大幅な見直しが求められている。顧客はもはや企業のセグメンテーションやターゲティングや、ポジショニングの受動的な受け手ではない。「なりたい自分」、「あるべき姿」を発見して自己実現を目指している消費者に購買を促し、かれらによる情報の拡散をおして顧客を増やすことをめざすマーケティングが生起しているのである。 社会のデジタル化がもたらした社会の接続性は、企業、組織構成員、チャネルパートナー、顧客、その他の関係者間における交流のコストを大幅に低下させ、企業から市場へと縦に進んでいたイノベーションの流れが横になり、企業は顧客コミュニティやパートナーとつながって価値を共創したり、競争相手とつながって協力しなければ高い競争力を維持できなくなっている。 顧客の信頼という概念ももはや縦のものではなくなり、もの心がついたときからインターネットの世界で生活するデジタルネイティブにとっては、マーケティングコミュニケーションよりも Friends, Families, Facebook fans, Twitter followers であらわされる「F ファクター」が大きな影響力をもつようになった。 こうした環境の中で、顧客がもっとも信頼する横のつながり上に、確実に自社の推奨者が存在する状況を創りだしておくことがここに「マーケティング 4.0」の最大の目的となっている。 講義ではマーケティングの基礎理論を習得するとともに、現実のビジネスシーンにおけるマーケティング活動を学習していく。					
授業における学修の到達目標					
・マーケティング論の理論を習得することをおして、顧客が製品や商品、サービスに対するニーズをもつてから最終的な購入や利用にいたるまでの過程を理解し、自社のプロダクトを継続的に反復的に購買してもらうための組織的な取り組みが理解できるようになる。 ・マーケティングの手法を学ぶことをとおして、自らが組織のマーケティングを実行していくことができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。			2.0
	授業	ガイダンス			
	事後学修	ガイダンスを踏まえて教科書を参照しながら、改めて授業全体の内容を把握する。			2.0
2	事前学修	教科書の「マーケティングの定義」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。			2.0
	授業	マーケティングの定義			
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケティングの定義を整理する。			2.0
3	事前学修	教科書の「マーケティングコンセプト」を読んでポイントをノートにまとめる（PC での整理も可）。			2.0
	授業	マーケティングコンセプト			

	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケティングコンセプトを整理する。	2.0
4	事前学修	教科書の「ニーズ・ウオンツ・デマンズ・シーズ」を読んで、ポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	ニーズ・ウオンツ・デマンズ・シーズ	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ニーズ・ウオンツ・デマンズ・シーズを整理する。	2.0
5	事前学修	教科書の「顧客価値」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	顧客価値	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、顧客価値を整理する。	2.0
6	事前学修	教科書の「顧客はなぜ満足するのか」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	顧客はなぜ満足するのか	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、顧客はなぜ満足するのかを整理する。確認テストの準備として1-6回の内容を復習する。	2.0
7	事前学修	事教科書の「マーケット機会」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	マーケット機会 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケット機会を整理する。	2.0
8	事前学修	教科書の「マーケットセグメンテーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	マーケットセグメンテーション	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、マーケットセグメンテーションを整理する。	2.0
9	事前学修	教科書の「ターゲティング」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	ターゲティング	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ターゲティングを整理する。	2.0
10	事前学修	教科書の「ポジショニング」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	ポジショニング	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、ポジショニングを整理する。確認テストの準備として7-10回の内容を復習する。	2.0
11	事前学修	教科書の「プロダクト」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	プロダクト 確認テスト	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プロダクトを整理する。	2.0
12	事前学修	教科書の「プライス」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	プライス	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プライスを整理する。	2.0
13	事前学修	教科書の「プレイス」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	プレイス	
	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プレイスを整理する。	2.0
14	事前学修	教科書の「プロモーション」を読んでポイントをノートにまとめる（PCでの整理も可）。	2.0
	授業	プロモーション	

	事後学修	事前学習でまとめたポイントに授業の内容を付加して、プロモーションを整理する。	2.0
15	事前学修	確認テストの準備として 11-14 回の内容を復習する。	2.0
	授業	総括 確認テスト	
	事後学修	試験の準備としてこれまでの内容を復習する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

下記の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：90% ■平常点：10%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

採点答案の開示

教科書	書名：ここから始める経営学, 著者名：坂本英樹, 出版社：千倉書房, 備考：
参考書・Web サイト	適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	経営系科目 A
備考	必要に応じて資料を配布する。
担当教員の実務経験	該当なし

デジタルマーケティング（情報メディア学科は「経営系科目C＜デジタルマーケティング＞」） Business Administration C

担当教員	明神 知 (304 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IMC321	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
授業概要						
マーケティングの基礎から Web マーケティングへ、さらにデジタル技術が加速するデジタルマーケティングの進化を学び、AI に代表される新たな技術革新によって将来動向を確認する。一方、経営戦略をどのように UI/UX に配慮し、顧客心理モデルに沿ったデジタルマーケティングの基本設計にしていくなか、その手法を学ぶ。最後に優れたデジタルマーケティングを実践している Web サイトのケーススタディを経て各自の思う製品、サービスのデジタルマーケティング企画を検討する。 授業は、解説動画で講義前に自習して、対面講義で疑問点を ChatGPT で確認して共有し深い理解を得る「反転授業」で行う。同時に ChatGPT への質問力（プロンプト・エンジニアリング）を鍛える。						
授業における学修の到達目標						
デジタルマーケティングについての基礎知識を獲得して、自分なりのビジネスにおけるデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの構想をレポートに書けること。また ChatGPT への基本的質問力を獲得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	マーケティングからデジタルマーケティングへ				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
2	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	Web マーケティング				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
3	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	マーケティングの進化を加速するテクノロジー				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
4	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	経営とマーケティング				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
5	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	コトラーのマーケティング				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
6	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	UX/UI デザイン				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
7	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	顧客心理モデル				
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う				2
8	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく				2
	授業	トリプルメディアの運営と活用				

	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
9	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	E C 市場 (1)	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
10	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	ケーススタディ 1	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
11	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	動画の活用	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
12	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	トータルマーケティングプランニング	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
13	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	ケーススタディ (1)	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
14	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	ケーススタディ (2)	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う	2
15	事前学修	解説動画で講義前に自習して小テストを提出し、疑問点を挙げておく	2
	授業	最新動向と将来のマーケティング	
	事後学修	復習 2 時間で小テストの再提出と質問の改善報告を行う レポート作成 自筆ノート作成	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：40% ■レポート：40% ■質問改善報告：20%

□その他[感染症の状況により遠隔オンデマンドの場合は定期試験をレポートにします。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各章の事前学習後に記述式の小テストを提出して、対面授業の冒頭にコメントする。反転授業の対面では疑問点を各自 ChatGPT に質問して共有、質問の改善を指導する。POLITE に小テスト、試験やレポートに対するコメント、評価を掲示して、質問や疑問にも答えてフィードバックを行い、適宜の研究室訪問を歓迎する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験あり (情報システム会社における I T コンサルティング UML ビジネスモデリング、A I システム開発 DWH 開発、C A S E ・ E A 開発方法論の策定、I T 投資マネジメント、大規模プロジェクト管理、E R P 導入支援 C I O 補佐官業務 情報サービス産業白書部会長 E A コンサル、A I システムやりばースエンジニアリングの研究) これらを活かして毎回トピックスを織り交ぜて実践的な講義を行う。

ビジネスプラン（情報メディア学科は「経営系科目D<ビジネスプラン>」） Business Administration D

担当教員	藤本 直樹(220 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC322
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	後期
授業概要					
テーマ：実現性の高いビジネスプランの検討・作成・評価					
この講義では、新しいビジネスアイデアや情報通信技術（ICT）などの専門知識を駆使して、企業家精神に富んだ、独創的なビジネスプランを作成する方法を学びます。					
現代では、ビジネスの仕組みや経営環境は早いスピードで変化し続けており、企業の規模や業種に関係なく、それらに対応する考え方や手法を身に付ける必要があります。また、社会経済の変化が急激であるということは、それだけ新たなビジネスチャンスが世の中に存在していることでもあります。将来、起業を目指す人だけではなく、皆さんが様々な団体・組織・企業の中で活躍できるよう、組織の運営者や経営者の立場に立ってプランニングの手法を学びます。					
授業における学修の到達目標					
起業や組織運営の基礎的な考え方から、ビジネスプラン（事業計画書）作成までの基本知識や方法を理解できるようになること。					
自らの考えに基づき事業アイデアの企画を立案し、ビジネスプランの市場性、発展性、実現性、採算性等を客観的に評価できるようになること。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス（講義の進め方、学修の方法、成績評価の基準、ビジネスプランとは何か 等）			
	事後学修	LMS（POLITE）の第 1 回目学修資料をもとに「授業全体の内容」について復習する			2.0
2	事前学修	LMS（POLITE）の第 2 回目学修資料をもとに「事業アイデアの掘り起こし方法」について予習する			2.0
	授業	事業アイデアの掘り起こし方法			
	事後学修	LMS（POLITE）の第 2 回目学修資料をもとに「事業アイデアの掘り起こし方法」について復習する			2.0
3	事前学修	LMS（POLITE）の第 3 回目学修資料をもとに「ビジネスプランの作成方法」について予習する			2.0
	授業	ビジネスプランの作成方法			
	事後学修	LMS（POLITE）の第 3 回目学修資料をもとに「ビジネスプランの作成方法」について復習する			2.0
4	事前学修	予めビジネスプレコンに提出するビジネスアイデアを検討しておく			2.0
	授業	ビジネスプラン演習①			
	事後学修	教員の指導やビジネスプランの新規性・実現性を踏まえて、検討したビジネスアイデアを見直す			2.0
5	事前学修	ビジネスアイデアを深度化し、予めビジネスプランの骨子を作成しておく			2.0
	授業	ビジネスプラン演習②			
	事後学修	教員の指導を踏まえて、検討したビジネスプランの内容（ターゲット、強み・弱み、競合相手等）を見直す			2.0
6	事前学修	予め検討したビジネスプランの収益性を検討しておく			2.0
	授業	ビジネスプラン演習③			
	事後学修	教員の指導を踏まえて、検討したビジネスプランの収益性（マネタイズ、収支計画）を見直す			2.0

7	事前学修	LMS (POLITE) の第 7 回目学修資料をもとに「IoT、ビッグデータ、人工知能」について予習する	2.0
	授業	IoT、ビッグデータ、人工知能	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 7 回目学修資料をもとに「IoT、ビッグデータ、人工知能」について復習する	2.0
8	事前学修	POLITE の第 8 回目学修資料をもとに「経営環境の評価」について予習する	2.0
	授業	経営環境の評価 (SWOT 分析)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 8 回目学修資料をもとに「経営環境の評価」について復習する	2.0
9	事前学修	LMS (POLITE) の第 9 回目学修資料をもとに「ブルーオーシャン戦略」について予習する	2.0
	授業	ブルーオーシャン戦略、戦略キャンバス	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 9 回目学修資料をもとに「ブルーオーシャン戦略」について復習する	2.0
10	事前学修	LMS (POLITE) の第 10 回目学修資料をもとに「会社の設立方法」について予習する	2.0
	授業	企業・起業の形態と会社の設立方法、法人格の有無	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 10 回目学修資料をもとに「会社の設立方法」について復習する	2.0
11	事前学修	LMS (POLITE) の第 11 回目学修資料をもとに「収支計画」について予習する	2.0
	授業	資金調達、クラウドファンディング、収支計画の立案	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 11 回目学修資料をもとに「収支計画」について復習する	2.0
12	事前学修	LMS (POLITE) の第 12 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (勘定科目法)」について予習する	2.0
	授業	収支予測、損益分岐点分析 (勘定科目法)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 12 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (勘定科目法)」について復習する	2.0
13	事前学修	LMS (POLITE) の第 13 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (回帰分析法)」について予習する	2.0
	授業	損益分岐点分析 (回帰分析法)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 13 回目学修資料をもとに「損益分岐点分析 (回帰分析法)」について復習する	2.0
14	事前学修	LMS (POLITE) の第 14 回目学修資料をもとに「プレゼンテーション」について予習する	2.0
	授業	プレゼンテーション (伝わりやすい構成、伝わりやすい説明、伝わりやすい表現)	
	事後学修	LMS (POLITE) の第 14 回目学修資料をもとに「事業計画の改善方法」について復習する	2.0
15	事前学修	LMS (POLITE) の第 15 回目学修資料をもとに「事業計画の改善方法」について再確認しておく	2.0
	授業	事業計画の改善方法 (PDCA サイクル、AISAS の法則、OODA ループ)	
	事後学修	期末試験に向けて、LMS (POLITE) の学修資料や演習課題、それまでの配付資料などをもとに復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

☒ 定期試験 (50%)
☐ 小テスト (%)
☐ レポート (%)
☒ 演習課題 (50%)
☐ その他 []

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出された毎講義の課題やビジネスプランの素案は、速やかに POLITE 上でフィードバックを行う。

教科書

参考書・Web サイト

授業中に適宜、紹介します。

単位修得が望ましい科目	経営学への招待、ベンチャービジネス論
備考	受講者は、ビジネスプレゼンテーション・コンテストへの参加を必須とします。 ビジネスプレコン（二次審査）に進出した学生には期末試験を免除します。（優 or 秀が確定） 通常の講義を有識者の講演等の聴講に振り替えることがあります。（最大1回）
担当教員の実務経験	道内外において手がけた公共プロジェクトの企画・運営や自身の起業経験などの業務実績を活かし、その内容やノウハウを講義内容に盛り込んでいます。

HTML コーディング演習 HTML Coding Practical

担当教員	斎藤 一(122 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 辻順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IBT101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
情報を HTML により Web ページとして記述するということは、今日、欠かせない重要な表現方法となっています。Web ページ制作は、決して高度な技術を要するわけではなく、優れたソフトウェアの支援があれば、初めて試みる場合でもある程度の情報を表現することができます。しかし、情報技術に携わるものは、より高度な情報の表現（ユーザを引きつけ利用しやすい形の表現）や優れたデザインをもとめるのではないのでしょうか。そうしたときには、Web ページがどのようにして実現されているのかとういことを十分に理解している必要があるでしょう。本講義では、Web 制作のための最も基本的な技術である HTML 及び、スタイルシート(CSS)を使って、きめ細かな Web デザインをするためのコーディングの基礎を実習を通して学びます。					
授業における学修の到達目標					
・ HTML およびスタイルシート(CSS)を使って、きめ細かな Web デザインができるようになる。 ・ テキストエディタやオーサリングツールを使用した Web 制作ができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読み、授業内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス： 本講義の学習目的や実習の方法を説明する			
	事後学修	授業の内容を復習し、Web 制作における「コーディング」の作業について理解を深める			2.0
2	事前学修	Web 教材「WEB ページの構成や表示の仕組み」を予め読んでおく			2.0
	授業	HTML の構成とタグ： Web ページの構成や表示の仕組みを理解する			
	事後学修	授業の内容を復習し、Web ページの構成や表示の仕組みについて理解を深める			2.0
3	事前学修	Web 教材「アップロードの方法」を予め読んでおく			2.0
	授業	コーディングガイド、アップロード： 簡単な Web ページ制作とアップロードの実習を行う			
	事後学修	授業内容を復習し、課題の作成と提出の方法を確認する			2.0
4	事前学修	自己紹介または地域紹介の Web 制作の内容を調べて決めておく			2.0
	授業	ステップアップ・コーディング 1： 自己紹介または地域紹介の Web を制作する実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。			
	事後学修	自分や他の学生が制作したページの改善点がないかを検討する			2.0
5	事前学修	Web 教材「CSS を使って Web ページをデザインしよう！」を予め読んでおく			2.0
	授業	スタイルシート： CSS を使った Web ページを制作する実習を行う			
	事後学修	授業内容を復習し、CSS について理解を深める			2.0
6	事前学修	Web 教材「CSS を使った Web デザイン（ID とクラス）」を予め読んでおく			2.0
	授業	ID とクラス： CSS を用いた Web ページを制作する実習を行う			
	事後学修	授業を復習し、ID とクラスの理解を深める			2.0

7	事前学修	Web ページ制作して紹介したい観光地を調べておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング2： 観光地を紹介する Web ページを作成する実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページについて改善点がないかを検討する	2.0
8	事前学修	Web 教材「ナビゲーションメニュー」を予め読んでおく	2.0
	授業	レイアウト： ナビゲーションメニューのある Web ページを制作する実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、CSS の理解を深める	2.0
9	事前学修	オリジナルのアプリまたはゲームのサイトのイメージを考えておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング3： CSS を使ったオリジナルの Web ページを作成する実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作したオリジナルの Web ページの改善点がないかを検討する	2.0
10	事前学修	Web 開発者向けのツールについて調べてみる	2.0
	授業	デザインからプロトタイプ作成： Web 開発者向けツールを外観する	
	事後学修	授業で紹介した Web 開発者向けツールの機能を復習する	2.0
11	事前学修	Web 教材「ボックスモデル」を予め読んでおく	2.0
	授業	ボックスモデルに基づいた Web ページ制作の実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、ボックスモデルについての理解を深める	2.0
12	事前学修	レスポンシブデザインの意味と必要性について調べてみる	2.0
	授業	レスポンシブデザイン： これまでの課題を改良し、レスポンシブデザインに対応させる実習を行う	
	事後学修	授業を復習し、レスポンシブデザインの理解を深める	2.0
13	事前学修	「テーブルとフォーム」について調べておく	2.0
	授業	ステップアップ・コーディング4： フォームのある Web ページをデザインする実習を行う。また、制作した Web ページについて、他の学生や SA と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページの相互チェックを行う	2.0
14	事前学修	最終課題の内容を考えておく	2.0
	授業	これまでの技術を用いた課題を作成する。	
	事後学修	自分や他の学生が制作した Web ページについて、ディスカッションを行う。	2.0
15	事前学修	これまでの制作内容を振り返り、まとめのページ（リンク集またはポートフォリオサイト）のイメージを考えておく	2.0
	授業	ふりかえり： これまでに制作した課題へのリンク集を作成する実習を行う	
	事後学修	これまでに制作した課題を整理し、授業を振り返る	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト：0% □レポート： % ■演習課題：100%

■その他[授業態度等を総合的に評価する]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	Mana 著「一冊ですべて身につく HTML&CSS と Web デザイン入門講座」SB Creative エブスコム著「フレキブルボックスで作る HTML5&CSS 3」ソシム株式会社 千貫りこ著「これからはじめる HTML & CSS の本」技術評論社 大藤幹著「よくわかる HTML5+CSS3 の教科書」ルナテック エブスコム著「HTML5&CSS3 ステップアップブック」ソシム
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習
備考	課題（Web ページ制作）を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので、途中まででしか出来上がっていない場合でも、課題は必ず提出するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし。実務経験者に教材内容に対してのアドバイスを受けている。

メディア技術演習 Media Technologies Practical

担当教員	向田 茂 (125 研究室), 佐々木 洋平 (222 研究 室), 谷口 文威 (226 研究 室), 辻 順平 (223 研究 室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IBT102
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
コンピュータは様々な問題を高速に、正確に処理してくれる便利な道具ですが、それらを実現するためには利用者が適切な指示をコンピュータに与えることが必要です。その指示がプログラムです。画像や音声など多様なメディアをコンピュータで処理するためにもプログラムが必要です。本演習では、こうしたプログラムを作成（プログラミングといいます）するために必要となる基本的な考え方，知識，そしてスキルを身に付けることを目的としています。 本科目は，プログラミングの体験を通してプログラミングの楽しさを感じてもらうことを期待しています。授業では，複数のプログラミング言語を体験し，共通していることや異なること，プログラミング言語ごとの得意不得意を感じてもらいます。具体的には，Scratch, JavaScript, Processing, そして AI を使うプログラミングをおこないます。					
授業における学修の到達目標					
プログラミングを体験し，その基本概念の理解を目指します。したがって，プログラムの基本となる「順次」，「選択」，「反復」という 3 つの制御構造を使って，正常に動作するプログラムを書くことができるようになることと，プログラミングとはどのようなものかを知ることが目標です。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	プログラミングとは何か，プログラムによりできることを調査する。			2
	授業	ガイダンス，scratch 入門			
	事後学修	scratch での操作を復習する。			2
2	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
	授業	scratch (1) : 変数			
	事後学修	課題に取り組む			2
3	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
	授業	scratch (2) : 基本構文			
	事後学修	課題に取り組む			2
4	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
	授業	scratch (3) : 処理の組み合わせ			
	事後学修	課題に取り組む			2
5	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
	授業	JavaScript (1): JavaScript によるプログラミングの方法と実行方法			
	事後学修	課題に取り組む			2
6	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
	授業	JavaScript (2): 変数・基本構文			
	事後学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
7	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。			2
	授業	JavaScript (3): UI パーツを使ったアプリ制作の基本			
	事後学修	課題に取り組む			2

8	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	JavaScript (4): UI パーツを使った複雑なロジックの実現	
	事後学修	課題に取り組む	2
9	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	JavaScript でゲーム制作 (1): 部品の表示と動かす方法	
	事後学修	課題に取り組む	2
10	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	JavaScript でゲーム制作 (2): ゲームのための部品制作	
	事後学修	課題に取り組む	2
11	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	JavaScript でゲーム制作 (3): かんたんなゲームの制作 (完成)	
	事後学修	課題に取り組む	2
12	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	AI (1) : 生成 AI 系サービスに触れてみよう	
	事後学修	課題に取り組む	2
13	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	AI (2) : AI 系ライブラリに触れてみよう	
	事後学修	課題に取り組む	2
14	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	Processing (1) : Processing の使い方と図形の描画	
	事後学修	課題に取り組む	2
15	事前学修	該当の講義スライドを熟読する。	2
	授業	Processing (2) : アニメーションの表示と応用	
	事後学修	課題に取り組む	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 90%

■その他[10% 総合的評価]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に口頭によるフィードバックをおこないます。

教科書	
参考書・Web サイト	たにぐち まこと, よくわかる PHP の教科書 【PHP5.5 対応版】, マイナビ 谷尻 かおり, これからはじめるプログラミング基礎の基礎, 技術評論社
単位修得が望ましい科目	なし
備考	詳細は第一回目の講義で説明します。
担当教員の実務経験	1 名は 16 年間、他の 1 名は通算で 4 年間システムエンジニアとして IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。 1 名の教員は 17 年間のシステムエンジニアとしての実績があり、動くプログラムだけではなく、見やすいプログラム、メンテナンスしやすいプログラムを意識できる授業を実施する。

コンピュータ Computers

担当教員	山北 隆典(139 研究室), 柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IBT103	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	後期	
授業概要						
本講では、コンピュータの概要を学びます。コンピュータ内でのデータ（数値、文字、音声、画像、他）の表現方法、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、計測・制御への適用法等を学習します。ネットワークとインターネットの基本的な仕組みを学びます。また、データ処理を行うときに必要となるデータ構造とアルゴリズムについても学習します。						
授業における学修の到達目標						
・コンピュータのしくみや動作原理を専門的な用語を使って説明できる。 ・コンピュータ内での基本的なデータ表現方法を説明できる。 ・データ処理の基本的なアルゴリズムを説明できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する。また、コンピュータについて基本的なことを調べておく。				2
	授業	ガイダンス、コンピュータとは、補助単位、2進数、ビットとバイト				
	事後学修	コンピュータの基本的な機能について復習をする。補助単位、2進数について復習をする。				2
2	事前学修	基数について調べる。				2
	授業	基数変換				
	事後学修	基数変換について復習する。				2
3	事前学修	負の数、少数の表現の仕方を予習する。				2
	授業	負の数、少数の数値表現				
	事後学修	負の数、少数の表現の仕方について復習する。				2
4	事前学修	コンピュータ内での文字表現について予習する。				2
	授業	コンピュータ内での文字表現				
	事後学修	コンピュータ内での文字表現について復習する。				2
5	事前学修	コンピュータ内での音声・画像表現について予習する。				2
	授業	コンピュータ内での音声・画像表現				
	事後学修	コンピュータ内での音声・画像表現について復習する。				2
6	事前学修	コンピュータの構成について予習する。				2
	授業	コンピュータの構成				
	事後学修	コンピュータの構成について復習する。				2
7	事前学修	CPU の役割と動作について予習する。				2
	授業	CPU の役割と動作				
	事後学修	CPU の役割と動作について復習する。				2
8	事前学修	これまでの授業内容を確認する。				2
	授業	中間テストおよび問題の解説				
	事後学修	テストの復習を通して、理解できてないところを確認する。				2
9	事前学修	アドレス指定方式、CPU の高速化について予習する。				2

	授業	アドレス指定方式、CPU の高速化	
	事後学修	アドレス指定方式、CPU の高速化について復習する。	2
10	事前学修	記憶装置について予習する。	2
	授業	記憶装置	
	事後学修	記憶装置について復習する。	2
11	事前学修	オペレーティングシステムについて予習する。	2
	授業	オペレーティングシステム（OS）について	
	事後学修	オペレーティングシステムについて復習する。	2
12	事前学修	ソフトウェア・データ構造について予習する。	2
	授業	ソフトウェア・データ構造	
	事後学修	ソフトウェア・データ構造について復習する。	2
13	事前学修	ソートについて予習する。	2
	授業	アルゴリズム：ソート	
	事後学修	ソートについて復習する。	2
14	事前学修	ネットワーク・インターネットについて予習する。	2
	授業	ネットワーク・インターネット	
	事後学修	ネットワーク・インターネットについて復習する。	2
15	事前学修	生成 AI について調べる	2
	授業	生成 AI について	
	事後学修	生成 AI の活用方法を考える	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40% □小テスト：0% □レポート： % ■演習課題：20%

■その他[中間テスト：40%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験結果は POLITE で確認できるようにします。

疑問点については随時質問してください。

教科書	書名：改訂新版 ファーストステップ IT の基礎, 著者名：國友義久, 出版社：近代科学社, 備考：2023 年 8 月 1 日
参考書・Web サイト	かんたん合格 IT パスポート教科書 令和 5 年度版, インプレス 2023 年版 基本情報技術者標準教科書, オーム社
単位修得が望ましい科目	なし
備考	この科目は資格「IT パスポート」や「基本情報技術者」を取得する上で必須な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	柿並 通算で 4 年間システムエンジニアとして、IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。 山北 通算で約 10 年間、民間企業及び民間企業の研究所でソフトウェアシステム開発に携わった。制御系システムの開発で得たハードウェアとソフトウェアに関する知見をもとに、具体例の紹介や学習目的に対する気付きを与えるといった形で、実務経験を学生に還元できるよう授業を進めたい。

プログラミング演習Ⅰ Programming Practical 1

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IMT104
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期・後期
授業概要					
C++言語（ゲームプログラミングなどの講義などで使用する予定）を用いて、コンピュータに何らかの処理をさせるプログラムを作成するプログラミングについて学びます。コンピュータが理解する機械語と、人間の間を取り持つのがプログラミング言語です。C++は、その中でオブジェクト指向言語と呼ばれる種類の言語です。 コンピュータを動かすのはプログラム、そのプログラムの基本となるのが「逐次」「選択」「反復」という3つの制御構造です。これらは、古くからある手続き型言語だけでなく、C++のようなオブジェクト指向言語でも同様に基本となっています。多くのプログラミング言語に共通するこうした基本を、実際にコンピュータ上でプログラミング及び実行を繰り返す実習を通じて、身に付けます。また、より複雑なプログラムに必要とされる関数や配列について学びます。					
授業における学修の到達目標					
プログラムの3つの基本制御構造「逐次」「選択」「反復」を組み合わせたプログラムの作成に習熟します。 配列や関数を利用して、多数のデータを繰り返し処理するプログラムの作成に習熟します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握するとともに、教科書 Lesson1（p.1～p.14）を読んでプログラミングの手順を整理しましょう。 教科書 p.15～p.57 の範囲を読んで、php との文法の違いを整理しておきましょう。			2
	授業	講義の目標と講義の進め方を理解します。 簡単なプログラムをコンパイルして実行し、その手順を学びます。 文字や数字の表示方法を学びます。			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	前回に続き、文字や数字の表示方法を学びます。 変数について確認し、C++での変数の利用について学びます。 変数の型について学びます。			
	事後学修	今回の復習用問題集に取り組んで下さい。 演習1の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 教科書の Lesson2 の末尾にある練習問題を解いてみましょう。			4
3	事前学修	教科書 p.58～117 の範囲を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。			2
	授業	データを入力する方法を学びます。 演算子について学びます。			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	演算子の優先順位と使い方を学びます。 型変換について学びます。			
	事後学修	初級問題1～7に取り組んで下さい。 演習2の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で、復習して下さい。 教科書の Lesson3, 4 末尾にある練習問題を解いてみましょう。			5
5	事前学修	教科書 p.118～156 を読みましょう。			2

		そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。 メディア技術演習の教材で（Scratch や php の）分岐や繰り返しについて復習しておきましょう。	
	授業	関係演算子を用いた条件の表現方法について学びます。 if 文について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
6	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	複数の条件を判断する方法について学びます。 switch 文について学びます。	
	事後学修	初級問題 8, 9 に取り組んで下さい。 演習 3 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で、復習して下さい。 教科書の Lesson5 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	5
7	事前学修	教科書 p.157~179 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	for 文について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	while 文について学びます。 文のネストについて学びます。	
	事後学修	初級問題 10, 11 に取り組んで下さい。 課題 1, 課題 2 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で、復習して下さい。 教科書の Lesson6 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	6
9	事前学修	教科書 p.180~200 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関数の定義と呼び出しについて学びます。 引数について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	前回に続き、引数について学びます。 戻り値について学びます。 関数の利用方法について学びます。	
	事後学修	初級問題 12, 13 に取り組んで下さい。 課題 3 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で、復習して下さい。 教科書を確認しながら Sample プログラムを試して理解に努めて下さい。	6
11	事前学修	教科書 p.201~244 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	関数の宣言について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	アドレスとポインタについて学びます。	
	事後学修	初級問題 14~16 に取り組んで下さい。 課題 4 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。	6

		今回の復習用問題集で、復習して下さい。 教科書の Lesson7 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	
13	事前学修	教科書 p.245~283 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	引数とポインタの関係について学びます。 引数と参照について学びます。 配列について学びます。	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	配列の応用方法を学びます。 配列と引数の関係について学びます。	
	事後学修	初級問題 17 に取り組んで下さい。 課題 5, 課題 6 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 今回の復習用問題集で、復習して下さい。 教科書の Lesson8 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	7
15	事前学修	教科書 p.284~299 を読みましょう。 そこに登場する Sample プログラムを入力して実行してみましょう。	2
	授業	文字列と配列の関係について学びます。	
	事後学修	引き続き、課題 5, 課題 6 の提出プログラムの作成に取り組んで下さい。 教科書の Lesson9 末尾にある練習問題を解いてみましょう。	5

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

Web サイト上での小テスト形式のものは、即時採点されます。ファイルを提出する課題についてはルーブリックによって評価し、その結果を提示します。

教科書	書名：やさしい C++ 第 5 版 (「やさしい」シリーズ), 著者名：高橋 麻奈, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	教材の Web サイト内で提示します
単位修得が望ましい科目	ICT 入門, メディア技術演習, コンピュータ
備考	授業は週 1 回, 2 コマ連続で実施します。
担当教員の実務経験	柿並義宏 通算で 4 年間システムエンジニアとして, IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし, 開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。 伊藤正彦 2000 年から 2004 年にかけて IT 企業において画像データベースシステムを C++ で開発していた業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った開発に必要となるノウハウや知見を講義内で伝えていく。 湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人にお

	ける、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。 佐々木洋平 通算で 15 年程度、大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また、専門分野では京や富岳といった大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて、現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。 齋藤健司 実務経験無し

プログラミング演習Ⅱ Programming Practical 2

担当教員	伊藤 正彦 (325 研究室), 湯村 翼 (315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IMT202	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
プログラミング演習Ⅰからの継続講義として、コンピュータ実習を通して C++言語でのプログラミングについて学びます。 大規模なプログラムの開発に必要なオブジェクト指向の考え方を身につけ、クラスを設計し利用できることを目指します。また、一般的なプログラムに不可欠なファイルの入出力についても学びます。 授業は、LMS(POLITE) を利用して行う。						
授業における学修の到達目標						
・変数とスコープ、構造体、クラス、ファイルの入出力について理解します。 ・大規模なプログラミングに向けて、ソースファイルの分割、インクルードファイル、ライブラリについて理解します。 ・学んだ文法を組み合わせ、より複雑なプログラムを作成できるように理解を深めます。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	プログラミング演習Ⅰの内容 (if, for, while, 関数、配列等) を復習しておく。 以後 Learning Management System (以下 LMS と略す) 上の各回に、次回に向けた「予習と復習」が記載されているので、基本的にその記述に従った事前学習、事後学習を行う。				6.0
	授業	変数とスコープ 講義の目標と講義の進め方を理解します。プログラミング演習Ⅰの範囲の理解度について確認します。ソースプログラムの分割について学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。 LMS 上の「復習クイズ」, 「復習用問題」に取り組む				
	事後学修	記載なし (次回項目参照)				0.0
2	事前学修	記載なし (前回項目参照)				0.0
	授業	大規模なプログラムの作成 メモリの確保、ソースプログラムの分割について学びます。 講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。				
	事後学修	LMS 第 1 回「予習と復習」に記載されている復習部分に従って、プログラミング演習Ⅰで学んだ範囲について復習し、変数のスコープと寿命についてまとめる。グローバル変数とローカル変数についてインターネットで調べる。				2.0
3	事前学修	LMS 第 2 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って、教科書 11 章～12.2 を読み、サンプルコードを入力してコンパイル、実行して理解しておく。LMS 上の「第 3 回講義資料」に目を通しておく。				4.0
	授業	構造体 ここまで登場していない型 (列挙型等) について学びます。構造体についても学び、その応用を考えます。講義の後半は演習形式により LMS の演習・課題に取り組みます。同「クラス (補足)」を読んでクラスについて理解を深めます。				
	事後学修	記載なし (次回項目参照)				0.0
4	事前学修	記載なし (前回項目参照)				0.0
	授業	クラス 1 クラスの基本について学びます。クラスの宣言とメンバへのアクセスについて学びます。 講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。				

	事後学修	LMS 第 2 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って、構造体の基本的な考え方について確認しておく。可能ならクラスを使うプログラムを作る。 課題 1, 2 で未提出な物があれば取り組み、提出する。	4.0
	事前学修	LMS 第 2 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って、教科書 11 章～12.2 を読み、サンプルコードを入力してコンパイル、実行して理解しておく。LMS 上の「第 3 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
5	授業	クラス 2 コンストラクターについて学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。「復習クイズ」に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
6	授業	クラス 3 静的メンバについて学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	LMS 第 3 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って、クラスについて復習しておく。	4.0
	事前学修	LMS 第 3 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って、教科書 14.1～14.4 節を読み、サンプルコードを入力してコンパイル、実行して理解しておく。LMS 上の「第 4 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
7	授業	クラスの応用 1 クラスの設計とクラスの継承について学びます。L 講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
8	授業	クラスの応用 2 仮想関数と抽象クラスについて学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	LMS 第 4 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って、クラスの作成について復習しておく。課題 3 のプログラムを提出していない場合は、期限までに提出する。	4.0
	事前学修	LMS 第 4 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って、教科書 14.5～14.6 節、及び 15.1～15.2 節を読み、サンプルコードを入力してコンパイル、実行して理解しておく。LMS 上の「第 5 回講義資料」に目を通しておく	4.0
9	授業	クラスの応用 3 クラスの階層化について学びます。複数のクラスの継承、仮想基本クラスについて学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
10	授業	C++の高度な機能 1 演算子のオーバーロードとクラスの型変換について学びます講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	LMS 第 5 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って、クラスの継承について理解を深める。 課題 4 のプログラムを提出していない場合は、期限までに提出する。	4.0
	事前学修	LMS 第 5 回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って、教科書 15.3, 15.6 節, 16.1 節を読み、サンプルコードを入力してコンパイル、実行して理解しておく。LMS 上の「第 6 回講義資料」に目を通しておく。	4.0
11	授業	C++の高度な機能 2	

		メモリの確保と解放について学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
12	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	C++の高度な機能3 ファイルの入出力については、次回が中心となりますが、できるだけ先へ進んでおきます。 講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。 テンプレートと例外処理については、除外していますが、可能な人は読んで理解しておきます。	
	事後学修	LMS 第6回「次回の予習と今回の復習」に記載されている復習部分に従って、C++全体（プログラミング演習Iを含めこれまで学んだ全て）について復習しておきます。	4.0
13	事前学修	LMS 第6回「次回の予習と今回の復習」に記載されている予習部分に従って、教科書16.3, 16.4節を読み、サンプルコードを入力してコンパイル、実行して理解しておく。Windowsの+マネージャーを使ってプロセスを停止する方法について確認しておく。（知らない場合は調べる）LMS上の「第7回講義資料」に目を通しておく。	4.0
	授業	ファイルの入出力1 ストリームとIO マニピュレータについて学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	記載なし（次回項目参照）	0.0
14	事前学修	記載なし（前回項目参照）	0.0
	授業	ファイルの入出力2 ファイル入出力を扱うプログラムの作成方法について学びます。講義の後半は演習形式により演習・課題に取り組む。	
	事後学修	LMS 第7回欄の上級向け高難易度課題A～Cは、提出を義務付けませんが目を通して、できるところまで取り組んでみましょう。課題5が未提出の場合は期限までに提出します。	4.0
15	事前学修	LMS 上に提示している資料の内、授業で取りあげなかったものについて内容を確認しておく。	2.0
	授業	まとめ これまで学んだことを確認します。今後、実際にプログラムを作成する際に考慮すべき点について理解します。	
	事後学修	言語の文法的な学習は終了しましたが、実際にプログラムを作る際には設計も必要になります。将来に備え、そうした内容を扱う講義、書籍、Web サイトなどについて調べます。	2.0

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教科書	書名：やさしい C++ 第 5 版 (「やさしい」シリーズ), 著者名：高橋 麻奈, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	教材の Web サイト内で提示します。
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習, コンピュータ
備考	授業は週 1 回, 2 コマ連続で実施します。
担当教員の実務経験	伊藤正彦 2000 年から 2004 年にかけて IT 企業において画像データベースシステムを C++ で開発していた業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った開発に必要なノウハウや知見を講義内で伝えていく。

	湯村翼 電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

I o T時代のセキュリティ Security in IoT

担当教員	谷口 文威 (226 研究室), 広奥 暢 (318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IMT203	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
IoT 時代に入り、コンピュータやスマートフォンだけでなく、様々な機器がインターネットに接続されるようになりました。この中で、ICT 技術者のみならず、ICT 利用者もセキュリティについて理解することは必須です。そこで、本講義では、事例などを交えながら、利用者の視点から多角的にセキュリティについて学習していきます。時にケース・メソッドによる事例に関する検討も行います。						
授業における学修の到達目標						
(1) インターネットにおける脅威を多角的な視点から把握する。 (2) 脅威の発生を防止するために用いられているセキュリティ技術を理解する。 (3) これらの脅威が発生した場合どのように対処すべきか、利用者の視点から対処方法を習得する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	情報セキュリティにまつわる事例を調査する。				2
	授業	ガイダンス、今日のセキュリティリスク、情報セキュリティとは				
	事後学修	情報セキュリティの定義についてまとめる。				2
2	事前学修	「情報セキュリティの視点」に関するスライドを読み、用語等を整理する。				2
	授業	情報セキュリティの視点・リスクとは				
	事後学修	情報セキュリティの視点の学修から、脅威や対策を考える際、どのような視点で検討すべきかをまとめる。				2
3	事前学修	教科書の 3.1 節と「マルウェア」に関するスライドを読みマルウェアに関する用語を整理する。				2
	授業	マルウェア (1)：脅威				
	事後学修	マルウェアの種類についてまとめる。				2
4	事前学修	教科書の 3.2 節と「マルウェアへの対策」に関するスライドを読み、用語等を整理する。				2
	授業	マルウェア (2)：対策				
	事後学修	マルウェアを始めとする、一般的な情報セキュリティ関係の対策方法の基礎をまとめる。				2
5	事前学修	教科書の 3.6 節、3.7 節と「スマートフォン・IoT 機器の脅威」に関するスライドを読み整理する。				2
	授業	スマートフォン・IoT 機器 (1)：脅威				
	事後学修	スマートフォンや IoT 機器にまつわる脅威について講義内容をまとめる。				2
6	事前学修	教科書の 3.6 節、3.7 節と「スマートフォン・IoT 機器の対策」に関するスライドを読み整理する。				2
	授業	スマートフォン・IoT 機器 (1)：対策				
	事後学修	スマートフォンや IoT 機器に関するセキュリティ対策の基礎をまとめる。				2
7	事前学修	教科書の 5.1.1 節、5.1.2 節と「パスワード認証に関する脆弱性」に関するスライドを読み整理する。				2
	授業	認証技術 (1)：パスワード認証に関する脆弱性と脅威				
	事後学修	パスワード認証における脅威についてと、セキュリティと記憶に関するトレードオフの関係についてまとめる。				2

8	事前学修	教科書 5.1.3 節, 5.1.4 節と「パスワード認証の対策とその他の認証技術」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	認証技術 (2) : 対策とパスワード認証以外の認証技術	
	事後学修	パスワード認証以外の認証技術についてまとめる。	2
9	事前学修	教科書の 5.2 節, 5.3 節と「攻撃手法と脆弱性を悪用した攻撃」に関するスライドを読み整理する。また, IP アドレスとポートという用語について事前に調査し, まとめる。	2
	授業	不正アクセス	
	事後学修	不正アクセスがなされてしまうその手順や, 方法についてまとめる。	2
10	事前学修	教科書の 5.3.2 節と「Web にまつわる脅威」に関するスライドを読み整理する。	2
	授業	Web にまつわる脅威	
	事後学修	Web にまつわる脅威について, その手法の概要と影響についてまとめる。	2
11	事前学修	教科書の 4 章と「ファイアウォール」に関するスライドを読み, 整理する。	2
	授業	ファイアウォール	
	事後学修	ファイアウォールとは何か, この機能についてまとめる。	2
12	事前学修	教科書の 5.1 節「暗号技術」に関するスライドの該当箇所を読み, 整理する。	2
	授業	暗号技術 (1) : 暗号	
	事後学修	暗号に関する用語, 仕組みの概要についてまとめる。特に, 共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式それぞれの役割についてまとめる。	2
13	事前学修	教科書の 5.2 節, 5.3 節, 5.4 節と「暗号技術」に関するスライドの該当箇所を読み, 整理する。	2
	授業	暗号技術 (2) : デジタル署名と暗号アプリ編	
	事後学修	デジタル署名とはどのような技術であるかや, PKI が存在する意義や, TLS とは何か, TLS はどのような暗号技術を組み合わせてできているかをまとめる。	2
14	事前学修	教科書の 4 章, 6 章と「情報セキュリティの国際標準と法規」に関するスライドの該当箇所を読み整理する。	2
	授業	情報セキュリティの国際標準と法規	
	事後学修	情報セキュリティの国際標準や法規についてまとめる。	2
15	事前学修	教科書の 3.3 節, 3.4 節, 3.5 節と「ソーシャルエンジニアリング」に関するスライドを読み, ソーシャルエンジニアリングとは何かについて講義スライドなどを参考に調査し, 事例をレポートにまとめる。	3
	授業	ソーシャルエンジニアリング	
	事後学修	ソーシャルエンジニアリングの種類を整理する。	1

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験：80% ■小テスト： 20% □レポート：% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS (POLITE) 上でフィードバックします。

教科書	書名：情報セキュリティ読本 六訂版: IT 時代の危機管理入門, 著者名：情報処理推進機構, 出版社：実教出版, 備考：
参考書・Web サイト	相戸 浩志, 図解入門 よくわかる最新情報セキュリティの基本と仕組み, 秀和システム 齋藤 孝道, マスタリング TCP/IP 情報セキュリティ編, オーム社 徳丸 浩, 体系的に学ぶ 安全な Web アプリケーションの作り方 第 2 版, SB クリエイティブ
単位修得が望ましい科目	情報倫理, ICT 入門, コンピュータ

備考	詳細については初回の講義で説明します。
担当教員の実務経験	実務経験なし

情報メディアの数学Ⅱ Information Media Mathematics 2

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC215
開 講 学 科		種 別	配 当 年 次	開 講 時 期	
情報メディア学科		選択	2 年	後期	
授業概要					
画像情報処理や音声情報処理を始め，ネットワーク技術やセキュリティ技術など，情報メディアにまつわる技術には数学的な知識を有するものが多々あります。そこで，本講義では，情報系で修得すべき数学的な知識について学習していきます。特に，ここでは「集合」や「論理」，「関数」など，情報系で必要となる数学の基礎について学習します。					
授業における学修の到達目標					
離散数学と集合論に関する知識の習得を目標とし，集合に関する性質を用いる応用力を養う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2
	授業	集合と要素			
	事後学修	集合と要素についてレポートにまとめる			2
2	事前学修	部分集合について配付資料で予習をする			2
	授業	部分集合			
	事後学修	部分集合についてレポートにまとめる			2
3	事前学修	集合の演算について配付資料で予習をする			2
	授業	集合の演算			
	事後学修	集合の演算についてレポートにまとめる			2
4	事前学修	集合の演算の応用について配付資料で予習をする			2
	授業	集合の演算の応用			
	事後学修	集合の演算の応用についてレポートにまとめる			2
5	事前学修	直積について配付資料で予習をする			2
	授業	直積			
	事後学修	直積についてレポートにまとめる			2
6	事前学修	2 項関係について配付資料で予習をする			2
	授業	2 項関係			
	事後学修	2 項関係についてレポートにまとめる			2
7	事前学修	関係の演算について配付資料で予習をする			2
	授業	関係の演算			
	事後学修	関係の演算についてレポートにまとめる			2
8	事前学修	2 項関係の性質について配付資料で予習をする			2
	授業	2 項関係の性質			
	事後学修	2 項関係の性質についてレポートにまとめる			2
9	事前学修	2 項関係の性質の応用について配付資料で予習をする			2
	授業	2 項関係の性質の応用			
	事後学修	2 項関係の性質の応用についてレポートにまとめる			2
10	事前学修	分割について配付資料で予習をする			2

	授業	分割	
	事後学修	分割についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	同値関係について配付資料で予習をする	2
	授業	同値関係	
	事後学修	同値関係についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	半順序について配付資料で予習をする	2
	授業	半順序	
	事後学修	半順序についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	半順序の演算について配付資料で予習をする	2
	授業	半順序の演算	
	事後学修	半順序の演算についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	関数について配付資料で予習をする	2
	授業	関数	
	事後学修	関数についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	関数の演算について配付資料で予習をする	2
	授業	関数の演算	
	事後学修	関数の演算についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：60% □小テスト：% ■レポート：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに、誤った解答の傾向についても紹介する。

教科書	
参考書・Web サイト	数学の基礎体力をつけるためのろんりの練習帳・中内伸光・共立出版
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

特別実習 A Special Practical Training A

担当教員	伊藤 マーティ ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	実習	○	IMT208	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中	
授業概要						
デジタルイラストレーションは、近年イラスト制作の標準となりつつあります。ラフから完成までをパソコンやタブレットなどでシームレスに制作することは、デザイン・イラストレーション業界において必要不可欠なスキルとなっています。いくつかの標準的なアプリケーションがありますが、本講では無料アプリとして人気が高いアイビスペイントをメインにデジタルイラストレーションを本校より個人に貸与しているノートパソコンにて制作します。						
授業における学修の到達目標						
写真を元にイラストレーションを描き起こすフォトバッシュの制作体験を通し、イラストレーションを描く楽しさや基本技術を習得します。また、キャラクターデザインの基本制作を体験し、背景を含んだイラストレーションの総合制作を習得することを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスの内容を確認し、授業内容を把握しておく。 授業に必要なアプリをダウンロードし各自のノートパソコンにインストールしておく。				10
	授業	デジタルイラストレーションの可能性と有用性について				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	アイビスペイントの基本操作の確認				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
3	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	人物描画のプロポーショナル・表情・ポージングの研究				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	人物描画のアイデアスケッチ				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
5	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	アイデアスケッチをもとにバリエーションを考える				
	事後学修	1 日目の授業内容を復習して、アイデアスケッチのバリエーションを描いてみる。				10
6	事前学修	1 日目のアイデアスケッチをもとに、実制作のための詳細用資料を集める。				10
	授業	アイビスペイントを使用して本制作用のラフスケッチをする				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
7	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	ラフスケッチの詳細を描き込む				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0
	授業	各パーツごとに詳細を描き込む				
	事後学修	連続授業のため指定なし				0.0
9	事前学修	連続授業のため指定なし				0.0

	授業	人物の仕上げ・バランス調整	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物の完成	
	事後学修	2 日目の授業内容を復習する	10
11	事前学修	2 日目の人物画の背景のための写真素材を集める	10
	授業	フォトバッシュの基本オペレーションを学ぶ	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	人物画に合わせたフォトバッシュを制作する	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
13	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	画像合成・フィルタリング	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	作品の完成	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
15	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学修	3 日間を通し、学んだことの復習	10

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導します

教科書	
参考書・Web サイト	アイビスペイントのダウンロード先 GooglePlay にて ibisPaint を検索 アイビスペイントの公式サイト https://ibispaint.com/
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ウィキペディア (https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ) 広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。

Web デザイン基礎演習 Web Design Basics Practical

担当教員	斎藤 一(122 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻順平(223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IBD101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
Web デザインとは、主にパソコンやスマートフォン向けの Web ページをデザインすること指します。見た目を中心とするグラフィックデザインの要素を多く含む一方で、Web アプリケーションの UI（ユーザインタフェース）等、ユーザの操作に応じて表示が変化するような、インタラクティブな Web ページへの対応も必要です。また、見栄えが良く、分かりやすい Web ページをデザインするためには、Web デザインの基本的なルールや知識を学ぶ必要があります。本講義では、プロトタイピングツールを用いた Web デザインの実習を通して、Web デザインの基本的なルールやレイアウトについて学びます。					
授業における学修の到達目標					
・ Web デザインの基本的な工程やルールを理解する。 ・ プロトタイピングツール等を利用した基本的な Web デザインができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読み、授業内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス: 本講義の学習目的や実習の方法を説明する			
	事後学修	授業の内容を復習し、Web デザインのプロセスについて理解を深める			2.0
2	事前学修	Web 教材「授業の準備と課題提出の方法」を事前に読んでおく			2.0
	授業	実習の準備: 実習のプロセス（制作プロセス、課題のアップロードの方法等）を説明する			
	事後学修	授業の内容を復習し、実習のプロセスを確認する			2.0
3	事前学修	Web 教材「Web とは何か？」を予め読んでくる			2.0
	授業	Web デザインのセオリー:Web デザインの理論（近接、整列、反復、コントラスト）を外観する。			
	事後学修	教材を読み返して Web デザインの理論について理解を深める			2.0
4	事前学修	Web 教材「プロトタイピングツールによる図形の描画」を予め読んでくる			2.0
	授業	プロトタイピングツールの基本操作 図形を描く実習を行う			
	事後学修	Web 教材を読み返して、プロトタイピングツールによるの基本操作について復習をしておく			2.0
5	事前学修	Web 教材「文字の入力」を予め読んでおく			2.0
	授業	文字の入力： 文字を使った課題制作の実習を通して、フォントの選択や使用方法を理解する			
	事後学修	Web 教材に示した URL 等を参考に、デザインで使用するフォントの種類や用途について、理解を深める			2.0
6	事前学修	Web 教材「シンプルな Web サイトのデザイン」を予め読んでおく			2.0
	授業	シンプルな Web サイトをデザインする実習を行う			
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する			2.0
7	事前学修	Web 教材「大学の紹介サイトのデザイン」を予め読んでおく			2.0
	授業	大学の紹介サイトをデザインする実習を行う			

	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
8	事前学修	オリジナルのデザインについて、様々なデザインを調べて、イメージを膨らませておく。	2.0
	授業	オリジナルの大学紹介サイトのデザインをする。	
	事後学修	自分の制作した作品や、他の履修者の制作した作品について、良い点や改善点などを話し合う。	2.0
9	事前学修	Web 教材「コーポレートサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	コーポレートサイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
10	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、オリジナルのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのコーポレートサイトのデザイン： オリジナルのコーポレートサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
11	事前学修	Web 教材「スマートフォンサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	スマートフォンサイトのデザイン： スマートフォンサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
12	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、オリジナルのスマートフォンサイトのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのスマートフォンサイトのデザイン： オリジナルのスマートフォンサイトをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
13	事前学修	Web 教材「カフェのサイトのデザイン」を予め読んでおく	2.0
	授業	カフェのサイトのデザインをデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	自分の制作した課題と、作例を比較し、改善できる箇所等を検討する	2.0
14	事前学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、オリジナルのカフェのサイトのデザイン案を考えておく	2.0
	授業	オリジナルのカフェのデザインする実習を行う。 また、デザインした作品について、他の学生や S A と改善点がないか等のディスカッションを行う。	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討する	2.0
15	事前学修	Web 教材を復習しておく。また、オリジナルのサイトデザインを考えておく	2.0
	授業	オリジナルサイトのデザイン： これまでの実習の集大成として、オリジナルのサイトをデザインする実習を行う	
	事後学修	プロの作例（Web 教材に示した URL 等）を参考に、自分の制作した課題の改善点がないかを検討	2.0

		する	
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ☐ 試験： % ☐ 小テスト： % ☐ レポート： % ☒ 演習課題：100% ☐ その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		阿部 文人, 今 聖菜, 田口 冬菜, 中川 小雪, これからはじめる Figma—Web・UI デザイン入門—, マイナビ出版, 2022 北村 崇 著「世界一わかりやすい Adobe XD UI デザインとプロトタイプ制作の教科書」技術評論社 デザイン入門教室 [特別講義] 確かな力を身に付けられる ~学び、考え、作る授業~ (Design&IDEA), 坂本 伸二, SB クリエイティブ, 2015	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		課題 (Web ページのデザイン) を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので、途中まででしか出来上がっていない場合でも、課題は必ず提出 (アップロード) するようにしましょう。	
担当教員の実務経験		実務経験なし。実務経験者に教材内容に対してのアドバイスを受けている。	

</

	授業	構成デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
9	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物クロッキーを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
10	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物クロッキーの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
11	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
12	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
13	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
14	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	人物デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
15	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	漫画やイラストの歴史を紹介すると共に描き方のコツについて講義する。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
16	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	漫画デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
17	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	風景デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
18	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	風景デッサンの続きを行う。講評会	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0

19	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	細密デッサンを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
20	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	細密デッサンの続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
21	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	絵画,アートについて講義する	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
22	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサンの描き方について紹介する。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
23	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
24	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
25	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
26	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン頭像の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
27	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像を行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
28	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
29	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0

30	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
	事前学修	鉛筆削り等準備しておく 普段から物をよく観察するようにする	2.0
	授業	石膏デッサン胸像の続きを行う。講評会。	
	事後学修	普段から物をよく観察するようにする	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ☐ 試験： % ☐ 小テスト： % ☐ レポート： % ☒ 演習課題：80 % ☒ その他 理解度：10% 熱意：10%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
項目終了後に作品を並べての講評会を行います。 明確な答えはないため、よりよくなるためのアドバイスをその場にて行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		必要教材の詳細は掲示で案内します。掲示を確認し、購入の必要な教材は購入してください。 ・鉛筆（3B F 3H） ・練りゴム ・カッター等	
担当教員の実務経験		芸術大学での教育経験を活かし、デッサンの肝となる部分をわかりやすく教授する。現札幌大谷大学芸術学部美術学科教授。	

メディアデザインの基礎演習 Media Design Basics Practical

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 伊藤 マーティ(), 坂本 牧葉(138 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IBD103
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
WEB や広告を含むメディアデザインはコミュニケーションツールのとても大切な部門である。本科目は、座学と演習を交えた講義である。 座学ではより良い視覚伝達のための技術習得としてメディアデザインの基礎を学ぶ。「伝える」ことに必要なデザインの基本と、あらゆるメディアに活かし、制作できるようにするための基本を学ぶ。最終課題では提示されたケースにあったロゴデザインを行う。					
授業における学修の到達目標					
・デザインの基本的な要素（デザインの4原則・色・レイアウト・タイポグラフィ・ビジュアル・ロゴ・コンセプト）について理解できる。 ・ロゴの制作プロセスを理解し、自身で制作できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス デザインとは・ビジュアルコミュニケーション (座学・演習課題)			
	事後学修	授業内容の復習			2.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	デザインの4原則 (座学・演習課題)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0
3	事前学修	特になし			0.0
	授業	色彩について (座学・演習課題)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0
4	事前学修	特になし			0.0
	授業	ユニバーサルデザイン (座学・演習課題)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0
5	事前学修	特になし			0.0
	授業	コピー・レイアウト (座学・演習課題)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0
6	事前学修	特になし			0.0
	授業	ビジュアルについて【イラストレーション、画像の効果的な使い方】 (座学・演習課題)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0

7	事前学修	特になし	0.0
	授業	タイポグラフィ (座学・演習課題)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
8	事前学修	特になし	0.0
	授業	コンセプト (座学・演習課題)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
9	事前学修	特になし	0.0
	授業	ロゴについて (座学) 最終課題 (ロゴ制作) ガイダンス	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	最終課題 ロゴ制作 (情報収集、イメージストックの作成)	
	事後学修	収集した情報の整理	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	最終課題 ロゴ制作 (キーワードのアイデア出し)	
	事後学修	キーワードからイメージストックを強化する	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	最終課題 ロゴ制作 (ラフデザインの作成)	
	事後学修	複数のラフアイデアに展開する	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	最終課題 ロゴ制作 (ラフデザインの修正)	
	事後学修	ラフデザインに指摘のあった点を整理し、復習する	4.0
14	事前学修	ロゴのカラーを検討する	2.0
	授業	最終課題 ロゴ制作 (デザインの清書・色塗り)	
	事後学修	色違いのロゴを作り、受ける印象の違いを確認する	2.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	最終課題 優秀作品のプレゼンテーション	
	事後学修	優秀作品の良い点と気になる点をまとめる。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：0% □グループ討議参加度 0% □レポート：0% ■演習課題：100% □プレゼンテーション：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し POLITE を通じてコメントにてフィードバックを行う

教科書

参考書・Web サイト

単位修得が望ましい科目

備考

実習では、紙やのり、ペンなどを使った手作り作品を多数作ります。
下記の道具と共に必ず持参すること。

【毎回必要な道具】

	カラーペン（12色以上），色鉛筆(12色以上），消しゴム，定規，カッターナイフ，はさみ，のり
担当教員の実務経験	2012年～2017年度まで Web 制作会社に所属し、Web/グラフィックともにデザインを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務を行う上で最低限必要なデザインの知識を教える。 担当者の一人は、建築計画・設計の過程で、コンペティション応募やクライアントに向けた数多くのポスター作成を行っており、また UX やデザイン心理学の側面からグラフィック・Web 等のデザインを検討してきた。これらの経験を活かす形で、実務を行う上で最低限必要なデザインの知識を教える。

デザインエレメンツ演習 Design Elements Practical

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室), 伊藤 マーティ(), 小川 陽(非常勤), 金城 奈々子 (非常勤), 坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		IBD104
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
各種デザイン制作のベースとなる Adobe Illustrator,Adobe Photoshop の基本から本格使用までを, 演習課題を多数制作しながらじっくりと身につけ, 情報メディアにおけるデザインスキルの基本を磨く実践トレーニング。課題を通じて, マルチメディア表現, シミュレーション, 図形処理と画像処理, DTP (DeskTop Publishing) , Web デザインの基礎などの知識も学ぶ。最終課題としてオリジナルの作品を作る。課題毎に難易度がアップし, 講義で終わらない課題は宿題として課す。2 年生でのビジュアル構成演習, グラフィックデザイン演習と続くプロデザイナー教育の第一歩。					
授業における学修の到達目標					
Adobe Illustrator の基本的な使用方法を理解することができる。 Adobe Photoshop の基本的な使用方法を理解することができる。 illustratorr, Photoshop のソフトを組み合わせ、紙面のデザインを制作することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する			4.0
	授業	・ ガイダンス ・ Adobe illustrator の基本説明 (アプリケーションの画面説明・環境設定・新規作成)			
	事後学修	特になし			0.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-01 (illustrator を使用した作図_ぶどう・キーボード・扇)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0
3	事前学修	実習内容の確認を行う			4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-02 (illustrator を使用した作図_ト音記号)			
	事後学修	特になし			0.0
4	事前学修	特になし			0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-03 (illustrator を使用した作図_円・キューブ)			
	事後学修	授業内容の復習を行う			4.0
5	事前学修	実習内容の確認を行う			4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-04 (グラデーション)			
	事後学修	特になし			0.0
6	事前学修	特になし			0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-04 (ブレンドツール)			

	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-05 (フォント テキストツール・段落)	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-05 (フォント スレッドテキスト・回り込み)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
9	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (キャラクターイラストの作成_ガイダンス)	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (キャラクターイラストの作成)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (キャラクターイラストの作成_仕上げ)	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe illustrator の基本課題 A-06 (フォント・テキストの活用)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本 (アプリケーションの画面説明・環境設定・新規作成)	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本課題 B-01 (牧場の空の入れ替え)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本課題 B-02 (画像の付け加え・変形・加工)	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の基本課題 B-03 (画像の加工・コラージュ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
17	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0

	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_企画)	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_ラフ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
19	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_加工)	
	事後学修	特になし	0.0
	事前学修	特になし	0.0
20	授業	・ Adobe Photoshop の最終課題 (コラージュ_仕上げ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
21	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践演習 C-01 (フライヤーのレイアウト/ガイダンス)	
	事後学修	特になし	0.0
	事前学修	特になし	0.0
22	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践課題 C-01 (フライヤーのレイアウト/メインビジュアル)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
23	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践課題 C-01 (フライヤーのレイアウト/各種情報)	
	事後学修	特になし	0.0
	事前学修	特になし	0.0
24	授業	・ illustrator ・ Photoshop の実践課題 C-01 (フライヤーのレイアウト/マップ)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
25	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成 ガイダンス)	
	事後学修	特になし	0.0
	事前学修	特になし	0.0
26	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
27	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成 ラフ)	
	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0

	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画 レイアウト)	
	事後学修	授業内容の復習を行う	4.0
29	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画 加工)	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	特になし	0.0
	授業	・ illustrator ・ Photoshop の最終課題 (オリジナルフライヤーの作成_企画 仕上げ)	
	事後学修	これまでに課題で使った機能・ツール等の復習を行う	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：0% □レポート：0% □小テスト：0% ■演習課題：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対しコメントによりフィードバックを行う。

教科書	書名：イラレの5分ドリル 練習して身につける Illustrator の基本, 著者名：浅野 桜 (著), あさひな。(著), 高橋 としゆき (著), 出版社：翔泳社, 備考：
	書名：フォトショの5分ドリル 練習して身につける Photoshop の基本, 著者名：浅野 桜 (著), starmix (著), 楠田 諭史 (著), 出版社：翔泳社, 備考：
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎演習
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、illustrator ・ Photoshop を利用したイラスト制作・デザインを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらないソフトの活用方法を教える。

デジタルサウンド 2024 年度入学生は、「サウンドプログラミング演習」になります。 Digital Sound

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMD201
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
コンピュータ音楽、マルチメディアアートの分野で広く使われているビジュアルプログラミング言語 Max8 の基本的なプログラミング手法を学ぶとともに、サウンド（音楽）プログラミングの概念を理解する。 課題を通して、音のコントロールやアルゴリズム作曲、また、音作り（サンプリング、シンセサイズ）について学ぶ。 さらに、画像処理やセンサーなどとのインタラクションについて実践的に学修する。					
授業における学修の到達目標					
サウンド（音楽）プログラミングの概念の理解、基礎的な Max8 によるプログラミングスキルの習得。また、それらを応用した（インタラクティブ）コンピュータ音楽の制作方法や美学について。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	サウンドまたは音楽プログラミングについて調べる。			2.0
	授業	ガイダンス、サウンドプログラミングの概要。			
	事後学修	コンピュータ音楽やインタラクティブアートについて調べる。			2.0
2	事前学修	Max8 でできることについての調査。			2.0
	授業	Max8 のプログラミング手法について。			
	事後学修	基礎オブジェクトの動作の復習、確認。			2.0
3	事前学修	特になし			0.0
	授業	MIDI 情報のコントロール（シーケンス）。			
	事後学修	音階の操作や応用課題。			4.0
4	事前学修	音を鳴らす順番や操作について思考する。			2.0
	授業	アルゴリズムの考察と旋律のアレンジ、ディスカッション。			
	事後学修	自分のシーケンスを作り、音を操作するプログラムを作る。			2.0
5	事前学修	ドラムマシン、リズムマシンについてとその仕組みについて調べる。			2.0
	授業	ドラムマシンを作る。			
	事後学修	ドラムマシンの課題と提出。			2.0
6	事前学修	MIDI 情報と音波形情報の違いについて調べる。			2.0
	授業	音声情報の処理、波形と音色。			
	事後学修	Max での音波形の処理に関するリーディング課題。			2.0
7	事前学修	楽器の音色に応じてどんなオシレータが必要かを考察する。			2.0
	授業	シンセサイザーの基礎とプログラミング。			
	事後学修	シンセサイザーの構造について復習する。			2.0
8	事前学修	加算合成、減算合成、振幅変調、周波数変調について調べる。			2.0
	授業	さまざまな音合成手法と音づくり。			
	事後学修	音作りに関する課題。			2.0
9	事前学修	MIDI 機材や OSC と Max の接続について調べる。			2.0

	授業	シンセサイザーをコントロールする。	
	事後学修	MIDI 機材を用いて、音やシーケンスのコントロールを実験する。	2.0
10	事前学修	サンプリング技術とサンプラーについて調べる。	2.0
	授業	サンプリングと音響処理。	
	事後学修	シンセサイザーとサンプラーを組み合わせたオリジナルのシステムを制作し、演奏法も検討する。	2.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	アンビエント音楽と制作。	
	事後学修	オリジナルのアンビエント音楽システムの制作と演奏練習。	4.0
12	事前学修	オリジナルのアンビエント音楽システムの制作と演奏練習。	2.0
	授業	アンビエント音楽制作とフィードバック。	
	事後学修	オリジナルのアンビエント音楽システムを完成し、提出。	2.0
13	事前学修	Jitter (Cycling'74, Max8) とは何か、どんなことができるか調べる。	2.0
	授業	Jitter と画像処理の基礎。	
	事後学修	どんな音パラメーターと映像のパラメーターを繋ぐか、マッピングについて検討する。	2.0
14	事前学修	音映像のインタラクティブ作品の制作。	2.0
	授業	音映像のインタラクティブ作品の制作とフィードバック。	
	事後学修	音映像のインタラクティブ作品の制作、提出。	2.0
15	事前学修	インタラクティブ音楽やマルチメディアアートのパフォーマンスについて調べる。	2.0
	授業	音楽鑑賞会。	
	事後学修	音楽鑑賞に関するレポート。	2.0

成績評価の方法およびその基準

■レポート：20% ■演習課題：50% ■その他[ディスカッションや発表などの授業参加度：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中、または POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	『2061:Max オデッセイ』ノイマンピアノ リットーミュージック出版 その他、必要に応じて授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	「デジタルサウンド演習」「芸術演習」（必須ではない）
備考	個人のコンピュータ持ち込み可能（Win/Mac）。ただし、Max8 は登録オーソライズ後、1 ヶ月だけしかフルバージョンは使えず、その後は編集の保存ができなくなるの注意。サブスクリプション可。 データの紛失や破損等による課題提出不可は認めない。そのようなことがないように、クラウドのストレージや USB フラッシュメモリ等で各自データ管理はすること。
担当教員の実務経験	インタラクティブコンピュータ音楽の作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

図形科学の基礎 Descriptive Geometry

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義	○	IMD202
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
メディア表現系科目を学習するうえで共通の基礎となる図形科学の学習と演習の講義である。					
図形科学の基礎である幾何学と立体図形表現の基礎となる図学について体系的学習を行う。					
製図の基礎知識を応用し、講義で解題した内容に関して三角定規とコンパスを用いた用器作図による実習をする。					
作図演習は、立体を正確に表現するうえで不可欠な正投象(正投影ともいう)と、立体をわかり易く表現する軸測投象や透視投象(遠近法)について課題を設定する。					
授業における学修の到達目標					
図形、空間、幾何学に関する基本的な知識と表現技法の習得を目標とする。					
三次元空間内の図形を二次元平面に表現する「作図能力」と、二次元図から立体を読みとる「読図能力」の向上を図り、メディア表現系科目の図形科学的な問題に対する理解力と応用力を養う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2
	授業	図形科学の概要			
	事後学修	図形科学の概要についてレポートにまとめる			2
2	事前学修	正投象の概要についてテキストで予習をする			2
	授業	正投象の概要			
	事後学修	正投象の概要についてレポートにまとめる			2
3	事前学修	用器製図についてテキストで予習をする			2
	授業	用器製図			
	事後学修	用器製図についてレポートにまとめる			2
4	事前学修	直線の投象についてテキストで予習をする			2
	授業	直線の投象			
	事後学修	直線の投象についてレポートにまとめる			2
5	事前学修	作図のフォーマットについてテキストで予習をする			2
	授業	作図のフォーマット			
	事後学修	作図のフォーマットについてレポートにまとめる			2
6	事前学修	複数の直線の投象についてテキストで予習をする			2
	授業	複数の直線の投象			
	事後学修	複数の直線の投象についてレポートにまとめる			2
7	事前学修	複数の直線の性質についてテキストで予習をする			2
	授業	複数の直線の性質			
	事後学修	複数の直線の性質についてレポートにまとめる			2
8	事前学修	多面体の投象についてテキストで予習をする			2
	授業	多面体の投象			
	事後学修	多面体の投象についてレポートにまとめる			2
9	事前学修	三面図の作図についてテキストで予習をする			2

	授業	三面図の作図	
	事後学修	三面図の作図についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	平面の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	平面の投象	
	事後学修	平面の投象についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	平面上の点および直線についてテキストで予習をする	2
	授業	平面上の点および直線	
	事後学修	平面上の点および直線についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	図形の操作についてテキストで予習をする	2
	授業	図形の操作	
	事後学修	図形の操作についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	多面体の切断についてテキストで予習をする	2
	授業	多面体の切断	
	事後学修	多面体の切断についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	ラバットについてテキストで予習をする	2
	授業	ラバット	
	事後学修	ラバットについてレポートにまとめる	2
15	事前学修	展開図についてテキストで予習をする	2
	授業	展開図	
	事後学修	展開図についてレポートにまとめる	2
16	事前学修	曲線の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	曲線の描画	
	事後学修	曲線の描画についてレポートにまとめる	2
17	事前学修	円錐曲線の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	円錐曲線の描画	
	事後学修	円錐曲線の描画についてレポートにまとめる	2
18	事前学修	陰影の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	陰影の投象	
	事後学修	陰影の投象についてレポートにまとめる	2
19	事前学修	陰の交点の投象についてテキストで予習をする	2
	授業	陰の交点の投象	
	事後学修	陰の交点の投象についてレポートにまとめる	2
20	事前学修	等軸測図の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の概要	
	事後学修	等軸測図の概要についてレポートにまとめる	2
21	事前学修	等軸測図の読み取りについてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の読み取り	
	事後学修	等軸測図の読み取りについてレポートにまとめる	2
22	事前学修	等軸測図の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図の描画	

	事後学修	等軸測図の描画についてレポートにまとめる	2
23	事前学修	等軸測図上の円についてテキストで予習をする	2
	授業	等軸測図上の円	
	事後学修	等軸測図上の円についてレポートにまとめる	2
24	事前学修	斜投象の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	斜投象の概要	
	事後学修	斜投象の概要についてレポートにまとめる	2
25	事前学修	斜投象の描画についてテキストで予習をする	2
	授業	斜投象の描画	
	事後学修	斜投象の描画についてレポートにまとめる	2
26	事前学修	透視図の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	透視図の概要	
	事後学修	透視図の概要についてレポートにまとめる	2
27	事前学修	直接法による透視図についてテキストで予習をする	2
	授業	直接法による透視図	
	事後学修	直接法による透視図についてレポートにまとめる	2
28	事前学修	全透視の概要についてテキストで予習をする	2
	授業	全透視の概要	
	事後学修	全透視の概要についてレポートにまとめる	2
29	事前学修	消去法による透視図についてテキストで予習をする	2
	授業	消去法による透視図	
	事後学修	消去法による透視図についてレポートにまとめる	2
30	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	テストおよび内容の解説	
	事後学修	テストの自己採点結果についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40% ■小テスト：15% ■演習課題：45%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに、誤った解答の傾向についても紹介する。

課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	書名：基準課程 図学, 著者名：井野 智, 川田 孝之, 杉野目 章, 内山 武司, 早坂 洋史, 井畑 孝夫, その他, 出版社：共立出版, 備考：特になし
参考書・Web サイト	三次元造形ドリルー積み木で特訓 本格脳トレーニング・共立出版
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	製図用具(第一回講義で説明する)：三角定規 1 組(20cm 以上が望ましい), シャープペンシル(0.5φ および 0.7φ か 0.9φ 等)もしくは鉛筆, コンパス
担当教員の実務経験	特になし

デジタルサウンド演習-2025 年度開講- Digital Sound Practical

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義		IBD204
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
前半は、DAW（デジタルオーディオワークステーション）のソフトウェアである Studio One を使い、音楽制作や編集の実践を通して MIDI 情報とオーディオ情報処理の基礎を学ぶ。また、録音や PA（Public Address）機材の知識と使い方も実習する。					
グループワークによる作業や、作品発表等におけるディスカッションが含まれる。					

特別実習B Special Practical Training B

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	実習	○	IMD211
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	冬期集中
授業概要					
3 D映像の制作には必要不可欠となったモーションキャプチャシステムについての知識を体得することを目指します。本学所有のモーションキャプチャシステムを用い、実在する人の動きを取り込む手法について体験します。そして、3 D C Gキャラクターを動かします。					
授業における学修の到達目標					
通常は触れることのできないであろうコンピュータグラフィックスの特殊な装置に触れ、操作することで、これまでとは違ったものの見方、考え方を養うことを目標とします。加えて、期限内に納品するという社会的責任について意識を高めることを目標とします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	モーションキャプチャについて調べる			2.0
	授業	ガイダンス			
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ			2.0
2	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ			2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（機材設置）			
	事後学修	モーションキャプチャの装置についてまとめる			2.0
3	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ			2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（チーム分け）			
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ			2.0
4	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ			2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（撮影動作の検討）			
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 5 回目と同じ			2.0
5	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 1 回目と同じ			2.0
	授業	モーションキャプチャ撮影（撮影）			
	事後学修	モーションキャプチャの装置についてまとめる			2.0
6	事前学修	事前に配布された資料を読み、編集作業への理解を深めておく			2.0
	授業	モーションデータとは			
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ			2.0
7	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ			2.0
	授業	モーション編集（撮影データの取り込み）			
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ			2.0
8	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ			2.0
	授業	モーション編集（撮影データの確認）			
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ			2.0
9	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ			2.0
	授業	モーション編集（ラベル付）			

	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 10 回目と同じ	2.0
10	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 6 回目と同じ	2.0
	授業	モーション編集（データ修正）	
	事後学修	モーションデータの編集をすすめる	2.0
11	事前学修	事前に配布された資料を読み、キャラクタ化への理解を深めておく	2.0
	授業	モーション編集（データ確認）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 15 回目と同じ	2.0
12	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 11 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化とは	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 15 回目と同じ	2.0
13	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 11 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化（データ変換）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 15 回目と同じ	2.0
14	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 11 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化（キャラクタライズ）	
	事後学修	5 コマ連続の集中講義のため 15 回目と同じ	2.0
15	事前学修	5 コマ連続の集中講義のため 11 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション化（確認）	
	事後学修	作業を振り返りまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導する

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	3DCG 演習・ゲーム CG 演習
備考	授業資料として PDF を配布します。
担当教員の実務経験	3DCG 制作・クライアントワークの経験を生かし、機材の扱いからデータ編集まで丁寧な作業と確認を意識するよう指導する。

情報システム特別講義 Special Lectures on Information Systems

担当教員	明神 知 他 (304 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		SCM385
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	2 年	後期	
授業概要					
企業や組織体は、常に変動する経営環境に対応し、日進月歩する情報技術を取り入れて、経営と一体となった情報システムを実現し、その利活用による経営戦略の確立に努力している。企業や組織体の情報システムの現実の姿を知るために、産業界の各分野の第一線で活躍されている技術者や指導者(毎回変更の可能性あり)を招聘した最新の情報システムに関するオムニバス形式の講義である。1 回あたり 2、5 コマの講義なので 6 回で 15 コマに相当する。6 回とも違う業界の異なる講師なので内容に関係や順序関係はない。したがって事前と事後の学習は同じ内容になっている。授業計画に掲載したテーマは過去の例示であり、内容は開講年度ごとに異なるものとなる。日程は、10/5 池田,11/2 荒木,11/9 藤井,11/16 曾我, 11/30 牟田,12/7 三浦・熊林					
授業における学修の到達目標					
大学で修得した科目内容と実際の企業や組織体での情報システムの現実の姿の差異を説明できるようになる。これによって自分の将来の仕事として考えられるかどうかの判断ができる。その結果、就職先や志望の業界をいち早く知ることにより効率的かつ効果的な就職活動を行えるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	「自動車のシステム開発」について事前調査する			2
	授業	「100 年に一度の変革期に直面している自動車の過去・現在・そして将来の姿とは？」 講義			
	事後学修	講義をレポート課題に備えて考えをまとめておく			2
2	事前学修	「自動車のソフトウェア」について事前調査する			2
	授業	「なぜソフトウェアがその命運を握っていると言われているのか？」 講義			
	事後学修	講義をレポート課題に備えて考えをまとめておく。			2
3	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う			2
	授業	レポート試験 0.5 コマ× 2 回分=1 コマ分			
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。			2
4	事前学修	システム開発のマネジメントについて（含：プロジェクトマネジメント）事前の調査をしておく			2
	授業	「マネジメント 3.0 と従来のマネジメントの違い」 講義			
	事後学修	レポートに備えて講義をまとめておく			2
5	事前学修	従来のシステム開発にけるマネジメントの課題と対応策について調べておく			2
	授業	アジャイル開発フレームワークのスクラムで自己組織化したチームについての講義とゲーム体験			
	事後学修	講義の体験ゲームのまとめとポイント整理して課題提出			2
6	事前学修	「アパレルブランド情報システム」その 1 やトピックスについて事前調査する			2
	授業	「アパレルブランド情報システム」その 1 講義			
	事後学修	「アパレルブランド情報システム」その 1 のレポート課題に備えて考えをまとめておく			2
7	事前学修	「アパレルブランド情報システム」その 2 やトピックスについて事前調査する			2
	授業	「アパレルブランド情報システム」その 2 講義			
	事後学修	2 回分の講義を復習してレポート試験提出			2
8	事前学修	「鉄道を支える技術・システム」のトピックスについて事前調査する			2
	授業	鉄道を支える技術・システムの現状			

		講義	
	事後学修	「鉄道を支える技術・システムの現状」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
9	事前学修	鉄道を支える技術・システムの課題は何か調査しておく	2
	授業	鉄道を支える技術・システムの課題と将来 講義	
	事後学修	鉄道を支える技術・システムの課題と将来の講義をまとめてレポートに備える	2
10	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2
	授業	レポート試験 0.5 コマ × 2 回分 = 1 コマ分	
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2
11	事前学修	「エストニアの電子政府」について事前調査する	2
	授業	「エストニアの電子政府」講義	
	事後学修	「エストニアの電子政府」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
12	事前学修	「エストニアの医療情報システム」について事前調査する	2
	授業	「エストニアの医療情報システム」講義	
	事後学修	「エストニアの医療情報システム」のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
13	事前学修	2 回分の講義を復習してレポート試験の準備を行う	2
	授業	レポート試験 0.5 コマ × 2 回分 = 1 コマ分	
	事後学修	2 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2
14	事前学修	銀行サービスと銀行システムについて事前調査する	2
	授業	「デジタル時代の銀行サービスと銀行システム」講義	
	事後学修	講義のレポート課題に備えて考えをまとめておく	2
15	事前学修	プロジェクトマネジメントとは何か、現状と課題について下調べする	2
	授業	「DX 時代に求められるプロジェクトマネジメントスタイルの変化」講義	
	事後学修	2 回分の講義を復習してレポート試験提出 総復習 6 回分の講義とレポート試験を見直して全体の感想をまとめて必要な場合は講師に質問をする。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：100% □演習課題： %

■その他[成績評価は、出席回数が 2/3 以上（4 回以上。但し、公認欠席と特別欠席を除く）の受講生に対して実施する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題やレポートに関する質問に回答する。レポートに関しては講師がコメントを記載してフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	本講義は、後期の土曜日に開講する。6 名の非常勤講師（外部有識者）による 6 回のオムニバス形式の講義である。 各回とも、午後 2 コマの講義（12:55-14:25, 14:35-16:05）と 0.5 コマ（16:15-17:00）のレポート課題の計 2.5 コマとなる。 講義の日程と順番は、掲示で知らせる。講師と講義内容は事情により変更する場合もある。
担当教員の実務経験	実務経験あり。実務経験のある非常勤講師から、情報システム活用したビジネスの最前線の

	話を講演する。学業で修得した内容と、社会での類似点と相違点について講師からリアルな実践的内容を具体的に講演してもらい知識の幅を広げてもらう。

メディアデザイン特別講義-2024 年度休講- Special Lectures on Media Design

担当教員	安田 光孝 他(135 研 究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IMC202	
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期		
情報メディア学科		選択	2 年	前期		
授業概要						
本講義では、情報メディアに関係する業界で実際に活躍している人を毎回招き、オムニバス形式で講義を行う。 実社会で実務経験を積んだ人の生（ナマ）の話聞くことは、これから学生諸君が自分のキャリアを考えるにあたり、非常に有益である。諸君はこれを機会に、社会とはどんなものか、仕事とはどんなものなのかを知り、また、今まで大学で習得した知識と技術を見つめ直して、自分が社会に出て行く上での準備につなげて欲しい。質問の時間も設けるので、積極的に質問して欲しい。						
授業における学修の到達目標						
情報メディアおよび IT 業界、あるいは企業や組織体の最新の状況を聞き、それらが抱える問題やこれからの方向性をさまざまな視点で把握し、自らの学習および将来の展望へとつなげる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義の目的、スケジュールを確認しておく どのような業界なのかを調べておく				2
	授業	ガイダンス 業界事前調査「グラフィックデザイン分野」「Web デザイン分野」				
	事後学修	調査で足りなかった情報を補足する				2
2	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく				2
	授業	「グラフィックデザイン分野」非常勤講師による講話 （業界について キャリアについて など）				
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる				2
3	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく				2
	授業	「グラフィックデザイン分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について 具体的な仕事事例紹介 など） →レポート提出				
	事後学修	キャリアについて考えてみる				2
4	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく				2
	授業	「Web デザイン分野」非常勤講師による講話 （業界について キャリアについて など）				
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる				2
5	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく				2
	授業	「Web デザイン分野」非常勤講師による講話 （仕事内容について 具体的な仕事事例紹介 など） →レポート提出				
	事後学修	キャリアについて考えてみる				2
6	事前学修	どのような業界なのかを調べておく				2
	授業	業界事前調査「VR/AR 分野」「ゲーム開発分野」				
	事後学修	調査で足りなかった情報を補足する				2
7	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく				2

	授業	「VR/AR 分野」非常勤講師による講話 (業界について キャリアについて など)	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
8	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「VR/AR 分野」非常勤講師による講話 (仕事内容について 具体的な仕事事例紹介 など) →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
9	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「ゲーム開発分野」非常勤講師による講話 (業界について キャリアについて など)	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
10	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「ゲーム開発分野」非常勤講師による講話 (仕事内容について 具体的な仕事事例紹介 など) →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
11	事前学修	どのような業界なのかを調べておく	2
	授業	業界事前調査「広告分野」「コピーライティング分野」	
	事後学修	調査で足りなかった情報を補足する	2
12	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「広告分野」非常勤講師による講話 (業界について キャリアについて など)	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
13	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「広告分野」非常勤講師による講話 (仕事内容について 具体的な仕事事例紹介 など) →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2
14	事前学修	非常勤講師のプロフィールを調べておく	2
	授業	「コピーライティング分野」非常勤講師による講話 (業界について キャリアについて など)	
	事後学修	他にどのような会社があるかを調べる	2
15	事前学修	非常勤講師の会社を調べておく	2
	授業	「コピーライティング分野」非常勤講師による講話 (仕事内容について 具体的な仕事事例紹介 など) →レポート提出	
	事後学修	キャリアについて考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 100% □演習課題： %

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

外部非常勤講師の採点のため、特別必要がある場合はメール等でフィードバックする。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、講義中に指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	2024 年度休講 ----- 隔年開講科目です。 ・講義は、前期の土曜日に開講する。 ・6名の非常勤講師（外部有識者）によるオムニバス形式の講義である。 ・1回の講義は、午後2コマ（12:55-14:25、14:35-16:05）とレポートまたは小テストの0.5コマ（16:15-17:00）の系2.5コマとなる。 ・各講義の分野、講師、日程、順番は、講師の事情により変更する場合もある。
担当教員の実務経験	登壇する非常勤講師は全て、それぞれの分野・業界の実務経験を持つものを招聘する。ゆえに、実際に現場で使っている最新の技術、手法を学生は知ることができる。

行動とデザイン Behavior-conscious Design

担当教員	隼田 尚彦 (136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMD209
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
物をデザインする際に、人間の身体や心理特性を考慮することが重要です。本講義は、行動科学や生理学の知見を基に、実際のデザインに結びつける力を養うことを目的とします。行動科学とは、その名の通り、人間の行動を科学する学問で、心理学などの分野を内包し、我々の生活全般を科学的に分析するものです。本科目では、講義を通じ、これらの学問分野からデザインに生かせる知見を探し出し、現実空間の事象からバーチャル空間、デジタル環境までも対象に、デザインが人と環境のインタラクションにどのような影響を与えるかを考えます。 本科目は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」を用いた自主学修支援を採用しています。事前学修としてビデオ教材等による予習（反転授業）が課せられている場合は、予習を前提に授業が進められます（宿題をやってこない授業についていけなくなります）。また、事後学修についても POLITE 上の指示に従って行うようになっています。 大学の授業は、受講者の主体的に学ぶ姿勢が非常に重要となります。そのため、本学開発のオリジナルアプリ「Kaiwa2」などノート PC やタブレット・スマートフォンなどのデバイスを用いた双方向型の授業やグループワーク、実験などの体験型授業も行います。					
授業における学修の到達目標					
市民としての倫理観と自覚を持ち社会に貢献できる人材や、人間や社会、文化を理解し人に優しいデザインを考えることができる優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 観察力を養い、日常の様々な事象からデザインのヒントを見出す力を身につける。 また、理論的なバックグラウンドを基に、人間の行動とデザインの関係を読み取る力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	なし			0.0
	授業	ガイダンス、導入；人間工学と行動科学			
	事後学修	人間工学と行動科学について復習し、マインドマップにまとめる。			2.0
2	事前学修	身の回りのものや空間のデザインに人間工学的な要素や行動科学的な視点を見出し、まとめる。			2.0
	授業	心理学の誕生			
	事後学修	心理学の誕生について復習し、マインドマップにまとめる。			2.0
3	事前学修	目の仕組みについて、POLITE の教材で予習し、その内容をまとめる。			1.0
	授業	視覚（1）目とカメラの違い ・周辺視の実験 ・盲点の実験			
	事後学修	視覚に関する授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。			2.0
4	事前学修	なし			0.0
	授業	視覚（2）明るさへの対応			
	事後学修	視覚に関する本日の授業内容について復習し、マインドマップに追加する。			2.0
5	事前学修	POLITE の指示に従って、各自、ベンハムゴマの実験をしてレポートを作成する。			2.0
	授業	色と明るさ ・分光実験			
	事後学修	色と明るさに関する授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。			2.0
6	事前学修	カラーユニバーサルデザインについて参考 Web サイトおよび POLITE の教材で予習する。			2.0

	授業	カラーユニバーサルデザイン	
	事後学修	カラーユニバーサルデザインに関する授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
7	事前学修	なし	0.0
	授業	ゲシュタルト心理学	
	事後学修	ゲシュタルト心理学に関する授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
8	事前学修	レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（１） ※１冊の本を読むため、読むだけで少なくとも１０時間以上かかることが予想されます。そのため数週間に分けて配置してあります。	4.0
	授業	錯視	
	事後学修	錯視に関する授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
9	事前学修	レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（２）	4.0
	授業	３次元空間の知覚(1) 奥行きの手がかり	
	事後学修	奥行きの手がかりなど授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
10	事前学修	レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（３）	4.0
	授業	３次元空間の知覚(2) ステレオスコープ	
	事後学修	ステレオスコープなど授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
11	事前学修	レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献を読む（４）	4.0
	授業	感覚・知覚・認知(1) ものを認識する仕組み	
	事後学修	ものを認識する仕組みなど授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
12	事前学修	レポート作成に向けて、アフォーダンスの文献の内容を整理しまとめる。	2.0
	授業	感覚・知覚・認知(2), 脳科学最前線	
	事後学修	脳科学最前線など授業内容について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
13	事前学修	アフォーダンスのレポートをまとめる。	4.0
	授業	生態心理学の考え方	
	事後学修	生態心理学の考え方について復習し、マインドマップにまとめる。	2.0
14	事前学修	なし	0.0
	授業	生態心理学・アフォーダンス ・グループワーク	
	事後学修	アフォーダンスについて復習し、マインドマップにまとめる。	1.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	UX（ユーザ・エクスペリエンス）・環境行動とデザイン	
	事後学修	UX（ユーザ・エクスペリエンス）・環境行動とデザインについて復習し、マインドマップにまとめる。試験範囲について、マインドマップにまとめる。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■試験：40% ■小テスト：10% ■レポート(2)：25% □演習課題： %

■その他[レポート(1)+小テスト+日常的な宿題：25%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中や POLITE 等でコメントします。

教科書

参考書・Web サイト	・視覚心理学への招待 見えの世界へのアプローチ, 大山正, サイエンス社 ・美と造形の心理学, 仲谷洋平・藤本浩一, 北大路書房 ・生態学的視覚論, J.J.ギブソン, サイエンス社 ・誰のためのデザイン, ドナルド・ノーマン, 新曜社 ・アフォーダンス 新しい認知の理論, 佐々木正人, 岩波科学ライブラリ
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ, 発想法演習 (マインドマップの描き方がわかっているだけで大丈夫です)
備考	出席を前提としています。授業の注意事項の説明を「初回のガイダンス」時に行いますので、必ず出席のこと。
担当教員の実務経験	担当者は環境行動学の専門家として、これまで空間の利用者の UX を研究し、人と環境のインタラクションを基本にした新しい考えを用いて約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。本科目では、現実空間の事象からバーチャル空間、デジタル環境までを対象に、デザインが人と環境のインタラクションにどのように影響を与えるかを考えさせる。その際の具体的な事例紹介などに、これまでの企画設計立案の経験を生かす。

メディアプログラミング演習 Media Programming Practical

担当教員	守 啓祐 (225 研究室), 湯村 翼 (315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC211
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ：IoT デバイスのプログラムを行う					
コンピュータを使う場合文字を入力するキーボードと場所を指示するポインティングデバイス（一般的にはマウス）を使って利用する方法が一般的ですが，人間同士のコミュニケーションと比較すると自然な方法というわけではありません。この科目ではヒトとヒトとが視覚，聴覚その他の感覚を使って対話する方法を学び，現在利用されているハードウェアやソフトウェアで利用されている対話スタイル技術を習得します。この授業では，POLITE で提供された資料事前に学習する，反転授業や，実際の機器を使った実験やコンピュータ上のシミュレータ使い，メディアプログラミングの実際を学びます。					
授業における学修の到達目標					
フィジカルコンピューティングで使用するコンピュータに接続した外部機器の信号をコンピュータで利用する方法の基礎を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	メディアプログラミング概要前半の資料を調べる			2.0
	授業	メディアプログラミング概要前半			
	事後学修	メディアプログラミング概要前半の資料をまとめる			2.0
2	事前学修	メディアプログラミング概要後半の資料を調べる			2.0
	授業	メディアプログラミング概要後半			
	事後学修	メディアプログラミング概要後半の資料をまとめる			2.0
3	事前学修	電子機器の取り扱い基礎前半の資料を調べる			2.0
	授業	電子機器の取り扱い基礎前半			
	事後学修	電子機器の取り扱い基礎前半の資料をまとめる			2.0
4	事前学修	電子機器の取り扱い基礎後半の資料を調べる			2.0
	授業	電子機器の取り扱い基礎後半			
	事後学修	電子機器の取り扱い基礎後半の資料をまとめる			2.0
5	事前学修	ソフトウェア環境の構築前半の資料を調べる			2.0
	授業	ソフトウェア環境の構築前半			
	事後学修	ソフトウェア環境の構築前半の資料をまとめる			2.0
6	事前学修	ソフトウェア環境の構築後半の資料を調べる			2.0
	授業	ソフトウェア環境の構築後半			
	事後学修	ソフトウェア環境の構築後半の資料をまとめる			2.0
7	事前学修	ブレッドボードと測定器の基礎前半の資料を調べる			2.0
	授業	ブレッドボードと測定器の基礎前半			
	事後学修	ブレッドボードと測定器の基礎前半の資料をまとめる			2.0
8	事前学修	ブレッドボードと測定器の基礎後半の資料を調べる			2.0
	授業	ブレッドボードと測定器の基礎後半			
	事後学修	ブレッドボードと測定器の基礎後半の資料をまとめる			2.0
9	事前学修	センサの概要前半の資料を調べる			2.0

	授業	センサの概要前半	
	事後学修	センサの概要前半の資料をまとめる	2.0
10	事前学修	センサの概要後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサの概要後半	
	事後学修	センサの概要後半の資料をまとめる	2.0
11	事前学修	明るさを測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	明るさを測る前半	
	事後学修	明るさを測る前半の資料をまとめる	2.0
12	事前学修	明るさを測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	明るさを測る後半	
	事後学修	明るさを測る後半の資料をまとめる	2.0
13	事前学修	距離を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	距離を測る前半	
	事後学修	距離を測る前半の資料をまとめる	2.0
14	事前学修	距離を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	距離を測る後半	
	事後学修	距離を測る後半の資料をまとめる	2.0
15	事前学修	振動を検出する前半の資料を調べる	2.0
	授業	振動を検出する前半	
	事後学修	振動を検出する前半の資料をまとめる	2.0
16	事前学修	振動を検出する後半の資料を調べる	2.0
	授業	振動を検出する後半	
	事後学修	振動を検出する後半の資料をまとめる	2.0
17	事前学修	物体の色を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	物体の色を測る前半	
	事後学修	物体の色を測る前半の資料をまとめる	2.0
18	事前学修	物体の色を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	物体の色を測る後半	
	事後学修	物体の色を測る後半の資料をまとめる	2.0
19	事前学修	人を検知する前半の資料を調べる	2.0
	授業	人を検知する前半	
	事後学修	人を検知する前半の資料をまとめる	2.0
20	事前学修	人を検知する後半の資料を調べる	2.0
	授業	人を検知する後半	
	事後学修	人を検知する後半の資料をまとめる	2.0
21	事前学修	多軸の加速度を測る前半の資料を調べる	2.0
	授業	多軸の加速度を測る前半	
	事後学修	多軸の加速度を測る前半の資料をまとめる	2.0
22	事前学修	多軸の加速度を測る後半の資料を調べる	2.0
	授業	多軸の加速度を測る後半	

	事後学修	多軸の加速度を測る後半の資料をまとめる	2.0
23	事前学修	そのほかのセンサ前半の資料を調べる	2.0
	授業	そのほかのセンサ前半	
	事後学修	そのほかのセンサ前半の資料をまとめる	2.0
24	事前学修	そのほかのセンサ後半の資料を調べる	2.0
	授業	そのほかのセンサ後半	
	事後学修	そのほかのセンサ後半の資料をまとめる	2.0
25	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）前半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（構想）前半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）前半の資料をまとめる	2.0
26	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（構想）後半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（構想）後半の資料をまとめる	2.0
27	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）前半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（作成）前半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）前半の資料をまとめる	2.0
28	事前学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）後半の資料を調べる	2.0
	授業	センサを活用した応用機器の作成（作成）後半	
	事後学修	センサを活用した応用機器の作成（作成）後半の資料をまとめる	2.0
29	事前学修	到達度の確認レポート前半の資料を調べる	2.0
	授業	到達度の確認レポート前半	
	事後学修	到達度の確認レポート前半の資料をまとめる	2.0
30	事前学修	到達度の確認レポート後半の資料を調べる	2.0
	授業	到達度の確認レポート後半	
	事後学修	到達度の確認レポート後半の資料をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

事項の項目および割合で標準成績評価基準に基づき総合的に評価します。グループワークについては、自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮し担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：50% ■演習課題：50%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業資料やレポートは POLITE のレポート機能または、共有ディレクトリを使ってやり取りします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示
単位修得が望ましい科目	コンピュータ、プログラミング、ネットワーク関係の基礎科目
備考	なし
担当教員の実務経験	守啓祐 該当科目につき、関連する測定用の機材の作成を行い、研究を行うとともに論文作成を行ってきた。また、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。 湯村翼

	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

Web プログラミング演習 Web Programming Practical

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC210
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
近年、一般家庭でも潤沢な通信帯域を利用できるようになり、動画をダウンロードしたり、ストリーミングで見ることができるようになりました。動画共有サイトなどを利用したみなさんはいらっしゃるのではないのでしょうか。そうした中、こんにちの情報メディアにおいて、Web アプリケーション（Web 上で動作するアプリケーション）は非常に重要な位置を占めるようになってきたと言えるでしょう。 この講義では、Web アプリケーションがどのようなものかを理解するために、簡単なものを作成します。プログラミング言語として PHP を利用します。まずは基本的な考え方をしっかりと身に付けること、とくに、データベースを利用した Web アプリケーションの作成方法の理解を目的とし、開発に用いる個々のアプリケーションの動作と、それらの連携について、実習を通して理解を深めてもらいます。					
授業における学修の到達目標					
・ PHP プログラミング技術を習得する ・ PHP を利用して、動的な Web ページを作成できる ・ PHP を利用して、データベースを利用した Web アプリケーションを作成できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。メディア技術演習で行った (1)ファイルのアップロード方法, (2) PHP のコードを書くためのソフトウェアの使用方法, (3) 変数の概念について予習する。			4
	授業	ガイダンス			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	PHP の復習：変数			
	事後学修	出題された課題を解き、PHP の変数について理解を深める。			4
3	事前学修	PHP の変数に値を与える方法について調査する。とくに、URL を利用した方法と、フォームを利用した方法について調べておく。また、PHP をつかって、あるページから別のページへ移動させる方法について調査する。			4
	授業	PHP の復習：URL から値を渡す、フォームを使って値を渡す			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	PHP の復習：プログラムを利用したページ遷移			
	事後学修	出題された課題を解き、外部からプログラムへの値の渡し方、ページ遷移を行うときの注意点について理解を深める。			4
5	事前学修	メディア技術演習で行った if 文と配列について復習しておく。また、メディア技術演習の該当課題も再び解いておく。			4
	授業	PHP の復習：if 文の複雑な例			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
6	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	PHP の復習：配列			

	事後学修	出題された課題を解き、if 文と配列にかんする理解を深める。	4
7	事前学修	メディア技術演習で行った繰り返しについて復習しておく。また、POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。	4
	授業	PHP の復習：繰り返し	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP の復習：glob 関数、配列関数	
	事後学修	出題された課題を解き提出する。繰り返しと glob 関数、配列関数にかんする理解を深める。	4
9	事前学修	HTML コーディングや Web デザイン基礎演習で行った CSS にかんして復習しておく。また、CSS3 について調査する。POLITE の該当ドキュメントも読み、事前学習課題を行う。	4
	授業	CSS によるデザイン：CSS の基本、CSS3	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	CSS によるデザイン：CSS グリッドレイアウト	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。CSS3 によるデザインについて理解を深める。	4
11	事前学修	ファイルアップロードができるサイトを複数箇所調べ、どのような動作をするか調査する。また、POLITE の該当ドキュメントも読み、事前学習課題を行う。	4
	授業	PHP でファイルのアップロード：filter_input() の導入	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	PHP でファイルのアップロード：ファイルアップロード完成	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。ファイルをアップロードするときの注意点について理解を深める。	4
13	事前学修	SQL 入門を履修していた場合には、データベースの操作（とくに SELECT 文）について復習しておく。また、POLITE の該当ドキュメントも読み、事前学習課題を行う。	4
	授業	データベースへの接続：SELECT 文の基本、すべての列を出力、NULL について、重複行を省く	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：WHERE 句によるレコード選択	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。SELECT 文の基本的な扱い方について理解し、それを PHP から利用する方法についても理解を深める。	4
15	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。PHP における比較演算子・算術演算子との違いをまとめておく。	4
	授業	データベースへの接続：コメント、別名、比較演算子	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
16	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：算術演算子	
	事後学修	出題された課題を解き、提出する。SQL における比較演算子、算術演算子について理解を深める。	4
17	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み、事前学習課題を行う。PHP における論理演算子についても調べておく。	4
	授業	データベースへの接続：論理演算子	

	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
18	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：集合関数	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。SQL における論理演算子，集合関数について理解を深める。	4
19	事前学修	POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。PHP での配列の並び替えとも比較する。	4
	授業	データベースへの接続：並び替え	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
20	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースへの接続：INSERT 文，DELETE 文，UPDATE 文	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。並び替えに関しては，PHP の配列の並び替えとの違いをまとめる。また，ここまでで学んだ SELECT, INSERT, DELETE, UPDATE 文の機能や文法についてまとめる。	4
21	事前学修	クロスサイト・スクリプティングについて調査する。また，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：Web アプリケーションの入力処理，文字エンコーディング，正規表現による入力値検証	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
22	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：クロスサイト・スクリプティング	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。また，PHP における正規表現と，他のプログラミング言語の正規表現との違いの有無について調査し，まとめる。クロスサイト・スクリプティング脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。	4
23	事前学修	検索機能を持つ Web アプリを複数個調査する。また，ユーザ認証とは何かについても調査する。それに加えて，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：検索機能を持つアプリの作成	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
24	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	データベースを使ったユーザ認証	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。検索機能を実装するときの注意点，データベースを利用したユーザ認証の実装の考え方について理解を深める。	4
25	事前学修	SQL インジェクション_x0008_という語句について調査し，その事例についてまとめる。また，POLITE の該当ドキュメントを読み，事前学習課題を行う。	4
	授業	Web アプリケーションの脆弱性：SQL インジェクション	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
26	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	ログイン関連機能の作成	
	事後学修	出題された課題を解き，提出する。また，SQL インジェクション脆弱性の発生理由とその防御方法について理解を深める。	4
27	事前学修	HTTP におけるリファラについて調査する。また，クロスサイト・リクエストフォージェリ（CSRF）という語句について調べ，事例を少なくとも 1 つ調べておく。また，POLITE の事前学習課題を行う。	4

インターンシップ Internship

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC311
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	夏期集中
授業概要					
インターンシップとは、学校でそれまでに習得した専門知識や技術をベースに、在学中の学生が実企業の職場において一定期間（実働 5 日間以上）の就業経験を積むことによって、実社会の生きた知識を学ぶ実習であり、以下のようなねらいがあります。					
(1) 就業体験を通して、専門的職業人としての労働の実態や社会で働くことの意味を理解し、自己の職業適性や将来設計について考える機会とする。					
(2) 職業人として必要な高度な知識や技術のレベルを肌で感じることによって学問の大切さを知り、大学生としてふさわしい学問レベルについて考える機会とする。					
(3) 業界や職種に関する知識を得ることにより、高い職業意識を養い、主体的な職業選択ができるようになる。					
また、最後にはインターンシップで得られた成果を報告するためのプレゼンテーション会を学内で実施する。					
授業における学修の到達目標					
大学で学んだことを実際の職場の中でどのように活用することができるかということ、並びにどのような学習が必要であるか実務を通して知ることにより、その後の学習意欲を高めて、十分な学士力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認して科目の全体の内容を把握するとともに、説明会に参加して必要な準備について把握する			2.0
	授業	インターンシップ実施説明			
	事後学修	説明された内容を改めて確認する			2.0
2	事前学修	インターンシップ事前研修の内容を把握する			2.0
	授業	インターンシップ事前研修			
	事後学修	インターンシップ事前研修の内容を振り返る			2.0
3	事前学修	研修先企業に関する調査			2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ			
	事後学修	インターンシップ報告書の作成			2.0
4	事前学修	研修先企業からの指示に従う			2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ			
	事後学修	インターンシップ報告書の作成			2.0
5	事前学修	研修先企業からの指示に従う			2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ			
	事後学修	インターンシップ報告書の作成			2.0
6	事前学修	研修先企業からの指示に従う			2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ			
	事後学修	インターンシップ報告書の作成			2.0
7	事前学修	研修先企業からの指示に従う			2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ			

	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
8	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
9	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
10	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
11	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
12	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
13	事前学修	研修先企業からの指示に従う	2.0
	授業	研修先企業におけるインターンシップ	
	事後学修	インターンシップ報告書の作成	2.0
14	事前学修	インターンシップ報告プレゼンテーションで必要な内容を確認する	2.0
	授業	インターンシップ報告プレゼンテーションの資料作成	
	事後学修	インターンシップ報告プレゼンテーション資料の改善	2.0
15	事前学修	インターンシップ報告プレゼンテーション準備	2.0
	授業	インターンシップ報告プレゼンテーション会実施	
	事後学修	インターンシップでの体験と報告プレゼンテーションの振り返りを行う	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：50 % □演習課題： %

■その他[受入企業の研修記録及び評価書：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

インターンシップ報告発表会において評価、コメントをします。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし。
単位修得が望ましい科目	特になし。
備考	・インターンシップ希望者は5月に行われる説明会に参加すること。説明会については別途掲示する。 ・平成21年度入学生以降は全員、学生教育研究災害傷害保険（学研災）及び学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）に加入済み。
担当教員の実務経験	実務経験無し

CGプログラミング CG Programming

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IMC304	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
コンピュータの高度利用技術であり情報メディア工学の核をなす CG（コンピュータ・グラフィックス）の原理と理論を学び、その応用技術を実習課題の制作を通して修得することを目的とする。 2 次元 CG および 3 次元 CG の原理と表現技法を実習形式で学び、課題のプログラミングによって CG の作成技術を修得する。プログラミング言語は Java のグラフィックス機能に特化した IDE である Processing を予定している。						
授業における学修の到達目標						
2D, 3D の CG プログラミングに関して、どのような技術が使われているのかという知見を取得し、その数学的なモデルをプログラムへ実装する力を実習を通して養う。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	プログラミングによる CG 実装の概要				
	事後学修	講義資料を基に開発環境に関する復習をする				2
2	事前学修	POLITE で配布した描画関数の利用に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	描画関数の利用				
	事後学修	描画関数の利用に関してレポートにまとめる				2
3	事前学修	POLITE で配布した描画関数の応用に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	描画関数の応用				
	事後学修	描画関数の応用に関してレポートにまとめる				2
4	事前学修	POLITE で配布した 2D の座標変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	2D の座標変換				
	事後学修	2D の座標変換に関してレポートにまとめる				2
5	事前学修	POLITE で配布した 2D の合成変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	2D の合成変換				
	事後学修	2D の合成変換に関してレポートにまとめる				2
6	事前学修	POLITE で配布した 3D の座標変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	3D の座標変換				
	事後学修	3D の座標変換に関してレポートにまとめる				2
7	事前学修	POLITE で配布した 3D の合成変換に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	3D の合成変換				
	事後学修	3D の合成変換に関してレポートにまとめる				2
8	事前学修	POLITE で配布したワイヤーフレームモデルに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	ワイヤーフレームモデル				
	事後学修	ワイヤーフレームモデルに関してレポートにまとめる				2
9	事前学修	POLITE で配布したポリゴンモデルに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	ポリゴンモデル				

	事後学修	ポリゴンモデルに関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布した投影の原理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	投影の原理	
	事後学修	投影の原理に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布したビューボリュームに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	ビューボリューム	
	事後学修	ビューボリュームに関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	POLITE で配布したシェーディングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	シェーディング	
	事後学修	シェーディングに関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	POLITE で配布したテクスチャマッピングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テクスチャマッピング	
	事後学修	テクスチャマッピングに関してレポートにまとめる	2
14	事前学修	POLITE で配布した CG アニメーションに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	CG アニメーション	
	事後学修	CG アニメーションに関してレポートにまとめる	2
15	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験	
	事後学修	講義全体の理解度についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 40% ■小テスト： 10% ■レポート：50% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にてレポートやプログラムの作成例を示すとともに、誤った内容の傾向についても紹介する。

レポートの提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999～2005 年頃まで CG に関する外部企業との産学連携事業に携わっていた。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

e ラーニング e-Learning

担当教員	斎藤 一 (122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC316
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
インターネットが普及した現代社会において、e ラーニングは様々な人々に多種多様な教育・学習の機会を与えています。教育や教材の効果と効率と魅力を高めるために「教育・教材を設計する」システム的なアプローチに関する方法論をインストラクショナル・デザインと言います。インストラクショナル・デザインにより、教育が「誰に」「何を」「どこまで」「何故」「どのように」行われるのかを確認し、何が達成されれば効果があったと言えるのかを明確にすることが出来ます。本講義では、e ラーニングを前提とした教材制作の実習を通して、インストラクショナル・デザインの基礎を学びます。また、教材制作はグループワークを前提としますが、一人での制作も許可します。					
授業における学修の到達目標					
e ラーニングを前提とした教材の制作を通して、インストラクショナル・デザインの基礎を学びます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを読み、授業内容を把握する			2.0
	授業	教材をイメージする（教材の 4 条件）： インストラクショナルデザイン（ID）のプロセスを概観する			
	事後学修	授業を復習し、ID の理解を深める			2.0
2	事前学修	Web 教材（教材）を読み直し、自分たちが作りたい教材を考えておく			2.0
	授業	教材作りをイメージする（Plan-Do-See）： グループ（最大 3 名）を構成し、制作する教材のテーマを決める。			
	事後学修	制作する教材のテーマについて、教材に盛り込む内容を検討しておく			2.0
3	事前学修	Web 教材「教材の責任範囲を明らかにする」を事前によく読んでおく。			2.0
	授業	教材の責任範囲を明らかにする： 制作する教材の責任範囲（入口と出口）を決める			
	事後学修	設定した教材の責任範囲が適切かどうかを再検討する。			2.0
4	事前学修	Web 教材「相対評価と絶対評価」を事前によく読んでおく			2.0
	授業	相対評価と絶対評価： 相対評価と絶対評価の違いを説明し、制作する教材でどのような評価を行うべきかを検討する			
	事後学修	制作する教材の評価方法について再検討する			2.0
5	事前学修	Web 教材「テストを作成する」を事前によく読み、作成するテストの内容を考えておく			2.0
	授業	テストを作成する（事前／事後テスト）： 制作する教材のテストを作成する実習を行う			
	事後学修	作成したテストが、教材の責任範囲と照らし合わせて適切かどうかを検討する			2.0
6	事前学修	Web 教材「教材企画書の作成」を事前によく読み、企画書の内容を検討しておく			2.0
	授業	教材企画書の作成： 自分たちが制作した教材の企画書を作成する。また、他のチームと教材企画書を相互チェックする実習を行う			
	事後学修	教材企画書を読み返し、教材作成の準備を進めておく			2.0
7	事前学修	Web 教材「教材の構造を見極める（課題分析図）」を事前によく読み、教材の構造について理解を深める			2.0

	授業	教材の構造を見極める（課題分析図）： 課題分析図を作成し、教材の構造を可視化する実習を行う	
	事後学修	教材構造図を参考に、教材作成の準備を進めておく	2.0
8	事前学修	Web 教材「独学を支援する作戦をたてる」を事前によく読み、制作教材の教授戦略を考えておく	2.0
	授業	独学を支援する作戦をたてる： ガニエの9教授事象について説明し、制作教材の教授戦略を練る実習を行う	
	事後学修	授業内容を復習し、制作する教材の教授戦略が適切かどうかを再検討しておく	2.0
9	事前学修	Web 教材「教材パッケージを作成する」を事前によく読み、教材パッケージの内容を把握しておく	2.0
	授業	教材パッケージを作成する： 教材パッケージを作成し、教材の評価に必要な制作物を確認する実習を行う	
	事後学修	作成した教材パッケージに不備がないかを再確認しておく	2.0
10	事前学修	Web 教材「教材制作」を事前によく読み、教材制作の準備を進めておく	2.0
	授業	教材制作： 企画した教材を制作する実習を行う	
	事後学修	制作中の教材を見直し、教材中の文章にミスがないか等を確認しておく	2.0
11	事前学修	Web 教材「LMS (Learning Management System)」を事前によく読んでおく	2.0
	授業	LMS (Learning Management System)： LMS について学習する	
	事後学修	インターネットを利用し、LMS について調べる	2.0
12	事前学修	Web 教材「形成的評価を実施する」を事前によく読み、制作した教材の評価方法を把握する	2.0
	授業	形成的評価を実施する： 教材の評価方法について説明する	
	事後学修	教材を見直し、形成的評価についての理解を深める	2.0
13	事前学修	Web 教材「1対1評価」を事前によく読み、教材評価の具体的なイメージを持っておく	2.0
	授業	1対1評価： 複数人に対し、制作した教材の1対1評価の実習を行う	
	事後学修	1対1評価の結果を参考に、教材の改善点を洗い出しておく	2.0
14	事前学修	Web 教材「教材を改善する」を事前によく読み、教材の改善の方法を把握しておく	2.0
	授業	教材を改善する： 形成的評価の結果を反映させた、教材の改善する実習を行う	
	事後学修	授業内容を復習し、教材が適切に改善されているのかを再検討する	2.0
15	事前学修	授業内容を振り返り、報告書に書くべき内容を検討しておく	2.0
	授業	報告書作成： 授業内容を振り返り、報告書を作成する	
	事後学修	本講義の教材、および、制作した教材を見直し、授業内容を再確認する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：90%

■その他[授業態度等を総合的に評価する]

グループワークについては、グループ内での行動について

自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じてコメント等をフィードバックします。	
教科書	
参考書・Web サイト	J.M.ケラー著 鈴木克明 監修 「学習意欲をデザインする」北大路書房 鈴木克明 著「教材設計マニュアル-独学を支援するために」北大路書房 稲垣忠・鈴木克明 編著「教師のためのインストラクショナルデザイン・授業設計マニュアル Ver.2」北大路書房 R.M.ガニエ他著，鈴木克明他監訳「インストラクショナルデザイン原理」北大路書房
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習，HTML コーディング演習
備考	課題とくに制作した教材を重視して評価をします。制作の過程も評価の対象としますので，途中まででしか出来上がっていない場合でも，課題は必ず提出するようにしましょう。
担当教員の実務経験	実務経験なし

インフォグラフィックス演習-2026 年度開講- Information Graphics

担当教員	未定（）	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		ISC301
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	未定
授業概要					
インフォグラフィックスは information と graphics を組み合わせた造語であり、情報の直感的理解を目的とした視覚表現を指す。この授業では、インフォグラフィックスの成り立ちや、わかりやすさのためのポイントを理解しつつ、自身で収集した情報を元にグラフ、地図、タイムラインなどのインフォグラフィックス作品を制作する。					

インストラクショナルデザイン演習-2026 年度開講- Instructional Design Practical

担当教員	斎藤 一 (122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習		ISC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
授業概要						
教育や教材の効果と効率と魅力を高めるために「教育・教材を設計する」システム的なアプローチに関する方法論をインストラクショナル・デザインと言います。インストラクショナル・デザインにより、教育が「誰に」「何を」「どこまで」「何故」「どのように」行われるのかを確認し、何が達成されれば効果があったと言えるのかを明確にすることができます。本講義では、e ラーニングを前提とした教材制作の実習を通して、インストラクショナル・デザインの基礎を学びます。また、教材制作はグループワークを前提としますが、一人での制作も許可します。						

プロジェクト・マネジメント-2025 年度開講- Project Management

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ISC205
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
この講義では、デザイナー、クリエイター、プログラマーなどを目指すものが将来、ディレクター、プロデューサー、上級SE などへのキャリアステップを踏む上で身につけるべきプロジェクトマネジメント、スケジュール管理、チームビルディング、チームマネジメントなどについて学習する。 大学でのプロジェクトの中で、作ることをひとりではなくチームで行う際、どうすれば成功に結び付けられるのかをみんなで考える。 ※この講義はグループでのディスカッションを多く含みます。					

デザインシンキング Design Thinking

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 近澤 潤(330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	IMC317
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	後期
授業概要					
モノを作る（デザイン）上でいかに新しいものを産み出すか。 特に情報メディア分野の中でいかに新しいものを産み出すか、人間中心とデザイン思考のアプローチでその発想法とイノベーション創出の訓練を行う。ワークショップ形式の授業も取り入れる。					
授業における学修の到達目標					
・ デザイン思考の基本を理解する ・ デザイン思考のアプローチを実習を通し、体得する					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	講義のスケジュールと目標に目を通す			2
	授業	ガイダンス デザイン思考とはなにか			
	事後学修	デザイン思考に関する周辺情報を調べてみる			2
2	事前学修	デザイン思考で産まれたものを調べてみる →レポートとして提出			2
	授業	デザイン思考で産まれたアイディアと事例紹介			
	事後学修	事例がどのように産まれたか、掘り下げて調べてみる			2
3	事前学修	d.school について基本情報を調べる			2
	授業	スタンフォード大学 d.school の紹介			
	事後学修	d.school が出した成果を更に調べてみる			2
4	事前学修	IDEO について調べてみる →レポートとして提出			2
	授業	デザイン思考のアプローチ IDEO 共感-問題提起-創造-プロトタイプ-テスト			
	事後学修	他のアプローチがあるか調べてみる			2
5	事前学修	共感とは何かについて調べる			2
	授業	共感フェーズについて			
	事後学修	共感フェーズでのキーは何かを考える			2
6	事前学修	問題提起フェーズの基本について調べてみる			2
	授業	問題提起フェーズについて			
	事後学修	問題提起フェーズでのキーは何かを考える			2
7	事前学修	創造フェーズの基本について調べてみる			2
	授業	創造フェーズについて			
	事後学修	創造フェーズでのキーは何かを考える			2
8	事前学修	プロトタイプフェーズ・テストについての基本を調べてみる			2
	授業	プロトタイプフェーズ・テストについて			
	事後学修	プロトタイプフェーズ・テストのキーは何かを考えてみる			2

9	事前学修	デザイン思考のアプローチを復習しておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 課題提示 提出物：グループで作成した課題設定書	
	事後学修	設定した課題を振り返って理解しておく	2
10	事前学修	ペルソナについて調べておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 共感 - ペルソナ作成 提出物：グループで作成したペルソナ	
	事後学修	ペルソナでなぜ共感することが大切かを考える	2
11	事前学修	エンパシーマップについて調べておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 共感 - エンパシーマップ作成 提出物：グループで作成したエンパシーマップ	
	事後学修	エンパシーマップでなぜ共感することが大切かを考える	2
12	事前学修	前回までに何の共感を得たかを復習しておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） 問題提起 提出物：グループで作成した問題提起書	
	事後学修	問題提起の中で、何が原因としてありそうかを復習しておく	2
13	事前学修	問題に対し、いくつかアイデアを考えておく	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） アイディエーション 提出物：グループで作成したプロダクトアイデア	
	事後学修	考え出したアイデアに競合がいるか調べてみる	2
14	事前学修	考え出したアイデアを膨らませられるか考えてみる	2
	授業	デザインシンキング実習（グループワーク） プロトタイピング 提出物：グループで作成した提案書ドラフト	
	事後学修	プロトタイプを説明できるようにしておく	2
15	事前学修	ワークショップで得たことを箇条書しておく	2
	授業	デザインシンキング実習（個人ワーク） アウトプット 提出物：個人で作成したプロダクト説明書	
	事後学修	デザイン思考のプロセスを全体的に振り返ってみる。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：40% ■演習課題：60% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートは採点し、返却する

デザインシンキング実習で作成した成果物は、作業の途中、及び、次回の講義時間に直接グループ及び個人にフィードバックする

教科書

参考書・Web サイト

アイリーニ・デザイン思考センターWeb サイト
(<https://designthinking.eireneuniversity.org/>)

単位修得が望ましい科目

特になし

備考

特になし

担当教員の実務経験

担当者の一人は、アイリーニ・デザイン思考センターが提供するデザイン思考ファシリテーター

	タ養成プログラム，東京大学 i.School のイノベーション教育ファシリテータ養成プログラムを修了し，数々のデザイン思考ワークショップのファシリテータを行ってきた。その経験を講義で活用する。 また，フィンランド OAMK Lab に 6 ヶ月間招聘研究員として滞在した際に受けたワークショップ，手法も講義に還元する。 担当者の一人は，一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか，業務内容やシステムの改善などの実務を経験している。

セキュリティマネジメント Security Management

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT308
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	3 年	後期	
授業概要					
インターネットの普及や IT の高度化は社会に様々な恩恵をもたらしていますが、サイバー攻撃はますます巧妙化・複雑化し、個人、企業、社会全体にとって非常に大きな脅威となっています。このため、情報セキュリティマネジメントを担う人材の育成は大きな課題となっています。企業において「情報セキュリティをいかに確保するか」は単に技術面の対策だけではなく、適切な情報管理、業務フローの見直し、組織内規程順守のための従業員の意識向上などの管理面の対策も必要です。本講義では情報セキュリティマネジメント全般に関する知識を習得します。 (オンデマンド遠隔授業)					
授業における学修の到達目標					
・一般生活や企業において IT の安全な利用を推進するために必要な情報セキュリティマネジメントに関する知識を習得する。 ・IT パスポート試験合格からさらにステップアップしたい学生を対象にして、情報セキュリティマネジメント試験への意識を持つようにする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書 7 ページまで（目次後の「本書の特徴と利用法」も含めて）を読んでおき、わからない言葉を抽出しておく。			2.0
	授業	ガイダンス マルウェアによる攻撃と対策について学ぶ。			
	事後学修	情報セキュリティの CIA, マルウェアとその対策についてまとめを作成する。			2.0
2	事前学修	教科書の LMS の第 2 回の学習範囲で提示する部分を読み、これまで受講した関連のある科目との関係を整理する。			2.0
	授業	不正アクセスとその対策について学ぶ。			
	事後学修	攻撃手法と対策についてのまとめを作る。自分の PC のログ（イベントログ）を開いて記録されている内容を確認する。			2.0
3	事前学修	教科書の LMS の第 3 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。			2.0
	授業	暗号化と認証について学ぶ。			
	事後学修	普段自分が実際に利用している暗号化、認証技術が具体的にどのようなものか可能な限り調べてまとめる。			2.0
4	事前学修	教科書の LMS の第 4 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。			2.0
	授業	インターネットセキュリティについて学ぶ。			
	事後学修	自宅などで使用しているネットワーク機器のファイアウォールについて（何ができるのかなど）調べ、学んだことと比較して確認する。			2.0
5	事前学修	教科書の LMS の第 5 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。			2.0
	授業	情報セキュリティ管理について学ぶ。			
	事後学修	CSIRT についてインターネットで調べてまとめる。			2.0
6	事前学修	教科書の LMS の第 6 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。			2.0
	授業	情報セキュリティ関連法規について学ぶ。			
	事後学修	不正アクセス禁止法と、個人情報保護法について自分なりのまとめを作成する。			2.0

7	事前学修	教科書の LMS の第 7 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	知的財産権、労働関連法規について学ぶ。	
	事後学修	インターネットで著作権法に違反する事例について調べ理解を深める。	2.0
8	事前学修	これまで学んだことについてまとめを作成しておく。	2.0
	授業	LMS 上で中テスト 1 を受ける。	
	事後学修	小テストで不正解となった問題を中心に、事前学習で作成したまとめと対照して知識の確認をする。	2.0
9	事前学修	教科書の LMS の第 9 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	ネットワークについて学ぶ。	
	事後学修	IP アドレスとアプリケーションプロトコルについて自分でまとめを作成する。	2.0
10	事前学修	教科書の LMS の第 10 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	ネットワークとサービスマネジメントについて学ぶ。	
	事後学修	学科開講科目で今回の内容に関わる科目があるか調べる。	2.0
11	事前学修	教科書の LMS の第 11 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	システム監査・システム戦略について学ぶ。	
	事後学修	今回学んだ内容について復習する。	2.0
12	事前学修	教科書の LMS の第 12 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	企業活動について学ぶ。	
	事後学修	テキストの関連する部分を復習してください。	2.0
13	事前学修	教科書の LMS の第 13 回の学習範囲で提示する部分を読み、わからない言葉を抽出しておく。	2.0
	授業	情報セキュリティの事例について学ぶ。	
	事後学修	インターネットで、教科書に提示されている事例と似た実際の事件がないか調べる。	2.0
14	事前学修	インターネットなどで UML (Unified Modeling Language) について調べる。	2.0
	授業	システムとデータベースについて学ぶ。	
	事後学修	今回学んだことについて、インターネットなどを使って復習し、関連する学科の開講科目について確認する。	2.0
15	事前学修	講義全体を振り返りテストに備える。	2.0
	授業	補足項目（主にアローダイアグラム）の説明を受け、LMS 上で中テスト 2 を受ける。	
	事後学修	試験の内容を確認し、学習内容について振り返る。（不足のあった部分は補う。）	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：100 % □レポート： % □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回、LMS 上で小テストを、8 回目と 15 回目は LMS 上で通常より少し多い問題数のテスト（中テスト）を実施し LMS によりフィードバックします。外部サービスを利用した質疑応答、ビデオ会議システムによる質疑応答を行います。（詳細は LMS 上のコースで説明しています）

教科書	書名：2024 年度版 ニュースペックテキスト 情報セキュリティマネジメント, 著者名：TAC 株式会社(情報処理講座) 編著, 出版社：TAC 出版, 備考：
参考書・Web サイト	「徹底攻略 情報セキュリティマネジメント教科書」、インプレス
単位修得が望ましい科目	「IoT 時代のセキュリティ」「インターネットの仕組み」「インターネットセキュリティの技術」「SQL 入門」

備考	なし
担当教員の実務経験	なし

情報メディア特別演習Ⅱ Information Media Special Practical 2

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC320
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	後期
授業概要					
高度に情報化された社会で、職業人として ICT を有効活用するために必要不可欠な基礎知識の定着を目的とした科目です。 コンピュータの基礎要素であるハードウェアとソフトウェアから始め、それらを意図した通りに動かすためのアルゴリズムとその実現手段であるプログラミングについて扱います。 その後、コンピュータを中心とした情報システムを支えるデータベース・ネットワーク・マルチメディア及び情報セキュリティについて取り扱います。 その後、情報システムの開発とそのマネジメントを学び、情報システム分野に関連する法規や標準について学びます。 講義は教科書に書いてある事をベースにスライドで補いながら進めますので、必ずメモを取る様にしてください。 成績は随時課す小テストの成果と必要に応じ課されるレポートをもとに評価します。 授業は、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（LMS）」を利用して行います。					
授業における学修の到達目標					
ICT に関する基本的な知識の再確認をして定着させる事					
基本情報処理技術者試験の合格					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の準備、タブレット端末への電子教科書および特典アプリケーションのインストール			2
	授業	初修ガイダンス・資料映像の鑑賞			
	事後学修	指定した教科書の範囲の予習			2
2	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習			2
	授業	ハードウェア			
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習			2
3	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習			2
	授業	ソフトウェア			
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習			2
4	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習			2
	授業	コンピュータで扱うデータ			
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習			2
5	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習			2
	授業	アルゴリズムとデータ構造			
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習			2
6	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習			2
	授業	システム開発			
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習			2
7	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習			2
	授業	コンピュータシステム			
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習			2

8	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	ネットワーク	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
9	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	データベース	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
10	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	セキュリティ	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
11	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	マネジメント	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
12	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	情報化と経営	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
13	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	第2週～第6週までの開講回の範囲における分野に関連した、過去実際に出题された問題を解く演習	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
14	事前学修	前回指定した教科書の範囲の予習	2
	授業	第7週～第12週までの開講回の範囲における分野に関連した、過去実際に出题された問題を解く演習	
	事後学修	小テストの結果を踏まえての再学習	2
15	事前学修	期末試験の出题指定範囲の学習	2
	授業	試験前のまとめ・資料映像の鑑賞	
	事後学修	期末試験の出题指定範囲の学習	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■小テスト：50% □レポート： % □演習課題： %

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

開講回ごとに課される小テストは、期限までに提出すること。期限内に提出があり、なおかつ合格点の達した場合のみ平常点に加算される。小テストは採点後の返却か、正解の提示（自己採点後の回収・返却）を必ず行い、復習と反復学習を常に促す。

教科書	書名：かんたん合格 基本情報技術者教科書 スタンダード, 著者名：五十嵐 順子 著/ラーニング編集部 著, 出版社：インプレスブックス, 備考：現在これが「最新版」です。（学内販売を行わない場合があります。その場合は出版社の Web サイト https://book.impress.co.jp/books/1122101028 から「電子版」を購入してください。在庫希少により欠品の恐れがあるため特段の理由がない限り「紙の本」の購入は控えてください。）
参考書・Web サイト	講義中に適宜紹介
単位修得が望ましい科目	なし

備考	この科目は、情報処理の促進に関する法律第7条第1項に基づき経済産業大臣が行う国家試験である情報処理技術者試験の内「基本情報処理技術者」を取得する上で必要な知識を扱っています。この科目で扱っていない内容を自主的に勉強する事によって、資格取得に役立ちます。
担当教員の実務経験	なし

情報メディア特別ゼミナールⅠ Information Media Special Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC323
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中
授業概要					
情報メディア学科の学びおよびゼミナール活動におけるさらなる学びを追求するために、ゼミナールⅠを担当する教員による個別指導です。参加する個々の学生に応じて到達目標を設定し、取り組む内容を決定します。集中講義で行います。					
授業における学修の到達目標					
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	集中講義で行います。			
	授業	集中講義で行います。			
	事後学修	集中講義で行います。			
2	事前学修	集中講義で行います。			

	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
3	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
4	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
5	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
6	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
7	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
8	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
9	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
10	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
11	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
12	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
13	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
14	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
15	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	

	事後学修	集中講義で行います。	
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。			
教科書			
参考書・Web サイト		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
単位修得が望ましい科目		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
備考		特にありません。。	
担当教員の実務経験		各ゼミで到達目標が異なります。	

情報メディア特別ゼミナールⅡ Information Media Special Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC407
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		4 年	冬期集中
授業概要					
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、情報メディア学科の学びおよびゼミナール活動におけるさらなる学びの追求を行います。集中講義で行います。					
授業における学修の到達目標					
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	集中講義で行います。			
	授業	集中講義で行います。			
	事後学修	集中講義で行います。			
2	事前学修	集中講義で行います。			

	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
3	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
4	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
5	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
6	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
7	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
8	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
9	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
10	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
11	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
12	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
13	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
14	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	
	事後学修	集中講義で行います。	
15	事前学修	集中講義で行います。	
	授業	集中講義で行います。	

	事後学修	集中講義で行います。	
成績評価の方法およびその基準			
☐ 試験： % ☐ 小テスト： % ☐ レポート： % ☐ 演習課題： % ☒ その他[各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。			
教科書			
参考書・Web サイト		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
単位修得が望ましい科目		各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		各ゼミで到達目標が異なります。	

卒業研究Ⅰ Graduate Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC402
開 講 学 科		種 別	配 当 年 次	開講時期	
情報メディア学科		必修	4 年	前期	
授業概要					
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅰでは、どのようなテーマで、卒業論文・作品の制作をするかを決定するため、基礎となる調査を行う。また、調査内容についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。					
授業における学修の到達目標					
卒業研究Ⅰでの理解を下に、研究または作成する為にすべきことを決定する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修				
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。			

		担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為に議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。

報告書：80% 口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜、指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜、指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅱ Graduate Seminar 2

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC403
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅱでは、各自またはグループで決めたテーマを研究または作成するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定を行う。また、研究資料・題材・研究手法・制作手法についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。					
授業における学修の到達目標					
卒業研究Ⅰでの理解を下に、研究または作成する為にすべきことを決定する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修				
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作			

		手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為に議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。

報告書：80% 口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜、指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜、指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅲ Graduate Seminar 3

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC405
開 講 学 科		種 別		配 当 年 次	開講時期
情報メディア学科		選択		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅲでは、各自またはグループで決めた調査・分析・制作の実施・研究の実施を主に行い、結果を報告書などにまとめる。また、報告書の内容についてディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。					
授業における学修の到達目標					
実際に研究・制作に従事し、問題点・制作上の難点を明確にし、更なる研究・制作を行う					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修				
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定の調査と報告を行う。			

		担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為に議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。

報告書：80% 口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜、指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜、指示を行う。
備考	とくになし。
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

卒業研究Ⅳ Graduate Seminar 4

担当教員	向田 茂(125 研究室), 飯嶋 美知子(333 研究室), 伊藤 正彦(325 研究室), 大島 慶太郎(320 研究室), 織田 哲(336 研究室), 柿並 義宏(313 研究室), 河原 大(322 研究室), 金 銀珠(319 研究室), 清澤 智克(116 研究室), 齋藤 健司(314 研究室), 斎藤 一(122 研究室), 坂本 牧葉(138 研究室), 佐々木 洋平(222 研究室), 笹山 智司(306 研究室), 島田 英二(137 研究室), 杉澤 愛美(133 研究室), 谷口 文威(226 研究室), 近澤 潤(330 研究室), 辻 順平(223 研究室), 新井山 亮(129 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 広奥 暢(318 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 甫喜本 司(327 研究室), 松井 伸也(224 研究室), 三浦 洋(221 研究室), 守 啓祐(225 研究室), 森川 悟(856 研究室), 安田 光孝(135 研究室), 山北 隆典(139 研究室), 湯村 翼(315 研究室), 綿谷 貴志(227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC406
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅡを担当する教員が、ゼミナールとは別の時間帯に、個人またはグループを対象にし、卒業論文・作品制作に至る指導を行う。卒業研究Ⅳでは、Ⅰ, Ⅱ, Ⅲで行ってきたことを更に深め、研究または作成を仕上げる。また、作成した卒業論文に関するディスカッションやプレゼンテーションをおこなう。					
授業における学修の到達目標					
指定された形式を守り、学術論文にふさわしい表現で卒論を書き上げる。また口頭試問では、説明でき且つ質問に的確に説明できることを目指す。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修				
	授業	受講者は、講義科目や演習科目によって獲得した知識や技術を総合し、学部における学習の発展的なまとめとして、卒業研究Ⅰで決定したテーマを実現するための研究資料・題材・研究手法・制作			

		手法の決定の調査と報告を行う。 担当教員は、担当学生またはグループと研究資料・題材・研究手法・制作手法の決定に関する議論と指導を行い、さらに報告書の作成の為に議論と指導を行う。	
	事後学修		
2	事前学修		
	授業		
	事後学修		
3	事前学修		
	授業		
	事後学修		
4	事前学修		
	授業		
	事後学修		
5	事前学修		
	授業		
	事後学修		
6	事前学修		
	授業		
	事後学修		
7	事前学修		
	授業		
	事後学修		
8	事前学修		
	授業		
	事後学修		

成績評価の方法およびその基準

成果物や発表内容、発表の準備内容を標準評価基準に換算して評価する。

報告書：80% 口頭試問：20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜、指示を行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示を行う。
単位修得が望ましい科目	適宜、指示を行う。
備考	とくにありません。
担当教員の実務経験	担当教員の研究、実務経験を活かした指導を行う。

プログラミング入門（情報メディア学科は「システム情報系科目 A <プログラミング入門>」） Systems and Informatics A

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC201
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
プログラミングとは何かを理解し、プログラムの基本処理（順次，分岐，反復）に加えて配列を学習し， これらを組み合わせてプログラムを作成できるようになることを目的とする。 使用するプログラミング言語は Java である。ただし，本科目で学習する内容は，プログラミング言語に依存しない基本事項であるので，他の言語（例えば C 言語や Python）の習得の助けにもなる。 毎回の授業では，実習に必要なとなるプログラムの書き方や構文を冒頭で説明し， 学生によるプログラミング実習に多くの時間を割り当てる。 開講前にクラス分け（より多くの内容を学ぶ上級クラスの設置）を行い， クラスごとに目標を定めてプログラミング能力の向上を目指す。 授業は， 本学が開発した e-Learning システム（POLITE）を利用して行う。					
授業における学修の到達目標					
以下を使って，プログラムが書けるようになることを目標とする。 ・ 画面に文字を表示 ・ 変数 ・ キーボードからの入力 ・ 順次処理 ・ 分岐処理 ・ 反復処理 ・ 配列					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容に関して， プログラミング実習を行う。 ・ プログラミングとは何か ・ ソースプログラム， コンパイル， 実行 ・ 画面に文字を表示する			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ， 授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0
2	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容に関して， プログラミング実習を行う。 ・ 演算結果の出力 ・ 変数 ・ 変数と初期化			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ， 授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0
3	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容に関して， プログラミング実習を行う。 ・ キーボードからの入力 ・ 演算子とオペランド ・ 文字列の読み込み			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ， 授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0

4	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して、プログラミング実習を行う。 ・ final 変数 ・ 乱数の生成 ・ ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
5	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して、プログラミング実習を行う。 ・ if-then 文 ・ 関係演算子 ・ if-then-else 文 ・ 等価演算子 ・ 入れ子となった if 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して、プログラミング実習を行う。 ・ 式と評価 ・ 式文と空文 ・ 論理積演算子と論理和演算子 ・ 条件演算子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容に関して、プログラミング実習を行う。 ・ 三値の最大値 ・ ブロック ・ 二値のソート	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
8	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
9	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ switch 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
10	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 演算子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ do 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
12	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0

	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ do 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
13	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ while 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ while 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う ・ for 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
16	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ for 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
17	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 多重ループ	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
18	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ break 文と continue 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
19	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ printf メソッド ・ ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
20	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 配列 ・ 配列の構成要素	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
21	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 配列の初期化と代入 ・ 配列による成績処理 ・ 配列の要素の最大値を求める	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0

22	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列を逆順に並べ替える	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
23	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・線形探索 ・拡張 for 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
24	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・配列のコピー、文字列の配列	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
25	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多次元配列	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
26	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・多次元配列の内部 ・凸凹な 2 次元配列の内部 ・初期化子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
27	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
28	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
29	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
30	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 50% □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

e-Learning システム（POLITE）で提示した課題を，授業中及び授業後にチェックし指導する。POLITE から提出された課題については，POLITE でフィードバックする。	
教科書	書名：新・明解 Java 入門 第2版, 著者名：柴田望洋, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	アルゴリズム基礎
備考	なし
担当教員の実務経験	【越野一博】 実務経験なし 【佐藤隆雄】 実務経験なし 【渡部重十】 実務経験なし 【柿並義宏】 通算で4年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

プログラミング基礎（情報メディア学科は「システム情報系科目B<プログラミング基礎>」） Systems and Informatics B

担当教員	柿並 義宏 (313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC209
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
「プログラミング入門」で学習した基本処理（順次、分岐、反復）と配列を用いたプログラムを確実に作成できるようにした上で、メソッドとクラスを学習し、これら全てを組み合わせるプログラミングできるようになることを目的とする。 使用するプログラミング言語は Java である。ただし、本科目で学習する前半の内容（メソッド）は、プログラミング言語に依存しない基本事項であるので、他の言語（例えば C 言語や Python）の習得の助けにもなる。また後半の内容（クラス）は、Java 等のオブジェクト指向プログラミングの根幹的な基礎技術であり、2 年生前期に開講される「Java プログラミング」への橋渡しともなる。 毎回の授業では、実習に必要なプログラムの書き方や構文を冒頭で説明し、学生によるプログラミング実習に多くの時間を割り当てる。 開講前にクラス分け（より多くの内容を学ぶ上級クラスの設置）を行い、クラスごとに目標を定めてプログラミング能力の向上を目指す。 授業は、本学が開発した e-Learning システム（POLITE）を利用して行う。					
授業における学修の到達目標					
以下を使って、プログラムが書けるようになることを目標とする。 ・「プログラミング入門」で学習した内容 ・メソッド ・クラス					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列以前）の復習			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0
2	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列以前）の復習			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0
3	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列）の復習			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0
4	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・プログラミング入門で学習した内容（配列）の復習			
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。			2.0
5	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。			2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・メソッド			

		・ return 文	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 値渡し ・ void メソッド ・ メソッドの汎用性	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 他のメソッドの呼出し ・ 有効範囲 ・ 引数を受け取らないメソッド	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
8	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
9	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 最大値を求めるメソッド ・ 線形探索	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
10	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 配列の要素の並びを反転する ・ 二つの配列の比較	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
11	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 配列を返すメソッド	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
12	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 多次元配列の受渡し	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
13	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ 多重定義	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ ここまでの復習	

	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
15	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・データの扱い ・クラス ・コンストラクタ ・メソッド	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
16	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラスの独立	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
17	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・日付クラス ・コンストラクタとメソッド ・アクセッサ ・クラス型変数の代入 ・クラス型変数の比較	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
18	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・引数としてのクラス型変数 ・クラス型インスタンスの配列 ・日付クラスの改良	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
19	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラス型のフィールド ・参照を返すメソッド ・自動車クラスの利用例 ・has-A	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
20	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラス変数（静的フィールド） ・クラス変数のアクセス ・ライブラリで提供されるクラス変数	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
21	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラスメソッド ・クラス変数とクラスメソッド ・Math クラスのクラスメソッド ・ユーティリティクラス	

	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
22	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・クラス初期化子（静的初期化子） ・インスタンス初期化子	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
23	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
24	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・ここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
25	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・テキストファイルの入出力	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
26	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・例外処理	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
27	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
28	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
29	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0
30	事前学修	POLITE に掲載した該当授業の資料を読んでおく。	2.0
	授業	以下の内容についてプログラミング実習を行う。 ・定期試験対策を兼ねたここまでの復習	
	事後学修	授業中に解けなかった実習課題を完成させ、授業中に実施した演習課題の復習をする。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 50% □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

e-Learning システム（POLITE）で提示した課題を，授業中及び授業後にチェックし指導する。POLITE から提出された課題については，POLITE でフィードバックする。	
教科書	書名：新・明解 Java 入門 第 2 版, 著者名：柴田望洋, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	プログラミング入門，アルゴリズム基礎
備考	なし
担当教員の実務経験	【越野一博】 実務経験なし 【佐藤隆雄】 実務経験なし 【渡部重十】 実務経験なし 【柿並義宏】 通算で 4 年間システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

コンピュータゲーム開発論 Computer Game Development

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IMT201	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
ゲーム開発に必要な役割と具体的な開発手法について学習します						
授業は「学習者適応 e-Learning システム（POLITE）を利用します						
授業における学修の到達目標						
1.ゲーム開発の制作過程を学ぶ						
2.プロジェクトを導く為の手法と心構えを学ぶ						
3.市場ニーズを捉え,成果に結びつく発想力を学ぶ						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゲーム開発の職種とその役割について調べてください				2.0
	授業	ガイダンス,ゲームのお仕事（クリエイター）				
	事後学修	ゲームクリエイターになるとしたら,どの職種に就くかを考え,詳しく調べてください				2.0
2	事前学修	どんなゲーム会社があるのかを調べてください				2.0
	授業	ゲームのお仕事（会社）				
	事後学修	ゲームクリエイターになったとして,自分がどんな会社に入社したいのかを考え,その会社を調べてください				2.0
3	事前学修	インディゲームとは何かを調べてください				2.0
	授業	インディゲームとは				
	事後学修	講義中で制作したインディゲームについて紹介するスライドに過不足がないか見直し,良いものになるように作りこんでください				2.0
4	事前学修	ゲームエンジンとは何かを調べてください				2.0
	授業	ゲームエンジンとは				
	事後学修	自分が好きなゲームは何のゲームエンジンで作られているのかを調べてください				2.0
5	事前学修	一番好きなゲームについて詳しく答えられるように準備してください				2.0
	授業	ゲームの役割について				
	事後学修	ゲームが人々の日常にどのような役割を果たせるのかを考えてください				2.0
6	事前学修	エンターテインメントとは何かを調べてください				2.0
	授業	アイデアの出し方				
	事後学修	お題を元にアイデアを出す訓練をしてください				2.0
7	事前学修	基本プレイ無料のゲームをプレイしてみてください				2.0
	授業	マネタイズとは				
	事後学修	ゲームを開発するために必要な費用について考察してください				2.0
8	事前学修	要件定義について調べてください カレーライスを作ってほしいと言われたらどうしたら良いかを考えてみてください				2.0
	授業	要件定義とは				
	事後学修	要件定義について振り返り,誰かに何かをお願いするときに,正確に伝えられるように訓練してくだ				2.0

		さい	
9	事前学修	ゲーム開発におけるプロジェクトとは何かを調べてください	2.0
	授業	提案書・企画書の作成	
	事後学修	提案書・企画書を書けるように訓練してください	2.0
10	事前学修	好きなゲームにどんな画面があるのかを調べてください	2.0
	授業	画面遷移図の作成	
	事後学修	ゲーム内の画面遷移を設計できるように訓練してください	2.0
11	事前学修	UI は何かを調べてください	2.0
	授業	UI と UX	
	事後学修	ゲーム内に必要な情報を適切に配置できるように訓練してください	2.0
12	事前学修	マイルストーンとは何かを調べてください	2.0
	授業	マイルストーンとガントチャート	
	事後学修	プロジェクトを成功に導く為のスケジュール管理について考察してください	2.0
13	事前学修	wiki について調べてください	2.0
	授業	資料に残す (wiki)	
	事後学修	会議などで決まったことを,もれなく資料にまとめられるように訓練してください	2.0
14	事前学修	git, github について調べてください	2.0
	授業	バージョン管理 (git)	
	事後学修	自宅などの PC で git, github が使えるように環境を整えてください	2.0
15	事前学修	KPT について知っておいてください	2.0
	授業	チーム制作で必要なこと	
	事後学修	今後のプロジェクトに向けて,次にすべき行動を明確にできるように考察してください	2.0

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	斉藤 ゲーム業界歴 30 年間のゲームタイトルの開発経験を活かし、プロジェクトに必要とされる人材を育成していく。 森川 ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフト,ゲーム開発用ライブラリィ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

参考書・Web サイト	なし

単位修得が望ましい科目 なし

備考	なし

担当教員の実務経験

齊藤
ゲーム業界歴 30 年間で、ゲームタイトルの開発経験を活かし、プロジェクトに必要とされる人材を育成していく。

森川
ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフト、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

SQL入門 Introduction to SQL

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習		IMT204	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
SQL は、リレーショナルデータベース（Relational Database）を利用するための言語です。本講では SQL を利用してリレーショナルデータベースを利用できるようになることを目標にしています。						
はじめにリレーショナルデータベースの基礎的な知識を学習したうえで、ノート PC 等を利用して基本的な SQL を扱った演習に取り組みながら、リレーショナルデータベースの利用方法を身に付けていきます。具体的には、データモデルとデータベース管理システム、データ操作、データ定義、データ制御について扱います。また、データベース設計（正規化）についても扱う予定です。						
なお、本講の内容は、「IT パスポート試験」「基本情報技術者試験」の学習につながります。						
授業における学修の到達目標						
ノート PC 等を利用して、コマンドラインツールから実際に SQL 文を実行することで、以下の操作を修得することが目標です。						
(1) リレーショナルデータベースから目的のデータを取得する。						
(2) リレーショナルデータベースにデータを挿入したり、データの更新、削除をする。						
(3) リレーショナルデータベースにデータ管理のための構造や制約を定義する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握して下さい。				1
	授業	データベースシステム				
	事後学修	配布資料の第 1 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
2	事前学修	配布資料の第 2 章をよく読んでみましょう。				2
	授業	リレーショナルデータベース				
	事後学修	LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
3	事前学修	配布資料の第 3 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	SQL の概要と問合せの基本				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
4	事前学修	配布資料の第 4 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	問合せ結果の加工				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
5	事前学修	配布資料の第 5 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。				2
	授業	複雑な条件による問合せ				
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。				2
6	事前学修	配布資料のこれまでの確認問題を見直しておきましょう。				2
	授業	これまでのまとめと確認				
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。				2

7	事前学修	配布資料の第 7 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	3
	授業	SQL による集計処理	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
8	事前学修	配布資料の第 8 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	集合演算と表の結合	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
9	事前学修	配布資料の第 9 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	副問合せ	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
10	事前学修	配布資料の第 7 章から第 9 章までの確認問題を見直しておきましょう。	2
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2
11	事前学修	配布資料の第 11 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	データの変更とトランザクション処理	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
12	事前学修	配布資料の第 12 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	正規化理論による表の設計	
	事後学修	授業中に取り組んだ課題を確認し、LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
13	事前学修	配布資料の第 13 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	表の作成と削除	
	事後学修	授業中に実行できなかったオンライン課題に取り組みましょう。 LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
14	事前学修	配布資料の第 14 章をよく読んで、資料にゴシックで示された用語を整理しておきましょう。	2
	授業	インデックスと機密保護機能	
	事後学修	LMS に用意された復習クイズに取り組みましょう。	2
15	事前学修	配布資料の全範囲にわたって、確認問題を見直しておきましょう。	3
	授業	これまでのまとめと確認	
	事後学修	授業中に正解できなかった問題について、LMS の正解例を確認しておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：20% □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[授業内テスト]：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各演習、授業内テストについて、終了後の授業内で解答・解説を行うとともに、LMS 上でも解答・解説を行います。

教科書

参考書・Web サイト

朝井淳；データベースの気持ちがわかる SQL はじめの一步、技術評論社 (2015)
 北川博之；データベースシステム、オーム社 (2014)
 手塚忠則；やさしい SQL 入門 演習問題で学ぶデータベース操作法、カットシステム (2015)
 増永良文；データベース入門 [第 2 版]、サイエンス社(2021)

	三村かよこ；ゼロからわかる SQL 超入門，技術評論社（2017）
単位修得が望ましい科目	ICT 入門，コンピュータ
備考	多くの時間でノート PC 等を利用し，学内に用意したオリジナル実習環境を利用した SQL 実習を行います。また，LMS のフィードバック機能等を活用し，理解度を確認しながら授業を進めていく予定です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。データ分析の手法，データベースの仕組みが機能・性能に及ぼす影響など，実際にデータベースシステムを開発・運用する際に求められる基本的な知見を学生に還元できるよう授業を組み立てています。

インターネットの仕組み Internet Technologies

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT207
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
インターネットは、現在の情報化社会を支える基盤として不可欠な存在になっている。通信ネットワークとしてのインターネットの仕組みと動作原理を学ぶことは、現在の情報通信ネットワークを理解する上で根幹となっている。この科目では、ローカルエリアネットワーク（LAN）を基礎として、インターネットの仕組みと動作原理を学び、インターネットを紹介した1対1あるいは1対多のコミュニケーションの方法を学習する。					
授業における学修の到達目標					
OSI 参照モデル、インターネットの世界標準である TCP/IP プロトコルの仕組みと動作を理解し、通信ネットワークに関する全般的な知識、技術の修得を目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	「コンピュータ」の講義を復習する。			2
	授業	ガイダンス、インターネットの仕組み入門			
	事後学修	課題プリントを解く。			2
2	事前学修	教科書の1章、2章と「コンピュータネットワーク・階層構造」の講義スライドを整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、コンピュータネットワークにおける階層構造を整理する。			2
	授業	コンピュータネットワーク・階層構造			
	事後学修	コンピュータネットワークに関する用語をまとめ、階層構造の意義についてまとめる。			2
3	事前学修	教科書の3章、4章と「Webの仕組み・HTTP」の講義スライドを整理する。また、Web ブラウザから HTML ファイルを表示する方法と、Javascript 付きの HTML を作成した際や、php によるプログラムを作成した際において、それらを実行するまでの流れをまとめる。			2
	授業	Web の仕組みの概要と HTTP			
	事後学修	Web ブラウザで URL を指定し、その Web ページが表示されるまでの仕組みをまとめる。			2
4	事前学修	教科書5章と「物理層」の講義スライドを整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、物理層の役割を整理する。			2
	授業	物理層			
	事後学修	物理層における役割をまとめる。特に、RS-232C を例にした bit の表現方法や、誤り検知についてもまとめること。			2
5	事前学修	教科書6章と「データリンク層（フレーム）」の講義スライドを整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、データリンク層の役割を理解する。			2
	授業	データリンク層（フレーム）			
	事後学修	フレームとは何か、これによりできることは何かをまとめる。また、ネットワーク接続のための機器について、それらの違いについてもまとめること。			2
6	事前学修	教科書の7章と「データリンク層（メディアアクセス制御）」の講義スライドを整理する。特に、教科書で示されている郵便配達の例から、メディアアクセス制御とは何かについて理解する。			2
	授業	データリンク層（メディアアクセス制御）			
	事後学修	メディアアクセス制御の定義や種類についてまとめる。			2
7	事前学修	これまでの講義内容や、小テストで分からなかった箇所を調査する。			1

教科書	書名：コンピュータネットワーク (情報工学テキストシリーズ 4), 著者名：三木 光範 (編), 佐藤 健哉・昔農 凜太郎 (著), 出版社：共立出版, 備考：
参考書・Web サイト	LMS(POLITE)上に掲載
単位修得が望ましい科目	情報メディアの数学 I, コンピュータ, メディア技術演習, IoT 時代のセキュリティ, Web プログラミング演習
備考	詳細については初回の講義で説明します。
担当教員の実務経験	実務経験なし

Web フロントエンド演習-2025 年度開講- Web Front-end Practical

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		IST205
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
Web アプリケーションにおいて、ブラウザに表示され、ユーザが操作する部分を Web フロントエンドと呼びます。近年では Web フロントエンドにおいて、ブラウザの中で動作する JavaScript というプログラミング言語の役割が重要になってきています。演習課題では動的に変化する Web ページを作る方法、簡単なアニメーション、入力フォームなどのコントロール、プログラムで図を書く方法、サーバと通信する方法などを学びます。本実習科目では、HTML、CSS の仕組みと JavaScript の機能を組合せて様々な機能を持つ Web フロントエンドを作るための基礎を学びます。					

フィジカルコンピューティング演習-2025 年度開講- Physical Computing Practical

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		IST206
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	2 年	後期	
授業概要					
フィジカルコンピューティングで使用するマイクロコンピュータおよびマイクロコンピュータ経由で接続したセンサやアクチュエーター等の外部機器をコンピュータで利用する方法を電子回路の基礎から習得する。					

モバイルアプリ演習 Mobile Application Practical

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室), 湯村 翼 (315 研究室)		単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
			4 単位	演習	○	IMC212
開 講 学 科			種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科			選択		2 年	後期
授業概要						
モバイルアプリケーションとは、スマートフォンやタブレット端末向けに開発されたアプリケーションソフトウェアの総称です。モバイルアプリケーションは、iOS や Android 等の幾つかのプラットフォームがあり、その開発方法も様々です。本実習科目では、複数のモバイルプラットフォームで利用できる HTML, CSS, JavaScript を使った Web ブラウザで動作するモバイルアプリケーションの開発を行います。実習で使用する技術要素の機能を理解しながら課題に取り組み、Web アプリケーションのフロントエンドを開発できるようになることを目標にします。						
授業における学修の到達目標						
演習課題に取り組みながらモバイル Web アプリケーションのフロントエンド開発に必要な技術を習得することを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	HTML,CSS についての知識を思い出し、基本的な Web ページを作成するための方法を確認しておく。				4.0
	授業	ガイダンス：HTML5 を用いたモバイルアプリとは何かを説明し、この授業で学習する項目を確認する。				
	事後学修	なし				0.0
2	事前学修	なし				0.0
	授業	開発環境の整備：これから演習でモバイルアプリを作成するために必要となる環境の整備をする。				
	事後学修	自宅でも演習を行うための環境を構築してみる。				4.0
3	事前学修	JavaScript という言語について、どのような言語なのかを調べておく。				4.0
	授業	コーディングと実行テストの方法の説明と確認：HTML, CSS, JavaScript の基本を確認してアプリの概要を学ぶ。				
	事後学修	なし				0.0
4	事前学修	なし				0.0
	授業	コーディングと実行テストの実践：簡単なアプリを作成して動作確認を行う。				
	事後学修	HTML5 のモバイルアプリの最小構成要素を確認して、今後の課題のテンプレートを作ってみる。				4.0
5	事前学修	Web ページを記述する HTML は、タグというものを使用して階層的なデータ構造を表現していることを復習しておく。				4.0
	授業	DOM(Document Object Model)の概念の理解と確認：Web ページの中を JavaScript で操作することの意味を理解する。				
	事後学修	なし				0.0
6	事前学修	なし				0.0
	授業	DOM(Document Object Model)の操作の応用：DOM の技術を利用して、動的な Web ページを作成する。				
	事後学修	要素(Element)を JavaScript で生成する方法、特定の要素を選択する方法、要素を変更、削除する方法を復習する。				4.0
7	事前学修	プログラムの同期、非同期について調べ、非同期のプログラミングがどんな場面が必要であるかを把握する。				4.0

	授業	JavaScript の非同期処理の理解と確認：JavaScript における、非同期なプログラミングの方法について説明する。	
	事後学修	なし	0.0
8	事前学修	なし	0.0
	授業	JavaScript の非同期処理の応用：JavaScript の非同期なプログラムを作成し、その仕組みを体得する。	
	事後学修	非同期呼び出しを用いて繰り返し実行されるプログラムを施策してみる。	4.0
9	事前学修	Web ページの中に入力欄やボタンやチェックボックスを作る方法を調べておく。	4.0
	授業	HTML による UI の仕組みの理解と確認：Web ページ中の UI と JavaScript のプログラムを連動させる方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
10	事前学修	なし	0.0
	授業	HTML による UI の作成：ボタンを押すとプログラムが実行され、様々な動作をする仕組みを作り上げてみる。	
	事後学修	入力欄やボタンのあるページを選びそのソースファイルを見て、UI の仕組みを読み解いてみる。	4.0
11	事前学修	マウスで絵が描けるような Web ページを探し出して、そのページのソースを見て canvas という要素が無い確認する。	4.0
	授業	Canvas を用いた描画の仕組みの理解と確認：Web ページ内の canvas 要素に線を引いたり色を塗る方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
12	事前学修	なし	0.0
	授業	Canvas を用いた描画：canvas に図形を描くプログラムを作成し、マウスで線を引くなどの応用を試す。	
	事後学修	プログラムで自分の好きな図形を Web ページ中の canvas 要素に描くプログラムを作成してみる。	4.0
13	事前学修	ブラウザで実行される JavaScript のプログラムでページを閉じて消えないようなデータを保存する技術を調べてみる。	4.0
	授業	ローカルストレージの理解と確認：キーとバリューで値を保存する仕組みと利用の方法を学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
14	事前学修	なし	0.0
	授業	ローカルストレージの利用：ローカルストレージを利用して Web ページのデザインや、オブジェクトを保存してみる。	
	事後学修	大学の実習室で保存したデータが自宅の PC には保存されていないことをプログラムで確認してみる。	4.0
15	事前学修	ブラウザ内で実行される JavaScript プログラムにはデータの通信に制限があるが、その理由を調べてみる。	4.0
	授業	HTTP 通信技術の理解と確認：HTTP 通信 API を使った通信を行うプログラムの構成を確認し理解する。	
	事後学修	なし	0.0
16	事前学修	なし	0.0
	授業	HTTP 通信技術の利用：HTTP 通信 API を用いて基本的なデータの送受信やファイルアップロードのプログラムを作成する。	
	事後学修	通信を行うための手順と、プログラムの構成を確認する。他のドメインとの通信がブロックされる	4.0

		ことを試してみる。	
17	事前学修	WebAPI や各種 Web 上のサービスについて調べ、どのようなサービスが利用できるか調査してみる。	4.0
	授業	WebAPI, サービスの理解と確認: 外部の WebAPI のサービスについて学ぶ。	
	事後学修	なし	0.0
18	事前学修	なし	0.0
	授業	WebAPI, サービスの利用: 外部の WebAPI のサービスを利用したプログラムを作成する。	
	事後学修	授業で紹介したサービス以外のサービスを利用するプログラムを作成してみる。	4.0
19	事前学修	位置情報を利用したアプリケーションにはどのような物があるかを調べてみる。	4.0
	授業	位置情報の利用方法の理解と確認: Geolocation API と Google マップを利用する方法について学習する。	
	事後学修	なし	0.0
20	事前学修	なし	0.0
	授業	位置情報の利用: デバイスの現在の位置情報を取得し、地図に表示するアプリなどを作成する。	
	事後学修	大学以外の場所からモバイル端末と PC で実行確認をして、その結果を確認する。	4.0
21	事前学修	タッチイベントとマウスのイベントとの違いについて調べてみる。	4.0
	授業	タッチイベントの理解と確認: タッチイベントに含まれる情報と処理の方法について学習する。	
	事後学修	なし	0.0
22	事前学修	なし	0.0
	授業	タッチイベントの利用: タッチイベントの情報を表示するプログラムや画像を操作するプログラムを作成する。	
	事後学修	タッチイベントで絵を書くプログラムを改良して機能を追加してみる。	4.0
23	事前学修	X,Y,Z の 3 つの直行する軸が作る座標系によって、色々な 3 次元の情報が表せることを確認しておく。	4.0
	授業	加速度センサーの理解と確認: モバイルデバイスも向きや動きに関するイベントについて学習する。	
	事後学修	なし	0.0
24	事前学修	なし	0.0
	授業	加速度センサーの利用: モバイルデバイスの向きや動きを捉えて情報を表示したり図示するプログラムを作る。	
	事後学修	角度と回転速度(角速度)の違いや、速度と加速度の違いについて整理しておく。	4.0
25	事前学修	これまで勉強してきたことで、何が可能になったのかを整理しておく。	4.0
	授業	総合課題の演習(計画): 4 つの総合課題について説明し、これらの課題への取り組みについて計画をたてる。	
	事後学修	なし	0.0
26	事前学修	なし	0.0
	授業	総合課題の演習(調査): 総合課題を完成させるために必要となる技術を精査し、不明な部分を調査する。	
	事後学修	授業時間で調べきれなかったことを調べ、プログラムを作成するために足りないことが無いか確認する。	4.0
27	事前学修	総合課題を作成するのに必要となる技術についての解説を、授業の資料や Web で探しておく。	4.0
	授業	総合課題の演習(実装): これまで調べた技術を用いて、総合課題の作品を実装する。	

	事後学修	なし	0.0
28	事前学修	なし	0.0
	授業	総合課題の演習(動作確認)：総合課題のプログラムの動作確認をし、バグを修正する。	
	事後学修	総合課題の完成度をあげるために、自分のアプリの良くない点をリストアップして改良する。	4.0
29	事前学修	総合課題を進め、現時点で問題点となっていることが無いか確認し、自分で解決できない時は授業で質問する準備をする。	4.0
	授業	ふりかえり(学習内容確認)：この授業で学習してきたことをふりかえって確認を行う。	
	事後学修	なし	0.0
30	事前学修	なし	0.0
	授業	ふりかえり(疑問点の質問)：総合課題を締め切りまでに完成させるために最後の確認を行う。	
	事後学修	総合課題を作り込んで完成させ、提出する。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： ■演習課題：100%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の評価結果は随時 Web 上で公開し、再提出が必要な提出課題に対してはコメントやヒントをつける。

教科書	
参考書・Web サイト	MDN Web Docs https://developer.mozilla.org/ja/
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習、メディア技術演習、プログラミング演習Ⅰ
備考	教材用ホームページ https://s314.do-johodai.ac.jp/map/
担当教員の実務経験	齋藤健司：実務経験なし 湯村翼：電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゲームプログラミング・演習 Computer Game Programming Practical

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		IMT206
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり、複雑なアルゴリズムを要するものまで、ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。 本演習においてはゲームエンジンをベースとし、ゲームをエンジンを制御するためのプログラミングを学びます。また、ゲームで使う画像などの素材作りも行います。					
授業における学修の到達目標					
ゲームならではのプログラムスタイルに慣れ、理解しすること。また、小規模なゲームを自分の力で書くことができるようになることを目標とします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	講義概要を読む			4
	授業	ガイダンス、ゲーム業界の傾向			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
2	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	ツールの使い方(グラフィック)			
	事後学修	ツールを反復して使用する			4
3	事前学修	ゲームをプレイして、画像や音がどのように使われているかを観察する			4
	授業	ツールの使い方(グラフィックアニメーション)			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
4	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	ゲームエンジンの操作方法			
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する			4
5	事前学修	変数・関数について調べる			4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(変数)			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
6	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(関数)			
	事後学修	変数・関数を反復して利用する			4
7	事前学修	名前空間・クラスについて調べる			4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(名前空間)			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
8	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(クラス)			
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する			4
9	事前学修	継承について調べる			4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(継承)			

	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(イベント)	
	事後学修	継承・イベント処理を反復して使用する	4
11	事前学修	衝突判定について調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(複雑な衝突判定)	
	事後学修	どんな図形でも衝突判定がとれるように反復して使用する	4
13	事前学修	シーンについて調べる	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(シーン)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	オリジナル要素の作業量を検討する	4
15	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素を追加する)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(オリジナル要素で面白くなったか検討する)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果、ゲームが面白くなったかを再度検討する	4
17	事前学修	制作したゲームをプレイしてみる。	4
	授業	簡単な 2D ゲームの制作(テストプレイ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンの高度な操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	4
19	事前学修	変数について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して使用する	4
21	事前学修	名前空間について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(クラス)	
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	4

23	事前学修	タイルマップの仕組みを調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(タイルマップ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
24	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	タイルマップ・衝突判定を反復して使用する	4
25	事前学修	課題の工夫点を考える。いろいろなゲームをプレイし調査する	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
26	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の画像素材を作る)	
	事後学修	画像を良く見て、荒がないか確かめる	4
27	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の音素材を作る)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
28	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を組み込む)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果としてバグが出ないかを調べる	4
29	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の動作確認)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
30	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	
	事後学修	オリジナル要素を追加したゲームのテストプレイをおこなった感想をまとめる	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100 % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業の中で講評を行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている。パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゲームプログラミング演習-2025 年度開講- Computer Game Programming Practical

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング		ナンバリング
		4 単位	演習			IST207
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
授業概要						
ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり、複雑なアルゴリズムを要するものまで、ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。 本演習においてはゲームエンジンをベースとし、ゲームをエンジンを制御するためのプログラミングを学びます。また、ゲームで使う画像などの素材作りも行います。						

ゲーム制作演習 Game Programming Practical

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IMT301
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
ゲーム制作を通してゲームプログラムのノウハウを学びます。簡単な処理を組み合わせたものから始まり，複雑なアルゴリズムを要するものまで，ゲームならではの独特なプログラムスタイルに慣れてもらうのが目的となります。 本演習においてはゲームプログラミング・演習よりも高度なゲームを作ります。					
授業における学修の到達目標					
ゲームならではのプログラムスタイルに慣れ，理解すること。また，小規模なゲームを自分の力で書くことができるようになることを目標とします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	講義概要を読む			4
	授業	ガイダンス，ゲーム業界の傾向			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
2	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	ツールの使い方			
	事後学修	ツールを反復して使用する			4
3	事前学修	ゲームをプレイして，アニメーションがどのように使われているかを観察する			4
	授業	高度なツールの使い方			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
4	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	ゲームエンジンの操作方法 画像,文字,UI について			
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する			4
5	事前学修	ゲームエンジンの操作方法 3D,ライト,カメラについて			4
	授業	ゲームエンジンで 3D,ライト,カメラを配置してみる			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
6	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	簡単なゲームの制作(関数)			
	事後学修	変数・関数を反復して利用する			4
7	事前学修	名前空間について調べる			4
	授業	簡単なゲームの制作(名前空間)			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
8	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	簡単なゲームの制作(クラス)			
	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する			4
9	事前学修	継承について調べる			4

	授業	簡単なゲームの制作(継承)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(イベント)	
	事後学修	継承・イベント処理を反復して使用する	4
11	事前学修	衝突判定について調べる	4
	授業	簡単なゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(複雑な衝突判定)	
	事後学修	どんな図形でも衝突判定がとれるように反復して使用する	4
13	事前学修	シーンについて調べる	4
	授業	簡単なゲームの制作(シーン)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	オリジナル要素の作業量を検討する	4
15	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素を追加する)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	簡単なゲームの制作(オリジナル要素で面白くなったか検討する)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果、ゲームが面白くなったかを再度検討する	4
17	事前学修	制作したゲームをプレイしてみる。	4
	授業	簡単なゲームの制作(テストプレイ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	ゲームエンジンのもっと高度な操作方法	
	事後学修	ゲームエンジンの操作を反復して使用する	4
19	事前学修	変数について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(変数)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(関数)	
	事後学修	変数・関数を反復して使用する	4
21	事前学修	名前空間について深く調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(名前空間)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(クラス)	

	事後学修	名前空間・クラスを反復して使用する	4
23	事前学修	マップの仕組みを調べる	4
	授業	アクションゲームの制作(マップ)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
24	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(衝突判定)	
	事後学修	マップ・衝突判定を反復して使用する	4
25	事前学修	課題の工夫点を考える。いろいろなゲームをプレイし調査する	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を考える)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
26	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の画像素材を作る)	
	事後学修	画像を良く見て、荒がないか確かめる	4
27	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の音素材を作る)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
28	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素を組み込む)	
	事後学修	オリジナル要素を追加した結果としてバグが出ないかを調べる	4
29	事前学修	オリジナル要素を追加するにあたり、準備を行う	4
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素の動作確認)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
30	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	
	事後学修	アクションゲームの制作(オリジナル要素のテストプレイ)	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業の中で講評を行う

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 ゲームプログラミング・演習
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える.

ゲーム開発の最新動向 Current Topics in Computer Game Development

担当教員	小林 貴樹(客員准教授)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMT302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	夏期集中	
授業概要						
国内ゲーム開発会社の最前線の情報が集まる業界イベント CEDEC からの最新情報や、ゲーム開発会社での各職種ごとの仕事について情報を得る。ゲーム開発に必要なプログラム言語と表現力に関する基礎知識を学習する。共通テーマに対して独自アイデアを検討しコーディングしたものをプレゼンテーションすることで問題点を把握し改善する。						
授業における学修の到達目標						
ゲーム開発のノウハウと最新のゲーム業界の技術動向を理解する。プログラム言語に関する基礎知識とゲームアプリケーションの開発ノウハウを学ぶ。実際にコーディングしたものを評価しあうことでより良いアプリケーションを開発する知識を身に着ける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	最新のゲーム業界の動向についての資料および WEB ページ等を確認				2
	授業	ゲーム開発の基礎				
	事後学修	業界状況を把握				2
2	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	デザイナーの仕事				
	事後学修	デザインに関する課題				2
3	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	ゲームデザイナーの仕事				
	事後学修	ゲームの企画に関する課題				2
4	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	コンポーザーの仕事				
	事後学修	簡単な効果音作成の課題				2
5	事前学修	独自資料を確認				2
	授業	プログラマの仕事（品質管理と自動化）				
	事後学修	プログラマの仕事についての理解				2
6	事前学修	独自開発ツールの導入準備				2
	授業	ゲーム開発ツールの導入				
	事後学修	ゲーム開発環境の理解と簡単なデモ				2
7	事前学修	ツールによる簡単なサンプルづくり				2
	授業	ゲーム開発ツールの導入と試験				
	事後学修	ゲーム開発環境の理解とデモ作成				2
8	事前学修	ツールの理解				2
	授業	ツールによるゲーム開発				
	事後学修	ツールを使った簡単なデモづくり				2
9	事前学修	ツールの理解				2
	授業	表現力の向上手法				

	発生する問題点やアイデアを具現化する際の実体験からのアドバイスからノウハウを得ることが可能。

音声情報処理 Speech Processing

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMT303
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	3 年	後期	
授業概要					
今日、音声を含む音の情報は、計算機によって扱うことが一般的になりました。将来的には、機械一人間インターフェースにおいて、マルチメディア・マルチモーダルコミュニケーションが期待されています。また、通信による人間一人間のコミュニケーションにおいても、マルチメディアによる表現が大きな役割を果たしています。 この講義では、マルチメディアを支える柱の一つである音声について、特に音声情報を計算機によって処理することについて学びます。音声生成の仕組みと音声の特徴について学び、さらに、音声分析、音声符号化、音声合成、音声認識、音声理解などの技術について広く学習し、マルチメディア技術の基礎となる知識習得を目指します。					
授業における学修の到達目標					
・音の基本的な性質を理解します。 ・コンピュータによる音声情報処理技術について理解します。 ・音声情報処理技術がどのように応用されるかについて考察します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	コンピュータのしくみに関わる講義の内容を復習しておく。 物理学を学んだ事のある人は、その内容（とりわけ音、波動、電気について）復習しておく。			2
	授業	講義のガイダンス 講義の目標と講義の進め方を理解します。音声研究の歴史, 関連学問分野について学びます。			
	事後学修	自分の所有しているコンピュータ（タブレットやスマートフォンを含む）の音声インタフェースについてできるだけ詳しく（接続方法、処理用 I C の種類、アナログとデジタルの境界が何処にあるか等）調べる。 講義中に提示する Learning Management System（以下 LMS と略す）に登録し、LMS に提示されている資料「学習の進め方」、「この講義に対する考え方」を読む。			2
2	事前学修	LMS 第 2 回に提示される「学習の範囲」、「学習のポイント」を読み、「学習の範囲」に示す教科書の範囲（予定している教科書の第 2 章）を読んでおく。「前提条件」に示す条件に合致していない場合は、その不足を補うように振動現象について学習しておく。			2
	授業	音波の性質、音に関する物理量、感覚量について学びます			
	事後学修	LMS 第 2 回に示す「宿題」の項に従って、音波に関する項目について復習する。 LMS 第 2 回「説明資料」（PDF）には 1 回先の講義内容を含んでいるので、復習だけでなく予習にも使用する。今後は提示する「説明資料」がその回から 1～2 回後の内容を含んでいるので、予習に役立てる。			2
3	事前学修	LMS 第 3 回「事前の知識確認」の問題を解いて、既に知っている知識について確認しておく。不足の場合は、それを補う学習をする。「学習の範囲と学習の進め方」、「学習のポイント」を読んで、教科書第 3 章を読む。			2
	授業	聴覚について学ぶ。人間の聴覚器官の構造について学び、 マスキング、両耳効果などの聴覚の特性について学ぶ。			
	事後学修	LMS 第 3 回「知識獲得の確認」の問題を解いて、今回獲得した知識について確認する。充分獲得できていない部分については復習する。LMS 第 3 回「宿題」に従って、「目」の構造について調べ「耳」と比較する。中間テスト 1 に備えて「中間テスト 1 対策問題」の問題を解く。			2
4	事前学修	第 4 回の内容は LMS の第 3 回「講義資料」に記載しているので事前に確認しておく。LMS 第 4 回の「学習の範囲」を読んで、教科書第 5 章を読む			2

	授業	振動現象について学びます。 教科書 3 章までの内容について中間テスト（中間テスト 1）を実施します。	
	事後学修	事前に獲得している物理学の知識によって復習内容はわかる。機械振動は、様々な楽器の音源と関わりがあるので、楽器と音源について調べる。 中間テスト 1 で、解答できなかった問題がある場合には、その項目について復習する。	2
5	事前学修	LMS 第 5 回の「学習の範囲」を読んで、教科書第 6,7 章を読む。LMS 第 4 回の「講義資料」の内容を確認（復習）する。	2
	授業	電気音響変換、マイク、スピーカの構造と原理について学ぶ。	
	事後学修	身近にあるマイク、スピーカの構造についていずれに該当するかを調べる。	2
6	事前学修	LMS 第 6 回の「学習の範囲」を読んで、教科書第 8, 9 章を読む。LMS 第 5 回の「講義資料」の内容を確認する。LMS 第 6 回「事前テスト」を解く。	2
	授業	デジタル録音技術、音響信号処理技術について学ぶ。	
	事後学修	LMS 第 6 回の「宿題 オーディオフォーマット」を読んで、調べた結果を記載する。	2
7	事前学修	LMS 第 7 回「学習の範囲」を参考に教科書第 10 章 1, 2 節を読む。「事前テスト」に解答する。LMS 第 3 回の「中間テスト 1 対策問題」をもう一度学習しておく。	2
	授業	音声の基本的性質、音声と言語の関係について学ぶ。人間の発声器官の構造について学ぶ。	
	事後学修	LMS 第 7 回「確認テスト」に解答し、今回獲得した知識について確認する。	2
8	事前学修	LMS 第 8 回「学習の範囲」を参考に教科書第 10 章 3 節を読む。三角関数の性質について調べる（sin だけでも良い）。 インターネットなどを使って「周波数」と「スペクトル」について調べておく。	2
	授業	発声器官の機能、音声の物理的性質について学ぶ。	
	事後学修	「オクターブ」とはなにか、（人に説明できる程度に）調べる。	2
9	事前学修	LMS 第 9 回「学習の範囲」に従って教科書 10.4 節、および、11. 1 節を読む。	2
	授業	中間テスト 2 受験上の注意が提示される。 音声の生成モデル、AD 変換について学ぶ。	
	事後学修	LMS 上で指示される期限までに中間テスト 2 を受験する。（最優先） AD 変換について LMS 上の補足資料、参考図書を手がかりに理解を深める。	2
10	事前学修	LMS 第 10 回「学習の範囲」に従って教科書 11.2 節を読む。該当部分の講義資料を読んでおく。 数式も多いので、時間をかけて丁寧に読む。	2
	授業	今回から次回にかけて音声スペクトルの分析法について学ぶ。今回はノンパラメトリック分析について学ぶ。	
	事後学修	スペクトル包絡とスペクトル微細構造、フーリエ変換について復習する。教科書の記述を読むだけでは難しいと思われるので、インターネットなどを使ってこれらについて調べる。	2
11	事前学修	LMS 第 11 回「学習のポイント」に従って教科書 11.3～11.4 節および 12.1 節を読む。該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	線形予測分析法を中心にノンパラメトリック分析法について学ぶ。前回とあわせてスペクトル分析についてまとめる。 音声符号化の原理について学ぶ。	
	事後学修	第 9 回の AD 変換について復習しておく。ベクトル量について調べる。	2
12	事前学修	LMS 第 12 回「学習のポイント」に従って教科書 12.2～12.6 節を読む。ただし、12.4.3、12.5 は省略する。該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	時間領域での符号化、周波数領域での符号化について学び、両者のハイブリッド型の符号化方についても学ぶ。また、音声品質の評価方法についても学ぶ。	

	事後学修	オピニオン法，対比較法の他の分野での使用例を調べる。	2
13	事前学修	LMS 第 13 回「学習のポイント」に従って教科書 13 章を読む。該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	音声合成の原理，音声合成方式の分類について学ぶ。音声合成時の問題点を理解する。	
	事後学修	自分の身の回りの音声を発する機械について，いずれの音声合成方式を利用しているか推測しまとめる。音声合成の単位について整理しておく。	2
14	事前学修	LMS 第 14 回「学習のポイント」に従って教科書 14 章 14.1～4 節を読む。（14.5，6 節は省略）該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	音声認識の原理，音声認識方法の変化，ニューラルネットワークによる音声認識について学ぶ。	
	事後学修	自分の身の回りで音声認識する機械を見つける。（少なくともスマートフォンは含む）実際に音声認識を試し，その認識精度について調べる。それらの機械が音声認識をするために必要としているもの（条件）が何かをまとめる。	2
15	事前学修	LMS 第 15 回「学習のポイント」に従って教科書 14.7 節および第 15 章を読む。（第 16 章は扱わない）該当部分の講義資料を読んでおく。	2
	授業	音声認識のロバスト性の必要性とそのための方法を学ぶ。話者認識技術についてまなぶ。最後に，身近な音声情報処理技術の応用について考える。 最終テストを受験する。	
	事後学修	最後に提示される身近な音声情報処理技術の応用から，今後の社会で高度な音声情報処理技術が実用化されて行く場合の問題点はどのようなものか考察する。	2

成績評価の方法およびその基準

2 回の中間テスト（下記項目「小テスト」）と最終テスト（下記項目「試験」）で標準評価基準に基づき総合評価する。（これらのテストは，状況によって LMS 上で実施することもある）

■試験： 60% ■小テスト： 40% □レポート： % □演習課題： %
□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS（POLITE）上で実施するテストのフィードバックについては，その場で結果を確認できる。

2 回の中間テストと最終テストを実施する。なお，この中間テストが，成績評価の方法の「小テスト：40%」に対応し，最終テストが「試験：60%」に対応する。

教科書	書名：新音響・音声工学，著者名：古井 貞熙，出版社：近代科学社，備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	物理学
備考	LMS(POLITE)以外にも使用するツールがあります。（説明は LMS に掲載）
担当教員の実務経験	なし

画像情報処理（2024 年度休講） Image Processing

担当教員	藤原 孝幸 (134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IMT304	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
本講義では学生が与えられたアプリケーションソフトウェア（Photoshop などの画像処理ソフトウェア）を単に利用するだけでなく、信号処理、画像処理のアルゴリズムを理解し、アプリケーション作成のためのプログラム能力も身に着けることを目標とします。原理を理解することで、アプリケーションソフトウェアの効果的、効率的な利用方法の習得が可能になります。なお、本科目を受講するためには、基礎知識として 1）数学知識、 2）プログラム知識などが必要です。講義のなかでは、実習を通してプログラムの知識を深めていきます。						
授業における学修の到達目標						
画像処理の基本概念の理解を目指します。理解を進めるために、自分で Python による画像処理プログラムを作成し動作を確認します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	画像処理の概要				
	事後学修	画像処理の概要に関してレポートにまとめる				2
2	事前学修	POLITE で配布した開発環境の説明に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	開発環境の説明				
	事後学修	開発環境の説明に関してレポートにまとめる				2
3	事前学修	POLITE で配布した画像ファイルの入出力に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像ファイルの入出力				
	事後学修	画像ファイルの入出力に関してレポートにまとめる				2
4	事前学修	POLITE で配布した画素へアクセスするプログラムに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画素へアクセスするプログラム				
	事後学修	画素へアクセスするプログラムに関してレポートにまとめる				2
5	事前学修	POLITE で配布した画像のフォーマットに関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像のフォーマット				
	事後学修	画像のフォーマットに関してレポートにまとめる				2
6	事前学修	POLITE で配布した画像の統計量に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像の統計量				
	事後学修	画像の統計量に関してレポートにまとめる				2
7	事前学修	POLITE で配布した画像の濃度値補正に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像の濃度値補正				
	事後学修	画像の濃度値補正に関してレポートにまとめる				2
8	事前学修	POLITE で配布した画像の平滑化に関するプログラムの動作確認をする				2
	授業	画像の平滑化				
	事後学修	画像の平滑化に関してレポートにまとめる				2
9	事前学修	POLITE で配布した画像の勾配情報に関するプログラムの動作確認をする				2

	授業	画像の勾配情報	
	事後学修	画像の勾配情報に関してレポートにまとめる	2
10	事前学修	POLITE で配布したフィルタ処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	フィルタ処理	
	事後学修	フィルタ処理に関してレポートにまとめる	2
11	事前学修	POLITE で配布した局所特徴量に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	局所特徴量	
	事後学修	局所特徴量に関してレポートにまとめる	2
12	事前学修	POLITE で配布した画像の 2 値化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	画像の 2 値化	
	事後学修	画像の 2 値化に関してレポートにまとめる	2
13	事前学修	POLITE で配布した 2 値画像の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	2 値画像の利用	
	事後学修	2 値画像の利用に関してレポートにまとめる	2
14	事前学修	POLITE で配布したテンプレートマッチングに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	テンプレートマッチング	
	事後学修	テンプレートマッチングに関してレポートにまとめる	2
15	事前学修	これまでの講義資料を見直しまとめる	2
	授業	試験と内容の解説	
	事後学修	講義全体の理解度についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：40% ■小テスト：10% ■レポート：50% □演習課題： % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義にて課題の解答例を示すとともに、誤った解答の傾向についても紹介する。

課題の提出状況については POLITE の講義ページにて一覧を掲載する。

教科書	
参考書・Web サイト	デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	これまでプログラミングが苦手だった人も、本講義のようなビジュアルな出力結果を通して、プログラミングに対する理解度の向上が期待できます。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

サイバーセキュリティの技術-2026 年度開講- Technology of Cyber Security

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IST304
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
テーマ: ICT におけるセキュリティ基盤技術を学びます。					
コンピュータやスマートフォンなどを用いてインターネットを日常的に利用するようになりました。それとともに、不正アクセスやネット犯罪の方法も多種多様になっており、セキュリティについて考慮することが一般的になっています。本講義ではこれらの問題に対処するためのサイバーセキュリティ技術について講義と演習を通じて理解していきます。					

ソフトウェアデザイン Software Design

担当教員	谷川 健(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMC314
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
情報システムを開発するには、開発する正しい手順（プロセス）に従うことが重要である。システム開発するために何をすべきかについては、ほぼ明確になってきている。システムが何をするかを決め（分析）、それをどのように実現するかを考え（設計）、実際に動作するシステムを開発する（実装、構築）というプロセスを実行する。これらをどのようにするかは、様々な方式が提案されているが、今日では、繰り返しながら少しずつ開発する方法が、大規模なソフトウェアの開発には適していることが明らかになってきている。また、そのためには修正や追加しやすいソフトウェア構造を保つ必要があるため、オブジェクト指向技術が適している。 本講義では、情報システムとりわけその中心となるソフトウェアの設計とその管理について、オブジェクト指向技術を使った方法について学ぶ。身近なシステムの開発を例にした演習を含めることで理解を深める。					
授業における学修の到達目標					
ソフトウェアの開発工程（プロセス）のそれぞれについて概要を説明できる オブジェクト指向を使った機能分析、データモデリングの手法を説明できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	コンピュータの変遷（歴史）について調査する			2
	授業	ガイダンス、コンピュータの変遷について学ぶ			
	事後学修	コンピュータシステムの変遷について調査する			2
2	事前学修	競争優位性となにか、ICT で競争優位性を確保した企業について調査する			2
	授業	競争優位性と情報システムについて学ぶ			
	事後学修	競争優位性を確保するために、情報システムが果たす役割についてまとめる			2
3	事前学修	ソフトウェアを開発する手順にういて調査する			2
	授業	ソフトウェア開発アクティビティに何があるか学ぶ			
	事後学修	ソフトウェア開発アクティビティのそれぞれで出力されるドキュメントについてまとめる			2
4	事前学修	ウォーターフォール開発とは何か調査する			2
	授業	開発方法論について学ぶ			
	事後学修	アジャイル開発手法の具体例を一つあげ、概要と特徴を調査する			2
5	事前学修	オブジェクト指向とは何か調査する			2
	授業	オブジェクト指向技術について学ぶ			
	事後学修	継承を使った差分プログラムについて利点と欠点を調査する			2
6	事前学修	3 アミーゴについて調査する			2
	授業	オブジェクト指向技術を使ったシステム開発手順について学ぶ			
	事後学修	オブジェクト指向を使ったシステム開発の手順についてまとめる			2
7	事前学修	UML のクラス図、シーケンス図について調査する			2
	授業	UML の概要について学ぶ			
	事後学修	Astah を使って、クラス図を作成する			2
8	事前学修	ユースケース記述について調査する			2
	授業	オブジェクト指向を使った分析手法として、ユースケースを使った分析とは何かを学ぶ			

	事後学修	ユースケース記述の課題を解く	2
9	事前学修	ユーズケース図について調査する	2
	授業	ユースケースを使った分析に関する演習課題を解く	
	事後学修	演習課題の解答例を見て、自分の解答を見直す	2
10	事前学修	概念について調査する	2
	授業	オブジェクト指向を使った分析手法として、概念モデリングとは何かを学ぶ	
	事後学修	概念の外延、内包関する課題を解く	2
11	事前学修	概念をクラス図として表現する手法をまとめる	2
	授業	概念モデリングの演習課題を解く	
	事後学修	演習課題の解答例を見て、自分の解答を見直す	2
12	事前学修	オブジェクト指向の分析手順をまとめる	2
	授業	オブジェクト指向分析の演習課題を解く	
	事後学修	演習課題の解答例を見て、自分の解答を見直す	2
13	事前学修	リレーショナルデータベースの正規化について調査する	2
	授業	リレーショナルデータベースについて学ぶ	
	事後学修	正規化の課題を解く	2
14	事前学修	ER 図について調査する	2
	授業	データモデリングについて学ぶ	
	事後学修	データモデリングの課題を解く	2
15	事前学修	この講義で学修した内容を整理し、理解を深める	2
	授業	総合演習を行い、この講義においてどの程度理解したかを確認する	
	事後学修	総合演習の解答例・解説を見て、自分の理解できていないところを整理する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： %

■その他[15 回目に実施する総合演習]：100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題については、採点して返却し、全体のフィードバックを講義内で行う。

試験については、POLITE で正解例、解説を公開する。

教科書	
参考書・Web サイト	谷川健, Java でオブジェクト指向開発する実践技術, (株)SCC 内山俊郎, わかりやすい情報システムの設計, ムスリム出版
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験無し

Webアプリケーション開発演習Ⅰ Web Application Development Practical 1

担当教員	藤原 孝幸他(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMT306	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	夏期集中	
授業概要						
本演習では、ユーザとインタラクションしながら動的に Web ページを生成、遷移させ、簡単なデータ処理を行う Web アプリケーションを開発します。						
あわせて Web アプリケーション開発に必用となる言語、ライブラリ、フレームワークについて、PHP、Python、JavaScript、FastAPI、Web API 等も取り扱う予定です。						
各テーマについて講義をした後に、実習として設定された課題に応じた Web アプリケーションを構築します。						
授業における学修の到達目標						
PHP をはじめとした動的な Web ページ実装に必用となる言語とその実装方法を実習を通して理解することを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	Web アプリケーション開発				
	事後学修	Web アプリケーション開発について学んだことをまとめる				2
2	事前学修	Web サーバの概要について配付資料で予習をする				2
	授業	Web サーバの概要				
	事後学修	Web サーバの概要について学んだことをまとめる				2
3	事前学修	Web の動的な処理について配付資料で予習をする				2
	授業	Web の動的な処理				
	事後学修	Web の動的な処理について学んだことをまとめる				2
4	事前学修	データベースの概要について配付資料で予習をする				2
	授業	データベースの概要				
	事後学修	データベースの概要について学んだことをまとめる				2
5	事前学修	PHP の概要について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の概要				
	事後学修	PHP の概要について学んだことをまとめる				2
6	事前学修	PHP の基礎について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の基礎				
	事後学修	PHP の基礎について学んだことをまとめる				2
7	事前学修	PHP の制御構造について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の制御構造				
	事後学修	PHP の制御構造について学んだことをまとめる				2
8	事前学修	PHP の応用的な処理について配付資料で予習をする				2
	授業	PHP の応用的な処理				
	事後学修	PHP の応用的な処理について学んだことをまとめる				2
9	事前学修	PHP での処理実装例について配付資料で予習をする				2

	授業	PHP での処理実装例	
	事後学修	PHP での処理実装例について学んだことをまとめる	2
10	事前学修	PHP での簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする	2
	授業	PHP での簡易 Web アプリケーション	
	事後学修	PHP での簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる	2
11	事前学修	JavaScript の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の概要	
	事後学修	JavaScript の概要について学んだことをまとめる	2
12	事前学修	JavaScript の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の基礎	
	事後学修	JavaScript の基礎について学んだことをまとめる	2
13	事前学修	JavaScript の制御構造について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の制御構造	
	事後学修	JavaScript の制御構造について学んだことをまとめる	2
14	事前学修	JavaScript の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	JavaScript の応用的な処理	
	事後学修	JavaScript の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
15	事前学修	データベースの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの概要	
	事後学修	データベースの概要について学んだことをまとめる	2
16	事前学修	データベースの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの実装	
	事後学修	データベースの実装について学んだことをまとめる	2
17	事前学修	データベースの応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	データベースの応用的な処理	
	事後学修	データベースの応用的な処理について学んだことをまとめる	2
18	事前学修	PHP とデータベースの連携について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携	
	事後学修	PHP とデータベースの連携について学んだことをまとめる	2
19	事前学修	PHP とデータベースの連携の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携の実装	
	事後学修	PHP とデータベースの連携の実装について学んだことをまとめる	2
20	事前学修	PHP とデータベースの連携の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP とデータベースの連携の応用的な処理	
	事後学修	PHP とデータベースの連携の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
21	事前学修	JSP とデータベースの連携について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携	
	事後学修	JSP とデータベースの連携について学んだことをまとめる	2
22	事前学修	JSP とデータベースの連携の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携の実装	

	事後学修	JSP とデータベースの連携の実装について学んだことをまとめる	2
23	事前学修	JSP とデータベースの連携の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP とデータベースの連携の応用的な処理	
	事後学修	JSP とデータベースの連携の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
24	事前学修	可視化ダッシュボード Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	可視化ダッシュボード Web アプリの概要	
	事後学修	可視化ダッシュボード Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
25	事前学修	可視化ダッシュボード Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	可視化ダッシュボード Web アプリの実装	
	事後学修	可視化ダッシュボード Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
26	事前学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要	
	事後学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
27	事前学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装	
	事後学修	PHP を使って DB を扱う Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
28	事前学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要	
	事後学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
29	事前学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装	
	事後学修	JSP を使って DB を扱う Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
30	事前学修	Web アプリケーション開発のまとめについて配付資料で予習をする	2
	授業	Web アプリケーション開発のまとめ	
	事後学修	Web アプリケーション開発のまとめについて学んだことをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題について演習中進捗状況を確認し実装方法等について議論・検討・指導することでフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習 メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

Webアプリケーション開発演習Ⅱ Web Application Development Practical 2

担当教員	藤原 孝幸他(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMT307	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中	
授業概要						
本演習では、ユーザとインタラクションしながら動的に Web ページを生成、遷移させ、簡単なデータ処理を行う Web アプリケーションを開発します。						
あわせて Web アプリケーション開発に必用となる言語、ライブラリ、フレームワークについて、PHP、Python、JavaScript、FastAPI、Web API 等も取り扱う予定です。						
各テーマについて講義をした後に、実習として設定された課題に応じた Web アプリケーションを構築します。						
授業における学修の到達目標						
PHP をはじめとした動的な Web ページ実装に必用となる言語とその実装方法を実習を通して理解することを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	Web アプリケーション開発				
	事後学修	Web アプリケーション開発について学んだことをまとめる				2
2	事前学修	JavaScript での処理実装例について配付資料で予習をする				2
	授業	JavaScript での処理実装例				
	事後学修	JavaScript での処理実装例について学んだことをまとめる				2
3	事前学修	JavaScript の簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする				2
	授業	JavaScript の簡易 Web アプリケーション				
	事後学修	JavaScript の簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる				2
4	事前学修	JSP の概要について配付資料で予習をする				2
	授業	JSP の概要				
	事後学修	JSP の概要について学んだことをまとめる				2
5	事前学修	JSP の基礎について配付資料で予習をする				2
	授業	JSP の基礎				
	事後学修	JSP の基礎について学んだことをまとめる				2
6	事前学修	JSP の応用的な処理について配付資料で予習をする				2
	授業	JSP の応用的な処理				
	事後学修	JSP の応用的な処理について学んだことをまとめる				2
7	事前学修	JSP での処理実装例について配付資料で予習をする				2
	授業	JSP での処理実装例				
	事後学修	JSP での処理実装例について学んだことをまとめる				2
8	事前学修	JSP の簡易 Web アプリケーションについて配付資料で予習をする				2
	授業	JSP の簡易 Web アプリケーション				
	事後学修	JSP の簡易 Web アプリケーションについて学んだことをまとめる				2
9	事前学修	FastAPI の概要について配付資料で予習をする				2

	授業	FastAPI の概要	
	事後学修	FastAPI の概要について学んだことをまとめる	2
10	事前学修	FastAPI の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の基礎	
	事後学修	FastAPI の基礎について学んだことをまとめる	2
11	事前学修	FastAPI の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI の応用的な処理	
	事後学修	FastAPI の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
12	事前学修	FastAPI での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI での処理実装例	
	事後学修	FastAPI での処理実装例について学んだことをまとめる	2
13	事前学修	Web API の概要について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の概要	
	事後学修	Web API の概要について学んだことをまとめる	2
14	事前学修	Web API の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の基礎	
	事後学修	Web API の基礎について学んだことをまとめる	2
15	事前学修	Web API の応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API の応用的な処理	
	事後学修	Web API の応用的な処理について学んだことをまとめる	2
16	事前学修	Web API での処理実装例について配付資料で予習をする	2
	授業	Web API での処理実装例	
	事後学修	Web API での処理実装例について学んだことをまとめる	2
17	事前学修	PHP と Python の連携について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP と Python の連携	
	事後学修	PHP と Python の連携について学んだことをまとめる	2
18	事前学修	PHP と Python の連携による応用的な処理について配付資料で予習をする	2
	授業	PHP と Python の連携による応用的な処理	
	事後学修	PHP と Python の連携による応用的な処理について学んだことをまとめる	2
19	事前学修	動的処理の基礎について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の基礎	
	事後学修	動的処理の基礎について学んだことをまとめる	2
20	事前学修	動的処理の実装について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の実装	
	事後学修	動的処理の実装について学んだことをまとめる	2
21	事前学修	動的処理の応用について配付資料で予習をする	2
	授業	動的処理の応用	
	事後学修	動的処理の応用について学んだことをまとめる	2
22	事前学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要	

	事後学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの概要について学んだことをまとめる	2
23	事前学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装	
	事後学修	FastAPI を利用した ToDoWeb アプリの実装について学んだことをまとめる	2
24	事前学修	写真を加工・編集する Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	写真を加工・編集する Web アプリの概要	
	事後学修	写真を加工・編集する Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
25	事前学修	写真を加工・編集する Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	写真を加工・編集する Web アプリの実装	
	事後学修	写真を加工・編集する Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
26	事前学修	修得単位確認 Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	修得単位確認 Web アプリの概要	
	事後学修	修得単位確認 Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
27	事前学修	修得単位確認 Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	修得単位確認 Web アプリの実装	
	事後学修	修得単位確認 Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
28	事前学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要について配付資料で予習をする	2
	授業	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要	
	事後学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの概要について学んだことをまとめる	2
29	事前学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装について配付資料で予習をする	2
	授業	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装	
	事後学修	Web カメラとマイクを利用したインタラクティブ Web アプリの実装について学んだことをまとめる	2
30	事前学修	Web アプリケーション開発のまとめについて配付資料で予習をする	2
	授業	Web アプリケーション開発のまとめ	
	事後学修	Web アプリケーション開発のまとめについて学んだことをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■演習課題：100 %

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題について演習中進捗状況を確認し実装方法等について議論・検討・指導することでフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習 メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ
備考	特になし
担当教員の実務経験	特になし

インターネットセキュリティの技術 Technology on Internet and Security

担当教員	佐々木 洋平(222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義		IMC307	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
テーマ: ICT におけるセキュリティ基盤を技術者としての必須教養として学びます。						
コンピュータやスマートフォンなどを用いてインターネットを日常的に利用するようになりました。それとともに、不正アクセスやネット犯罪の方法も多種多様になっており、セキュリティについて考慮することが一般的になっています。本講義ではこれらの問題に対処するためのセキュリティ基盤について講義と演習を通じて理解していきます。						
授業における学修の到達目標						
(1) 暗号技術やその利用について理解すること。						
(2) 安全性に配慮した通信プロトコルについて理解すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「IoT 時代のセキュリティ」「インターネットの仕組み」の講義内容を復習しておくこと。				2
	授業	ガイダンス, セキュリティの構成要素				
	事後学修	- POLITE の第 1 回の演習に合格するまで取り組むこと。 - セキュリティの構成要素(3 要件, 7 要件)を説明できるようにしておくこと。				2
2	事前学修	暗号における用語である「平文」「鍵」「暗号化」「復号」「解読」を調べ, 説明できるようにしておくこと。				2
	授業	暗号技術の基礎				
	事後学修	- POLITE の第 2 回の演習に合格するまで取り組むこと。 - 古典暗号と現代暗号の違いを整理すること。 - 現代暗号の「アルゴリズム」の公開の必要性について説明できるようにしておくこと。				2
3	事前学修	POLITE の予習課題(2 進数の演算)に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	共通鍵暗号(ストリーム暗号)				
	事後学修	- POLITE の第 3 回の演習に合格するまで取り組むこと。 - バーナム暗号について, 実用上あまり使われていない理由をまとめておくこと。				2
4	事前学修	ストリーム暗号とブロック暗号の違いを調べて整理しておくこと。				2
	授業	共通鍵暗号(ブロック暗号)				
	事後学修	- POLITE の第 4 回の演習に合格するまで取り組むこと。 - モード, パディングについて整理し, 説明できるようにしておくこと。 - 講義で扱わなかった CFB と OFB について調べ, 説明できるようにしておくこと。				2
5	事前学修	POLITE の予習課題 2(指数法則, 合同式)に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	暗号技術の基礎(1): 指数法則, 合同式, 最大公約数とユークリッド互除法				
	事後学修	POLITE の第 5 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2
6	事前学修	POLITE の予習課題 3(指数法則, 合同式, 最大公約数とユークリッド互除法)に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	鍵共有アルゴリズム				
	事後学修	- POLITE の第 6 回の演習に合格するまで取り組むこと。 - Diffie-Hellman 鍵共有の仕組みと安全性の根拠を説明できるようにしておくこと。				2

7	事前学修	POLITE の予習課題 4(オイラーの定理, フェルマーの小定理)に合格するまで取り組むこと.	2
	授業	暗号技術の基礎(2): オイラーの定理, フェルマーの小定理, 拡張ユークリッド互除法	
	事後学修	POLITE の第 7 回の演習に合格するまで取り組むこと.	2
8	事前学修	POLITE の予習課題 5(オイラーの定理, フェルマーの小定理, 拡張ユークリッド互除法)に合格するまで取り組むこと.	2
	授業	公開鍵暗号	
	事後学修	- POLITE の第 8 回の演習に合格するまで取り組むこと. - RSA 暗号と ElGamal 暗号の仕組みと安全性の根拠を説明できるようにしておくこと.	2
9	事前学修	公開鍵暗号方式について復習しておくこと.	2
	授業	ハッシュ値とデジタル署名	
	事後学修	- POLITE の第 9 回の演習に合格するまで取り組むこと. - 原像計算困難性, 第 2 原像計算困難性, 衝突困難性を説明できるようにしておくこと.	2
10	事前学修	「コンピュータ」「IoT 時代のセキュリティ」などで学修したパスワード認証の問題点, その他の認証方式について復習しておくこと.	2
	授業	認証技術の基礎, 認証・認可プロトコル	
	事後学修	- POLITE の第 10 回の演習に合格するまで取り組むこと. - 認証・認可プロトコルについて整理し, 説明できるようにしておくこと.	2
11	事前学修	公開鍵暗号方式について復習しておくこと.	2
	授業	PKI	
	事後学修	- POLITE の第 11 回の演習に合格するまで取り組むこと. - PKI の仕組みについて整理し, 説明できるようにしておくこと.	2
12	事前学修	「インターネットの仕組み」で学修した TCP の動作原理について復習しておくこと.	2
	授業	セキュアプロトコル	
	事後学修	- POLITE の第 11 回の演習に合格するまで取り組むこと. - TLS と IPsec の違いについて整理し, 説明できるようにしておくこと.	2
13	事前学修	「バッファオーバーフロー」という用語を調べ, 説明できるようにしておくこと.	2
	授業	ホストのセキュリティ	
	事後学修	- POLITE の第 13 回の演習に合格するまで取り組むこと. - バッファオーバーフローの仕組みについて整理し, 説明できるようにしておくこと.	2
14	事前学修	- 「インターネットの仕組み」で学修した IP アドレスやポート番号について復習しておくこと. - 「メディア技術演習」「Web プログラミング演習」などで学修したフォームの利用について復習しておくこと.	2
	授業	ネットワークセキュリティ, Web における認証・脅威と対策	
	事後学修	- POLITE の第 14 回の演習に合格するまで取り組むこと. - ファイアウォールの仕組みについて整理し, 説明できるようにしておくこと. - Web アプリケーション開発における脆弱性が発生する仕組みや対策について整理し, 説明できるようにしておくこと.	2
15	事前学修	これまでの講義内容について復習しておくこと.	2
	授業	セキュリティ技術に関する最近の話題	
	事後学修	- POLITE の第 15 回の演習に合格するまで取り組むこと.	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 70% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
POLITE および講義開始前に行なう。	
教科書	
参考書・Web サイト	齋藤 孝道, マスタリング TCP/IP 情報セキュリティ編, オーム社 徳丸 浩, 体系的に学ぶ 安全な Web アプリケーションの作り方 第2版, SB クリエイティブ 長島裕二, 福田一帆, 基礎から学ぶ整数論, コロナ社 黒沢 馨, 尾形 わかは, 現代暗号の基礎数理 (電子情報通信レクチャーシリーズ), 電子情報通信学会
単位修得が望ましい科目	コンピュータ, メディア技術演習, IoT 時代のセキュリティ, インターネットの仕組み、Web プログラミング演習, プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	「コンピュータ」「メディア技術演習」「IoT 時代のセキュリティ」「インターネットの仕組み」について既に受講済であることを前提とした内容になっています。詳細については初回の講義で説明します。
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度, 大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。この経験を踏まえて, 現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

Linux 演習 Introduction to Linux

担当教員	佐々木 洋平(222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IMC324	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
テーマ: Linux の知識と利用技術の基礎を実習を通して学びます。						
Linux はもともと商用であった UNIX に似た(Unix-like), 自由かつオープンソースな OS です。現在の ICT 技術は UNIX, Linux とともに発展し現在の姿になりました。今や Linux は、スーパーコンピュータなどの大規模サーバから、Web やメールなどの ICT サービス、そして手元のスマートフォン(Android)や組み込み機器など、幅広い分野で利活用されています。Linux の使い方を身につけることで、ICT に関わる様々な技術・知識の習得が容易になるでしょう。本講義では ICT の基礎素養である Linux の使い方、特に必須コマンドとその活用について実習を通して学びます。						
授業における学修の到達目標						
(1) シェルに慣れること。ファイルとディレクトリの操作ができること。						
(2) 基礎的なコマンドが一通り扱えること。または、使い方を調べられること。						
(3) シェルスクリプトのプログラミングができること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。				2
	授業	- 講義ガイダンス - Linux と OSS について				
	事後学修	POLITE の第 1 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2
2	事前学修	POLITE の第 2 回予習課題に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	仮想環境入門				
	事後学修	POLITE の第 2 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2.0
3	事前学修	- 第 2 回で設定した環境構成について図示し理解しておくこと。 - POLITE の第 3 回予習課題に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	アカウントとパスワード				
	事後学修	POLITE の第 3 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2
4	事前学修	- 第 3 回で作成したテストユーザは削除して整理しておくこと。 - 第 3 回の資料を元に自身のパスワードを堅牢なモノにしておくこと。 - POLITE の第 4 回予習課題に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	ファイル・ディレクトリとのその操作				
	事後学修	POLITE の第 4 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2
5	事前学修	- 第 4 回で作成したファイル・ディレクトリは整理しておくこと。 - POLITE の第 5 回予習課題に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	ファイルの中身の操作, パイプとリダイレクト, 正規表現の初歩				
	事後学修	POLITE の第 5 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2
6	事前学修	- 第 5 回で作成したファイルは整理しておくこと。 - POLITE の第 6 回予習課題に合格するまで取り組むこと。				2
	授業	環境変数と環境設定, エディタ				
	事後学修	POLITE の第 6 回の演習に合格するまで取り組むこと。				2

7	事前学修	POLITE の第 7 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	シェルスクリプトの基礎	
	事後学修	POLITE の第 7 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
8	事前学修	POLITE の第 8 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	シェルスクリプトの応用	
	事後学修	POLITE の第 7 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
9	事前学修	POLITE の第 9 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	ネットワークの基礎	
	事後学修	POLITE の第 9 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
10	事前学修	POLITE の第 10 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	ネットワークコンピューティングの基礎	
	事後学修	POLITE の第 10 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
11	事前学修	- 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。 - POLITE の第 11 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	デスクトップ環境	
	事後学修	POLITE の第 11 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
12	事前学修	- 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。 - POLITE の第 12 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	仮想環境応用	
	事後学修	POLITE の第 12 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
13	事前学修	- 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。 - POLITE の第 13 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	サーバクライアントシステムの基礎	
	事後学修	POLITE の第 13 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
14	事前学修	- 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。 - POLITE の第 14 回予習課題に合格するまで取り組むこと。	2
	授業	リソース管理, プロセス管理	
	事後学修	POLITE の第 14 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2
15	事前学修	これまでの演習内容について復習しておくこと。	2
	授業	まとめと今後に向けて	
	事後学修	POLITE の第 15 回の演習に合格するまで取り組むこと。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100 % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE および講義開始前に行なう。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	「コンピュータ」「メディア技術演習」
備考	Linux の認定試験である LPIC、もしくは LinuC の資格保持者は、この科目の単位を認定しますので申し出てください。

担当教員の実務経験

Debian Project に参加し，Debian GNU/Linux の開発に 20 年ほど関わってきた．この経験に基づく知識と技術を学生に伝えられる教育を実施する．

情報メディアのデータ処理-2026 年度開講- Information Media Data Processing

担当教員	未定()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IST306
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
現代はデータの時代です。このデータの時代において、データサイエンス、AI を含む様々な分野でデータを適切に扱える能力が求められています。 この講義では様々な種類のデータを扱うための基本的な考え方、および、Python を用いたデータ処理のプログラミングについて学びます。					

ビジュアル構成・演習 2024 年度入学生は、「ビジュアル構成演習」になります。 Visual Composition Practical

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室), 伊藤 マーティ(), 樋渡 美里(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		IMD203
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	2 年	前期	
授業概要					
一年時に「デザインエレメンツ演習」で学習したデザインの基礎（コンセプトワーク,レイアウト,図形処理,画像処理,マルチメディア表現）を、さらに飛躍させる実習の場。Adobe Illustrator と Photoshop を使ったの高度なビジュアルデザインを制作し、しっかりとデザインの応用を身につけ、自己表現や個性的な表現力を身につける。さらに,コンセプトを理解し,それを的確に表現できるデザイナーとしての実力を確立する。どのような職種に就いても必ず役に立つ「わかりやすく、きれいに、人に伝える」技術を身につける。また,グラフィックデザインからマルチメディアへの展開を実践する。					
※本講義は前提として、デザインの基礎及び Adobe illustrator、Photoshop の活用に関する知識が必要となるため、「メディアデザインの基礎演習」「デザインエレメンツ演習」履修後の履修を強く推奨する。					
授業における学修の到達目標					
指定されたターゲットや商品・サービスの特徴に応じた作品制作ができるようになる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する			4.0
	授業	・ガイダンス ・illustrator の基本的な使い方おさらい ・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習① (課題説明・情報収集)			
	事後学修	特になし			0.0
2	事前学修	実習内容の確認を行う			2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習② (企画制作)			
	事後学修	実習内容をまとめる			4.0
3	事前学修	実習内容の確認を行う			4.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習③ (企画へのフィードバック)			
	事後学修	特になし			0.0
4	事前学修	実習内容の確認を行う			2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習④ (企画の修正)			
	事後学修	実習内容をまとめる			4.0
5	事前学修	実習内容の確認を行う			2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑤ (ラフ制作)			
	事後学修	特になし			0.0
6	事前学修	実習内容の確認を行う			2.0

	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑥ (ラフへのフィードバック)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑦ (ソフトを活用したデザインの制作)	
	事後学修	特になし	0.0
8	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑧ (ソフトを活用したデザインへのフィードバック)	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
9	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	2.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑨ (ソフトを活用したデザインの修正)	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	・「ショップブランドのロゴ・商品のデザイン」実習⑩ (仕上げ・提出)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習① (課題説明・情報収集)	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習② (企画制作)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習③ (企画へのフィードバック)	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習④ (企画の修正)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑤ (デザイン制作)	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑥ (デザインへのフィードバック)	

	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
17	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑦ (デザインの修正)	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑧ (デザインの仕上げ)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
19	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	4.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑨ (提出資料の作成)	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	プレゼンテーションの練習	2.0
	授業	・「スポーツチームのロゴ・キャラクターデザイン」実習⑩ (プレゼンテーションを踏まえた修正・課題提出)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
21	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習① (課題説明・情報収集)	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習② (企画制作)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
23	事前学修	実習内容の確認を行う	4.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習③ (企画へのフィードバック)	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習④ (企画の修正)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
25	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑤ (デザイン制作)	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑥ (デザインへのフィードバック)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
27	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0

	授業	・「公共広告ポスター」実習⑦ (デザインの修正)	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑧ (デザインの仕上げ)	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
29	事前学修	自身の作品のポイントをまとめる	2.0
	授業	・「公共広告ポスター」実習⑨ (提出資料の作成)	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	これまで制作した作品を整理する	2.0
	授業	全課題の振り返り・反省をまとめる	
	事後学修	特になし	0.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% □その他：0%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物・発表内容に対しコメントによるフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	E ラーニング教材
単位修得が望ましい科目	本講義は前提として、デザインの基礎及び Adobe illustrator、Photoshop の活用に関する知識が必要となるため、「メディアデザインの基礎演習」「デザインエレメンツ演習」履修後の履修を強く推奨する。
備考	特になし。
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらないデザイン制作の知識を学生に伝える。

色彩・デザイン演習 Color Design Practical

担当教員	坂本 牧葉 (138 研究室), 山本 佳美 (非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習		IMD206	
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
授業概要						
デザイン表現における視覚情報手段としての色の要素は、不可欠である。色の分類や色彩心理などの基本的な理解、カラーシステムの有効性、具体的な配色理論を取り上げ、オリジナル資料を用いながら、実践的な知識として学習する。授業ではほぼ毎回、演習課題に取り組み、具体的なトレーニング学習を行うことによって、各自の色彩感覚の向上のための表現テクニックを習得する。						
授業における学修の到達目標						
・ WAT9 を用いた客観的イメージと色彩との関係とを理解し、イメージに応じた配色を考えることができる ・ 色彩への興味を深め、自身の色彩感覚への興味と理解とを深める ・ 色彩検定 3 級程度の知識、デザイン応用力の習得 ・ カラーユニバーサルデザイン（CUD）への理解を深め、CUD に配慮した表現を判断可能にする						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスと授業概要の確認、教科書 p.6-13 の精読				4.0
	授業	【講義】ガイダンス、色彩のはたらき、色の見える仕組み（1）：可視光、スペクトル、分光分布、反射・透過など				
	事後学修	事後学修	連続授業のため記載なし			0.0
2	事前学修	事後学修	連続授業のため記載なし			0.0
	授業	【演習】色の基本分類（教科書 p.6-13）（有彩色・無彩色）、明度の演習				
	事後学修	人が色を認識するしくみ、色の基本分類（無彩色）明度について復習。演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出。				4.0
3	事前学修	身の回りの絵や印刷物、ディスプレイやスマホ画面などの混色方法を調べる				4.0
	授業	【講義】色の見える仕組み（2）：眼の仕組み、照明と色の見え方の関係、混色混色演習（絵具など画材を使った混色体験）				
	事後学修	連続授業のため記載なし				0.0
4	事前学修	連続授業のため記載なし				0.0
	授業	【演習】混色演習（絵具など画材を使った混色体験）				
	事後学修	眼の仕組み、色を識別する視細胞の名称、照明の種類などの用語の復習。演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出。				4.0
5	事前学修	色を表すためのシステム（カラーシステム・表色系）について調べておく 色の基本分類（教科書 p.6-13）の精読				4.0
	授業	【講義】有彩色・無彩色、色の三属性、色相、色相環、カラーシステム（PCCS）				
	事後学修	連続授業のため記載なし				0.0
6	事前学修	連続授業のため記載なし				0.0
	授業	【演習】カラーカード（PCCS199a）カラーダイヤル制作				
	事後学修	各カラーシステムの考え方とパラメータの理解の確認。 演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出。				4.0
7	事前学修	色彩の心理効果を利用した広告、パッケージ、キャラクターデザインなどを見つけておく カラーギャブラリー（教科書 p.23-34）の精読				4.0

	授業	【講義】色彩心理：色彩の寒暖感、膨張・収縮感、象徴性、面積効果、対比効果など	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
8	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】カラーボキャブラリーの解説	
	事後学修	カラーボキャブラリーの復習	4.0
9	事前学修	教科書の予習：真似したいと思う配色（3色～5色）を見つけておく 配色の考え方（教科書 p.16-21）の精読	4.0
	授業	【講義】「A4 配色トレーニング」の提出・講評 色彩調和、配色方法の基本：色彩構成の役割 配色の決め方、6つの配色方法	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】配色方法の実践：まとまり・際立ち、色相・トーン、グラデーション・セパレーション	
	事後学修	配色方法のバリエーションと効果の確認。混色演習の応用を考えてみる 演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
11	事前学修	配色の考え方（教科書 p.16-21）の精読。 CUD 支援のスマホアプリを使い、身の回りの人工物の配色を確認しておく。	4.0
	授業	【講義】5-2 演習課題「6つの配色方法」の提出・講評	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【講義】色覚タイプによる色の見え方（CUD）、高齢者の見え方、CUD の進め方	
	事後学修	配色方法の確認。また、CUD の内容に関する理解の確認。 演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出。	4.0
13	事前学修	これまでの小テストのなどで、自身の理解を確認しておく。	4.0
	授業	【講義】これまでの復習と検定試験対策（1）	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【講義】これまでの復習と検定試験対策（2）	
	事後学修	練習問題などで自身の理解を確認。不明な点は教員に確認する。	4.0
15	事前学修	イメージのとらえ方（教科書 p.35-54）の精読	4.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（1）イメージによる配色演習-1	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
16	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（2）イメージによる配色演習-2	
	事後学修	演習課題が時間内に完成しない場合、次回までに提出	4.0
17	事前学修	イメージのとらえ方（教科書 p.35-54）の精読	4.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（3）9分類イメージコラージュ 5×5 -1	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
18	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（4）9分類イメージコラージュ 5×5 -2	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、進めておく。 不明な点は教員に確認する。	4.0

19	事前学修	イメージのとらえ方（教科書 p.35-54）の精読	4.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（5）9分類イメージLS コラージュ-1	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
20	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（6）9分類イメージLS コラージュ-2	
	事後学修	客観的にイメージを伝えるための9分類の確認	4.0
21	事前学修	イメージのとらえ方（教科書 p.35-54）の精読	4.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（7）9分類イメージLS コラージュ-3	
	事後学修	連続授業のため記載なし	0.0
22	事前学修	連続授業のため記載なし	0.0
	授業	【演習】イメージコーディネート（8）9分類イメージLS コラージュ-4 講評会	
	事後学修	客観的にイメージを伝えるための9分類の確認 講評会レポート	4.0
23	事前学修	取り組みたい分野の広告を探し、9分類のいずれかに当てはまるか考えておく	4.0
	授業	【演習】広告のデザイン（1）企画書作成-1	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
24	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】広告のデザイン（1）企画書作成-2	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、進めておく。 不明な点は教員に確認する。	4.0
25	事前学修	作品制作に必要なコラージュ素材を探して、用意しておく	4.0
	授業	【演習】広告のデザイン（2）広告の制作-1	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
26	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】広告のデザイン（2）広告の制作-2	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、進めておく。 不明な点は教員に確認する。	4.0
27	事前学修	作品制作に必要なコラージュ素材を探して、用意しておく	4.0
	授業	【演習】広告のデザイン（2）広告の制作-3	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
28	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】広告のデザイン（2）広告の制作-4	
	事後学修	課題制作が遅れている場合は、進めておく。 不明な点は教員に確認する。	4.0
29	事前学修	自身の作品について、コンセプトや反省点などを言語化しておく。	4.0
	授業	【演習】コラージュ課題の講評会 前半	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
30	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	【演習】コラージュ課題の講評会 後半	
	事後学修	未提出課題がある場合は完成させ、提出する。	4.0
成績評価の方法およびその基準			

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 80 % ■その他[講義に参加する学習意欲や態度 20 %]	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題回収後、解説を行います。	
教科書	書名：色彩検定 公式テキスト 3 級編, 著者名：, 出版社：, 備考：
参考書・Web サイト	色彩検定 公式テキスト UD 級
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・受講者は、教科書とカラーカード（新配色カード 199a）を購入してしてください（必須） ・スティックのり，ハサミ，カッター，色鉛筆，絵具の道具などを使用します ・課題は，欠席した場合でも提出してください
担当教員の実務経験	色彩を含むヴィジュアルデザインに関して、企業でのワークショップ・講演の経験有り。（坂本牧葉） after 色彩検定認定講師。色彩検定対策講座を受験した生徒は 100 % の合格率。パーソナルカラーリストの育成も行う。イメージコンサルタントやインテリアコーディネーターとしても活動中。各種コラムの執筆や企業向けセミナーも行う。（山本佳美）

イラスト制作演習-2025 年度開講- Illustration

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		ISD203
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	未定
授業概要					
タブレット端末を用い、ペイントソフトを使った実務的なイラストレーション制作を学ぶ。 ターゲットや目的に応じた表現を考え、企画し、一定のクオリティで完成させるプロセスを課題制作を通して体験する。 Web、印刷などの媒体に応じた解像度、カラーモード、画像形式などにも理解を深める。 授業課題は書籍やパッケージビジュアルの挿絵、汎用性の高いフリー素材イラスト制作のなどを予定している。					

Web制作演習 Web Creative Design Practical

担当教員	近澤 潤(330 研究室), 安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC203
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
Web サイト・スマホアプリを設計・制作するための基礎的な設計手法とデザインテクニックを学びます。					
1. UX デザイン UX デザインとは ペーパープロトタイピング					
2. スマホアプリ企画 スマホアプリの企画と画面デザイン手法を学びます ※開発は行いません。					
3. Web サイト設計 Web サイトの企画と設計手法, 開発手法を学びます					
4. Web サイトデザイン Figma と HTML/CSS を使い, 実際に Web をデザインします					
※Adobe Illustrator, Figma の使い方をマスターしていることと, HTML と CSS を理解していることが前提です。					
授業における学修の到達目標					
UX デザイン手法とスマホアプリの企画・画面デザインができるようになる					
Web サイト制作スキルの定着とサイトの企画・設計・デザイン・コーディングスキルを身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールを読んでおく			2
	授業	ガイダンス Web 制作と UX デザインの関係について			
	事後学修	講義の目的とスケジュールについて再度見直す Web 制作と UX デザインの関係を理解する			2
2	事前学修	UX デザインについて調べておく			2
	授業	UX デザインの基礎 (1) ヒトとモノ			
	事後学修	UX デザインのポイントを掴む			2
3	事前学修	UX デザインについて調べておく			2
	授業	UX デザインの基礎 (2) 誰のためのデザインか			
	事後学修	UX デザインのポイントを掴む			2
4	事前学修	ペーパープロトタイピングについて調べておく			2
	授業	ペーパープロトタイピング (1) 概念			
	事後学修	ペーパープロトタイピングのポイントを掴む			2
5	事前学修	ペーパープロトタイピングについて調べておく			2
	授業	ペーパープロトタイピング (2) 手法			
	事後学修	ペーパープロトタイピングの手法のポイントを掴む			2
6	事前学修	ペーパープロトタイピングの手法を復習しておく			2

	授業	ペーパープロトタイピング (3) 実習 1 二人組となり，質問シート作成	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
7	事前学修	うまくやるにはどのようにすればいいか考えておく	2
	授業	ペーパープロトタイピング (3) 実習 2 ヒアリング調査	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
8	事前学修	成果物準備	2
	授業	ペーパープロトタイピング (3) 実習 3 課題抽出から修正 →成果物提出	
	事後学修	うまくできなかった点について復習しておく	2
9	事前学修	自分の持っているアプリの UI をよく見ておく	2
	授業	スマホアプリの企画 先行例調査 二人組になり，実習を行う	
	事後学修	他に事例がないか調べてみる	2
10	事前学修	企画の基礎アイデアを考えておく	2
	授業	スマホアプリの企画 企画立案	
	事後学修	企画に足りない点がないかもう一度チェックする	2
11	事前学修	スマホアプリトップの UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン (1) トップ画面 1 ラフ案を考える	
	事後学修	完成度を上げる	2
12	事前学修	スマホアプリトップの UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン (1) トップ画面 2 詳細デザインを仕上げる	
	事後学修	完成度を上げる	2
13	事前学修	スマホアプリサブ画面の UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン (2) サブ画面 1 ラフ案を考える	
	事後学修	完成度を上げる	2
14	事前学修	スマホアプリサブ画面の UI 事例を調べておく	2
	授業	スマホアプリの画面デザイン (2) サブ画面 2 詳細デザインを仕上げる	
	事後学修	完成度を上げる	2
15	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER1-3 Pickups 1-7 制作の流れ 3-10 余白を調整しよう 3-13 クラスと ID を使った指定方法 3-14 レイアウトを組もう 3-15 デフォルト CSS をリセットしよう	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
16	事前学修	教科書を読んでおく	2

	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER1-3 Pickups 1-7 制作の流れ 3-10 余白を調整しよう 3-13 クラスと ID を使った指定方法 3-14 レイアウトを組もう 3-15 デフォルト CSS をリセットしよう	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
17	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 4 フルスクリーンの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
18	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 4 フルスクリーンの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
19	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5 2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
20	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5 2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
21	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5 2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
22	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 5 2 カラムの Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
23	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6 タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
24	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6 タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
25	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6 タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
26	事前学修	教科書を読んでおく	2

	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 6 タイル型の Web サイトを制作する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
27	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7 外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
28	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7 外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
29	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7 外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2
30	事前学修	教科書を読んでおく	2
	授業	教科書「1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座」 CHAPTER 7 外部メディアを利用する	
	事後学修	教科書で学習した部分で不明な点を見直す	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：70%

■その他[グループワーク]30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビューやプレゼンテーション時にコメントをフィードバックする。

教科書	書名：1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座, 著者名：Mana, 出版社：SB クリエイティブ, 備考：
参考書・Web サイト	その都度指示する。
単位修得が望ましい科目	Web デザイン基礎演習, メディア技術演習
備考	演習はチーム単位（二人組）で行います。
担当教員の実務経験	1994 年から 2007 年まで Web 制作会社で 100 以上の案件を経験した。また、それ以降も最新技術の体得を心がけ、常にアップデートしてきた。そこで得た手法とツールを学生に紹介し、現場に近い形での開発訓練を実施する。

3DCG演習 3DCG Practical

担当教員	川田 孝之(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習		IMC206	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
テーマ：3DCG ソフトを使用した 3D コンテンツ作成のための基礎演習						
映画やゲームにおける必須の技術に 3 D C G があります。ハリウッド映画やゲーム制作で使用される本格的な 3 D C G ソフトウェアを用いて 3 D C G 作品制作の基礎を学びます。また、これら演習（実習）を通じて 3 D C G の原理等への理解を深めることを目的とします。また、制作物への思いを他者へ正確に伝えられることを目指し、プレゼンテーションを行い、投票システムを用いた相互評価を行います。						
授業における学修の到達目標						
3DCG ソフトウェアは立体像作品制作のための道具です。道具をうまく使いこなすことができれば、制作にかかる時間の短縮と、作品の品質向上につながります。本講義では、3DCG ソフトウェアである 3dsMax を使い、基本的な機能を理解するとともに、操作に慣れることを目標とします。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	3 DCG について調べる				2.0
	授業	ガイダンス・注意事項、基本操作（3DCG とは、教育版の入手、インストール、作品紹介）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 回目と同じ				2.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 回目と同じ				2.0
	授業	ガイダンス・基本操作（3DCG の制作手順、起動と画面操作、テンプレートファイルの作成）				
	事後学修	自分の気になる分野を調べるとともに基本操作の復習をする				2.0
3	事前学修	モデリングについて調べる				2.0
	授業	基本操作：モデリング 1（モデリングの基本的な行い方と変換（移動・回転・スケール））				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 4 回目と同じ				2.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業であり 3 回目と同じ				2.0
	授業	基本操作：モデリング 1（編集可能ポリゴン、モディファイヤ）				
	事後学修	モデリングの課題を完成させる				2.0
5	事前学修	いろいろなモデリングの方法について調べる				2.0
	授業	基本操作：モデリング 2（モディファイヤ+スプライン+ブール演算+編集可能ポリゴン）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 6 回目と同じ				2.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業であり 5 回目と同じ				2.0
	授業	基本操作：モデリング 2（モディファイヤ+スプライン+ブール演算+編集可能ポリゴン）				
	事後学修	モデリングの課題を完成させる				2.0
7	事前学修	レンダリング（マテリアル）について調べる				2.0
	授業	基本操作：レンダリング 1（標準（旧形式）マテリアルとレンダリング）				
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 8 回目と同じ				2.0
8	事前学修	2 コマ続きの授業であり 7 回目と同じ				2.0
	授業	基本操作：レンダリング 1（標準マテリアル+スキャンラインレンダリング）				
	事後学修	レンダリングの課題を完成させる				2.0

9	事前学修	レンダリング（マテリアル、レンダリングエンジン）の仕組みについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング2（標準マテリアル+レイトレースマテリアル+スキャンラインレンダリング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり10回目と同じ	2.0
10	事前学修	2コマ続きの授業であり9回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング2（標準マテリアル+レイトレースマテリアル+スキャンラインレンダリング）	
	事後学修	レンダリングの課題を完成させる	2.0
11	事前学修	カメラ（標準カメラとフィジカルカメラ）とフィジカルマテリアルについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング3（カメラ+フィジカルマテリアル（プリセットで質感設定））	
	事後学修	2コマ続きの授業であり12回目と同じ	2.0
12	事前学修	2コマ続きの授業であり11回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング3（フィジカルカメラ+フィジカルマテリアル+ARTレンダラー）	
	事後学修	フィジカルマテリアル+ARTレンダラーによるレンダリングの課題を完成させる	2.0
13	事前学修	ライティング（標準ライトとフォトメトリックライト）と各種レンダラーについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング4（ライティング+フィジカルマテリアルのカスタマイズ+ARTレンダラー）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり14回目と同じ	2.0
14	事前学修	2コマ続きの授業であり13回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング4（フィジカルライト+フィジカルカメラ+フィジカルマテリアル+ARTレンダラー）	
	事後学修	フィジカルカメラとフォトメトリックライトを配置した課題を完成させる	2.0
15	事前学修	外観用のライティング（サンポジショナシステム）、環境マップについて調べる	2.0
	授業	基本操作：レンダリング5（外観用ライティング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり16回目と同じ	2.0
16	事前学修	2コマ続きの授業であり15回目と同じ	2.0
	授業	基本操作：レンダリング5（フィジカルカメラxライティングxフィジカルマテリアルx環境マップxレンダラー）	
	事後学修	外観用のライティング（サンポジショナシステム）を使用した課題を完成させる	2.0
17	事前学修	スケッチ、三面図、透視図法について調べる	2.0
	授業	最終課題制作1（テーマ（キーワード）の決定、ラフスケッチ・三面図の作成）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり18回目と同じ	2.0
18	事前学修	2コマ続きの授業であり17回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作1（テーマ（キーワード）のイメージ透視図または等測図の作成）	
	事後学修	スケッチ、透視図法を練習する	2.0
19	事前学修	制作物を観察する	2.0
	授業	最終課題制作2（制作するものの計測）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり20回目と同じ	2.0
20	事前学修	2コマ続きの授業であり19回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作2（三面図の作成）	
	事後学修	制作するモノの三面図を完成させる	2.0

21	事前学修	最終課題のモデリング手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作 3（エスキスチェックとターゲットのモデリングの開始）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 2 回目と同じ	2.0
22	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 1 回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作 3（背景のモデリング）	
	事後学修	最終課題のモデリングを完成する	2.0
23	事前学修	最終制作課題のマテリアル作成手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作 4（ターゲットのマテリアル）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 4 回目と同じ	2.0
24	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 3 回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作 4（背景のマテリアル）	
	事後学修	最終課題のマテリアルを完成させる	2.0
25	事前学修	最終課題のライティング、カメラ配置の手順を確認する	2.0
	授業	最終課題制作 5（ライティングとカメラの設定をしとレンダリングの確認）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 6 回目と同じ	2.0
26	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 5 回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作 5（カメラ・ライティングの強度、露出を調整する）	
	事後学修	最終課題のライティング、カメラを完成させ、レンダリングを完成させる	2.0
27	事前学修	プレゼンの項目について確認する	2.0
	授業	最終課題制作 6（プレゼン資料作成）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 8 回目と同じ	2.0
28	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 7 回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作 6（プレゼン資料作成つづき）	
	事後学修	プレゼン資料を作成する	2.0
29	事前学修	プレゼン発表の準備	2.0
	授業	最終課題制作 7（制作物のプレゼン発表）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 3 0 回目と同じ	2.0
30	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 9 回目と同じ	2.0
	授業	最終課題制作 7（制作物のプレゼン発表（つづき））	
	事後学修	最終制作物の資料整理と作品の提出	2.0

成績評価の方法およびその基準

□■試験： % □■小テスト： % □■レポート： % ■演習課題： 70% ■その他[プレゼンテーションなど：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で提出課題の講評をおこないます。

教科書	
参考書・Web サイト	・世界一わかりやすい 3dsMax 操作と 3DCG 制作の教科書
単位修得が望ましい科目	なし
備考	・授業では市販の教科書は使用せず、独自作成の PDF の資料を使用して授業を進めていきます。毎回授業ではこの PDF に沿って説明し、例題等の実演を通して理解を深めてもらいます。練習問題、課題は演習時間または事後学習として各自制作して提出してもらいます。

	PDF の資料（含むファイル等）は POLITE または seiryu 等で配布しますのでアップロードされたら各自ダウンロードしてください。 ・ 事情があり最終制作課題のプレゼンテーションが難しい場合は配慮しますので申し出てください。
担当教員の実務経験	川田：建築物等の設計業務で使用している CAD（AutoCAD）、BIM（Revit）及び CG（3dsMax）の経験を活かし、効率的・効果的な作成を指導

3DCG演習 3DCG Practical

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC206
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
映画やゲームにおける必須の技術に 3 D C G があります。ハリウッド映画やゲーム制作で使用される本格的な 3 D C G ソフトウェアを用いて 3 D C G 作品制作の基礎を学びます。また、これら演習（実習）を通じて 3 D C G の原理等への理解を深めることを目的とします。また、制作物への思いを他者へ正確に伝えられることを目指し、プレゼンテーションを行い、投票システムを用いた相互評価を行います。					
授業における学修の到達目標					
3DCG ソフトウェアは立体像作品制作のための道具です。道具をうまく使いこなすことができれば、制作にかかる時間の短縮と、作品の品質向上につながります。本講義では、3DCG ソフトウェアである Maya を使い、基本的な機能を理解するとともに、操作に慣れることを目標とします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	3 DCG について調べる			2.0
	授業	ガイダンス・Maya 基本操作（Maya 撮影練習課題）			
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 回目と同じ			2.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業であり 1 回目と同じ			2.0
	授業	ガイダンス・Maya 基本操作（Maya 撮影練習課題）つづき			
	事後学修	自分の気になる分野を調べるとともに基本操作の復習をする			2.0
3	事前学修	モデリングについて調べる			2.0
	授業	机とイスのモデリング作業			
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 4 回目と同じ			2.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業であり 3 回目と同じ			2.0
	授業	机とイスのモデリング作業つづき			
	事後学修	モデリング課題の作業			2.0
5	事前学修	マテリアル、テクスチャについて調べる			2.0
	授業	机とイスのモデリング作業（ライティング）			
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 6 回目と同じ			2.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業であり 5 回目と同じ			2.0
	授業	机とイスのモデリング作業（ライティング）つづき			
	事後学修	課題を完成させる			2.0
7	事前学修	レンダリングについて調べる			2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題			
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 8 回目と同じ			2.0
8	事前学修	2 コマ続きの授業であり 7 回目と同じ			2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題つづき			
	事後学修	モデリング課題の作業			2.0
9	事前学修	ライティングについて調べる			2.0

	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題（マテリアル）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり10回目と同じ	2.0
10	事前学修	2コマ続きの授業であり9回目と同じ	2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題（マテリアル） つづき	
	事後学修	モデリング課題の作業	2.0
11	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題（カメラ）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり12回目と同じ	2.0
12	事前学修	2コマ続きの授業であり11回目と同じ	2.0
	授業	机とイスのモデリングアレンジ課題（カメラ） つづき	
	事後学修	課題を完成させる	2.0
13	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの」課題1（写真撮影）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり14回目と同じ	2.0
14	事前学修	2コマ続きの授業であり13回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの」課題1（写真撮影） つづき	
	事後学修	モデリング課題の作業	2.0
15	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの」課題2（モデリング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり16回目と同じ	2.0
16	事前学修	2コマ続きの授業であり15回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの」課題2（モデリング） つづき	
	事後学修	モデリング課題の作業	2.0
17	事前学修	課題の項目について確認する	2.0
	授業	テーマ「身近なもの」課題3（レンダリング）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり18回目と同じ	2.0
18	事前学修	2コマ続きの授業であり17回目と同じ	2.0
	授業	テーマ「身近なもの」課題3（レンダリング） つづき	
	事後学修	課題を完成させる	2.0
19	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作1（バウンドアニメーション）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり20回目と同じ	2.0
20	事前学修	2コマ続きの授業であり19回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作1（バウンドアニメーション） つづき	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
21	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作2（バウンドアニメーション）	
	事後学修	2コマ続きの授業であり22回目と同じ	2.0
22	事前学修	2コマ続きの授業であり21回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作2（バウンドアニメーション） つづき	

	事後学修	提出する課題の作業	2.0
23	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 3（バウンドアニメーション）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 4 回目と同じ	2.0
24	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 3 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作 3（バウンドアニメーション） つづき	
	事後学修	課題を完成させる	2.0
25	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 1（キャラクターアニメーション）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 6 回目と同じ	2.0
26	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 5 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作 1（キャラクターアニメーション） つづき	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
27	事前学修	アニメーション課題の項目について確認する	2.0
	授業	アニメーション課題制作 2（キャラクターアニメーション）	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 2 8 回目と同じ	2.0
28	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 7 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題制作（キャラクターアニメーションつづき）	
	事後学修	提出する課題の作業	2.0
29	事前学修	課題を完成させる	2.0
	授業	アニメーション課題（キャラクターアニメーション） 講評会	
	事後学修	2 コマ続きの授業であり 3 0 回目と同じ	2.0
30	事前学修	2 コマ続きの授業であり 2 9 回目と同じ	2.0
	授業	アニメーション課題（キャラクターアニメーション） 講評会つづき	
	事後学修	全ての制作物の資料整理と提出	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[プレゼンテーションなど： %]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で提出課題の講評をおこないます。

教科書	
参考書・Web サイト	・世界一わかりやすい Maya はじめてのモデリングの教科書
単位修得が望ましい科目	なし
備考	Maya 以外のモデリングソフトを使用しても構いません。
担当教員の実務経験	河原：アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を活かし、効率的・効果的な作成を指導する。実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゲームCG演習 Computer Graphics and Computer Game Design Practical

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC214
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
本授業では、前半はドット絵を中心とした 2D アクションゲームの制作を行い、アニメーションの知識とゲーム制作の基礎を学びます。後半は 3D モデリングとモーションの制作を行い、ゲーム制作に使える 3D 技術を学びます。どちらの課題もオンデマンド教材による反転授業（自宅で予習し、授業でさらに深める）となり、最終的にオリジナルのゲームやキャラクターアニメーション制作に繋げることを目指します。					
授業における学修の到達目標					
・ Unity によるアクションゲームの 2D グラフィックを制作する ・ Blender による 3D モデリングやモーション制作の知識と技術を習得する ・ 独自のキャラクターデザインや世界観を構築する					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の流れを把握する			4.0
	授業	授業のガイダンスと Unity のアカウント登録			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
2	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 1（ドット絵によるキャラクター素材の作成）			
	事後学修	ドット絵を制作する（キャラクターデザイン）			4.0
3	事前学修	ドット絵を制作する（キャラクター素材の作成）			4.0
	授業	Unity によるゲーム制作 2（サンプルゲームの配布と解説）			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
4	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 2（プレイヤーキャラの変更）			
	事後学修	ここまでの実習内容を振り返り、問題があれば解消する			4.0
5	事前学修	ドット絵を制作する（アイテムデザイン）			4.0
	授業	Unity によるゲーム制作 3（背景素材の作成）			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
6	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 3（タイルマップによる背景制作）			
	事後学修	ここまでの実習内容を振り返り、問題がなければオリジナルのゲーム制作に入る			4.0
7	事前学修	オリジナルゲームの検討			4.0
	授業	Unity によるゲーム制作 4（UI デザインやロゴの作成）			
	事後学修	連続授業のため指定なし			0.0
8	事前学修	連続授業のため指定なし			0.0
	授業	Unity によるゲーム制作 4（ビルドデータの出力）			
	事後学修	ゲームの完成データを提出する			4.0
9	事前学修	キャラクターのラフデザインを検討する（全身図）			4.0

	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 1 (Blender の操作方法の説明)	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
10	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 1 (モデリング作業)	
	事後学修	キャラクターの二面図を用意する (正面)	4.0
11	事前学修	キャラクターの二面図を用意する (横)	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 2 (シームと UV 展開)	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
12	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 2 (ミラーによるモデリング作業)	
	事後学修	ここまでの実習を振り返り、問題がなければオリジナルキャラクターの 3D モデリングを行う	4.0
13	事前学修	オリジナルキャラクターの 3D モデリングを行う	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 3 (ボーン作成)	
	事後学修	連続授業のため指定なし	0.0
14	事前学修	連続授業のため指定なし	0.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 3 (ウェイトマップ調整)	
	事後学修	3D モデルのウェイトマップを調整する	4.0
15	事前学修	オリジナルキャラクターを動かせる状態にする	4.0
	授業	3D キャラクターアニメーションの制作 4 (アニメーション作業)	
	事後学修	3D キャラの完成データを提出する	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題は適宜指導、段階的にチェックを行います。また、スケジュール管理はスプレッドシートで実施します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	3 D C G 演習、アニメーション基礎演習
備考	ゲーム制作や 3DCG を初めて学ぶ人に合わせて授業を進行しますが、すでに技術を持つ人はオリジナルの作品制作を進めてもらいます。また、授業中にオンデマンド教材 (PDF 資料) を読むには、作業 PC の他にスマホやノート PC があると便利です。
担当教員の実務経験	Unity による iOS・Android 用ゲーム制作や 3DCG によるアニメーション制作の実務経験を元に、アニメ制作の基礎やゲームグラフィックス制作の仕様など、制作現場での事例を紹介しながら授業を行う。

映画基礎演習 Fimmaking Basics Practical

担当教員	島田 英二(137 研究室), 大島 慶太郎(320 研究 室), 河原 大(322 研究 室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC205
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
実写の映像コンテンツ制作における基礎的な理論と表現技法について、短編映画・短編映像などを題材に鑑賞・解説や構造分析を行い、映像を「見る側」から「作る側」へ視点を移行していきます。					
基礎的な知識や技術（制作スキル）の定着を目標として随時、講義・制作演習を行います。					
演習では学生はグループに分かれ、実際に課題制作（映像、写真、音、アイデアなど）に挑戦します。与えられたテーマに対して、企画作り、準備、撮影、編集を行い作品を完成させ、出来上がった作品はグループ毎に発表し、互いに鑑賞批評を行います。チーム内でアイデアを出したり演出や効果を考えたりといったグループワークを含むほか、絵コンテを描いたり、制作機材としてデジタルカメラやデジタルビデオカメラ、三脚、PC 等を使用します。実習機材の台数に限りがあるため、希望者多数の場合は調整を行う場合があります。					
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。					
・グループワーク					
・プレゼンテーション					
・実習、実験、フィールドワーク					
・チーム基盤学習					
・ワークショップ					
授業における学修の到達目標					
1. 映画・映像の作られ方が分かる					
2. 映画・映像のみかたを深める					
3. 専門用語や映像制作の理論を習得する					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス（実習に関するオリエンテーション、授業のチーム分け等）			
	事後学修	実習内容をまとめる、グループのチームワークを整える			2.0
2	事前学修	実習内容を確認する			2.0
	授業	企画ワークショップ（ビデオカメラで映像を撮ってみる）			
	事後学修	ワークショップの内容をまとめる			2.0
3	事前学修	ソフトウェアに関する情報を収集する			2.0
	授業	デジタルムービー基礎（ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使い方）			
	事後学修	ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使い方をまとめる			2.0
4	事前学修	ビデオカメラの操作、撮り方について情報を収集する			2.0
	授業	デジタルムービー基礎（ビデオカメラの詳しい使い方、動きを撮ってみる）			
	事後学修	ビデオカメラの操作、撮り方についてまとめる、撮影を振り返る			2.0
5	事前学修	撮影・音声収録の基礎・実践 2 の台本の読み込み、撮影計画を立てる、小道具等の準備			2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践 1 2 分程度の映像シーケンスの撮影 前半（～1 分まで）			
	事後学修	撮影前半の振り返り、効果的な演出方法を検討する			2.0

6	事前学修	撮影後半部分の台本の読み込み、撮影計画を立てる、 絵コンテの確認、効果的な演出方法を検討する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践1（2分程度の映像シーケンスの撮影 後半（1分～2分まで））	
	事後学修	撮影後半の振り返り、演出方法、進行管理の反省	2.0
7	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践1：映像の編集（2分程度の映像シーケンスの編集 前半（～1分まで））	
	事後学修	映像編集（前半部分）の見直し、完成品のイメージを深める	2.0
8	事前学修	編集素材の収集、SE・BGM 選曲、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践1：映像の編集（2分程度の映像シーケンスの編集 後半（1分～2分まで））	
	事後学修	映像編集（後半部分）の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
9	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（前半 チーム1～5まで）	
	事後学修	各チームの作品（前半 チーム1～5まで）についての情報や感想をまとめる	2.0
10	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、 作品の見方を深める	2.0
	授業	講評会（後半 チーム6～9まで）、総評	
	事後学修	各チームの作品（後半 チーム6～9まで）についての情報や感想をまとめる、撮影・音声収録の 基礎・実践1で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
11	事前学修	撮影方法（同ポジション撮影）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション撮影の企画）	
	事後学修	同ポジション撮影の企画についてまとめる	2.0
12	事前学修	撮影方法（同ポジション映像）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション映像）の撮影	
	事後学修	撮影方法（同ポジション映像）についてまとめる	2.0
13	事前学修	編集方法（同ポジション映像）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション映像）の編集	
	事後学修	編集方法（同ポジション映像）についてまとめる	2.0
14	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（チーム1～9まで）	
	事後学修	撮影・音声収録の基礎・実践2（同ポジション映像）で学んだことをレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	撮影方法（CM 模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM 模写）の企画	
	事後学修	撮影方法（CM 模写）の企画についてまとめる	2.0
16	事前学修	撮影方法（CM 模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM 模写）の撮影	
	事後学修	撮影方法（CM 模写）についてまとめる	2.0
17	事前学修	編集方法（CM 模写）について情報を収集する	2.0
	授業	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM 模写）の編集	
	事後学修	編集方法（CM 模写）についてまとめる	2.0

18	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	講評会（チーム1～9まで）	
	事後学修	撮影・音声収録の基礎・実践3（CM模写）で学んだことをレポートにまとめる	2.0
19	事前学修	制作進行管理の項目出し、情報収集	2.0
	授業	制作進行管理基礎	
	事後学修	制作進行管理のまとめ	2.0
20	事前学修	資料の読み込み、指定されたWEBページを熟読する	2.0
	授業	映画史1（映画の誕生期）	
	事後学修	映画史1（映画の誕生期）のまとめ	2.0
21	事前学修	シナリオのカット割り	2.0
	授業	絵コンテ制作	
	事後学修	絵コンテのまとめ、ブラッシュアップ	2.0
22	事前学修	資料の読み込み、指定されたWEBページの熟読	2.0
	授業	映画史2（ハリウッド黄金期、技術の発展）	
	事後学修	映画史2（ハリウッド黄金期、技術の発展）	2.0
23	事前学修	企画制作、シナリオ制作	2.0
	授業	最終課題制作1（企画）	
	事後学修	企画の選別、ブラッシュアップ	2.0
24	事前学修	シナリオ案の制作、プロット	2.0
	授業	最終課題制作1（脚本・絵コンテ）	
	事後学修	シナリオのブラッシュアップ、絵コンテ制作	2.0
25	事前学修	撮影計画、絵コンテの確認、小道具等の準備	2.0
	授業	最終課題制作2（撮影 前半（～1分まで））	
	事後学修	撮影前半の振り返り、効果的な演出方法を検討する	2.0
26	事前学修	撮影後半部分の台本の読み込み、撮影計画を立てる、 絵コンテの確認、効果的な演出方法を検討する	2.0
	授業	最終課題制作2（撮影 後半（1分～2分まで））	
	事後学修	撮影後半の振り返り、演出方法、進行管理の反省	2.0
27	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	最終課題制作3（編集 前半（～1分まで））	
	事後学修	映像編集（前半部分）の見直し、完成品のイメージを深める	2.0
28	事前学修	編集素材の収集、SE・BGM選曲、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	最終課題制作3（編集 後半（1分～2分まで））	
	事後学修	映像編集（後半部分）の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
29	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終課題制作講評会（前半 チーム1～5まで）	
	事後学修	各チームの作品（前半 チーム1～5まで）についての情報や感想をまとめる	2.0
30	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、 作品の見方を深める	2.0
	授業	最終課題制作講評会（後半 チーム6～9まで）	

	事後学修	各チームの作品（後半 チーム6～9まで）についての情報や感想をまとめる、最終課題制作・この講義で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。			
グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行います。			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題： 80% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題発表時に適宜、解説し全体にフィードバックします。レポートのまとめを授業内で解説・共有します。			
教科書			
参考書・Web サイト		『トムさんの映像の撮影でたいせつなこと』 トム・シュレプル（著）（株）スノウバグズ 『一人でもできる映画の撮り方』 西村雄一郎（著） 洋泉社 『ハリウッドディレクティングバイブル—映画を監督するための9つのステップ』 マーク・トラビス（著），Mark Travis（原著），岡田勲（翻訳）愛育社	
単位修得が望ましい科目		発想法演習，デッサン，Web アニメーション基礎演習	
備考		映像を見る力や映像を読み取る力を付けたい人，映像制作をしたい人への基礎コースです。 映像アニメーションコースに進みたい人は必ず受講すること。一回の密度が高いので自己責任で出席をきちんと管理すること。3分の2以上の出席を必須条件とし，課題作品を提出しない者（チーム）は成績評価の対象としません。	
担当教員の実務経験		2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作，映画製作といった実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。	

映画制作演習-2025 年度開講- Filmmaking Practical

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		ISD206
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
実写の映像コンテンツ制作における基礎的な理論と表現技法について、短編映画・短編映像などを題材に鑑賞・解説や構造分析を行い、映像を「見る側」から「作る側」へ視点を移行していきます。 基礎的な知識や技術（制作スキル）の定着を目標として随時、講義・制作演習を行います。 演習では学生はグループに分かれ、実際に課題制作（映像、写真、音、アイデアなど）に挑戦します。与えられたテーマに対して、企画作り、準備、撮影、編集を行い作品を完成させ、出来上がった作品はグループ毎に発表し、互いに鑑賞批評を行います。チーム内でアイデアを出したり演出や効果を考えたりといったグループワークを含むほか、絵コンテを描いたり、制作機材としてデジタルカメラやデジタルビデオカメラ、三脚、PC 等を使用します。実習機材の台数に限りがあるため、希望者多数の場合は調整を行う場合があります。					
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・ワークショップ					

アニメーション基礎演習 Animation Basics Practical

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 河原 大(322 研究室), 島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC208
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
テーマ：アニメーション表現の基礎					
本演習では、アニメーション表現における基礎的な表現手法の演習及び、 アニメーション分野における多様な表現手段について解説する。動きをとまなう視覚的な表現による意思疎通や情報伝達という視点から、 多岐に渡るアニメーション表現について理解し、 アニメーション作品制作の基礎的な表現技法や視覚的表現の要素としてのアニメーションの活用性を学ぶ。					
授業における学修の到達目標					
・アニメーション表現技法の基礎を習得する。					
・アニメーション表現を基軸として、 視覚的表現領域におけるリテラシーを獲得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	アニメーション表現について調べる。			4.0
	授業	ガイダンス、 講義スケジュール及び、 課題作品への取り組み方等の解説			
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
	授業	作品鑑賞及び、 解説を通じてアニメーション表現の世界について学ぶ。			
	事後学修	鑑賞作品についてまとめる。			4.0
3	事前学修	動く映像について調べる。			4.0
	授業	アニメーションの原理についての講義を通じて、 フレームバイフレームのアニメーション構造を学ぶ。			
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
	授業	アナログメディアを用いたワークショップを通じて、 アニメーション原理を体験し理解を深める。			
	事後学修	動く映像の仕組みについてまとめる。			4.0
5	事前学修	アニメーション表現メタモルフォーゼについて調べる。			4.0
	授業	アニメーション表現メタモルフォーゼについて、 参考作品の鑑賞及び、 解説通じて学ぶ。			
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
	授業	アニメーション制作課題メタモルフォーゼの制作実習。			
	事後学修	メタモルフォーゼの表現方法についてまとめる。			4.0
7	事前学修	アニメーションの速度や変化について調べる。			4.0
	授業	動きや変化による質感の表現について、 参考作品の鑑賞及び、 解説通じて学ぶ。			
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
8	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。			0.0
	授業	アニメーション制作課題バウンズボールの制作実習。			
	事後学修	動きの質についてまとめる。			4.0

9	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。	4.0
	授業	アニメーション制作課題モーショングラフィックスの制作実習。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
10	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題モーショングラフィックスの仕上げ提出。	
	事後学修	モーショングラフィックスの表現方法を練習する。	4.0
11	事前学修	ストップモーションアニメーションについて調べる。	4.0
	授業	ストップモーションアニメーションについて、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
12	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの出題、グループによる企画制作。	
	事後学修	ピクシレーションの企画をまとめる。	4.0
13	事前学修	ピクシレーションの為のロケハンをする。	4.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの撮影実習。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
14	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの撮影実習及び、コンポジット実習。	
	事後学修	撮影素材をグループで確認する。	4.0
15	事前学修	仕上げに必要な素材（音声や画像）を準備する。	4.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの編集実習及び、再撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
16	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション制作課題ピクシレーションの編集実習及び、仕上げ作業。	
	事後学修	ストップモーションアニメーションの表現方法についてまとめる。	4.0
17	事前学修	映像と音声について調べる。 自分の興味のある映像や音楽分野で良い。	4.0
	授業	古典的なアニメーションの動きとサウンドの表現について、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
18	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	最先端のアニメーションの動きとサウンドの表現について、参考作品の鑑賞及び、解説通じて学ぶ。	
	事後学修	アニメーションの動きとサウンドの表現についてまとめる。	4.0
19	事前学修	アニメーション作品の構想を練る。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題、テーマに沿った作品制作の企画及び、リサーチ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
20	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題、テーマに沿った作品制作の企画プレゼンテーション。	
	事後学修	企画の修正やブラッシュアップをする。	4.0
21	事前学修	アニメーション制作の為のリサーチや技術テストをする。	4.0

	授業	アニメーション作品制作課題，イメージボードとコンテを作成する。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
22	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，イメージボードとコンテのプレゼンテーション。	
	事後学修	イメージボードとコンテの修正やブラッシュアップをする。	4.0
23	事前学修	作品素材を作成する。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，動画コンテ作成又は，撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
24	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，動画コンテ作成又は，撮影の確認をする。	
	事後学修	動画コンテ作成又は，撮影の不足部分を補う作業をする。	4.0
25	事前学修	作画の為の下準備やリサーチ，撮影のための準備をする。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，作画作業又は，撮影。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
26	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，進捗レビューチェック。	
	事後学修	修正箇所やスケジュールの確認をする。	4.0
27	事前学修	タイトルデザインを構想する。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，タイトルデザインの素材作成，編集の準備。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
28	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品制作課題，タイトルデザイン及び，編集。	
	事後学修	タイトル及び，編集の修正箇所の確認をする。	4.0
29	事前学修	作画，撮影，素材制作等の不足部分を補う作業をする。	4.0
	授業	アニメーション作品制作課題，編集と仕上げ。	
	事後学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
30	事前学修	2 コマ続きの授業のため割愛する。	0.0
	授業	アニメーション作品プレゼンテーション及び，講評。	
	事後学修	各受講者の成果作品を視聴する。自作との比較・検証。	4.0

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：30% ■演習課題：70% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅲ，メディアデザインの基礎演習，デザインエレメンツ・演習，映画基礎演習。必ずしも本科目の履修前に受講が必要なわけではない。
備考	使用する実習室の状況により，受講者数の制限をする場合があります。
担当教員の実務経験	様々なアニメーション表現技法を駆使してコンテンツ制作を行う現役の映像作家であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。実制作の経験をもとにアニメーション

	の基礎的な基礎的な表現手段について幅広く指導できる.

アニメーション演習-2025 年度開講- Animation Filmmaking Practical

担当教員	大島 慶太郎 (320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		ISD207
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
テーマ：アニメーション表現による作品制作					
本演習では、アニメーション表現を用いた映像作品制作について、基礎的な表現手法から、多様な表現手段について講義・演習を行う。動きをともなう視覚的な表現による意思疎通や情報伝達という視点から、多岐に渡るアニメーション表現について理解し、視覚的なコンテンツ制作におけるアニメーションの活用性を学ぶ。					

ビジュアルエフェクト演習 Visual Effects Practical

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 近藤 寛史(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMD207
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中
授業概要					
テーマ：モーショングラフィックス及び、コンポジットによる映像表現					
現代の多様な映像コンテンツ制作において必要不可欠なモーショングラフィックスや特殊効果などの映像加工技術、表現について講義，演習を行う。					
講義では，映像作品や広告映像などの制作事例を通して，企画立案から視覚的な表現展開，作品化について映像デザインの観点から解説し，理解を深める。また，映像表現の最新動向についても触れる。					
演習では，主に Adobe After Effects を用いた映像制作に取り組む。					
授業における学修の到達目標					
様々なビジュアル素材を用いた映像表現の制作フローを理解し，映像コンテンツの実践的な制作技術を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Adobe After effects について調べる。			2.0
	授業	ガイダンス， Adobe After effects についての解説講義。 主に関連する映像作品の紹介。			
	事後学修	Adobe After effects の特徴についてまとめる。			2.0
2	事前学修	広告映像について調べる。			2.0
	授業	最新の広告映像の作品鑑賞及び， 解説講義。			
	事後学修	最新の広告映像の Adobe After effects を用いた制作例についてまとめる。			2.0
3	事前学修	ミュージックビデオについて調べる。			2.0
	授業	最新のミュージックビデオの作品鑑賞及び， 解説講義。			
	事後学修	最新のミュージックビデオの Adobe After effects を用いた制作例についてまとめる。			2.0
4	事前学修	撮影及び， マスク処理について調べる。			2.0
	授業	撮影及び， マスク処理による映像作品の鑑賞及び， 解説講義。			
	事後学修	撮影及び， Adobe After effects を用いたマスク処理についてまとめる。			2.0
5	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。			2.0
	授業	Adobe After effects を用いたモーショングラフィックス作品の鑑賞及び， 解説講義。			
	事後学修	Adobe After effects を用いたモーショングラフィックスついてまとめる。			2.0
6	事前学修	Adobe After effects の特徴を用いた映像表現について調べる。			2.0
	授業	Adobe After effects を用いた複合的な映像表現の作品鑑賞及び， 解説講義。			
	事後学修	Adobe After effects を活かした様々な映像表現についてまとめる。			2.0
7	事前学修	Adobe After Effects の機能について調べる。			2.0
	授業	Adobe After Effects のインターフェイス及び， 機能についての解説及び， 実習。			
	事後学修	Adobe After Effects のインターフェイス及び， 機能についてまとめる。			2.0
8	事前学修	Adobe After Effects の操作方法について調べる。			2.0
	授業	Adobe After Effects の基礎的な操作についての解説及び， 実習。			
	事後学修	Adobe After Effects の操作方法を練習する。			2.0
9	事前学修	キーフレームについて調べる。			2.0

	授業	コンポジションとキーフレームの課題実習に取り組む。	
	事後学修	コンポジションとキーフレーム操作の練習	2.0
10	事前学修	平面レイヤーについて調べる。	2.0
	授業	平面レイヤーとモーションの課題実習に取り組む。	
	事後学修	平面レイヤーとモーション付けの練習をする。	2.0
11	事前学修	スタビライズについて調べる。	2.0
	授業	マスクとスタビライズの課題実習に取り組む。	
	事後学修	マスクとスタビライズを用いた操作の練習をする。	2.0
12	事前学修	モーションタイポグラフィ、フォントについて調べる。	2.0
	授業	モーションタイポグラフィの課題実習に取り組む。	
	事後学修	モーションタイポグラフィの制作方法の練習をする。	2.0
13	事前学修	モーショングラフィックスについて調べる。	2.0
	授業	モーショングラフィックスの課題実習に取り組む。	
	事後学修	モーショングラフィックスの表現方法を練習する。	2.0
14	事前学修	課題作品の発表準備をする。	2.0
	授業	作品プレゼンテーション及び、講評会	
	事後学修	作品についての講評・アドバイスを踏まえて、課題作品の修正をする。	2.0
15	事前学修	課題作品の仕上げをする。	2.0
	授業	課題作品を完成させ提出する。	
	事後学修	課題作品の制作工程を振り返り、まとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題作品ごとに個人の成果をチェックし、コメントする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，グラフィック系科目
備考	Adobe AfterEffects による映像表現を主体としたスキルアップ及び、応用的な作品制作に根ざした実習内容となります。映像系及び、デザイン系のクリエイティブ志向の高い学生向けの実習レベルに設定しています。 履修登録人数に制限を設けており、履修希望者が多い場合は、『単位が望ましい科目』の成績上位者を優先します。
担当教員の実務経験	実写映像の合成処理やモーショングラフィックスを駆使してコンテンツ制作を行う現役の映像ディレクター・映像作家である。実制作の経験をもとに表現ツールの基礎的な操作方法から、最先端の表現まで幅広く指導できる。

ビジュアルエフェクト演習-2025 年度開講- Visual Effects Practical

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		ISD208
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	夏期集中
授業概要					
テーマ：モーショングラフィックス及び、コンポジットによる映像表現 現代の多様な映像コンテンツ制作において必要不可欠なモーショングラフィックスや特殊効果などの映像加工技術，表現について講義，演習を行う。 講義では，映像作品や広告映像などの制作事例を通して，企画立案から視覚的な表現展開，作品化について映像デザインの観点から解説し，理解を深める。また，映像表現の最新動向についても触れる。 演習では，主に Adobe After Effects を用いた映像制作に取り組む。					

デジタルサウンド・演習 Digital Sound Practical

担当教員	風間 泰弘(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	講義		IMD208	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	前期	
授業概要						
PC を使った音楽制作を学ぶ演習です。現代のレコーディングや音楽制作には欠かせない DAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の習得を目指し、作曲からレコーディング、そしてミキシングやマスタリングといった、音楽制作のワークフローを学習します。PC での音楽制作に特化した授業内容となっており、ビギナーにもわかりやすく解説します。DAW ソフト「Studio One」を使いながら、操作方法はもちろん、作曲の手法やサウンドアレンジのテクニックについても基礎から学んでいきます。						
授業における学修の到達目標						
音楽制作のワークフローに触れ、自分の可能性を見つけていただきたい。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備				2.0
	授業	DAW の概要・DAW ソフト（Studio One）の基本操作				
	事後学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
2	事前学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [基礎] (1)				
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる				2.0
3	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備				2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [基礎] (2)				
	事後学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
4	事前学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [基礎] (3)				
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる				2.0
5	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備				2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [応用] (1)				
	事後学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
6	事前学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
	授業	MIDI レコーディング・打ち込み [応用] (2)				
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる				2.0
7	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備				2.0
	授業	サンプル素材を使ったオーディオ編集 (1)				
	事後学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
8	事前学修	演習作業、授業内容の復習				2.0
	授業	サンプル素材を使ったオーディオ編集 (2)				
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる				2.0
9	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備				2.0
	授業	オーディオ/MIDI の編集 (1)				

	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
10	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	オーディオ/MIDI の編集 (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
11	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	YOSAKOI ソーラン楽曲制作 (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
12	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	YOSAKOI ソーラン楽曲制作 (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
13	事前学修	授業内容の把握とレコーディング機材の搬入・設定	2.0
	授業	マイクレコーディング (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
14	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	マイクレコーディング (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
15	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	ミキシング (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
16	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	ミキシング (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
17	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	ミキシング (3)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
18	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	ミキシング (4)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
19	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	マスタリング (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
20	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	マスタリング (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
21	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	試験課題制作 (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
22	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	試験課題制作 (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0

23	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	試験課題制作 (3)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
24	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	試験課題制作 (4)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
25	事前学修	授業内容の把握と PC、MIDI コントローラ等の準備	2.0
	授業	試験課題制作 (5)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
26	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	試験課題制作 (6) ・ 試験課題提出	
	事後学修	データのバックアップ、提出課題の最終チェック	2.0
27	事前学修	授業内容の把握と PA 機材の設定・設置	2.0
	授業	PA 実習 (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
28	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	PA 実習 (2)	
	事後学修	データのバックアップ、演習内容をまとめる	2.0
29	事前学修	授業内容の把握と PA 機材の設定・設置	2.0
	授業	作品発表会 (1)	
	事後学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
30	事前学修	演習作業、授業内容の復習	2.0
	授業	作品発表会 (2)	
	事後学修	発表会を振り返り、演習作業の復習	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 50% □小テスト： % ■レポート： % ■演習課題： 50%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題、試験課題等に対するフィードバックは、授業において直接行う。

教科書	
参考書・Web サイト	
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド
備考	平山晴花先生が並行して講義される『デジタルサウンド演習』の受講生と合同で、PA 実習や作品発表会を行う予定です。
担当教員の実務経験	地元札幌を拠点に精力的に活動しているシンガーソングライター＆サウンドプロデューサー。年間数十本ものライブをこなしながら CD アルバムも数多く制作。マルチプレーヤーであり、ギター、ベース、ピアノ、サックス、パーカッション、ペダルスチールなどのあらゆる楽器を演奏する。ポップスはもちろん、ジャズ、クラシック、フォーク、日本伝統音楽などにも精通したサウンドアレンジには定評があり、インディーズレーベル『セピアムーンレコーズ』のサウンドプロデューサーとして、北海道内外を問わず数多くのアーティストやミュージシャン作品を手がけている。株式会社アンブリチュード代表取締役。

	制作現場で培われた手法を基礎から分かりやすく解説し、PCを使った音楽制作を演習します。

デジタルサウンド・演習 Digital Sound Practical

担当教員	平山 晴花(128 研究室), 鐘撞 行孝(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	講義	○	IMD208
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	前期
授業概要					
前半は、DAW（デジタルオーディオワークステーション）のソフトウェアである Studio One を使い、音楽制作や編集の実践を通して MIDI 情報とオーディオ情報処理の基礎を学ぶ。また、録音や PA（Public Address）機材の知識と使い方も実習する。					
グループワークによる作業や、作品発表等におけるディスカッションが含まれる。					
授業における学修の到達目標					
MIDI 情報の扱い、オーディオ情報の扱い方について修得する。録音機材についての知識をつけ、扱い方を理解する。Public Address システムに関する機材やその接続について経験し、ライブパフォーマンスの運営に関する基礎知識をつける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	DTM、DAW とは何かについて調べる			2.0
	授業	ガイダンスと機材の紹介			
	事後学修	調性、音の長さ、拍、テンポ、小節の概念について調べる			2.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	ポップス（邦楽、洋楽）の比較と分析			
	事後学修	楽曲分析の課題			4.0
3	事前学修	リズムやシンコペーションと表現の違いについて調べる			4.0
	授業	楽曲分析とグループディスカッション			
	事後学修	特になし			0.0
4	事前学修	特になし			0.0
	授業	MIDI 情報と入力について			
	事後学修	MIDI 情報の打ち込み課題			4.0
5	事前学修	いろいろな MIDI 情報の打ち込み方法を検討し練習する。			4.0
	授業	MIDI データの編集			
	事後学修	特になし			0.0
6	事前学修	特になし			0.0
	授業	MIDI ノートエフェクツ（Note Fx）を用いて変化をつける			
	事後学修	Note Fx を用いたアレンジ課題			4.0
7	事前学修	MIDI データと音データの違い、いろいろな音メディアのフォーマットについて調べる。			4.0
	授業	音波形データについて、波形編集の基礎。			
	事後学修	特になし			0.0
8	事前学修	特になし			0.0
	授業	アレンジメントとループ素材について。			
	事後学修	ループ素材を使ったアレンジ制作課題			4.0
9	事前学修	録音を聴き、各楽器の音量や各楽器の音の方向を意識し、比較する。			4.0

	授業	録音比較とディスカッション、ミキシングの基礎	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	ミキシングの実践	
	事後学修	ミキシングの課題	4.0
11	事前学修	さまざまな録音を聴き、音の前後上下左右の位置や、音の明るさや暗さなど比較する。	4.0
	授業	録音比較とディスカッション、課題のフィードバックとブラッシュアップ	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題のブラッシュアップとグループディスカッション	
	事後学修	課題の制作と書き出し	4.0
13	事前学修	スピーカー、オーディオミキサー、オーディオインターフェースについてと使い方を調べる	4.0
	授業	DTM のモニタリング環境と作品発表	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	作品発表とディスカッション	
	事後学修	作品制作および作品分析に関するレポート	4.0
15	事前学修	野外、スタジオ、会場、目的に応じた録音方法や機材の違いについて調べる。	4.0
	授業	課題に関するディスカッション、録音機材と録音手法の違いについて	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	特になし	0.0
	授業	録音実習の準備とグループディスカッション (機材の準備、グループ分け、音源について)	
	事後学修	バンドや楽器アンサンブルの録音におけるマイクの種類や場所、録り方の違いなど比較する。	4.0
17	事前学修	特になし	0.0
	授業	録音実習 (セットアップ)	
	事後学修	音楽再生と制作の歴史についてリーディング課題	4.0
18	事前学修	特になし	0.0
	授業	録音実習 (録音)	
	事後学修	録音機材やソフトウェアの設定の復習	4.0
19	事前学修	特になし	0.0
	授業	録音実習 (含：録音を聴く、データの管理)	
	事後学修	録音したものを、音質、音の距離、雑音、音の位置などに注意し聴く。	4.0
20	事前学修	ASMR、具体音楽、サウンドデザイン、サウンドアートについてそれぞれ調べる。	4.0
	授業	「具体音」に関するディスカッション、具体音楽作品とは	
	事後学修	特になし	0.0
21	事前学修	特になし	0.0
	授業	具体音楽作品の美学についてと鑑賞	
	事後学修	具体音楽作品に関するレポート	4.0
22	事前学修	ゲーム、映画、アニメーションなど、目を閉じて聴き、音情報からどんなことがわかるか調べる	4.0

	授業	オーディオエフェクツ (Audio Fx) と音の変容について	
	事後学修	特になし	0.0
23	事前学修	特になし	0.0
	授業	オーディオエフェクト (Audio Fx) の応用	
	事後学修	具体音楽作品またはサウンドデザインのプランニング	4.0
24	事前学修	具体音楽作品またはサウンドデザインの制作課題	4.0
	授業	課題制作とフィードバック、ディスカッション	
	事後学修	特になし	0.0
25	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題制作とフィードバック、ディスカッション	
	事後学修	具体音楽作品またはサウンドデザインの制作課題	4.0
26	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題制作とフィードバック、ディスカッション	
	事後学修	課題作品を仕上げ提出	4.0
27	事前学修	PA とは何か、必要機材やケーブルの違いについて調べる	4.0
	授業	PA と機材についての説明、ディスカッション	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 実習 (セットアップ)	
	事後学修	テクニカルライダーについて復習する。	4.0
29	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 実習	
	事後学修	テクニカルライダーを書く。	4.0
30	事前学修	特になし	0.0
	授業	音楽鑑賞会	
	事後学修	鑑賞会のレポート提出	4.0

成績評価の方法およびその基準

■ レポートや演習課題、発表：60% ■ その他[ディスカッション、実習等での取り組み]：40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中、または POLITE 上でフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	『ミュージッククリエイターハンドブック MIDI 検定公式ガイド』 YAMAHA Music Media 出版 その他、必要に応じて授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド、芸術演習 (どちらも必須ではない)
備考	コンピュータのスペックおよび DAW ソフトウェアの環境が整っていれば、個人のコンピュータの持ち込み可能 (Win/Mac)。データの紛失や破損等による課題提出不可は認めない。そのようなことがないように、クラウドのストレージや USB フラッシュメモリ等で各自データ管理はすること。
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

P A 技術演習 -2025 年度開講- PA Systems

担当教員	未定（）	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		ISD210
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	未定
授業概要					
コンサートやライブパフォーマンス、舞台芸術などには欠かせない PA（Public Address）技術について実践的に学ぶ。また同時に、照明機材の基礎知識と操作に関しても取り扱う。					
集中講義期間を通して、簡単な舞台制作または演出を行なう（Ex. コンサートの演出 and/or シアター作品の演出）。					

担当教員	伊藤 マーティ ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		IMD301
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
印刷業界の現場で行われているテクノロジーやルールを学習し、作品作りで実習する。DTP（DeskTop Publishing / DeskTop Prepress）とは、コンピュータによる出版を意味する。書籍、新聞、広告デザイン印刷物などの編集に際して行うデザイン、割り付けなどの作業をコンピュータ上で行い、印刷機やプリンターで出力を行うこと。印刷は現代のデジタルコンテンツのベースアイテムとしてとらえることができる。その中でも、印刷物を「デザイン」する作業は表現すべての元を創り上げる大事な部分です。また印刷完成までには、ひとつのデータが多くの作業工程と人の手と機械を介し仕上がることを理解し、基本を知った上でデザインデータを仕上げることを身につける。講義、実習、課題提出を組み合わせた講座とする。 本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、メディアデザインの基礎・演習/デザインエレメンツ・演習/ビジュアル構成演習の講義受講後の履修が望ましい。					
授業における学修の到達目標					
DTP ではデザイン系をめざすものには「DTP」に基づくデザインづくりを身に付けることを目標とし、また、デザイン系をめざさない学生にも印刷デザインに関する知識、感覚を社会で生かしていけるよう、現代のデジタルコンテンツの核である「DTP」の知識、技術を身につけてもらうことを目標としている。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する			2.0
	授業	・ 授業ガイダンス ・ ファイリングの必要性和運用について学ぶ ・ 単純画像を用いた自分のシンボルマーク作り			
	事後学修	授業内容をまとめ復習する			2.0
2	事前学修	Adobe illustrator の利用方法を復習する			2.0
	授業	・ DTP の基本構造の構築について学ぶ ・ 画像素材の解像度、リンク・埋め込みなど ・ 画像切り抜き方法のおさらい			
	事後学修	授業内容をまとめ復習する			2.0
3	事前学修	素材となる写真準備 実習内容の確認を行う			2.0
	授業	【ポストカード】 ・ 写真の取り扱い方法を実践する ・ 写真を使ったデザインを考える ・ スマホ→PC への写真の取り込み方（ドライブ or Gmail）			
	事後学修	授業内容をまとめ復習する			2.0
4	事前学修	実習内容の確認を行う			2.0
	授業	【ポストカード】 ・ 自分なりのデザインを反映させる ・ 入稿データの制作			
	事後学修	授業内で制作しきれなかった部分を完成させる			2.0
5	事前学修	自身が作成したポストカードデザインを見直す。誤りがあれば修正を行う。			2.0

	授業	マージン・トラップなどページに関するルールとオペレーションについて学ぶ	
	事後学修	授業内容をまとめ復習する	2.0
6	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン① リーフレットデザインの制作手順と内容	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
7	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン② リーフレットデザインのベースフォーマットの作り方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
8	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン③ リーフレットデザインの作業手順について リーフレットデザインの下絵の貼り付け方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
9	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	リーフレットデザイン④ リーフレットデザインの制作に関して リーフレットデザインの提出方法の確認	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
10	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン① ガイダンス 小冊子デザインの実データ製作時の注意点	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
11	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン② 小冊子デザインのための画像解像度を整える方法	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
12	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン③ 小冊子デザインの画像加工について	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
13	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	小冊子デザイン④ 小冊子デザインの文字組みや効果について	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
14	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0
	授業	封筒デザイン① ガイダンス・封筒デザインの作り方	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
15	事前学修	実習内容の確認を行う	2.0

	授業	封筒デザイン② 全課題の振り返り、クオリティアップ	
	事後学修	実習内容をまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する □試験：0% □レポート：0% □小テスト：0% ■演習課題：100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
演習課題に対するコメントによってフィードバックを行う			
教科書			
参考書・Web サイト		とくになし	
単位修得が望ましい科目		メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習	
備考		本講義は印刷物を扱うため、印刷ができる環境が必要です。自宅・大学での印刷や、コンビニエンスストアでのプリンター等を活用してください。 また、本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、以下の科目の単位を取得していることを強く推奨します。 ・デザインエレメンツ・演習 ・ビジュアル構成演習 ・グラフィック制作プロジェクト 受講人数が多い場合、履修制限を行う可能性があります。	
担当教員の実務経験		ウィキペディア (https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ) 広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。	

DTP 演習-2026 年度開講- DTP Practical

担当教員	伊藤 マーティ ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		ISD301
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
印刷業界の現場で行われているテクノロジーやルールを学習し、作品作りで実習する。DTP（DeskTop Publishing / DeskTop Prepress）とは、コンピュータによる出版を意味する。書籍、新聞、広告デザイン印刷物などの編集に際して行うデザイン、割り付けなどの作業をコンピュータ上で行い、印刷機やプリンターで出力を行うこと。印刷は現代のデジタルコンテンツのベースアイテムとしてとらえることができる。その中でも、印刷物を「デザイン」する作業は表現すべての元を創り上げる大事な部分です。また印刷完成までには、ひとつのデータが多くの作業工程と人の手と機械を介し仕上がることを理解し、基本を知った上でデザインデータを仕上げることを身につける。講義、実習、課題提出を組み合わせた講座とする。					
本講義は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となるため、メディアデザインの基礎・演習/デザインエレメンツ・演習/ビジュアル構成演習の講義受講後の履修が望ましい。					

映像制作プロジェクト Filmmaking Project

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室), 河原 大(322 研究室), 島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMD204
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
テーマ：チーム又は、個人によるプロジェクト形式の映像制作					
本プロジェクト演習では、映画制作や映像制作、アニメーション表現の基礎に加え、様々な情報技術、デザインスキル等も活用しながら、プロジェクト形式での映像コンテンツ制作に取り組みます。映像作品の企画・制作・発表までの一連の流れをチーム又は、個人によるプロジェクトとして完遂し、その過程の中で、企画力・制作スキル・チームワーク・プロジェクト管理能力・プレゼンテーション能力・問題解決能力などを体得します。					
授業における学修の到達目標					
企画力、制作スキル、チームワーク、プロジェクト管理能力、プレゼンテーション能力を培い、プロジェクト型の映像コンテンツ制作に向けた総合的かつ応用的な知識の理解とスキルを身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	グループでプロジェクトに取り組みたい場合、受講者は事前にグループの構想ができていることが望ましい。但し人数配分の関係で調整される場合がある。また個人で取り組みことでも問題はない。			4.0
	授業	ガイダンス、本講義におけるプロジェクト制作の取り組み方について解説する。			
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
2	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
	授業	課題制作 1 についての講義及び、映像資料の鑑賞。			
	事後学修	確定したグループメンバーとの連絡先共有及び、親交を深める。各自の得意分野や制作したい作品についてディベートする。			4.0
3	事前学修	作品プランについて意見交換する。			4.0
	授業	制作課題 1 についての企画立案をする。			
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
4	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
	授業	制作課題 1 についての企画立案及び、企画のチェックを受ける。			
	事後学修	企画内容の共有をする。			4.0
5	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。			4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び、素材制作。			
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
6	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
	授業	撮影及び、素材制作。			
	事後学修	制作作業の状況の共有。			4.0
7	事前学修	進捗状況の確認、編集の準備。			4.0
	授業	コンポジット、編集作業。			
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0
8	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。			0.0

	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
9	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作 1 作品プレゼンテーション。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
10	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 1 作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0
11	事前学修	課題制作 1 作品の反省点を共有する。	4.0
	授業	課題制作 2 についての講義。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
12	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 2 についての映像資料の鑑賞。	
	事後学修	制作したい作品についてディベートする。	4.0
13	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
	授業	制作課題 2 についての企画立案をする。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
14	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	制作課題 2 についての企画立案及び，企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
15	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び，素材制作。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
16	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	撮影及び，素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
17	事前学修	進捗状況の確認，編集の準備。	4.0
	授業	コンポジット，編集作業。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
18	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	編集作業，進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ，ムービーファイルの書き出し。	4.0
19	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作 2 作品プレゼンテーション。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
20	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 2 作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0
21	事前学修	課題制作 2 作品の反省点を共有する。	4.0
	授業	課題制作 3 についての講義。	

	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
22	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 2 についての映像資料の鑑賞。	
	事後学修	制作したい作品についてディベートする。	4.0
23	事前学修	作品プランについて意見交換する。	4.0
	授業	制作課題 3 についての企画立案をする。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
24	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	制作課題 2 についての企画立案及び、企画のチェックを受ける。	
	事後学修	企画内容の共有をする。	4.0
25	事前学修	撮影や素材制作などの準備を進める。	4.0
	授業	制作スケジュールの確認。撮影及び、素材制作。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
26	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	撮影及び、素材制作。	
	事後学修	制作作業の状況の共有。	4.0
27	事前学修	進捗状況の確認、編集の準備。	4.0
	授業	コンポジット、編集作業。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
28	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	編集作業、進捗状況のチェック。	
	事後学修	最終仕上げ、ムービーファイルの書き出し。	4.0
29	事前学修	プレゼンテーションの準備。	4.0
	授業	課題制作 3 作品プレゼンテーション。	
	事後学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
30	事前学修	2 コマ続きの授業の為割愛する。	0.0
	授業	課題制作 3 作品の講評。	
	事後学修	講評内容を踏まえて課題点を見出す。	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ビジュアルエフェクト演習
備考	特になし。
担当教員の実務経験	様々な映像分野のコンテンツ制作を行う現役の映画監督、エンターテインメントコンテンツ開発者、映像作家である。実制作の経験をもとにプロジェクトベースの映像企画・制作について幅広く指導できる。

グラフィック制作プロジェクト Graphic Design Project

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室), 伊藤 マーティ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMD205	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		2 年	後期	
授業概要						
本演習はデザインの基礎とアプリケーション Adobe Illustrator と Photoshop の基本と応用をしっかり身につけた上で、特定イベントの広報媒体のデザインに取り組む。1 年生、2 年生でこれまでに学んできた、グラフィックデザインに関する知識と技術を応用する科目である。授業課題では、ロゴ・イラスト等からなるイベントのチラシのデザインを行う。 必要な画像・イラストレーションなどのデザイン素材を自作するだけでなく、適切なデザイン素材を探し、活用するためのスキルも身に着ける。グラフィックデザイン系の職業を目指している学生には必須の内容となる。 本演習は Illustrator、Photoshop の基本操作と、デザイン方法を習得していることが前提となる。そのため「メディアデザインの基礎・演習」、「デザインエレメンツ・演習」、「ビジュアル構成演習」の講義受講後の履修が望ましい。						
授業における学修の到達目標						
・ 目的に応じた情報の重要度を見極め、それらをヴィジュアル表現に展開できる ・ 広告媒体のターゲットを考え、ターゲットに合わせたイメージ、フォントを選ぶことができる ・ 印刷のために必要な要件を理解し、それらを満たしたデータを作成することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。それまでに受講した授業で取り組んだ、Adobe Illustrator と Photoshop の操作方法を確認しておく。				4.0
	授業	ガイダンス（授業の目的・内容・基礎知識について） イベントチラシのトレース（1）課題説明とデザインの優先度に関する座学				
	事後学修	トレース課題で再現方法が不明な部分を、インターネットなどで調べておく。				0.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	イベントチラシのトレース（2）トレース練習 ロゴ、背景				
	事後学修	授業内容の復習を行う				4.0
3	事前学修	講義内容の確認を行う				4.0
	授業	イベントチラシのトレース（3）トレース練習-3 文字、レイアウト				
	事後学修	特になし				0.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	イベントチラシのトレース（4）完成、分析レポート				
	事後学修	講義内容を復習する				4.0
5	事前学修	実習・講義内容の確認を行う				4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（1）企画書制作に向けたレクチャー				
	事後学修	特になし				0.0
6	事前学修	特になし				0.0
	授業	江別のイベントチラシ（2）企画書作成のための調査				
	事後学修	実習内容をまとめる				4.0
7	事前学修	実習・講義内容の確認を行う				4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（3）企画書作成 ターゲット策定				
	事後学修	特になし				0.0

8	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（4）企画書作成 イメージ収集	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
9	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（5）企画書に基づいたラフスケッチ制作-1	
	事後学修	特になし	0.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（6）企画書に基づいたラフスケッチ制作-2	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
11	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（7）ロゴデザインのラフスケッチ-1	
	事後学修	特になし	0.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（8）ロゴデザインのラフスケッチ-2	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
13	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（9）ロゴデザインの清書	
	事後学修	特になし	0.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（10）ロゴデザインのブラッシュアップ	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
15	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（11）イラスト制作 ラフスケッチ	
	事後学修	特になし	0.0
16	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（12）イラスト・素材制作 清書-1	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
17	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（13）イラスト・素材制作 清書-2	
	事後学修	特になし	0.0
18	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（14）イラスト・素材制作 配色の調整	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
19	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（15）イラスト・素材制作 ブラッシュアップ	
	事後学修	特になし	0.0
20	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（16）全体のレイアウト 掲載情報の検討	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
21	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0

	授業	江別のイベントチラシ制作（17）文字情報の整理	
	事後学修	特になし	0.0
22	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（18）全体のレイアウト ロゴとイラストの配置	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
23	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（19）配色とサイズの検討	
	事後学修	特になし	0.0
24	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（20）印刷・カット	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
25	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（21）ブラッシュアップ	
	事後学修	特になし	0.0
26	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（22）発表準備 自身の作品の分析	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
27	事前学修	実習・講義内容の確認を行う	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（23）発表準備 原稿準備	
	事後学修	特になし	0.0
28	事前学修	特になし	0.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（24）プレゼンテーション・講評（1）	
	事後学修	実習内容をまとめる	4.0
29	事前学修	制作物のコンセプト、特徴、反省点などを説明可能なように考えておく	4.0
	授業	江別のイベントチラシ制作（25）プレゼンテーション・講評（2）	
	事後学修	特になし	0.0
30	事前学修	特になし	0.0
	授業	全体の振り返りと作品提出（最終）	
	事後学修	自分以外の作品の良い部分を取り入れ、自身の作品のクオリティを更に高める	4.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： 0% □小テスト： 0% □レポート： 0% ■演習課題： 100% ■その他[グループ討議 0% プレゼンテーション 0%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物・発表内容に対しコメントによりフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉エムディエヌコーポレーション
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習
備考	特になし

担当教員の実務経験	坂本牧葉 2011～2021 年まで大学広報のデザイン（ポスター・チラシ、大学案内など）に携わる。イベント用チラシ、イラストレーションなどの制作経験あり。 伊藤マーティ ウィキペディア（https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ） 広告代理店に 7 年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。

Web制作プロジェクト Web Design Project

担当教員	安田 光孝(135 研究室), 斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC207
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
Web 制作演習で培った Web サイト制作の基礎的なテクニックを更に発展させ、 サイト全体を戦略に基づいて構築する訓練を行う。					
ケースメソッドによる（場合によっては、リアルな）実践課題を用い、 調査をもとに Web 戦略を策定して、 設計、 デザイン、 HTML/CSS によるコーディングの演習を行う。					
※Fugma, Adobe Illustrator, Photoshop の使い方をマスターしていることと, HTML と CSS を使いこなせることが前提です。ソフトの使い方やコーディングを学ぶ講義ではありません。					
※この講義は、グループワークを多く含みます。					
授業における学修の到達目標					
Web デザインを単なるデザインから、 ソリューション（解決策） 提供の手段として活用できるまでの応用力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	講義の目的, スケジュールについて確認しておく			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	講義内容を再確認する			2
2	事前学修	Web 制作のプロセスを復習する			2
	授業	チーム分け ケース（事例）についての調査			
	事後学修	授業で調べたことを振り返る			2
3	事前学修	提示資料を事前に見ておく			2
	授業	ケース（事例）の把握と課題分析 ＊履修者の学習状況に応じて、ケースではなく個別テーマを設ける場合があります。			
	事後学修	提示資料を再確認し、制作する Web サイトのイメージをふくらませる			2
4	事前学修	ペルソナとはなにか、調べておく			2
	授業	ペルソナの策定 今まで調査した内容からペルソナの候補を複数挙げる			
	事後学修	それぞれのペルソナを掘り下げてみる			2
5	事前学修	それぞれのペルソナを見直す			2
	授業	ペルソナの策定 複数のペルソナから一つのペルソナに絞る			
	事後学修	絞ったペルソナについて掘り下げてみる			2
6	事前学修	コンセプトのアイディア出しをする			2
	授業	サイトコンセプト策定 ペルソナを訴求するコンセプトを考える			
	事後学修	複数のコンセプトを検証する			2

7	事前学修	複数のコンセプトを検証する	2
	授業	サイトコンセプト策定 ペルソナを訴求するコンセプトを決定する	
	事後学修	決定したコンセプトを更に掘り下げしてみる	2
8	事前学修	コンテンツのアイディアを考える	2
	授業	サイトマップ作成 ペルソナに訴求するコンテンツを考える	
	事後学修	他にコンテンツがないか調べてみる	2
9	事前学修	コンテンツをすべて洗い出す	2
	授業	サイトマップ作成 挙がったコンテンツをもとにサイトの全体像を設計する	
	事後学修	サイトマップで補足がないか調べてみる	2
10	事前学修	トップページの要素を考えてみる	2
	授業	ワイヤーフレーム作成 サイトマップに基づき、トップページのワイヤーフレームを作成する	
	事後学修	トップページの要素で抜け落ちがないか確認する	2
11	事前学修	サブページで共通する要素を考えてみる	2
	授業	ワイヤーフレーム作成 サイトマップに基づき、各ページのワイヤーフレームを作成する	
	事後学修	各ページのワイヤーフレームを見直す	2
12	事前学修	デザインのテイストを考えてみる	2
	授業	トップデザイン作成 ラフ案作成	
	事後学修	カラーを複数検討してみる	2
13	事前学修	ラフ案のパターンを考えてみる	2
	授業	コンテンツページデザイン作成 ラフ案作成	
	事後学修	デザイン案の最終テイストを確認する	2
14	事前学修	提案書の構成を考える	2
	授業	提案書作成 課題・問題提起・コンセプト・コンテンツ	
	事後学修	提案書の前半の内容を見直す	2
15	事前学修	後半の内容を検討する	2
	授業	提案書作成 サイトマップ・ワイヤーフレーム・デザイン案（ラフ）	
	事後学修	提案書を見直し、完成度を上げる	2
16	事前学修	プレゼンテーションの練習を行う	2
	授業	提案書プレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返りを行う	2
17	事前学修	提案書の修正点を挙げてみる	2
	授業	提案書見直し 課題・問題提起・コンセプト・コンテンツ	

	事後学修	提案書の修正を見直す	2
18	事前学修	提案書後半の修正点を挙げてみる	2
	授業	提案書見直し サイトマップ・ワイヤーフレーム・デザイン案（ラフ）	
	事後学修	提案書全体を見直す	2
19	事前学修	Web サイト開発のプロセスを調べてみる	2
	授業	サイト開発を本格化する際の注意事項	
	事後学修	講演でのメモを見直し，関係事項を調べてみる	2
20	事前学修	ラフデザイン案を見直しておく	2
	授業	トップデザイン案作成	
	事後学修	トップデザインの完成度を上げる	2
21	事前学修	コンテンツページのラフ案を見直しておく	2
	授業	コンテンツページデザイン案作成	
	事後学修	コンテンツページのデザインの完成度を上げる	2
22	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	トップページコーディング HTML 記述	
	事後学修	HTML の復習をする	2
23	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	トップページコーディング CSS 記述	
	事後学修	CSS の復習をする	2
24	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング HTML 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	HTML の復習をする	2
25	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	CSS の復習をする	2
26	事前学修	HTML の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング HTML 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	HTML の復習をする	2
27	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述（2 ページ程度分）	
	事後学修	CSS の復習をする	2
28	事前学修	CSS の復習をする	2
	授業	コンテンツページコーディング CSS 記述	

	事後学修	CSS の復習をする	2
29	事前学修	プレゼンの準備を行う	2
	授業	最終プレゼンテーション（クラスの半分）	
	事後学修	プレゼンの振り返りを行う（次回の発表の学生は発表準備）	2
30	事前学修	プレゼンの準備を行う（プレゼン終了者は反省点などを整理する）	2
	授業	最終プレゼンテーション（クラスの残り半分）	
	事後学修	プレゼンの振り返りを行う	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 グループワークについては、グループ内での行動について 自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 ■演習課題：100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レビューやプレゼンテーション時にコメントをフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		1冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座 Mana (著) SB クリエイティブ ※「Web 制作演習」の教科書です。	
単位修得が望ましい科目		Web 制作演習	
備考		特になし	
担当教員の実務経験		1994 年から 2007 年まで Web 制作会社で 100 以上の案件を経験した。また、それ以降も最新技術の体得を心がけ、常にアップデートしてきた。そこで得た手法とツールを学生に紹介し、現場に近い形での開発訓練を実施する。	

メディアアート制作プロジェクト Media Art Project

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 平山 晴花(128 研究室), 藤原 孝幸(134 研究室), 向田 茂(125 研究室), 守 啓祐(225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC310
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	後期
授業概要					
テーマ：メディア・アートを作成する					
メディアアート制作プロジェクトでは、メディアアートコースの学生とメディアプログラミングコースの学生からなるプロジェクトにより、メディアアート作品の制作に取り組みます。グラフィックや映像・アニメーション、3DCG などのデザインとプログラミングや電子工作などのテクノロジーを融合させ、魅力的な作品の制作を行います。					
授業における学修の到達目標					
グループワークによる作品制作におけるディスカッションを通じてコミュニケーション能力を向上させる。作品の企画および展示会での発表を通じて、プレゼンテーション能力を向上させる。魅力的なメディアアートの作品制作手法を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	メディアアートについて調べる			2
	授業	ガイダンス（メディアアートとは）			
	事後学修	メディアアートについてまとめる			2
2	事前学修	自分の参画できる分野について整理する			2
	授業	ガイダンス（授業の進め方、プロジェクト）			
	事後学修	本講義におけるプロジェクトについて整理する			2
3	事前学修	メディアアートの事例を調べる			2
	授業	メディアアートの動向（世界のメディアアート）			
	事後学修	興味のあるメディアアートについてまとめる			2
4	事前学修	メディアアートの事例を調べる			2
	授業	メディアアートの動向（身近なメディアアート）			
	事後学修	興味のあるメディアアートについてまとめる			2
5	事前学修	自分の持つスキル、身につけたいスキルについてのプレゼン準備			2
	授業	スキルプレゼン（前半）			
	事後学修	プレゼンでの質問、コメントをまとめる			2
6	事前学修	自分の持つスキル、身につけたいスキルについてのプレゼン準備			2
	授業	スキルプレゼン（後半）、チーム編成			
	事後学修	プレゼンでの質問、コメントをまとめる			2
7	事前学修	企画案を考える			2
	授業	企画（プレスト：アイデア出し）			
	事後学修	プレストの内容をまとめる			2
8	事前学修	企画案を考える			2
	授業	企画（ターゲット設定）			

	事後学修	プレストの内容をまとめる	2
9	事前学修	企画案と似たものを調べる	2
	授業	企画（調査：サービス）	
	事後学修	関連技術・事例をまとめる	2
10	事前学修	企画案と似たものを調べる	2
	授業	企画（調査：技術）	
	事後学修	関連技術・事例をまとめる	2
11	事前学修	企画を実現するために必要なことを考える	2
	授業	企画（実現可能性：できること）	
	事後学修	実現可能性についてまとめる	2
12	事前学修	企画を実現するために必要なことを考える	2
	授業	企画（実現可能性：できないこと）	
	事後学修	実現可能性についてまとめる	2
13	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	企画発表（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
14	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	企画発表（後半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
15	事前学修	技術的課題を考える	2
	授業	制作物の設計	
	事後学修	技術的課題をまとめる	2
16	事前学修	役割分担・スケジュールリングを考える	2
	授業	役割分担・スケジュールリング	
	事後学修	役割分担・スケジュールについてまとめる	2
17	事前学修	試作の方法を考える	2
	授業	試作：担当技術について	
	事後学修	試作の問題点をまとめる	2
18	事前学修	担当の技術を確認する	2
	授業	試作：個々の試作をあわせる	
	事後学修	試作の問題点をまとめる	2
19	事前学修	個々の制作の準備	2
	授業	制作：個々の制作に取り組む	
	事後学修	個々の制作についてまとめる	2
20	事前学修	個々の制作の準備	2
	授業	制作：個々の制作を完成させる	
	事後学修	個々の制作についてまとめる	2
21	事前学修	実施テストに向けての注意点を考える	2
	授業	制作：全体を統合する	
	事後学修	実施テストについてまとめる	2

22	事前学修	実施テストに向けての注意点を考える	2
	授業	制作：実施テスト	
	事後学修	実施テストについてまとめる	2
23	事前学修	展示方法について考える	2
	授業	展示方法（アイデア出し）	
	事後学修	展示方法についてまとめる	2
24	事前学修	展示方法について考える	2
	授業	展示方法（設計）	
	事後学修	展示方法についてまとめる	2
25	事前学修	プレゼンの準備	2
	授業	プロジェクト最終プレゼン（前半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
26	事前学修	プレゼンの準備	2
	授業	プロジェクト最終プレゼン（後半）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
27	事前学修	必要な機材を確認する	2
	授業	成果展示会（準備）	
	事後学修	機材の管理を確認する	2
28	事前学修	必要な機材を確認する	2
	授業	成果展示会（設置）	
	事後学修	機材の管理を確認する	2
29	事前学修	展示の最終確認	2
	授業	成果展示会と相互評価（投票システムを用いた相互投票）	
	事後学修	展示会での質問・コメントをまとめる	2
30	事前学修	展示の最終確認	2
	授業	成果展示会（撤収）	
	事後学修	展示会での質問・コメントをまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：％ ■小テスト：10％ ■レポート：30％ □演習課題：％ ■その他[グループワーク：10％ 発表：20％ 成果物：30％]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントをする

教科書	
参考書・Web サイト	作品の内容に関連した参考資料を適宜指導する
単位修得が望ましい科目	デザイン系の学生は発想法演習，3DCG 演習，ビジュアルエフェクト演習，アニメーション基礎演習，デジタルサウンド演習，デザインプログラミング演習 テクノロジー系の学生はメディアプログラミング演習，CG プログラミング，画像情報処理
備考	優秀作品は本学メディアデザイン展の出展作品として選定される

担当教員の実務経験	守啓祐 該当科目につき、関連する測定用の機材の作成を行い、研究を行うとともに論文作成を行ってきた。また、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。 隼田尚彦 コンサルタント会社の客員研究員として総合研究開発機構主幹のプロジェクトを始めとする様々なプロジェクトの企画立案に従事し、また環境行動学の専門家として、これまで空間とそこにいる人とのインタラクションを基本にした新しい考えを用いて約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。メディアアートは、空間全体の設計も含むインスタレーション作品の制作もあり、これらの企画立案設計の経験を生かして教育を実施する。 向田茂 1989 年より 2006 年までシステムエンジニアとしてプログラムやシステムの設計・開発に従事した。

ゲーム制作プロジェクト Game Making Project

担当教員	森川 悟 (856 研究室), 河原 大 (322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習	○	IMC308
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
2～3人でチームを作り、あらかじめ定められたテーマを元にゲームを制作します。ゲーム作品は大規模なイベントでの展示を想定したものとします。 ゲームを制作する際は企画を立て、スケジュールを組み、ゲーム制作現場に近い制作工程で作業を行います。					
授業における学修の到達目標					
チーム制作を通じてコミュニケーション能力の向上させ、スケジュール管理のノウハウを得る。ゲーム作品の企画発表や展示会を通じてプレゼンテーション能力を向上させる。基本的なゲーム作品の制作手法を身に着ける					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゲームをいろいろやってみる			4
	授業	ガイダンス（ゲーム制作とは）			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
2	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	ガイダンス（講義の進めかた）			
	事後学修	自分の作りたいゲームがこの講義に相応しいかを考える			4
3	事前学修	自身のスキルをまとめる			4
	授業	スキルに偏りが無いようにチームを編成する			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
4	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	イベント展示されているゲームの動向			
	事後学修	イベントで展示するゲームについて、自分なりの考えをまとめる			4
5	事前学修	アーケードゲームについて調べる			4
	授業	アーケードゲームの動向			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
6	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	企画を作る（アイデア出し）			
	事後学修	アイデア出しの問題点をまとめる			4
7	事前学修	企画の類似作品が無いかわ調べる			4
	授業	企画を作る（パワーポイント制作）			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0
8	事前学修	連続授業のため無し			0.0
	授業	企画発表会(前半)			
	事後学修	企画発表での感想や問題点をまとめる			4
9	事前学修	企画発表の準備をする。発表の練習をする			4
	授業	企画発表会(後半)			
	事後学修	連続授業のため無し			0.0

10	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の分担を決める	
	事後学修	分担に漏れがないか確認し、問題点をまとめる	4
11	事前学修	スケジュールを考える	4
	授業	メンバー全員でスケジュールを作る	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
12	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作する(前半)	
	事後学修	スケジュールに問題がないかまとめる	4
13	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	制作する(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
14	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作する(後半)	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	4
15	事前学修	制作物が動作するように準備する	4
	授業	制作物の動作をチェックする	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
16	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表	
	事後学修	中間発表で得た意見をまとめる	4
17	事前学修	中間発表で得た意見を元に問題点をリストアップする	4
	授業	制作物の質やスケジュールに問題がないか検討する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
18	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(前半)	
	事後学修	制作物の動作チェックを行う	4
19	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
20	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	中間発表を踏まえた上で制作物を改良する(後半)	
	事後学修	制作物の動作チェックを行う	4
21	事前学修	スケジュールに遅延がないかまとめる	4
	授業	メンバー全員でスケジュールを再確認する	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
22	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の品質チェック(前半)	
	事後学修	制作物の品質に問題がないかまとめる	4
23	事前学修	制作物が動作するように準備する	4

	授業	制作物の品質チェック(中盤)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
24	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の品質チェック(前半)	
	事後学修	制作物の品質に問題がないかまとめる	4
25	事前学修	プレゼンテーションの資料を作成する	4
	授業	最終発表(前半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
26	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	最終発表(後半)	
	事後学修	最終発表で得た意見やアドバイスをまとめる	4
27	事前学修	個々の制作の準備	4
	授業	最終発表で得た結果を元に制作物を改良する(前半)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
28	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	最終発表で得た結果を元に制作物を改良する(後半)	
	事後学修	制作物の問題点をまとめる	4
29	事前学修	展示の事前準備を行う	4
	授業	制作物の展示を行う(アンケートで感想を貰う)	
	事後学修	連続授業のため無し	0.0
30	事前学修	連続授業のため無し	0.0
	授業	制作物の撤収を行う	
	事後学修	撤収に問題点がないかまとめる	4

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について

自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う

□■試験： % □■小テスト： % □■レポート： % □■演習課題：50% □■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントをする

教科書	
参考書・Web サイト	参考資料は適宜開示する
単位修得が望ましい科目	コンピュータゲーム開発論, ゲームプログラミング・演習, ゲームCG演習, ゲーム制作演習
備考	なし
担当教員の実務経験	森川 ゲーム開発を20年間行っている。パッケージソフトは10数本の開発に携わったほか、ゲーム開発用ライブラリ、ゲーム開発用ツールなど、ゲーム開発全般の実務がある。これらの多く開発経験から得た知識を伝える。 河原

	Unity による iOS・Android 用ゲーム制作（2019 年リリース「しんけん!!魁」）での実務経験を元に、グラフィックの仕様など制作現場で注意する事例を紹介しながら授業を行う。

アプリ制作プロジェクト Application Development Project

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室), 谷口 文威 (226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMC306	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
本講義ではアプリ(モバイルを含む OS 上で動作するソフトウェアアプリケーション)の企画から制作, 発表・報告までの一連の流れについてチーム・プロジェクトとして完遂します。その過程の中で、企画力, 制作スキル, チームワーク, プロジェクト管理, そして、プレゼンテーション能力を養います。						
授業における学修の到達目標						
アプリケーション開発のための技術を身につけ, チームとしてプロジェクトを遂行できるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する				2
	授業	ガイダンス, チーム決め				
	事後学修	ガイダンス内容の復習。チーム内連絡手段の確認				2
2	事前学修	既存のさまざまなアプリについて調査する				2
	授業	アプリケーションの事例とソリューションという考え方				
	事後学修	アプリケーションで解決できそうな世の中の問題について考え, チーム内で制作したいアプリケーションについて話し合う				2
3	事前学修	アプリケーション開発で利用できる技術, 開発環境について調査する 教材用 Web サイトの「プロトタイピング」に関する説明を読む				2
	授業	アプリケーション開発で用いられる技術, 開発環境の紹介と技術選定				
	事後学修	チーム内で連絡を取りあい、開発環境を整備する				2
4	事前学修	選定した技術に関する予習				2
	授業	プロトタイピング, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	チーム内で, プロトタイピングに向けた計画を立てて, チームで選択した技術, 開発環境について詳しく調査し, 学習を開始する				2
5	事前学修	教材用 Web サイトの「リーンスタートアップ」に関する説明を読む				2
	授業	リーンスタートアップの考え方を元にプロジェクトの計画を考える, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	チーム内でのプロジェクト計画の共有をする				2
6	事前学修	プロジェクトの遂行に必要なこと、不要なことを考察する				2
	授業	プロジェクトの計画の改善, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	担当教員からプロジェクトの計画の内容に関するフィードバックを受けて, プロジェクトの計画の内容の改善案を考える				2
7	事前学修	教材用 Web サイトの「ユースケース」に関する説明を読む				2
	授業	ユースケースの想定, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	チーム内でユースケースの共有を行う				2
8	事前学修	ユースケースの不足が無いか考える				2
	授業	ユースケースの内容の改善, 選定した技術に関する学習				
	事後学修	担当教員からユースケースの内容に関するフィードバックを受けて, ユースケースの内容の改善案を考える				2

9	事前学修	教材用 Web サイトの「企画発表」に関する説明を読む	2
	授業	企画発表資料の作成	
	事後学修	チーム内での企画発表資料の共有をする	2
10	事前学修	企画発表資料の不備がないか確認する	2
	授業	企画発表資料の改善	
	事後学修	担当教員から企画発表資料に関するフィードバックを受けて、企画発表資料の改善案を考える	2
11	事前学修	企画発表の準備を行う	2
	授業	企画発表（前半）	
	事後学修	企画発表の反省、または準備	2
12	事前学修	企画発表の反省、または準備	2
	授業	企画発表（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	2
13	事前学修	教材用 Web サイトの「MVP(Minimum Viable Product)」に関する説明を読む	2
	授業	MVP を考える	
	事後学修	MVP をまとめた資料を作る	2
14	事前学修	MVP をまとめた資料を作る	2
	授業	MVP の内容の改善、アプリケーションの開発	
	事後学修	担当教員から MVP の内容に関するフィードバックを受けて、MVP の内容の改善案を考える	2
15	事前学修	教材用 Web サイトの「プロジェクト管理」に関する説明を読む	2
	授業	プロジェクト管理に関わる資料の作成 アプリケーションの開発	
	事後学修	プロジェクト管理に関わる資料の作成	2
16	事前学修	アプリケーションの開発	2
	授業	プロジェクト管理に関わる資料の内容の改善、アプリケーションの開発	
	事後学修	担当教員からプロジェクト管理に関わる資料の内容に関するフィードバックを受けて、プロジェクト管理の資料の内容の改善案を考える	2
17	事前学修	教材用 Web サイトの「サーバント・リーダーシップ」に関する説明を読む	2
	授業	サーバント・リーダーシップの考え方を元にチームの活動方針を考える、アプリケーションの開発	
	事後学修	アプリケーションの開発	2
18	事前学修	アプリケーションの開発	2
	授業	活動方針の改善、アプリケーションの開発	
	事後学修	担当教員から活動方針の内容に関するフィードバックを受けて、活動方針の改善案を考える	2
19	事前学修	教材用 Web サイトの「中間発表」に関する説明を読む	2
	授業	中間発表の準備	
	事後学修	中間発表の役割分担の確認	2
20	事前学修	中間発表資料の準備	2
	授業	中間発表の内容の改善	
	事後学修	担当教員から中間発表の内容に関するフィードバックを受けて、中間発表の内容の改善案を考える	2
21	事前学修	中間発表の準備をする	2
	授業	中間発表・アプリケーションのデモンストレーション（前半）	

	事後学修	デモンストレーションにおける問題点の共有、または準備	2
22	事前学修	デモンストレーションにおける問題点の共有、または準備	2
	授業	中間発表・アプリケーションのデモンストレーション（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	2
23	事前学修	教材用 Web サイトの「ファシリテーション」に関する説明を読む	2
	授業	円滑な会議の方法，制作中のアプリケーションの問題点や課題を明らかにするためのチーム会議，アプリケーションの開発	
	事後学修	チームでのアプリケーションについての情報交換	2
24	事前学修	チームでのアプリケーションについての情報交換	2
	授業	問題点や課題の解決方法についてチームで話し合い考える，アプリケーションの開発	
	事後学修	明らかになった問題点や課題をまとめてチームで共有し，問題点や課題の解決に取り組む	2
25	事前学修	教材用 Web サイトの「アプリケーションの評価」の説明を読む	2
	授業	制作したアプリケーションの評価方法を考えて評価の計画を立てる，アプリケーションの開発	
	事後学修	アプリケーションの動作確認と調整	2
26	事前学修	アプリケーションの動作確認と調整	2
	授業	アプリケーション評価の実施	
	事後学修	チーム内でアプリケーションの評価方法をチームで共有し，アプリケーションの評価を行う	2
27	事前学修	教材用 Web サイトの「プレゼンテーション」の説明を読む	2
	授業	プレゼンテーションの準備	
	事後学修	チーム内でプレゼンテーション資料の共有をする	2
28	事前学修	プレゼンテーションの改善点をピックアップする	2
	授業	プレゼンテーションの内容の改善	
	事後学修	担当教員からプレゼンテーションの内容に関するフィードバックを受けて，プレゼンテーションの内容の改善案を考える	2
29	事前学修	プレゼンテーションの準備を行う	2
	授業	プレゼンテーション（前半）	
	事後学修	プレゼンテーションの反省、または準備をする	2
30	事前学修	プレゼンテーションの反省、または準備をする	2
	授業	プレゼンテーション（後半）	
	事後学修	発表のフィードバック内容の振り返りを行う	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：70% ■その他[グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

チームごとに、プロジェクトの計画や、制作しているアプリケーションの内容、発表資料などに対してフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	講義中に参考図書をいくつか紹介します。また、POLITE でも紹介します。
単位修得が望ましい科目	モバイルアプリ演習

備考	なし
担当教員の実務経験	谷口文威 実務経験なし 齋藤健司 実務経験なし

ネットワーク演習 Networking Practical

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習	○	IMT305	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
授業概要						
小規模コンピューターネットワークを構築し、実習を通してコンピューターネットワークの通信について学ぶ。複数台のルーターや各種サーバーでネットワークを構成して、いくつかのプロトコルの動作を実査に確認することで、ネットワーク通信の技術・知識の獲得を目指す。						
授業における学修の到達目標						
・ TCP/IP を理解し小規模なコンピューターネットワークの設計ができる。 ・ ルーターの設定を行い小規模なコンピューターネットワークを構築できる。 ・ OS 上にネットワーク通信サービスを配置することができる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。POLITE に提示する授業前の準備（実習環境の準備）についての案内を読み、準備を進める。				2.0
	授業	ガイダンス コンピューターネットワークに関する知識の確認をする。				
	事後学修	LMS に掲載する第 1 回資料「講義の目的」について復習する。LMS に提示される実習環境の準備に取り組む。				2.0
2	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は Ethernet に関わる部分を復習する。未履修者は、インターネットなどを使って Ethernet について調べる。				2.0
	授業	Ethernet についての知識の獲得（あるいは復習）				
	事後学修	LMS に掲載する第 2 回資料「LAN」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。LMS に提示される実習環境の準備に取り組む。				2.0
3	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は Internet Protocol に関わる部分を復習する。未履修者は、インターネットなどを使って Internet Protocol について調べる。				2.0
	授業	Internet Protocol についての知識の獲得（あるいは復習）				
	事後学修	LMS に掲載する第 3 回資料「IP」について復習する。 LMS に提示される宿題に取り組む。 LMS の必要な回の部分に宿題を提示するので、以下では、「LMS に提示される宿題に取り組む。」という記述は省略する。				2.0
4	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者はルーティングテーブルについて具体的な IP アドレスを用いて復習する。未履修者は、インターネットなどを使って ルーティングテーブルの役割について調べる。				2.0
	授業	ルーティングテーブルと Default gateway と Static route についての知識の獲得（あるいは復習）				
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。				2.0
5	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者はプライベート IP アドレスと NAT について復習する。未履修者は、インターネットなどを使って Network Address Translation について調べる。				2.0
	授業	ルーターの基本機能の確認				
	事後学修	LMS に掲載する第 5 回資料「ルーターの役割」について復習する。				2.0
6	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は DHCP について復習する。未履修者は、インターネットなどを使って DHCP の役割について調べる。				2.0

	授業	実習用機材（ツール、ソフトウェア）の確認と、基本設定を行う。	
	事後学修	LMS に掲載する第 6 回資料「ブロードバンドルータの機能」について復習する。	2.0
7	事前学修	「インターネットの仕組み」履修者は ICMP について復習する。未履修者は、インターネットなどを使って ping コマンドの使い方について調べる。	2.0
	授業	ルータを用いてネットワークを構成し、通信の確認をする。	
	事後学修	LMS に掲載する第 7 回資料「ネットワーク通信の確認方法」について復習する。	2.0
8	事前学修	インターネットなどを使ってパケットフィルタリングについて調べる。	2.0
	授業	IP フィルタリング機能について調べ、使用する機材（ソフトウェア）上でどのようにフィルタリング設定するか調べる。	
	事後学修	LMS に掲載する第 8 回資料「パケットフィルタリング」について復習する。	2.0
9	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」を読む。（単独でのプロジェクト、実機を使用する場合、グループワークをする場合などを想定）	2.0
	授業	2 台ルーターを用いて 3 つのセグメントを接続するように IP アドレスの配置を設計する。3 つのセグメントにわたる通信の確認方法を設計する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて、ネットワークの設計を行う。	2.0
10	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて、ネットワークの設計を行う。（前回事後学習から継続）	2.0
	授業	設計したネットワークが稼働するように、必要な設定を行う。正常な通信が行われていることを確認する手順を考える。	
	事後学修	実際に作成したネットワークのそれぞれの機器におけるルーティングテーブルについて、設計図と比較して実際のものがどうだったか確認し、差があればその原因について考察する。	2.0
11	事前学修	LMS に掲載する第 11 回資料「通信の確認」を読む。	2.0
	授業	前回考えた通信の確認手順で通信の状況を確認する。 授業中に指示するフィルターを設定し、その後、通信の確認を行う。	
	事後学修	LMS に掲載する第 11 回資料「通信の確認」について復習する。	2.0
12	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 1」に基づいて、プロジェクト 1 のまとめを準備する。	2.0
	授業	プロジェクト 1 のまとめをする。	
	事後学修	プロジェクト 1 のまとめを「レポート」として LMS に提出する。	2.0
13	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 1 で作成したネットワークに、ネットワーク上のサービスをするサーバーを使いする構成を検討する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」に基づいて、ネットワーク通信サービスの設計を行う。	2.0
14	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 2」に基づいて、ネットワーク通信サービスの設計を行う。（前回事後学習から継続）	2.0
	授業	検討したネットワークサービスについて、設計図を作成する。必要な機材等を確認する。	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。	2.0
15	事前学修	LMS に掲載する第 15 回資料「通信サービス」を読む。	2.0
	授業	作成した設計図について、実現可能か検討する。到達目標を設定する。	
	事後学修	LMS に掲載する第 15 回資料「通信サービス」について復習する。	2.0
16	事前学修	LMS に掲載する第 16 回資料「通信サービスと OS」を読む。	2.0
	授業	設計図に基づいて実際に環境を構築する。（複数回を要する）	

	事後学修	LMS に掲載する第 16 回資料「通信サービスと OS」について復習する。	2.0
17	事前学修	LMS に掲載する第 17 回資料「OS とパケットフィルタリング」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 2 の設計図に基づいて実際に環境を構築する。（複数回を要する） 安全な通信サービス提供について検討し、適切なパケットフィルタリング設定の準備をする。	
	事後学修	LMS に掲載する第 17 回資料「OS とパケットフィルタリング」について復習する。	2.0
18	事前学修	前回資料「OS とパケットフィルタリング」に基づいて、自分が設計したネットワーク通信サービスに適したパケットフィルタリングを設計する。	2.0
	授業	設計したパケットフィルタリングを必要な機器上で設定する。通信の確認をする。	
	事後学修	通信サービスとパケットフィルタリングの設定について概要をまとめ、プロジェクト 2 の「レポート」として LMS に提出する。	2.0
19	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」を読む。	2.0
	授業	プロジェクト 1 より規模の大きなネットワーク構成を目指す。仮想環境の場合は複数のノードを使って、実環境の場合は他の受講者、あるいは受講者グループ（グループ構成時）と調整をしながら、ネットワーク間の接続を行う。複数ルーターの接続時に必要となる（ルーター間で共有すべき）情報が何かについても検討する。	
	事後学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」に基づいて、ネットワークと通信サービスの設計を行う。	2.0
20	事前学修	LMS に掲載する資料「プロジェクト 3」に基づいて、ネットワークと通信サービスの設計を行う（前回時事後学習から継続）	2.0
	授業	改めてネットワークの設計と通信サービスの設計を行う。（機材等の制約下で可能な限りプロジェクト 1, 2 と異なる設計を検討する。）	
	事後学修	プロジェクト 1, 2 に基づいて、必要な設定情報について検討する。	2.0
21	事前学修	検討した設定情報に基づいて、今回の作業手順を考え、手順書としてまとめる。	2.0
	授業	全ての（グループ構成時は自分の担当範囲の）ネットワーク機器、OS 等の設定を行う。	
	事後学修	事前に検討した作業手順についてプロジェクト 1, 2 に比べて効率的だったか、より効率的に作業する方法はないか検討する。	2.0
22	事前学修	ある（グループ構成時は自分の担当する）ネットワークと他の（実機の場合他の人の、グループ構成時は自分の担当する）ネットワークを接続する際に必要となる情報は何かを考えておく。	2.0
	授業	複数のルーター（実機では他の受講者との、グループ構成時は他の受講者グループとの）間には設定書を取り交わすのみで、通信が提供できるように、設定書のための情報をまとめる。	
	事後学修	LMS に掲載する第 4 回資料「ルーティングテーブル」について復習する。LMS に提示される宿題に取り組む。	2.0
23	事前学修	LMS に掲載する第 23 回資料「ルーティングプロトコル」を読む。	2.0
	授業	前回考察した情報に基づいて、（実機時は他の受講者の、グループ構成時は他の受講者グループの）作成したネットワークとの接続に必要な設定情報をドキュメントとしてまとめ情報交換をする。 ルーティングプロトコルの採用について、接続相手と相談を開始する。（次回に決定する）	
	事後学修	LMS に掲載する第 23 回資料「ルーティングプロトコル」について復習する。接続相手との相談に基づいて採用すべきルーティングプロトコルを検討する。	2.0
24	事前学修	採用を希望するルーティングプロトコルを使用する際に必要となる情報を整理しておく。（この時点ではまだ接続相手との交渉中という想定）	2.0
	授業	接続相手との相談で、採用するルーティングプロトコルを決定し、共有すべき情報を確認する。	
	事後学修	採用が決まったプロトコルについて、なるべく詳細に学習する。	2.0

プロジェクトトライアルⅠ Group Information Design Project 1

担当教員	島田 英二(137 研究室), 安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC217
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	後期
授業概要					
本講義では、「新しいサービス」の企画, 制作, 発表までの一連の流れをチーム・プロジェクトとして完遂します。その過程の中で, 企画力, 制作スキル, チームワーク, プロジェクト管理, そして, プレゼンテーション能力を養います。					
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。					
・ディスカッション					
・グループワーク					
・プレゼンテーション					
・実習、実験、フィールドワーク					
・チーム基盤学習					
・プロジェクト学習					
・ワークショップ					
授業における学修の到達目標					
企画力, 制作スキル, グループワーク, チームワーク, ディスカッションスキル, プロジェクト管理, 課題解決能力, そして, プレゼンテーション能力を養い, ゼミナールに向けた総合・応用的なスキルを身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス、チームを組む、前年度受講者のお話			
	事後学修	実習内容をまとめる			2.0
2	事前学修	プロジェクトの構想をチームでディスカッションする			2.0
	授業	ワークショップ（マシュマロチャレンジ）			
	事後学修	ワークショップ内容の振り返り、まとめ			2.0
3	事前学修	プロジェクトの構想、情報収集			2.0
	授業	エントリーシート記入（1 ページ目／2）、指導教員の決定			
	事後学修	プロジェクトの内容について指導教員と面談し、内容をまとめる			2.0
4	事前学修	エントリーシート記入（2 ページ目／2）			2.0
	授業	エントリーシート完成、プレゼン順番の決定			
	事後学修	プロジェクトの内容・エントリーシートの内容について指導教員と面談し、内容を固める			2.0
5	事前学修	各自で先行事例、技術について調べる（個人作業）			2.0
	授業	先行事例・技術調査シート記入（チーム作業）			
	事後学修	先行事例・技術調査シートの記入を進める			2.0
6	事前学修	先行事例・技術調査についての情報収集			2.0
	授業	先行事例・技術調査（タブレット端末、実習室）、エントリーシートの記入、企画発表準備			
	事後学修	先行事例・技術調査、リストアップ			2.0
7	事前学修	発表スライド、原稿の作成			2.0
	授業	エントリーシート完成、発表スライド・原稿の作成			
	事後学修	プレゼンテーションの内容・エントリーシートの内容（最終）について指導教員と面談し、内容を			2.0

		固める	
8	事前学修	スライドのブラッシュアップ、発表資料の印刷、発表リハーサル	2.0
	授業	初回企画プレゼンテーション（前半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる	2.0
9	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、発表の見方を深める	2.0
	授業	初回企画プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる、レポートにまとめる	2.0
10	事前学修	プレゼンテーション振り返り（個人）、プロジェクトの軌道修正	2.0
	授業	フィードバック返却、プレゼンテーション振り返り（グループ）、	
	事後学修	プロジェクトの軌道修正について指導教員と面談し、内容を固める	2.0
11	事前学修	プロジェクト設計書記入のための情報収集	2.0
	授業	プロジェクト設計書作成、企画・発表準備	
	事後学修	プロジェクト設計書をまとめる、プロトタイプ制作等	2.0
12	事前学修	プロジェクト設計書のブラッシュアップ、プレゼンテーションの構想をまとめる	2.0
	授業	プロジェクト設計書完成、発表スライド・原稿の作成、プロトタイプの完成	
	事後学修	プレゼンテーションの内容について指導教員と面談し、内容を固める	2.0
13	事前学修	スライドのブラッシュアップ、発表資料の印刷、発表リハーサル	2.0
	授業	最終企画プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる	2.0
14	事前学修	発表内容をまとめる、プレゼンテーションの準備、発表資料の印刷、発表リハーサル、発表の見方を深める	2.0
	授業	最終企画プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	各チームの発表についての情報や感想をまとめる、最終企画プレゼンテーションで学んだこと・今後の計画についてレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	ケーススタディの資料を熟読する、情報をまとめる	2.0
	授業	フィードバック返却、プレゼンテーション振り返り、ケーススタディ	
	事後学修	プロジェクト設計書の修正、作品制作についてのスケジュールリング	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10 % ■演習課題： 90%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。プレゼンテーションについて他受講生、指導教員からのフィードバックシートを返却します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	発想法演習
備考	本科目で各グループが企画制作したプロジェクト内容は、応用科目「プロジェクトトライアルII」に引き継ぎます。

担当教員の実務経験	主担当教員は二名。一名は現役の映像ディレクターとして商業映像制作, 映画製作に 2000 年より携わっており映像制作分野において豊富な実務経験を有している。もう一名は 1994 年から Web 制作会社, IT コンサルティングファームでの実務経験があり、プロジェクトマネジメントの専門家でもある。これら主担当教員二名が実務経験で得た知識, 技術, ツールを学生に教える。

プロジェクトトライアルⅡ Group Information Design Project 2

担当教員	島田 英二(137 研究室), 安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC305
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	前期
授業概要					
本講義では、作品（ゲーム、アプリ、プログラム、Web ページ、映像コンテンツなど）の企画、制作、発表までの一連の流れをチーム・プロジェクトとして完遂します。その過程の中で、企画力、制作スキル、チームワーク、プロジェクト管理、そして、プレゼンテーション能力を養います。					
プロジェクトトライアルⅠで開発した企画の制作、発表、および展示会を行いますので、プロジェクトトライアルⅠの受講を前提として講義を行います。					
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。					
・ディスカッション					
・グループワーク					
・プレゼンテーション					
・実習、実験、フィールドワーク					
・チーム基盤学習					
・プロジェクト学習					
・ワークショップ					
授業における学修の到達目標					
企画力、制作スキル、グループワーク、チームワーク、ディスカッションスキル、プロジェクト管理能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力、ドキュメント作成能力、設計力、計画力、コミュニケーション能力などを養い、総合・応用的なスキルを身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する、プロジェクト設計書の確認			2.0
	授業	後期ガイダンス、進捗確認、目標設定シート			
	事後学修	目標設定シートの記入、プロジェクト設計書のアップデート、指導教員とのミーティング			2.0
2	事前学修	プロジェクトの目標をチームでディスカッションする			2.0
	授業	作品制作、目標設定シート提出、グループディスカッション			
	事後学修	プロジェクトの目標の確認、役割分担			2.0
3	事前学修	展示リサーチ、展示のイメージを深める			2.0
	授業	作品制作、展示リサーチ、グループディスカッション			
	事後学修	展示イメージをまとめる			2.0
4	事前学修	既存作品のリサーチ、技術リサーチ			2.0
	授業	作品制作			
	事後学修	作業を進める			2.0
5	事前学修	制作の準備、設計の制度を高める			2.0
	授業	作品制作、後期プレゼン順決め、展示会のレイアウト決め			
	事後学修	作業を進める、フィールドワーク			2.0
6	事前学修	スライド制作、イメージスケッチ、必要備品のリストアップ			2.0
	授業	展示リサーチ発表			

	事後学修	展示のイメージをまとめる	2.0
7	事前学修	発表の構想をねる、スライド制作、デザイン	2.0
	授業	作品制作、最終プレゼンテーション準備、グループディスカッション	
	事後学修	スライド制作、発表素材の制作、指導教員とのミーティング、パネルデザイン	2.0
8	事前学修	発表案のブラッシュアップ、プレゼン構成をまとめる	2.0
	授業	作品制作、最終プレゼンテーション準備、グループディスカッション	
	事後学修	スライド制作、発表素材の制作、指導教員とのミーティング、パネル印刷	2.0
9	事前学修	スライドの準備、発表リハーサル、配布資料の作成、指導教員とのミーティング	2.0
	授業	最終プレゼンテーション（前半のグループ）	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り、レポート作成	2.0
10	事前学修	スライドの準備、発表リハーサル、配布資料の作成、指導教員とのミーティング	2.0
	授業	最終プレゼンテーション（後半のグループ）	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り、レポート作成	2.0
11	事前学修	展示会に向けてのイメージング、リサーチ、デザイン	2.0
	授業	発表の振り返り、フィードバック、 展示会準備・作品修正	
	事後学修	展示会の準備、作品のブラッシュアップ、仕上げ	2.0
12	事前学修	展示会の準備、作品のブラッシュアップ、仕上げ	2.0
	授業	展示会準備・作品修正	
	事後学修	展示準備、パネル完成、設置・搬入	2.0
13	事前学修	展示準備、展示制作、発表原稿の準備、搬入	2.0
	授業	学内展示会（前半のグループ）	
	事後学修	展示の振り返り、各チームの発表についての情報や感想をまとめる、展示会で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
14	事前学修	展示準備、展示制作、発表原稿の準備、搬入	2.0
	授業	学内展示会（後半のグループ）	
	事後学修	展示の振り返り、各チームの発表についての情報や感想をまとめる、展示会で学んだことについてレポートにまとめる	2.0
15	事前学修	成果物のブラッシュアップ、評価、成果物の提出	2.0
	授業	表彰式、講義の振り返り、講評	
	事後学修	最終レポート作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10 % ■演習課題： 90%

□その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レビュー、発表、チームミーティングの中でコメントします。プレゼンテーションについて他受講生、指導教員からのフィードバックシートを返却します。

教科書

参考書・Web サイト

必要に応じ指示します。

単位修得が望ましい科目	プロジェクトトライアルⅠ
備考	プロジェクトトライアルⅠで開発した企画の制作、発表、および展示会を行いますので、プロジェクトトライアルⅠの受講を前提として講義を行います。
担当教員の実務経験	主担当教員は二名。一名は現役の映像ディレクターとして商業映像制作、映画製作に2000年より携わっており映像制作分野において豊富な実務経験を有している。もう一名は一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務を経験しており、実社会でのプロジェクト遂行経験がある。これら主担当教員二名が実務経験で得た知識、技術、ツールを学生に教える。

地域貢献プロジェクト Community Service Project

担当教員	斎藤 一(122 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習	○	IMC312	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	夏期集中	
授業概要						
プロジェクト・トライアルⅠ・Ⅱで培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用い「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみることに」に着目して、江別市など道内地域の課題に取り組む高度なプロジェクトに取り組みます。						
プロジェクトには、それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて、指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して、科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は、科目担当教員に相談にきてください。						
授業における学修の到達目標						
・江別市など道内地域の課題解決をテーマにした PBL（Project Based Learning）による実践的な教育を体験する。 ・江別市など道内地域の課題を、フィールドワークを通して、自分自身で調査し把握する。 ・江別市など道内地域の課題に対するソリューションを、プロジェクトメンバーや地域の方々とのディスカッションを通して導出する。 ・導き出したソリューションが、江別市など道内地域の方々にとって、有用であったのかどうかを、地域の方々へのヒアリングやアンケート等を通して評価をする。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	対象としたい地域を絞り込んでおく				2.0
	授業	地域を調査し、課題を把握する（文献調査） 調査する地域別にプロジェクト（グループ）を構成する				
	事後学修	調査した内容をまとめておく				2.0
2	事前学修	どのような日程で調査を行うのかを決めておく				2.0
	授業	地域を調査し、課題を把握する（フィールドワーク）				
	事後学修	調査した内容をまとめておく				2.0
3	事前学修	調査した内容を振り返っておく				2.0
	授業	調査結果から課題を抽出する				
	事後学修	抽出した課題を振り返っておく				2.0
4	事前学修	課題に対するソリューションの案を考えておく				2.0
	授業	課題に対するソリューションを検討する				
	事後学修	ソリューションが地域の課題に対して適切かどうかを再検討しておく				2.0
5	事前学修	企画書を作成し始める				2.0
	授業	地域の課題に対するソリューションの内容を企画書としてまとめる				
	事後学修	企画書についてプロジェクト内外からコメントを収集する				2.0
6	事前学修	企画の内容を再検討しておく				2.0
	授業	ディスカッションを通じた企画（制作内容）の洗練化を行う				
	事後学修	企画書をブラッシュアップ（更新）する				2.0
7	事前学修	制作（ポスターデザイン等）の準備をすすめる				2.0
	授業	制作（ポスターデザイン等）				

	事後学修	引き続き制作（ポスターデザイン等）を続ける	2.0
8	事前学修	制作（Web・アプリ等）の準備をすすめる	2.0
	授業	制作（Web・アプリ等）	
	事後学修	引き続き制作（ポスターデザイン等）を続ける	2.0
9	事前学修	制作（映像・ゲーム等）の準備をすすめる	2.0
	授業	制作（映像・ゲーム等）	
	事後学修	引き続き制作（映像・ゲーム等）を続ける	2.0
10	事前学修	中間報告の準備をしておく	2.0
	授業	中間報告書の作成と提出	
	事後学修	中間報告書へのコメントを参考に、企画やプロトタイプの改善を行う	2.0
11	事前学修	プロトタイプをブラッシュアップする	2.0
	授業	プロトタイプ中間評価	
	事後学修	プロトタイプの中間評価で得られたコメントを参考に、プロトタイプの改善を行う	2.0
12	事前学修	引き続き、プロトタイプの改善を行う	2.0
	授業	追調査・プロトタイプの修正	
	事後学修	最終報告に向けて、プロトタイプの完成度を高める	2.0
13	事前学修	最終の成果報告書を作成し始める	2.0
	授業	成果報告書作成	
	事後学修	成果報告書作成の作業を続ける	2.0
14	事前学修	成果報告書を完成させる	2.0
	授業	成果報告書の提出	
	事後学修	報告書へのコメントをまとめる	2.0
15	事前学修	これまでのプロジェクト活動を振り返っておく	2.0
	授業	振り返り	
	事後学修	自分たちが提示したソリューション（作品を含む）が地域の課題の解決につながっているのかを振り返る	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■レポート：30% ■演習課題：70% ■その他[プロジェクト活動に対する積極性や貢献度を評価する]

グループワークについては、グループ内での行動について

自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

POLITE を通じた情報提供・情報共有・課題に対するフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	とくになし
単位修得が望ましい科目	各所属コースのプロジェクト科目（Web 制作プロジェクト等）
備考	プロジェクトには、それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて、指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して、科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は、科目担当教員に相談に来てください。
担当教員の実務経験	Web ディレクター、グラフィックデザイナー、映像クリエイター、プログラマー、エンジニア、プランナーなどの背景を持つ教員が、各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

プロジェクト I -2026 年度開講- Project 1

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IPC310
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択	3 年	夏期集中	
授業概要					
これまで情報メディア学科で培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用い「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみること」に着目して、江別市など道内地域の課題に取り組む高度なプロジェクトに取り組めます。					
プロジェクトには、それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて、指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して、科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は、科目担当教員に相談に来てください。					

プロジェクトⅡ-2026 年度開講- Project 2

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IPC311
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中
授業概要					
情報メディア学科で培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用いて、「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみることに」に着目して、より高度なプロジェクトに取り組みます。					

ステップアッププロジェクトⅡ Step-up Project 2

担当教員	斎藤 一(122 研究室), 隼田 尚彦(136 研究室)		単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
			2 単位	演習	○	IMC318
開 講 学 科			種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科			選択		3 年	冬期集中
授業概要						
プロジェクト・トライアルⅠ・Ⅱで培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用いて, 「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみること」に着目して, より高度なプロジェクトに取り組みます。						
授業における学修の到達目標						
学内外の課題に対応したプロジェクトを通じて, クリティカルシンキング, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力, プロジェクト管理能力などを身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	なし				0.0
	授業	ガイダンス・グループ作成				
	事後学修	なし				0.0
2	事前学修	課題について, 現状の問題点や先行事例を調べてくる。				5.0
	授業	事前学習で準備してきた現状の問題点や先行事例について, グループ内で共有し, アイデア出しを行う				
	事後学修	グループ内で共有した情報を基に, 問題点や先行事例の掘り下げを行い, 誰に, どのような解決策を提案するか考える。				3.0
3	事前学修	企画立案及び企画書の作成方法について, POLITE の教材で復習する。				1.0
	授業	各自の提案を共有し, グループとしての解決策の提案のアイデア出しを行う(企画案のプレスト)。				
	事後学修	話し合った提案に関して参考となる事例や類似例がないか調べるとともに, 必要な要件が何かを調べる。				2.0
4	事前学修	工程管理の方法について, POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。				2.0
	授業	メンバーのスキルプレゼンと提案をより具体的なものにするためのディスカッションを行い, 役割分担を行う。				
	事後学修	与えられた役割と作業に必要な要件について確認し, 自らの作業計画を立てる。				2.0
5	事前学修	自らの作業に関連する事例を調査する。				2.0
	授業	作業工程を確認し, 無理がないかどうかを議論し, 問題がみつければ解決策を練る。合わせて, プロジェクトの内容に関連する新たな情報を共有する。				
	事後学修	与えられた役割について必要な知識を整理し, 技術的課題を考える。				2.0
6	事前学修	実現可能性について検討する(できること・できないことを明確化する)。				2.0
	授業	事前学修の結果をグループ内で共有する。試作の方法を検討する。				
	事後学修	試作の問題点をまとめる。				2.0
7	事前学修	試作: 各自担当部分について				2.0
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し, 改善策を考える				
	事後学修	改善策を考慮して, 試作を続ける。				4.0

8	事前学修	なし	0.0
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し、確認する。	
	事後学修	グループ内でのディスカッションを基に、試作を改良する。	4.0
9	事前学修	プレゼンに向けた制作物の作業準備を行う。	1.0
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して、制作を進める。	6.0
10	事前学修	なし	0.0
	授業	個別の進捗状況等を確認し、必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	各自の作業を完了する。	6.0
11	事前学修	なし	0.0
	授業	成果物を完成させる。成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	
	事後学修	分析結果を基に、今後の展望を考えまとめる。	1.0
12	事前学修	プレゼンテーションの方法について、POLITE の教材で復習する。	3.0
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の完成	2.0
13	事前学修	発表準備と練習（前半チーム）	4.0
	授業	成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ、必要に応じて対応策を検討する（前半チーム）。	2.0
14	事前学修	発表準備と練習（後半チーム）	4.0
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ、必要に応じて対応策を検討する（後半チーム）。	2.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	フィードバックを基に、学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：％ □小テスト：％ ■レポート：10％ □演習課題：％ ■その他[グループワーク：10％，発表：30％，成果物：50％]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

随時、フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	プロジェクトトライアルⅠ，プロジェクトトライアルⅡ
備考	本科目は、通常の履修と異なり、ゼミ担当教員などプロジェクト指導教員から履修の指示があったもののみが履修登録できます。
担当教員の実務経験	Web ディレクター，グラフィックデザイナー，映像クリエイター，プログラマーなどの背景を持つ教員が、各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

ステップアッププロジェクトⅢ 2024 年度入学生は、「プロジェクトⅢ」になります。 Step-up Project 3

担当教員	齋藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	演習		IMC404	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		4 年	夏期集中	
授業概要						
プロジェクト・トライアルⅠ・ⅡやステップアッププロジェクトⅡで培ってきた専門的知識や技術などの個人的なスキルとチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを用いて、「企画調査すること」・「設計すること」・「制作すること」・「運用してみること」に着目して、より高度なプロジェクトに取り組みます。						
本科目は、PBL（Project Based Learning）として、実践的なプロジェクトを実施します。プロジェクトには、それぞれ担当教員が必要です。解決したい課題（制作する作品等）に合わせて、指導してもらえる教員（ゼミ担当教員等）を探して、科目担当者に報告してください。指導教員が見つからない場合等は、科目担当教員に相談に来てください。						
授業における学修の到達目標						
学内外の課題に対応したプロジェクトを通じて、クリティカルシンキング、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、プロジェクト管理能力などを身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	過去の PBL の事例などを調査し、プロジェクトのイメージをもっておく。				2
	授業	ガイダンス・グループ作成				
	事後学修	授業内容を振り返り、取り組みたい課題のイメージを明確にしておく。				2
2	事前学修	課題について、現状の問題点や先行事例を調べてくる。				5
	授業	事前学習で準備してきた現状の問題点や先行事例について、グループ内で共有し、アイディア出しを行う。				
	事後学修	グループ内で共有した情報を基に、問題点や先行事例の掘り下げを行い、誰に、どのような解決策を提案するか考える。				3
3	事前学修	企画立案及び企画書の作成方法について、POLITE の教材で復習する。				1
	授業	各自の提案を共有し、グループとしての解決策の提案のアイディア出しを行う（企画案のプレスト）。				
	事後学修	話し合った提案に関して参考となる事例や類似例がないか調べるとともに、必要な要件が何かを調べる。				2
4	事前学修	工程管理の方法について、POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。				2
	授業	メンバーのスキルプレゼンと提案をより具体的なものにするためのディスカッションを行い、役割分担を行う。				
	事後学修	与えられた役割と作業に必要な要件について確認し、自らの作業計画を立てる。				2
5	事前学修	自らの作業に関連する事例を調査する。				2
	授業	作業工程を確認し、無理がないかどうかを議論し、問題がみつければ解決策を練る。合わせて、プロジェクトの内容に関連する新たな情報を共有する。				
	事後学修	与えられた役割について必要な知識を整理し、技術的課題を考える。				2
6	事前学修	実現可能性について検討する（できること・できないことを明確化する）。				2
	授業	事前学修の結果をグループ内で共有する。試作の方法を検討する。				

	事後学修	試作の問題点をまとめる。	2
7	事前学修	試作：各自担当部分について	2
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し、改善策を考える	
	事後学修	改善策を考慮して、試作を続ける。	4
8	事前学修	これまでの活動を振り返り、個人での意見をまとめておく。	2
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し、確認する。	
	事後学修	グループ内でのディスカッションを基に、試作を改良する。	4
9	事前学修	プレゼンに向けた制作物の作業準備を行う。	1
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して、制作を進める。	6
10	事前学修	なし	
	授業	個別の進捗状況等を確認し、必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	各自の作業を完了する。	6
11	事前学修	なし	
	授業	成果物を完成させる。成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	
	事後学修	分析結果を基に、今後の展望を考えまとめる。	1
12	事前学修	プレゼンテーションの方法について、POLITE の教材で復習する。	3
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の完成	2
13	事前学修	発表準備と練習（前半チーム）	4
	授業	成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ、必要に応じて対応策を検討する（前半チーム）。	2
14	事前学修	発表準備と練習（後半チーム）	4
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	発表会での質問・コメントをまとめ、必要に応じて対応策を検討する（後半チーム）。	2
15	事前学修	なし	
	授業	フィードバックを基に、学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：％ □小テスト：％ ■レポート：10％ □演習課題：％ ■その他[グループワーク：10％，発表：30％，成果物：50％]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

随時、フィードバックします。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	プロジェクトトライアルⅠ，プロジェクトトライアルⅡ
備考	本科目は、通常の履修と異なり、ゼミ担当教員などプロジェクト指導教員から履修の指示があった者のみが履修登録できます。
担当教員の実務経験	Web ディレクター，グラフィックデザイナー，映像クリエイター，プログラマー，エンジニア，プランナーなどの背景を持つ教員が、各自の実務経験を生かしてプロジェクト活動を指導します。

ステップアッププロジェクトⅠ Step-up Project 1

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室), 佐瀬 雄治(331 研究室), 長尾 光悦(127 研究室), 向田 茂(125 研究室), 未 定()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IMC309
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中
授業概要					
本科目は、学科横断型のプロジェクト学習科目です。専門的な背景の異なる学生とチームを組み、課題を解決するプロジェクト学習に集中的に取り組みます。グループワークを通じて、与えられた課題に対する解決策を検討・提案します。					
授業の最後には、それまでの各チームの成果について、プレゼンテーションを行います。					
授業の事前学修等では、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」などを活用し、本プロジェクト学習に必要な知識を身につけて上でプロジェクトに取り組んでもらいます。					
より高度なプロジェクトに取り組むことで、プロジェクト・トライアルⅠ・Ⅱで培ったチームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを伸ばします。					
授業における学修の到達目標					
これまで培ってきた専門的知識や技術などの個人的スキルを活かしつつ、グループワークや発表を通じて、ディスカッションやプレゼンテーション能力を向上させます。					
専門が多岐にわたる学生の混成チームにより、異なる視点や立場の人との協働作業の進め方を身につけます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	自己紹介準備（スキルと得意分野の自己申告）、「プロジェクトとは」および「企画立案及び企画書の作成方法」について、POLITE の教材で事前学修する。			6
	授業	ガイダンス「プロジェクトとは」・アイスブレイク。テーマの選定			
	事後学修	課題について、現状の問題点を調べる			1
2	事前学修	課題について、先行事例を調べる			1
	授業	グループ内で共有し、アイディア出しを行う。			
	事後学修	仮想ユーザーに対する調査内容を検討する			1
3	事前学修	仮想ユーザーに対する調査内容を引き続き検討する			0.5
	授業	仮想ユーザーに対する調査を行うとともに、問題点や先行事例の掘り下げを行う。			
	事後学修	調査結果を基に、必要な要件が何かを調べる。			2.0
4	事前学修	工程管理の方法について、POLITE の教材で事前学修する。自分の持つスキルに関するプレゼンの準備を行う。			3.0
	授業	どのような解決策を提案するか考え、グループとしての解決策のアイディア出しを行う（企画案のブレスト）。			
	事後学修	メンバーのスキルプレゼン資料に目を通す。			0.5
5	事前学修	作業工程を検討する。企画案を掘り下げる。			1
	授業	作業工程を確認し、併せて、プロジェクトの内容に関連する技術的課題を考える。			
	事後学修	実現可能性について検討（できること・できないことを明確化）する			1
6	事前学修	試作の方法を検討する。			0.5
	授業	仮想ユーザーに対する調査を行う			
	事後学修	調査の結果と試作方法に関する検討結果をもとに、試作の問題点をまとめ、各自の担当部分について詳細を検討する。			4.0

7	事前学修	試作：各自担当部分について	7.0
	授業	作業の成果を持ち寄ってグループで共有し、改善策を考えた上で、試作を続ける。	
	事後学修	試作を続ける。	1
8	事前学修	引き続き試作を続ける。	0.5
	授業	試作の成果を持ち寄ってグループで共有し、確認し、グループ内でのディスカッションを基に、試作を改良する。	
	事後学修	試作の改良を続ける。	1
9	事前学修	引き続き試作の改良を続ける。	0.5
	授業	プレゼンに向けた制作に取り組む。進捗状況や問題点を共有する。	
	事後学修	グループ内の指摘事項を考慮して、制作を進める。	6.0
10	事前学修	プレゼンテーションの方法について、POLITE の教材で事前学修する。引き続き制作に取り組む。	8.0
	授業	個別の進捗状況等を確認し、必要に応じてスケジュールを調整する。引き続き制作に取り組む。	
	事後学修	引き続き制作に取り組む。	1.0
11	事前学修	各自の作業を完了する。	0.5
	授業	成果物を完成させる。	
	事後学修	成果物の利点・欠点などを分析・考察する。	1
12	事前学修	分析結果を基に、今後の展望を考えまとめる。	0.5
	授業	プレゼン資料の作成	
	事後学修	プレゼン資料の作成	4.0
13	事前学修	発表準備と練習	2.5
	授業	発表練習、成果発表会（前半チーム）	
	事後学修	レビュー結果をまとめる	1.0
14	事前学修	なし	0.0
	授業	成果発表会（後半チーム）	
	事後学修	レビュー結果をまとめる	1.0
15	事前学修	なし	0.0
	授業	発表会での質問・コメントをまとめ、必要に応じて対応策を検討する。フィードバックを基に、学外コンテスト等への参加を計画する。チーム内のピアレビューを行う。	
	事後学修	プロジェクトの振り返りレポートを作成する。	3.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験：％ ■小テスト：10％ ■レポート：30％ □演習課題：％ ■その他[グループワーク：10％，発表：20％，成果物：30％]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業内で随時コメントする。

教科書	
参考書・Web サイト	POLITE からリンクまたは告知
単位修得が望ましい科目	プロジェクト・トライアルⅠおよびⅡを受講のこと。プログラミング技術やデザイン技術などを活用するので、しっかりと身につけておくこと。発想法演習の単位修得が望ましい。また、集中的にグループワークを行うため、予復習の時間を十分に取れるようにしておくこと。

	と。
備考	なし
担当教員の実務経験	担当者の一人は、1993 年から 1996 年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998 年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約 20 棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 担当者の一人は 1989 年より 2006 年までシステムエンジニアとしてプログラムやシステムの設計・開発に従事した。 担当者の一人は、医療法人にて企画職・事務長として法人内の組織管理・企画・運営業務に従事した。 これらの様々な企画立案・開発等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

プロジェクトトライアル-2026 年度開講- Group Information Design Project

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		IPC309
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	冬期集中
授業概要					
本科目は、学科横断型のプロジェクト学習科目です。専門的な背景の異なる学生とチームを組み、課題を解決するプロジェクト学習に集中的に取り組めます。グループワークを通じて、与えられた課題に対する解決策を検討・提案します。 授業の最後には、それまでの各チームの成果について、プレゼンテーションを行います。 授業の事前学修等では、本学が開発した「学習者適応型 e-Learning システム（POLITE）」などを活用し、本プロジェクト学習に必要な知識を身につけて上でプロジェクトに取り組んでもらいます。 プロジェクトに取り組むことで、チームワークやコミュニケーション能力などの人間関係上のスキルを伸ばします。					

BI とビッグデータ I Business Intelligence & Big Data 1

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	UWC311	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
現代社会では SNS、ウェブサイトデータ、モノのインターネット(IoT)、センサーによる観測データをはじめとして、多種多様かつ膨大なデータ（いわゆるビッグデータ）が入手可能な環境にある。特に企業では、内外から蓄積されたデータから戦略的な情報を読み取り、経営の意思決定に活用するビジネスインテリジェンス（BI）の発想が重要となる。本講義では、我々が直面する諸問題をビッグデータの分析を通して解決に導くデータサイエンスの見方について、R 環境を用いた計算機の実習を通して修得する。						
授業における学修の到達目標						
1. データサイエンスの基本的な見方や方法を理解し、説明することができる						
2. データの構造に応じた適切な処理や分析を計算機を用いて実践できる						
3. 現実の問題をデータに基づいて客観的に評価し、問題の解決に導くことができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスで学習内容について確認する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	「ビッグデータ」時代において背景となる IoT の現状、および大規模データを提供する環境の現状について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題を行う				2.0
2	事前学修	1 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	R 言語で 1 次元データを可視化する技術について学習する				
	事後学修	1 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、2 回目講義の宿題を行う				2.0
3	事前学修	2 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	R 言語で多次元データを可視化する方法について学習する				
	事後学修	2 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、3 回目講義の宿題を行う				2.0
4	事前学修	3 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	観測データの分布の特徴を推定する方法について学習する				
	事後学修	3 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、4 回目講義の宿題を行う				2.0
5	事前学修	4 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	データより相関関係を調べる技術について学習する				
	事後学修	4 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、5 回目講義の宿題を解く				2.0
6	事前学修	5 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし、学習内容を確認する				2.0
	授業	統計モデルとは何かを学習する				
	事後学修	5 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認、6 回目講義の宿題を解く				2.0
7	事前学修	6 回目講義の宿題を教員へ提出する				2.0

		POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	
	授業	統計モデルの選択指標(AIC)について学習する	
	事後学修	6 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 7 回目講義の宿題を解く	2.0
8	事前学修	7 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	線形モデルをデータにあてはめる方法, およびモデルを用いた予測の方法について学習する	
	事後学修	7 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 8 回目講義の宿題を解く	2.0
9	事前学修	8 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	時系列データとその相関構造について学習する	
	事後学修	8 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 9 回目講義の宿題を解く	2.0
10	事前学修	9 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	データより周期を推定する方法(スペクトル)について学習する	
	事後学修	9 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 10 回目講義の宿題を解く	2.0
11	事前学修	10 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	定常な時系列モデルを用いた予測法について学習する	
	事後学修	10 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 11 回目講義の宿題を解く	2.0
12	事前学修	11 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	非定常な時系列モデルを用いた予測法について学習する	
	事後学修	11 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 12 回目講義の宿題を解く	2.0
13	事前学修	12 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケートデータの分布を可視化する方法を学習する	
	事後学修	12 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 13 回目講義の宿題を解く	2.0
14	事前学修	13 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケート分布の差異を調べるための t-検定法について学習する	
	事後学修	13 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 14 回目講義の宿題を解く	2.0
15	事前学修	14 回目講義の宿題を教員へ提出する POLITE から学習用資料をダウンロードし, 学習内容を確認する	2.0
	授業	アンケート分布の差異を調べるための順位検定法について学習する	
	事後学修	14 回目講義の宿題の解答を POLITE で確認, 15 回目講義の宿題を解き, POLITE で確認する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■宿題：60% ■最終課題：40%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レポート課題は, 解決のヒント, あるいは解答例を学習ポータル (POLITE) にアップしますので, 確認しながら学習を進めてください。解決方法がどうしてもわからない場合には, 教員に相談してください。			
教科書		書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：	

参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	本科目は学部横断型科目のひとつで、統計や確率の基礎知識を必要とします。「確率・統計Ⅰ」, 「確率・統計Ⅱ」の単位取得が望まれますが、取得していない場合には、関係する科目を並行して学習しながら進めて下さい。
備考	計算機を用いた実習が主体となります。 COVID-19 の状況によっては、遠隔学習の形で実施されることがあります。
担当教員の実務経験	企業の研究所に所属し、データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。本講義では、データ科学の基本的な枠組みについて紹介します。統計学や確率論を基礎として、現象をデータを手がかりとして理解していくための科学的な方法を R 言語を通して紹介することとあわせて、企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという実務面についても紹介したいと思います。

BI とビッグデータ II Business Intelligence & Big Data 2

担当教員	内山 俊郎(117 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	UWC312	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	後期	
授業概要						
現代社会では、SNS、ウェブサイトデータ、IoT、センサーデータ等、多種多様かつ膨大なデータ（いわゆるビッグデータ）が入手可能な環境にある。特に企業では、企業内外から蓄積されたデータを、役に立つ情報に変換し、意思決定に活用する手法（BI；ビジネスインテリジェンス）が重要である。本講義では、実データを使った実験や実習を行い、BI やビッグデータに関する理論的フレームワークを学習する。						
授業における学修の到達目標						
・ 行動ログデータや文書データについて、どのように表現されるのか（疎行列）を知る。 ・ 解析に必要なベクトル，行列，それらの演算について理解し，プログラム上で使えるようになる。 ・ ナイーブベイズ分類器について理解し，文書データについて適用できるようになる。 ・ 文書についてはクラスタリングと分類，行動ログについてはレコメンド技術について知る。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを読んで学習の流れを知り，行列表現，転置，行列操作などについて振り返り，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。				2
	授業	ビッグデータの収集と蓄積がどのように行われているかを理解する。具体例である行動ログデータや文書データがどのようなものであるか，疎行列で表せること，などを知る。講義の流れを知り，最初に確率や対数尤度などの数学的理解が必要なことを知る。				
	事後学修	講義の流れを振り返り，数学に関して理解不足の点があれば，追いつくための学習計画を立てること。				2
2	事前学修	講義資料を見て，確率論と確率モデルについて調べ，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。				2
	授業	講義資料を読んで，確率論と確率モデルについて学び，例題や演習問題に取り組むこと。				
	事後学修	例題や演習問題の結果を実習ノートにまとめること。授業中に解けなかった問題，追加の問題について解くこと。				2
3	事前学修	実験，実習に必要な仮想マシンのダウンロードと使うための準備を行うこと。				2
	授業	フルーツポンチを使ったデータ生成，分類実験を行う。対数事後確率の電卓による計算実習を行う。仮想マシンの使い方と，解析用のプログラムについて知る。				
	事後学修	仮想マシン上でのプログラム実行方法を理解したものは，発展課題であるプログラムによる実験（データ数と分類精度の関係）を行い，実験結果を実習ノートにまとめること。				2
4	事前学修	確率，確率モデル，など解析に必要な数学について振り返り，これまでの演習問題を解くなど小テストに向けた準備をすること。				2
	授業	確率，確率モデル，など解析に必要な数学の理解を求める小テストを実施する。仮想マシンの使い方と，解析用のプログラムについて知る。フルーツポンチの実験に必要なプログラムの説明を受ける。				
	事後学修	小テストの解答と解説を読み，間違えた問題についてやり直し，理解を深めること。発展課題であるプログラムによる実験（データ数と分類精度の関係）を行い，実験結果を実習ノートにまとめること。				2
5	事前学修	行列表現，転置，行列操作などについて振り返り，理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。				2

	授業	行動ログデータの解析について学ぶ。そのために必要となる疎行列表現について知り、プログラムを使った疎行列作成実習を行う。C++において行列演算ライブラリ eigen を使う方法について学ぶ。	
	事後学修	プログラムを使った疎行列作成実習の結果について実習ノートにまとめること。	2
6	事前学修	ビッグデータの活用事例である行動ログから推薦（オススメ）を行うための技術について、講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	行動ログから推薦（オススメ）を行うための技術について学ぶ。これまでの研究、レコメンドシステムの4つのタスクについて知る。研究に広く用いられている映画に対する評価のデータを使った実験を準備する。	
	事後学修	解析環境がある仮想マシンに、映画に対する評価のデータをダウンロードし、必要な準備を行うこと。	2
7	事前学修	解析環境がある仮想マシンにおいて、行列表現の読み書き、疎行列の読み書きについて、実験に必要な情報を整理しておくこと。	2
	授業	映画の評価データを処理するプログラムの書き方について学ぶ。レコメンドに使う「相関」の意味と、算出方法について学ぶ。実験を行う。	
	事後学修	プログラムと処理のフローチャート（自分の言葉でノートに書くこと）との対応を確認すること。実験結果を実習ノートにまとめること。	2
8	事前学修	レコメンドに使う「相関」の意味と、算出方法について、講義資料や例を見て、自分でも動かして理解すること。	2
	授業	相関をレコメンドに使う考え方を知る。評価の無いデータへの対応、評価の予測値の計算式について知る。	
	事後学修	評価の予測値の計算式について、自分の言葉で実習ノートに書くこと。	2
9	事前学修	相関を使ったユーザベース協調フィルタリング、アイテムベース協調フィルタリングについて、講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	相関を使ったユーザベース協調フィルタリング、アイテムベース協調フィルタリングについて学ぶ。プログラムによる実験を行う。推薦された映画の妥当性について考える。	
	事後学修	実験結果を見て、推薦された映画の妥当性について考えること。	2
10	事前学修	推薦された映画の妥当性について、理由が納得できる、意外であったものなどを探し、実習ノートにまとめること。	2
	授業	推薦結果の評価方法について知る。プログラムによる評価実習を行う。	
	事後学修	プログラムによる評価実習の結果について実習ノートにまとめること。	2
11	事前学修	潜在因子モデルによる推薦について講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	潜在因子モデルによる推薦について学ぶ。プログラムによる実習を行う。レコメンド技術の分類について知る。	
	事後学修	プログラムによる実習の結果について実習ノートにまとめること	2
12	事前学修	文書データの解析について講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	ビッグデータの活用事例である文書データの解析について知る。疎行列で文書データが表せること、データの読み込みについては行動ログと同様であることを理解する。解析用のデータを準備を始める。	
	事後学修	解析用の文書データをダウンロードして展開し、事前処理を行うこと。ストップワードの除去による影響を調べる実習を行い、結果を実習ノートにまとめること。	2
13	事前学修	解析に必要なプログラムやコマンドについて整理しておくこと。	2

	授業	文書データの解析に用いる単語の分布について知り、球面クラスタリングを理解する。プログラムにより球面クラスタリングの実習を行う。	
	事後学修	実習結果を実習ノートにまとめること。	2
14	事前学修	情報理論的クラスタリングについて講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	情報理論的クラスタリングについて知る。プログラムにより情報理論的クラスタリングを行う。クラスタリングの評価について学び、評価実験を行う。	
	事後学修	実習結果を実習ノートにまとめること。	2
15	事前学修	競合学習による球面クラスタリングや情報理論的クラスタリングについて講義資料を読み、理解できていることと疑問点についてノートにまとめること。	2
	授業	競合学習による球面クラスタリングや情報理論的クラスタリングを行い、k-means タイプのアルゴリズムとの性能差について実験を行う。	
	事後学修	実験結果を実習ノートにまとめ、実習ノートをレポートとして提出すること。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験： 25% ■小テスト： 25% ■レポート：20% ■演習課題： 30% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストについては正解を示し解説をすることで、レポートについてはコメントを返すことで行う。

教科書	書名：わかりやすいデータ解析入門（第2版）、著者名：内山俊郎、出版社：ムイスリ出版、備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	線形代数Ⅰ・Ⅱ、確率と統計Ⅰ・Ⅱ
備考	確率と統計および線形代数について、解析に必要な技術について説明するが、一度学習していることを前提としており、これらについて理解度を確かめる小テストを実施する。
担当教員の実務経験	2006年から2012年度まで企業の研究所に所属し、文書データ解析、レコメンダの研究を行うとともに、これら研究の成果を関連事業会社において利用可能なものとする実用化（プロダクト化）を行い、事業会社への技術支援を行った。これら実務において、実用化プロジェクトに関わり、これらの技術を現場において適用する過程を見てきた。これら実務経験を生かす形で、講義の中で示す技術の実応用例などを学生に伝え、技術の先にある現場の様子が想像できるような教育を実施する。

クリエイティブ・マネジメント Creative Management

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	講義	○	IMD302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		3 年	前期	
授業概要						
この講義では、デザイナー、クリエイター、プログラマーなどを指すものが将来、ディレクター、プロデューサー、上級SE などへのキャリアステップを踏む上で身につけるべきプロジェクトマネジメント、スケジュール管理、チームビルディング、チームマネジメントなどについて学習する。 大学生活の中で、作ることをひとりではなくチームで行う際、どうすれば成功に結び付けられるのかをみんなで考える。 ※この講義はグループでのディスカッションを多く含みます。						
授業における学修の到達目標						
・デザイナーやクリエイターが持つべきマネジメント能力、チームづくりの基本的な知識と考え方を身につける。 ・ディレクターやプロデューサーを目指す上で必要な知識と応用力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義の目的とスケジュールをみしておく				2
	授業	ガイダンス クリエイティブってなに？ 自分は何を武器にする？ →グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる				2
2	事前学修	なぜ、情報大を目指したか思い出しておく				2
	授業	情報大生として何を学ぶか？ →グループディスカッション				
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる				2
3	事前学修	PMBOK について調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 2 PMBOK の体系				
	事後学修	他に同じような体系がないか調べてみる				2
4	事前学修	スコープについて調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 3 スコープマネジメント				
	事後学修	スコープの具体例を調べてみる				2
5	事前学修	チームマネジメントについて調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 4 チームマネジメント				
	事後学修	どのような具体例があるか調べてみる				2
6	事前学修	工数とは何か、調べておく				2
	授業	プロジェクトマネジメント 5 工数計算とタイムマネジメント				
	事後学修	計算問題を行う				2
7	事前学修	工数計算のテストの準備をおこなう				2

	授業	プロジェクトマネジメント 6 工数計算の復習 →小テスト	
	事後学修	小テストの復習	2
8	事前学修	自分がどのようなコミュニケーションツールを使っているかリストしてみる。	2
	授業	プロジェクトマネジメント 7 コミュニケーションマネジメント	
	事後学修	自分であれば、どのようなコミュニケーションツールが最適か考えてみる	2
9	事前学修	どうやったらチームが活性化するか考えてみる	2
	授業	チームビルディング 1 ケース教材：チームが活性化するためのプロセス →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
10	事前学修	フレームを調べてみる	2
	授業	チームビルディング 2 ケース教材：フレームを作ろう →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
11	事前学修	困ったちゃんとは？調べてみる	2
	授業	チームビルディング 3 ケース教材：困ったちゃんにならないために →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
12	事前学修	どうやったら信頼関係は作れるのだろうか。あるいは、壊れるのかを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 4 ケース教材：信頼関係はどう作る？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
13	事前学修	リーダーとは？リーダーシップとは何かを考えてみる。	2
	授業	チームビルディング 5 ケース教材：リーダーシップってどんなこと？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
14	事前学修	自分が意思を決定する際、どのように決めているのかを思い出してみる	2
	授業	チームビルディング 6 ケース教材：意思決定はどう行う？ →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2
15	事前学修	コミュニケーションツールにはどんな物があるか調べてみる	2
	授業	チームビルディング 7 ケース教材：チームの中のコミュニケーション →グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションで出た意見を見直し、自分の意見の定着をはかる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

☐試験： % ☒小テスト：20% ☒レポート：40% ☒演習課題：40% ☐その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習課題は、講義でグループ作業中に見回り、助言を直接与える

レポート、小テストは、採点後の講義にて気づいたことを全体に向けてフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	必要あれば、講義中に紹介する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	主にプロジェクトマネジメントの課題は 2 人チームで行います。 また、演習課題は積み上げ式に連鎖しているため、休むと次の課題ができなくなります。 チームメイトは変更しないようにお願いします。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社、IT コンサルティングファームで得たプロジェクト管理の知識と経験をもとにケース教材を作り、学生に具体的な状況を与え、考えさせる。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイデア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ゼミナールⅠでは、課題解決型プロジェクト学習を行う上での基本知識習得とそれを実際に試すトライアル課題を実施します。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR、映像、音楽などや、PHP, JavaScript など得意とする学生も歓迎します。					
授業における学修の到達目標					
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨とスケジュールを把握しておく			2
	授業	ガイダンス 課題解決型プロジェクト学習でどのように学んでいくか？			
	事後学修	課題解決型プロジェクト学習の具体例を探してみる			2
2	事前学修	課題解決型プロジェクト学習のメリットとデメリットを考えてみる			2
	授業	課題解決型プロジェクト学習のメリットと落とし穴（講義の後、グループディスカッション）			

	事後学修	デメリットに対する対策を考えてみる	2
3	事前学修	コミュニケーションはチームにどう影響するかを考えてみる	2
	授業	グループワークの方法 コミュニケーション（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	どのようにすればゼミナールのチームでのコミュニケーションが活性化するか考えてみる	2
4	事前学修	ガントチャートとタスクリストについて調べてみる	2
	授業	グループワークの方法 スケジュール管理（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	ガントチャートとタスクリストのアプリをスマートフォンにインストールする	2
5	事前学修	クオリティとスケジュールの関係について考えておく	2
	授業	グループワークの方法 クオリティ管理（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	クオリティを上げるにはどのようにすればいいか、考えてみる	2
6	事前学修	ドキュメンテーションするメリットを考えてみる	2
	授業	グループワークの方法 ドキュメンテーション（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	ゼミナールのチームでのドキュメンテーションの具体的なツールを探してみる	2
7	事前学修	チームとグループの違いについて考えておく	2
	授業	チームビルディングの方法 チームとグループの違い（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	チームであるためには何が必要か考えてみる	2
8	事前学修	学生のチームづくりを考えたときにどのような過程を経るのか、紙に書いてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チームの形成プロセス（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	効率的なチームビルディングを行うには何が大切か考えてみる。	2
9	事前学修	チームの活性化するときなどのようなときか、考えてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チームの活性化（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	ゼミナールのチームを活性化させるためには何が大切か、考えてみる	2
10	事前学修	役割分担をすることはどのようなメリットがあるか考えてみる	2
	授業	チームビルディングの方法 チーム内での役割分担（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	自分はゼミでどのような役割を果たせるか、考えてみる	2
11	事前学修	コミットメントとはなにか調べておく	2
	授業	チームビルディングの方法 コミットメントの重要性（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	学生におけるコミットメントとはどのようなことか、考えてみる	2
12	事前学修	リーダーシップとは何か、考えておく	2
	授業	リーダーとリーダーシップ リーダーシップの形（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	自分のリーダーシップのスタイルを考えてみる	2
13	事前学修	リーダーとは何かを考えてみる	2

	授業	リーダーとリーダーシップ リーダーとは？（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	自分はどのようなリーダーになれるのか、考えてみる	2
14	事前学修	チームのメリットを考えておく	2
	授業	チームで取り組むことのメリット（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	どうしたらメリットを最大化できるか考えてみる	2
15	事前学修	チームのデメリットを考えておく	2
	授業	チームで取り組むことのデメリット（講義の後、グループディスカッション）	
	事後学修	デメリットに対する対策を考えてみる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜、指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社、IT コンサルティングファームの実務経験をもとに、そこで得た知識、技術、ツールを学生に教える。また、実務時代のネットワークを活用し、学生と外部有識者とをつなげ、現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイデア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ゼミナールⅠでは、課題解決型プロジェクト学習を行う上での基本知識習得とそれを実際に試すトライアル課題を実施します。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR、映像、音楽などや、PHP, JavaScript などを得意とする学生も歓迎します。					
授業における学修の到達目標					
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	プロジェクト学習について調べておく			2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題提起			
	事後学修	課題を読み込み、理解する			2
2	事前学修	課題を読み込み理解する			2
	授業	トライアルプロジェクト課題			

		課題の理解と全体での共有 →チーム分け	
	事後学修	同じような課題が他にないか調べてみる	2
3	事前学修	二次調査を行う	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 周辺調査	
	事後学修	二次調査を行う	2
4	事前学修	現地調査・ヒアリングの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング	
	事後学修	現地調査・ヒアリングのまとめ	2
5	事前学修	アイデアをどんどん出してみる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング	
	事後学修	アイデアを整理する	2
6	事前学修	整理したアイデアを俯瞰してみる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューション案絞る	
	事後学修	ソリューション案を掘り下げしてみる	2
7	事前学修	ソリューション案を整理する	2
	授業	プロジェクト課題1 ソリューション案を提案書としてまとめる	
	事後学修	提案書の完成度を上げる	2
8	事前学修	プロトタイプの製作順序を考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 全体設計を行う	
	事後学修	全体設計の完成度を上げる	2
9	事前学修	詳細設計の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計を行う	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
10	事前学修	詳細設計の完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計の完成度を上げる	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
11	事前学修	設計の全体を振り返る	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを作成する	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2

12	事前学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプの完成度をあげる	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
13	事前学修	プロトタイプの評価の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを評価する	
	事後学修	プロトタイプの評価をまとめる	2
14	事前学修	プロトタイプの評価をみて、改善点を考えてみる	2
	授業	プレゼンテーションの準備をする	
	事後学修	プレゼンテーションの準備をする	2
15	事前学修	プレゼンテーションの練習をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション 講評と振り返り	
	事後学修	プレゼンテーションを振り返る プロジェクト全体を振り返る	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜、指示する
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社、IT コンサルティングファームの実務経験をもとに、そこで得た知識、技術、ツールを学生に教える。また、実務時代のネットワークを活用し、学生と外部有識者とをつなげ、現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	安田 光孝 (135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
ゼミナールⅢ では、道内外の地域等から課題解決型プロジェクト学習の実践課題を用意し、1 年をかけて実施していきます。 ○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Web を中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR, 映像、音楽などや、PHP, JavaScript などを得意とする学生も歓迎します。					
授業における学修の到達目標					
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅢ の趣旨とスケジュールを把握しておく			2
	授業	ガイダンス 課題解決型プロジェクト学習でどのように学んでいくか？			
	事後学修	ゼミナールⅠとⅡで行った課題解決型プロジェクト学習を振り返ってみる			2
2	事前学修	プロジェクト学習について調べておく			2
	授業	トライアルプロジェクト課題			

		課題提起	
	事後学修	課題を読み込み、理解する	2
3	事前学修	課題を読み込み理解する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 課題の理解と全体での共有 →チーム分け	
	事後学修	同じような課題が他にないか調べてみる	2
4	事前学修	二次調査をはじめる	2
	授業	事前の二次調査を行う ネット調査	
	事後学修	二次調査を更に掘り下げる	2
5	事前学修	文献があるか調べる	2
	授業	事前の二次調査を行う 文献調査	
	事後学修	文献を読む	2
6	事前学修	現地調査・ヒアリングの対象を洗い出す	2
	授業	現地調査・ヒアリングの準備を行う	
	事後学修	調査用のツールなどを準備する	2
7	事前学修	調査用のツールなどを準備する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング ステイクホルダー対象	
	事後学修	調査・ヒアリングの結果をまとめる	2
8	事前学修	調査用のツールなどを準備する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 現地調査あるいは関係者ヒアリング ステイクホルダー以外の周辺調査	
	事後学修	調査・ヒアリングの結果をまとめる	2
9	事前学修	結果からどのような課題が挙げられるか考える	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング 一人でアイディアを出してみる	
	事後学修	アイディアをまとめてみる	2
10	事前学修	グループでのプレストの準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューションのブレインストーミング グループでのアイディア出し	
	事後学修	アイディアをチームでまとめてみる	2
11	事前学修	まとめたアイディアをよく読んでおく	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 ソリューション案絞る	
	事後学修	絞ったソリューション案を掘り下げしてみる	2

12	事前学修	提案書作成の準備	2
	授業	プロジェクト課題1 ソリューション案を提案書としてまとめる	
	事後学修	提案書の作成の続き	2
13	事前学修	提案書作成の続き	2
	授業	プロジェクト課題1 ソリューション案を提案書としてまとめる 提案発表の準備	
	事後学修	発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	プロジェクト課題1 提案発表会（前半グループ）	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	プロジェクト課題1 提案発表会（後半グループ）	
	事後学修	発表の振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜，指示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅡ
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社，IT コンサルティングファームの実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。また，実務時代のネットワークを活用し，学生と外部有識者とをつなげ，現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	安田 光孝(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅢにつづき、道内外の地域等から課題解決型プロジェクト学習の実践課題を用意し、1年をかけて実施していきます。 ○ テーマ クリエイティブ・ソリューション ○ 概 要 メインテーマは、Webを中心とした「クリエイティブ・ソリューション」です。 世の中にあるリアルな課題（プロジェクト）を集め、Creative（アイディア・デザイン・テクノロジー）を武器に課題解決に取り組みます。学生たちはチームを作り、プロジェクトに取り組みながら、課題抽出、企画・戦略立案、そして、クリエイティブ・ソリューションの提案を行います。ここで学生たちはデザインやテクノロジーのスキルだけでなく、マーケティング手法、ビジネススキル、そして、チームビルディング、コミュニケーション力を体得して行きます。 ※Adobe Illustrator, Figma, HTML, CSS の知識が必要です。 ※Web やアプリを使ったビジネスや、マーケティングに興味がある学生も歓迎します。 ※デザインが不得手でも、VR、映像、音楽などや、PHP, JavaScriptなどを得意とする学生も歓迎します。					
授業における学修の到達目標					
1. プロデュース力 リアルな題材をもとにコンテンツの企画立案を行い、クライアントへの提案を行います。 2. クリエイティブ力 デザインするスキルだけでなく、市場調査や、クライアントのヒアリングを行い、説得力のあるデザインスキルを養います。また、 アプリ・アニメーション・動画・グラフィック・音楽などのコンテンツ制作を行います。 3. マネージメント力 チームをつくり、その中でプロジェクトを進めていくコツを学びます。 4. コミュニケーション力 リアルなクライアントとやりとりすることにより、メール、電話対応などの基本だけでなく、人と人との信頼構築を学びます。 5. ビジネス力 Web における戦略立案、マーケティング手法を学びます					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅢを思い返し、提案書を見直しておく			2
	授業	プロジェクト課題1（ゼミナールⅢのつづき） 提案書振り返り・修正			
	事後学修	提案書を修正する			2
2	事前学修	プロトタイプの製作順序を考える			2
	授業	トライアルプロジェクト課題			

		制作・開発プロトタイプ作成 全体設計を行う	
	事後学修	全体設計の完成度を上げる	2
3	事前学修	詳細設計の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計を行う	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
4	事前学修	詳細設計の完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 詳細設計の完成度を上げる	
	事後学修	詳細設計の完成度を上げる	2
5	事前学修	設計の全体を振り返る	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを作成する	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
6	事前学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプの完成度をあげる	
	事後学修	プロトタイプの完成度を上げる	2
7	事前学修	プロトタイプの評価の準備をする	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 制作・開発プロトタイプ作成 プロトタイプを評価する	
	事後学修	プロトタイプの評価をまとめる	2
8	事前学修	プロトタイプの評価を分析する	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロトタイプの評価から修正点を洗い出す	
	事後学修	修正点をまとめる	2
9	事前学修	全体設計での修正点をまとめる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 全体設計の見直し	
	事後学修	全体設計の見直し	2
10	事前学修	詳細設計での修正点をまとめる	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 詳細設計の見直し	
	事後学修	詳細設計の見直し	2
11	事前学修	開発の準備	2

	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業 デザイン	
	事後学修	作業を進める	2
12	事前学修	作業を進める	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業 コーディング	
	事後学修	作業を進める	2
13	事前学修	作業を進める	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プロダクト・サービスの開発 開発作業 統合作業	
	事後学修	作業を進める	2
14	事前学修	プレゼンテーションの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション（クラスの前半グループ） 講評	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2
15	事前学修	プレゼンテーションの準備	2
	授業	トライアルプロジェクト課題 プレゼンテーション（クラスの後半グループ） 講評	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク]70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、チームミーティングの中で振り返りを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ適宜，指示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナール III
備考	PC を所有していることが好ましい。
担当教員の実務経験	1994 年からの Web 制作会社，IT コンサルティングファームの実務経験をもとに，そこで得た知識，技術，ツールを学生に教える。また，実務時代のネットワークを活用し，学生と外部有識者とをつなげ，現場の最新の情報などが得られるようにしている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	伊藤 正彦 (325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○テーマ					
・ 情報可視化の技術を通して「データと人、人と人、データとデータとをつなぐ」 ・ いつでもどこでも何に対してでも可視化する					
○概要					
ビッグデータの時代に、情報メディア技術として求められるものは何であろう？その一つである、情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組んでももらいます。					
（１） データ可視化・分析：様々なデータを使った、インタラクティブな視覚的情報分析・伝達手法を身に着けることを目指します。グループディスカッションなどを通して課題解決に取り組めます。データとしては、時空間・時系列データ、地理情報データ、ネットワークデータ、スポーツデータ、写真、映画、音楽に関するデータなど様々なものを取り扱います。 （２） 新たなデバイス用いた情報可視化：AR/VR デバイスなど新しいデバイスを用いた情報可視化手法を提案し開発に取り組めます。 （３） デジタルアーカイブと可視化：ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築していきます。					
本格的な開発には Python、C#、JavaScript、Java などを用いますが、初めからすべてを知っている必要はありません。					
授業における学修の到達目標					
（１） 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とします。スキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に付けてもらいます。 （２） 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とします。 （３） 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	身につけたい技術、やりたいことを考える			2
	授業	ガイダンス、情報共有環境の設定			
	事後学修	情報共有環境を確認する			2
2	事前学修	自己紹介プレゼン準備			2
	授業	自己紹介プレゼン			
	事後学修	自己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる			2
3	事前学修	Python について基本情報を調べておく			2
	授業	データ前処理基礎演習 1（環境と文法）			
	事後学修	演習と課題を提出する			2
4	事前学修	前週の内容を復習する			2
	授業	データ前処理基礎演習 2（データ処理）			
	事後学修	演習と課題を提出する			2
5	事前学修	前週の内容を復習する			2

	授業	データ前処理応用演習 1（データ分析）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
6	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	データ前処理応用演習 2（データ収集）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
7	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・多変量データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
8	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・時間データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
9	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・地理情報データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
10	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・ネットワーク・階層データの可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
11	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・インタラクション手法（基礎）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
12	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化入門・インタラクション手法（応用）	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
13	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化課題制作演習	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
14	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	聴講レポートを提出する	2
15	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	可視化課題制作演習発表会	
	事後学修	発表会の結果を反映したレポートを提出する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。

教科書

参考書・Web サイト

適宜紹介する。

単位修得が望ましい科目

プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ

備考	卒研の各自のテーマに関しては、Python、Unity + C#、JavaScript、あるいは Processing + Java を用いた開発が必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要な知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	伊藤 正彦 (325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○テーマ					
・ 情報可視化の技術を通して「データと人、人と人、データとデータとをつなぐ」 ・ いつでもどこでも何に対してでも可視化する					
○概要					
ビッグデータの時代に、情報メディア技術として求められるものは何であろう？その一つである、情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組んでもらいます。					
（１） データ可視化・分析：様々なデータを使った、インタラクティブな視覚的情報分析・伝達手法を身に着けることを目指します。グループディスカッションなどを通して課題解決に取り組みます。データとしては、時空間・時系列データ、地理情報データ、ネットワークデータ、スポーツデータ、写真、映画、音楽に関するデータなど様々なものを取り扱います。 （２） 新たなデバイス用いた情報可視化：AR/VR デバイスなど新しいデバイスを用いた情報可視化手法を提案し開発に取り組みます。 （３） デジタルアーカイブと可視化：ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築していきます。					
本格的な開発には Python、C#、JavaScript、Java などを用いますが、初めからすべてを知っている必要はありません。					
授業における学修の到達目標					
（１） 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とします。スキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に付けてもらいます。 （２） 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とします。 （３） 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	プレゼンテーションに関する参考資料の予習			2
	授業	プレゼンテーション講習			
	事後学修	プレゼンテーション講習資料の復習			2
2	事前学修	論文サーベイに関する参考資料の予習			2
	授業	論文サーベイ講習			
	事後学修	論文サーベイ講習資料の復習			2
3	事前学修	前週までの内容を復習する			2
	授業	インタフェース技術演習・Unity をつかった UI			
	事後学修	演習と課題を提出する			2
4	事前学修	前週の内容を復習する			2
	授業	インタフェース技術演習・Unity をつかった可視化			
	事後学修	演習と課題を提出する			2
5	事前学修	前週の内容を復習する			2

	授業	インタフェース技術演習・UnityをつかったAR/VR	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
6	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Processing 入門	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
7	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Processing による画像処理	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
8	事前学修	前週の内容を復習する	2
	授業	インタフェース技術演習・Processing による可視化	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
9	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2
	授業	技術紹介プレゼン（情報可視化）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
10	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2
	授業	技術紹介プレゼン（ユーザインタフェース）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
11	事前学修	技術紹介プレゼンの準備	2
	授業	技術紹介プレゼン（データ工学）	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
12	事前学修	文章執筆環境設定	2
	授業	技術文章の書き方演習	
	事後学修	演習と課題を提出する	2
13	事前学修	卒研の企画について検討する	2
	授業	卒研企画検討	
	事後学修	検討内容をレポートにまとめる	2
14	事前学修	卒研企画書プレゼンの準備	2
	授業	卒研企画書プレゼン	
	事後学修	質疑の内容をレポートにまとめる	2
15	事前学修	卒研発表会のプログラム確認	2
	授業	卒業研究発表会の聴講	
	事後学修	聴講内容をレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。

教科書

参考書・Web サイト

適宜紹介する。

単位修得が望ましい科目

プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ

備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity + C#、Python、 JavaScript、あるいは Tableau を用いた開発が必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要な知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	伊藤 正彦 (325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
○テーマ					
(1) 情報可視化に関する研究開発					
(2) ユーザインタフェースに関する研究開発					
(3) データ工学に関する研究開発					
○概要					
情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組む。可視化技術、AR/VRなどをを用いた新しいユーザインタフェース技術の研究開発を行う。また、ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築する。最終的な研究成果は論文としてまとめ発表する。					
授業における学修の到達目標					
(1) 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とするスキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着ける。					
(2) 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とする。					
(3) 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅡの全体の内容を把握する			2
	授業	ゼミナールⅡの概要			
	事後学修	ゼミナールⅡの全体の内容について整理する			2
2	事前学修	プレゼンテーションの復習として「自己紹介のスライド」を作成			2
	授業	プレゼンテーションの復習			
	事後学修	発表の良かった点・改善できそうな点をまとめる			2
3	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる			2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（情報可視化）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
4	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる			2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（ユーザインタフェース）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
5	事前学修	論文調査内容を発表の前までにまとめる			2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査（データ工学）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
6	事前学修	卒研テーマの目的の設定について報告資料をまとめる			2
	授業	卒研テーマの目的の設定			
	事後学修	卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめる			2
7	事前学修	システム概要を発表の前までにまとめる			2
	授業	実装するシステムの概要（情報可視化、ユーザインタフェース）			

	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
8	事前学修	システム概要について発表の前までにまとめる	2
	授業	実装するシステムの概要（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
9	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2
	授業	プロトタイプ実装の進捗（情報可視化、ユーザインタフェース）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
10	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2
	授業	プロトタイプ実装の進捗（情報可視化、データ工学）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
11	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（1回目）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（2回目）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
14	事前学修	企画発表会での発表について準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity + C#、Python、JavaScript、Tableau を用いた開発を前提とするが、個別に指導する予定である。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要な知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	伊藤 正彦 (325 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
○テーマ					
(1) 情報可視化に関する研究開発					
(2) ユーザインタフェースに関する研究開発					
(3) データ工学に関する研究開発					
○概要					
情報を視覚的に表現し、分析・理解し、理解した内容を人に伝える技術である「情報可視化」技術を学び、実際に役に立つ情報可視化システム、今まで見たことのない新しい情報可視化システムを構築することに取り組む。可視化技術、AR/VRなどを用いた新しいユーザインタフェース技術の研究開発を行う。また、ウェブ、実世界から様々なデータを取得し蓄積し、可視化を含めた様々なことに役立つデジタルアーカイブを構築する。最終的な研究成果は論文としてまとめ発表する。					
授業における学修の到達目標					
(1) 知識・経験・スキル・人脈といった一生役に立つ無形財産を身に着けることを目標とするスキルとしては、実装するスキル、技術的文章・論文の読み書きのスキル、プレゼンテーションのスキルなどを身に着ける。					
(2) 自律的に考え行動し、問題を解決できる能力を身に着けることを目標とする。					
(3) 積極的に意見や質問を言い合える発信力とコミュニケーション能力を身に着けることを目標とする。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	文章の書き方に関する資料を復習する			2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方			
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方について復習する			2
2	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめる			2
	授業	実験・評価方法（情報可視化、ユーザインタフェース）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
3	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめる			2
	授業	実験・評価方法（情報可視化、データ工学）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
4	事前学修	実験・評価の進捗資料をまとめる			2
	授業	評価実験の進捗（情報可視化、ユーザインタフェース）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
5	事前学修	実験・評価の進捗資料をまとめる			2
	授業	評価実験の進捗（情報可視化、データ工学）			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
6	事前学修	プロトタイプ追加機能について資料をまとめる			2
	授業	評価実験に基づいたプロトタイプ追加機能の検討			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
7	事前学修	プロトタイプ追加機能の実装報告資料をまとめる			2
	授業	評価実験に基づいたプロトタイプ追加機能の実装報告			

	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
8	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめる	2
	授業	卒業論文の構成の議論	
	事後学修	議論内容を基に、目次を完成させ、小論執筆を開始	2
9	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の相互チェック（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
10	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の相互チェック（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
11	事前学修	卒研発表会の成果物の準備をする	2
	授業	卒研発表会の成果物の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
12	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他[課題・レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、普段の研究・学習態度およびゼミ内での活動・貢献等(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、プレゼンテーション及び提出された発表資料について、口頭あるいはオンラインで行う。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する。
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ
備考	卒研の各自のテーマに関しては、Unity + C#、Python、JavaScript、Tableau を用いた開発を前提とするが、個別に指導する予定である。
担当教員の実務経験	担当者は 2000 年から 2004 年にかけて企業における画像データベースシステム開発業務経験がある。また、2009 年以降は大学および国研の研究所で情報可視化に関する研究開発業務経験がある。そこで培った、開発のノウハウや研究開発に必要な知見について、講義内で解説している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	河原 大 (322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○概要					
アニメーションや 3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。					
○テーマ					
アニメーション、3DCG、デジタルゲーム制作、エンターテインメント、地方発信					
授業における学修の到達目標					
・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える					
・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する					
・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	自己紹介のプレゼン資料を用意する			2.0
	授業	・ガイダンス（前期の活動の説明） ・自己紹介（1 人あたり 4 分、質疑応答 3 分）			
	事後学修	今後のゼミ活動の計画を立てる			2.0
2	事前学修	前期課題制作の準備をする			2.0
	授業	前期課題制作のテーマ発表 1（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）			
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する			2.0
3	事前学修	前期課題制作の準備をする			2.0
	授業	前期課題制作のテーマ発表 2（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）			
	事後学修	前期課題のテーマを確定する			2.0
4	事前学修	発表会の準備をする			2.0
	授業	前期課題の中間発表会 1（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）			
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する			2.0
5	事前学修	発表会の準備をする			2.0
	授業	前期課題の中間発表会 2（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）			
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる			2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作			2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）、プリプロダクション終了			
	事後学修	助言を元に問題を修正する			2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作			2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 2（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）			
	事後学修	助言を元に問題を修正する			2.0

8	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 3 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)、 α 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 4 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 5 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)、 β 版の発表	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	前期課題ゼミ内発表会 1 (1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	前期課題ゼミ内発表会 2 (1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	卒業研究企画発表会のプログラムを確認する	2.0
	授業	卒業研究企画発表会 1 の聴講	
	事後学修	レポート提出	2.0
14	事前学修	卒業研究企画発表会のプログラムを確認する	2.0
	授業	卒業研究企画発表会 2 の聴講	
	事後学修	レポート提出	2.0
15	事前学修	夏休み期間のスケジュールを検討する	2.0
	授業	夏休み期間のスケジュール発表 (1 人あたり 10 分)	
	事後学修	前期を振り返り、やり忘れたことがあれば夏休み期間に終わらせておく	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームCG演習、3DCG演習
備考	3・4年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社(合資会社ピコグラフ)での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC303	
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
授業概要						
○概要 アニメーションや 3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。						
○テーマ アニメーション、3DCG、デジタルゲーム制作、エンターテインメント、地方発信						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える ・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する ・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	夏休み中に企画やプロトタイプを改善し、ここまでの成果を発表する準備を行う				2.0
	授業	・ガイダンス（後期の活動の説明） ・ここまでの進捗報告（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に今後の制作スケジュール全体を見直す				2.0
2	事前学修	後期課題制作の準備をする				2.0
	授業	後期課題制作のテーマ発表 1（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）				
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する				2.0
3	事前学修	後期課題制作の準備をする				2.0
	授業	後期課題制作のテーマ発表 2（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）				
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する				2.0
4	事前学修	発表会の準備をする				2.0
	授業	前期課題の中間発表会 1（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる				2.0
5	事前学修	発表会の準備をする				2.0
	授業	前期課題の中間発表会 2（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に改善点をまとめる				2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 2（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0

8	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 3 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 4 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 5 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	後期課題ゼミ内発表会 1 (1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	後期課題ゼミ内発表会 2 (1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	卒研テーマの準備	2.0
	授業	卒研テーマの発表 1 (1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分)	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
14	事前学修	卒研テーマの準備	2.0
	授業	卒研テーマの発表 2 (1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分)	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0
15	事前学修	卒研テーマの準備	2.0
	授業	卒研テーマの発表 3 (1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分)	
	事後学修	助言を元に企画内容を修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームCG演習、3DCG演習
備考	3・4年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	河原 大(322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	前期	
授業概要						
○概要						
アニメーションや 3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える						
・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する						
・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	卒研企画発表会の準備				2.0
	授業	・ガイダンス（前期の活動の説明） ・ゼミ内卒研企画発表会（1 人あたり 4 分、質疑応答 3 分）				
	事後学修	今後のゼミ活動の計画を立てる				2.0
2	事前学修	卒業研究のために先行研究リサーチ				2.0
	授業	卒業研究のためのリサーチ報告 1（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）				
	事後学修	追加リサーチ				2.0
3	事前学修	卒業研究のために先行研究リサーチ				2.0
	授業	卒業研究のためのリサーチ報告 2（1 人あたり 5 分、質疑応答 3 分）				
	事後学修	卒業研究のテーマを確定する				2.0
4	事前学修	ゼミ内中間発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 1（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
5	事前学修	ゼミ内中間発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 2（1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
6	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 1（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
7	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 2（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に問題を修正する				2.0
8	事前学修	プロトタイプの制作				2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 3（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				

	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
9	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 4 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
10	事前学修	プロトタイプ制作	2.0
	授業	プロトタイプの進捗報告 5 (1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	助言を元に問題を修正する	2.0
11	事前学修	ゼミ内発表会の準備をする	2.0
	授業	ゼミ内発表会 (1 人あたり 4 分、質疑応答 5 分)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	小論文作成の準備	2.0
	授業	小論文の作成	
	事後学修	校正および教員のチェック	2.0
13	事前学修	卒研企画発表会の準備をする	2.0
	授業	卒研企画発表会 1 (複数ゼミ合同の発表会)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	卒研企画発表会の準備をする	2.0
	授業	卒研企画発表会 2 (複数ゼミ合同の発表会)	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	夏休み期間のスケジュールを検討する	2.0
	授業	卒研企画発表会の振り返りと夏休み期間のスケジュールを発表する (1 人あたり 10 分)	
	事後学修	前期を振り返り、やり忘れたことがあれば夏休み期間に終わらせておく	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームCG演習、3DCG演習
備考	3・4年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	河原 大 (322 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC409	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	後期	
授業概要						
○概要						
アニメーションや 3DCG、ゲームなどのデジタルコンテンツの企画・制作・発表を通じて、新しい価値の発見・共有・活性化を目指します。特に「地方発信のコンテンツ力」の可能性を追求しています。何が面白いのか、誰が求めているのか、どのように表現するのか。実現に必要な表現方法を研究し、コンテンツを企画・制作することで、モノ作りの知識や技術を学びます。また、制作したコンテンツを発表する機会を重要視するので、魅力を伝えられるプレゼンテーション能力を身につけましょう。						
○テーマ						
アニメーション、3DCG、デジタルゲーム制作、エンターテインメント、地方発信						
授業における学修の到達目標						
・制作するテーマを自ら設定し、その企画の良さを伝える						
・企画したコンテンツを制作し、進捗を発表する						
・教員やゼミ生からの助言を分析し、問題点を解決する						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	夏休み中に企画やプロトタイプを改善し、ここまでの成果を発表する準備を行う				2.0
	授業	・ガイダンス（後期の活動の説明） ・ここまでの進捗報告（1 人あたり 3 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元に今後の制作スケジュール全体を見直す				2.0
2	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 30%）				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0
3	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 40%）				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0
4	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 50%）				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0
5	事前学修	発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 1（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し				2.0
6	事前学修	発表会の準備				2.0
	授業	ゼミ内中間発表会 2（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）				
	事後学修	助言を元にスケジュールの見直し				2.0
7	事前学修	作品の制作を行う				2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 60%）				
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う				2.0

8	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 70%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
9	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 80%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
10	事前学修	作品の制作を行う	2.0
	授業	ここまでの進捗報告（進捗 90%）	
	事後学修	助言を元に作品の制作を行う	2.0
11	事前学修	発表会の準備	2.0
	授業	ゼミ内卒研発表会 1（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	発表会の準備	2.0
	授業	ゼミ内卒研発表会 2（1 人あたり 8 分、質疑応答 5 分）	
	事後学修	もらった意見を元に改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	小論文作成の準備	2.0
	授業	小論文の指導	
	事後学修	小論文の修正	2.0
14	事前学修	卒業研究発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	卒業研究発表会の展示準備 1	
	事後学修	ここまですを振り返り、問題があれば修正する	2.0
15	事前学修	卒業研究発表会の準備、発表練習をする	2.0
	授業	卒業研究発表会の展示準備 2	
	事後学修	ここまですを振り返り、問題があれば修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：80% ■その他[プレゼンテーション：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生からの進捗報告を受け、それに対しアドバイスを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、適宜指示する。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習、アニメーション基礎演習、ゲームCG演習、3DCG演習
備考	3・4年生合同で行う。
担当教員の実務経験	アニメ・ゲーム制作会社（合資会社ピコグラフ）での実務経験を元に、実例を見せながら現場で共有すべき知識や技術を教える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
興味あるテーマについて調査し、それらをプレゼンテーションにまとめて発表する。また、Python を用い、データを統計処理、解釈し、発表する。						
授業における学修の到達目標						
・ 様々なデータを統計処理し、グラフを作成できる ・ 調査結果を分かりやすくプレゼンできる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	興味あるテーマ1 について調査する				2
	授業	テーマ1 を報告する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
2	事前学修	興味あるテーマ2 について調査する				2
	授業	テーマ2 を報告する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
3	事前学修	論文1 を読み、まとめる				2
	授業	論文1 を紹介する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
4	事前学修	論文2 を読み、まとめる				2
	授業	論文2 を紹介する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
5	事前学修	論文3 を読み、まとめる				2
	授業	論文3 を紹介する				
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる				2
6	事前学修	Python をインストールする				2
	授業	簡単な計算を実行する				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
7	事前学修	前回の復習をする				2
	授業	画面に文字を表示する				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
8	事前学修	前回の復習をする				2
	授業	ファイルの読み込みを行う				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
9	事前学修	前回の復習をする				2
	授業	変数・データ型について学習する				
	事後学修	プログラムを再確認する				2
10	事前学修	前回の復習をする				2

	授業	リストについて学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
11	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	条件分岐について学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
12	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	繰り返しについて学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
13	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	import について学習する	
	事後学修	プログラムを再確認する	2
14	事前学修	前回の復習をする	2
	授業	実データの解析を行う	
	事後学修	解析結果をまとめる	2
15	事前学修	プレゼン資料を用意する	2
	授業	解析結果を発表する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[成果発表 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミのコメントを通じて行う

教科書	
参考書・Web サイト	授業時に指示する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	通算で4年間システムエンジニアとして、IT企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	柿並 義宏 (313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
Arduino, Raspberry Pi 等を用いて, センサーを開発し, IoT 機器の基礎を学ぶ. 開発したセンサーを用いて, 身近な環境データを収集する.					
授業における学修の到達目標					
・ 自らのアイデアで IoT 機器を開発できる. ・ 製作した IoT 機器についてプレゼンテーションで適切に紹介できる.					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミでの活動について調べる			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	ガイダンスを聞いて, 製作するセンサーの概要を考える			2
2	事前学修	LED を点灯させる方法を調べる			2
	授業	LED の点灯			
	事後学修	LED 点灯の応用を考える			2
3	事前学修	温度センサーの使用方法を調べる			2
	授業	温度センサーを使った気温計測			
	事後学修	温度センサー利用の応用を考える			2
4	事前学修	サーボモータについて調べる			2
	授業	半固定抵抗を用いたサーボモータの制御			
	事後学修	サーボモータ利用の応用を考える			2
5	事前学修	Cds セルについて調べる			2
	授業	Cds セルを用いた明るさの計測			
	事後学修	Cds セルの応用を考える			2
6	事前学修	スイッチについて調べる			2
	授業	スイッチを用いたキーボードの製作			
	事後学修	スイッチの応用を考える			2
7	事前学修	モーターについて調べる			2
	授業	モーターの制御			
	事後学修	モーター利用の応用を考える			2
8	事前学修	圧電スピーカについて調べる			2
	授業	圧電スピーカを用いた音声信号の取得			
	事後学修	圧電スピーカの応用を考える			2
9	事前学修	傾斜スイッチについて調べる			2
	授業	傾斜スイッチを利用			
	事後学修	傾斜スイッチの応用を考える			2
10	事前学修	データ処理に必要な数学について調べる			2

	授業	データ処理方法	
	事後学修	データ処理に必要な数学の復習をする	2
11	事前学修	計測したい環境を決める	2
	授業	計測対象の調査	
	事後学修	調査対象についてまとめる	2
12	事前学修	これまでの授業で製作したセンサーを用意する	2
	授業	センサーの処理回路を製作	
	事後学修	センサーの動作を確認する	2
13	事前学修	これまでの授業で製作したセンサーを用意する	2
	授業	センサーを用いた計測	
	事後学修	計測結果をまとめる	2
14	事前学修	処理方法を事前に調査する	2
	授業	データ処理実践	
	事後学修	取得できたデータをグラフにまとめる	2
15	事前学修	プレゼン資料を用意する	2
	授業	計測結果を発表する	
	事後学修	指摘されたコメントについて調べる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[成果発表 60 %]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミでの議論，レポートの添削を通して，学生にフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	授業で指示する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	発表の内容だけではなく，ゼミ内での活動，貢献等を総合的に評価する。
担当教員の実務経験	通算で4年間，システムエンジニアとして，IT 企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし，開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	柿並 義宏 (313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	前期	
授業概要						
IoT, 宇宙, 自然現象データ等を題材とした調査研究を実施する. その研究内容を人前でプレゼンテーションし, ディスカッションし, 他の人に自分の考えを伝えるトレーニングを行う.						
授業における学修の到達目標						
・ 調査, 研究の基本を身に付ける ・ 自分の主張を分かりやすく説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅢの全体の内容を把握する				2
	授業	ゼミナールⅢの概要				
	事後学修	ゼミナールⅢの全体の内容について整理する				2
2	事前学修	研究内容概要についてのプレゼンテーションを用意する				2
	授業	研究内容概要について発表する				
	事後学修	指摘されたことをまとめる				2
3	事前学修	指摘されたことを踏まえたプレゼンテーションを用意する				2
	授業	研究内容概要について発表する				
	事後学修	指摘されたことをまとめる				2
4	事前学修	先行研究を調査する				2
	授業	先行研究を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
5	事前学修	質疑を踏まえ, 先行研究を再調査する				2
	授業	先行研究を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
6	事前学修	研究目的をまとめる				2
	授業	研究目的を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
7	事前学修	質疑を踏まえ, 研究目的をまとめる				2
	授業	研究目的を発表する				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
8	事前学修	これまでの発表を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	データ解析, 実装の発表を行う				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
9	事前学修	指摘を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2
	授業	データ解析, 実装の発表を行う				
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる				2
10	事前学修	指摘を踏まえ, データ解析, 実装を行う				2

	授業	データ解析, 実装の発表を行う	
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる	2
11	事前学修	指摘を踏まえ, データ解析, 実装を行う	2
	授業	データ解析, 実装の発表を行う	
	事後学修	指摘を踏まえ, データ解析, 実装を行う	2
12	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会での発表資料を作成す	2
13	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会リハーサル	
	事後学修	企画発表会発表資料を修正する	2
14	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会	
	事後学修	質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告を行う	
	事後学修	発表内容, 質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業ごとに口頭, POLITE, Slack でフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業で提示する
単位修得が望ましい科目	プログラミング系科目
備考	特になし
担当教員の実務経験	通算で4年間システムエンジニアとして, IT 企業でシステム開発に従事していた. これらの経験を生かし, 開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する.

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	柿並 義宏(313 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
IoT, 宇宙, 自然現象データ等を題材とした調査研究を実施する. その研究内容を人前でプレゼンテーションし, ディスカッションし, 他の人に自分の考えを伝えるトレーニングを行う. また, それらを卒業研究論文としてまとめ, 書く力を身に付ける.					
授業における学修の到達目標					
・ 調査, 研究の基本を身に付ける ・ 自分の主張を分かりやすく説明できる ・ 文章を通じて自分の主張を論述できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナールⅣの全体の内容を把握する			2
	授業	ゼミナールⅣの概要			
	事後学修	ゼミナールⅣの全体の内容について整理する			2
2	事前学修	実験・評価方法について検討する			2
	授業	実験・評価方法を議論する			
	事後学修	議論内容を整理する			2
3	事前学修	実験・評価方法について検討する			2
	授業	実験・評価方法を議論する			
	事後学修	議論内容を整理する			2
4	事前学修	実験・評価を行う			2
	授業	実験・評価結果を発表する			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
5	事前学修	評価結果を踏まえ, データ解析, 実装を行う			2
	授業	修正点を報告する			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
6	事前学修	評価結果を踏まえ, データ解析, 実装を行う			2
	授業	修正点を報告する			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
7	事前学修	評価結果を踏まえ, データ解析, 実装を行う			2
	授業	修正点を報告する			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
8	事前学修	卒業論の構成を考える			2
	授業	卒業論の構成を議論する			
	事後学修	議論を踏まえ, 目次を完成させる			2
9	事前学修	小論を執筆する			2
	授業	小論をチェックする			

	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
10	事前学修	小論を見直す	2
	授業	修正された小論をチェックする	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
11	事前学修	卒業研究発表に向け、解析結果・製作物をまとめる	2
	授業	解析結果・製作物を紹介する	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整し、小論を提出する	2
12	事前学修	卒業研究発表会の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会のリハーサルを行う	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
13	事前学修	卒業研究発表会の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会のリハーサルを行う	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整する	2
14	事前学修	卒業研究発表会の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会で発表する	
	事後学修	質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関して報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告を行う	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション 60%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業ごとに口頭、POLITE、Slack でフィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業で提示する
単位修得が望ましい科目	プログラミング系科目
備考	特になし
担当教員の実務経験	通算で4年間システムエンジニアとして、IT企業でシステム開発に従事していた。これらの経験を生かし、開発現場での必要な知識を実体験をもとに学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション					
【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見）、定義、概念化（企画立案・提案）、試作、テストを繰り返し行いながら、制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは、Web サイトを中心に、映像、音楽、グラフィック、パッケージ、3DCG 等を想定しており、所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。					
授業における学修の到達目標					
<前に踏み出す力> 一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができる。					
<考え抜く力> 課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。					
<チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨・スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明			
	事後学修	説明内容をまとめる			2
2	事前学修	プロジェクトとは何かを考える			2
	授業	プロジェクト型学習の解説			
	事後学修	プロジェクト型学習についてまとめる			2
3	事前学修	円滑なコミュニケーションについて考える			2
	授業	コミュニケーションの方法に関する解説・実践（コンセンサスゲーム）			
	事後学修	コミュニケーションについてまとめる			2
4	事前学修	発想法・思考法について調べてリストアップする			2
	授業	さまざまな発想法・思考法の解説			
	事後学修	授業で取り上げた発想法・思考法についてまとめる			2
5	事前学修	前回の授業の内容を整理し、挑戦する発想法・思考法を選ぶ			2
	授業	さまざまな発想法・思考法の実践			
	事後学修	気に入った発想法・思考法を見つけて、自分のテーマでもう一度実践する			2

6	事前学修	リーダーシップについて調べる	2
	授業	リーダーシップの解説	
	事後学修	リーダーシップについてまとめる	2
7	事前学修	プロジェクト活動に役立つツールについて調べる	2
	授業	プロジェクト活動に必要なツールの操作方法・情報共有方法の解説	
	事後学修	情報共有の重要性についてまとめる	2
8	事前学修	協調性・協働性について調べる	2
	授業	協調性・協働性の解説	
	事後学修	協調性・協働性についてまとめる	2
9	事前学修	連携先の企業・官公庁のことを調べる	2
	授業	連携先の企業・官公庁との顔合わせ・ヒアリング	
	事後学修	ヒアリングした内容をまとめる	2
10	事前学修	収集した情報から問題を発見する	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
11	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
12	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
13	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションのまとめ・資料づくり	
	事後学修	作成した資料の修正点を見つける	2
14	事前学修	資料を修正する	2
	授業	<共感（問題の発見）> 問題点に関する中間発表	
	事後学修	これまでの振り返りを行い、反省点をまとめる。	2
15	事前学修	前回の内容を確認する	2
	授業	<共感（問題の発見）> 中間発表に対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
その都度、授業内でフィードバックを行う。			
教科書			

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション 【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見）、定義、概念化（企画立案・提案）、試作、テストを繰り返し行いながら、制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは、Web サイトを中心に、映像、音楽、グラフィック、パッケージ、3DCG 等を想定しており、所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。					
授業における学修の到達目標					
<前に踏み出す力> 一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができる。 <考え抜く力> 課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。 <チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨・スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明			
	事後学修	説明内容をまとめる			2
2	事前学修	デザイン思考の特徴を調べる			2
	授業	デザイン思考の解説			
	事後学修	デザイン思考を自分の言葉で説明できるよう、まとめる			2
3	事前学修	問題の発見に関する資料を見直す			2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける			
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる			2
4	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す			2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける			
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる			2
5	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す			2

	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
6	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
7	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
8	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
9	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
10	事前学修	良いプレゼンテーションの事例を、YouTube からみつける	2
	授業	プレゼンテーションの解説	
	事後学修	プレゼンテーションについてまとめる	2
11	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
12	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
13	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションのリハーサル	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
14	事前学修	資料に修正点がないかを最終確認する	2
	授業	連携企業・官公庁へのプレゼンテーション	
	事後学修	質問内容についてまとめる	2
15	事前学修	質問内容について確認する	2
	授業	プレゼンテーションに対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
その都度、授業内でフィードバックを行う。			

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション					
【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見）、定義、概念化（企画立案・提案）、試作、テストを繰り返し行いながら、制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは、Web サイトを中心に、映像、音楽、グラフィック、パッケージ、3DCG 等を想定しており、所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。					
授業における学修の到達目標					
<前に踏み出す力> 一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができる。					
<考え抜く力> 課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。					
<チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅠの趣旨・スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明			
	事後学修	説明内容をまとめる			2
2	事前学修	プロジェクトとは何かを考える			2
	授業	プロジェクト型学習の解説			
	事後学修	プロジェクト型学習についてまとめる			2
3	事前学修	円滑なコミュニケーションについて考える			2
	授業	コミュニケーションの方法に関する解説・実践（コンセンサスゲーム）			
	事後学修	コミュニケーションについてまとめる			2
4	事前学修	発想法・思考法について調べてリストアップする			2
	授業	さまざまな発想法・思考法の解説			
	事後学修	授業で取り上げた発想法・思考法についてまとめる			2
5	事前学修	前回の授業の内容を整理し、挑戦する発想法・思考法を選ぶ			2
	授業	さまざまな発想法・思考法の実践			
	事後学修	気に入った発想法・思考法を見つけて、自分のテーマでもう一度実践する			2

6	事前学修	リーダーシップについて調べる	2
	授業	リーダーシップの解説	
	事後学修	リーダーシップについてまとめる	2
7	事前学修	プロジェクト活動に役立つツールについて調べる	2
	授業	プロジェクト活動に必要なツールの操作方法・情報共有方法の解説	
	事後学修	情報共有の重要性についてまとめる	2
8	事前学修	協調性・協働性について調べる	2
	授業	協調性・協働性の解説	
	事後学修	協調性・協働性についてまとめる	2
9	事前学修	連携先の企業・官公庁のことを調べる	2
	授業	連携先の企業・官公庁との顔合わせ・ヒアリング	
	事後学修	ヒアリングした内容をまとめる	2
10	事前学修	収集した情報から問題を発見する	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
11	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
12	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションを通じて、問題の分析・問題点の洗い出しを行う	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
13	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<共感（問題の発見）> グループディスカッションのまとめ・資料づくり	
	事後学修	作成した資料の修正点を見つける	2
14	事前学修	資料を修正する	2
	授業	<共感（問題の発見）> 問題点に関する中間発表	
	事後学修	これまでの振り返りを行い、反省点をまとめる。	2
15	事前学修	前回の内容を確認する	2
	授業	<共感（問題の発見）> 中間発表に対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
その都度、授業内でフィードバックを行う。			
教科書			

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	近澤 潤 (330 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
【テーマ】 サービスデザイン・イノベーション					
【概要】 企業や地域・官公庁等と協働して、コンテンツ開発による課題解決を行います。 学生はチームを結成し、半年～1 年間のプロジェクト活動として取り組みます。 プロジェクトは、デザイン思考 (Design Thinking) のプロセスに則って、共感（問題の発見）、定義、概念化（企画立案・提案）、試作、テストを繰り返し行いながら、制作・実装・評価・改善を行います。 開発コンテンツは、Web サイトを中心に、映像、音楽、グラフィック、パッケージ、3DCG 等を想定しており、所属学生のスキルやプロジェクトの内容に準じて決定します。					
授業における学修の到達目標					
<前に踏み出す力> 一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができる。					
<考え抜く力> 課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。					
<チームで働く力> 他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールの趣旨・スケジュールを把握する			2
	授業	ガイダンス・シラバスの説明			
	事後学修	説明内容をまとめる			2
2	事前学修	デザイン思考の特徴を調べる			2
	授業	デザイン思考の解説			
	事後学修	デザイン思考を自分の言葉で説明できるよう、まとめる			2
3	事前学修	問題の発見に関する資料を見直す			2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける			
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる			2
4	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す			2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける			
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる			2
5	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す			2

	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
6	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> グループディスカッションを通して、抽出した問題点に対する解決策を見つける	
	事後学修	グループディスカッションの内容を議事録としてまとめる	2
7	事前学修	議事録を確認して、内容を思い出す	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
8	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
9	事前学修	担当ページの作成を進める	2
	授業	<定義・概念化> 提案書の作成	
	事後学修	担当ページの作成を進める	2
10	事前学修	良いプレゼンテーションの事例を、YouTube からみつける	2
	授業	プレゼンテーションの解説	
	事後学修	プレゼンテーションについてまとめる	2
11	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
12	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションの練習	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
13	事前学修	担当のパートについて確認する	2
	授業	プレゼンテーションのリハーサル	
	事後学修	指摘された点をまとめて修正する	2
14	事前学修	資料に修正点がないかを最終確認する	2
	授業	連携企業・官公庁へのプレゼンテーション	
	事後学修	質問内容についてまとめる	2
15	事前学修	質問内容について確認する	2
	授業	プレゼンテーションに対するフィードバック	
	事後学修	フィードバックで指摘を受けた点について、今後の対策を練る	2
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% ■その他[グループワーク] 70%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
その都度、授業内でフィードバックを行う。			

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	一般企業においてシステム構築関連のプロジェクトに携わるほか、業務内容やシステムの改善などの実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちがプロジェクトを遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	伊藤 マーティ ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC325
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○テーマ： 「商業イラストレーションを学ぶ」 デジタル/アナログに拘わらず、商業的なイラストレーションの制作方法を学びます。					
○概要： ●描画テクニックのスキルアップ アイデアフラッシュ、パーツドローイング、ドラフト、スキャン、クリーニングなどの手法とテクニックを学びます。 →ワークフローを組み立てる力を養い、作品を仕上げる力をつけます。					
●チームによるキャラクター開発 ディレクション、コンセプトメイキング、カラーリング、バリエーション、バックグラウンドなど、商業イラストレーションに必要なスキルをチームで学びます。 →ディスカッション、グループワークなどの必要性和コミュニケーション能力を向上させます。					
●国内外のコンペティションへの参加 キャラクターデザイン、マスコットキャラクター、商品キャラクターなど、もしくはアドバタイジング関連コンペティションへの参加に挑戦します。 →セルフプロモーション、プレゼンテーション、プロダクトデザインについて学ぶことができます。					
※グラフィック系(Adobe Illustrator, Adobe Photoshop など)、ペイント系(Procreate Painter, Crip Studio Paint, ibis Paint など)のソフトの知識があると制作に役立ちます。 ※制作するものによって、ゲーミングパソコン、iPad、Apple Pencil が必要になります。 ※アナログ制作を研究する場合には、絵の具、筆、パレットなどの画材が必要になります。 ※すべての履修生はスケッチブックと 4B 以上の鉛筆を必要とします。					
授業における学修の到達目標					
●デジタル/アナログに拘わらず、商業イラストレーションを制作できる ●プレゼンテーション能力を身につけることができる ●チームで制作する事により、コミュニケーション能力を身につけることができる ●同じ方向を向いた仲間と作品制作を行うことにより、問題解決や相互アドバイスができる ●商業イラストレーション納品に必要なスキルを学び、ソフト・ハードウェアなどの IT 技術を習得できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認する			2.0
	授業	ガイダンス 自己紹介			
	事後学修	ゼミ活動の計画			2.0
2	事前学修	好きな作家・作品を集める			2.0
	授業	好きな作品・作家の発表(なぜ? 何が? どのように?) ディスカッション 制作方法やソフト、画材を考える			
	事後学修	ディスカッションにより学んだことを振り返る			2.0
3	事前学修	コンテスト、もしくはコミケなどのイベントを調べる			2.0
	授業	参加できそうなコンテストやイベントを探す チーム分け (もしくは 1 チームで役割分担)			

		何を制作するのか考える	
	事後学修	授業で決めたことをまとめる	2.0
4	事前学修	コンテスト、もしくはコミケなどのイベントを調べる	2.0
	授業	研究対象（チームで参加するコンテストもしくはイベント）を分析する① ニーズを分析する 役割分担を考える	
	事後学修	それぞれの役割について考える	2.0
5	事前学修	それぞれの役割について考える	2.0
	授業	研究対象（チームで参加するコンテストもしくはイベント）を分析する② 開催時期などを考慮に入れ、参加要項を確認する 参加するに当たってどのような戦略が必要なのかを考える	
	事後学修	授業で気づいたこと、知ったことをまとめる	2.0
6	事前学修	自分なりの戦略を考える	2.0
	授業	研究対象（チームで参加するコンテストもしくはイベント）を分析する③ 出展（出品）戦略を話し合う	
	事後学修	担当ごと何を進めるかを考える	2.0
7	事前学修	制作スケジュールを仮組みする	2.0
	授業	研究対象（チームで参加するコンテストもしくはイベント）を分析する④ 制作スケジュールと担当の再確認 材料やコストのプランニング	
	事後学修	必要な材料やコストを確認	2.0
8	事前学修	自分の役割を再確認	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作① 各担当ごとに制作を進める 材料の洗い出し、用意	
	事後学修	自分の役割のドローイング	2.0
9	事前学修	自分の役割のドローイング	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作② 各担当ドローイングなどを元にチームで制作物について話し合う	
	事後学修	作品制作	2.0
10	事前学修	作品制作	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作③ 作品の制作状況の確認	
	事後学修	作品制作	2.0
11	事前学修	作品制作	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作④ 作品の制作状況の確認	
	事後学修	作品制作	2.0
12	事前学修	作品制作	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作⑤ 作品の制作状況の確認	
	事後学修	作品制作	2.0

13	事前学修	作品制作	2.0
	授業	出品（納品）準備 出展要項の再確認 梱包など	
	事後学修	出展準備	2.0
14	事前学修	出展準備	2.0
	授業	イベントもしくはコンテストへ出展（出品） 出展	
	事後学修	出展してみて気づいたことをまとめる	2.0
15	事前学修	出展してみて気づいたことをまとめる	2.0
	授業	イベントもしくはコンテストへ出展（出品）レポート制作 写真、動画などの整理	
	事後学修	なし	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：10% ■グループワーク：60%、■学習意欲、出席率、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価：30%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品制作・発表・出展などについては随時解説及び評価します。レポートはコメントによるフィードバック。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ提示
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習
備考	PC もしくは iPad を持っていることが望ましい
担当教員の実務経験	ウィキペディア（ https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ ） 広告代理店に7年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業のCIやキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	伊藤 マーティ ()	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC326
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○テーマ： 「商業イラストレーションを学ぶ」 デジタル/アナログに拘わらず、商業的なイラストレーションの制作方法を学びます。					
○概要： ●描画テクニックのスキルアップ アイデアフラッシュ、パーツドローイング、ドラフト、スキャン、クリーニングなどの手法とテクニックを学びます。 →ワークフローを組み立てる力を養い、作品を仕上げる力をつけます。					
●チームによるキャラクター開発 ディレクション、コンセプトメイキング、カラーリング、バリエーション、バックグラウンドなど、商業イラストレーションに必要なスキルをチームで学びます。 →ディスカッション、グループワークなどの必要性和コミュニケーション能力を向上させます。					
●国内外のコンペティションへの参加 キャラクターデザイン、マスコットキャラクター、商品キャラクターなど、もしくはアドバタイジング関連コンペティションへの参加に挑戦します。 →セルフプロモーション、プレゼンテーション、プロダクトデザインについて学ぶことができます。					
※グラフィック系(Adobe Illustrator, Adobe Photoshop など)、ペイント系(Procreate Painter, Crip Studio Paint, ibis Paint など)のソフトの知識があると制作に役立ちます。 ※制作するものによって、ゲーミングパソコン、iPad、Apple Pencil が必要になります。 ※アナログ制作を研究する場合には、絵の具、筆、パレットなどの画材が必要になります。 ※すべての履修生はスケッチブックと 4B 以上の鉛筆を必要とします。					
授業における学修の到達目標					
●デジタル/アナログに拘わらず、商業イラストレーションを制作できる ●プレゼンテーション能力を身につけることが出来る ●チームで制作する事により、コミュニケーション能力を身につけることができる ●同じ方向を向いた仲間と作品制作を行うことにより、問題解決や相互アドバイスができる ●商業イラストレーション納品に必要なスキルを学び、ソフト・ハードウェアなどの IT 技術を習得できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	なし			2.0
	授業	セルフプロモーションについて考える			
	事後学修	セルフプロモーションのための準備			2.0
2	事前学修	セルフプロモーションのための準備			2.0
	授業	セルフプロモーションのアイデアについてディスカッション 企画書の制作			
	事後学修	ディスカッションにより学んだことを振り返る			2.0
3	事前学修	セルフプロモーションのツールについて調べる			2.0
	授業	作品集についてディスカッション グループで制作するのか？個人で制作するのか？メリットは？デメリットは？			
	事後学修	授業で決めたことをまとめる			2.0

4	事前学修	コミケなどのイベントを調べる	2.0
	授業	研究対象（セルフプロモーションできる催事）を分析する① ニーズを分析する 役割分担を考える	
	事後学修	それぞれの役割について考える	2.0
5	事前学修	研究対象の傾向を調べる	2.0
	授業	研究対象（セルフプロモーションできる催事）を分析する② 開催時期などを考慮に入れ、参加要項を確認する 参加するに当たってどのような戦略が必要なのかを考える	
	事後学修	授業で気づいたこと、知ったことをまとめる	2.0
6	事前学修	自分なりの戦略を考える	2.0
	授業	研究対象（セルフプロモーションできる催事）を分析する③ 出展（出品）戦略を話し合う	
	事後学修	出展ブースの計画を考える	2.0
7	事前学修	制作スケジュールを仮組みする	2.0
	授業	研究対象（セルフプロモーションできる催事）を分析する④ 制作スケジュールと担当の再確認 材料やコストのプランニング	
	事後学修	必要な材料やコストを確認	2.0
8	事前学修	自分の役割を再確認	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作① 各担当ごとに制作を進める 材料の洗い出し、用意	
	事後学修	自分の役割のドローイング	2.0
9	事前学修	自分の役割のドローイング	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作② 各担当ドローイングなどを元にチームで制作物について話し合う	
	事後学修	作品制作	2.0
10	事前学修	作品制作	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作③ 作品の制作状況の確認	
	事後学修	作品制作	2.0
11	事前学修	作品制作	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作④ 作品の制作状況の確認	
	事後学修	作品制作	2.0
12	事前学修	作品制作	2.0
	授業	研究対象のコンテンツ制作⑤ 作品の制作状況の確認	
	事後学修	作品制作	2.0
13	事前学修	作品制作	2.0
	授業	出品（納品）準備 出展要項の再確認	

		梱包など	
	事後学修	出展準備	2.0
14	事前学修	出展準備	2.0
	授業	出展（出品）	
	事後学修	出展してみて気づいたことをまとめる	2.0
15	事前学修	レポート準備	2.0
	授業	出展（出品）レポート制作 写真、動画などの整理	
	事後学修	なし	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■レポート：１０％ ■グループワーク：６０％、■学習意欲、出席率、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価：３０％

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品制作・発表・出展などについては随時解説及び評価します。レポートはコメントによるフィードバック。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ提示
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習
備考	PC もしくは iPad を持っていることが望ましい
担当教員の実務経験	ウィキペディア（ https://ja.wikipedia.org/wiki/伊藤マーティ ） 広告代理店に７年間勤務し、イベント・広告などの制作を行う。その後デザインプロダクションを設立し、広告デザインの制作を行う、業務拡大に付き分社しイラストレーション制作のスタジオを設立し、国内外のアートショーに出品、企業の CI やキャラクターデザイン、広告活動の制作を行っている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）、多言語 Web サイトの制作、韓国語・韓国事情に関連する研究を行い、グローバルな環境で活躍できる IT 人材を育成することを目指します。各自の研究テーマの設定、資料調査やデータ分析、論文の執筆の他、専門的知識を学ぶための文献購読と発表も随時行います。また、大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿などを通じ、実践的な知識の習得も図ります。						
授業における学修の到達目標						
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。 ・ 文章作成能力、プレゼンテーション能力を鍛え、論理的に発表できるようになる。 ・ ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題について簡単な会話ができるようになる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	配布された資料を読み、復習する				2
2	事前学修	自分の研究テーマについて考える				2
	授業	研究テーマの発表と意見交換				
	事後学修	討論に基づいて研究テーマを修正する				2
3	事前学修	自分の研究テーマについて考える				2
	授業	研究テーマの発表と意見交換				
	事後学修	討論に基づいて研究テーマを修正する				2
4	事前学修	各自、航空券、ホテル、訪問したい場所などを調べておく				2
	授業	韓国合宿の事前準備（航空券・ホテル予約、訪問先決定）				
	事後学修	追加調査				2
5	事前学修	各自、スケジュールを立てる				2
	授業	韓国合宿の事前準備（スケジュールの調整）				
	事後学修	追加調査				2
6	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読、情報収集				
	事後学修	学習内容を整理する				2
7	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読、情報収集：担当者による発表と意見交換				
	事後学修	学習内容を整理する				2
8	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読、情報収集：担当者による発表と意見交換				
	事後学修	学習内容を整理する				2
9	事前学修	文献を精読し、疑問点を整理しつつ発表の準備を行う				2

	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集：担当者による発表と意見交換	
	事後学修	学習内容を整理する	2
10	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う	2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 情報収集：担当者による発表と意見交換	
	事後学修	学習内容を整理する	2
11	事前学修	研究計画案を考える	2
	授業	研究計画書の作成	
	事後学修	誤字脱字・表現を改めてチェックし, 研究計画書を完成させる	2
12	事前学修	パワーポイント資料を作成し, 発表の準備をする	2
	授業	研究計画の発表と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
13	事前学修	パワーポイント資料を作成し, 発表の準備をする	2
	授業	研究計画の発表と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
14	事前学修	4 年生卒業研究企画発表会のスケジュールを確認しておく	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（1 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講し, 感想をレポートにまとめる	2
15	事前学修	前期のゼミ活動を振り返り, 今後の課題を明確にする	2
	授業	・ 4 年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目） ・ 前期の振り返り	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講し, 感想をレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%, グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅠに引き続き実施します。					
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）, 多言語 Web サイトの制作, 韓国語・韓国事情に関連する研究を行い, グローバルな環境で活躍できる IT 人材を育成することを目指します。各自の研究テーマの設定, 資料調査やデータ分析, 論文の執筆の他, 専門的知識を学ぶための文献購読と発表も随時行います。また, 大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿などを通じ, 実践的な知識の習得も図ります。					
授業における学修の到達目標					
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。					
・ 文章作成能力, プレゼンテーション能力を鍛え, 論理的に発表できるようになる。					
・ ハングルと基礎的な文法を理解し, 身近な話題について簡単な会話ができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する ・ 蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマを考える			2
	授業	・ ガイダンス ・ 蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマの設定, 企画立案			
	事後学修	配布された資料を読み, 復習する			2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える			2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備			
	事後学修	話しあった議論をまとめる			2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える			2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備, リハーサル			
	事後学修	話しあった議論をまとめる			2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントを振り返り, 課題を明確にする			2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベント後の振り返り			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベント企画の成果や反省点等をまとめる			2
5	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う			2
	授業	韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析			
	事後学修	学習内容を整理する			2
6	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う			2
	授業	進捗報告, 韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析			
	事後学修	学習内容を整理する			2
7	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う			2
	授業	進捗報告, 韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析			
	事後学修	学習内容を整理する			2
8	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う			2

	授業	進捗報告, 韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析	
	事後学修	学習内容を整理する	2
9	事前学修	文献を精読し, 疑問点を整理しつつ発表の準備を行う	2
	授業	進捗報告, 韓国の IT・コンテンツ産業に関する文献購読, 収集した情報やデータの分析	
	事後学修	学習内容を整理する	2
10	事前学修	過年度の卒業研究・制作報告集に目を通しておく	2
	授業	卒業研究・制作報告書の書き方講習	
	事後学修	学習内容を整理する	2
11	事前学修	中間報告書のアウトラインを考えておく	2
	授業	中間報告書の作成: アウトライン	
	事後学修	作成したものの誤字脱字・表現を改めてチェックし, 完成させる	2
12	事前学修	プレゼン資料の作成方法について確認しておく	2
	授業	中間報告書の作成: PPT 用スライド資料	
	事後学修	誤字脱字・表現を改めてチェックし, 報告書を完成させる	2
13	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	中間報告と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
14	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	中間報告と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2
15	事前学修	発表の準備をする	2
	授業	中間報告と意見交換	
	事後学修	討論に基づいて発表内容を修正する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験: % □小テスト: % ■レポート: 20% ■演習課題: 40% ■その他[発表: 20%, グループワーク: 20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）, 多言語 Web サイトの制作, 韓国語・韓国事情に関連する研究を行い, グローバルな環境で活躍できる IT 人材を育成することを目指します。各自の研究テーマの設定, 資料調査やデータ分析, 論文の執筆の他, 専門的知識を学ぶための文献購読と発表も随時行います。また, 大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿などを通じ, 実践的な知識の習得も図ります。					
授業における学修の到達目標					
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。 ・ 文章作成能力, プレゼンテーション能力を鍛え, 論理的に発表できるようになる。 ・ ハングルと基礎的な文法を理解し, 身近な話題について簡単な会話ができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し, 授業の全体の内容を把握する			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	配布された資料を読み, 復習する			2
2	事前学修	1 年間の研究成果をまとめる			2
	授業	1 年間の研究成果のプレゼンと意見交換			
	事後学修	討論に基づいて研究内容を修正する			2
3	事前学修	1 年間の研究成果をまとめる			2
	授業	1 年間の研究成果のプレゼンと意見交換			
	事後学修	討論に基づいて研究内容を修正する			2
4	事前学修	各自, 航空券, ホテル, 訪問したい場所などを調べておく			2
	授業	韓国合宿の事前準備（航空券・ホテル予約, 訪問先決定）			
	事後学修	追加調査			2
5	事前学修	各自, スケジュールを立てる			2
	授業	韓国合宿の事前準備（スケジュールの調整）			
	事後学修	追加調査			2
6	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備			2
	授業	企画発表会の発表資料（word）の作成			
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正			2
7	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備			2
	授業	進捗報告, 企画発表会の発表資料（word）の作成			
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正			2
8	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備			2
	授業	進捗報告, 企画発表会の発表資料（word）の作成			
	事後学修	企画発表会の発表資料（word）の修正			2
9	事前学修	企画発表会の発表資料（word）の準備			2

	授業	進捗報告, 企画発表会の発表資料 (word) の作成	
	事後学修	企画発表会の発表資料 (word) の修正	2
10	事前学修	企画発表会のプレゼンスライドの準備	2
	授業	企画発表会のプレゼンスライドの作成	
	事後学修	企画発表会のプレゼンスライドの修正	2
11	事前学修	企画発表会のプレゼンスライドの準備	2
	授業	進捗報告, 企画発表会のプレゼンスライドの作成	
	事後学修	企画発表会のプレゼンスライドの修正	2
12	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し (1 回目)	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル (1 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
13	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し (2 回目)	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル (2 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	卒業研究企画発表会 (1 週目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	卒業研究企画発表会 (2 週目)	
	事後学修	発表の振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%, グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	金 銀珠 (319 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅠに引き続き実施します。					
本ゼミでは、韓国の IT・コンテンツ産業（オンラインゲーム産業, K-pop の IT 戦略, ウェブトゥーン産業等）、多言語 Web サイトの制作、韓国語・韓国事情に関連する研究を行い、グローバルな環境で活躍できる IT 人材を育成することを目指します。各自の研究テーマの設定、資料調査やデータ分析、論文の執筆の他、専門的知識を学ぶための文献購読と発表も随時行います。また、大学祭での研究展示・イベントや韓国ゼミ合宿などを通じ、実践的な知識の習得も図ります。					
授業における学修の到達目標					
・ 韓国の IT・コンテンツ産業に関する総合的知識を身につけることができる。					
・ 文章作成能力、プレゼンテーション能力を鍛え、論理的に発表できるようになる。					
・ ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題について簡単な会話ができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	・ シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する ・ 蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマを考える			2
	授業	・ ガイダンス ・ 蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントのテーマの設定, 企画立案			
	事後学修	配布された資料を読み、復習する			2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える			2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備			
	事後学修	話しあった議論をまとめる			2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベントに必要な準備作業, 運営等について考える			2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントの準備, リハーサル			
	事後学修	話しあった議論をまとめる			2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベントを振り返り, 課題を明確にする			2
	授業	蒼天祭（大学祭）：ゼミ展示・イベント後の振り返り			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示・イベント企画の成果や反省点等をまとめる			2
5	事前学修	小論の準備			2
	授業	卒業研究の小論についての説明			
	事後学修	卒業研究の小論の書き方について見直す			2
6	事前学修	小論の準備			2
	授業	小論の作成			
	事後学修	小論の修正			2
7	事前学修	小論の準備			2
	授業	進捗報告, 小論の作成			
	事後学修	小論の修正			2
8	事前学修	小論の準備			2

	授業	進捗報告, 小論の作成	
	事後学修	小論の修正	2
9	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック (1 回目)	
	事後学修	小論の修正	2
10	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック (2 回目)	
	事後学修	小論の修正	2
11	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック (3 回目)	
	事後学修	小論の修正	2
12	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの準備	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンスライドの作成	
	事後学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの修正	2
13	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの見直し (1 回目)	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンリハーサル (1 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
14	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの見直し (2 回目)	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンリハーサル (2 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2
15	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンスライドの見直し (3 回目)	2
	授業	卒業研究発表会のプレゼンリハーサル (3 回目)	
	事後学修	発表の振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：40% ■その他[発表：20%, グループワーク：20%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	向田 茂(125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
人や物の形、動きを測る，創る。サイエンスとアート， エンジニアリングの融合を目指します。					
先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。					
・ エンジニアリング（顔画像処理， メディアアート） a. デジタルカメラで撮影された人物を， 画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した， 人とコンピュータのインタラクションを実現します。 メディアアートや合成アルゴリズムの提案， 認知心理学的分析などに取り組みます。 C 言語等のプログラミングができることが望ましいです。					
・ デザイン（3D C G、メディアアート） a. 3 Dソフト等を用い， 実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。					
2つのグループは相互に関連し， 影響しあっています。グループワークを通して2つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3D プリンタなどを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。					
授業における学修の到達目標					
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術を調べる			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	ゼミナールで取り組める技術について確認する			2
2	事前学修	身につけている技術や過去の経験を整理			2
	授業	メディア・クリエイティブ・センター見学			
	事後学修	ゼミナールでの情報共有のための各種手続き			2
3	事前学修	自己紹介プレゼンの準備			2
	授業	自己紹介プレゼン			
	事後学修	自己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる			2
4	事前学修	よいプレゼンについて調べる			2
	授業	よいプレゼンの方法を考える			
	事後学修	自己紹介プレゼンの修正			2
5	事前学修	プレゼン資料の作成方法について確認			2

	授業	グループディスカッション（他己紹介プレゼン）	
	事後学修	他己紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
6	事前学修	おもしろい技術の紹介プレゼン準備	2
	授業	おもしろい技術の紹介プレゼン	
	事後学修	おもしろい技術の紹介プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
7	事前学修	取り組むテーマと課題を考え、プレゼンの準備	2
	授業	取り組むテーマと課題についてのプレゼン・・・課題 1	
	事後学修	取り組むテーマと課題についてのプレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
8	事前学修	ゼミらしい技術について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示のテーマを考える（プレスト）	
	事後学修	話しあった議論（プレスト）をまとめる	2
9	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示の具体的内容を考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示の内容の企画	
	事後学修	話しあった議論（企画）をまとめる	2
10	事前学修	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示に必要な作業について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）でのゼミ展示に向けて必要な作業の設計	
	事後学修	話し合った議論（設計）をまとめる	2
11	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示での担当について考える	2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示に向けての役割分担とスケジュール	
	事後学修	各自の担当に関する作業をすすめる	2
12	事前学修	映画で使われる CG 技術について調べる	2
	授業	CG 映画鑑賞	
	事後学修	映画で使われていた CG 技術についてまとめる（レポート）	2
13	事前学修	課題 1 への取り組み進捗報告準備	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会発表練習聴講	
	事後学修	課題 1 への取り組み	2
14	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業進捗報告準備	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（1 週目）	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業	2
15	事前学修	ゼミ紹介案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク： 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書

参考書・Web サイト

なし

単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	向田 茂 (125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
人や物の形、動きを測る，創る。サイエンスとアート， エンジニアリングの融合を目指します。					
先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。					
・ エンジニアリング（顔画像処理，メディアアート） a. デジタルカメラで撮影された人物を，画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した，人とコンピュータのインタラクションを実現します。 メディアアートや合成アルゴリズムの提案，認知心理学的分析などに取り組みます。 C 言語等のプログラミングができることが望ましいです。					
・ デザイン（3D C G、メディアアート） a. 3 D ソフト等を用い，実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。					
2つのグループは相互に関連し，影響しあっています。グループワークを通して2つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3D プリンタなどを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。					
授業における学修の到達目標					
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討（夏休みのイベント準備）			2
	授業	4 年生卒業研究企画発表会聴講（2 週目）			
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート）			2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告準備			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告プレゼン			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告での指摘についての対応			2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサルでの問題についての対応			2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）			2
5	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備			2

	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2
6	事前学修	課題1への取り組み進捗報告準備	2
	授業	4年生の卒業研究進捗報告聴講	
	事後学修	課題1への取り組み：仕上げ	2
7	事前学修	課題1の成果発表準備	2
	授業	課題1の成果発表	
	事後学修	課題1の成果発表での質問・コメントと反省をまとめる（レポート）	2
8	事前学修	卒業論文の手引きの確認	2
	授業	卒業論文の書き方講習	
	事後学修	課題1に関する小論文の作成	2
9	事前学修	先端技術調査プレゼン準備	2
	授業	先端技術調査プレゼン	
	事後学修	先端技術調査プレゼンでの他の発表に関する感想（レポート）	2
10	事前学修	グループ課題（課題2）の提案準備	2
	授業	グループ課題（課題2）の検討	
	事後学修	グループ課題（課題2）への取り組み（個人）	2
11	事前学修	グループ課題（課題2）の進捗報告準備	2
	授業	グループ課題（課題2）の進捗報告	
	事後学修	グループ課題（課題2）への取り組み（グループ）	2
12	事前学修	卒業研究に関する提案プレゼン準備	2
	授業	卒業研究に関する提案プレゼン	
	事後学修	卒業研究に関する提案に対する反省	2
13	事前学修	課題2のプレゼン準備	2
	授業	課題2のプレゼン	
	事後学修	課題2のプレゼンの質問・コメントのまとめ（レポート）	2
14	事前学修	1年の振り返りプレゼン準備	2
	授業	1年の振り返りプレゼン	
	事後学修	1年の振り返りとこれからの目標をまとめる（レポート）	2
15	事前学修	春休み中の課題提案プレゼン準備	2
	授業	春休み中の課題提案プレゼン	
	事後学修	春休み中の課題の取り組み開始	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク： 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書

参考書・Web サイト

なし

単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	向田 茂 (125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
人や物の形、動きを測る，創る。サイエンスとアート， エンジニアリングの融合を目指します。					
先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。					
・ エンジニアリング（顔画像処理， メディアアート） a. デジタルカメラで撮影された人物を， 画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した， 人とコンピュータのインタラクションを実現します。 メディアアートや合成アルゴリズムの提案， 認知心理学的分析などに取り組みます。 C 言語等のプログラミングができることが望ましいです。					
・ デザイン（3D C G、メディアアート） a. 3 Dソフト等を用い， 実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。					
2つのグループは相互に関連し， 影響しあっています。グループワークを通して2つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3D プリンタなどを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。					
授業における学修の到達目標					
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	3年生での取り組みを振り返る			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	これからの1年の取り組みを計画する			2
2	事前学修	メディア・クリエイティブセンター紹介のための準備			2
	授業	メディア・クリエイティブセンターの紹介			
	事後学修	紹介内容と効果をまとめる			2
3	事前学修	1年間の取り組みのプレゼン準備			2
	授業	1年間の取り組みについてのプレゼン			
	事後学修	質問・コメントをまとめる			2
4	事前学修	よいプレゼンについて調べる			2
	授業	よいプレゼンの方法の講習			
	事後学修	先週のプレゼン資料を見直す			2
5	事前学修	自分の研究テーマについて整理する			2

	授業	研究テーマについてグループでプレスト	
	事後学修	プレストで出た意見をまとめる	2
6	事前学修	卒業研究で取り組むテーマを考え、プレゼンの準備	2
	授業	卒業研究で取り組むことについてのプレゼン	
	事後学修	卒業研究で取り組むテーマについてのプレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
7	事前学修	就職活動についての報告資料をまとめる	2
	授業	就職活動の状況について報告する	
	事後学修	自分の取り組み状況の問題点・課題についてまとめる	2
8	事前学修	企画書（研究計画）の書き方について調べる	2
	授業	企画書（研究計画）の作成について	
	事後学修	企画書（研究計画）を作成する	2
9	事前学修	作成した企画書（研究計画）を見直す	2
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（1回目）	
	事後学修	企画書（研究計画）を修正する	2
10	事前学修	作成した企画書（研究計画）を見直す	2
	授業	企画書を相互に確認し、伝わり方や問題点について考える（2回目）	
	事後学修	企画書（研究計画）を修正する	2
11	事前学修	企画発表会のプレゼン資料を作成する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（1回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
12	事前学修	1回目のプレゼンで受けた質問・コメントを参考にプレゼン資料を修正する	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル（2回目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
13	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	2
	授業	卒業研究企画発表会（1週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2
14	事前学修	企画発表会プレゼンスライドの見直し	2
	授業	卒業研究企画発表会（2週目）	
	事後学修	企画発表会での発表に対する質問・コメントおよび他の人の発表をまとめる	2
15	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計	
	事後学修	ゼミ紹介の準備	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし

担当教員の実務経験

システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	向田 茂 (125 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
人や物の形、動きを測る，創る。サイエンスとアート， エンジニアリングの融合を目指します。					
先端装置，技術を駆使して「魅せる」を考えます。デザインとテクノロジーの両方あるいはいずれかに取り組み、魅せるためのモノ・コトの制作に取り組みます。					
・ エンジニアリング（顔画像処理， メディアアート） a. デジタルカメラで撮影された人物を， 画像処理技術を用いて加工します。 b. さまざまなデバイスを利用した， 人とコンピュータのインタラクションを実現します。 メディアアートや合成アルゴリズムの提案， 認知心理学的分析などに取り組みます。 C 言語等のプログラミングができることが望ましいです。					
・ デザイン（3D C G、メディアアート） a. 3 Dソフト等を用い， 実物よりも実物らしく見せるシーンの生成を目指します。 b. プロジェクションマッピングなどのメディアアート作品を制作します。					
2つのグループは相互に関連し， 影響しあっています。グループワークを通して2つのグループの力が融合した映像作品の制作を最終的な目標とします。プロジェクションマッピングや、AR、VR、3D プリンタなどを用いて、役に立つもの、心が豊かになるものを作っていきたいと思っています。そして、個々の活動とグループワークについてのプレゼンテーションやディスカッションを繰り返し、コミュニケーション力を磨きます。					
授業における学修の到達目標					
個々のスキルの向上に加え、自分の意見をきちんと伝えられるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。話して聴けるクリエイター/エンジニアを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	なし			0
	授業	ガイダンス			
	事後学修	後期のスケジュールについて確認する			2
2	事前学修	卒業論文の手引きの確認			2
	授業	卒業論文の書き方講習			
	事後学修	卒業論文の目次を作成する			2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備			2
	授業	3年生の蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル対応			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の問題に対するサポート			4
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）			2
5	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備			2

	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン	
	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2
6	事前学修	卒業研究進捗報告プレゼンの準備	2
	授業	卒業研究進捗報告プレゼン（1週目）	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2
7	事前学修	なし	0
	授業	卒業研究進捗報告プレゼン（2週目）	
	事後学修	他者の卒業研究について理解を深める	2
8	事前学修	研究の要点をまとめる	2
	授業	卒業研究の小論についての説明	
	事後学修	卒業研究の小論の書き方について見直す	2
9	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック（1回目）	
	事後学修	指摘された内容について確認・修正	4
10	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック（2回目）	
	事後学修	指摘された内容について確認・修正	2
11	事前学修	小論の準備	2
	授業	小論相互チェック（3回目）	
	事後学修	指摘された内容について確認・修正	2
12	事前学修	卒業研究の進捗を整理	2
	授業	卒業研究のスケジュール確認	
	事後学修	卒業研究のスケジュールを見直す	2
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（2回目）	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（3回目）	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 30% ■演習課題： 40% ■その他[グループワーク 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：3 DCG 演習、プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし

担当教員の実務経験

システム開発・プログラム開発に従事した経験を生かし、ユーザ目線を意識した設計・制作・開発を指導する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	3 年	前期	
授業概要					
テーマ: 卒業研究に備えて研究遂行に必要なとなる技能を習得します。					
演習を通じて、文献調査手法や科学技術文章の読み書き・プレゼンテーション技能といった基礎技能およびそのためのソフトウェアの使い方を学びます。計算機を「普段使いの文房具」「有用な外部記憶装置」として活用できるようになることが本ゼミナールの目標です。					
ゼミのキーワードは「FLOSS」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」ですが、それ以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。					
授業における学修の到達目標					
- 自身が必要とする計算機環境の構築・運用ができるようになること。					
- 科学技術文章の読み書きが行なえる様になること。					
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	- タッチタイピングができるようになっておくこと(不慣れな人は練習を開始し、前期のうちに習得すること)。 - 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと。			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	現在自身が取得している技術について整理しておくこと。			2
2	事前学修	自己紹介プレゼンテーションの準備をすること			2
	授業	自己紹介プレゼンテーション			
	事後学修	プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。			2
3	事前学修	- 情報共有手段の確認をしておくこと - 事前に指示したソフトウェアをインストールしておくこと			2
	授業	文書作成環境構築			
	事後学修	ゼミでの作業内容をまとめ、共有すること。			2
4	事前学修	事前配布資料を読み、必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。			2
	授業	技術文章作成演習			
	事後学修	作成した文章を校正し提出すること。			2
5	事前学修	事前配布資料を読み必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。			2
	授業	文献調査・整理演習			
	事後学修	興味のある文献を調査収集し始めること。			2
6	事前学修	第 5 回に調査した興味のある書籍・論文を整理しておくこと。			2
	授業	テクニカルリーディング演習			
	事後学修	- 興味のある文献を調査収集し始めること。 - 収集した文献の要約を作成し整理すること。			2
7	事前学修	自身が収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。			2

	授業	第1回プレゼンテーション演習(1)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
8	事前学修	自身が収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第1回プレゼンテーション演習(2)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
9	事前学修	事前配布資料を読み、必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。	2
	授業	計算機演習: 仮想環境とネットワーク	
	事後学修	- 文書を整理し共有すること。 - 文献収集と整理を続けること。	2
10	事前学修	事前配布資料を読み、必要となるソフトウェアをインストールしておくこと。	2
	授業	計算機演習: 版管理と自動化	
	事後学修	- 文書を整理し共有すること。 - 文献収集と整理を続けること。	2
11	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第2回プレゼンテーション演習(1)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
12	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第2回プレゼンテーション演習(2)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
13	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第3回プレゼンテーション演習(1)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
14	事前学修	収集した文献についてのプレゼンテーションの準備を行なうこと。	2
	授業	第3回プレゼンテーション演習(2)	
	事後学修	- プレゼンテーションでの質問・コメントを整理しておくこと。 - 文献収集と整理を続けること。	2
15	事前学修	企画発表会のプログラムを確認しておくこと	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	- 卒業研究企画発表会の聴講レポートを提出すること。 - 文献収集と整理を続けること。	2

成績評価の方法およびその基準

■その他[課題レポート(40%), プレゼンテーション(40%), ゼミ内での議論, 貢献など(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	講義時に都度指示する。
単位修得が望ましい科目	なし。

備考	連絡にはメールと slack を利用する．1 日に複数回確認すること．
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度，大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた．また，専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行なっている．これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する．

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	3 年	後期	
授業概要					
テーマ: 卒業研究に備えて研究遂行に必要なとなる技能を習得します。					
ゼミナールⅠに引き続き、卒業研究に備えて研究遂行に必要なとなる技能を習得します。演習や少人数プロジェクト制作を通じて、文献調査手法や科学技術文章の読み書き・プレゼンテーション技能といった基礎技術を磨きます。					
ゼミのキーワードは「FLOSS」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」ですが、それ以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。					
授業における学修の到達目標					
- 自身・グループでのプロジェクト開発・進捗管理ができるようになること。					
- 科学技術文章の読み書きが行なえる様になること。					
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	自分が取り組みたいテーマを考えておくこと。			2
	授業	・ガイダンス ・プロジェクト演習 1: チーム分け			
	事後学修	協同作業環境を確認しておくこと。			2
2	事前学修	テーマに関連のある書籍・論文を調査し始めること。			2
	授業	プロジェクト演習 1: 文献調査、テーマ検討			
	事後学修	- 関連文献を調査し、整理しておくこと。 - 発表テーマを検討すること。			2
3	事前学修	- テーマに関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。			2
	授業	プロジェクト演習 1: 研究開発			
	事後学修	- 研究開発を進めること - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。			2
4	事前学修	- 関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。			2
	授業	プロジェクト演習 1: 研究開発(2)			
	事後学修	- 研究開発を進めること - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。			2
5	事前学修	研究開発内容をまとめ、プレゼンテーションを準備しておく。			2
	授業	プロジェクト演習 1: 発表会			
	事後学修	- 質疑・コメントを整理し回答しておくこと。 - 次に自分が取り組みたいテーマを考えておくこと。			2
6	事前学修	事前学修資料を確認しておくこと。			2
	授業	- プロジェクト演習 1 の振り返り - プロジェクト演習 2: チーム分け			

	事後学修	協同作業環境を確認しておくこと。	2
7	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し始めること。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 文献調査、テーマ検討	
	事後学修	- 関連文献を調査し、整理しておくこと。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
8	事前学修	- 関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 研究開発(1)	
	事後学修	- 研究開発を進めること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
9	事前学修	- 関連のある書籍・論文を調査し続けること。 - 必要に応じて開発環境を構築しておくこと。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 研究開発(2)	
	事後学修	- 研究開発を進めること。 - 関連のある書籍・論文を調査し始めること。	2
10	事前学修	研究開発内容をまとめ、プレゼンテーションを準備しておく。	2
	授業	プロジェクト演習 2: 発表会	
	事後学修	- 質疑・コメントを整理し回答しておくこと。 - 次に自分が取り組みたいテーマを考えておくこと。	2
11	事前学修	事前学修資料を確認しておくこと。	2
	授業	- プロジェクト演習 2 の振り返り - 卒業研究テーマの検討	
	事後学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
12	事前学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
	授業	卒業研究テーマの検討: 先行研究の整理	
	事後学修	- 関連文献を調査し、整理しておくこと。 - 必要に応じて開発環境を構築すること。	2
13	事前学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
	授業	卒業研究テーマの検討: テーマ選定	
	事後学修	関連文献を調査し、整理しておくこと。	2
14	事前学修	卒業研究発表回のプログラムを確認しておくこと	2
	授業	卒業研究発表会の聴講	
	事後学修	卒研発表会での発表についてレポートにまとめること	2
15	事前学修	卒業研究に向けたアイデアをまとめたショートプレゼンを準備しておくこと。	2
	授業	振り返りおよび卒業研究に向けたアイデア発表	
	事後学修	卒業研究のアイデアを精査すること。	2

成績評価の方法およびその基準

■その他[課題レポート(40%), プレゼンテーション(40%), ゼミ内での議論、貢献など(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度、口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。

教科書

参考書・Web サイト

講義時に都度指示する。

単位修得が望ましい科目	なし.
備考	連絡にはメールと slack を利用する. 1 日に複数回確認すること.
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度, 大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた. また, 専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行なっている. これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する.

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	前期	
授業概要						
テーマ: 卒業研究・卒業制作のための知識と技術を修得すること。						
ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡの学修内容に基づき、各自でテーマを決めて調査・研究開発に取り組みます。人によって取り組む課題は様々ですが、ゼミのキーワードは「FLOSS 開発」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」ですが、それ以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。						
授業における学修の到達目標						
- 自主的に問題設定・調査・研究を行ない、恒常的に学び続けられるようになること。						
- 科学技術文章の読み書きが行なえるようになること。						
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡで修得した技術を確認しておくこと。				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	全体スケジュールを確認しておくこと。				2
2	事前学修	プレゼンテーションの復習として「自己紹介のスライド」を作成しておくこと。				2
	授業	自己紹介プレゼンテーション				
	事後学修	プレゼンの良かった点・改善できそうな点をまとめること。				2
3	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し始めること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(1)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
4	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(2)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
5	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(3)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
6	事前学修	関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査の報告(4)				
	事後学修	- 発表内容、質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2
7	事前学修	卒研の「目的」を設定するための資料をまとめること。				2
	授業	卒研テーマの設定				
	事後学修	- 卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。				2

8	事前学修	実験設定や開発するシステムの概要をまとめること。	2
	授業	研究手法，システムの検討(1)	
	事後学修	- 発表内容，質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
9	事前学修	実験設定や開発するシステムの概要をまとめること。	2
	授業	研究手法，システムの検討(2)	
	事後学修	- 発表内容，質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
10	事前学修	実験設定や開発するシステムの概要をまとめること。	2
	授業	研究手法，システムの検討(3)	
	事後学修	- 発表内容，質疑についてまとめること。 - 関連のある書籍・論文を調査し続けること。	2
11	事前学修	企画発表会の発表資料を準備すること。	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル(1)	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
12	事前学修	企画発表会での発表資料を作成すること。	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル (2)	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成すること。	2
	授業	企画発表会プレゼンリハーサル (3)	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
14	事前学修	企画発表会の発表資料を準備すること。	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2
15	事前学修	発表会での発表を報告資料としてまとめること。	2
	授業	企画発表会に関する報告	
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。	2

成績評価の方法およびその基準

■その他[課題レポート(40%)，プレゼンテーション(40%)，ゼミ内での議論，貢献など(20%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度，口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。

教科書	
参考書・Web サイト	講義時に都度指示する。
単位修得が望ましい科目	なし。
備考	連絡にはメールと slack を利用する。1 日に複数回確認すること。
担当教員の実務経験	通算で 15 年程度，大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また，専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	佐々木 洋平 (222 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
テーマ: 卒業研究・卒業制作を行ない完遂させること。					
ゼミナールⅢから継続して、各自で定めたテーマを決めて研究開発に取り組みます。人によって取り組む課題は様々ですが、ゼミのキーワードは「FLOSS 開発」「ICT セキュリティ」「情報可視化」「数値計算手法」「大規模データ処理」です。上記のキーワード以外でも興味がある事であれば研究に邁進してもらってかまいません。					
授業における学修の到達目標					
- 自主的に問題設定・調査・研究を行ない、恒常的に学び続けられるようになること。					
- 科学技術文章の読み書きが行なえるようになること。					
- 情報を適切にプレゼンテーションする技能を習得すること。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	技術文書の書き方を復習しておくこと。			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	卒研(小論文、発表会)について確認しておくこと。			2
2	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめること。			2
	授業	実験・評価方法の発表(1)			
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。			2
3	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめること。			2
	授業	実験・評価方法の発表(2)			
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。			2
4	事前学修	実験・評価方法について資料をまとめること。			2
	授業	実験・評価方法の発表(3)			
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。			2
5	事前学修	実験・機能の追加について資料をまとめること。			2
	授業	実験・機能の追加についての検討			
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。			2
6	事前学修	実験・機能の追加について資料をまとめること。			2
	授業	実験・機能の追加についての実装			
	事後学修	発表内容と質疑についてまとめること。			2
7	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめること。			2
	授業	卒業論文の構成の議論			
	事後学修	議論内容を基に目次を完成させ、小論執筆を開始すること。			2
8	事前学修	小論の見直しをすること。			2
	授業	小論の相互チェック (1)			
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ修整すること。			2
9	事前学修	小論の見直しをすること。			2

	授業	小論の相互チェック (2)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ修整すること。	2
10	事前学修	卒研: 成果物の準備をすること	2
	授業	卒研: 成果物の整理	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ修整すること。	2
11	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をすること	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
12	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル(1)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
13	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル(1)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
14	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究会発表リハーサル(2)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
15	事前学修	卒業研究発表会のプレゼンを準備すること。	2
	授業	卒業研究会発表リハーサル(3)	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修整すること。	2
成績評価の方法およびその基準			
■その他[課題レポート(40%), プレゼンテーション(40%), ゼミ内での議論, 貢献など(20%)]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
その都度, 口頭あるいはオンラインで情報をフィードバックする。			
教科書			
参考書・Web サイト		講義時に都度指示する。	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		連絡にはメールと slack を利用する。1 日に複数回確認すること。	
担当教員の実務経験		通算で 15 年程度, 大学・大学院の部局 ICT 管理者として計算機ネットワークの構築管理運用を行ってきた。また, 専門分野では大型計算機を用いた大規模数値計算・データ解析を日々行っている。これら経験を踏まえて現場で必要となる知識を学生に伝えられる教育を実施する。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
『デザイン』と『テクノロジー』を融合した 『観光』や『教育』向けの Web・アプリ・ゲーム制作					
ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーション等、解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて、ディスカッションを通じて決定します。					
主要な研究・制作テーマ					
1. AI を活用した Web やスマホアプリ開発： 人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし、デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。					
2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作 教育や学習における問題点を調査し、ICT を活用することで問題を解決することを目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて、様々な ICT（主に Web 制作技術、CMS や LMS 等）に関する教育・学習教材の制作も行います。					
3. ゲーミフィケーションに関する研究： ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また、シリアスゲームとは、社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤一ゼミでは、観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。					
4. フィールドワークに基づいた作品制作： フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い、客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また、IT の活用により課題解決を目指す作品（アプリ、サイト、パンフ等）を制作します。					
授業における学修の到達目標					
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・既存研究や作品を十分に調査をし、自分の作りたい作品について企画を立てましょう。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスや研究室のサイト（参考サイトに URL を記載）を確認し、ゼミ活動の概要を把握しておきましょう			2.0
	授業	前期 ガイダンス： ゼミナールⅠの活動について説明します			
	事後学修	今後のゼミ活動（何を制作するのか等）の計画を立てましょう			2.0
2	事前学修	自己紹介プレゼンの準備をしておきましょう			2.0
	授業	自己紹介プレゼンをしよう！： 各自自己紹介のプレゼンテーションをしてもらいます。			
	事後学修	今後のプロジェクト活動のために、自己紹介プレゼンの内容を振り返り、ゼミナールメンバーの名			2.0

		前や興味のある研究分野等を把握しておきましょう	
3	事前学修	コンテストへの作品応募にむけて、どのコンテストにどのような作品で申し込みをするのかを考えておきましょう。	2.0
	授業	コンテストの応募にむけて、コンテストの過去の作品の調査等を調査します。	
	事後学修	授業時間で調べきれなかった作品などを、家庭学習の時間も使って調査し、制作する作品のイメージを膨らませましょう。	2.0
4	事前学修	コンテストへの応募作品について、コンセプトを考えておきましょう。	2.0
	授業	コンテストの応募作品のコンセプトを決めます。	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備をしておきましょう。	2.0
5	事前学修	コンテスト向けの作品制作の準備をしておきましょう	2.0
	授業	コンテストに応募する作品を制作します	
	事後学修	作品の質を高めるため、授業以外の時間も使い、ディテイルアップをしましょう。	2.0
6	事前学修	制作中の作品について、更に作品の質を高めるためには何をすればよいのかを検討しておきましょう。	2.0
	授業	引き続き、コンテスト投稿に向けた作品制作を行います 作品の投稿に向けたドキュメント作成も行います。	
	事後学修	投稿前の作品やドキュメントの最終チェックをしましょう。	2.0
7	事前学修	作品について、客観的に、振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	投稿した作品についてのプレゼンテーションを行います。	
	事後学修	他のメンバーの作った作品をレビューしましょう。	2.0
8	事前学修	新たな作品づくりに向けて、世の中の作品のレビューを改めて行いましょう。	2.0
	授業	Web やゲームやアプリ等、既存作品のレビュー（コンテンツ研究会）を行います。	
	事後学修	他の学生がレビューした作品で、印象に残った作品などを、自分でも調べてみましょう。	2.0
9	事前学修	これまでのゼミ活動を一旦振り返っておきましょう。	2.0
	授業	コンテストでの経験を活かし、スキルアップしたい課題を各自決めていきます。	
	事後学修	各自が設定したスキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
10	事前学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう	2.0
	授業	スキルアップ課題の進捗を報告してもらいます。	
	事後学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
11	事前学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう	2.0
	授業	スキルアップ課題の成果を発表してもらいます。	
	事後学修	課題の内容を振り返り、次の作品づくりに活かしましょう。	2.0
12	事前学修	レクリエーションの準備をしておきましょう。	2.0
	授業	企画・実施・評価のトレーニングの一環としてのレクリエーションを行います。レクリエーションの内容はゼミ生同士の話し合いを元に決定します。	
	事後学修	これまでのゼミ活動を一旦振り返っておきましょう。	2.0
13	事前学修	グループワークに向けた事前準備をしておきましょう。	2.0
	授業	グループワーク（提示した課題に対するディスカッション）を行います。	
	事後学修	グループワークの課題に取り組みましょう	2.0
14	事前学修	引き続き、グループワークの課題に取り組みましょう。 オンラインのコミュニケーションツールを活用して、グループのメンバーとの打ち合わせも行いま	2.0

		しょう。	
	授業	グループワーク（ディスカッション）の結果をプレゼンテーションします。他のグループの発表について、質問をすることで、課題に対する理解を深めましょう。	
	事後学修	グループワークの内容を振り返っておきましょう	2.0
15	事前学修	ゼミナールⅠのゼミ活動について、個人的に振り返っておきましょう	2.0
	授業	ゼミナールⅠの振り返りを行います。	
	事後学修	前期を振り返りつつ、休み期間の作品制作の内容を検討しておきましょう	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：90% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
ゼミでの発表資料や制作した作品等を、POLITE や Google ドライブ等にアップしてもらいます。 ゼミ中や POLITE を通じて、発表や作品に対するコメントをフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		斎藤一ゼミ Web サイト： https://wine.do-johodai.ac.jp/	
単位修得が望ましい科目		HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習，E ラーニング，Web 制作プロジェクト	
備考		3・4 年生一緒にゼミ活動を行います。4 年生のゼミの時間も時間を空けておいください。	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
デザイン』と『テクノロジー』を融合した 『観光』や『教育』向けの Web・アプリ・ゲーム制作 ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーション等、解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて、ディスカッションを通じて決定します。 主要な研究・制作テーマ 1. AI を活用した Web やスマホアプリ開発： 人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし、デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。 2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作 教育や学習における問題点を調査し、ICT を活用することで問題を解決することを目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて、様々な ICT（主に Web 制作技術、CMS や LMS 等）に関する教育・学習教材の制作も行います。 3. ゲーミフィケーションに関する研究： ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また、シリアスゲームとは、社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤一ゼミでは、観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。 4. フィールドワークに基づいた作品制作： フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い、客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また、IT の活用により課題解決を目指す作品（アプリ、サイト、パンフ等）を制作します。					
授業における学修の到達目標					
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・企画したサイトやアプリ等を制作し、いろいろな人に評価をしてもらいましょう。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	休み期間の活動を振り返っておきましょう。作品制作の進捗状況なども各自で確認しておきましょう。			2.0
	授業	ガイダンスを行います。また、各自、休み中の活動について報告をしてもらいます。			
	事後学修	後期の（とくにゼミ展示に向けた）制作活動について、計画を立てておきましょう。			2.0
2	事前学修	リクリエーションの内容をゼミ生同士で話し合っておきましょう			2.0
	授業	企画・実施・評価のトレーニングの一環として、リクリエーションを行います。またこの取組を通じて、ゼミ生同士の親睦を深めます。			
	事後学修	リクリエーションの内容を振り返っておきましょう。			2.0
3	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう			2.0

	授業	ゼミ展示に向けて作品制作を行います。	
	事後学修	授業時間以外の時間も使って、作品制作を行いましょう。	2.0
4	事前学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
	授業	ゼミ展示にむけた、作品制作の進捗状況を確認します。	
	事後学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた作品制作を行いましょう	2.0
5	事前学修	ゼミ展示の実施に向けて、作品の評価フォームの準備など、最終の準備を行いましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示を実施します。展示を見てくれた方に対して、作品のレビュー（評価）をしてもらいましょう。	
	事後学修	作品のレビューをまとめ、作品をアップデートしましょう。	2.0
6	事前学修	ゼミ展示の個人的な振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示の振り返りを行います。	
	事後学修	ゼミ展示の経験を通して、更にスキルアップするための課題を探しましょう。	2.0
7	事前学修	後期のスキルアップ課題を決めておきましょう。	2.0
	授業	設定したスキルアップ課題について説明をしてもらいます。	
	事後学修	スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
8	事前学修	引き続き、スキルアップ課題に取り組みましょう。	2.0
	授業	スキルアップ課題の進捗報告をしてもらいます。	
	事後学修	ゼミ中での、教員や他のメンバーのコメントを参考に、スキルアップ課題をブラッシュアップしましょう。	2.0
9	事前学修	スキルアップ課題の成果をまとめたプレゼン資料を作成しましょう。	2.0
	授業	スキルアップ課題の成果報告をしてもらいます。	
	事後学修	ゼミ中の成果報告で得られたコメント等を参考に、各自で課題の振り返りを行いましょう。	2.0
10	事前学修	コンテンツ研究会に向けた発表準備をしておきましょう。	2.0
	授業	コンテンツ研究会（既存作品のレビュー）を実施します。	
	事後学修	他のメンバーの発表で、参考になった作品について、自分でも調査をしてみましょう。	2.0
11	事前学修	前回発表を行わなかったメンバーは、発表の準備をしておきましょう。発表済みのメンバーは、振り返りを行ってください。	2.0
	授業	引き続き、コンテンツ研究会（既存作品のレビュー）を行います。	
	事後学修	他のメンバーの発表で、参考になった作品について、自分でも調査をしてみましょう。	2.0
12	事前学修	卒業研究発表会や4年生の作品の成果発表会のプログラムを確認し、聴講プランを立てましょう。	2.0
	授業	卒業研究発表会や4年生の作品成果発表会を聴講します。	
	事後学修	4年生たちの卒業研究や作品制作についての感想をまとめておきましょう。	2.0
13	事前学修	自身の次年度の作品制作についてイメージをしながら、聴講プランの見直しをしましょう。	2.0
	授業	引き続き、卒業研究発表会や4年生の作品成果発表会を聴講します。	
	事後学修	4年生たちの卒業研究や作品制作についての感想をレポートとしてまとめて提出しましょう。	2.0
14	事前学修	卒業研究または4年次の制作テーマを考えましょう	2.0
	授業	次年度の制作・研究テーマ案をプレゼンテーションしてもらいます。	
	事後学修	発表したテーマについて、教員やゼミのメンバーから得られた意見を参考に、内容を深めておきましょう。	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動を振り返っておきましょう。	2.0
	授業	後期のふりかえりを行います。	

	事後学修	卒業研究またはゼミ制作に向けた準備を開始しましょう	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：90% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
ゼミでの発表資料や制作した作品等を，POLITE や Google ドライブ等にアップしてもらいます。 ゼミ中や POLITE，SLACK を通じて，発表や作品に対するコメントをフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト	斎藤一ゼミ生作品サイト： https://wine.do-johodai.ac.jp/		
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，Web デザイン基礎演習，E ラーニング，Web 制作プロジェクト		
備考	3 ・ 4 年生一緒にゼミ活動を行います。4 年生のゼミの時間も時間を空けておいください。		
担当教員の実務経験	実務経験なし		

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
『デザイン』と『テクノロジー』を融合した 『観光』や『教育』向けの Web・アプリ・ゲーム制作					
ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーション等、解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて、ディスカッションを通じて決定します。					
主要な研究・制作テーマ					
1. AI を活用した Web やスマホアプリ開発： 人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし、デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。					
2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作 教育や学習における問題点を調査し、ICT を活用することで問題を解決することを目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて、様々な ICT（主に Web 制作技術、CMS や LMS 等）に関する教育・学習教材の制作も行います。					
3. ゲーミフィケーションに関する研究： ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また、シリアスゲームとは、社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤ゼミでは、観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。					
4. フィールドワークに基づいた作品制作： フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い、客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また、IT の活用により課題解決を目指す作品（アプリ、サイト、パンフ等）を制作します。					
授業における学修の到達目標					
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・企画したサイトやアプリ等を制作し、いろいろな人に評価をしてもらいましょう。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスや研究室のサイト（参考サイトに URL を記載）を確認し、ゼミ活動の概要を把握しておきましょう			2.0
	授業	前期 ガイダンス： 4 年目のゼミナールの活動について説明します			
	事後学修	今後のゼミ活動（関連研究や作品の調査等を含む）の計画を立てましょう			2.0
2	事前学修	自己紹介プレゼン（3 年生の新ゼミ生向け）の準備をしておきましょう			2.0
	授業	3 年生の新ゼミ生向けに自己紹介のプレゼンテーションをしてもらいます。			
	事後学修	今後のプロジェクト活動のために、自己紹介プレゼンの内容を振り返り、ゼミナールメンバーの名前や興味のある研究分野等を把握しておきましょう。			2.0

3	事前学修	作品制作の参考とするために、既存作品の調査を行いましょう。	2.0
	授業	既存作品の調査を行います。	
	事後学修	ひきつづき、既存作品の調査を行いましょう。他のゼミ生が調べている作品なども参考にしながら、視野を広げて、調査を進めましょう	2.0
4	事前学修	調査した作品について説明するスライドづくりをはじめましょう。	2.0
	授業	ひきつづき、既存作品の調査を行います。また、調査結果の発表に向けた資料作りをします。	
	事後学修	調査結果の発表資料をつくりましょう。	2.0
5	事前学修	発表資料の最終チェックを行いましょう。	2.0
	授業	調査した作品を説明する、プレゼンテーションを行います。	
	事後学修	他のゼミ生が説明した作品で、興味を持った内容を、自分でも追調査し、理解を深めましょう。	2.0
6	事前学修	未発表のメンバーは、発表資料の最終チェックを行いましょう。 発表済みのメンバーは、他のゼミ生が説明した作品で、興味を持った内容を、自分でも追調査し、理解を深めましょう。	2.0
	授業	調査した作品を説明する、プレゼンテーション（二週目）を行います。	
	事後学修	他のゼミ生が説明した作品で、興味を持った内容を、自分でも追調査し、理解を深めましょう。	2.0
7	事前学修	フィールドワークをするエリアや内容を事前に調べておきましょう。	2.0
	授業	フィールドワークを実施します。 （フィールドワークが困難な場合などは、Web を利用した調べ学習を行います。）	
	事後学修	フィールドワーク中に調査した資料をよく読み、課題を発見しましょう。	2.0
8	事前学修	フィールドワークが無事に終了するよう、各自、ベストを尽くしましょう。	2.0
	授業	引き続き、フィールドワークを実施します。	
	事後学修	収集した資料を整理しておきましょう。整理した資料をもとに発見した課題も整理しておきましょう。	2.0
9	事前学修	技術・デザイン勉強会で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会	
	事後学修	勉強会の内容を復習しておきましょう。	2.0
10	事前学修	技術・デザイン勉強会（二回目）で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう。	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会（二回目）	
	事後学修	勉強会（二回目）の内容を復習しておきましょう。	2.0
11	事前学修	企画プレゼンの準備をしましょう。	2.0
	授業	企画プレゼンの準備	
	事後学修	引き続き、企画プレゼンに向けた準備をしましょう。	2.0
12	事前学修	企画プレゼンの資料の最終確認をしておきましょう。	2.0
	授業	企画プレゼン	
	事後学修	企画プレゼン時に、ゼミ生や教員から得られたコメントを参考に、企画をブラッシュアップしましょう。	2.0
13	事前学修	プロトタイプ開発の準備をしておきましょう。	2.0
	授業	プロトタイプ開発	
	事後学修	引き続き、プロトタイプ開発をすすめましょう。	2.0
14	事前学修	プロトタイプの評価に向けた準備をはじめましょう。	2.0
	授業	プロトタイプ開発（第二週）	

	事後学修	プロトタイプの開発が終了できるようにしましょう。	2.0
15	事前学修	プロトタイプの評価の準備をしておきましょう。	2.0
	授業	制作したプロトタイプの評価会を行います。	
	事後学修	プロトタイプの評価会で得られたコメントをまとめておきましょう。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% ■演習課題：100% □その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
POLITE のゼミナールのページを通じて、 コメント等をフィードバックします。			
教科書			
参考書・Web サイト		斎藤一ゼミ Web サイト： https://wine.do-johodai.ac.jp/	
単位修得が望ましい科目		HTML コーディング演習， Web デザイン基礎演習， E ラーニング， Web 制作プロジェクト	
備考		3 ・ 4 年生一緒にゼミ活動を行います。 3 年生のゼミの時間も時間を空けておいください。	
担当教員の実務経験		実務経験なし	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	斎藤 一(122 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
『デザイン』と『テクノロジー』を融合した 『観光』や『教育』向けの Web・アプリ・ゲーム制作 ゼミでは、個人またはプロジェクト（グループワーク）による作品制作を行います。 作品の種類は、Web、アプリ、デジタルゲーム、アナログゲーム、ポスター、パンフレット、プロジェクションマッピング、インスタレーション等、解決したい（観光・教育分野の）課題に合わせて、ディスカッションを通じて決定します。 主要な研究・制作テーマ 1. AI を活用した Web やスマフォアプリ開発： 人間同士または人間とコンピュータとのインタラクションを支援することで新しい価値を生み出すアプリ開発を目指します。AI（人工知能）等のテクノロジーを生かし、デザイン性も考慮したサイトやアプリの開発を行います。 2. 教育・学習支援に関する研究・インストラクショナルデザインに基づく教材制作 教育や学習における問題点を調査し、ICT を活用することで問題を解決することを目指します。また、インストラクショナル・デザイン（ID）に基づいて、様々な ICT（主に Web 制作技術、CMS や LMS 等）に関する教育・学習教材の制作も行います。 3. ゲーミフィケーションに関する研究： ゲームデザインの考え方の活用をゲーミフィケーションと呼びます。また、シリアスゲームとは、社会の問題解決に利用されるゲームを指します。斎藤ゼミでは、観光や教育を対象としたゲームの活用について研究しています。 4. フィールドワークに基づいた作品制作： フィールドワークとは、現地を実際に訪れ、資料の収集や関係者へのヒアリングやアンケート調査を行い、客観的な成果を挙げるための学術研究技法です。フィールドワークにより地域における課題を調査します。また、IT の活用により課題解決を目指す作品（アプリ、サイト、パンフ等）を制作します。					
授業における学修の到達目標					
・自ら制作テーマや目標を設定し、自発的に活動しましょう。 ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決していきましょう。 ・企画したサイトやアプリ等を制作し、いろいろな人に評価をしてもらいましょう。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	休み期間の活動を振り返っておきましょう。作品制作の進捗状況なども各自で確認しておきましょう。			2.0
	授業	ガイダンスを行います。また、各自、休み中の活動について報告をしてもらいます。			
	事後学修	後期の（とくにゼミ展示に向けた）制作活動について、計画を立てておきましょう。			2.0
2	事前学修	リクリエーションの内容をゼミ生同士で話し合っておきましょう			2.0
	授業	授業 リクリエーションを通じて、ゼミ生同士の親睦を深めます。			
	事後学修	リクリエーションの内容を振り返っておきましょう。			2.0
3	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けて卒業制作の展示準備を行いましょう			2.0
	授業	ゼミ展示に向けて卒業制作（β 版）の展示を目指します。			

	事後学修	授業時間以外の時間も使って、制作を行いましょう。	2.0
4	事前学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた制作を行いましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示にむけた、卒業制作の進捗状況を確認します。	
	事後学修	引き続き、大学祭のゼミ展示に向けた制作を行いましょう。	2.0
5	事前学修	ゼミ展示の実施に向けて、作品の評価フォームの準備など、最終の準備を行いましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示を実施します。展示を見てくれた方に対して、作品のレビュー（評価）をしてもらいましょう。	
	事後学修	作品のレビューをまとめ、作品をアップデートしましょう。	2.0
6	事前学修	ゼミ展示の個人的な振り返りを行っておきましょう。	2.0
	授業	ゼミ展示の振り返りを行います。	
	事後学修	ゼミ展示での評価を踏まえて、卒業制作（β版）の改善点を明らかにしましょう。	2.0
7	事前学修	卒業制作の完成を目指して、評価で得られた改善点を改善していきましょう。	2.0
	授業	卒業制作の完成を目指します。進捗状況を報告し、ゼミ生同士で作品についてのディスカッションを行います。	
	事後学修	ゼミでのディスカッションで得られた意見をまとめて、作品制作に活かしましょう。	2.0
8	事前学修	卒業制作の完成を目指して作業をしておきましょう。	2.0
	授業	卒業制作の進捗報告を行います。	
	事後学修	ゼミで得られた意見をまとめて、作品制作に活かしましょう。	2.0
9	事前学修	技術・デザイン勉強会で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会	
	事後学修	勉強会の内容を復習しておきましょう。	2.0
10	事前学修	技術・デザイン勉強会（二回目）で取り上げたい内容を事前に調べておきましょう	2.0
	授業	技術・デザイン勉強会（二回目）	
	事後学修	勉強会（二回目）の内容を復習しておきましょう。	2.0
11	事前学修	リクリエーションの内容を決めておきましょう。	2.0
	授業	リクリエーションを実施します。リクリエーションの内容はゼミ生同士で話し合っ決めておきます。	
	事後学修	リクリエーションを振り返りましょう。	2.0
12	事前学修	最終制作（卒業制作の完成）をすすめましょう。	2.0
	授業	最終制作の作業をすすめます。	
	事後学修	引き続き、最終制作をすすめましょう。	2.0
13	事前学修	最終制作の進捗を報告できるようにしておきましょう。	2.0
	授業	最終制作の進捗報告を行います。	
	事後学修	最終制作のプレゼンテーションに向けた準備を始めましょう。	2.0
14	事前学修	最終制作のプレゼンテーションの準備を完了させましょう。	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーションを行います。	
	事後学修	プレゼンテーションで得られたコメントを参考に、作品のブラッシュアップを行いましょう。	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動を振り返っておきましょう。	2.0
	授業	後期のふりかえりを行います。	
	事後学修	これまでのゼミ活動を振り返り、今後に活かしましょう。	2.0

成績評価の方法およびその基準

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
○テーマ						
視覚芸術，感性工学の分野から，魅力的な表現や有用な情報発信に向けた能力の向上に取り組みます。コンテストへの応募やグループワークを通して，実践的な企画力やコミュニケーション力を身につける。						
○概要						
イラストレーション，グラフィックデザインの分野を起点として，私たちの生活に新しい価値の提示を目指し，有用かつ魅力的な表現や提案企画する能力を身につける。						
前期は，イラストレーション作品の制作（5 課題を予定）を中心に行う。後期は統計・実験デザインの基礎を学び、感性工学に基づいた発想やコンセプト作りなどを習得する。ゼミ活動として、プロジェクト制作に取り組む場合がある。						
各個人の表現力を高めながら，他者とのディスカッションや，作品紹介などを通して，発想力のあるデザイナー，イラストレーターを目指す。また，テーマに応じて，さまざまな発想・表現ができる柔軟性を身につけつつグループワークでは，他者と協働する能力を身につける。						
授業における学修の到達目標						
個人においての表現，発想力を向上させる。また同時に，他者と協力したり，意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ，社会で活躍するクリエイターを目指します。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	ゼミナールで身につけたい技術について調べる				2
	授業	ガイダンス				
	事後学修	ゼミで取り組める内容について確認する				2
2	事前学修	キャラクターや身の回りの人物表現の頭身（プロポーション）を観察しておく				2
	授業	人物描写のポイント、頭身の変化のさせ方に関するレクチャー、ラフスケッチと制作				
	事後学修	頭身を変化させた人物表現の課題制作				2
3	事前学修	制作プロセスで考えたこと、工夫したことを言語化しておく				2
	授業	頭身を変化させた人物表現の課題制作の講評				
	事後学修	頭身変化による印象の違いとかき分け方の確認				2
4	事前学修	身の回りのキャラクター表現について、その必然性を考えておく				2
	授業	キャラクターデザイン（1）ラフと制作				
	事後学修	キャラクター制作課題を進めておく				2
5	事前学修	キャラクター紹介を説明できるよう、考えておく				2
	授業	キャラクターデザイン（2）講評				
	事後学修	キャラクターのメディア展開を考える				2
6	事前学修	パース（一点透視図法）の描写方法について調べておく				2
	授業	一点透視図法を使った、空間表現の練習				
	事後学修	一点透視図法の作画方法を確認しておく				2
7	事前学修	図法を使った空間表現でどのようなことが可能か、考えておく				2

	授業	一点透視図法を使った、空間表現の応用・講評	
	事後学修	授業内容の確認	2
8	事前学修	色彩によるイメージの違いを感じられる例を集めておく	2
	授業	3色のみのイラスト表現（1）ラフ・制作	
	事後学修	制作課題を進めておく	2
9	事前学修	自身の作品コンセプトを言語化しておく	2
	授業	3色のみのイラスト表現（2）講評	
	事後学修	多色の場合と、色数を限定した場合との印象や機能の違いを考えておく	2
10	事前学修	書籍の装丁デザインの工夫を観察しておく。装画を書きたい本を探しておく	2
	授業	本の装画・挿絵（1）ガイダンス、ビブリオバトルの説明、自身の読んで面白かった本の書き出し	
	事後学修	ビブリオバトルのルール確認	2
11	事前学修	ビブリオバトルの準備	2
	授業	本の装画・挿絵（2）ビブリオバトル、本の装画・挿絵の検討 蒼天祭（大学祭）展示計画の検討（1）展示テーマ	
	事後学修	自身の本の紹介の反省、他者の本の紹介の工夫されていた点を考えておく	2
12	事前学修	制作方法を検討しておく	2
	授業	本の装画・挿絵（3）制作 蒼天祭（大学祭）展示計画の検討（2）展示規模・作品数	
	事後学修	作品のブラッシュアップ	2
13	事前学修	制作意図を言語化しておく	2
	授業	本の装画・挿絵（4） 蒼天祭（大学祭）展示計画の検討（3）展示方法・役割の検討	
	事後学修	装画・挿絵に合うフォントを考える	2
14	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業進捗報告準備	2
	授業	4年生卒業研究企画発表会聴講（1週目）	
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自担当作業	2
15	事前学修	ゼミ紹介案の検討（夏休みのイベント準備）	2
	授業	4年生卒業研究企画発表会聴講（2週目）	
	事後学修	卒業研究企画発表会を聴講しての感想（レポート） 未提出課題の提出	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：色彩・デザイン演習、ビジュアル構成演習
備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン、イラストレーションなどの制作実務経験を活かし、実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○テーマ					
視覚芸術，感性工学の分野から，魅力的な表現や有用な情報発信に向けた能力の向上に取り組みます。コンテストへの応募やグループワークを通して，実践的な企画力やコミュニケーション力を身につける。					
○概要					
イラストレーション，グラフィックデザインの分野を起点として，私たちの生活に新しい価値の提示を目指し，有用かつ魅力的な表現や提案企画する能力を身につける。					
前期は，イラストレーション作品の制作（5 課題を予定）を中心に行う。後期は統計・実験デザインの基礎を学び、感性工学に基づいた発想やコンセプト作りなどを習得する。ゼミ活動として、プロジェクト制作に取り組む場合がある。					
各個人の表現力を高めながら，他者とのディスカッションや，作品紹介などを通して，発想力のあるデザイナー，イラストレーターを目指す。また，テーマに応じて，さまざまな発想・表現ができる柔軟性を身につけつつグループワークでは，他者と協働する能力を身につける。					
授業における学修の到達目標					
個人においての表現，発想力を向上させる。また同時に，他者と協力したり，意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ，社会で活躍するクリエイターを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討			2
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計			
	事後学修	ゼミ紹介の準備			2
2	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告準備			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告プレゼン			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の進捗報告での指摘についての対応			2
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサルでの問題についての対応			2
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省			2
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）			2
5	事前学修	可能なら参考書に目を通す			2
	授業	統計・実験デザインの基礎（1）質的変数・量的変数、正規分布			
	事後学修	講義内容の復習			2
6	事前学修	可能なら参考書に目を通す			2
	授業	統計・実験デザインの基礎（2）統計的有意、t 検定			
	事後学修	講義内容の復習			2
7	事前学修	可能なら参考書に目を通す			2

	授業	統計・実験デザインの基礎（3）カイ二乗検定：適合度の検定	
	事後学修	講義内容の復習	2
8	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎（4）カイ二乗検定：独立性の検定	
	事後学修	講義内容の復習	2
9	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎（5）分散分析	
	事後学修	講義内容の復習	2
10	事前学修	可能なら参考書に目を通す	2
	授業	統計・実験デザインの基礎（6）多重比較（トゥーキーの方法）	
	事後学修	講義内容の復習	2
11	事前学修	心理統計を使って実験したい内容を考えておく	2
	授業	統計・実験デザインの基礎（7）実験デザインの実習、総括	
	事後学修	講義内容の復習	2
12	事前学修	関心のある制作分野について調べておく	2
	授業	デザイン制作（1）統計的手法を使ったデザイン提案、ガイダンス	
	事後学修	講義内容の復習	2
13	事前学修	企画書の書き方を調べておく	2
	授業	デザイン制作（2）統計的手法を使ったデザイン提案、企画書の制作	
	事後学修	講義内容の復習	2
14	事前学修	プレゼンテーションの要点を調べておく	2
	授業	デザイン制作（3）統計的手法を使ったデザイン提案、企画書のブラッシュアップ	
	事後学修	講義内容の復習	2
15	事前学修	プレゼン準備	2
	授業	デザイン制作（4）プレゼンテーション・講評 今年度の総括	
	事後学修	講義内容の復習	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 20% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜対面で指導

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	以下のいずれかの科目：色彩・デザイン演習， ビジュアル構成演習
備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン， イラストレーションなどの制作実務経験を活かし， 実用性とクオリティとを両立させた制作について指導する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
○テーマ					
人の生活に寄り添った、有用なデザイン提案を目指します。感性工学の知識，ビジュアル表現，デジタル技術などを応用して新たな提案をするための表現力，発想力を養います。					
○概要					
視覚表現と工学の分野で，新しく魅力的な表現，価値の創造に取り組めます。					
具体的には，2 つのグループのうちの一つまたは複数に所属し，自らテーマを設定し活動します。					
1.研究分野					
新規性のある研究テーマの開拓，分析に重きをおく。					
UI・UX，感性工学，視覚表現の伝達などの分野の調査・研究に取り組む。					
2.制作分野					
魅力的で完成度の高いビジュアル表現の制作に重きをおく。					
イラストレーション，グラフィックデザイン，デジタルアートなどの分野での制作に取り組む。					
志望する進路・適性などにに基づき，いずれかのグループに分かれますが，共に課題や制作に取り組めます。					
研究分野では，学外の研究会などでの研究発表を行う場合があります。制作分野では，産学連携事業やコンテスト応募などを学外への作品発表を課題として指導する場合があります。					
授業における学修の到達目標					
個人においての表現、発想力を向上させる。また同時に、他者と協力したり、意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ、社会で活躍するクリエイターを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	3 年生での取り組みを振り返る			2.0
	授業	ガイダンス			
	事後学修	これからの 1 年の取り組みを計画する			2.0
2	事前学修	ビブリオバトルについて調べておく			2.0
	授業	アイスブレイク（ビブリオバトル）			
	事後学修	紹介内容と他者からのコメントをまとめる			2.0
3	事前学修	1 年間の取り組みのプレゼン準備			2.0
	授業	1 年間の取り組みについてのプレゼン			
	事後学修	質問・コメントをまとめる			2.0
4	事前学修	よいプレゼンについて調べる			2.0
	授業	よいプレゼンの方法の講習			
	事後学修	先週のプレゼン資料を見直す			2.0
5	事前学修	自身が興味のあるクリエイター，研究/制作分野について調べる			2.0
	授業	自身が興味のある研究/制作分野について発表する			

	ティとを両立させた制作について指導する.

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	坂本 牧葉(138 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
○テーマ					
人の生活に寄り添った、有用なデザイン提案を目指します。感性工学の知識，ビジュアル表現，デジタル技術などを応用して新たな提案をするための表現力，発想力を養います。					
○概要					
視覚表現と工学の分野で，新しく魅力的な表現，価値の創造に取り組めます。					
具体的には，2 つのグループのうちの一つまたは複数に所属し，自らテーマを設定し活動します。					
1.研究分野					
新規性のある研究テーマの開拓，分析に重きをおく。					
UI・UX，感性工学，視覚表現の伝達などの分野の調査・研究に取り組む。					
2.制作分野					
魅力的で完成度の高いビジュアル表現の制作に重きをおく。					
イラストレーション，グラフィックデザイン，デジタルアートなどの分野での制作に取り組む。					
志望する進路・適性などに基づき，いずれかのグループに分かれますが，共に課題や制作に取り組めます。					
研究分野では，学外の研究会などでの研究発表を行う場合があります。制作分野では，産学連携事業やコンテスト応募などを学外への作品発表を課題として指導する場合があります。					
授業における学修の到達目標					
個人においての表現、発想力を向上させる。また同時に、他者と協力したり、意見交換したりしながら協働するためのコミュニケーション能力を身につけ、社会で活躍するクリエイターを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミ紹介案の具体案の検討			2.0
	授業	ゼミ紹介案の企画・設計			
	事後学修	ゼミ紹介の準備			2.0
2	事前学修	卒業/制作論文の手引きの確認			2.0
	授業	卒業/制作論文の書き方講習			
	事後学修	卒業/制作論文の目次を作成する			2.0
3	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示のリハーサル準備			2.0
	授業	3 年生の蒼天祭（大学祭）ゼミ展示リハーサル対応			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の問題に対するサポート			2.0
4	事前学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の各自反省			2.0
	授業	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省			
	事後学修	蒼天祭（大学祭）ゼミ展示の反省のまとめ（レポート）			2.0
5	事前学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン準備			2.0
	授業	前期・夏季休暇の取り組みについてのプレゼン			

	事後学修	前期・夏季休暇の取り組みについてのまとめ（レポート）	2.0
6	事前学修	卒業研究/制作進捗報告プレゼンの準備	2.0
	授業	卒業研究/制作進捗報告プレゼン	
	事後学修	プレゼンでの質問・コメントをまとめる	2.0
7	事前学修	研究/制作の要点をまとめる	2.0
	授業	小論の執筆，試作の制作	
	事後学修	小論の初稿を完成する。試作を完成させる。	2.0
8	事前学修	小論の見直し，試作の見直し	2.0
	授業	小論，試作の相互チェック（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
9	事前学修	指摘をもとに小論，試作の修正	2.0
	授業	小論，試作の相互チェック（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
10	事前学修	指摘をもとに小論，試作の修正	2.0
	授業	小論，試作の相互チェック（3回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめる	2.0
11	事前学修	卒論の手引きを読み，小論のフォーマットを確認する	2.0
	授業	小論のフォーマットの相互チェック	
	事後学修	小論フォーマットの間違いを修正する	2.0
12	事前学修	卒業研究/制作の進捗を整理	2.0
	授業	卒業研究/制作のスケジュール確認	
	事後学修	卒業研究/制作のスケジュールを見直す	2.0
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（2回目）	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサルプレゼン準備（3回目）	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	質問・コメントをもとにプレゼン資料を修正する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 20% ■演習課題： 50% ■その他〔グループワーク：30%〕

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

面談で適宜、フィードバックする

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	色彩・デザイン演習，ビジュアル構成・演習，グラフィック制作プロジェクト
備考	なし
担当教員の実務経験	グラフィックデザイン，イラストレーションなどの制作実務経験を活かし，実用性とクオリ

	ティとを両立させた制作について指導する.

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
メディアに関する数学を学びます。各自で決めた内容について、教科書の内容を発表したり、調査したことを報告・発表してもらいます。全員が毎週発表できる時間が確保できないので、数回に一度、担当していただきます。					
授業における学修の到達目標					
正確に人に伝える方法を身に付ける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書や学習内容の確認			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書や学習内容の決定			2
2	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
3	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
4	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
5	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
6	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
7	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
8	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
9	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
10	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			

	事後学修	発表内容の整理と確認	2
11	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
12	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
13	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
14	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
15	事前学修	発表内容の確認	2
	授業	総括	
	事後学修	統括的な整理と確認	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

☐ 試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 演習課題（ %）

■ その他 100%[プレゼンテーションと質疑応答により判断する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時に質疑応答を自由に行う。

教科書	
参考書・Web サイト	講義内で各自決定する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
メディアに関する数学を学びます。各自で決めた内容について、教科書の内容を発表したり、調査したことを報告・発表してもらいます。全員が毎週発表できる時間が確保できないので、数回に一度、担当していただきます。					
授業における学修の到達目標					
正確に人に伝える方法を身に付ける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書や学習内容の確認			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書や学習内容の決定			2
2	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
3	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
4	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
5	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
6	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
7	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
8	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
9	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
10	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			

	事後学修	発表内容の整理と確認	2
11	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
12	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
13	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
14	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
15	事前学修	発表内容の確認	2
	授業	総括	
	事後学修	統括的な整理と確認	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

☐ 試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 演習課題（ %）

■ その他 100%[プレゼンテーションと質疑応答により判断する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時に質疑応答を自由に行う。

教科書	
参考書・Web サイト	講義内で各自決定する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
メディアに関する数学を学びます。各自で決めた内容について、教科書の内容を発表したり、調査したことを報告・発表してもらいます。全員が毎週発表できる時間が確保できないので、数回に一度、担当していただきます。					
授業における学修の到達目標					
正確に人に伝える方法を身に付ける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書や学習内容の確認			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書や学習内容の決定			2
2	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
3	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
4	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
5	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
6	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
7	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
8	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
9	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
10	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			

	事後学修	発表内容の整理と確認	2
11	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
12	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
13	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
14	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
15	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他 100%[プレゼンテーションと質疑応答により判断する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時に質疑応答を自由に行う。

教科書	
参考書・Web サイト	講義内で各自決定する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	笹山 智司 (306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
メディアに関する数学を学びます。各自で決めた内容について、教科書の内容を発表したり、調査したことを報告・発表してもらいます。全員が毎週発表できる時間が確保できないので、数回に一度、担当していただきます。					
授業における学修の到達目標					
正確に人に伝える方法を身に付ける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書や学習内容の確認			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書や学習内容の決定			2
2	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
3	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
4	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
5	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
6	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
7	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
8	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
9	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			
	事後学修	発表内容の整理と確認			2
10	事前学修	発表準備			2
	授業	発表と質疑応答			

	事後学修	発表内容の整理と確認	2
11	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
12	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
13	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
14	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2
15	事前学修	発表準備	2
	授業	発表と質疑応答	
	事後学修	発表内容の整理と確認	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他 100%[プレゼンテーションと質疑応答により判断する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時に質疑応答を自由に行う。

教科書	
参考書・Web サイト	講義内で各自決定する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。					
同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文講読も行う。					
授業における学修の到達目標					
1 哲学、芸術、マスメディアの基本的なあり方を説明できる。					
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。					
3 現代英語の標準的な文章を読解できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	文化リテラシーの意義			
	事後学修	文化リテラシーの意義について復習する			2.0
2	事前学修	配布された資料集のうち、現代哲学における個別主義の基本的な説明（英文）を読む			2.0
	授業	現代哲学における個別主義の基本			
	事後学修	現代哲学における個別主義の基本を復習する			2.0
3	事前学修	配布された資料集のうち、現代哲学における個別主義の多様性についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	現代哲学における個別主義の多様性			
	事後学修	現代哲学における個別主義の多様性を復習する			2.0
4	事前学修	配布された資料集のうち、ダンシーの個別主義の着想についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	ダンシーの個別主義の着想			
	事後学修	ダンシーの個別主義の着想を復習する			2.0
5	事前学修	配布された資料集のうち、ダンシーの個別主義の問題点についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	ダンシーの個別主義の問題点			
	事後学修	ダンシーの個別主義の問題点を復習する			2.0
6	事前学修	配布された資料集のうち、マクダウェルの個別主義の着想についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	マクダウェルの個別主義の着想			
	事後学修	マクダウェルの個別主義の着想を復習する			2.0
7	事前学修	配布された資料集のうち、マクダウェルの個別主義の問題点についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	マクダウェルの個別主義の問題点			
	事後学修	マクダウェルの個別主義の問題点を復習する			2.0
8	事前学修	配布された資料集のうち、ウィギンズの個別主義の着想についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	ウィギンズの個別主義の着想			
	事後学修	ウィギンズの個別主義の着想を復習する			2.0

9	事前学修	配布された資料集のうち、ウィギンズの個別主義の問題点についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	ウィギンズの個別主義の問題点	
	事後学修	ウィギンズの個別主義の問題点を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の着想についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の着想	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の着想を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の多様性についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の多様性	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の多様性を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の多様性についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の多様性	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の多様性を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の歴史についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の歴史	
	事後学修	芸術哲学における個別主義の歴史を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の問題点についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	芸術哲学における個別主義の問題点	
	事後学修	配布された資料集のうち、芸術哲学における個別主義の問題点についての説明を読む	2.0
15	事前学修	配布された資料集のうち、個別主義の今後の展開についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	個別主義の今後の展開	
	事後学修	個別主義の今後の展開を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、新聞などのマスメディアに関する知識とともに、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。 同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文講読も行う。					
授業における学修の到達目標					
1 マスメディア、哲学、芸術の基本的なあり方を説明できる。 2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。 3 現代英語の標準的な文章を読解できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	マスメディアの意義			
	事後学修	マスメディアの意義について復習する			2.0
2	事前学修	配布された資料集のうち、マスメディア論の基本についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	マスメディア論の基本			
	事後学修	マスメディア論の基本を復習する			2.0
3	事前学修	配布された資料集のうち、マスメディア論の歴史についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	マスメディア論の歴史			
	事後学修	マスメディア論の歴史を復習する			2.0
4	事前学修	配布された資料集のうち、19 世紀のマスメディア論についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	19 世紀のマスメディア論			
	事後学修	19 世紀のマスメディア論を復習する			2.0
5	事前学修	配布された資料集のうち、20 世紀前半のマスメディア論についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	20 世紀前半のマスメディア論			
	事後学修	20 世紀前半のマスメディア論を復習する			2.0
6	事前学修	配布された資料集のうち、20 世紀後半のマスメディア論についての説明（英文）を読む			2.0
	授業	20 世紀後半のマスメディア論			
	事後学修	20 世紀後半のマスメディア論を復習する			2.0
7	事前学修	配布された資料集のうち、16 世紀フランドル絵画のメディア性についての説明（和文）を読む			2.0
	授業	16 世紀フランドル絵画のメディア性			
	事後学修	16 世紀フランドル絵画のメディア性を復習			2.0
8	事前学修	配布された資料集のうち、17 世紀フランドル絵画のメディア性についての説明（和文）を読む			2.0
	授業	17 世紀フランドル絵画のメディア性			
	事後学修	17 世紀フランドル絵画のメディア性を復習する			2.0

9	事前学修	配布された資料集のうち、18世紀の詩画論についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	18世紀の詩画論	
	事後学修	18世紀の詩画論を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料集のうち、19世紀の詩画論についての説明（和文）を読む	2.0
	授業	19世紀の詩画論	
	事後学修	19世紀の詩画論を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の政治ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の政治ニュース面	
	事後学修	英字新聞の政治ニュース面の意義を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の社会ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の社会ニュース面	
	事後学修	英字新聞の社会ニュース面の意義を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の文化ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の文化ニュース面	
	事後学修	英字新聞の文化ニュース面の意義を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料集のうち、英字新聞の芸術ニュース面についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	英字新聞の芸術ニュース面	
	事後学修	英字新聞の芸術ニュース面の意義を復習する	2.0
15	事前学修	配布された資料集のうち、コミュニケーションの意義についての説明（英文）を読む	2.0
	授業	コミュニケーションの意義	
	事後学修	コミュニケーションの意義を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。					
同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文購読も行う。					
授業における学修の到達目標					
1 哲学、芸術、マスメディアの基本的なあり方を説明できる。					
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。					
3 現代英語の標準的な文章を読解できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する			2.0
	授業	文化リテラシーの意義			
	事後学修	文化リテラシーの意義について復習する			2.0
2	事前学修	配布された資料集のうち、モダニズムとポストモダニズムの基本的な説明(英文)を読む			2.0
	授業	モダニズムとポストモダニズムの基本			
	事後学修	モダニズムとポストモダニズムの基本を復習する			2.0
3	事前学修	配布された資料集のうち、モダニズムとポストモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	モダニズムとポストモダニズムの多様性			
	事後学修	モダニズムとポストモダニズムの多様性を復習する			2.0
4	事前学修	配布された資料集のうち、哲学のモダニズムの基本についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	哲学のモダニズムの基本			
	事後学修	哲学のモダニズムの基本を復習する			2.0
5	事前学修	配布された資料集のうち、哲学のモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	哲学のモダニズムの多様性			
	事後学修	哲学のモダニズムの多様性を復習する			2.0
6	事前学修	配布された資料集のうち、美術のモダニズムの基本についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	美術のモダニズムの基本			
	事後学修	美術のモダニズムの基本を復習する			2.0
7	事前学修	配布された資料集のうち、美術のモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	美術のモダニズムの多様性			
	事後学修	美術のモダニズムの多様性を復習する			2.0
8	事前学修	配布された資料集のうち、音楽のモダニズムの基本についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	音楽のモダニズムの基本			
	事後学修	音楽のモダニズムの基本を復習する			2.0

9	事前学修	配布された資料集のうち、音楽のモダニズムの多様性についての説明(英文)を読む	2.0
	授業	音楽のモダニズムの多様性	
	事後学修	音楽のモダニズムの多様性を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料集のうち、文学のモダニズムの基本についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	文学のモダニズムの基本	
	事後学修	文学のモダニズムの基本を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料集のうち、文学のモダニズムの多様性についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	文学のモダニズムの多様性	
	事後学修	文学のモダニズムの多様性を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料集のうち、演劇のモダニズムの基本についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	演劇のモダニズムの基本	
	事後学修	演劇のモダニズムの基本を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料集のうち、演劇のモダニズムの多様性についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	演劇のモダニズムの多様性	
	事後学修	演劇のモダニズムの多様性を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料集のうち、出版のモダニズムの基本についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	出版のモダニズムの基本	
	事後学修	出版のモダニズムの基本を復習する	2.0
15	事前学修	配布された資料集のうち、出版のモダニズムの多様性についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	出版のモダニズムの多様性	
	事後学修	出版のモダニズムの基本を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	三浦 洋(221 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
情報社会を生きるには、情報に関わる各種機器を使いこなす技術だけではなく、幅広い文化リテラシーが必要であり、その基礎となる教養を身につける必要がある。そのため、このゼミでは、哲学や芸術の教養や英語力を身につけることを目的として多角的に授業を行う。					
同時に、情報社会では高度なコミュニケーション能力が求められることから、ゼミの中での対話や討論を通して言語表現能力を高める学習や、他者の意見を聞いて理解する能力を高める学習も取り入れる。また、とくに書き言葉としての英語に対するリテラシーも高めるよう英文購読も行う。					
授業における学修の到達目標					
1 哲学、芸術、マスメディアの基本的なあり方を説明できる。					
2 論理的に物事を考え、言葉で的確に表現できる。					
3 現代英語の標準的な文章を読解できる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する			2.0
	授業	ジャーナリズムの意義			
	事後学修	ジャーナリズムの意義について復習する			2.0
2	事前学修	配布された資料のうち、ジャーナリズム論の基本についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	ジャーナリズム論の基本			
	事後学修	ジャーナリズム論の基本を復習する			2.0
3	事前学修	配布された資料のうち、ジャーナリズム論の歴史についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	ジャーナリズム論の歴史			
	事後学修	ジャーナリズム論の歴史を復習する			2.0
4	事前学修	配布された資料のうち、19 世紀のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	19 世紀のジャーナリズム論			
	事後学修	19 世紀のジャーナリズム論を復習する			2.0
5	事前学修	配布された資料のうち、20 世紀前半のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	20 世紀前半のジャーナリズム論			
	事後学修	20 世紀前半のジャーナリズム論を復習する			2.0
6	事前学修	配布された資料のうち、20 世紀後半のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	20 世紀後半のジャーナリズム論			
	事後学修	20 世紀後半のジャーナリズム論を復習する			2.0
7	事前学修	配布された資料のうち、21 世紀のジャーナリズム論についての説明(英文)を読む			2.0
	授業	21 世紀のジャーナリズム論			
	事後学修	21 世紀のジャーナリズム論を復習する			2.0
8	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の共同体論についての説明(和文)を読む			2.0
	授業	政治哲学の共同体論			
	事後学修	政治哲学の共同体論を復習する			2.0

9	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の家政論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の家政論	
	事後学修	政治哲学の家政論を復習する	2.0
10	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の経済論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の経済論	
	事後学修	政治哲学の経済論を復習する	2.0
11	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の国家論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の国家論	
	事後学修	政治哲学の国家論を復習する	2.0
12	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の王制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の王制論	
	事後学修	政治哲学の王制論を復習する	2.0
13	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の共和制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の共和制論	
	事後学修	政治哲学の共和制論を復習する	2.0
14	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の貴族制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の貴族制論	
	事後学修	政治哲学の貴族制論を復習する	2.0
15	事前学修	配布された資料のうち、政治哲学の民主制論についての説明(和文)を読む	2.0
	授業	政治哲学の民主制論	
	事後学修	政治哲学の民主制論を復習する	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50% ■演習課題：50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験と演習課題については、授業の中で答案や提出物を講評し、改善すべき点について解説する。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	芸術論、哲学
備考	なし
担当教員の実務経験	実務経験なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
リレーショナルデータベースの利用方法を、演習を通して学びます。						
授業における学修の到達目標						
リレーショナルデータベースの利用目的、主要な機能について指摘できる。						
基本的な SQL 文を利用できる。						
リレーショナルデータベースを中心としたデータ管理に関する初歩的な具体例を実装できる。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	講義概要や LMS で授業の目的、到達目標を確認しておきましょう。				1
	授業	ガイダンス（1 年間のスケジュール確認等）				
	事後学修	リレーショナルデータベース（RDB）に関する参考文献、Web サイト等を入手しておきましょう。				3
2	事前学修	RDB に関する参考文献を読んで、導入目的、導入事例、RDBMS について調べておきましょう。				2
	授業	リレーショナルデータベース解説				
	事後学修	RDBMS の機能をまとめておきましょう。				2
3	事前学修	RDB に関する参考文献を読んで、SQL について調べておきましょう。				2
	授業	RDBMS と SQL				
	事後学修	SQL 学習用ツールで Query 演習に取り組みましょう。				2
4	事前学修	RDBMS のインストール手順を確認しておきましょう。				2
	授業	RDBMS インストール				
	事後学修	インストールを完了させ、動作確認を終了しておきましょう。				2
5	事前学修	RDB に関する参考文献を読んで、概念データモデリングの手順を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データモデリング				
	事後学修	データモデリングの結果を ER 図にまとめておきましょう。				2
6	事前学修	RDB に関する参考文献を読んで、論理データモデリングの手順を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データベース構築				
	事後学修	テーブルの実装を完了させておきましょう。				2
7	事前学修	RDBMS のマニュアルを読んで、データインポートの方法を確認しておきましょう。				2
	授業	成績データインポート				
	事後学修	演習で利用するすべてのデータのインポートを完了させておきましょう。				2
8	事前学修	RDB に関する参考資料を読んで、基本的な問合せ処理の方法を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データベースを利用した問合せ処理				
	事後学修	問合せ処理演習を完了させておきましょう。				2
9	事前学修	RDB に関する参考資料を読んで、集合関数とグループ化を利用した集計処理の方法を確認しておきましょう。				2
	授業	成績管理データベースを利用した集計処理				

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC303	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
授業概要						
リレーショナルデータベースによるアプリケーションを，Java 言語を使って実装します。実装成果をプレゼンテーションとレポートで発表します。						
組込型データベースや NoSQL データストアを利用した簡単な演習を行います。						
授業における学修の到達目標						
リレーショナルデータベースと Java 言語を活用したアプリケーションを実装できる。						
実行したアプリケーションについて，プレゼンテーション，レポートで発表できる。						
組込型データベースや NoSQL データストアの特徴を指摘できる。						
組込型データベースや NoSQL データストアの基本的な利用方法を経験する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	Java の開発環境を整えておきましょう。				2
	授業	Java 動作確認				
	事後学修	サンプルプログラムの動作を完了させておきましょう。				2
2	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで，JDBC の概要を掴んでおきましょう。				2
	授業	JDBC インストール				
	事後学修	JDBC のインストールを完了させておきましょう。				2
3	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで，プログラムの構造を確認しておきましょう。				2
	授業	DB プログラミング入門				
	事後学修	入門演習を完了させておきましょう。				2
4	事前学修	SQL による問合せ処理を確認しておきましょう。				1
	授業	DB プログラミング（問合せ処理）				
	事後学修	問合せ演習を完了させておきましょう。				3
5	事前学修	SQL によるデータ変更処理を確認しておきましょう。				1
	授業	DB プログラミング（データ更新処理）				
	事後学修	データ変更演習を完了させておきましょう。				3
6	事前学修	SQL によるトランザクション管理を確認しておきましょう。				1
	授業	DB プログラミング（トランザクション管理）				
	事後学修	トランザクション管理演習を完了させておきましょう。				3
7	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで，アプリケーションの概要を掴んでおきましょう。				1
	授業	CRUD アプリケーション演習				
	事後学修	CRUD アプリケーションが正しく動作するように，制作を完了させておきましょう。				3
8	事前学修	独自開発する DB アプリケーションを構想しておきましょう。				1
	授業	MyApp 設計				
	事後学修	MyApp の機能，管理するデータをまとめておきましょう。				3
9	事前学修	SQL によるテーブル定義方法及びデータインポートの方法を確認しておきましょう。				1

	授業	MyApp データベース実装	
	事後学修	SQL を使って、テーブル定義及びデータインポートを完了させておきましょう。	3
10	事前学修	CRUD に対応する、それぞれの SQL 文を検討しておきましょう。	1
	授業	MyApp 基本機能実装	
	事後学修	SQL 文をつかって、CRUD のロジックを実装させておきましょう。	3
11	事前学修	動作確認の方法を検討しておきましょう。	1
	授業	MyApp 動作確認	
	事後学修	MyApp が正しく動作するように、制作を完了させておきましょう。	3
12	事前学修	発表用スライドを準備し、リハーサルを行いましょう。	2
	授業	成果発表会	
	事後学修	質疑応答の結果を整理しておきましょう。	2
13	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで、報告書の内容を構想しておきましょう。	1
	授業	報告書作成指導	
	事後学修	報告書を完了させておきましょう。	3
14	事前学修	LMS の説明資料をよく読んで、いずれかの概要を掴んでおきましょう。	2
	授業	組み込み型 RDB と NoSQL	
	事後学修	いずれかのプロダクトについて、演習を完了しておきましょう。	2
15	事前学修	小論文に目を通しておきましょう。	2
	授業	ゼミ内卒業制作発表会	
	事後学修	発表に対するコメントを完了させておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：15% ■演習課題：75% ■その他[プレゼンテーション：10%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習に関する提出物、プレゼンテーション、及びレポートについて、ゼミナールの時間中のほか、LMS を通じて、フィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中、もしくは LMS 上で、それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ, ICT 入門, コンピュータ, SQL 入門, プログラミング演習Ⅰ, システム情報系科目 A
備考	「基本情報技術者試験」に合格する上で必須な知識を扱っています。自主的な勉強を追加することにより資格取得が可能です。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間、民間企業で通信制御系システム開発、及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や、実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう、随時伝えていきます。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
以下の 2 種類のいずれかに該当するテーマを設定し、プログラミング技術を駆使して、その成果を目に見える形に具現化します。テーマは個人で設定してもよいし、グループで設定しても構いません。ただし、グループは 3 名以内で構成するものとし、担当範囲が明確になるように作業を分担できることを条件とします。 ・テーマ (1) データ工学分野における要素技術の改良や新しい試みに関するアイディアの提案と検証、要素技術の実装方法や評価方法に関するアイディアの提案と検証を目指します。 ・テーマ (2) 既存の技術を活用した新しい応用、ユニークな応用、有用な応用システムの構築を目指します。					
授業における学修の到達目標					
卒業研究・卒業制作に相応しいテーマの設定し、テーマを具現化するための妥当な作業計画を立案し、要件定義、外部設計、内部設計、プログラミング、データ管理等のスキルを身に付けることを目指します。 また、取り組むテーマの意義や概要、実現方法を正しく伝える方法を身に付けることも目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	テーマ案を検討しておきましょう。			2
	授業	ガイダンス（1 年間のスケジュール確認等）			
	事後学修	「卒業研究の手引き」の 1 章，2 章を通読しましょう。			2
2	事前学修	「卒業研究の手引き」の 3 章を通読してきましょう。			2
	授業	テーマ検討，仮決定，及び参考文献の検索			
	事後学修	ワークシートに検討結果をまとめましょう。			2
3	事前学修	ワークシートに基づいてプレゼンテーションの準備をしてきましょう。			2
	授業	テーマ案の内容紹介プレゼンテーション，及び検討			
	事後学修	ワークシートを改訂し，ポートフォリオに追加しよう。			2
4	事前学修	WBS とガントチャートについて調査してきましょう。			2
	授業	前期スケジュールの明確化			
	事後学修	スケジュール表をまとめ，ポートフォリオに追加しよう。			2
5	事前学修	UML のユースケースを調査し，要件定義を検討してきましょう。			2
	授業	目標の明確化・文書化			
	事後学修	文書化を完了しておこう。			2
6	事前学修	目標をプレゼンする準備をしてきましょう。			2
	授業	研究開発の目標に関する発表と議論			
	事後学修	文書化した内容を改訂し，ポートフォリオに追加しよう。			2
7	事前学修	実装方式，実装技術，必要なデータについて検討しておきましょう。			2
	授業	実装方式の検討			
	事後学修	環境の準備を完了しておきましょう。			2
8	事前学修	要素技術の確認方法を検討してきましょう。			2

	授業	要素技術の確認方法と環境，データの準備	
	事後学修	環境の準備を完了しておきましょう。	2
9	事前学修	データ準備をしてきましょう。	2
	授業	要素技術の確認	
	事後学修	確認のために準備したプログラム，データ等をポートフォリオに追加しよう。	2
10	事前学修	進捗報告の準備をしてきましょう。	2
	授業	進捗報告とスケジュールの更新	
	事後学修	スケジュールを更新し，ポートフォリオに追加しよう。	2
11	事前学修	外部仕様を検討してきましょう。	2
	授業	外部仕様（UI，データ管理）の検討	
	事後学修	外部仕様の文書化を完了しておきましょう。	2
12	事前学修	外部仕様に基づいた UI 開発環境を整えてきましょう。	2
	授業	外部仕様に基づいた実装（UI）	
	事後学修	UI の実装を完了させておきましょう。	2
13	事前学修	外部仕様に基づいたデータ管理環境を整えてきましょう。	2
	授業	外部仕様に基づいた実装（データ管理）	
	事後学修	データ管理の実装を完了させておきましょう。	2
14	事前学修	卒業研究企画発表会に向けた準備をしてきましょう。	2
	授業	企画発表会のリハーサル	
	事後学修	企画発表会向け資料を改善して，ポートフォリオに追加しよう。	2
15	事前学修	発表内容を確認し，発表練習をしてきましょう。	2
	授業	卒業研究企画発表会	
	事後学修	発表でいただいたコメントを整理して，ポートフォリオに追加しよう。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：35% □演習課題： % ■その他[成果物への取組み：30%，プレゼンテーション：15%，発表会参加：20%]

グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

設計書等の提出物についてはゼミナールの時間中のほか，LMS を通じて，フィードバックを行います。進捗報告や発表会でのプレゼンテーションでは，その都度，他のゼミ生との質疑応答の場や教員からのコメントによって，成果へのフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中，もしくは LMS 上で，それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ・Ⅱ，SQL 入門，プログラミング演習Ⅰ，プログラミング演習Ⅱ，システム情報系科目 A，システム情報系科目 B，Web アプリケーション開発演習Ⅰ，Web アプリケーション開発演習Ⅱ
備考	データベース管理システムや Web サーバをインストールした研究・開発環境が必要になる可能性が高いので，各自で十分なスペックのノート PC を持参して，授業に参加できることが望ましいと考えています。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベ

	ースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や、実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できるよう、随時伝えていきます。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅢ で設定した以下の 2 種類のいずれかに該当するテーマへの取り組みは完了させ、その成果を卒業論文としてまとめ、発表します。					
・テーマ (1) データ工学分野における要素技術の改良や新しい試みに関するアイディアの提案と検証、要素技術の実装方法や評価方法に関するアイディアの提案と検証を目指します。					
・テーマ (2) 既存の技術を活用した新しい応用、ユニークな応用、有用な応用システムの構築を目指します。					
授業における学修の到達目標					
プログラムをはじめとする成果物の作成を通じて、プログラミング技術をはじめとした、それぞれの作成スキルを身に付けることを目指します。					
さらに得られた成果を正しく伝える方法を身に付けることも目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	進捗報告の準備をしてきましょう。			2
	授業	活動進捗報告とスケジュールの発表及び検討			
	事後学修	後期のスケジュール案を改訂して、ポートフォリオに追加しておこう。			2
2	事前学修	主要機能の動作確認ができるように準備をしてきましょう。			2
	授業	主要機能の動作確認			
	事後学修	不具合とその原因を確認しておこう。			2
3	事前学修	不具合の改修方法と確認方法を準備をしてきましょう。			2
	授業	主要機能の改修			
	事後学修	改修を完了しておきましょう。			2
4	事前学修	補助機能の動作確認ができるように準備をしてきましょう。			2
	授業	補助機能の動作確認			
	事後学修	不具合とその原因を確認しておこう。			2
5	事前学修	不具合の改修方法と確認方法を準備をしてきましょう。			2
	授業	補助機能の改修			
	事後学修	改修を完了しておきましょう。			2
6	事前学修	総合試験の段取りを確認をしてきましょう。			2
	授業	総合試験の実施			
	事後学修	試験を完了しておきましょう。			2
7	事前学修	デモンストレーションの準備をしてきましょう。			2
	授業	成果発表会（デモンストレーション）及び議論			
	事後学修	議論の結果をまとめ、ポートフォリオに追加しよう。			2
8	事前学修	改修可能項目を洗い出し、改修に向けた準備をしてきましょう。			2
	授業	改善に向けた検討及び改修			

	事後学修	改修を完了しておきましょう。	2
9	事前学修	過去の小論集に目を通してきましょう。	2
	授業	小論文執筆指導	
	事後学修	小論文執筆の掟を確認しておきましょう。	2
10	事前学修	ワープロの使い方を確認しておきましょう。	2
	授業	小論文執筆（第0版）	
	事後学修	第0版をポートフォリオに追加しよう。	2
11	事前学修	小論文の改善のための追加資料，参考文献を準備してきましょう。	2
	授業	小論文改善（第1版の作成）	
	事後学修	担当教員からのコメントをもらおう。	2
12	事前学修	コメントを参考に，改善に向けた準備をしてきましょう。	2
	授業	小論文完成	
	事後学修	担当教員に内容の確認を受けよう。	2
13	事前学修	研究発表のポイントに目を通してきましょう。	1
	授業	ゼミ内卒研発表会指導と準備	
	事後学修	発表会に向けた助言，資料を参考に，発表内容，手順，資料を改善しておきましょう。	3
14	事前学修	ゼミ内卒研発表会の資料を用意し，発表練習をしてきましょう。	2
	授業	ゼミ内卒研発表会リハーサル	
	事後学修	リハーサルの結果をもとに発表資料を改善し，ポートフォリオに追加しよう。	2
15	事前学修	発表に向けて十分なリハーサルをしてきましょう。	2
	授業	ゼミ内卒研発表会	
	事後学修	発表会における質疑の内容をもとに発表資料を改善しておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート：20% □演習課題： % ■その他[成果物への取組み：40%，プレゼンテーション：20%，発表会参加：20%]

グループワークについては，グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い，その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プログラム等の提出物についてはゼミナールの時間中のほか，LMS を通じて，フィードバックを行います。

進捗報告や発表会でのプレゼンテーションでは，その都度，他のゼミ生との質疑応答の場や教員からのコメントによって，成果へのフィードバックを行います。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中，もしくは LMS 上で，それぞれのテーマに相応しい参考書・Web サイトをお勧めします。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ，SQL 入門，プログラミング演習Ⅰ，プログラミング演習Ⅱ，システム情報系科目 A，システム情報系科目 B，Web アプリケーション開発演習Ⅰ，Web アプリケーション開発演習Ⅱ
備考	データベース管理システムや Web サーバをインストールした研究・開発環境が必要になる可能性が高いので，各自で十分なスペックのノート PC を持参して，授業に参加できることが望ましいと考えています。
担当教員の実務経験	通算で約 10 年間，民間企業で通信制御系システム開発，及び民間企業の研究所でデータベースシステムに特化した研究・開発に携わった。実際にデータベースシステムを開発・運用する際の様々な知見や，実務で求められるプログラミングに関する知見を学生に還元できる

	よう、随時伝えていきます。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。					
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作					
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作					
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究					
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究					
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究					
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究					
○ 概 要					
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。					
授業における学修の到達目標					
問題解決をするための方法や技術を考え出す事が出来，実行した内容を正しく文章としてまとめ伝えることができるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	研究テーマの案を複数検討する			2.0
	授業	研究テーマの概要について説明，議論する			
	事後学修	ゼミナールで行う研究テーマの概要についてまとめる			2.0
2	事前学修	ゼミナールの概要について調査する			2.0
	授業	ゼミナールの概要について議論する			
	事後学修	ゼミナールの概要についてまとめる			2.0
3	事前学修	研究テーマを調査する対象について調査する			2.0
	授業	研究テーマを調査する対象を列挙する			
	事後学修	研究テーマを調査する対象についてまとめる			2.0
4	事前学修	新聞の概要について調査する			2.0
	授業	新聞の概要について議論する			
	事後学修	新聞の概要についてまとめる			2.0
5	事前学修	新聞の構成について調査する			2.0
	授業	新聞の構成について調査する			
	事後学修	新聞の構成についてまとめる			2.0
6	事前学修	論文の種類について調査する			2.0
	授業	論文の種類について調査する			
	事後学修	論文の種類について調査する			2.0

7	事前学修	論文の種類について調査する	2.0
	授業	論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
8	事前学修	文献の入手方法について調査する	2.0
	授業	文献の入手方法について議論する	
	事後学修	文献の入手方法についてまとめる	2.0
9	事前学修	興味のある1つ目の文献について調査する	2.0
	授業	興味のある1つ目の文献について議論する	
	事後学修	興味のある1つ目の文献についてまとめる	2.0
10	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（前半）	2.0
11	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（後半）	2.0
12	事前学修	他人の興味のある発表を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（前半）	2.0
13	事前学修	他人の興味のある発表を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（後半）	2.0
14	事前学修	発表に対してのコメントに対する調査をする	2.0
	授業	発表に対してのコメントに対して議論する	
	事後学修	発表に対してのコメントをまとめる	2.0
15	事前学修	これまでの取り組みについて調査する	2.0
	授業	これまでの取り組みについて議論する	
	事後学修	これまでの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[輪講でおこなうため、テーマの調査能力、それから発表を行うためのプレゼンテーション能力、疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出、返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	資料等のやり取りはPOLITEまたは共有ディレクトリ、メールにより行うので使い方を確認しておくこと。
担当教員の実務経験	該当科目に付き、測定用の機材の作成を行い、論文作成を行ってきた。また、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。					
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作					
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作					
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究					
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究					
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究					
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究					
○ 概 要					
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。					
授業における学修の到達目標					
問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	論文の構成について調査する			2.0
	授業	論文の構成について議論する			
	事後学修	論文の構成についてまとめる			2.0
2	事前学修	序論（はじめに）の書き方について調査する			2.0
	授業	序論（はじめに）の書き方について議論する			
	事後学修	序論（はじめに）の書き方についてまとめる			2.0
3	事前学修	本論（本文）の書き方について調査する			2.0
	授業	本論（本文）の書き方について議論する			
	事後学修	本論（本文）の書き方についてまとめる			2.0
4	事前学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について調査する			2.0
	授業	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について議論する			
	事後学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方についてまとめる			2.0
5	事前学修	参考文献の書き方について調査する			2.0
	授業	参考文献の書き方について議論する			
	事後学修	参考文献の書き方についてまとめる			2.0
6	事前学修	要旨（概要、あらまし）の書き方について調査する			2.0
	授業	要旨（概要、あらまし）の書き方について議論する			
	事後学修	要旨（概要、あらまし）の書き方についてまとめる			2.0
7	事前学修	謝辞，付録その他の書き方について調査する			2.0

	授業	謝辞，付録その他の書き方について議論する	
	事後学修	謝辞，付録その他の書き方についてまとめる	2.0
8	事前学修	目次，図録の目次，索引の書き方について調査する	2.0
	授業	目次，図録の目次，索引の書き方について議論する	
	事後学修	目次，図録の目次，索引の書き方についてまとめる	2.0
9	事前学修	図の書き方について調査する	2.0
	授業	図の書き方について議論する	
	事後学修	図の書き方についてまとめる	2.0
10	事前学修	表の書き方について調査する	2.0
	授業	表の書き方について議論する	
	事後学修	表の書き方についてまとめる	2.0
11	事前学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方について調査する	2.0
	授業	キャプション（説明文；見出し）の書き方について議論する	
	事後学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方についてまとめる	2.0
12	事前学修	句読点の使い方について調査する	2.0
	授業	句読点の使い方について議論する	
	事後学修	句読点の使い方についてまとめる	2.0
13	事前学修	外来語の表記について調査する	2.0
	授業	外来語の表記について議論する	
	事後学修	外来語の表記についてまとめる	2.0
14	事前学修	学術用語の表記について調査する	2.0
	授業	学術用語の表記について議論する	
	事後学修	学術用語の表記についてまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミナールの取り組みについて調査する	2.0
	授業	ゼミナールの取り組みについて議論する	
	事後学修	ゼミナールの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。					
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作					
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作					
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究					
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究					
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究					
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究					
○ 概 要					
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。					
授業における学修の到達目標					
問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	具体的な研究テーマの案を複数検討する			2.0
	授業	具体的な研究テーマの概要について説明，議論する			
	事後学修	ゼミナールで行う研究テーマの概要についてまとめる			2.0
2	事前学修	具体的なゼミナールの概要について調査する			2.0
	授業	具体的なゼミナールの概要について議論する			
	事後学修	ゼミナールの概要についてまとめる			2.0
3	事前学修	具体的な研究テーマを調査する対象について調査する			2.0
	授業	具体的な研究テーマを調査する対象を列举する			
	事後学修	研究テーマを調査する対象を列举する			2.0
4	事前学修	具体的な新聞の概要について調査する			2.0
	授業	具体的な新聞の概要について議論する			
	事後学修	新聞の概要についてまとめる			2.0
5	事前学修	具体的な新聞の構成について調査する			2.0
	授業	具体的な新聞の構成について調査する			
	事後学修	新聞の構成についてまとめる			2.0
6	事前学修	具体的な論文の種類について調査する			2.0
	授業	具体的な論文の種類について調査する			
	事後学修	論文の種類についてまとめる			2.0
7	事前学修	具体的な論文の種類について調査する			2.0

	授業	具体的な論文の種類について調査する	
	事後学修	論文の種類について調査する	2.0
8	事前学修	文献の入手方法について調査する	2.0
	授業	文献の入手方法について議論する	
	事後学修	文献の入手方法についてまとめる	2.0
9	事前学修	興味のある1つ目の文献について調査する	2.0
	授業	興味のある1つ目の文献について議論する	
	事後学修	興味のある1つ目の文献についてまとめる	2.0
10	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（前半）	2.0
11	事前学修	興味のある1つ目の文献を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある1つ目の文献について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある1つ目の文献についてまとめる（後半）	2.0
12	事前学修	他人の興味のある発表を決める（前半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（前半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（前半）	2.0
13	事前学修	他人の興味のある発表を決める（後半）	2.0
	授業	他人の興味のある発表について説明・議論する（後半）	
	事後学修	他人の興味のある発表についてまとめる（後半）	2.0
14	事前学修	発表に対してのコメントに対する調査をする	2.0
	授業	発表に対してのコメントに対して議論する	
	事後学修	発表に対してのコメントをまとめる	2.0
15	事前学修	これまでの取り組みについて調査する	2.0
	授業	これまでの取り組みについて議論する	
	事後学修	これまでの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

⇒□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[各ゼミで到達目標が異なります。担当の教員と相談してください。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出、返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き、測定用の機材の作成を行い、論文作成を行ってきた。また、関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし、該当科目に反映させている。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	守 啓祐 (225 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	4 年	後期	
授業概要					
テーマ：自然な操作でコンピュータを利用する以下のようなトピックについてディスカッションを行い実験を進める。					
1.生体情報や音声，画像を利用したコンピュータの操作					
2.ヒトの動きを利用したコンピュータの操作					
3.ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）デバイスに関する研究					
4.携帯電話機やゲーム機を用いたコンピュータ操作に関する研究					
5.コンピュータの情報をヒトに理解させるフィードバックに関する研究					
6.ゲーム理論に基づいた HCI 利用アプリケーションに関する研究					
○ 概 要					
研究テーマは、ヒューマンコンピュータインタラクション関連領域です。ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI: Human-Computer Interaction)とは、ヒトとコンピュータとのインタラクション（相互作用）に関する学際的な領域です。人とコンピュータとのインタラクションだけにとどまらず、人とロボットを代表とするような機械とのインタラクション、人と人とのインタラクションも研究の対象となります。コンピュータの高度化により学際的なヒューマンコンピュータインタラクションは今後ますます重要な領域になると予想されます。					
授業における学修の到達目標					
問題解決をするための資料の存在や探し方を習得し適切に調査できるようになる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	論文の構成について調査する			2.0
	授業	論文の構成について議論する			
	事後学修	論文の構成についてまとめる			2.0
2	事前学修	序論（はじめに）の書き方について調査する			2.0
	授業	序論（はじめに）の書き方について議論する			
	事後学修	序論（はじめに）の書き方についてまとめる			2.0
3	事前学修	本論（本文）の書き方について調査する			2.0
	授業	本論（本文）の書き方について議論する			
	事後学修	本論（本文）の書き方についてまとめる			2.0
4	事前学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について調査する			2.0
	授業	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方について議論する			
	事後学修	結論（むすび，おわりに，まとめ）の書き方についてまとめる			2.0
5	事前学修	参考文献の書き方について調査する			2.0
	授業	参考文献の書き方について議論する			
	事後学修	参考文献の書き方についてまとめる			2.0
6	事前学修	要旨（概要、あらまし）の書き方について調査する			2.0
	授業	要旨（概要、あらまし）の書き方について議論する			
	事後学修	要旨（概要、あらまし）の書き方についてまとめる			2.0
7	事前学修	謝辞，付録その他の書き方について調査する			2.0

	授業	謝辞，付録その他の書き方について議論する	
	事後学修	謝辞，付録その他の書き方についてまとめる	2.0
8	事前学修	目次，図録の目次，索引の書き方について調査する	2.0
	授業	目次，図録の目次，索引の書き方について議論する	
	事後学修	目次，図録の目次，索引の書き方についてまとめる	2.0
9	事前学修	図の書き方について調査する	2.0
	授業	図の書き方について議論する	
	事後学修	図の書き方についてまとめる	2.0
10	事前学修	表の書き方について調査する	2.0
	授業	表の書き方について議論する	
	事後学修	表の書き方についてまとめる	2.0
11	事前学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方について調査する	2.0
	授業	キャプション（説明文；見出し）の書き方について議論する	
	事後学修	キャプション（説明文；見出し）の書き方についてまとめる	2.0
12	事前学修	句読点の使い方について調査する	2.0
	授業	句読点の使い方について議論する	
	事後学修	句読点の使い方についてまとめる	2.0
13	事前学修	外来語の表記について調査する	2.0
	授業	外来語の表記について議論する	
	事後学修	外来語の表記についてまとめる	2.0
14	事前学修	学術用語の表記について調査する	2.0
	授業	学術用語の表記について議論する	
	事後学修	学術用語の表記についてまとめる	2.0
15	事前学修	ゼミナールの取り組みについて調査する	2.0
	授業	ゼミナールの取り組みについて議論する	
	事後学修	ゼミナールの取り組みについてまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他[輪講でおこなうため，テーマの調査能力，それから発表を行うためのプレゼンテーション能力，疑問点に質問を行う。疑問点に答えるコミュニケーション能力等を標準成績評価基準に基づき総合的に評価する。100%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題や発表等に対して随時解説および指導します。提出，返却方法は成果物により適切な方法を指示します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜指示します
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	該当科目に付き，測定用の機材の作成を行い，論文作成を行ってきた。また，関連企業とともに共同研究を行ってきた。この経験を活かし，該当科目に反映させている。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
身近な「数学」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、教えます。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の選定			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書の選定			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
10	事前学修	発表の準備			2

	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	半年の総括	
	事後学修	発表した内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
プレゼンの準備状況，発表内容を総合的に判断する。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に対応し，プレゼン時に適宜指導を行います。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要な資料はゼミ中に伝えます。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅠに引き続き、身近な「数学」を学ぶゼミです。教科書を新たにすることも可能ですから、各自教科書を決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、教えます。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の選定			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書の選定			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表した内容の整理と準備			
	事後学修	発表			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表			
	事後学修	発表した内容の整理と準備			2
10	事前学修	発表の準備			2

	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表	
	事後学修	発表した内容の整理と準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	発表の総括	
	事後学修	半年間で発表した内容の整理	2

成績評価の方法およびその基準

プレゼンの準備状況，発表内容を総合的に判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

いつでも質問に対応し，プレゼン時に適宜指導を行います。100%

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて，資料はゼミ中に伝えます。
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	特にありません。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IMC408	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	前期	
授業概要						
卒業論文を書くために使用する LaTeX の修得を行います。LaTeX は、 プログラムすることにより文章を作成（組み版）するツールです。さほど難しいプログラムはありません。この LaTeX を使って実際に本を作成する会社が多々あります。現在は LaTeX Live という LaTeX が主流です。これを学んで下さい。						
授業における学修の到達目標						
LaTeX の書式の基礎を知り、 具体的な文章を書けることです。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	LaTeX を調べて下さい。				2
	授業	LaTeX とは				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
2	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	LaTeX のインストール				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
3	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	LaTeX を使う				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
4	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	表の作成				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
5	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	数式の記述				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
6	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	課題 3				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
7	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	図や画像				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
8	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	目次、索引、 参考文献				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
9	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
	授業	縦組み				
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。				2
10	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。				2

	授業	複雑な文章	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
11	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 1	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
12	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 2	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
13	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 3	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
14	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 4	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
15	事前学修	前回のゼミの振り返りを行って下さい。	2
	授業	課題 5	
	事後学修	今回のゼミの振り返りを行って下さい。	2

成績評価の方法およびその基準

提出されたレポートを総合的に判断し成績を付けます。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

常に質問に答えます。

教科書	
参考書・Web サイト	土屋勝 著「LaTeX はじめの一步 Windows11/10 対応 (やさしいプログラミング)」カットシステム, 2022 年 10 月 水谷正大 著「LaTeX 超入門 ゼロからはじめる理系の文書作成術」ブルーバックス, 2020 年 7 月
単位修得が望ましい科目	ありません。
備考	ありません。
担当教員の実務経験	ありません。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅢ で学んだ LaTeX 学び直し, それを使って組み版を実際に行います。					
授業における学修の到達目標					
具体的な本を決め, どのような形で作られているかを知り, 参考にする。目標は短くても良いので本を作成する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅢ の振り返り			2
	授業	LaTeX の課題 6			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
2	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	LaTeX の課題 7			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
3	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	LaTeX の課題 8			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
4	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	LaTeX の課題 9			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
5	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	LaTeX の課題 10			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
6	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	参考にする本の選定			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
7	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	本の内容の理解			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
8	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (1)			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
9	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (2)			
	事後学修	ゼミの振り返り			2
10	事前学修	前回のゼミの振り返り			2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (3)			

	事後学修	ゼミの振り返り	2
11	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いてみる (4)	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
12	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
	授業	選定した本の組み版を知り真似て LaTeX で書いて完成させる。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
13	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
	授業	作りたい本の内容を手書きで作成する。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
14	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
	授業	作りたい本の内容を手書きで作成する。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
15	事前学修	前回のゼミの振り返り	2
	授業	手書きで作成した内容を LaTeX で作成する。	
	事後学修	ゼミの振り返り	2
成績評価の方法およびその基準			
提出されたレポートを総合的に判断し成績を付ける。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に答えます。			
教科書			
参考書・Web サイト		土屋勝 著「LaTeX はじめの一步 Windows11/10 対応 (やさしいプログラミング)」カットシステム, 2022 年 10 月 水谷正大 著「LaTeX 超入門 ゼロからはじめる理系の文書作成術」ブルーバックス, 2020 年 7 月	
単位修得が望ましい科目		ゼミナール III	
備考		ありません。	
担当教員の実務経験		ありません。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミではこの「伝える」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の選定			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書の選定			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に対応し、発表時に適宜指導します。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミではこの「伝える」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表の内容の整理	2
	授業	1年間の総括	
	事後学修	発表の内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表の内容を総合的に判断します。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
質問にはいつでも対応します。ゼミの中でもコメントします。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミでは、ゼミナールⅠ・Ⅱの内容を踏まえて、この「伝える」を学ぶゼミです。各自資料を用意し、ゼミで発表をして貰います。資料は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った資料を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
資料に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	資料の選定			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	資料の選定			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	これまでの発表内容の整理	2
	授業	これまでの総括	
	事後学修	改善点の明確化	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に対応し、発表時に適宜指導します。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	織田 哲 (336 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミでは、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容を踏まえて、この「伝える」を学ぶゼミです。各自資料を用意し、ゼミで発表をして貰います。資料は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った資料を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
資料に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表した内容の整理と発表の準備	2
15	事前学修	これまでの発表内容の整理	2
	授業	これまでの総括	
	事後学修	改善点の明確化	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表内容を総合的に判断する。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
いつでも質問に対応し、発表時に適宜指導します。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。					
授業における学修の到達目標					
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	レポート「ゼミ活動指針・計画」(A4 判 2 頁)の提出 ゼミナール活動とプレゼンテーションの事前準備			2
	授業	初顔合わせ、事前ガイダンス 初回プレゼンテーションについての説明 班分け(2 班)と輪番(発表／聴講)の決定			
	事後学修	(全員)初回プレゼンテーションの準備			2
2	事前学修	(全員)初回プレゼンテーションの準備			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ゼミ活動計画の概要説明と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
3	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
4	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
5	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
6	事前学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜指示する	
単位修得が望ましい科目		1～2 年時配当の全ての必修科目	
備考		1～2 年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしがないこと。その他, 2 年時終了時点総取得単位数が 80 に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどの LMS による通信機能や E メールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないように, これを強く要請する。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。					
授業における学修の到達目標					
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナール活動 プレゼンテーションの事前準備			2
	授業	(全員) 初回プレゼンテーション (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
2	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜指示する		
単位修得が望ましい科目	「ゼミナールI」と, 前述の各ゼミナール科目で単位取得が望ましい科目として指定されているもの		
備考	1~2年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしがないこと。3年前期終了時点総取得単位数が100に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどのLMSによる通信機能やEメールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないように, これを強く要請する。		
担当教員の実務経験	なし		

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質、量、ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。					
授業における学修の到達目標					
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナール活動 プレゼンテーションの事前準備			2
	授業	(全員) 初回プレゼンテーション (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
2	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)			

		(次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	
	授業	プレゼンテーションと質疑応答(ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班)プレゼンテーションの準備 (次回聴講班)ゼミナール活動の遂行	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜指示する		
単位修得が望ましい科目	「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」と, 前述の各ゼミナール科目で単位取得が望ましい科目として指定されているもの		
備考	1~2年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしがないこと。3年前期終了時点総取得単位数が100に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどのLMSによる通信機能やEメールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないように, これを強く要請する。		
担当教員の実務経験	なし		

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	新井山 亮(129 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
学生があらかじめ立案した活動計画に沿って、ゼミナール活動を自主的・自発的・自律的に遂行していく。活動のテーマ・計画は「ゼミ生自身」が決定する。また、ゼミ活動の主体は「ゼミ生自身」である。円滑なゼミナール活動の遂行のために担当教員は学生の自主性を損なうことがないよう最小限の助言を行い、質，量，ともに最大化した成果物の産出を期待する。また、プレゼンテーションやドキュメンテーションに関しては個々人の能力が向上するようノウハウを提供し、それらの能力を鍛錬する。					
授業における学修の到達目標					
自主的・自発的・自律的なゼミナール活動の遂行 プレゼンテーション・ドキュメンテーション能力の鍛錬					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナール活動 プレゼンテーションの事前準備			2
	授業	(全員) 初回プレゼンテーション（ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約）			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
2	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答（ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約）			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
3	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答（ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約）			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
4	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答（ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約）			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
5	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答（ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約）			
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
6	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行			2
	授業	プレゼンテーションと質疑応答（ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約）			

	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
7	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
8	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
9	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
10	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
11	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約)	
	事後学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
	事前学修	(次回発表班) プレゼンテーションの準備 (次回聴講班) ゼミナール活動の遂行	2
12	授業	プレゼンテーションと質疑応答 (ここまでの進捗状況と次回までの成果誓約) 最終発表のためのプレゼンテーションの準備 最終報告のためのドキュメンテーションの準備	
	事後学修	ゼミナール活動の終了と取りまとめ	2
	事前学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
13	授業	最終発表のためのプレゼンテーションの指導 最終報告のためのドキュメンテーションの指導	
	事後学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
	事前学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
14	授業	最終発表のためのプレゼンテーションの指導 最終報告のためのドキュメンテーションの指導	
	事後学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備	2

		最終発表のためのプレゼンテーションの準備	
15	事前学修	最終報告のためのドキュメンテーションの準備 最終発表のためのプレゼンテーションの準備	2
	授業	最終発表のためのプレゼンテーションの最終確認 最終報告のためのドキュメンテーションの最終確認	
	事後学修	最終報告のためのドキュメンテーションの最終作業 最終発表のためのプレゼンテーションの最終作業	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [ゼミ活動への取り組み全般, プレゼンテーションと質疑応答, ドキュメンテーションへの評価]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表内容や成果物に対し, 都度, 口頭あるいはオンラインで行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		必要に応じて適宜指示する	
単位修得が望ましい科目		「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ」と, 前述の各ゼミナール科目で単位取得が望ましい科目として指定されているもの	
備考		1～2 年時配当の必修科目の単位を全て取得しており, 取りこぼしがないこと。3 年前期終了時点総取得単位数が 100 に限りなく近いこと。ニュースフォーラムやメッセージなどの LMS による通信機能や E メールなどの手段により, ゼミ生は常にゼミ担当教員とコンスタントに連絡が通じ, 決して長期間の消息不明状態に陥ることがないよう, これを強く要請する。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○テーマ ゲームコンテンツの制作					
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 制作するコンテンツは、スマートフォン、パソコンなどのデジタルゲームコンテンツのみならず、カードを用いたアナログゲームや、A Rなどのデジタル技術とアナログゲームをあわせたものも『新しい遊びの提案』がある場合は許可する。 ゼミナールⅠではチームでゲームを作品を作る。					
授業における学修の到達目標					
ゲーム作品を企画し制作することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールの概要について調べる			2
	授業	ガイダンス(制作全般)			
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる			2
2	事前学修	ゼミナールの概要について調べる			2
	授業	ガイダンス(企画の立て方)			
	事後学修	ガイダンスで得た内容をまとめる			2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る			2
	授業	制作物 1 を作るためのチーム分け			
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがないか検討する			2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る(チームディスカッション)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める			2

	授業	制作物のスケジュールを作る	
	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	制作物の進捗を確認し,スケジュールを見直す	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物発表(検討会)	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○テーマ ゲームコンテンツの制作					
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 ゼミナールⅡではゼミナールⅠでの経験を踏まえたものを制作する。 ゼミナールⅡはゼミナールⅠと同様にチームでゲーム制作を行う。					
授業における学修の到達目標					
ゲーム作品を企画し制作することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点をまとめる			2
	授業	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点を話し合う			
	事後学修	話し合いの意見をまとめる			2
2	事前学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点を再度まとめる			2
	授業	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点の解決方法を考える			
	事後学修	ゼミナールⅠで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる			2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る			2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う			
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する			2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める			2
	授業	制作物のスケジュールを作る			

	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物の検討会を行う	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク : 50%]]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
○テーマ ゲームコンテンツの制作					
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 ゼミナールⅢでは、ゼミナールⅠ・Ⅱでの経験を踏まえてさらに高度なものを制作する。 ゼミナールⅢは個人でゲーム制作を行う。					
授業における学修の到達目標					
ゲーム作品を企画し個人で制作することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点をまとめる			2
	授業	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点を話し合う			
	事後学修	話し合いの意見をまとめる			2
2	事前学修	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点を再度まとめる			2
	授業	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点の解決方法を考える			
	事後学修	ゼミナールⅡで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる			2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る			2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う			
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する			2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める			2
	授業	制作物のスケジュールを作る			

	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物の検討会を行う	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク : 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	森川 悟 (856 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
○テーマ ゲームコンテンツの制作					
○概要 現代におけるゲームコンテンツは個人の趣味趣向や生活習慣に合わせて多種多様であるが、それらを深く掘り下げ、そこから知見を得て、自分なりの『新しい遊びを提案』し制作することを目的とする。 ゼミナールⅣでは、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲでの経験を踏まえてさらに高度なものを制作する。 ゼミナールⅣはゼミナールⅢで学んだことを生かし、さらに高度なゲーム制作を個人で行う。					
授業における学修の到達目標					
ゲーム作品を企画し個人で制作することができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点をまとめる			2
	授業	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点を話し合う			
	事後学修	話し合いの意見をまとめる			2
2	事前学修	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点を再度まとめる			2
	授業	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点の解決方法を考える			
	事後学修	ゼミナールⅢで制作した制作物の問題点の解決方法をまとめる			2
3	事前学修	自身のスキルを振り返る			2
	授業	新しく制作物を作るためのチーム分けを行う			
	事後学修	チーム別にスキルに偏りがいないか検討する			2
4	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を作る(アイデア出し)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
5	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。アイデアの再検討を行う			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
6	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る(ディスカッション)			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
7	事前学修	制作物の企画を作るにあたり資料を集める			2
	授業	制作物の企画を練る。ディスカッションを踏まえて再検討する			
	事後学修	制作物の企画を作るにあたり問題点をまとめる			2
8	事前学修	スケジュールを作る前に資料を集める			2
	授業	制作物のスケジュールを作る			

	事後学修	スケジュールに問題点がないかまとめる	2
9	事前学修	プレゼンテーションの資料を作る	2
	授業	制作物の企画発表	
	事後学修	制作物の企画発表で得た感想や意見をまとめる	2
10	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を始める	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
11	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作を続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
12	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物の制作をさらに続ける	
	事後学修	スケジュールの確認をする	2
13	事前学修	機材・資料などを用意する	2
	授業	制作物を発表できるように調整する	
	事後学修	制作物にバグがないかチェックする	2
14	事前学修	プレゼンテーションの用意をする	2
	授業	制作物発表	
	事後学修	発表で得た意見・感想をまとめる	2
15	事前学修	検討会の準備をする	2
	授業	制作物の検討会を行う	
	事後学修	検討会で得た意見・感想をまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 50% ■その他[グループワーク : 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜おこなう

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	ゲーム開発を 20 年間行っている.パッケージソフトは 10 数本の開発に携わったほか,ゲーム開発用ライブラリ,ゲーム開発用ツールなど,ゲーム開発全般の実務がある.これらの多く開発経験から得た知識を伝える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
ゼミの全体研究として、ビジュアルデザインとプロモーション・UX 研究を中心に行う。 その対象となる商品あるいは会社の分析，マーケティングリサーチによる市場の分析，プロモーション企画とコンセプトの作成，それらを的確に表現したデザイン表現の展開がメインテーマとなっている。 展開方法は V.I の作成，グラフィックデザイン，Web デザイン，イラストレーション，アニメーションなど多岐にわたり，様々な表現を組み合わせる展開することが求められる。 上記の研究において，研究成果を発表する手段としてのプレゼンテーション技術にも磨きをかける。特に Power point 等を使っているプレゼンテーションでは，画像制作における効果的な表現と，的確で明快な口頭説明の技術を習得する。						
ゼミナールⅠでは課題に対する分析・企画を行い、中間発表を実施した上でゼミナールⅡの最終プレゼンに向けた改善点を明確にする。						
授業における学修の到達目標						
・与えられた課題に対し分析・企画の行い方を身に着ける ・自分が考えた企画を相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション方法を身に着ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	シラバスの確認				2.0
	授業	・ガイダンス ・メンバー自己紹介（アイスブレイク）				
	事後学修	特になし				0.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	広告研究 ・概要説明、チーム決定				
	事後学修	チーム内でのミーティング・概要の振り返り				2.0
3	事前学修	研究対象となりうる商品・サービスを調査				2.0
	授業	広告研究 ・対象となるサービス決定				
	事後学修	メンバーと話し合った内容のまとめ				2.0
4	事前学修	決定したサービスに関する情報を調べる				2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（1）データ収集				
	事後学修	収集したデータのまとめ				2.0
5	事前学修	対象サービスのターゲット像を考える				2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（2）仮コンセプトの決定				
	事後学修	決定したコンセプトをメンバー内で共有できているか確認				2.0
6	事前学修	アンケート項目を考える				2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（3）アンケート内容の作成				

	事後学修	アンケート内容の整理	2.0
7	事前学修	アンケート内容をまとめた資料の作成	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（４）アンケート内容の修正	
	事後学修	アンケートの修正内容を確認する	2.0
8	事前学修	アンケートの修正内容を反映させる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（５）アンケート内容の確定	
	事後学修	配布用の用紙のデザインをまとめる	2.0
9	事前学修	アンケート実施計画をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（６）アンケート実施	
	事後学修	アンケート実施に関する反省	2.0
10	事前学修	アンケート結果をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（６）アンケート結果集計	
	事後学修	集計した情報をまとめる	2.0
11	事前学修	集計した情報を見て気になるところをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・企業、商品分析（６）アンケート結果分析	
	事後学修	分析結果についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
12	事前学修	分析内容を元にどんなコンセプトが適切かアイデアをまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・調査内容を踏まえた企画の作成（１）コンセプト決定	
	事後学修	決定したコンセプトについてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
13	事前学修	広告企画アイデアをまとめる	4.0
	授業	広告研究 ・調査内容を踏まえた企画の作成（２）広告企画制作	
	事後学修	企画内容についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
14	事前学修	広告企画内容のプレゼンテーション（中間報告）用資料の作成	4.0
	授業	広告研究 ・広告企画プレゼンテーション（中間報告）	
	事後学修	プレゼンテーションの反省	2.0
15	事前学修	プレゼンテーションでもらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
	授業	広告研究 ・広告企画の修正	
	事後学修	もれなく修正できているか確認	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： 0 % □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[グループワーク 50% プレゼンテーション 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

進捗をプレゼンテーションしてもらい、そのコメントによってフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習 グラフィック制作プロジェクト
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらない広告やコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC303	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
授業概要						
ゼミの全体研究として、ビジュアルデザインとプロモーション・UX 研究を中心に行う。 その対象となる商品あるいは会社の分析、マーケティングリサーチによる市場の分析、 プロモーション企画とコンセプトの作成、それらを的確に表現したデザイン表現の展開がメインテーマとなっている。 展開方法は V.I の作成、グラフィックデザイン、 Web デザイン、 イラストレーション、 アニメーションなど多岐にわたり、様々な表現を組み合わせる展開することが求められる。 上記の研究において、研究成果を発表する手段としてのプレゼンテーション技術にも磨きをかける。特に Power point 等を使っているプレゼンテーションでは、画像制作における効果的な表現と、的確で明快な口頭説明の技術を習得する。						
この講義では、ゼミナールⅠで中間報告まで行った企画の改善とビジュアルデザインの制作、最終プレゼンを実施する。						
授業における学修の到達目標						
予算やスケジュールなど具体的に実行できる企画内容の制作スキルを身に着ける 企画に沿ったビジュアルデザインの制作スキルを身に着ける 相手に理解してもらいやすいプレゼンテーションスキルを身に着ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	事前学習 ゼミナールⅠ 広告企画の最終確認				2.0
	授業	広告研究 ・ 広告企画の確定				
	事後学修	確定した広告企画についてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する				2.0
2	事前学修	今後のタスクをまとめる				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①役割分担・スケジュールの確定				
	事後学修	役割分担・スケジュールを資料にまとめる				2.0
3	事前学修	自分担当の作業をスケジュールどおりに完了する				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル ラフの制作				
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる				2.0
4	事前学修	ラフを修正する				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル ラフの発表				
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる				2.0
5	事前学修	もれなく修正できているか確認				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル ラフの修正				
	事後学修	ラフの最終確認				2.0
6	事前学修	メインビジュアルを完成させる				2.0
	授業	広告研究 ・ デザイン制作①メインビジュアル 完成				

	事後学修	確定したメインビジュアルについてメンバー内で共通の認識をもっているか確認する	2.0
7	事前学修	自分担当の作業をスケジュールどおりに完了する	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
8	事前学修	途中経過発表準備	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの途中経過発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
9	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・デザイン制作①関連デザインの修正	
	事後学修	最終確認	2.0
10	事前学修	プレゼンテーション企画書の内容を考える	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション企画書作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
11	事前学修	発表の役割分担	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション発表練習	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
12	事前学修	発表練習	2.0
	授業	広告研究 ・プレゼンテーション発表	
	事後学修	もらったコメントから修正内容をまとめる	2.0
13	事前学修	もれなく修正できているか確認	2.0
	授業	広告研究 ・これまでの活動の報告書作成	
	事後学修	メンバーからの意見を集約し修正点をまとめる	2.0
14	事前学修	作成した報告書の見直し	2.0
	授業	広告研究 ・これまでの活動の報告書修正	
	事後学修	もれなく修正できているか確認	2.0
15	事前学修	これまでの活動の反省	2.0
	授業	広告研究 ・活動のふりかえり・まとめ	
	事後学修	対象サービスの企業へ報告書の送付	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： 0% □小テスト： 0 % □レポート： 0% □演習課題： 0% ■その他[グループワーク 50% プレゼンテーション 50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

企画・作品をプレゼンテーションしてもらい、そのコメントによってフィードバックを行う

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	メディアデザインの基礎・演習 デザインエレメンツ・演習 ビジュアル構成演習 グラフィック制作プロジェクト ゼミナールⅠ
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務と変わらない広告やコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作					
個人・またはチームでの学外コンテスト応募を目的とした作品制作を行う。					
1 年間通してコンテスト・イベント情報のリサーチ、制作スケジュールの決定、制作、応募を行う。参加するコンテスト・イベントの種類は問わないが、締切・規模によって複数のコンテスト応募を推奨する場合がある。					
スケジュールと照らし合わせ、現在の進捗を都度ゼミ内で報告・ディスカッションを行う。また、活動内容をまとめプレゼンテーションを行う。					
※授業計画は実施内容を一連の活動の流れとして記載するが、各コンテスト・イベントの開催時期によってそれぞれのスケジュールは前後する。					
授業における学修の到達目標					
・ 自発的に課題設定、計画、制作までの一連の流れを行うことができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス 今後のスケジュール			
	事後学修	自分でやりたい制作ジャンルを検討する			2.0
2	事前学修	コンテスト・イベントの事前リサーチを行う			2.0
	授業	参加コンテスト・イベントの決定 個人制作、チーム制作どちらかを確定する			
	事後学修	参加概要を良く確認する			2.0
3	事前学修	自身の 1 年間のスケジュールを決める			2.0
	授業	コンテスト・イベントまでのスケジュールの確定			
	事後学修	改めて見直し、再修正を行う			2.0
4	事前学修	レクリエーション内容の検討			2.0
	授業	ゼミメンバー内のレクリエーション実施			
	事後学修	レクリエーションの振り返りを行う			2.0
5	事前学修	制作物のアイデアを考える			2.0
	授業	企画① 制作物のアイデア発表			
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる			2.0
6	事前学修	修正にあたって追加調査を行う			2.0
	授業	企画② 制作物のアイデアの修正			
	事後学修	改めて見直し、再修正を行う			2.0
7	事前学修	プレゼンテーション資料にまとめる			2.0
	授業	企画③ 修正を加えた制作物のアイデアの発表			
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる			2.0
8	事前学修	プレゼンテーション資料にまとめる			2.0

	授業	企画④ 制作物アイデアの確定	
	事後学修	制作にあたって足りないスキルを調べる	2.0
9	事前学修	足りないスキルについて自己学習を行う	2.0
	授業	スキルに対する自己学習で不明な点をゼミメンバー、教員に共有し、対応策を検討する。（図書の選定、参考 Web サイト探しなど）	
	事後学修	もらった意見に伴い、自己学習方法を変更し、学習する。	2.0
10	事前学修	今後の詳細な制作スケジュールを作成する	2.0
	授業	制作①ラフ案の作成 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
11	事前学修	改善点をラフに反映させる	2.0
	授業	制作②ラフ案の修正 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	プロトタイプの実成にとりかかる	2.0
	授業	制作③プロトタイプの実成 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	プロトタイプの改善を行う	2.0
	授業	制作④プロトタイプの修正 進捗報告	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
14	事前学修	本制作に着手し、進行させる	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 (illustrator・Photoshop 等のツールを使った制作)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
15	事前学修	制作物の改善を行う	2.0
	授業	制作①制作物の進捗報告 (illustrator・Photoshop 等のツールを使った制作の修正)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% □演習課題：0%

■その他[プレゼンテーション・受講態度]100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションへのコメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。これらの実務経験を活かす形で、実務に近い世の中に必要とされるコンテンツ制作の知識を学生に伝える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	杉澤 愛美(133 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
(1) 学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 ゼミナールⅢに引き続き、学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作を行う。 1 年間通してコンテスト・イベント情報のリサーチ、制作スケジュールの決定、制作、応募を行う。参加するコンテスト・イベントの種類は問わないが、締切・規模によって複数のコンテスト応募を推奨する場合がある。 スケジュールと照らし合わせ、現在の進捗を都度ゼミ内で報告・ディスカッションを行う。また、活動内容をまとめプレゼンテーションを行う。					
(2) 課題解決をもとにした企画提案の実施 チームで課題の発見とその解決策の提案・実施を行う。 本学大学祭での成果発表および企画実施を目標とする。 テーマは自由であり、学生自身で取り組む内容を考える。					
※授業計画は実施内容を一連の活動の流れとして記載するが、それぞれのスケジュールは前後する可能性がある。					
授業における学修の到達目標					
・ 自発的に課題設定、計画、制作までの一連の流れを行うことができる ・ 他の学生の発表をみて、客観的な意見を伝えることができる ・ チームで協力し、課題分析・企画、提案、実施までを自発的に行うことができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	取り組みたい課題・企画アイデアをまとめる			2.0
	授業	課題・企画アイデアについてディスカッションする			
	事後学修	ディスカッション内容の整理			2.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	ディスカッションによる企画の確定 タスクの整理・役割分担			
	事後学修	役割ごとに連絡方法を整理する。リーダーを決める			4.0
3	事前学修	チームごとに準備を進める			2.0
	授業	準備情報の共有・ディスカッション（1）			
	事後学修	チーム内での問題を明確にし、解決策をたてる			2.0
4	事前学修	解決策の実施			2.0
	授業	準備情報の共有・ディスカッション（2）			
	事後学修	チーム内での問題を明確にし、解決策をたてる			2.0
5	事前学修	解決策の実施			2.0
	授業	準備情報の共有・ディスカッション（3）			
	事後学修	解決策の実施			2.0
6	事前学修	企画の実施			4.0
	授業	企画の反省点について発表し、今後の課題をディスカッションする。			

	事後学修	反省した内容を資料に残しておく	2.0
7	事前学修	特になし	0.0
	授業	現在のゼミの広報計画に関するディスカッション ・問題点の洗い出し ・解決策の提案	
	事後学修	ディスカッション内容を資料にまとめる	2.0
8	事前学修	改善アイデアをまとめる	2.0
	授業	改善アイデアのディスカッション 実施内容の決定	
	事後学修	実施内容に沿って作業を行う	2.0
9	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (テスト可能なレベルまで完成させる)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
10	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (簡易なユーザーテストの実施)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
11	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (ユーザーテスト結果の改善)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
12	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作物の改善を行う	2.0
	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 制作①制作物の進捗報告 (制作物の完成)	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
13	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 応募概要の復習	2.0
	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 応募概要に則っているか確認し応募準備を行う	
	事後学修	講義終了後あらためて見直し、応募を行う	2.0
14	事前学修	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 プレゼンテーションの準備を行う	2.0
	授業	★学外コンテスト・イベントの応募を目的とした作品制作 応募内容と応募結果報告(プレゼンテーション)を行う	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0

15	事前学修	ゼミ活動を振り返り、プレゼンテーションの準備を行う	2.0
	授業	これまでのゼミ活動の報告（プレゼンテーション）を行う	
	事後学修	もらった意見を集約し改善点をまとめる	2.0
成績評価の方法およびその基準			
☐ 試験：0% ☐ 小テスト：0% ☐ レポート：0% ☐ 演習課題：0% ☒ その他[プレゼンテーション・受講態度]100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
プレゼンテーションへのコメントによりフィードバックを行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		特になし	
単位修得が望ましい科目		特になし	
備考		特になし	
担当教員の実務経験		2012 年～2017 年度まで Web 制作会社に所属し、ブランディングを意識した Web サイトやグラフィックデザインなどを行ってきた。また、Web ディレクターとしてクライアントの要望を聞きながらコンテンツディレクションも実務で行ってきた。 これらの実務経験を活かす形で、実務に近い世の中に必要とされるコンテンツ制作の知識を学生に伝える。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	清澤 智克(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミではこの「伝える」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の選定			2
	授業	オリエンテーション			
	事後学修	教科書の選定			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表の内容を総合的に判断します。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
質問にはいつでも対応します。ゼミの中でもコメントします。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	清澤 智克(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミではこの「伝える」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	1年間の発表の総括	
	事後学修	発表した内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表の内容を総合的に判断します。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
質問にはいつでも対応します。ゼミの中でもコメントします。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	清澤 智克(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミではこの「伝える」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	1年間の発表の総括	
	事後学修	発表した内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表の内容を総合的に判断します。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
質問にはいつでも対応します。ゼミの中でもコメントします。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	清澤 智克(116 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
情報メディア学科で学ぶ「伝える」の基本はコミュニケーションです。本ゼミではこの「伝える」を学ぶゼミです。教科書を各自決めて、資料を用意しゼミで発表をして貰います。教科書は難しい必要はなく、担当教員の私と学生各自との話し合いで各学生に合った教科書を決めます。分からない部分は、皆で議論し解決したいと思います。毎回全員が発表できませんので、数回に一回の発表となります。					
授業における学修の到達目標					
教科書に書かれている内容を把握し、人に伝えることを目指します。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
2	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
3	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
4	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
5	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
6	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
7	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
8	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2
9	事前学修	発表の準備			2
	授業	発表と議論			
	事後学修	発表の整理と発表の準備			2

10	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
11	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
12	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
13	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
14	事前学修	発表の準備	2
	授業	発表と議論	
	事後学修	発表の整理と発表の準備	2
15	事前学修	発表した内容の整理	2
	授業	1年間の発表の総括	
	事後学修	発表した内容の整理	2
成績評価の方法およびその基準			
発表の準備状況と発表の内容を総合的に判断します。100%			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
質問にはいつでも対応します。ゼミの中でもコメントします。			
教科書			
参考書・Web サイト		特にありません。	
単位修得が望ましい科目		特にありません。	
備考		特にありません。	
担当教員の実務経験		特にありません。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	大島 慶太郎 (320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
テーマ：短編映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作					
映像系の基礎科目などで培った知識、技術を活かし映像系の小作品の制作に取り組む。					
上映・放映型の映像作品やアニメーション作品、展示型の映像作品やメディアアート、ミュージックライブやパフォーマンスアートでの映像系演出などについて、各々の企画に照らし合わせてリサーチし作品化への理解を深める。					
授業における学修の到達目標					
オリジナルの小作品を制作する。多様な映像表現の発表機会や形態について理解する。各々の作品制作における技法上の課題点や表現性を見出す。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ			2.0
	授業	作品のコンセプト設計			
	事後学修	リサーチ			2.0
2	事前学修	プロポーザル発表準備			2.0
	授業	プロポーザル発表 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0
3	事前学修	作品形態と発表方法についてのリサーチ			2.0
	授業	作品形態と発表方法の検討・リサーチ			
	事後学修	作品形態と発表方法の見直し、修正など			2.0
4	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備			2.0
	授業	イメージボード・プレビズ			
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正			2.0
5	事前学修	企画発表準備			2.0
	授業	企画発表 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0
6	事前学修	素材制作のためのリサーチ			2.0
	授業	素材制作			
	事後学修	制作作業			2.0
7	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
8	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
9	事前学修	進捗報告の準備			2.0
	授業	進捗報告 意見交換			

	事後学修	意見交換まとめ	2.0
10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
13	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
14	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
テーマ：映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作及び、発表					
ゼミナールⅠでの小作品の制作経験をもとに、発表・発信を目的とする作品の企画・制作に取り組む。作品制作における手法及び、発表形態（上映・展示・ライブなど）についての課題を設け、制作過程での実験的な技法研究を通じて、各々の表現手段の確立を目指す。					
授業における学修の到達目標					
オリジナルの作品を制作し、発表する。自身の表現手段の確立及び、発表形態を実現する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ			2.0
	授業	作品のコンセプト設計			
	事後学修	発表形態のリサーチ			2.0
2	事前学修	企画発表準備			2.0
	授業	企画発表 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0
3	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備			2.0
	授業	イメージボード・プレビズ			
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正			2.0
4	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
5	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
6	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
7	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
8	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
9	事前学修	進捗報告の準備			2.0
	授業	進捗報告 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0

10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	作品プレゼンテーション準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
13	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
14	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	4 年	前期	
授業概要					
テーマ：短編映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作					
映像系の基礎科目などで培った知識、技術を活かし映像系の小作品の制作に取り組む。					
上映・放映型の映像作品やアニメーション作品、展示型の映像作品やメディアアート、ミュージックライブやパフォーマンスアートでの映像系演出などについて、各々の企画に照らし合わせてリサーチし作品化への理解を深める。					
授業における学修の到達目標					
オリジナルの小作品を制作する。多様な映像表現の発表機会や形態について理解する。各々の作品制作における技法上の課題点や表現性を見出す。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ			2.0
	授業	作品のコンセプト設計			
	事後学修	リサーチ			2.0
2	事前学修	プロポーザル発表準備			2.0
	授業	プロポーザル発表 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0
3	事前学修	作品形態と発表方法についてのリサーチ			2.0
	授業	作品形態と発表方法の検討・リサーチ			
	事後学修	作品形態と発表方法の見直し、修正など			2.0
4	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備			2.0
	授業	イメージボード・プレビズ			
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正			2.0
5	事前学修	企画発表準備			2.0
	授業	企画発表 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0
6	事前学修	素材制作のためのリサーチ			2.0
	授業	素材制作			
	事後学修	制作作業			2.0
7	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
8	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
9	事前学修	進捗報告の準備			2.0
	授業	進捗報告 意見交換			

	事後学修	意見交換まとめ	2.0
10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
13	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
14	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	大島 慶太郎(320 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
テーマ：映像作品又は、映像を用いたコンテンツの企画・制作及び、発表 ゼミナールⅠでの小作品の制作経験をもとに、発表・発信を目的とする作品の企画・制作に取り組む。作品制作における手法及び、発表形態（上映・展示・ライブなど）についての課題を設け、制作過程での実験的な技法研究を通じて、各々の表現手段の確立を目指す。					
授業における学修の到達目標					
オリジナルの作品を制作し、発表する。自身の表現手段の確立及び、発表形態を実現する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	作品テーマについてのリサーチ			2.0
	授業	作品のコンセプト設計			
	事後学修	発表形態のリサーチ			2.0
2	事前学修	企画発表準備			2.0
	授業	企画発表 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0
3	事前学修	イメージボード・プレビズ（プロトタイプ）制作の準備			2.0
	授業	イメージボード・プレビズ			
	事後学修	イメージボード・プレビズ見直し、修正			2.0
4	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
5	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
6	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
7	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
8	事前学修	制作作業			2.0
	授業	制作作業			
	事後学修	制作作業			2.0
9	事前学修	進捗報告の準備			2.0
	授業	進捗報告 意見交換			
	事後学修	意見交換まとめ			2.0

10	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
11	事前学修	制作作業	2.0
	授業	制作作業	
	事後学修	制作作業	2.0
12	事前学修	作品プレゼンテーション準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0
13	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
14	事前学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
	授業	発表準備（上映・展示・ライブなど）	
	事後学修	発表準備（上映・展示・ライブなど）	2.0
15	事前学修	作品発表準備	2.0
	授業	作品発表 意見交換	
	事後学修	意見交換まとめ	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別にアドバイスする。

教科書	
参考書・Web サイト	特にない。
単位修得が望ましい科目	映画基礎演習，アニメーション基礎演習，ビジュアルエフェクト演習，映像制作プロジェクト
備考	特にない。
担当教員の実務経験	様々な映像表現技法を駆使したコンテンツ制作の経験が豊富であり，アニメーション表現，映像表現について研究している。映像メディアを用いた応用的な表現手段について幅広く指導できる。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い、モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また、UI/UX という概念について学習します。その後、各自のテーマを決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。						
授業における学修の到達目標						
・ モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる ・ 基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ UI/UX とは何か説明できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスや事前に通知されているゼミ専用ページの資料を読む				2
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅠを行うにあたって必要なものの説明と作業				
	事後学修	ガイダンスで説明されたものを各自次回までに準備する				2
2	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	モバイルアプリの基本				
	事後学修	自分の作りたいアプリに向いているかどうかの検討を行う				2
3	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリの基本				
	事後学修	自分の作りたいアプリに向いているかどうかの検討を行う				2
4	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web API を利用した Web アプリ				
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う				2
5	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web アプリにおける認証・認可				
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用するかどうか、必要性の検討を行う				2
6	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	画面遷移：モバイルアプリと Web アプリにおける画面遷移について理解する				
	事後学修	自分の作りたいアプリではどのように行うべきかを検討する				2
7	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	モバイルアプリにおける「制約」という考え方				
	事後学修	自分の作りたいアプリではどのように行うべきかを検討する				2
8	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う				2
	授業	Web API を利用したモバイルアプリ				
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う				2

9	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	データベースの基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
10	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	Web アプリにおけるデータベース操作	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
11	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリにおけるデータベース操作	
	事後学修	自分の作りたいアプリに利用できるかどうかの検討を行う	2
12	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	UI 設計の基本	
	事後学修	自分の作りたいアプリに合わせ、主要部分の UI 設計を（試しに）行ってみる	2
13	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	夏休み課題の検討	
	事後学修	ゼミでの議論をもとに夏休み課題の内容を検討しなおし、その結果をゼミ専用ページに書く	2
14	事前学修	公開された発表会予定から、どの発表を見るのかを検討する	2
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	聴講した発表の内容をまとめる。また、疑問に思った点や自分のアプリに採用したいと思った点などがあれば調査する	2
15	事前学修	前回の事後学習で行った内容をゼミ専用ページにまとめる	2
	授業	卒業研究企画発表会について議論	
	事後学修	議論を振り返り、新たにわかったことや後日調査すべきことなどをまとめておく	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ゼミナールIの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	ゼミ中に適宜提示する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	谷口 文威 (226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。各自のテーマ（作成するアプリ）を決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。					
授業における学修の到達目標					
・ デバイスに応じた UI を設計できる ・ Web アプリをデプロイできる ・ バージョン管理システムを利用できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表資料の作成と発表練習を行う			2
	授業	夏休み課題の成果発表			
	事後学修	ゼミ中に受けた質問等で答えきれなかった事項について調査する			2
2	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	Web アプリのデプロイ			
	事後学修	他のアプリ（たとえば夏休み課題等）のデプロイについて試してみる			2
3	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	バージョン管理システム git の導入			
	事後学修	別のソースコードを git で管理してみる（またはその事前調査を行う）			2
4	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	バージョン管理システム Web アプリの利用			
	事後学修	自作アプリに適用可能かを検討し、可能であれば適用する。その結果をゼミ専用ページにまとめる			2
5	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	後期に制作するアプリの検討			
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとに、アプリの企画をブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる			2
6	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	Web アプリの設計（機能）			
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる			2
7	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	Web アプリの設計（画面遷移）			
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる			2
8	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	作成した Web アプリのデプロイ			
	事後学修	デプロイにおける注意点や実際に起こったトラブルなどをゼミ専用ページにまとめる			2

9	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成した Web アプリの講評・議論	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘等について、答えきれなかった項目について調査し、ゼミ専用ページにまとめる	2
10	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの設計（機能）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
11	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの設計（画面遷移）	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
12	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	モバイルアプリの開発	
	事後学修	ゼミ中に受けたフィードバックをもとにブラッシュアップする。その内容をゼミ専用ページにまとめる	2
13	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成したモバイルアプリのデプロイ	
	事後学修	デプロイにおける注意点や実際に起こったトラブルなどをゼミ専用ページにまとめる	2
14	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	作成したモバイルアプリの講評・議論	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘等について、答えきれなかった項目について調査し、ゼミ専用ページにまとめる	2
15	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う	2
	授業	4 年生で行う課題のテーマ選定	
	事後学修	ゼミ中に受けた指摘を受けて、テーマの細かな内容を検討しなおし、その結果をゼミ専用ページにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅡの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	ゼミ中に適宜提示する
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	4 年	前期	
授業概要					
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い、モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また、UI/UX という概念について学習します。その後、各自のテーマを決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。最終的には卒業制作としてアプリを制作することを目指とします。					
授業における学修の到達目標					
・ モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる ・ 基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ UI/UX とは何か説明できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスや事前に通知されているゼミ専用ページの資料を読む			2
	授業	ガイダンス：ゼミナールⅢを行うにあたって必要なものの説明と作業			
	事後学修	ガイダンスで説明されたものを各自次回までに準備する			2
2	事前学修	資料を読み、ゼミ専用ページで指定された事前準備を行う			2
	授業	プレゼンテーションの復習			
	事後学修	各自の発表の良かった点・改善できそうな点についてまとめる			2
3	事前学修	調査内容をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリ企画概要発表			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
4	事前学修	調査内容をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの先行事例調査			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
5	事前学修	調査内容をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの需要調査			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
6	事前学修	調査内容をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの具体的な内容発表			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
7	事前学修	調査内容をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの UI 検討結果報告			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
8	事前学修	調査内容をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの機能検討結果報告			

	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
9	事前学修	実装を進める	2
	授業	卒業制作アプリの進捗報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
10	事前学修	実装内容について発表の前までにまとめる	2
	授業	卒業制作アプリの概要報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
11	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会用の小論を準備する	2
	授業	企画発表会リハーサル（小論）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
13	事前学修	企画発表会での発表資料を作成する	2
	授業	企画発表会リハーサル（プレゼン）	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
14	事前学修	企画発表会にかなして準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表について報告資料をまとめる	2
	授業	発表会にかなする報告	
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅢの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	Web プログラミング演習
備考	実装言語は各自と教員とで相談の上決定する
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	谷口 文威(226 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
モバイルアプリまたは Web アプリを作成できる知識・技術を修得することを目的とします。最初の数回は各種基礎技術の講義と演習を行い、モバイルと Web のアプリでどのようなことができるのかを把握します。また、UI/UX という概念について学習します。その後、各自のテーマを決め、それに基づいたプロトタイプを複数作成しながら、対象のプラットフォームに対する理解や、プログラミング技術に対する理解を深めます。最終的には卒業制作としてアプリを制作することを目指します。					
授業における学修の到達目標					
・ モバイルアプリまたは Web アプリにかんする基礎的な知識を説明できる ・ 基礎的なモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ Web API を用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ データベースを用いたモバイルアプリまたは Web アプリを作成できる ・ UI/UX とは何か説明できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	文章の書き方にかんする資料を復習する			2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方			
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方について復習する			2
2	事前学修	卒業制作アプリの UI の評価方法について資料をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの UI の評価方法			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
3	事前学修	UI 評価の進捗資料をまとめる			2
	授業	UI 評価の進捗報告			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
4	事前学修	卒業制作アプリの機能の評価方法について資料をまとめる			2
	授業	卒業制作アプリの機能の評価方法			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
5	事前学修	機能評価の進捗資料をまとめる			2
	授業	機能評価の進捗報告			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
6	事前学修	卒業制作アプリの追加機能について資料をまとめる			2
	授業	評価による卒業制作アプリの追加機能の検討			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
7	事前学修	追加機能の実装報告資料をまとめる			2
	授業	追加機能の実装報告			
	事後学修	発表内容、質疑についてまとめる			2
8	事前学修	卒業論文の目次構成構想をまとめる			2
	授業	卒業論文の構成の議論			

	事後学修	議論内容をもとに目次を完成させ、小論執筆を開始する	2
9	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の構成チェックと「はじめに」にかんする議論	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
10	事前学修	小論の見直し	2
	授業	小論の相互チェック	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
11	事前学修	卒業制作アプリの動作について準備	2
	授業	卒業制作アプリの動作発表	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
12	事前学修	卒業研究発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒業研究発表会の発表資料の準備	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
13	事前学修	卒業研究発表会リハーサル発表準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（1回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
14	事前学修	卒業研究発表会リハーサル発表準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（2回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2
15	事前学修	卒業研究発表会リハーサル発表準備	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル（3回目）	
	事後学修	指摘された修正箇所をまとめ、修正する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験：0% □小テスト：0% □レポート：0% ■演習課題：100% ■その他[ゼミでの参加姿勢（発言の積極性など）]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミナールⅣの時間にフィードバックする。または、メールおよび Slack や Scrapbox で個別に対応する。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	Web プログラミング演習
備考	実装言語は各自と教員とで相談の上決定する
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○テーマ Internet of Things (IoT) : 実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し、インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術。					
○概要 Raspberry Pi 等のマイコンを用いて、IoT に関する基本的な技術を演習形式で学ぶ。単に勉強するだけではなく、講義で学んだ内容をベースにグループワークでも作品制作を行う。講義の最終回では、制作した作品についてのプレゼンテーションも行う。					
授業における学修の到達目標					
・卒業研究に備え、主に IoT 分野における研究活動に向けた基礎的知識を身に付ける。 ・研究開発に必要なスキルを身に付け、既存のアイデアをプログラムによって再現できる。 ・数式を読み解き、プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・共同で開発するためのスキルを習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	Raspberry Pi①：セットアップ			
	事後学修	授業中に終わらなかった部分について完了させる			2
2	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	Raspberry Pi②：GPIO の基本 (LED 出力)			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
3	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	Raspberry Pi③：デジタル入力			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
4	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	Raspberry Pi④：アナログ入力			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
5	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	Raspberry Pi⑤：モーター			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
6	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	画像処理①: OpenCV			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
7	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	画像処理②：物体検出と YOLO			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2

8	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	サーバ①：Flask	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
9	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	サーバ②：IoT とクラウドサーバ	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
10	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT チーム開発をスタートさせる	
	事後学修	チーム制作を進める	2
11	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT チーム開発の経過報告と開発作業	
	事後学修	チーム制作を進める	2
12	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	IoT チーム開発の中間報告	
	事後学修	チーム制作を進める	2
13	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	卒研企画発表会（見学1日目）	
	事後学修	チーム制作を進める	2
14	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	卒研企画発表会（見学2日目）	
	事後学修	発表会に向けて資料作成を進める	2
15	事前学修	発表会に向けて資料を完成させる	2
	授業	IoT チーム開発：発表会	
	事後学修	これまでの課題を復習し、不明点を無くしておく	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： 0% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書	
参考書・Web サイト	・ Simon Monk 著、水原文 訳「Raspberry Pi クックブック 第4版」O'REILLY ・ 北山 直洋 「Python で始める OpenCV 4 プログラミング」カットシステム
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，メディア技術演習，メディアプログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて、実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○テーマ 機械学習：人工知能分野の中核をなすニューラルネットワークや強化学習などの基盤技術の総称。 マルチエージェントシステム（MAS）：人の活動や社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォーム。					
○概要 機械学習や MAS の基本的な技術を演習形式で学ぶ。単に勉強するだけではなく、講義で学んだ内容をベースにグループワークでも作品制作を行う。講義の最終回では、制作した作品についてのプレゼンテーションも行う。					
授業における学修の到達目標					
・卒業研究に備え、主に機械学習やマルチエージェントシミュレーション分野における研究活動に向けた基礎的知識を身に付ける。 ・研究開発に必要なスキルを身に付け、既存のアイデアをプログラムによって再現できる。 ・数式を読み解き、プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・共同で開発するためのスキルを習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	前期で作った作品の蒼天祭での展示方法についてチームで相談しておく			2
	授業	蒼天祭の準備①			
	事後学修	次回までに準備するものをチームで相談しておく			2
2	事前学修	チーム開発を進めておく			2
	授業	蒼天祭の準備②			
	事後学修	展示を完成させるためにチームで作業を行う			2
3	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	OpenAI API①：Chat Completion API			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
4	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	OpenAI API②：API と自作サービスを組み合わせる			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
5	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	音声認識と Whisper			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
6	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	深層学習入門①：PyTorch で深層学習を動かしてみよう			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2
7	事前学修	事前学習資料に目を通しておく			2
	授業	深層学習入門②：ニューラルネットワークの基本			
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む			2

8	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	深層学習入門③：ニューラルネットワークの学習方法	
	事後学修	課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む	2
9	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	深層学習入門④：転移学習とファイン・チューニング	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作のためのテーマを決める	2
10	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	強化学習	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
11	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS①：マルチエージェントシステムとは	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
12	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS②：古典的なシミュレーションを実装	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
13	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS③：歩行者シミュレーション	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・チーム制作を進める	2
14	事前学修	事前学習資料に目を通しておく	2
	授業	MAS④：テーマパーク問題	
	事後学修	・課題プログラムを完成させ、演習課題に取り組む ・次回の発表会に向けた資料を作成する	2
15	事前学修	発表会に向けた資料を完成させる	2
	授業	グループ制作発表会	
	事後学修	コメントを元に卒業研究のアイデアを精査する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： 0% ■演習課題：50% ■その他[グループワーク：50%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度対面またはオンラインで指導する

教科書

参考書・Web サイト

・ 掌田 津耶乃「Python/JavaScript による OpenAI プログラミング」ラトルズ
・ 小川 雄太郎「つくりながら学ぶ！PyTorch による発展ディープラーニング」マイナビブックス
・ 大内 東, 川村 秀憲, 山本 雅人「マルチエージェントシステムの基礎と応用—複雑系工学の計算パラダイム」コロナ社
・ 山影 進, 服部正太 編「コンピュータのなかの人工社会 マルチエージェント シミュレーションモデルと複雑系」共立出版
・ 山影 進「人工社会構築指南 artisoc によるマルチエージェント・シミュレーション入門

	改訂新版（人工社会の可能性）」書籍工房早山
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，メディア技術演習，メディアプログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて，実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
○テーマ IoT（Internet of Things）分野の研究，マルチエージェントシステム，機械学習およびこれらの融合的研究。					
○概要 下記の 3 テーマに関連して独自の研究テーマを選定し，新しいシステム開発や評価実験を行い新たな知見を得る。前期は先行研究の調査を踏まえてテーマを洗練させ，プロトタイプシステムを開発する。後期では実際に提案システムを開発し，考察を行う。 ゼミにおいては毎週ディスカッションを行い，研究の内容を洗練させていく。					
1. IoT 実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し，インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術について学ぶ。					
2. マルチエージェントシステム 社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォームであるマルチエージェントシステムについて学ぶ。					
3. 機械学習 人工知能実現のための基礎的な技術であるニューラルネットワークや強化学習などの技術を学ぶ。					
授業における学修の到達目標					
・研究開発に必要なスキルを身に付け，独自のアイデアをプログラムや作品として具現化できる。 ・数式を読み解き，プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・自分で計画を立ててプロジェクトを推し進めるためのマネジメント技術を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	3 年生での取り組みを振り返る			2
	授業	ガイダンス			
	事後学修	これからの 1 年の取り組みを計画する			2
2	事前学修	事前資料に目を通しておく			2
	授業	研究テーマの検討・先行研究調査の方法について			
	事後学修	授業内容を踏まえて研究テーマを検討し、関連する先行研究を調査する			2
3	事前学修	発表のための準備を行う			2
	授業	先行研究調査の内容の発表①			
	事後学修	・コメントを整理して，追加の調査を行う ・研究アイデアを検討して資料にまとめる			2
4	事前学修	発表のための準備を行う			2
	授業	先行研究調査の内容の発表②			
	事後学修	・コメントを整理して，追加の調査を行う ・研究アイデアを検討して資料にまとめる			2
5	事前学修	発表のための準備を行う			2
	授業	先行研究調査の内容の発表③			

その都度対面またはオンラインで指導する	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	HTML コーディング演習，メディア技術演習，メディアプログラミング演習，プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて，実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	辻 順平 (223 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
○テーマ IoT（Internet of Things）分野の研究，マルチエージェントシステム，機械学習およびこれらの融合的研究。					
○概要 下記の 3 テーマに関連して独自の研究テーマを選定し，新しいシステム開発や評価実験を行い新たな知見を得る。前期は先行研究の調査を踏まえてテーマを洗練させ，プロトタイプシステムを開発する。後期では実際に提案システムを開発し，考察を行う。 ゼミにおいては毎週ディスカッションを行い，研究の内容を洗練させていく。					
1. IoT 実社会におけるさまざまなデータをセンサーによって取得し，インターネットを経由してサーバーに収集・活用する技術について学ぶ。					
2. マルチエージェントシステム 社会現象を仮想的にシミュレーションするためのプラットフォームであるマルチエージェントシステムについて学ぶ。					
3. 機械学習 人工知能実現のための基礎的な技術であるニューラルネットワークや強化学習などの技術を学ぶ。					
授業における学修の到達目標					
・ 研究開発に必要なスキルを身に付け，独自のアイデアをプログラムや作品として具現化できる。 ・ 数式を読み解き，プログラム上で表現できる技術を身に付ける。 ・ 自分で計画を立ててプロジェクトを推し進めるためのマネジメント技術を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	発表のための準備を行う。			2
	授業	卒業研究発表会に向けた研究計画の発表			
	事後学修	コメントを整理して，後半に向けて改めて研究計画を精査する			2
2	事前学修	発表のための準備を行う			2
	授業	提案システムの開発および結果の議論①			
	事後学修	・ コメントを整理して，適宜研究の方向性を修正する ・ 提案システムの開発および実験を進める			2
3	事前学修	発表のための準備を行う			2
	授業	提案システムの開発および結果の議論②			
	事後学修	・ コメントを整理して，適宜研究の方向性を修正する ・ 提案システムの開発および実験を進める			2
4	事前学修	発表のための準備を行う			2
	授業	提案システムの開発および結果の議論③			
	事後学修	・ コメントを整理して，適宜研究の方向性を修正する ・ 提案システムの開発および実験を進める			2
5	事前学修	発表のための準備を行う			2

	授業	提案システムの開発および結果の議論④	
	事後学修	・コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する ・提案システムの開発および実験を進める	2
6	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	提案システムの開発および結果の議論⑤	
	事後学修	・コメントを整理して、適宜研究の方向性を修正する ・提案システムの開発および実験を進める	2
7	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	論文の骨子についての議論①	
	事後学修	コメントを整理して、適宜論文の骨子を修正する	2
8	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	論文の骨子についての議論②	
	事後学修	コメントを整理して、適宜論文の骨子を修正する	2
9	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	論文の骨子についての議論③	
	事後学修	コメントを整理して、適宜論文の骨子を修正する	2
10	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究内容まとめ①	
	事後学修	コメントの内容を元にまとめを修正する	2
11	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究内容まとめ②	
	事後学修	コメントの内容を元にまとめを修正する	2
12	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	研究内容まとめ③	
	事後学修	コメントの内容を元にまとめを修正する	2
13	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル①	
	事後学修	コメントの内容を元に発表資料を修正する	2
14	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル②	
	事後学修	コメントの内容を元に発表資料を修正する	2
15	事前学修	発表のための準備を行う	2
	授業	卒業研究発表会リハーサル③	
	事後学修	コメントの内容を元に発表資料を修正する	2

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

その都度対面またはオンラインで指導する

参考書・Web サイト	なし

	グ演習Ⅰ・Ⅱ
備考	なし
担当教員の実務経験	研究機関におけるシミュレーションシステム開発や展示等の経験に基づいて、実戦的な研究開発スキルを教育指導する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
○テーマ ショートフィルム, 映像とデザイン, 映像とコミュニケーション, プロダクション・デザイン, 映像と教育					
○ 概要 映像作品を創り, 発表する。伝えたいことは何か, 魅力的な作品をいかにして作り出すか, コンセプトをしっかりと詰め, 人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア(デジタルカメラ, デジタルビデオカメラ, 画像加工ソフト, グラフィックソフト, 動画編集ソフト等)を使い, アイデアから脚本, 絵コンテ, 撮影計画, 撮影, 動画編集, およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。 ※パソコンの基礎知識, Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。 アクティブラーニングの要素: 本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習					
授業における学修の到達目標					
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス:ゼミナールⅠの活動について説明します			
	事後学修	ゼミ活動(何を制作するのか等)の計画			2.0
2	事前学修	コンテストへの作品応募にむけてのアイデア出し			2.0
	授業	グループ分け、撮影する作品についてのディスカッション			
	事後学修	会議で決まった内容をまとめる			2.0
3	事前学修	新聞記事を選ぶ、発表準備			2.0
	授業	自分が選んだ新聞記事についてのプレゼンテーション			
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り			2.0
4	事前学修	コンテストへの応募作品のコンセプト制作			2.0
	授業	コンテストの応募作品のコンセプトの決定、ディスカッション			
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット制作、脚本執筆			2.0

		会議で決まった内容をまとめる	
5	事前学修	新聞記事を選ぶ、発表準備	2.0
	授業	自分が選んだ新聞記事についてのプレゼンテーション（2回め）	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り	2.0
6	事前学修	撮影準備、グループ会議	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画	
	事後学修	撮影スケジュールを立てる	2.0
7	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（前半）（0～1分半）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
8	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（後半）（1分半～3分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
9	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（仮編集）	
	事後学修	映像編集の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
10	事前学修	BGM、SE等の選曲、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（本編集）	
	事後学修	コンテスト作品の完成、課題のレポート作成	2.0
11	事前学修	フィールドワークの情報収集、グループ分け	2.0
	授業	フィールドワーク（記録撮影）	
	事後学修	撮影の振り返り、撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
12	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマの選定	2.0
	授業	グループディスカッション	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
13	事前学修	卒業研究企画発表会の情報収集	2.0
	授業	卒業研究企画発表会の聴講	
	事後学修	卒業研究企画発表会の感想をまとめる、レポート作成	2.0
14	事前学修	レクリエーションの準備、内容の検討	2.0
	授業	レクリエーション、グループワーク、ゼミの仲間と親睦を深める	
	事後学修	レクリエーションの内容の振り返り	2.0
15	事前学修	前期のゼミ活動について振り返り（個人）	2.0
	授業	前期の振り返り	
	事後学修	夏休みの作品制作の内容、プロジェクトの進行管理	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や、学習意欲、理解度、取り組み方、

発表、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価])	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル1
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。4年生のゼミの時間も時間を空けておいください。
担当教員の実務経験	2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作、映画製作、テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに、そこで得た知識、技術、ツール、グループワーク、プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
○テーマ ショートフィルム、映像とデザイン、映像とコミュニケーション、プロダクション・デザイン、映像と教育 ○概要 映像作品を創り、発表する。伝えたいことは何か、魅力的な作品をいかにして作り出すか、コンセプトをしっかりと詰め、人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、画像加工ソフト、グラフィックソフト、動画編集ソフト等）を使い、アイデアから脚本、絵コンテ、撮影計画、撮影、動画編集、およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。 ※パソコンの基礎知識、Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。 アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習					
授業における学修の到達目標					
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	夏休み期間の活動の振り返り			2.0
	授業	後期ガイダンス、夏休みに制作した作品の発表			
	事後学修	後期の制作活動についての計画			2.0
2	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けた準備、ディスカッション			2.0
	授業	ゼミ展示に向けた作品制作			
	事後学修	ゼミ展示の振り返り			2.0
3	事前学修	課題映像作品の事前視聴、ワークシート記入			2.0
	授業	課題映像作品の分析、ブレイクダウン			
	事後学修	課題映像作品の見方のまとめ			2.0
4	事前学修	映画祭の情報収集、スケジュールリング			2.0
	授業	フィールドワーク（映画祭参加）			
	事後学修	フィールドワークの振り返り、レポート作成			2.0

5	事前学修	コンテストへの応募作品のコンセプト制作	2.0
	授業	コンテストの応募作品のコンセプトの決定	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット作成、脚本執筆、グループ会議	2.0
6	事前学修	会議で決まった内容をまとめる	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、グループディスカッション	
	事後学修	脚本のリライト、映像演出のアイデア出し	2.0
7	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
	授業	グループディスカッション、ファシリテーション	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
8	事前学修	撮影準備、グループディスカッション	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画	
	事後学修	ショットリストの作成、撮影スケジュールを立てる、仮香盤表の作成	2.0
9	事前学修	キャスティングのイメージを固める	2.0
	授業	キャスティング、テスト制作	
	事後学修	ロケーション・ハンティング、絵コンテ作成、香盤表作成	2.0
10	事前学修	グループディスカッションの準備	2.0
	授業	グループディスカッション、撮影計画	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
11	事前学修	撮影の準備、各種手配	2.0
	授業	撮影（前半）（0～7分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り、チームワークの反省	2.0
12	事前学修	撮影の準備、各種手配、作業のアップデート	2.0
	授業	撮影（後半）（8分～15分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
13	事前学修	撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（仮編集）	
	事後学修	映像編集の見直し、完成品のブラッシュアップ	2.0
14	事前学修	BGM、SE等の選曲、編集作業、絵コンテの確認など	2.0
	授業	編集（本編集）	
	事後学修	コンテスト作品のブラッシュアップ、完成	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動の振り返り（個人）	2.0
	授業	後期の振り返り（グループ）	
	事後学修	卒業研究にむけた準備、レポート作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

1年間の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や、学習意欲、理解度、取り組み方、発表、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル1
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。3年生のゼミの時間も時間を空けておいください。
担当教員の実務経験	2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに, そこで得た知識, 技術, ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	島田 英二 (137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
○テーマ ショートフィルム, 映像とデザイン, 映像とコミュニケーション, プロダクション・デザイン, 映像と教育					
○ 概要 映像作品を創り, 発表する。伝えたいことは何か, 魅力的な作品をいかにして作り出すか, コンセプトをしっかりと詰め, 人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア (デジタルカメラ, デジタルビデオカメラ, 画像加工ソフト, グラフィックソフト, 動画編集ソフト等) を使い, アイデアから脚本, 絵コンテ, 撮影計画, 撮影, 動画編集, およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。 ※パソコンの基礎知識, Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト (Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等) の基本知識があると助けになります。 アクティブラーニングの要素: 本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習					
授業における学修の到達目標					
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる ・3 年時のゼミナールで身につけたスキルを使用して適切なアドバイスを出すことができる ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決することができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス: 4 年生でのゼミナールの活動について			
	事後学修	今後のゼミ活動について計画を立てる			2.0
2	事前学修	作品制作にむけてのアイデア出し			2.0
	授業	作品についてのディスカッション			
	事後学修	会議で決まった内容、参考になったことをまとめる			2.0
3	事前学修	3 年時に学んだプレゼンテーション技術の予習			2.0
	授業	プレゼンテーション技術の確認、アップデート			
	事後学修	プレゼンテーション技術の復習			2.0
4	事前学修	既存作品の調査、技術の調査			2.0

	授業	既存作品の調査、発表	
	事後学修	既存作品の調査発表のふりかえり	2.0
5	事前学修	作品企画の情報収集	2.0
	授業	既存作品の調査、発表	
	事後学修	既存作品の調査発表のふりかえり	2.0
6	事前学修	撮影技術の予習	2.0
	授業	撮影技術の確認、コーチング、アップデート	
	事後学修	撮影技術の復習	2.0
7	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（前半）（0～1分半）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
8	事前学修	撮影の準備、手配	2.0
	授業	撮影（後半）（1分半～3分）	
	事後学修	撮影内容をまとめる、撮影素材の管理 演出内容の振り返り	2.0
9	事前学修	作品のコンセプト制作	2.0
	授業	作品のコンセプトの決定、ディスカッション	
	事後学修	決めたコンセプトに沿った制作の準備、プロット制作、脚本執筆 会議で決まった内容をまとめる	2.0
10	事前学修	プレゼンテーションの情報収集	2.0
	授業	プレゼンテーションの進捗報告	
	事後学修	プレゼンテーションの修正、準備	2.0
11	事前学修	フィールドワークの情報収集、グループ分け	2.0
	授業	フィールドワーク（記録撮影）	
	事後学修	撮影の振り返り、撮影素材の読み込み、編集計画、絵コンテの確認など	2.0
12	事前学修	プレゼンテーション技術の予習	2.0
	授業	プレゼンテーション技術の確認、アップデート	
	事後学修	プレゼンテーション技術の復習	2.0
13	事前学修	作品プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	作品プレゼンテーション	
	事後学修	プレゼンテーションの振り返り、ブラッシュアップ	2.0
14	事前学修	レクリエーションの準備、内容の検討	2.0
	授業	レクリエーション、グループワーク、ゼミの仲間と親睦を深める	
	事後学修	レクリエーションの内容の振り返り	2.0
15	事前学修	前期のゼミ活動について振り返り（個人）	2.0
	授業	前期の振り返り	
	事後学修	夏休みの作品制作の内容、プロジェクトの進行管理	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や、学習意欲、理解度、取り組み方、発表、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル1、ゼミナール12
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。3年生のゼミの時間も時間を空けておいください。
担当教員の実務経験	2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作、映画製作、テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに、そこで得た知識、技術、ツール、グループワーク、プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	島田 英二(137 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
○テーマ ショートフィルム，映像とデザイン，映像とコミュニケーション，プロダクション・デザイン，映像と教育					
○ 概要 映像作品を創り，発表する。伝えたいことは何か，魅力的な作品をいかにして作り出すか，コンセプトをしっかりと詰め，人の心を動かす映像作品づくりを目指します。文献資料やデジタルメディア（デジタルカメラ，デジタルビデオカメラ，画像加工ソフト，グラフィックソフト，動画編集ソフト等）を使い，アイデアから脚本，絵コンテ，撮影計画，撮影，動画編集，およびプロデュースまで映像作品づくりに必要な知識と映像デザインを実践的に学びます。					
※パソコンの基礎知識，Adobe Photoshop, Illustrator, 動画編集ソフト(Adobe Premiere, Adobe After Effects, Apple Final Cut Pro, Avid 等)の基本知識があると助けになります。					
アクティブラーニングの要素：本講義では以下のアクティブラーニングの要素を含みます。 ・ディスカッション ・グループワーク ・プレゼンテーション ・実習、実験、フィールドワーク ・チーム基盤学習 ・プロジェクト学習					
授業における学修の到達目標					
・映像作品の企画・制作ができる ・人前でアイデアや意見を自信を持って発表できる ・自分以外の人のアイデアや意見を理解・尊重し、建設的に取り組むことができる ・問題が起きた場合でも前向きに問題解決にあたり、相互に協調できる ・映像制作に必要な機材やソフトウェア、IT 技術を使いこなすことができる ・3 年時のゼミナールで身につけたスキルを使用して適切なアドバイスを出すことができる ・ゼミナールのメンバーと議論をしたり協力したりして、問題を解決することができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	休み期間の活動の振り返り。作品制作の進捗状況の確認			2.0
	授業	後期ガイダンス、休み中の活動についての報告			
	事後学修	フィードバックをもとに後期の制作活動について計画を立てる			2.0
2	事前学修	大学祭のゼミ展示に向けての展示準備			2.0
	授業	大学祭のゼミ展示に向けての進捗報告、ディスカッション			
	事後学修	授業時間以外の時間も使って制作を行うこと			2.0
3	事前学修	後期の制作活動について計画を立てる			2.0
	授業	後期の制作活動についての計画			
	事後学修	後期の制作活動についての計画のアップデート			2.0
4	事前学修	映画祭参加準備			2.0

	授業	映画祭参加、フィールドワーク	
	事後学修	参加した内容をまとめる	2.0
5	事前学修	勉強会の対象作品を事前視聴する	2.0
	授業	作品勉強会、ディスカッション	
	事後学修	得られた知見をまとめる	2.0
6	事前学修	対象技術の予習、機材準備	2.0
	授業	技術講習、コーチング	
	事後学修	講習内容の復習	2.0
7	事前学修	グループディスカッションの準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
	授業	グループディスカッション、ファシリテーション、コーチング	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
8	事前学修	撮影準備、グループディスカッション	2.0
	授業	脚本のブレイクダウン、映像演出の計画、コーチング	
	事後学修	ショットリストの作成、撮影スケジュールを立てる、仮巻盤表の作成、チェック	2.0
9	事前学修	作品制作を進める	2.0
	授業	作品の進捗報告	
	事後学修	制作の準備、計画のアップデート	2.0
10	事前学修	グループディスカッション（2回め）の準備、テーマのブラッシュアップ	2.0
	授業	グループディスカッション（2回め）、ファシリテーション、コーチング	
	事後学修	グループディスカッションの振り返り、フィードバック	2.0
11	事前学修	最終制作（卒業制作の完成）を進める	2.0
	授業	最終制作の作業	
	事後学修	引き続き、最終制作を進める	2.0
12	事前学修	最終制作の進捗報告の準備	2.0
	授業	最終制作の進捗報告	
	事後学修	最終制作のプレゼンテーションに向けた準備	2.0
13	事前学修	最終制作プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーション（グループ1）	
	事後学修	フィードバックを元に作品をブラッシュアップ	2.0
14	事前学修	最終制作プレゼンテーションの準備	2.0
	授業	最終制作のプレゼンテーション（グループ2）	
	事後学修	フィードバックを元に作品をブラッシュアップ	2.0
15	事前学修	これまでのゼミ活動の振り返り	2.0
	授業	後期の振り返り、自己評価これまでのゼミ活動を振り返り、今後に活かしましょう。	
	事後学修	これまでのゼミ活動を振り返り、ゼミナールでの学びを総括しよう	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

学習の成果（■レポート：5% ■演習課題：80%）、および■その他[15% 出席状況や、学習意欲、理解度、取り組み方、発表、作品、ゼミ内での活動や貢献度などによる総合評価]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
課題、発表等へは随時解説および採点を行います。レポートに対しては、コメントによりフィードバックを行います。成果物は提出時に修正事項等を説明します。	
教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じ、指示します。
単位修得が望ましい科目	映像アニメ・演習、映像デザイン・演習、映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト、プロジェクトトライアル1、ゼミナール12
備考	3・4年生一緒にゼミ活動を行います。3年生のゼミの時間も時間を空けておいください。
担当教員の実務経験	2001年からのフリーランス映像ディレクターとしての商業映像制作, 映画製作, テレビ局での番組制作といった実務経験がある。これらをもとに, そこで得た知識, 技術, ツール, グループワーク, プロジェクトマネジメント等を学生に教える。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	湯村 翼 (315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
卒業研究に備え、アイデアを具現化するためのプロトタイプ制作に必要なスキルを身に付けます。具体的には p5.js、M5Stack、TouchDesigner、Teachable Machine といったツールの使い方を習得したり、演習を通じてライティング、リーディング、プレゼンテーションの基礎スキルを磨きます。						
授業における学修の到達目標						
・ プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる ・ プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる ・ 卒業研究に備え、研究活動に関する基礎的知識を身に付ける						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介の準備を行う				2
	授業	ゼミガイダンス・自己紹介				
	事後学修	ゼミを通じて身に付けたい技術を考える				2
2	事前学修	p5.js についてインターネットで調べる				2
	授業	p5.js 演習				
	事後学修	p5.js 演習の作成物をブラッシュアップする				2
3	事前学修	学会、論文についてインターネットで調べる				2
	授業	アカデミック入門(学会とは、論文とは、論文の探し方など)				
	事後学修	興味のある論文を探す				2
4	事前学修	p5.js 演習の成果発表準備を行う				2
	授業	p5.js 演習成果発表				
	事後学修	演習のふりかえりを行う				2
5	事前学修	M5Stack についてインターネットで調べる				2
	授業	M5Stack 演習				
	事後学修	M5Stack 演習の作成物をブラッシュアップする				2
6	事前学修	テクニカルリーディングについてインターネットで調べる				2
	授業	テクニカルリーディング演習				
	事後学修	興味のある論文を読む				2
7	事前学修	M5Stack 演習の成果発表準備を行う				2
	授業	M5Stack 演習成果発表				
	事後学修	演習のふりかえりを行う				2
8	事前学修	TouchDesigner についてインターネットで調べる				2
	授業	TouchDesigner 演習				
	事後学修	TouchDesigner 演習の作成物をブラッシュアップする				2
9	事前学修	テクニカルライティングについてインターネットで調べる				2
	授業	テクニカルライティング演習				

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
センサとビジュアル表示を組み合わせたインタラクティブシステムの開発を少人数チームで行います。アイデアを具現化するためのプロトタイプ制作をチームで実施し、チームでのプロジェクト進行を行うために必要なスキルを身に付けます。					
授業における学修の到達目標					
・ 複数の要素を組み合わせたシステムのプロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる ・ 少人数のチームでの制作において、開発および進行管理を行うことができるようになる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	チーム制作プロジェクトで実施したいテーマを考える			2
	授業	チーム制作プロジェクト 1：チームビルディング			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
2	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 2：作品アイデア出し			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
3	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 3：テーマ選定			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
4	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 4：制作（概要設計）			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
5	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 5：制作（インタフェース設計）			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
6	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 6：制作（詳細設計）			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
7	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 7：制作（概要実装）			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
8	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 8：制作（インタフェース実装）			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
9	事前学修	チーム制作プロジェクトを進める			2
	授業	チーム制作プロジェクト 9：制作（詳細実装）			
	事後学修	チーム制作プロジェクトを進める			2

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
○テーマ					
「サイバー空間」「物理空間」「人」の3つの関係性で世界を捉え新しい未来を作る研究を対象とし、「人とコンピュータの新しいインタフェースの開発」「物理空間センシングによるデータの収集と活用」といった研究に取り組んでいきます。					
○概要					
人間とコンピュータと物理を統合的に取り扱う Cyber-Physical-Human Interaction の研究に取り組み、研究を通じて最先端の技術を習得します。研究では、例えば					
・赤外線センサを用いた物体認識					
・HMD 向けの文字入力インタフェースの開発					
・家具や壁を移動できる住宅の開発					
・人工衛星データと環境センサを組み合わせた農業のスマート化					
といったテーマに取り組めます。					
授業における学修の到達目標					
・プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる					
・プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる			2
	授業	研究テーマの選定（導入）			
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える			2
2	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる			2
	授業	研究テーマの選定（作業・議論）			
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える			2
3	事前学修	研究テーマについて考えをまとめる			2
	授業	研究テーマの選定（まとめ）			
	事後学修	議論内容を踏まえ、研究テーマを具体化して考える			2
4	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる			2
	授業	関連研究テーマの調査（導入）			
	事後学修	関連研究の内容を整理する			2
5	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる			2
	授業	関連研究テーマの調査（作業・議論）			
	事後学修	関連研究の内容を整理する			2
6	事前学修	関連研究テーマについての情報をまとめる			2
	授業	関連研究テーマの調査（まとめ）			
	事後学修	関連研究の内容を整理する			2
7	事前学修	研究骨子について考えをまとめる			2
	授業	研究骨子の作成（導入）			

	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2
8	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2
	授業	研究骨子の作成（作業・議論）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2
9	事前学修	研究骨子について考えをまとめる	2
	授業	研究骨子の作成（まとめ）	
	事後学修	研究骨子の内容を整理する	2
10	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2
	授業	実験システムの設計（導入）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2
11	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2
	授業	実験システムの設計（作業・議論）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2
12	事前学修	実験システムについて考えをまとめる	2
	授業	実験システムの設計（まとめ）	
	事後学修	実験システムの内容を整理する	2
13	事前学修	研究企画について考えをまとめる	2
	授業	研究企画発表会準備（導入）	
	事後学修	研究企画発表会の準備を進める	2
14	事前学修	研究企画について考えをまとめる	2
	授業	研究企画発表会準備（作業・議論）	
	事後学修	研究企画発表会の準備を進める	2
15	事前学修	研究企画発表会でのコメントを整理する	2
	授業	研究企画発表会ふりかえり	
	事後学修	研究企画発表会でのコメントを元に今後のアクションを検討する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100 % □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ、メディアプログラミング演習、デザインプログラミング演習、ゲーム制作演習、インターネットの仕組み、Linux 演習
備考	なし
担当教員の実務経験	電機メーカーのネットワーク系研究部門およびソフトウェア開発部門、モバイルアプリ・インタラクティブシステム開発企業、フリーランスエンジニア、および国立研究開発法人における、通算 14 年間の研究開発業務経験を活かし、様々な分野でのニーズに合致したスキルが身に付くよう教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	湯村 翼(315 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
○テーマ					
「サイバー空間」「物理空間」「人」の3つの関係性で世界を捉え新しい未来を作る研究を対象とし、「人とコンピュータの新しいインタフェースの開発」「物理空間センシングによるデータの収集と活用」といった研究に取り組んでいきます。					
○概要					
人間とコンピュータと物理を統合的に取り扱う Cyber-Physical-Human Interaction の研究に取り組み、研究を通じて最先端の技術を習得します。研究では、例えば					
・赤外線センサを用いた物体認識					
・HMD 向けの文字入力インタフェースの開発					
・家具や壁を移動できる住宅の開発					
・人工衛星データと環境センサを組み合わせた農業のスマート化					
といったテーマに取り組めます。					
授業における学修の到達目標					
・プロトタイピングに必要なスキルを身に付け、アイデアを具現化できる					
・プレゼンテーションやライティングを用い、情報を適切に伝えることができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	実験システムについて考えをまとめる			2
	授業	実験システムの実装（導入）			
	事後学修	実験システムの内容を整理する			2
2	事前学修	実験システムについて考えをまとめる			2
	授業	実験システムの実装（作業・議論）			
	事後学修	実験システムの内容を整理する			2
3	事前学修	実験システムについて考えをまとめる			2
	授業	実験システムの実装（仕上げ）			
	事後学修	実験システムの内容を整理する			2
4	事前学修	実験について考えをまとめる			2
	授業	実験（準備）			
	事後学修	実験結果を整理する			2
5	事前学修	実験について考えをまとめる			2
	授業	実験（作業・議論）			
	事後学修	実験結果を整理する			2
6	事前学修	実験について考えをまとめる			2
	授業	実験（まとめ）			
	事後学修	実験結果を整理する			2
7	事前学修	実験結果について考えをまとめる			2
	授業	実験結果考察（導入）			

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	藤原 孝幸 (134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。					
毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。					
授業における学修の到達目標					
コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナール 1 の全体の内容を把握する			2
	授業	ゼミナール 1 の概要			
	事後学修	ゼミナール 1 の概要についてレポートにまとめる			2
2	事前学修	配付資料でゼミ内での ICT について予習する			2
	授業	ゼミ内での ICT			
	事後学修	ゼミ内での ICT についてレポートにまとめる			2
3	事前学修	配付資料で技術文章について予習する			2
	授業	技術文章			
	事後学修	技術文章についてレポートにまとめる			2
4	事前学修	配付資料で学術論文について予習する			2
	授業	学術論文			
	事後学修	学術論文についてレポートにまとめる			2
5	事前学修	配付資料で学術論文の調査について予習する			2
	授業	学術論文の調査			
	事後学修	学術論文の調査についてレポートにまとめる			2
6	事前学修	配付資料で学術論文の調査報告について予習する			2
	授業	学術論文の調査報告			
	事後学修	学術論文の調査報告についてレポートにまとめる			2
7	事前学修	配付資料でゼミでのプレゼンテーションについて予習する			2
	授業	ゼミでのプレゼンテーション			
	事後学修	ゼミでのプレゼンテーションについてレポートにまとめる			2
8	事前学修	ゼミ Web ページで配布した Processing による開発環境の解説に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：Processing による開発環境の解説			
	事後学修	Processing による開発環境の解説についてレポートにまとめる			2
9	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像ファイルの入出力に関するプログラムの動作確認をする			2

	授業	入門講座：画像ファイルの入出力	
	事後学修	画像ファイルの入出力についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の統計分析に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の統計分析	
	事後学修	画像の統計分析についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の 2 値化に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：画像の 2 値化	
	事後学修	画像の 2 値化についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	ゼミ Web ページで配布した 2 値画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：2 値画像処理	
	事後学修	2 値画像処理についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	学祭でのゼミ展示についてやってみたいものを考え、内容を整理しておく	2
	授業	学祭での展示内容の検討	
	事後学修	学祭での展示内容の検討についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	学祭でのゼミ展示内容について構成や必要となるシステム等を調査する	2
	授業	展示内容の企画	
	事後学修	展示内容の企画についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	学祭のゼミ展示内容について実装の流れをまとめてくる	2
	授業	展示システム実装の作業内容確認	
	事後学修	展示システム実装の作業内容確認についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□■試験： % □■小テスト： % □■レポート： 40% □■演習課題： % □■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系統)、Java もしくは Python プログラミングが必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり、研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが、他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。 毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。					
授業における学修の到達目標					
コンピュータに取りこむことができる、画像、映像、音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに、人が利用することもふまえ、どのように情報を可視化すればよいか、その応用手法を追求する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学祭のゼミ展示システムの大枠を実装する			2
	授業	学祭展示の準備			
	事後学修	学祭展示の準備についてレポートにまとめる			2
2	事前学修	ゼミ Web ページで配布したオブジェクトの検出に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：オブジェクトの検出			
	事後学修	オブジェクトの検出についてレポートにまとめる			2
3	事前学修	ゼミ Web ページで配布したフィルタ処理に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：フィルタ処理			
	事後学修	フィルタ処理についてレポートにまとめる			2
4	事前学修	ゼミ Web ページで配布した画像の局所特徴量に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：画像の局所特徴量			
	事後学修	画像の局所特徴量についてレポートにまとめる			2
5	事前学修	ゼミ Web ページで配布したテンプレートマッチングに関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：テンプレートマッチング			
	事後学修	テンプレートマッチングについてレポートにまとめる			2
6	事前学修	ゼミ Web ページで配布した外部ライブラリの利用に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：外部ライブラリの利用			
	事後学修	外部ライブラリの利用についてレポートにまとめる			2
7	事前学修	ゼミ Web ページで配布した顔検出に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：顔検出			
	事後学修	顔検出についてレポートにまとめる			2
8	事前学修	ゼミ Web ページで配布したカメラ画像処理に関するプログラムの動作確認をする			2
	授業	入門講座：カメラ画像処理			
	事後学修	カメラ画像処理についてレポートにまとめる			2
9	事前学修	ゼミ Web ページで配布した動画からのオブジェクト検出に関するプログラムの動作確認をする			2

	授業	入門講座：動画からのオブジェクト検出	
	事後学修	動画からのオブジェクト検出についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	ゼミ Web ページで配布した動画を用いた手法に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：動画を用いた手法	
	事後学修	動画を用いた手法についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	ゼミ Web ページで配布した RGB-D カメラに関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：RGB-D カメラ	
	事後学修	RGB-D カメラについてレポートにまとめる	2
12	事前学修	ゼミ Web ページで配布した距離画像処理に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：距離画像処理	
	事後学修	距離画像処理についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	ゼミ Web ページで配布した簡易モーションキャプチャの利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：簡易モーションキャプチャの利用	
	事後学修	簡易モーションキャプチャの利用についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	ゼミ Web ページで配布した RGB-D カメラを用いた応用事例に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：RGB-D カメラを用いた応用事例	
	事後学修	RGB-D カメラを用いた応用事例についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	ゼミ Web ページで配布した音声の利用に関するプログラムの動作確認をする	2
	授業	入門講座：音声の利用	
	事後学修	ゼミナール 2 で得た知見についてまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系 統), Java もしくは Python プログラミングが必要になるので, 関連する技術も含め, それ らの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例とし て解説している。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	前期	
授業概要						
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。 毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。						
授業における学修の到達目標						
コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスを確認しゼミナール3の全体の内容を把握する				2
	授業	ゼミナール3の概要				
	事後学修	ゼミナール3の概要についてレポートにまとめる				2
2	事前学修	卒研テーマの企画案についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研テーマの企画案				
	事後学修	卒研テーマの企画案についてレポートにまとめる				2
3	事前学修	卒研テーマにおける先行事例調査方針についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研テーマにおける先行事例調査				
	事後学修	卒研テーマにおける先行事例調査についてレポートにまとめる				2
4	事前学修	先行事例の調査結果(概要)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(概要)				
	事後学修	先行事例の調査結果(概要)についてレポートにまとめる				2
5	事前学修	先行事例の調査結果(実装)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(実装)				
	事後学修	先行事例の調査結果(実装)についてレポートにまとめる				2
6	事前学修	先行事例の調査結果(評価方法)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(評価方法)				
	事後学修	先行事例の調査結果(評価方法)についてレポートにまとめる				2
7	事前学修	先行事例の調査結果(問題点)についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	先行事例の調査結果(問題点)				
	事後学修	先行事例の調査結果(問題点)についてレポートにまとめる				2
8	事前学修	卒研テーマの目的の設定についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2
	授業	卒研テーマの目的の設定				
	事後学修	卒研テーマの目的の設定についてレポートにまとめる				2
9	事前学修	企画書・発表資料についてゼミ内の報告資料としてまとめる				2

	授業	企画書・発表資料	
	事後学修	企画書・発表資料についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	卒研テーマの全体の構成についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研テーマの全体の構成	
	事後学修	卒研テーマの全体の構成についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	企画書の準備をする	2
	授業	企画書の準備	
	事後学修	企画書の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	企画発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	企画発表会の発表資料の準備	
	事後学修	企画発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	企画発表会に向けた発表練習について準備する	2
	授業	企画発表会に向けた発表練習	
	事後学修	企画発表会に向けた発表練習についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	企画発表会での発表について準備する	2
	授業	企画発表会での発表	
	事後学修	企画発表会での発表についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	発表会での発表に関してゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	発表会に関する報告	
	事後学修	ゼミナール3全体についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計においてC言語(もしくはC言語の系統)、JavaもしくはPythonプログラミングが必要になるので、関連する技術も含め、それらの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は1999年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例として解説している。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	藤原 孝幸(134 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
マルチメディア情報の可視化とその応用に取り組む。 主となるテーマとしては画像・映像を扱う内容であり，研究分野の枠組みではコンピュータグラフィックスやコンピュータビジョンが該当するが，他分野のテーマを希望する場合でも検討した上で可とする予定である。 毎回の講義では、各自で調査した内容をプレゼンテーションし、そのテーマに基づいたディスカッションをする。					
授業における学修の到達目標					
コンピュータに取りこむことができる，画像，映像，音声等のマルチメディア情報を分析する技術について学ぶ。 さらに，人が利用することもふまえ，どのように情報を可視化すればよいか，その応用手法を追求する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	配付資料にてゼミナール 4 の概要を把握する			2
	授業	ゼミナール 4 の概要			
	事後学修	ゼミナール 4 の概要についてレポートにまとめる			2
2	事前学修	卒論執筆の手順についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	卒論執筆の手順			
	事後学修	卒論執筆の手順についてレポートにまとめる			2
3	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備の仕方			
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備の仕方についてレポートにまとめる			2
4	事前学修	実装するシステムの概要についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	実装するシステムの概要			
	事後学修	実装するシステムの概要についてレポートにまとめる			2
5	事前学修	全体の処理フローの検討についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	全体の処理フローの検討			
	事後学修	全体の処理フローの検討についてレポートにまとめる			2
6	事前学修	システム構築の状況についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	システム構築の状況			
	事後学修	システム構築の状況についてレポートにまとめる			2
7	事前学修	データセットの準備についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	データセットの準備			
	事後学修	データセットの準備についてレポートにまとめる			2
8	事前学修	高度な実験・評価方法についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2
	授業	高度な実験・評価方法			
	事後学修	高度な実験・評価方法についてレポートにまとめる			2
9	事前学修	評価実験の進捗についてゼミ内の報告資料としてまとめる			2

	授業	評価実験の進捗	
	事後学修	評価実験の進捗についてレポートにまとめる	2
10	事前学修	小論の準備についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	小論の準備	
	事後学修	小論の準備についてレポートにまとめる	2
11	事前学修	卒研発表会の成果物の準備をする	2
	授業	卒研発表会の成果物の準備	
	事後学修	卒研発表会の成果物の準備についてレポートにまとめる	2
12	事前学修	卒研発表会の発表資料の準備をする	2
	授業	卒研発表会の発表資料の準備	
	事後学修	卒研発表会の発表資料の準備についてレポートにまとめる	2
13	事前学修	卒研発表会に向けた発表練習の準備をする	2
	授業	卒研発表会に向けた発表練習	
	事後学修	卒研発表会に向けた発表練習についてレポートにまとめる	2
14	事前学修	卒研発表会での発表の準備をする	2
	授業	卒研発表会での発表	
	事後学修	卒研発表会での発表についてレポートにまとめる	2
15	事前学修	卒研発表会に関する報告についてゼミ内の報告資料としてまとめる	2
	授業	卒研発表会に関する報告	
	事後学修	卒研発表会に関する報告についてレポートにまとめる	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % ■レポート： 40% □演習課題： % ■その他[プレゼンテーション(60%)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミ内の報告会におけるディスカッションを通して学生へ伝える。

教科書	
参考書・Web サイト	コンピュータグラフィックス・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会) デジタル画像処理・画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会)
単位修得が望ましい科目	メディア技術演習 プログラミング演習Ⅰ デザインプログラミング演習
備考	システムもしくはソフトウェアアプリケーション設計において C 言語(もしくは C 言語の系 統), Java もしくは Python プログラミングが必要になるので, 関連する技術も含め, それ らの習得に積極的であることが望ましい。
担当教員の実務経験	担当者は 1999 年以降で主に画像処理に関する外部企業との産学連携事業に携わっている。 そこで培った、実利用を前提としたときに必要となる知見について、講義内で応用事例とし て解説している。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。						
授業における学修の到達目標						
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	自己紹介プレゼン準備				4
	授業	ガイダンス・自己紹介プレゼン（卒研を行うものは、卒研テーマの第一案の発表を含む）				
	事後学修	プロジェクトテーマについて、検討する。				2
2	事前学修	プロジェクトテーマについて、検討する。				2
	授業	各種プロジェクトの進め方・プロジェクト申請の仕方・MCC の使い方を学ぶ				
	事後学修	復習				1
3	事前学修	指定された新聞記事について、意見をまとめてくる。				2
	授業	記事を基にディスカッションを行い、クリティカルシンキングの練習を行う。				
	事後学修	グループワークを振り返る。				1
4	事前学修	指定された雑誌の記事を読み、関連する文献を調べて、問題点や解決策について意見をまとめてくる。				4
	授業	記事をグループでマインドマップにまとめ、議論する。参加プロジェクトを決定する。				
	事後学修	グループワークを振り返る。				1
5	事前学修	参加プロジェクトについて検討する。				2
	授業	プロジェクトの企画案を練る。				
	事後学修	企画案について再考する。				2
6	事前学修	企画案について再考する。				2
	授業	企画の設計				
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。				2
7	事前学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。				2
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1
8	事前学修	プロジェクト活動における個別作業				4
	授業	プロジェクトの遂行				
	事後学修	グループワークの振り返り				1

9	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	中間発表	
	事後学修	振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プレゼンの準備	4
	授業	期末発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
15	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ、発想法演習、プロジェクトトライアルⅠ 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3年生全員の応用的な課題として、ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約20棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験

	を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。					
授業における学修の到達目標					
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
2	事前学修	ゼミ展示に関するアイディア出し			2
	授業	ゼミ展示に関する議論			
	事後学修	ゼミ展示についてのアイディア深掘り			2
3	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			2
	授業	ゼミ展示の決定・プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
4	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
5	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
6	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
7	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			4
8	事前学修	プレゼン準備			4
	授業	後期中間発表			
	事後学修	発表会の振り返り			1
9	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4

	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
15	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	最終発表会	
	事後学修	振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ、発想法演習、プロジェクトトライアルⅠ 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3年生全員の応用的な課題として、ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約20棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけら

	れるような教育を実施する。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。					
授業における学修の到達目標					
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	自己紹介プレゼン準備			4
	授業	ガイダンス・自己紹介プレゼン（卒研を行うものは、卒研テーマの第一案の発表を含む）			
	事後学修	プロジェクトテーマについて、検討する。			2
2	事前学修	プロジェクトテーマについて、検討する。			2
	授業	各種プロジェクトの進め方・プロジェクト申請の仕方・MCC の使い方を学ぶ			
	事後学修	復習			1
3	事前学修	指定された新聞記事について、意見をまとめてくる。			2
	授業	記事を基にディスカッションを行い、クリティカルシンキングの練習を行う。			
	事後学修	グループワークを振り返る。			1
4	事前学修	指定された雑誌の記事を読み、関連する文献を調べて、問題点や解決策について意見をまとめてくる。			4
	授業	記事をグループでマインドマップにまとめ、議論する。参加プロジェクトを決定する。			
	事後学修	グループワークを振り返る。			1
5	事前学修	参加プロジェクトについて検討する。			2
	授業	プロジェクトの企画案を練る。			
	事後学修	企画案について再考する。			2
6	事前学修	企画案について再考する。			2
	授業	企画の設計			
	事後学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。			2
7	事前学修	グループワークの結果を踏まえて検討する。			2
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
8	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1

9	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	中間発表	
	事後学修	振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プレゼンの準備	4
	授業	期末発表	
	事後学修	発表会の振り返り	1
15	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ、発想法演習、プロジェクトトライアルⅠ 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・3年生全員の応用的な課題として、ゼミホームページなどを制作してもらいます。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約20棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験

	を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけられるような教育を実施する。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	隼田 尚彦(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
複数のプロジェクトチームに分かれ、 3・4 年生合同チームでプロジェクトを遂行します。 グループワークとプレゼンテーション中心の演習となります。					
授業における学修の到達目標					
市民としての倫理観と自覚を持ち、社会に貢献できる人材や社会、文化、倫理的な側面を理解し、国際感覚に優れた人材育成を目指し、以下の点に着目して学習することを目標とする。 グループワークがスムーズに行える。 クリティカルに考える力を身につけ、ディベートやディスカッションが活発に行える。 プロジェクト管理の基礎を身につける。 プレゼンテーション能力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
2	事前学修	ゼミ展示に関するアイディア出し			2
	授業	ゼミ展示に関する議論			
	事後学修	ゼミ展示についてのアイディア深掘り			2
3	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			2
	授業	ゼミ展示の決定・プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
4	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
5	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
6	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			1
7	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4
	授業	プロジェクトの遂行			
	事後学修	グループワークの振り返り			4
8	事前学修	プレゼン準備			4
	授業	後期中間発表			
	事後学修	発表会の振り返り			1
9	事前学修	プロジェクト活動における個別作業			4

	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
10	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
11	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
12	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
13	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
14	事前学修	プロジェクト活動における個別作業	4
	授業	プロジェクトの遂行	
	事後学修	グループワークの振り返り	1
15	事前学修	プレゼン準備	4
	授業	最終発表会	
	事後学修	振り返り	1

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題： % ■その他[グループワーク：90%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

成果物に対し、適宜指導します。

教科書	
参考書・Web サイト	適宜、指示する。
単位修得が望ましい科目	情報メディア入門Ⅰ、発想法演習、プロジェクトトライアルⅠ 卒業研究を希望する学生は、行動とデザインも履修していることが望ましい。
備考	・大学院進学もしくは就職の希望があり、根性・自発性・協調性のあるものが望ましい。 ・デザイン系の学生は、年に一度は各種コンペに必ず応募してもらいます。 ・特にグループワークを重視するので、デザイン系・技術系の枠を超えたコラボレーションが出来ることが望ましい。 ・メディアアートやまちづくりイベントなどの企画・制作などを行います。 ・芸術の森など、各種展覧会での観賞などの各種イベント企画も行ってもらいます。
担当教員の実務経験	担当者は、1993年から1996年までまちづくりコンサルタント会社の客員研究員として、総合研究開発機構が主幹する地域シンクタンクネットワーク事業に関する企画立案、バーチャルシンクタンク事業の企画立案に携わった。また、1998年以降は高齢者福祉施設の計画と施設を核とした福祉のまちづくりの企画立案に従事し、新しい考えを基にした約20棟の高齢者福祉施設等の計画設計に従事してきた。 これらの様々な企画立案等の実務経験を生かし、プロジェクトの企画立案実施に関する経験を伝え、受講学生たちが卒業研究を遂行することができるようなスキルや知識を身につけら

	れるような教育を実施する。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
日本語及び日本の風俗習慣について学ぶ。講義形式で実施するが、毎回テーマについて受講生が討論し考える機会を多く設け、卒論テーマの決定につながるようにしていく。日本語と中国語や英語との比較を通してそれぞれの言語の特徴をとらえるとともに、言語感覚も磨いていく。日本の風俗習慣に関し、他国との比較もしつつ、国際感覚を身につける。留学生との意見交換の場も設ける。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。					
授業における学修の到達目標					
1 日本語及び日本の風俗習慣について学び、より深く学びたいテーマを探す。 2 日本語と外国語の比較を通して、それぞれの言語の特徴をとらえ、言語感覚を磨く。 3 日本の風俗習慣を他国と比較し、国際感覚を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	自己紹介を考えてくる			2.0
	授業	オリエンテーション、自己紹介、世界の中の日本語			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
2	事前学修	辞書で関心のある言葉を調べてくる			2.0
	授業	日本語の語彙 1			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
3	事前学修	外来語について調べてくる			2.0
	授業	日本語の語彙 2			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
4	事前学修	同音異義語について調べてくる			2.0
	授業	日本語の語彙 3			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
5	事前学修	敬語について調べてくる			2.0
	授業	日本語の表現 1			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
6	事前学修	若者言葉について調べてくる			2.0
	授業	日本語の表現 2			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
7	事前学修	日本語の省略表現について調べてくる			2.0
	授業	日本語の表現 3			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
8	事前学修	卒業研究の資料を読んできく			2.0
	授業	卒業研究のための準備			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
9	事前学修	助数詞について調べてくる			2.0

	授業	日本語の表現 4	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	日本語と中国語の違いについて考えてくる	2.0
	授業	日本語と中国語の比較	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
11	事前学修	ビジネスマナーについて調べてくる	2.0
	授業	日本のビジネスマナー	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
12	事前学修	日本語のリズムについて調べてくる	2.0
	授業	時事問題、日本語の音声 1	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
13	事前学修	外来語の発音について調べてくる	2.0
	授業	時事問題、日本語の音声 2	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
14	事前学修	関心のあるニュースに関する調査、興味のある漢字について調べてくる	2.0
	授業	日本語の表記	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
15	事前学修	結婚式のマナーについて調べてくる	2.0
	授業	日本の結婚式のマナー	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅠに続き、日本語及び日本の風俗習慣に関する知識を深める。中国事情、台湾事情、中国語の基礎を学び、言語の知識を身につけるとともに、国際感覚を身につける。講義の後半ではそれまでの学びをもとに、各人がより深く学びたいテーマを探してそれに関して調査、発表を行う。各人の発表テーマはクラスで共有し、検討する。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。					
授業における学修の到達目標					
1 日本語及び日本の風俗習慣について学び、日本語の特徴や日本の風俗習慣への理解を深める。 2 中国語の基礎を学び言語力を向上させるとともに、中国事情、台湾事情を理解して国際社会への理解を深める。 3 ゼミナールⅠ、Ⅱでの学習内容をもとに、より深く学びたいテーマを探して調査、発表を行う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	お見舞いのマナーについて調べてくる			2.0
	授業	履修指導、オリエンテーション、日本のお見舞いのマナー			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
2	事前学修	中国語の文字について調べてくる			2.0
	授業	中国語の文字、音声 1			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
3	事前学修	中国語の文法について調べてくる			2.0
	授業	中国語の音声 2、中国語の文法			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
4	事前学修	中国語の語彙について調べてくる			2.0
	授業	中国語の語彙、中国人の言語行動			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
5	事前学修	中国料理について調べてくる			2.0
	授業	料理の中国語			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
6	事前学修	卒業研究のための資料を読んでくる			2.0
	授業	文献の調べ方			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
7	事前学修	興味のある文献を探してくる			2.0
	授業	文献検索 1、個人面談 1			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
8	事前学修	興味のある文献を探してくる			2.0
	授業	文献検索 2、個人面談 2			
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成			2.0
9	事前学修	興味のある文献を探して発表できるようにしてくる			2.0

	授業	文献まとめ発表 1	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
10	事前学修	興味のある文献を探して発表できるようにしてくる	2.0
	授業	文献まとめ発表 2	
	事後学修	本日の学習に関するミニレポートの作成	2.0
11	事前学修	これまでの学習から興味のあるテーマについて考えてくる	2.0
	授業	文献、情報検索サイトで関心のあるテーマ探し 1	
	事後学修	探したテーマについてのミニレポートの作成	2.0
12	事前学修	探したテーマについて調べてくる	2.0
	授業	文献、情報検索サイトで関心のあるテーマ探し 2	
	事後学修	探したテーマについてのミニレポートの作成	2.0
13	事前学修	探したテーマについて調べてくる	2.0
	授業	文献、情報検索サイトで関心のあるテーマ探し 3	
	事後学修	探したテーマについてのミニレポートの作成	2.0
14	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 1	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0
15	事前学修	発表準備	2.0
	授業	各自選んだテーマに関する発表 2	
	事後学修	ゼミでの意見交換を元に調査をすすめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナール I
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	飯嶋 美知子 (333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	4 年	前期	
授業概要					
卒業論文作成に向けて各人がテーマを決定し、研究計画書に沿って調査・研究を進める。調査・研究の進捗状況はその都度発表する。各人の発表テーマはクラスで共有し、検討する。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。					
授業における学修の到達目標					
1 卒業研究のテーマを決定する。 2 調査・研究のために必要な能力を身につける。 3 プレゼン能力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	興味のあるテーマについて考えてくる			2.0
	授業	オリエンテーション、研究計画書の作成方法の説明、研究計画書の作成 1			
	事後学修	研究計画書の作成方法の復習			2.0
2	事前学修	研究計画書を作成してくる			2.0
	授業	研究計画書の作成 2			
	事後学修	研究計画書を仕上げる			2.0
3	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 1			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
4	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 2			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
5	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 3			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
6	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 4			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
7	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 5			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
8	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	卒業研究中間発表会の準備			
	事後学修	発表内容をまとめる			2.0
9	事前学修	発表準備をしてくる			2.0
	授業	卒業研究中間発表会 1			

	事後学修	発表会のコメントに基づき調査・研究を進める	2.0
10	事前学修	発表準備をしてくる	2.0
	授業	卒業研究中間発表会 2	
	事後学修	発表会のコメントに基づき調査・研究を進める	2.0
11	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 6	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
12	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 7	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
13	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 8	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
14	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 9	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0
15	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める	2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 10	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	飯嶋 美知子(333 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
ゼミナールⅢに引き続き、卒業論文作成に向けて各人が研究計画書に沿って調査・研究を進める。調査・研究の進捗状況はその都度発表する。各人の発表テーマはクラスで共有し、検討する。 POLITE に参考資料をアップするので、それをもとに自主学修をしてほしい。					
授業における学修の到達目標					
1 調査・研究のために必要な能力を身につける。 2 プレゼン能力を身につける。 3 論文執筆能力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	オリエンテーション、調査・研究の進捗状況の発表 1			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
2	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 2			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
3	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 3			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
4	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 4			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
5	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 5			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
6	事前学修	研究計画書に沿って調査・研究を進める			2.0
	授業	調査・研究の進捗状況の発表 6			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに調査・研究を進める			2.0
7	事前学修	卒業論文作成方法について調べてくる			2.0
	授業	卒業論文作成の説明、卒業論文執筆 1			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める			2.0
8	事前学修	卒業論文作成を進める			2.0
	授業	卒業論文執筆 2			
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める			2.0
9	事前学修	卒業論文作成を進める			2.0
	授業	卒業論文執筆 3			

	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める	2.0
10	事前学修	卒業論文作成を進める	2.0
	授業	卒業論文執筆 4	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める	2.0
11	事前学修	卒業論文作成を進める	2.0
	授業	卒業論文執筆 5	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに卒業論文作成を進める	2.0
12	事前学修	発表内容をまとめてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会準備 1	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0
13	事前学修	発表内容をまとめてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会準備 2	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0
14	事前学修	発表準備をしてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル 1	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0
15	事前学修	発表準備をしてくる	2.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル 2	
	事後学修	ゼミでのコメントをもとに発表準備を進める	2.0

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題： 100% □その他[]

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業中に実施しクラス全体で共有する。

教科書	
参考書・Web サイト	授業中にその都度紹介する。
単位修得が望ましい科目	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
3-4 年を通じて電子音楽関連領域について研究を深めつつ、電子音楽作品、メディアアート作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探求します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。					
3 年前期では、新しいソフトウェア、ツール、機材の使い方の習得とそれによる表現の可能性を模索します。					
授業における学修の到達目標					
電子音楽や先端芸術表現、サウンドデザインに関する知識とその創作スキルの向上を目指す。プレゼンテーション、ディスカッションを通じ、他の研究や創作に関する知見を広める。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	さまざまな音楽や芸術表現に触れる			1.0
	授業	ガイダンスとスタジオユーザミーティング：G スタジオや音響機材の紹介			
	事後学修	マインドマップの制作。作品鑑賞などジャーナル（日記）をつける。			3.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察①：マインドマップをもとにヒアリングとディスカッション			
	事後学修	ディスカッションをもとに、表現や研究、ツールについて調べる。			4.0
3	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、表現や研究、ツールについて調べる。グループディスカッションの準備。			4.0
4	事前学修	特になし			0.0
	授業	グループディスカッション：自分の関心のある表現、研究、ツールについて共有する			
	事後学修	ディスカッションで得た情報について調べたり、アイデアを発展させる。			4.0
5	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション			
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験			4.0
6	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション			
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験、中間発表の準備			4.0
7	事前学修	特になし			0.0
	授業	中間発表、ディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、ソフトウェアやツールの実験や制作を進める			4.0
8	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション			
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験			4.0
9	事前学修	特になし			0.0

	授業	課題研究と考察⑥：研究課題のディスカッション	
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション	
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA や音響機材の実習	
	事後学修	PA や音響機材の使い方の復習	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑧：研究課題のディスカッション	
	事後学修	ソフトウェアやツールの実験、発表のための音響や機材のシステム図の制作	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 機材のセットアップとリハーサル（ディスカッション）	
	事後学修	全体のシステムとセットアップの考察	4.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	PA 機材のセットアップとリハーサル	
	事後学修	全体のシステムとセットアップの考察	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	作品発表会とディスカッション	
	事後学修	作品についての考察、新しい課題に関するレポート	4.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題（作品や研究）：50 % ■その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個別に対面でフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業内で配布。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド、デジタルサウンド演習
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、テクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC303	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
授業概要						
3-4 年を通じて電子音楽関連領域について研究を深めつつ、電子音楽作品、メディアアート作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探究します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。						
3 年後期では、これまでに習得したツールを組み合わせる、または新しい創作スキルの修得を実践的に学びつつ、表現分野の研究にはどのようなものがあるか、または社会的課題解決における創作物の役割について考察していきます。また、3 年後期の課題はイベント形式で行われる発表会で発表します。						
授業における学修の到達目標						
電子音楽や先端芸術表現の知識と、作品の創作スキルの向上を目指す。また、ライブイベントに関連する機材の扱いやイベント運営スキルを身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	マインドマップの制作（前期の反省、関心キーワード）				2.0
	授業	課題研究と考察①：マインドマップをもとにヒアリングとディスカッション				
	事後学修	創作アイディアを思考する。表現分野に関する研究や研究方法論について調べる。				2.0
2	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。表現分野に関する研究や研究方法論について調べる。				4.0
3	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。表現や創作を活かした課題解決の検討。				4.0
4	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。表現や創作を活かした課題解決の検討。				4.0
5	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。自分の研究課題の設定。				4.0
6	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑥：研究課題のディスカッション				
	事後学修	創作実験と考察。自分の研究課題の明確化。中間発表の準備。				4.0
7	事前学修	特になし				0.0
	授業	中間発表とディスカッション				
	事後学修	フィードバックをもとに、創作実験と考察を進める。				4.0
8	事前学修	特になし				0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション				
	事後学修	研究や創作のプレゼン方法と効果について比較検討する。				4.0
9	事前学修	特になし				0.0

	授業	PA 機材の検討、ステージ転換の検討、リハーサル準備	
	事後学修	各役割のスタッフごとにミーティング（舞台転換確認や打ち合わせ、機材確認）	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	SonicIt コンサートリハーサル	
	事後学修	リハーサルの反省から作品や企画運営について再検討する（グループ）	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	SonicIt コンサートリハーサル	
	事後学修	リハーサルの反省から作品や企画運営について再検討する（グループ）	4.0
12	事前学修	イベント会場の設営	2.0
	授業	SonicIt コンサートの運営と実演	
	事後学修	コンサートの反省や今後の課題の検討	2.0
13	事前学修	作品アーカイブの制作（含: ミックスダウン、ポストプロダクション etc.）	2.0
	授業	作品のポストプロダクションとアーカイブについて	
	事後学修	作品のポストプロダクションとアーカイブ作業	2.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	作品アーカイブについてのフィードバック	
	事後学修	作品のポストプロダクションとアーカイブ作業	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	アーカイブのディスカッション、1 年間のまとめと今後の課題について	
	事後学修	アーカイブをファイナライズ。提出またはパブリケーション。	4.0

成績評価の方法およびその基準

■ 演習課題（作品や研究）：50 % ■ その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

対面でフィードバック

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて授業内で配布や指示。
単位修得が望ましい科目	芸術演習（音楽）、デジタルサウンド・演習、デジタルサウンド、ゼミナール I
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、テクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
電子音楽や先端芸術領域について研究を深めつつ、作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探求します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。 4 年前期では、研究テーマと先行研究の調査と、どのような作品制作を通じて課題に取り組んでいくのかについて考察実践していきます。また、中間および最終発表会やディスカッションを通して、研究作品の見せ方および社会とのつながり方についても検討します。					
授業における学修の到達目標					
電子音楽領域の知識、関連ソフトウェアや創作ツールの修得、創作スキルの向上、創造的思考力の向上。プレゼンテーション、ディスカッションを通じクリティカルな視点の修得。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅡでの作品や研究について振り返る			1.0
	授業	過去の作品についてのディスカッションと研究課題の考察			
	事後学修	今学期の創作研究課題を考え、資料を用意する（作品や表現のリサーチ、研究のリサーチ、自分が関心があるテーマは何か）			3.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察①：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、研究課題とアプローチ（具体的方法）を検討			4.0
3	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
4	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
5	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
6	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション			
	事後学修	これまでの実験の成果や進捗をまとめ、中間発表の準備（スライド、作品等）			4.0
7	事前学修	特になし			0.0
	授業	中間発表会とディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）			4.0
8	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑥：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）			4.0
9	事前学修	特になし			0.0

	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑧：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑨：研究課題のディスカッションと、発表に向けた考察	
	事後学修	創作や研究課題を進めつつ、最適な発表や展示の形態を考察する。発表に必要な機材やセットアップの資料を制作。	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑩：研究課題と発表に関するディスカッション	
	事後学修	これまでの成果をまとめ（スライド、作品）、発表の準備	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	研究発表会リハーサル	
	事後学修	配線やセットアップの点検、発表資料のアップデート	4.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	研究発表会①	
	事後学修	フィードバックをもとに自分の研究をどのようにアップデートできるか考察する。	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	研究発表会②	
	事後学修	フィードバックをもとに自分の研究をどのようにアップデートできるか考察する。	4.0
成績評価の方法およびその基準			
■ 演習課題（作品や研究）：50% ■ その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業中に個別で対面指導			
教科書			
参考書・Web サイト		適宜授業内で提示する。	
単位修得が望ましい科目		デジタルサウンド演習、芸術演習、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ	
備考		なし	
担当教員の実務経験		作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。	

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	平山 晴花(128 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
電子音楽や先端芸術領域について研究を深めつつ、作品の創作に挑むことで、テクノロジーを応用した新しい芸術表現を探索します。また、そのような作品がどのように社会的課題解決のキーとなり得るかについて検討します。 4 年後期では創作を発展させつつ、研究テーマに関する独自の視点やアプローチ、表現の工夫について言語化します。そして、卒業発表会において最終的なプレゼンテーションを行います。					
授業における学修の到達目標					
電子音楽、先端芸術領域の知識、関連ソフトウェアや創作ツールの修得、創作スキルの向上、創造的思考力の向上。プレゼンテーション、ディスカッションを通じクリティカルな視点の修得。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	前期発表会の反省点や今後の方針を検討する。			2.0
	授業	課題研究と考察①：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
2	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察②：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
3	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察③：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
4	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察④：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに、創作や研究課題に取り組む（実験、創作、研究）			4.0
5	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑤：研究課題のディスカッション			
	事後学修	これまでの実験の成果や進捗をまとめ、中間発表の準備（スライド、作品等）			4.0
6	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑥：中間発表の資料のフィードバック、ディスカッション			
	事後学修	中間発表のための資料のアップデート			4.0
7	事前学修	特になし			0.0
	授業	中間発表とディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）			4.0
8	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑦：研究課題のディスカッション			
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）			4.0
9	事前学修	特になし			0.0
	授業	課題研究と考察⑧：研究課題のディスカッション			

	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
10	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑨：研究課題のディスカッション	
	事後学修	フィードバックをもとに今後の方針を検討し、創作や研究課題を進める（実験、創作、研究）	4.0
11	事前学修	特になし	0.0
	授業	課題研究と考察⑩：研究課題と発表に関するディスカッション	
	事後学修	研究成果のまとめ、発表に必要な機材やセットアップの資料を制作。	4.0
12	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル①（グループ1）	
	事後学修	配線やセットアップの点検、発表資料のアップデート	4.0
13	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会リハーサル②（グループ2）	
	事後学修	配線やセットアップの点検、発表資料のアップデート	4.0
14	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会①	
	事後学修	他の研究を見聞、体験し、知見を広める。自分の研究の反省やアップデート。	4.0
15	事前学修	特になし	0.0
	授業	卒業研究発表会②	
	事後学修	他の研究を見聞、体験し、知見を広める。自分の研究の反省やどのように今後に活かせるかを検討する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

■演習課題（作品や研究）：50% ■その他[発表会の内容や制作資料、ディスカッション等での参加度]：50%

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中に個別で対面指導

教科書	
参考書・Web サイト	適宜授業内で提示する。
単位修得が望ましい科目	デジタルサウンド演習、芸術演習、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
備考	なし
担当教員の実務経験	作曲家としての経験、音楽レッスンや国内外の大学での専門分野の指導経験を生かし、広い視点からテクノロジーと芸術領域の先端表現について授業を行う。

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年, 国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは, 「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして, データの利活用方法に関する基礎研究と, 計算機を用いた実践的研究を行うと共に, 結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅠ」では, データサイエンスの基盤となる方法や技術の学習・実習を通して, 次年度の本格的な研究に向けた準備を行います。					
授業における学修の到達目標					
1. データを通して現象をみることができる 2. データサイエンスの基本的な考え方や具体的な方法が説明できる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスをみて, 1 年間のゼミ活動の流れを把握する			2.0
	授業	ガイダンス (ゼミ活動の流れと計画)			
	事後学修	研究テーマの検討をはじめる			2.0
2	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査をはじめる			2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 1 回)			
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める			2.0
3	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続			2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 2 回)			
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める			2.0
4	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続			2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 3 回)			
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める			2.0
5	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続			2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 4 回)			
	事後学修	講義におけるアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める			2.0
6	事前学修	自分が関心をもつ現象と調査データの入手可能性について、Web 上で調査を継続			2.0
	授業	自分が関心をもつ現象、研究テーマに関する提案と検討 (第 5 回)			
	事後学修	講義におけるアドバイスを参考にして, 研究テーマに関する理解を深める			2.0
7	事前学修	研究テーマに基づいて, Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を開始し, 報告用資料を作成			2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (第 1 回)			
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める			2.0
8	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成			2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (第 2 回)			
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める			2.0

9	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (第 3 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
10	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (可視化の方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
11	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (関係性を把握する方法)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
12	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (統計的なモデル化の方法, 1 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
13	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (統計的なモデル化の方法, 2 回目)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
14	事前学修	教科書で該当する内容を学習し, 発表用資料を準備	2.0
	授業	データ分析の方法論 (統計モデルの応用)	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして, 方法論に関する理解を深める	2.0
15	事前学修	報告会用の資料(スライド)を作成する	2.0
	授業	研究活動に関する報告会を実施	
	事後学修	講義でのアドバイスを参考にして研究内容を振り返り, 後期の研究活動の参考にする	2.0

成績評価の方法およびその基準

■ 演習課題 : 100% □ ■ その他 []

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を確認しながら, 個別にアドバイスします。

教科書	書名 : データサイエンス演習 (改訂版), 著者名 : 甫喜本 司, 出版社 : 学術図書出版社, 備考 :
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目
備考	学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IPC303	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	後期	
授業概要						
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅡ」では、「ゼミナールⅠ」で学んだ内容の上に、現実の現象をデータより分析する際に必要となるデータの分析技術について学習・実習を行いながら、次年度の本格的な研究に向けた準備を行います。						
授業における学修の到達目標						
1. データサイエンスの基本的な考え方や具体的な方法が説明できる						
2. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる						
3. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 1 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
2	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 2 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
3	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 3 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
4	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 4 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
5	事前学修	POLITE で該当するプログラミングの課題を確認し、不明な点を明確にしておく				2.0
	授業	R プログラミングのトレーニング (第 5 回)				
	事後学修	アドバイスを基に、できなかった考え方や技術を学習する				2.0
6	事前学修	入手した観測データより、分析用のデータセットを整備、報告用資料を作成				2.0
	授業	分析データの整備 (第 1 回)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続				2.0
7	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続、報告用資料を作成				2.0
	授業	分析データの整備 (第 2 回)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続				2.0
8	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続、報告用資料を作成				2.0
	授業	分析データの整備 (第 3 回)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、作業を継続				2.0

9	事前学修	R 環境を用いて、データの分析を開始する	2.0
	授業	データの分析と評価 (第 1 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
10	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データの分析と評価 (第 2 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、分析や評価で不明な点の理解を深める	2.0
11	事前学修	研究テーマとして設定した問題を解決するための方法について考えてみる	2.0
	授業	データ分析に基づく問題の解決 (第 1 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
12	事前学修	応用問題の検討を継続し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データ分析に基づく問題の解決 (第 2 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
13	事前学修	応用問題の検討を継続し、報告用資料を作成	2.0
	授業	データ分析に基づく問題の解決 (第 3 回)	
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める	2.0
14	事前学修	これまでの研究経過をまとめて、報告会用のスライドを作成する	2.0
	授業	報告会用スライドの作成	
	事後学修	アドバイスを参考にして、スライドの作成を継続する	2.0
15	事前学修	スライドの作成作業を継続する	2.0
	授業	成果報告会	
	事後学修	コメントを基に、より発展的な問題点を検討する	2.0

成績評価の方法およびその基準

■ 演習課題： 100% □ ■ その他 []

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を適宜確認しながら、個別、あるいは POLITE を通じてアドバイスします。

教科書	書名：データサイエンス演習 (改訂版), 著者名：甫喜本 司, 出版社：学術図書出版社, 備考：
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	プログラミング実習系の科目, BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数
備考	学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅢ」「ゼミナールⅣ」では、現実の様々な問題をデータの分析を通して解決することを大きな目標とします。具体的には、現実の問題を発掘するところからスタートし、解決するために必要となる方法の検討や開発、分析結果の検討を通して、問題の解決を行うというプロセスを1年間かけて行います。「ゼミナールⅢ」では、問題の発掘からデータを整備する段階までのプロセスを進めていきます。					
授業における学修の到達目標					
1. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる					
2. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる					
3. データサイエンスの技術をとおして、現実の問題を解決することができる					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	ゼミナールⅠで実施した内容を参考にしながら、研究活動の計画案を考える			2.0
	授業	研究計画案の作成 (1 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、研究計画を再考、修正する			2.0
2	事前学修	修正した研究計画の案について研究計画書を更新			2.0
	授業	研究計画案の作成 (2 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、研究計画を再考、修正する			2.0
3	事前学修	修正した研究計画の案について研究計画書を更新			2.0
	授業	研究計画案の作成 (3 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、研究計画を再考、修正する			2.0
4	事前学修	研究計画に基づいて、Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を開始し、報告用資料を作成			2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (1 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、現象やデータに関する理解を深める			2.0
5	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成			2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (2 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、現象やデータに関する理解を深める			2.0
6	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成			2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (3 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、現象やデータに関する理解を深める			2.0
7	事前学修	Web を活用した当該現象の調査、および観測データの収集を継続、報告用資料を作成			2.0
	授業	現象の調査、およびデータの収集 (4 回目の検討)			
	事後学修	アドバイスを参考にし、現象やデータに関する理解を深める			2.0

8	事前学修	Web を活用した当該現象の調査, および観測データの収集を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	現象の調査, およびデータの収集 (5 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 現象やデータに関する理解を深める	2.0
9	事前学修	収集した観測データより, 分析用データの整備作業を開始	2.0
	授業	分析データの整備 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 作業を継続	2.0
10	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 作業を継続	2.0
11	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 作業を継続	2.0
12	事前学修	分析用データセットの整備作業を継続, 報告用資料を作成	2.0
	授業	分析データの整備 (4 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 作業を継続	2.0
13	事前学修	分析用データセットの整備作業を完成させる	2.0
	授業	報告会用のスライドを準備 (1 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 報告会用のスライド作成を始める	2.0
14	事前学修	アドバイスを参考にしてスライドの作成・改訂を続ける	2.0
	授業	報告会用のスライドを準備 (2 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にしてスライドの作成・改訂を続ける	2.0
15	事前学修	アドバイスを参考にしてスライドの作成・改訂を続ける	2.0
	授業	報告会の実施	
	事後学修	アドバイスを参考にしてこれまでの作業内容を振り返り、課題となる点について検討する	2.0

成績評価の方法およびその基準

□■演習課題：100% □■その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題の進捗を確認しながら、個別にアドバイスします。

教科書	
参考書・Web サイト	CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)
単位修得が望ましい科目	BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目
備考	学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。
担当教員の実務経験	1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	甫喜本 司 (327 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ		IMC409	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	後期	
授業概要						
データの背景にある情報を科学的に推測するための様々な方法論や技術論をまとめた体系は「データサイエンス」とよばれています。近年、国内外の企業が望む人材の一つとして「データサイエンティスト」が挙げられるようになりました。本ゼミナールでは、「データサイエンスと現象解明への応用」を大きなテーマとして、データの利活用方法に関する基礎研究と、計算機を用いた実践的研究を行うと共に、結果のプレゼンテーションやディスカッションを行います。 「ゼミナールⅣ」では、「ゼミナールⅢ」で整備してきた実際のデータを基に、問題を解決するために必要となる方法の検討を行うと共に、この方法を実行した結果を評価しながら、自分の力で問題の解決を行うというプロセスを実施します。また、1年間の研究を通して得られた研究成果を発表することを目標とします。						
授業における学修の到達目標						
1. データ分析の結果に基づいて現象を適切に評価できる						
2. 計算機でデータの構造に応じた処理や分析を行うためのプログラミングができる						
3. データサイエンスの技術をとおして、現実の問題を解決することができる						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	「ゼミナールⅢ」の報告会におけるアドバイスを参考にしながら、これまでに行ってきた研究内容を振り返る				2.0
	授業	今後の研究計画に関する立案				
	事後学修	アドバイスを参考にして、計画書を作成				2.0
2	事前学修	データ分析の計画について考え、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (1 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にしてデータの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
3	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (2 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にしてデータの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
4	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (3 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にしてデータの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
5	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (4 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にしてデータの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
6	事前学修	データ分析, 評価に関する作業を継続し、報告書を作成				2.0
	授業	データの分析と評価 (5 回目の検討)				
	事後学修	アドバイスを参考にしてデータの分析と評価を行い、不明な点の理解を深める				2.0
7	事前学修	研究テーマの達成に向けて、問題の解決方法を考える				2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (1 回目)				
	事後学修	アドバイスを参考にして、問題となっている点の理解を深める				2.0
8	事前学修	問題の解決方法を引き続き検討し、報告用資料を作成				2.0

	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (2 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
9	事前学修	問題の解決方法を引き続き検討し, 報告用資料を作成	2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (3 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
10	事前学修	問題の解決方法を引き続き検討し, 報告用資料を作成	2.0
	授業	データに基づく問題解決に向けた検討 (4 回目)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, 問題となっている点の理解を深める	2.0
11	事前学修	研究成果を整理し, 研究報告会用のスライドを作成する	2.0
	授業	研究報告会用スライドの作成 (1 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成・改訂を行う	2.0
12	事前学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成・改訂を継続	2.0
	授業	研究報告会用スライドの作成 (2 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成・改訂を行う	2.0
13	事前学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成・改訂を継続	2.0
	授業	研究報告会用スライドの作成 (3 回目の検討)	
	事後学修	アドバイスを参考にして, スライドの作成・改訂を行う	2.0
14	事前学修	報告会の準備を行う (グループ 1)	2.0
	授業	研究報告会 (1 回目, グループ 1)	
	事後学修	コメントを基に, より発展的な問題点を検討する	2.0
15	事前学修	報告会の準備を行う (グループ 2)	2.0
	授業	研究報告会 (1 回目, グループ 2)	
	事後学修	コメントを基に, より発展的な問題点を検討する	2.0
成績評価の方法およびその基準			
□■演習課題: 100% □■その他[]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
課題の進捗を確認しながら, 個別にアドバイスします。			
教科書			
参考書・Web サイト		CRAN (The Comprehensive R Archive Network) https://cran.r-project.org/index.html (日本国内にミラーサイトあり)	
単位修得が望ましい科目		BI とビッグデータ, 確率・統計, 微分積分, 線形代数, プログラミング実習系の科目	
備考		学習内容を説明した後, 受講者が個別に教員と検討する形で進められます。	
担当教員の実務経験		1990 年から 1991 年まで企業の研究所に所属し, データ科学に基づく投資技術の開発に携わってきました。 本ゼミナールでは, データ科学を基盤とした実現象の分析に取り組みます。統計学や確率論をはじめとする基礎学習と並行して, 企業の技術開発の中でデータ科学の考え方がどのように役立っているかという 実際面についても随時紹介したいと思います。	

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	前期
授業概要					
スポーツに関する様々な要素を数値化し、得られた情報の伝達方法、表現方法、分析方法などを学ぶ、また、様々な測定機器についてその使用方法や応用法について理解を深める。					
授業における学修の到達目標					
・ スポーツデータを適切に扱い、処理することができる。 ・ 様々な測定機器の使用方法について理解することができる。 ・ 自身の卒業研究に向けた計画を立てることができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	スポーツデータサイエンスについてインターネットで調べる			2
	授業	スポーツデータサイエンスとは			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
2	事前学修	実際のスポーツ現場でデータがどのように扱われているのかを調べる			2
	授業	スポーツデータサイエンスの実際①			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
3	事前学修	実際のスポーツ現場でデータがどのように扱われているのかを調べる			2
	授業	スポーツデータサイエンスの実際②			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
4	事前学修	実際のスポーツ現場でデータがどのように扱われているのかを調べる			2
	授業	スポーツデータサイエンスの実際③			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
5	事前学修	指定された用語をインターネットで調べる			2
	授業	様々な測定機器の使用法を学ぶ①			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
6	事前学修	指定された用語をインターネットで調べる			2
	授業	様々な測定機器の使用法を学ぶ②			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
7	事前学修	指定された用語をインターネットで調べる			2
	授業	様々な測定機器の使用法を学ぶ③			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
8	事前学修	指定された用語をインターネットで調べる			2
	授業	様々な測定機器の使用法を学ぶ④			
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる			2
9	事前学修	スポーツデータサイエンスに関する論文を探し内容をまとめる			2
	授業	ゼミ内発表会①			
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめる			2

10	事前学修	スポーツデータサイエンスに関する論文を探し内容をまとめる	2
	授業	ゼミ内発表会②	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめる	2
11	事前学修	スポーツデータサイエンスに関する論文を探し内容をまとめる	2
	授業	ゼミ内発表会③	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめる	2
12	事前学修	指定された用語をインターネットで調べる	2
	授業	モーションキャプチャシステム演習①	
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる	2
13	事前学修	指定された用語をインターネットで調べる	2
	授業	モーションキャプチャシステム演習②	
	事後学修	学習内容を振り返りまとめる	2
14	事前学修	卒業研究の実験に向けた計画を立てる	2
	授業	実験計画発表会①	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめ、計画を見直す	2
15	事前学修	卒業研究の実験に向けた計画を立てる	2
	授業	実験計画発表会②	
	事後学修	自身の発表の際に出た意見をまとめ、計画を見直す	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	青森県スポーツ科学センター スポーツ科学専門員

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
スポーツに関する様々な要素を数値化し、得られた情報の伝達方法、表現方法、分析方法などを学ぶ。また、様々な測定機器についてその使用方法や応用法について理解を深める。さらに、卒業研究に向けた実験への準備を行う。					
授業における学修の到達目標					
・ スポーツデータを適切に扱い、処理することができる。 ・ 様々な測定機器の使用方法について理解することができる。 ・ 自身の卒業研究に向けた計画を立てることができる。 ・ 卒業研究に向けた実験を行う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	スポーツバイオメカニクスについて調査する			2
	授業	スポーツバイオメカニクスとは			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
2	事前学修	各種スポーツとスポーツバイオメカニクスとの関係を調査する			2
	授業	スポーツバイオメカニクスの実際①			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
3	事前学修	各種スポーツとスポーツバイオメカニクスとの関係を調査する			2
	授業	スポーツバイオメカニクスの実際②			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
4	事前学修	各種スポーツとスポーツバイオメカニクスとの関係を調査する			2
	授業	スポーツバイオメカニクスの実際③			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
5	事前学修	どのようなウェアラブル機器があるのか調査する			2
	授業	ウェアラブル機器の使用方法①			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
6	事前学修	どのようなウェアラブル機器があるのか調査する			2
	授業	ウェアラブル機器の使用方法②			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
7	事前学修	どのようなウェアラブル機器があるのか調査する			2
	授業	ウェアラブル機器の使用方法③			
	事後学修	講義内容を振り返りまとめる			2
8	事前学修	自身の実験計画書を作成する			2
	授業	実験計画の発表会① 相互に発表し合いお互いの計画をブラッシュアップする			
	事後学修	発表内で出た意見を計画書に反映させる			2
9	事前学修	自身の実験計画書を作成する			2

	授業	実験計画の発表会② お互いの計画をブラッシュアップする	
	事後学修	発表内で出た意見を計画書に反映させる	2
10	事前学修	自身の実験の準備を行う	2
	授業	予備実験① お互い実験結果を議論する	
	事後学修	実験で得られたデータをまとめる	2
11	事前学修	自身の実験の準備を行う	2
	授業	予備実験② お互い実験結果を議論する	
	事後学修	実験で得られたデータをまとめる	2
12	事前学修	自身の実験の準備を行う	2
	授業	予備実験③ お互い実験結果を議論する	
	事後学修	実験で得られたデータをまとめる	2
13	事前学修	結果報告用の資料を作成する	2
	授業	実験の分析，結果報告① 他者の結果に対する質疑応答	
	事後学修	発表内で出た意見をもとに考察する	2
14	事前学修	結果報告用の資料を作成する 他者の結果に対する質疑応答	2
	授業	実験の分析，結果報告② 他者の結果に対する質疑応答	
	事後学修	発表内で出た意見をもとに考察する	2
15	事前学修	結果報告用の資料を作成する	2
	授業	実験の分析，結果報告③ 他者の結果に対する質疑応答	
	事後学修	発表内で出た意見をもとに考察する	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

その都度口頭あるいはオンラインで行う

教科書	
参考書・Web サイト	必要に応じて適宜紹介する
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	青森県スポーツ科学センター スポーツ科学専門員

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ		IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
本講義の初期段階では、スポーツ科学の基礎理論の紹介と研究の全体像の理解を目指す。第 1 回目の講義では、スポーツ科学の概要と講義計画の説明に加え、研究の重要性について議論する。					
第 2 回から第 5 回にかけては、研究テーマに基づいた実験計画の作成を行う。研究目的と仮説の設定に重点を置き、実験計画の作成に必要な先行研究のレビューを行う。この過程を通じて、学生は自身の研究計画案を作成する。					
第 6 回から第 10 回までは実験の準備に焦点を当てる。実験デザインの基礎、サンプルサイズの計算方法、実験機器の使い方を学び、実験準備の実践的なスキルを身につける。この段階で、学生は実験準備を具体的に進める。					
第 11 回から第 15 回にかけては、実験の実施とデータ収集を行う。実験手順の確認、安全管理の重要性に加え、データ収集方法と問題発生時の対処法について学ぶ。この期間中、学生は実験データの整理と初歩的なデータ分析を行う。					
授業における学修の到達目標					
・ スポーツ科学の研究テーマを選定し、その研究問題を特定できるようになる。					
・ 学生は実験デザインの基本原則を理解し、適切なサンプルサイズの計算、実験機器の選定と使用方法についての知識を習得し、実験実施に向けた具体的な準備を行えるようになる。					
・ 実験プロトコルに従って実験を安全かつ効率的に実施し、収集したデータを整理・分析する基本的な能力を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	スポーツ科学の基礎に関する文献の読解			2
	授業	スポーツ科学の概要、講義計画の説明、研究の重要性			
	事後学修	研究テーマの選定に関する予備調査			2
2	事前学修	研究テーマに関連する先行研究のレビュー①			2
	授業	研究問題の特定、研究目的と仮説の設定、実験計画の策定			
	事後学修	自身の研究計画案の作成			2
3	事前学修	研究テーマに関連する先行研究のレビュー			2
	授業	研究問題の特定、研究目的と仮説の設定、実験計画の策定②			
	事後学修	自身の研究計画案の作成			2
4	事前学修	研究テーマに関連する先行研究のレビュー			2
	授業	研究問題の特定、研究目的と仮説の設定、実験計画の策定③			
	事後学修	自身の研究計画案の作成			2
5	事前学修	研究テーマに関連する先行研究のレビュー			2
	授業	研究問題の特定、研究目的と仮説の設定、実験計画の策定④			
	事後学修	自身の研究計画案の作成			2
6	事前学修	必要な実験機器と方法に関する文献の読解			2
	授業	実験デザイン、サンプルサイズの計算、実験機器の使い方①			
	事後学修	実験準備			2
7	事前学修	必要な実験機器と方法に関する文献の読解			2
	授業	実験デザイン、サンプルサイズの計算、実験機器の使い方②			
	事後学修	実験準備			2

成績評価の方法およびその基準

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

教科書

単位修得が望ましい科目

担当教員の実務経験

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	綿谷 貴志 (227 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
第 1 回から第 5 回までは、収集した実験データの解析に注力する。統計学の基礎から始め、使用する統計ソフトウェアの操作方法までを学び、データの統計解析方法と結果の解釈について理解を深める。					
第 6 回から第 10 回では、研究論文の作成を行う。科学的論文の構造、データの提示方法、考察の作成方法について学び、研究成果を論文としてまとめる技術を習得する。					
第 11 回から第 15 回は、発表会資料の作成と発表練習に焦点を当てる。効果的なプレゼンテーション技術とパワーポイントの使い方を学び、発表資料の作成方法を理解する。最終的に、クラス内での発表会を実施し、フィードバックを受けることで、学生は研究発表の経験を積む。					
授業における学修の到達目標					
・ 学生は統計学の基本原理を理解し、使用する統計ソフトウェアの操作技術を習得し、解析結果の解釈とその科学的意義を把握できるようになる。					
・ 学生は科学的論文の構造と書き方を理解し、自らの研究成果を論文としてまとめる能力を習得する。					
・ 研究成果を効果的に伝えるためのプレゼンテーションスキルを習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	統計学の基礎、使用する統計ソフトウェアの予習			2
	授業	データの統計解析方法、結果の解釈、統計ソフトウェアの使用①			
	事後学修	自身のデータの統計解析			2
2	事前学修	統計学の基礎、使用する統計ソフトウェアの予習			2
	授業	データの統計解析方法、結果の解釈、統計ソフトウェアの使用②			
	事後学修	自身のデータの統計解析			2
3	事前学修	統計学の基礎、使用する統計ソフトウェアの予習			2
	授業	データの統計解析方法、結果の解釈、統計ソフトウェアの使用③			
	事後学修	自身のデータの統計解析			2
4	事前学修	統計学の基礎、使用する統計ソフトウェアの予習			2
	授業	データの統計解析方法、結果の解釈、統計ソフトウェアの使用④			
	事後学修	自身のデータの統計解析			2
5	事前学修	統計学の基礎、使用する統計ソフトウェアの予習			2
	授業	データの統計解析方法、結果の解釈、統計ソフトウェアの使用⑤			
	事後学修	自身のデータの統計解析			2
6	事前学修	科学的論文の構造、文献の引用方法			2
	授業	論文の書き方、データの提示方法、討論の作成①			
	事後学修	研究論文のドラフトの作成			2
7	事前学修	科学的論文の構造、文献の引用方法			2
	授業	論文の書き方、データの提示方法、討論の作成②			
	事後学修	研究論文のドラフトの作成			2
8	事前学修	科学的論文の構造、文献の引用方法			2

	授業	論文の書き方、データの提示方法、討論の作成③	
	事後学修	研究論文のドラフトの作成	2
9	事前学修	科学的論文の構造、文献の引用方法	2
	授業	論文の書き方、データの提示方法、討論の作成④	
	事後学修	研究論文のドラフトの作成	2
10	事前学修	科学的論文の構造、文献の引用方法	2
	授業	論文の書き方、データの提示方法、討論の作成⑤	
	事後学修	研究論文のドラフトの作成	2
11	事前学修	効果的なプレゼンテーションの技術、パワーポイントの使い方	2
	授業	発表資料の作成、ビジュアルエイドの活用、発表スキル①	
	事後学修	自身の研究発表の準備、資料の作成	2
12	事前学修	効果的なプレゼンテーションの技術、パワーポイントの使い方	2
	授業	発表資料の作成、ビジュアルエイドの活用、発表スキル②	
	事後学修	自身の研究発表の準備、資料の作成	2
13	事前学修	効果的なプレゼンテーションの技術、パワーポイントの使い方	2
	授業	発表資料の作成、ビジュアルエイドの活用、発表スキル③	
	事後学修	自身の研究発表の準備、資料の作成	2
14	事前学修	自身の発表資料の最終確認、質疑応答の準備	2
	授業	発表練習、ゼミ内での発表会、フィードバックの受領①	
	事後学修	フィードバックの反映、今後の研究への応用	2
15	事前学修	自身の発表資料の最終確認、質疑応答の準備	2
	授業	発表練習、ゼミ内での発表会、フィードバックの受領②	
	事後学修	フィードバックの反映、今後の研究への応用	2

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

その都度個別にフィードバックする

参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC302
開 講 学 科		種別	配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修	3 年	前期	
授業概要					
CT 分野では、とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも、主体的に行動して知識の獲得に取り組み、得られたものを人に広めることも大切です。					
この講義では、そうした主体的な学習行動ができ、卒業後も自律的に学習できるようになるために、興味の発見、調査、まとめ、発表のサイクルを何度か繰り返します。					
ICT 分野のキーワードについて調べ、それについてプレゼンテーションをし、他の受講者を交えたディスカッションを行います。					
なお、続くゼミナールⅡを経て、卒業研究に結びつけるための活動（ソフトウェアの試作品開発等）も行います。					
授業における学修の到達目標					
・ ICT 分野に興味を持ち、自分の選択した事柄について、自主的に調査し一定の知識を獲得した後、それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。					
・ プレゼンテーションの技術、論理的に記述する技術を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。			30
		テーマ設定、調査、まとめ、発表のサイクルを少なくとも 2 回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし、各回のディスカッションの様子によっても変化します。			
		第 1 サイクルは、提示される ICT 関連キーワードから、各自一つを選択しそれについて調査をします。自分の発表回の前には、プレゼンテーションの準備、配布資料の作成を行います。			
		第 2 サイクルは、自分自身で興味の持てるキーワードを設定し、調査、まとめ、発表を行います。			
		その後、そのキーワードに関連した何らかの試作品（プログラムの例題のようなもので良い）を作成する作業をします。			
		第 3 サイクルは、第 2 サイクルで選んだキーワードに関して、教員から与えられた条件のもとより詳しい調査と、発表時にデモンストレーションできるような試作品作成に取り組みます。			
		第 1 回目は、事前学習は必要ありません。			
		この回に記載する事前学修時間は、事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。			
		第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが、その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。			
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのキーワード選択			
		Learning Management System（以下 LMS と略す）への登録作業の指示があります。今後のゼミナール活動の基本形（調査、まとめ、発表のサイクル）について理解します。			
		事前学修、事後学修に求められることについての説明があります。			
	事後学修	第 1 回目は、LMS への登録作業と、LMS 上で第 1 サイクルのキーワード選択を行います。			30
		選択したキーワードについて調査を開始します。			

		この回に記載する事前学修時間は、事後学修の総量です。主に、自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には、その内容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	
2	事前学修	調査方法を検討し、発表までの計画を立てます。	0
	授業	キーワード選択結果を確認し、発表までの計画について発表します。 第1サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自、自分の計画に基づいて調査活動を行います。	0
3	事前学修	3回目以降、調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は、次のサイクルに入ります。	0
	授業	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。	
	事後学修	自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には、その内容について自分でも調査をします。	0
4	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
5	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
6	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
7	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
8	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	0
9	事前学修	第3回項目参照	0
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
10	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
11	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
12	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	

13	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
14	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
15	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他 100% [調査への取り組み方, プレゼンテーションとその内容, 質疑応答への対応で評価する。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが, LMS, SNS, 電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	(ゼミ配属決定後に登録する)ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
ICT 分野では、とりわけ新しい知識の獲得を継続して行くことが重要となっています。他の講義で学ぶよりも、主体的に行動して知識の獲得に取り組み、得られたものを人に広めることも大切です。 この講義では、そうした主体的な学習行動ができ、卒業後も自律的に学習できるようになるために、興味の発見、調査、まとめ、発表のサイクルを何度か繰り返します。 ICT 分野のキーワードについて調べ、それについてプレゼンテーションをし、他の受講者を交えたディスカッションを行います。					
ゼミナールⅠでは、提示されたキーワードから選択して調査という形でしたが、ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠでの活動を踏まえて、自ら興味を持ったテーマについて調査しプレゼンテーションをするサイクルと、4 年次のゼミナールⅢ,Ⅳ,卒業研究Ⅰ～Ⅳ に繋がるようなより具体的なテーマについて調査しプレゼンテーションをするサイクルを経て、ソフトウェアの試作品開発等にも取り組みます。					
授業における学修の到達目標					
・ ICT 分野に興味を持ち、自分の選択した事柄について、自主的に調査し一定の知識を獲得した後、それをまとめて他の人に説明できる力を身につける。 ・ プレゼンテーションの技術、論理的に記述する技術を身につける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。 テーマ設定、調査、まとめ、発表のサイクルを少なくとも 2 回繰り返します。受講者数によって回数はかわりますし、各回のディスカッションの様子によっても変化します。 第 1 サイクルは、自分自身で興味の持てるテーマを設定し、調査、まとめ、発表を行います。 第 2 サイクルは、第 2 サイクルで選んだテーマを基礎として、教員から与えられた条件のもとより詳しい調査と、発表時にデモンストレーションできるような試作品作成に取り組みます。 第 1 回目は、事前学習は必要ありません。 注意： この回に記載する事前学修時間は、事前学修の総量です。準備作業が多いことから事前学修時間が多くなっています。時間は自分で立てる計画（下記参照）に基づいて配分して下さい。 第 2 サイクルの途中で夏期休業となりますが、その間に上記試作品作りに取り組みます。その取り組み時間もこの事前学修時間として想定しています。			30
	授業	ガイダンスと第 1 サイクルのテーマ設定 今後のゼミナール活動の基本形（調査、まとめ、発表のサイクル）について理解します。			
	事後学修	第 1 回は、自分で決めたテーマに基づいて調査を開始します。 注意： この回に記載する事前学修時間は、事後学修の総量です。主に、自分の発表時の質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。他の人の発表時には、その内			30

		容について自分でも調査をします。 時間は自分で配分して下さい。	
2	事前学修	調査方法を検討し、発表までの計画を立てます。	
	授業	テーマ選択結果を確認し、発表までの計画について発表します。（2回目にテーマが重複する場合などの調整をします） 第1サイクルの発表の順番を決めます。	
	事後学修	各自、自分の計画に基づいて調査活動を行います。	
3	事前学修	3回目以降、調査活動を継続します。 発表の回が近づいたらプレゼンテーションと配布資料の準備をします。 発表が終了した人は、次のサイクルに入ります。	
	授業	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。	
	事後学修	発表担当者は発表、それ以外の人は質疑応答、ディスカッションに参加します。 1サイクルは8～10回を想定しています。	
4	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
5	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
6	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
7	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
8	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
9	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
10	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
11	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
12	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
13	事前学修	第3回項目参照	

	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
14	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
15	事前学修	第 3 回項目参照	
	授業	第 3 回項目参照	
	事後学修	第 3 回項目参照	
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。			
■その他 100% [調査への取り組み方, プレゼンテーションとその内容, 質疑応答への対応で評価する。]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
発表時の質疑応答で行うが, LMS, SNS, 電子メールも用いることもある。			
教科書			
参考書・Web サイト		なし	
単位修得が望ましい科目		なし	
備考		ゼミのメーリングリストにより配信される電子メールを必ず読む。	
担当教員の実務経験		なし	

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC408	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	前期	
授業概要						
卒業研究Ⅰ～Ⅳと連動して展開します。						
研究のテーマ設定に必要な情報の収集と実施可能な計画を立案します。						
主体的に行動して知識を獲得し、具体的な研究テーマの設定を目指します。そのテーマについてプレゼンテーションを行い議論の後決定します。決定後は、その目的に到達可能な方法を具体的に検討して研究計画を立案します。この研究計画についてもプレゼンテーションをして議論し実際に研究に着手します。ここまでの過程が早く終了する人は、その後研究の進捗状況についてプレゼンテーションしその内容について議論していきます。						
授業における学修の到達目標						
・ 目的を明確にした研究テーマの設定に取り組むことで、自主的に課題設定し解決方法を探索する力を身につける。						
・ 計画立案能力を身につける。						
・ プレゼンテーションの技術、論理的に記述する技術を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。				30
		研究テーマを設定しプレゼンテーションと議論、テーマ決定後は計画を立案しプレゼンテーションと議論というサイクルを必要であれば複数回繰り返していきます。受講者数や進捗によって実施回はかわりますし、各回のディスカッションの様子によっても変化します。 第1回は、事前学修は必要ありません。				
		この回に記載する事前学修時間は、事前学修の総量です。時間は自分の活動に基づいて配分して下さい。				
	授業	授業方針、卒業研究実施要領等について説明します。 Learning Management System（以下 LMS と略す）への登録作業の指示があります。今後のゼミナール及び卒業研究活動の方針について理解します。 事前学修、事後学修に求められることについての説明があります。				
	事後学修	第1回目は、LMS や各種利用サービスへの登録作業をし、授業中に説明のあった活動方針に基づいて研究テーマ設定のための調査を行います。 この回に記載する事後学修時間は、事後学修の総量です。主に、自分のプレゼンテーション資料の準備、質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。可能であれば研究テーマに沿って調査、研究を実施します。 時間は自分で配分して下さい。				30
2	事前学修	テーマ設定、計画立案を実施し、そのプレゼンテーション資料作成などの作業を行います。				
	授業	ゼミナールⅡの時点で研究テーマを明確にしていた人から順に、テーマについてプレゼンテーションとディスカッションをします。テーマ決定後は、研究目的達成のための具体的な計画についてのプレゼンテーションとディスカッションをします。				
	事後学修	テーマ設定、計画立案を実施し、そのプレゼンテーション資料作成などの作業を行います。				
3	事前学修	3 回目以降、テーマが決定するまであるいは研究計画が承認されるまで、調査研究活動を継続しま				

		す。	
	授業	発表担当者は発表，それ以外の人は質疑応答，ディスカッションに参加します。	
	事後学修	自分の発表時の質疑応答のまとめ，教員からの指示による追加作業，自主的な振り返りを行います。テーマが決定するまであるいは研究計画が承認されるまで，調査研究活動を継続します。	
4	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
5	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
6	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
7	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
8	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
9	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
10	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
11	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
12	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
13	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
14	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	
15	事前学修	第3回項目参照	
	授業	第3回項目参照	
	事後学修	第3回項目参照	

成績評価の方法およびその基準	
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■その他 100% [研究活動への取り組み方, プレゼンテーションとその内容, 質疑応答への対応で評価する。] なお研究テーマ, 計画の内容についての評価は卒業研究Ⅰ・Ⅱで行う。	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
発表時の質疑応答で行うが, LMS, SNS, 電子メールも用いることもある。	
教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IMC409	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		4 年	後期	
授業概要						
卒業研究Ⅰ～Ⅳと連動して展開します。						
研究計画に沿って研究活動（主にプログラム等の開発・制作）を行いその進捗状況をプレゼンテーションしそれについての議論をすることで、各々定めた研究目標の達成を目指します。						
必要に応じて計画を見直しつつ研究テーマに基づいた活動（プログラム等の開発・制作、資料収集、調査、考察）をします。研究の進捗が一定程度に達した後、卒業論文執筆については使用するツールを含めたレクチャーを受けた後、論文を執筆します。						
なお、ゼミナールⅢでの活動が学修の到達目標に達していない場合は、ゼミナールⅢの授業内容を継続します。（研究テーマや計画が未定のまま先へ進むことはありません）						
授業における学修の到達目標						
・立案した計画を実行する力を身につける。						
・（テーマによって異なるが）必要となる開発、調査、議論の方法を身につける。						
・プレゼンテーションの技術、論理的に記述する技術を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	注意:ゼミナールの活動は予定調和のない研究活動に近い形になりますので、1 回毎の内容を記載することができません。1 回目にまとめて記載します。学習に必要な時間も総量として記載します。シラバス作成システムの制約上、毎回を空欄にできないので以下の記入のほとんどはダミーになります。 卒業研究の進捗状況についてのプレゼンテーションを少なくとも 2 回実施します。どの回になるかは進捗状況および受講者数によって変わります。担当回に合わせて事前・事後の学習量を調整してください。 第 1 回目は、事前学習は必要ありません。 注意： この回に記載する事前学修時間は、事前学修の総量です。各回の時間は自律的に調整してください。				30
	授業	研究活動の見通し、各種期限についての説明をうけて研究計画の見直しをします。				
	事後学修	この回に記載する事後学修時間は、事後学修の総量です。主に、自分のプレゼンテーション資料の準備、質疑応答のまとめ、教員からの指示による追加作業、自主的な振り返りを行います。可能であれば研究テーマに沿って調査、研究を実施します。 時間は自分で配分して下さい。 第 1 回は、研究計画の見直し作業の継続と修正作業をします。				30
2	事前学修	見直した研究計画に従って研究活動をします。研究の進捗状況報告の準備などをします。				
	授業	以後、持ち回りで研究の進捗状況についてプレゼンテーションします。				
	事後学修	各自研究計画に基づいて研究活動を行います。				
3	事前学修	第 2 回項目参照				
	授業	第 2 回項目参照				
	事後学修	第 2 回項目参照				
4	事前学修	第 2 回項目参照				
	授業	第 2 回項目参照				

	事後学修	第 2 回項目参照	
5	事前学修	第 2 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 2 回項目参照	
6	事前学修	第 2 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 2 回項目参照	
7	事前学修	第 2 回項目参照	
	授業	研究の進捗状況にもよりますが、卒業論文執筆に使用するツールを含めたレクチャーがあります。	
	事後学修	卒業論文執筆に使用するツールの動作確認、試用等、執筆の準備をします。	
8	事前学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。研究の進捗状況報告の準備などを行います。	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	各自研究計画に基づいて研究活動、あるいは卒業論文執筆を行います。	
9	事前学修	第 8 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	
10	事前学修	第 8 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	
11	事前学修	第 8 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	
12	事前学修	第 8 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	
13	事前学修	第 8 回項目参照	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	第 8 回項目参照	
14	事前学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。卒牛研究発表会の準備をします。	
	授業	第 2 回項目参照	
	事後学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。卒牛研究発表会の準備をします。	
15	事前学修	研究計画に従って研究活動を行います。卒業論文を執筆します。卒牛研究発表会の準備をします。	
	授業	卒業研究発表会において卒業研究活動についての最終報告を行います。	
	事後学修	発表会における質疑応答内容を反映して制作物についての修正、論文の修正を行います。	

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■その他 100% [研究活動への取り組み方、プレゼンテーションとその内容、質疑応答への対応で評価する。]

なお研究内容、論文の内容についての評価は卒業研究 III・IV で行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

発表時の質疑応答で行うが、LMS、SNS、電子メールも用いることもある。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

ゼミナールⅠ Seminar 1

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		2 単位	ゼミ	○	IPC302	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		必修		3 年	前期	
授業概要						
本研究室では人工知能技術をベースにし、この応用システムを幅広く扱ってゆく。はじめに人工知能を使ったシステム構築を行う上で必要となるプログラミング言語や、論理学、Web アプリケーションの周辺技術を実習を通して学ぶ。そしてこれらの技術を応用して、仮想環境(Virtual Environment)や、ロボット、e-Learning システムなどの研究テーマを選び、プレゼンテーションとディスカッションを通して研究を練り、便利で賢い機能を実現するために人工知能の要素を活用してゆく。						
授業における学修の到達目標						
人工知能に関係する基礎技術を学びこれを問題解決に結び付ける力をつけることを目標とする。特にディスカッションを通して問題の発見と解決を行い、専門的な内容を他に伝えられるプレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	人工知能について調べ、自分のやってみたい研究について考えておく。簡単な自己紹介の内容を考えておく。				2
	授業	ゼミについてのガイダンスを行う。簡単な自己紹介も行う。				
	事後学修	ゼミにおける学習について注意しておくべき項目をまとめて今後の学習で参照できるようにしておく。				2
2	事前学修	人工知能についての各種技術についてゼミで用意する資料や Web 上の資料を調べておく。				2
	授業	人工知能技術に関する課題を設定し、この課題に対する演習をしてもらう。				
	事後学修	課題の内容を復習し、研究でも使えるようにしっかり修得する。				2
3	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
4	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
5	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
6	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
7	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2
8	事前学修	第 2 回参照				2
	授業	第 2 回参照				
	事後学修	第 2 回参照				2

9	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
10	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
11	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
12	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
13	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
14	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2
15	事前学修	第 2 回参照	2
	授業	第 2 回参照	
	事後学修	第 2 回参照	2

☐試験： % ☐小テスト： % ☐レポート： % ☒演習課題：100% ☐その他[]

課題を提出すると同時に結果についてゼミ内で報告してもらうので、その場で指導を行う。

参考書・Web サイト

単位修得が望ましい科目

備考

担当教員の実務経験

ゼミナールⅡ Seminar 2

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IPC303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		3 年	後期
授業概要					
本研究室では人工知能技術の応用システムを幅広く扱っていきます。その人工知能を使ったシステムを構築するために必要となるプログラミング技術や、論理学、Web アプリケーションの周辺技術を実習を通して学びます。用意された課題を一人で取り組むだけでなく、わからない所を質問したり教え合う事でより良い解決方法を学びます。					
授業における学修の到達目標					
課題の中に設定された問題を見極めて、その問題を解決するための技術要素を探し出し、一つ一つの技術要素を理解した上で組合せて問題の解決を目指します。自分で解決できない時には、教師や他の学生とコミュニケーションを通して知識を得られるようにします。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	人工知能についての各種技術についてゼミで用意する資料や Web 上の資料を調べておきます。			2
	授業	演習を通して人工知能に関する技術を習得します。			
	事後学修	時間内にできなかった事の完成と、課題の内容を復習し、卒業研究でも使えるようにしっかり修得する。			2
2	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
3	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
4	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
5	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
6	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
7	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
8	事前学修	第 1 回参照			2
	授業	第 1 回参照			
	事後学修	第 1 回参照			2
9	事前学修	第 1 回参照			2

ゼミナールⅢ Seminar 3

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC408
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	前期
授業概要					
本研究室では人工知能技術の応用システムを幅広く扱っていきます。仮想環境(Virtual Environment)や、ロボット、e-Learning システムなどの人工知能と関連のあるテーマを選択し、各自の興味を踏まえてそれぞれの調査・作業の詳細を、議論を通して決定します。次に最終目標を定めて、これを達成するための計画を立てます。各自調査・作業を進めながら順番に進捗報告のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーション後にはディスカッションを行い、これを通して問題点の洗い出しや作業の進展やより良い研究ができるようにしていきます。					
授業における学修の到達目標					
議論を通して目標を定め、計画的に目標を達成する力を付けることを到達目標とします。その過程で、一つの事を深く考えること、自分で根気良く調査すること、探しても答が見付からない問題を持てる知識を応用して解決しようとするに取り組んで欲しい。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	Web などを活用し、人工知能に関連するテーマの調査と、自分のやってみたい事の調査をしておきます。			2
	授業	教員や他のゼミ生との議論を通して、取り組むべきテーマと目標を明確化し、目標到達のための計画を練ります。			
	事後学修	ゼミで議論したテーマと目標・計画を整理し、次回のゼミに備えます。			2
2	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
3	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
4	事前学修	計画に従い、調査・作業を行います。自分の順番の時には進捗報告の資料を作ります。			2
	授業	進捗報告を行い自分の調査や作業の次のステップを見極め、他のゼミ生の議論にも参加します。			
	事後学修	ゼミの時間で得たヒントについて深く調査したり、新しい着想を試すなどして作業を進めます。			2
5	事前学修	第 4 回参照。			2
	授業	第 4 回参照。			
	事後学修	第 4 回参照。			2
6	事前学修	第 4 回参照。			2
	授業	第 4 回参照。			
	事後学修	第 4 回参照。			2
7	事前学修	第 4 回参照。			2
	授業	第 4 回参照。			
	事後学修	第 4 回参照。			2
8	事前学修	第 4 回参照。			2
	授業	第 4 回参照。			

ゼミナールⅣ Seminar 4

担当教員	齋藤 健司 (314 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	ゼミ	○	IMC409
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		4 年	後期
授業概要					
本研究室では人工知能技術の応用システムを幅広く扱っていきます。仮想環境(Virtual Environment)や、ロボット、e-Learning システムなどの人工知能と関連のあるテーマを選択し、各自の興味を踏まえてそれぞれの調査・作業の詳細を、議論を通して決定します。次に最終目標を定めて、これを達成するための計画を立てます。各自調査・作業を進めながら順番に進捗報告のプレゼンテーションを行います。プレゼンテーション後にはディスカッションを行い、これを通して問題点の洗い出しや作業の進展やより良い研究ができるようにしていきます。					
授業における学修の到達目標					
議論を通して目標を定め、計画的に目標を達成する力を付けることを到達目標とします。その過程で、一つの事を深く考えること、自分で根気良く調査すること、探しても答が見付からない問題を持てる知識を応用して解決しようとするに取り組んで欲しい。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	計画に従い、調査・作業を行います。自分の順番の時には進捗報告の資料を作ります。			2
	授業	進捗報告を行い自分の調査や作業の次のステップを見極め、他のゼミ生の議論にも参加します。			
	事後学修	ゼミの時間で得たヒントについて深く調査したり、新しい着想を試すなどして作業を進めます。			2
2	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
3	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
4	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
5	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
6	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
7	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
8	事前学修	第 1 回参照。			2
	授業	第 1 回参照。			
	事後学修	第 1 回参照。			2
9	事前学修	第 1 回参照。			2

	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
10	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
11	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
12	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
13	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
14	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2
15	事前学修	第 1 回参照。	2
	授業	第 1 回参照。	
	事後学修	第 1 回参照。	2

成績評価の方法およびその基準

□試験： % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：100% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ゼミの時間中に行うプレゼンテーションに対して指導を行い、ゼミ時間外でも質問に対応します。

教科書	
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	本当にやってみたいテーマを探り出して、楽しく熱中して取り組んで欲しいです。
担当教員の実務経験	なし

マレーシア短期留学 Short-term Study Abroad (Malaysia)

担当教員	SIMON THOLLAR (317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	OGI101
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	冬期集中
授業概要					
世界中の多くの国で英語が話されています。英語が第一言語として話される海外の国は、ジャマイカやトリニダード・トバゴを含めて 19 ヶ国あります。55 ヶ国が第二言語として英語を話します。そのため、世界には母語話者よりも非母語話者の方が英語を話すことが多いのです。シンガポール、マレーシア、インド、ナイジェリア、フィリピンなどの国々は独自の言語を持っていますが、多くの場合、英語を使用しています。 本学には、マレーシアで英語スキルと文化理解を向上させるための短期言語・文化コースを提供しています。 マレーシアはにぎやかな多国籍文化の国で、人口のおよそ 3 分の 2 が英語を話します。今年の 9 月上旬にマレーシアのクアラルンプールにある UCSI 大学に 1 年生 10 名に行ってほしいと思っています。HIU は世界における国際的感覚とフレンドシップを育むことを大切に思っています。今年は 10 人の 1 年生が午前中は英語の勉強、午後は文化的なイベントを体験できます。（学校の都合で英語の勉強と文化体験は逆順番になる可能性もあります） **** IT 工場見学（Industry 3.0）もありますので、非常に価値がある短期留学です。 本学での授業回数：5 回 現地での授業回数：10 回					
授業における学修の到達目標					
第一の目的は、英語だけの環境に身を置くことにより現時点での自己の英語力を認識し、今後の英語学習の方向性を見つけることです。また第二の目的は、多国籍の人を通じ英語でコミュニケーションする能力を身につけ、国際感覚に慣れてもらうことを目標としています。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	1・インターネットでマレーシアを調べること			2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(1) ----- ・マレーシアについて（文化・言語・宗教・地理・歴史・社会）（ディスカッション・説明）			
	事後学修	1・授業中に出た情報をインターネットで確認すること 2・追加情報をノートに記録			2
2	事前学修	1・POLITE「マレーシア短期留学」コースに載せてある(マレーシア短期留学ガイダンスブック)をダウンロードして、読むこと 2・分からないところノートの記録すること			2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(2) ----- ・マレーシア短期留学ガイダンスブック（ディスカッション・説明）			
	事後学修	1・もう一度(マレーシア短期留学ガイダンスブック)を読むこと 2・大事と思ったところノートに記録すること			2
3	事前学修	1・POLITE「マレーシア短期留学」コースに載せてある(あんしんガイドブック)と(学研災付帯海外留学傷害保険の説明)をダウンロードして、読むこと			2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(3) ----- ・あんしんガイドブック・学研災付帯海外留学傷害保険について（ディスカッション・説明）			

	事後学修	1・もう一度(あんしんガイドブック)と(学研災付帯海外留学傷害保険の説明)を読むこと 2・大事と思ったところノートに記録すること	2
4	事前学修	1・ノートに記録してる情報を全部読むこと 2・分からないことまだあれば、授業中に確認するため、ハイライトすること	2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(4) ----- ・2023 年度報告会のマレーシア短期留学発表を見る（ビデオ） ・大事と思った情報があれば、ビデオを見ながらノートに記録すること	
	事後学修	1・ノートに記録してる情報を全部読むこと 2・もう一度報告会のビデオを見ること（リンクは POLITE）	2
5	事前学修	1・マレーシア空港で必要と思った質問を考えて、日本語と英語でノートに記録すること	2
	授業	本学：マレーシアに行く前授業(5) ----- ・空港で使える英語の練習	
	事後学修	1・授業中に出了言葉・質問・文章・の練習（ノートを読むこと） 2・言い方の練習	2
6	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(1) ----- *UCSI の都合で、授業の流れまだ後悔していない ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること	2
7	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(2) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
8	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(3) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
9	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(4) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
10	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(5) ----- ・午前 授業	

		・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
11	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと	2
	授業	現地：UCSI での授業(6) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶しますこと	2
12	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと ・UCSI の発表のテーマを考えること	2
	授業	現地：UCSI での授業(7) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること 2・UCSI の発表のテーマを考えること	2
13	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと 2・UCSI の発表の内容を考えること	2
	授業	現地：UCSI での授業(8) ----- ・午前 授業 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること 2・UCSI の発表の内容を考えること	2
14	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと 2・UCSI の発表を準備すること	2
	授業	現地：UCSI での授業(9) ----- ・午前 授業 ― 発表の準備 ・午後 文化	
	事後学修	1・新しい文法、単語、熟語、表現を書いて記憶すること 2・UCSI の発表を練習すること	2
15	事前学修	1・次回に習う教科書での文法、単語、熟語、表現を予習しておくこと 2・UCSI の発表を準備すること	2
	授業	現地：UCSI での授業(10) ----- ・午前 授業 ― UCSI の発表（英語） ・午後 文化	
	事後学修	1・12月の海外事情発表会の内容考えること 2・発表のテーマとプランニングすること	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。 ■事前授業：20%			

■レポート：30% （帰国後に提出となる） ■その他：30% （現地語学研修機関での成績） ■ 報告会でのプレゼンテーション：20%	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
事前授業が終わったら、資料（宿題等）、採点して、返します。 帰国してからディブリーフィングセッションがあります。 ライングループ（と個人）でフィードバック・アドヴァイス・相談も可能です。 発表会(12月)でレポートの点数を教えます。	
教科書	書名：現地（マレーシア）で配布する, 著者名：未定, 出版社：, 備考：現地で配布する・英語の教科書
	書名：ノート B 6mm 35行 セミB5 30枚 明るい色の表紙 **～>B5のみ, 著者名：, 出版社：, 備考：本学の授業（1回目～5回目）使う・現地も使う
参考書・Web サイト	未定
単位修得が望ましい科目	Communication I Speaking I
備考	学生選抜は(1)プレイスメントテスト、(2)マレーシア短期留学受講申込書の中に自己アピール記入欄、(3)授業中の態度、(4)表現力、(5)最終面接で行われます。
担当教員の実務経験	なし

海外語学・文化研修（フィンランド編）-2025 年度開講- Overseas

Language and Culture Course (Finland)

担当教員	安田 光孝 他(135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		OGI201
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	未定
授業概要					
フィンランドの文化体験を通じて、日常英会話力をつける。また、異文化を理解する寛容性を身につける。					

海外事情（オーストラリア編） Overseas Language and Culture Course (Australia)

担当教員	SIMON THOLLAR 他(317 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング	
		4 単位	演習		OGI102	
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期	
情報メディア学科		選択		1 年	夏期集中	
授業概要						
海外事情（オーストラリア編）						
語学力向上に重点を置き、欧米文化に親しみ、IT 関連の仕事や海外留学について学ぶことで国際コミュニケーション能力を養う。この科目には、海外に行く前に完了する必要があるオンラインコンポーネントを含む。						

*** 以下の授業計画は、オーストラリアのホスト大学が現在提供しているプログラムに基づいています。 主な焦点は言語とコミュニケーションスキル、そして文化理解ですが、細部は変更される可能性があります。						
授業における学修の到達目標						
第一の目的は、英語だけの環境に身をおくことにより現時点での自己の英語力を認識し、今後の英語学習の方向性を見つけることです。また第二の目的は、ホームステイ(多国籍の出身者)を通じ英語でコミュニケーションする能力を身につけ、海外感覚に慣れてもらうことを目標としています。						
----> ホスト学校の都合で、授業計画が変わる可能性があります。						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修				時間	
1	事前学修	1 Write and practice self introduction				2
	授業	・ Self Introduction ・ Ice breaker ・ Conversation skills 1 ・ Australian Culture class ・ Pronunciation practice				
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review self introduction				2
2	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice self introduction				2
	授業	・ Talking about yourself ・ How to communicate ・ Conversation skills 2 ・ Australian Culture class ・ Pronunciation practice				
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review talking about yourself questions				2
3	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice talking about yourself with host family				2
	授業	・ Talking about Japan ・ How to communicate non-verbally ・ Conversation skills 3 ・ Australian Culture class ・ Pronunciation practice				
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new non-verbal communication skills				2

4	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice non-verbal skills with host family	2
	授業	• Comparing Japan and Australia • How to communicate with gestures • Conversation skills 4 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new gesture communication skills	2
5	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice gestural communication skills with host family	2
	授業	• Asking how • How to communicate with gestures • Conversation skills 5 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new asking how skills	2
6	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new asking communication skills with host family	2
	授業	• Ordering food and drinks • How to use verbal cues • Conversation skills 6 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new verbal cues and how to order skills	2
7	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new verbal cues and how to order skills with host family	2
	授業	• Start a conversation • How to use greetings correctly • Conversation skills 7 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new greetings and starting a conversation skills	2
8	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new greetings and starting a conversation skills with host family	2
	授業	• Discussing a problem or uncertainty • How to use POLITE English • Conversation skills 8 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new discussing a problem and POLITE English skills	2
9	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF	2

		2 Practice new discussing a problem and POLITE English skills with host family	
	授業	• Discussing health • How to disagree • Conversation skills 9 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new health discussion and how to disagree skills	2
10	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new health discussion and how to disagree skills with host family	2
	授業	• Discussing transport • How to write in cursive script • Conversation skills 10 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new transport words and cursive writing skills	2
11	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new transport words and expressions with host family	2
	授業	• Discussing family and friends • How to make a conversation interesting • Conversation skills 11 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new family & friends words and making a conversation interesting skills	2
12	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new making a conversation interesting skills with host family	2
	授業	• Future dreams • How to express words you don't know • Conversation skills 12 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new future dreams expressions and how to express words you don't know skills	2
13	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice new future dreams expressions and how to express words you don't know skills with host family	2
	授業	• Lifestyle • How to improve your vocabulary • Conversation skills 13 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review new lifestyle expressions and how to improve your vocabulary skills	2
14	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF	2

		2 Practice new lifestyle expressions and improved vocabulary skills with host family	
	授業	• What you have learnt • How to continue improving your English • Conversation skills 14 • Australian Culture class • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Review what has been learnt and how to continue improving English skills	2
15	事前学修	1 Read text book/printed material/PDF 2 Practice ideas learnt in how to continue improving English skills with host family	2
	授業	• Why English is important • Informal party with host families and teachers • Summarize conversation skills 15 • Pronunciation practice	
	事後学修	1 Review text book/printed material/PDF used in class 2 Practice thank you's and farewell greetings with host family	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

■事前授業：20%

■レポート：30%（帰国後に提出となる）

■その他：30%（現地語学研修機関での成績）

■報告会でのプレゼンテーション：20%

----> レポートと報告会での発表は必須です。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前授業が終わったら、資料（宿題等）、採点して、返します。

帰国してからディブリーフィングセッションがあります。

ライングループ（と個人）でフィードバック・アドヴァイス・相談も可能です。

発表会でレポートの点数を教えます。

教科書	
参考書・Web サイト	未定（現地で配布する）
単位修得が望ましい科目	Communication I Speaking I Communication II Speaking II
備考	*** 以下の授業計画は、オーストラリアのホスト大学が現在提供しているプログラムに基づいています。主な焦点は言語とコミュニケーションスキル、そして文化理解ですが、細部は変更される可能性があります。
担当教員の実務経験	なし

課題解決型国際 WS-2026 年度開講- International Problem Solving Workshop

担当教員	栗原 純一 他(307 研 究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		4 単位	演習		OGI301
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	未定
授業概要					
国際情報演習、プロジェクトトライアル、国際コラボレーション A/B に続く PBL 科目で、国際コラボレーションと同様に、海外他校との協働で実施するワークショップである。国際コラボレーションで英語を用いたワークショップ経験を積んだ学生を主対象とし、海外他校の学生との混成チームで、英語によるディスカッションやクリティカルシンキングを通じて課題を分析し、解決策を考える。これらの活動を通して分析力や調整力、提案力、高度なコミュニケーション力を養成する。					

ICT入門（国際情報プログラム） Introduction to ICT

担当教員	広奥 暢(318 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	IBC103
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		必修		1 年	前期
授業概要					
テーマ：ICT の基礎技術を習得する					
現在の情報化社会においてコンピューターを自由自在に活用できる技術は必要不可欠なものになっています。コンピューターを自由自在に活用するとは、単にソフトウェアの使い方がわかるということだけではなく、自分に必要なコンピュータ環境を自ら構築し、その中で必要とされるソフトウェアを自由自在に操ることができるということを意味します。本講義では、自分に必要とされるコンピュータ環境の作成方法、及び、必須とされるソフトウェアの使い方を実習により学習します。授業には、LMS（POLITE）及び貸与 PC を用いる。					
授業における学修の到達目標					
コンピューターとはどのようなものであるかを理解し、また、自分の目的に合ったコンピューター環境の作成方法、更に、その環境、及び、ソフトウェアの利用技術を習得することを目標とする。					
国際情報プログラムとして、コンピューターの環境を他言語表示に変更して実習を行う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。本学 P C の利用方法を把握しておく。			2
	授業	ガイダンス、コンピューターとは、大学のコンピュータ環境			
	事後学修	POLITE の第 1 回目講義資料「コンピューターとは、大学のコンピュータ環境」を復習する			2
2	事前学修	テキストを利用し、Windows のウィンドウの操作、エクスプローラの操作を把握しておく。			2
	授業	Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作 実習			
	事後学修	POLITE の第 2 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ウィンドウの操作、エクスプローラの操作」を復習する			2
3	事前学修	テキストを利用し、Windows におけるファイルのコピー、移動、ファイルの圧縮などの基本操作について把握しておく。			2
	授業	Windows の操作基礎 -ファイルの操作 実習			
	事後学修	POLITE の第 3 回目講義資料「Windows の操作基礎 -ファイルの操作」を復習する			2
4	事前学修	テキストを利用し、Windows の設定画面における環境設定方法やコントロールパネルによる環境設定方法を把握しておく。			2
	授業	Windows の環境設定 実習			
	事後学修	POLITE の第 4 回目講義資料「Windows の環境設定」を復習する			2
5	事前学修	Windows のコマンドプロンプトの基本的な使い方、基本的なコマンドについて把握しておく。			2
	授業	Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方 実習			
	事後学修	POLITE の第 5 回目講義資料「Windows の操作基礎 -コマンドプロンプトの使い方」を復習する			2
6	事前学修	情報倫理とは何か、情報倫理に関係する内容を事前調査しておく。			2
	授業	情報倫理ビデオ教材視聴			
	事後学修	テキスト「スライドで学ぶ ICT 入門」の情報倫理の章を読み復習する			2

7	事前学修	テキストを利用し、メーラの使い方、PCメールの基本的な書き方について把握しておく。	2
	授業	メールの正しい書き方 実習	
	事後学修	POLITE の第 7 回目講義資料「メールの正しい書き方」を復習する	2
8	事前学修	テキストを利用し、インターネットにはどのような情報が存在し、どのように利用することで学習や作業の効率化が図れるか事前調査しておく。	2
	授業	インターネットの使い方	
	事後学修	POLITE の第 8 回目講義資料「インターネットの使い方」を復習する	2
9	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Word の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 9 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 基礎編-」を復習する	2
10	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Word を利用した美しく整った文書の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 10 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Word 応用編-」を復習する	2
11	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel の基本的な利用方法を把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 11 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 基礎編-」を復習する	2
12	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel における関数を利用した計算方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 12 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編-」を復習する	2
13	事前学修	テキストを利用し、Microsoft Excel における条件付き書式やピボットテーブルについて把握しておく。また、プレゼンテーションとは何かを把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-	
	事後学修	POLITE の第 13 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -Excel 応用編- + Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 基礎編-」を復習する	2
14	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPoint の基本的な利用方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-	
	事後学修	POLITE の第 14 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 応用編-」を復習する	2
15	事前学修	テキストを利用し、Microsoft PowerPoint を利用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法について把握しておく。	2
	授業	Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編- 実習	
	事後学修	POLITE の第 15 回目講義資料「Microsoft Office の便利な使い方 -PowerPoint 実践編-」を復習する	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準成績評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % ■小テスト：20% □レポート： % ■演習課題：80% □その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

LMS（POLITE）により課題に対する評価をフィードバックする	
教科書	書名：【電子教科書】スライドで学ぶ ICT 入門 Windows11/Office2021, 著者名：長尾光悦, 出版社：コロナ社, 備考：
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	基本的には全学部学科で実施している ICT 入門に沿って展開するが、国際情報プログラムの科目としてコンピューターの多言語（他の言語をオプションとして追加）での扱いを必須とする。毎回貸与 PC が必要となるので、忘れずに充電して携帯すること。
担当教員の実務経験	なし

Introduction to Global Information (国際情報入門) Introduction to Global Information

担当教員	金 銀珠 (319 研究室), 栗原 純一 (307 研究室), SIMON THOLLAR (317 研究室), 島田 英二 (137 研究室), JOEL RIAN (308 研究室), 田中 英夫 (337 研究室), 椿 達 (854 研究室), 戸谷 伸之 (323 研究室), 隼田 尚彦 (136 研究室), 東野 史裕 (218 研究室), 平山 晴花 (128 研究室), 福沢 康弘 (310 研究室), 安田 光孝 (135 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習	○	OGI103
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		1 年	後期
授業概要					
国際情報プログラムの概要を紹介するとともに、IT 分野の国際的な動向に焦点を当て、最新の情報やトレンドについて詳しく解説する。受講者は、本プログラムにおける国際的な体験を通じて、ツールとしての言語力や国際感覚を養うことで広がる世界がどのようなものかを学ぶ。					
授業における学修の到達目標					
・ 国際社会で通用する複眼的視点及び論理的思考力を身につけることができる。 ・ 世界の IT 業界のトレンド動向について学び、技術的な知識やスキルの最新動向について理解を深めることができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する。			2.0
	授業	ガイダンス・国際情報プログラムとは			
	事後学修	授業全体の振り返り			2.0
2	事前学修	(1) まず、このビデオを見て下さい。https://www.youtube.com/watch?v=6asHBLPzDbU (POLITE にもリンクがあります。) (2) 授業中にディスカッションが行われます。「私はグローバルですか?」と自問してください。 (3) 自分の答えを裏付ける 3 つまたは 4 つの文と理由を用意してください。			2.0
	授業	What does Global Information mean?			
	事後学修	(1) またビデオを見て下さい。講義前の事前学習で書いてること (「私はグローバルですか?」) はいかがですか? (2) 意見が変わりましたか? 意見が変わった場合、どういう風になりましたか?			2.0
3	事前学修	World English? インターネットで調べて、「World Englishes」がいくつ見つかるか確認してください。見つけたものをメモして、講義中に議論するために用意してください。			2.0
	授業	World Englishes			
	事後学修	Justify your opinion. 国際情報入門の 3 回目の講義は「World Englishes」についてでした。イギリス英語だけが本物の英語なのでしょうか? 講義で学んだことを元に、イギリスでのみ本物の英語が話されるという考えを支持するまたは反対する理由を書き留めて。			2.0

4	事前学修	世界のあいさつ・自己紹介のフレーズを調べる	2.0
	授業	グローバル社会を生き抜く力としての複言語能力	
	事後学修	講義を参考に、グローバル社会を生き抜くための言語能力について自分の意見をまとめる。	2.0
5	事前学修	POLITE に掲載する資料について、「重要だ」「なるほど」と思ったり、「これはどうか」と疑問に感じたところにアンダーラインを引きながら、読む。	2.0
	授業	グローバル時代のキャリア形成	
	事後学修	事前資料や講義用プリントを基に、授業の内容の理解を深める。	2.0
6	事前学修	POLITE に掲載する資料を読み、海外で仕事をするための基礎知識を調べる。	2.0
	授業	海外で仕事をするには	
	事後学修	授業内容も参照し、英文履歴書を作成し、学生時代に積んでおきたい経験について簡単なレポート（日本語可）をまとめる。	2.0
7	事前学修	POLITE に掲載する資料を読み、一般的な英語の科学技術論文の様式について調べる。	2.0
	授業	最新技術を英語で学ぶ・発信する方法について学習する	
	事後学修	指定した英語論文の概要をまとめる。	2.0
8	事前学修	アントレプレナーシップについて基本的な内容を日本語で調べておく	2.0
	授業	アントレプレナーシップとは	
	事後学修	授業で習った内容を含め、アントレプレナーシップの本質は何かを英語でまとめてみる。	2.0
9	事前学修	アートコラボレーションについてどんな試みがあるのか調べる（国内外問わず）。	2.0
	授業	Sound Art Collaboration Projects	
	事後学修	授業で理解した内容について英語でアウトプットしてみる（口頭/記述）	2.0
10	事前学修	国際映画祭について基本的な内容を日本語で調べておく 指示された（映像）資料を視聴する	2.0
	授業	国際映画祭における国際交流とは	
	事後学修	国際映画祭について学んだことや自分の意見をまとめる	2.0
11	事前学修	中国 IT 企業（ファーウェイなど）の最新資料を調べる。	2.0
	授業	映像で学ぶ中国 IT 企業の技術と世界戦略 ～ファーウェイ・ショック～	
	事後学修	配布資料を基に、映像視聴授業内容への理解を深める。	2.0
12	事前学修	POLITE に掲載するスライドを学習する。	2.0
	授業	グローバル時代の企業経営	
	事後学修	授業ノートを基に、授業の内容の理解を深める。	2.0
13	事前学修	POLITE に配信する資料を学習する。	2.0
	授業	身近な医学を英語で学ぶ・発信する	
	事後学修	講義内容を英語でまとめたり確認テストで理解を深める。	2.0
14	事前学修	POLITE に掲載した資料を読み、興味があればリンク先の参考文献なども読んでおく。	2.0
	授業	地球規模の課題とサステナビリティ	
	事後学修	地球規模の課題に対して、人や国によって異なる考え方があることを理解したうえで、自分の意見をまとめる。	2.0
15	事前学修	今までの資料を振り返ってみる。	2.0
	授業	国際情報プログラム受講に向けて	
	事後学修	学んだことをもう一度振り返り、国際情報プログラムについての理解を深める。	2.0

成績評価の方法およびその基準

☐試験： % ☐小テスト： % ☒レポート：100% ☐演習課題： % ☐その他[]

※英語で書いたレポートは高得点を与える。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポートに対する評価・コメントによりフィードバックを行う。

教科書	
参考書・Web サイト	特になし
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	椿担当者は、1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校で教員の経験があり、高大接続の観点からグローバル人材の育成にその知見を授業に活かしている。 担当者の一人は、日本政府の国際平和協力隊員として、国連カンボディア暫定統治機構の international Polling Station Officer として活動した経験やアメリカやオーストラリアなどの海外大学における勤務経験、海外福祉法人や政府に対するコンサルティング経験を授業に活かします。

国際情報概論-2025 年度開講- Global Information

担当教員	福沢 康弘 他(310 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		OGI202
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	未定
授業概要					
国際情報プログラムで自律的に国際感覚を養うための基礎を学ぶ。主な言語として英語を使用し、各分野の国際的な動向を学ぶとともに、英語力の向上を体感する。オムニバス科目として実施する。					

国際情報演習-2025 年度開講- Global Information Practical

担当教員	隼田 尚彦 他(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		OGI203
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		2 年	未定
授業概要					
国際情報プログラムにおける必修科目です。					
国際情報概論での学びを基に、グループワークを通じてクリティカル・シンキングや国際的な視点からの考え方を養います。主な使用言語は英語。					

グローバルヘルスリテラシー-2026 年度開講- Global Health Literacy

担当教員	JOEL RIAN 他(308 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	演習		OGI302
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	未定
授業概要					
This course explores health-related topics from a layman's (beginner's) perspective. Weekly on-demand lecture videos are accompanied by comprehension quizzes, and explore a variety of themes, including diet, sleep habits, mental health, health professionals, medications, insurance, getting older, and international perspectives on these themes.					

グローバルインターンシップ-2026 年度開講- Global Internship

担当教員	隼田 尚彦 他(136 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		10 単位	演習		OGI303
開 講 学 科		種 別		配当年次	開講時期
情報メディア学科		選択		3 年	未定
授業概要					
グローバル企業等でのインターンシップに対して、その内容を鑑みて適切な単位を付与する科目。インターンシップの期間等は、研修先組織の日程によります。					
研修後には、研修レポートの提出や研修報告のプレゼンテーションを課します。					
なお、受講には、英語力等の履修条件があります。					

北海道情報大学 科目ナンバリングルール

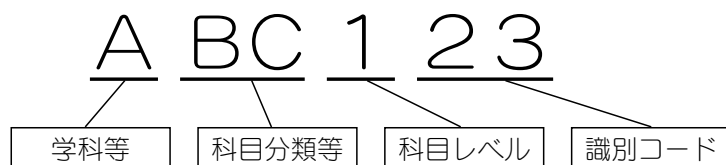
1. 体系

(1)桁数

英字3ケタ+数字3ケタ

(2)構成

- ①左から1 ケタ：英字：学科等（(3)学科等の通り）
- ②左から2～3ケタ：英字：科目分類等（各学科等で設定する）
- ②左から4 ケタ：数字：科目レベル（各学科等で設定する）
- ③左から5～6ケタ：数字：識別コード（各学科等で設定する）



(3)学科等

教育（情報メディア学科を除く）：C

先端経営学科：B

システム情報学科：S

医療情報学科：M

情報メディア学科：I

通信教育部：D

大学院：G

2. 学部横断科目の取扱い

(1)科目名が全学科共通の場合

学科等組織を“U”、科目分類等を“WC”とし、科目毎に以下の通りとする。

「BIとビッグデータⅠ」：UWC311

「BIとビッグデータⅡ」：UWC312

「グローバルリテラシー」：UWC321

(2)科目名が学科により異なる場合

学科毎にナンバリングを行う。

対象科目：「プロジェクトトライアル」、「ステップアッププロジェクトⅠ」

3. 複数学科で開講されている科目の取扱い

(1)各学科で担当教員を設定している科目

各学科のカリキュラムに従い、各学科でナンバリングを行う。

（例）ICT入門、ゼミナール、卒業論文 等

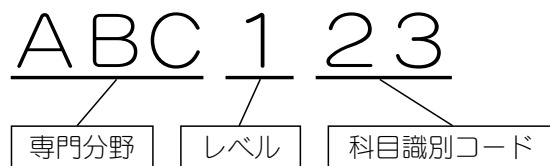
(2)他学科の開講科目に依存している科目

主開講学科のナンバリングに従う。

（例）先端経営学科及び医療情報学科で開講されているシステム情報学科科目の一部、システム情報学科で開講されている先端経営学科科目、情報システム特別講義、メディアデザイン特別講義 等

●教養教育

○ナンバリング（案）



○専門分野

教養教育：○○○ 以下の8分野から選ぶ。

基礎教育分野：CBA（Basic Subject）

言語分野：CBL（Basic Subject Language）

情報とクリティカルシンキング分野：

CLI（Liberal Arts-Information & Critical Thinking）

人間分野：CLH（Liberal Arts-Human）

社会分野：CLS（Liberal Arts-Society）

自然分野：CLN（Liberal Arts-Nature）

総合分野：CLC（Liberal Arts-Comprehensive program）

教職科目：CTP（Teaching Profession）

○レベル ※難易度（難易レベル）ではなく修学段階（修学レベル）とする。

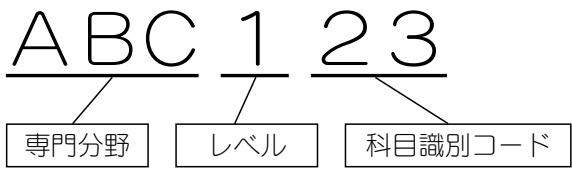
1…基礎 2…発展 3…応用

○科目識別コード

連番 01～99

●自由科目 国際情報プログラム

○ナンバリング（案）



○専門分野

OGI (Optional course Global Information Program)

自由科目 国際情報プログラム

○レベル ※難易度（難易レベル）ではなく修学段階（修学レベル）とする。

1…基礎 2…発展 3…応用

○科目識別コード

連番 01～99

単位
制度
授

業
カリ
キュ
ラム

履
修
登
録

成
試
験
お
よ
び
進

級
卒

業
教
職
課
程

留
そ
意
の
事
他
項
の

履
修
モ
デ
ル
学
部
学
科
の
概
要
教
育
課
程

付
各
種
規
程
録

履
修
要
項
国
際
情
報
ム
報